

**和鉄の道・Iron Road Since 1999**  
**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**2000-2001** HP開設時の記録

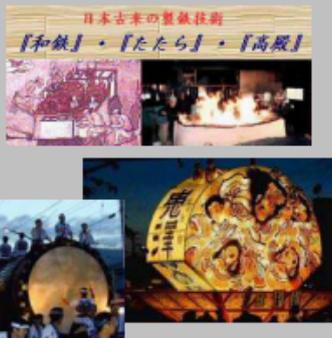
**和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて**  
**日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録**  
**2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録**  
 bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
**by Mutsu Nakanishi**

おもいつくまま 気のむくまま 巡った和鉄の道  
 山・川・海そして街歩きの延長として  
 2000年と2001年にたたら製鉄のルーツ探求をイメージに  
 日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
 関東柏に単身赴任の時 頭にあったことをライフワークにと  
 HP開設して 休日を利用しての風来坊  
 風来坊Walkの始まりでもあり よく歩いたなあとなつかしい  
 2分冊にうまく整理ファイル化されていたので、そのまま記録に  
 2021.12.5.作成

Iron Road [1] 2000  
1996.10-2000.8



2001. 8. 15.



Iron Road [2] 2001  
2001-2002.4



2002. 6. 1.



和鉄の故郷 兵庫県千種 岩鍋

出雲 斐伊川

# 収録 たたら製鉄の歴史探訪 2000・2001

Mutsu Nakanishi HP 私の和鉄の道・Iron Road Reviw にかえて

## 日本の源流・たたら探訪 日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る



**URL:** <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

1990 年代 たたら製鉄・日本の歴史などに興味をいだいて中国山地の製鉄遺跡などを始めていた 1990 年代 茨城県波崎に単身赴任。九十九里浜そして鹿島の浜に砂鉄があり、製鉄伝承も数多くある事にびっくり。休みを利用して 関東や東北の製鉄遺跡等を訪ねる中で、鉄や日本の歴史探訪をライフワークにして home page を立ち上げようと取り組みました。

名前は「Iron Road・和鉄の道」にと。

今までの歩いた各地の探訪アルバムや博物館展示資料等々。

九十九里を歩きながら ページ内容構想リストをねって、スタートした home page の始まり。

HP 開設時の掲載ページを収録した「和鉄の道・Iron Road2020・2021」には ホームホームページ開設にあたってのたたら製鉄の Review や「鉄」への思いを詰め込んだ掲載記事の数が詰まった和鉄の道の Review 記事満載。

この home Page の始まりを読み返して そのまま 和鉄の道 Review 資料として整えました。重複掲載の内容も多々ありますが、お許しを。

また、自分で書き起こさなかった転機・引用掲載が多々あり、できるだけ、出典とその旨を付記していますが、お許してください。

開設後約 20 年を経過して、掲載記事ファイルも肥大化し、雑然と記事満載に。。当初目標にしたたたら探訪・日本の起源探訪もほぼ達成。

また、スマホ・パソコンの普及し、種々の情報も容易に手に入るようになり、個人の勝って気ままな記事収集にも疑問。掲載記事の選択整理と総合整理に取り掛かりはじめた次第です。

後期高齢者の風来坊 勝手気ままな「私の和鉄の道 Review」の一冊です

2021.12.5. From Kobe Mutsu Nakanishi

## 『Iron Road 和鉄の道』【1】

はじめに

M.Nakanishi home page 『IRON ROAD 和鉄の道』

日本誕生とたたら 歴史雑感 『IRON ROAD と日本誕生のロマン』  
 出雲と新羅・朝鮮との関係 -スサノオ伝説とたたら-  
 たたら製鉄の起こりと発達  
 「たたら」製鉄 日本古来の砂鉄製鉄法

## 『IRON ROAD 和鉄の道』【1】

1. 『和鋼・たたら』との出会い  
 【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
2. 日本人のルーツと「和鉄の道 Iron Road」の接点を求めて  
 『弥生人の源流を探る =西から東へ=』土井ヶ浜シンポジウム周辺で
  1. 山口県土井が浜弥生遺跡 と 「土井が浜シンポジウム」
    - 1.1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム
    - 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』
    - 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認  
 -日 中調査団 ルート論争に一石-
  2. 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて
  3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』
  4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来
  5. 『ヤマトノオロチを退治したスサノオノミコトは朝鮮からやってきた』
  6. 出雲と朝鮮新羅の関係 ・ 日本誕生とたたら 歴史雑感・
3. 岡山県 富村 鍛冶谷たたら 【鍛冶谷たたらと初花】
  1. 富村鍛冶屋谷 たたら遺跡
  2. 『初花 - ほとばしるたたら溶鉄の造形 - 』
4. 古代畿内勢力 蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡  
 【黄金吹く「行方製鉄遺跡」】
  1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
  2. ヒタカミ「日高見(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
  3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城遺跡」
5. 山陰の古代鉄の大王国 伯耆国  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -  
 【溝口の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】
  1. 『鉄の伝来をもたらし古代 山陰鉄の王国の出現』  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
  2. 『古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡』 -鳥取県淀江町・大山-
  3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯

6. 津軽の古代鉄の大王国
  - 【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津軽の製鉄地帯】
  - 1. 鬼伝説と古代製鉄
  - 2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
  - 3. 空沢製鉄遺跡群 鱒ヶ沢町湯舟 と 「鬼伝説」
  - 4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湊
7. 東北 秋田・青森 縄文のストーンサークル
  - 【縄文人の心を映すストーンサークル】
  - 1. 縄文のストーンサークル これも iron road
  - 2. 秋田県 鹿角市 大湯 ストーンサークル
  - 3. 青森県 青森市 小牧野 遺跡
  - 4. 青森県 青森市 山内丸山 遺跡 ストーンサークル
  - 5. 秋田県 鷹巣町 伊勢堂 岱 遺跡
8. 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」
  - 【鬼沢の鬼神社 十腰内巖鬼神社を訪ねて】
  - 1. 「弘前ねぶた」
  - 2. 「鬼沢のねぶた」出陣へ
  - 3. 岩木山の鬼伝説
  - 4. 鬼神社 巖鬼山神社を訪ねて
9. 山口県のたたら 美祢河原上たたら遺跡
10. 丹後国の古代鉄の王国
  - 【天女の通った道は鉄の道 【羽衣伝説】】
  - 1. 丹後国 古代 鉄の王国
  - 2. 「羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道」
  - 3. 弥生時代 3 世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂・今井墳丘墓遺跡
  - 4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳
11. もう一つの邪馬台国 丹後国
  - 【大陸と日本を結ぶ古代丹後の国の大製鉄加工基地遠所遺跡】
  - 1. もう一つの邪馬台国 -丹後の国の重要性-
  - 2. 弥栄町 遠所製鉄遺跡 - 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート -
  - 3. 遠所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷
  - 4. 遠所遺跡原料 高チタン系砂鉄の謎
    - 現在の溶接材料につながる高チタン滓系 -
  - 5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪

## 『Iron Road 和鉄の道』【2】和鉄探訪

- □ 絵 1 Iron Road 和鉄の道 和鉄の技
- □ 絵 2 日本各地の鬼伝説
- □ 絵 3 古代 和鉄の歴史

## 『Iron Road 和鉄の道』【2】和鉄探訪

1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋
  1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋  
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 WALK
  2. 金屋子神社と金屋子神 神話  
古代製鉄の神 金屋子神の総社 島根県 広瀬町 WALK
  3. 兵庫県立歴史博物館〔1〕  
「千種鉄 たたら」 ビデオライブラリー
  4. 兵庫県立歴史博物館〔2〕  
兵庫歴博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」  
－中国伝来の弥生 鑄造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた－
2. 古代「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
古代出雲の国謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡
  1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
  2. 荒神谷遺跡 探訪
  3. 加茂岩倉遺跡 探訪
  4. 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎
3. 久しぶりに訪れた 房 総 九十九里 砂鉄の浜 飯岡浜
4. 接着・接合の原点 縄文の石鏃について「アスファルト」
5. 接合のルーツ 「漆」・「アスファルト」を見る . -「発掘された日本列島 2001」展-  
日本固有「木の文化の加工技術」として
6. 鬼の住む山 京都府 大 江 山 Walk - 大江山の鬼伝説に  
『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきたてて -  
oeyma.htm by M. Nakanishi
  1. 鬼が住む山 大江山へ -古代 iron road の夢のせて-
  2. 鬼の住む山 大江山 walk
  3. 酒呑童子説話と大江山「鬼退治」
7. 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て -ルーツの旅に現代を重ねて-
8. 岩手県 北上川流域 の 和 鉄  
蝦 夷 の 主要武器 「蕨手刀」を訪ねて一関博物館へ  
日本刀 の ル ー ツ 「舞草刀」
  1. 北上川流域の和鉄
  2. 一関博物館で
9. 2000 年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄斧  
弥生時代高度な表面脱炭処理 鉄の強靱化熱処理伝来のルーツか？

10. 日本各地の鬼伝説 「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？
  1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説
  2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」
  3. 丹後国 大江山 酒天童子伝承
  4. 吉備国 桃太郎伝承の鬼ヶ城
  5. 青森県岩木山（巖鬼山）山麓の鬼伝説
11. 「真金吹く 吉備の国」吉備国 桃太郎伝説
  1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつくられた
  2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
    - (1) 「弥生の暮らし」を持たらした大陸からの渡来人 - NHK 「日本人遥かな旅」より -
    - (2) 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」
    - (1) 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」
    - (2) 鬼ノ城 walk - 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら-

● 参 考 日本 鬼伝説
12. 第5回 暦博国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して
 『加耶の鉄と倭国』
  1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった？ - 日本古代鉄の歴史 -
  2. 「加耶の鉄を巡る古代日本の派遣争い」それが日本を造っていった
13. 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた 近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群
  1. 滋賀県古代製鉄遺跡
  2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる
 

草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ボケバラ)遺跡
  3. 資料 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡
  4. 製鉄技術伝来と大陸・朝鮮から伸びる鉄の道
14. 幕末 信州 武州街道沿いの現地産出の鉄鉱石原料「たたら製鉄」
 - 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk - 長野県 南佐久郡 佐久町
  1. 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk
  2. 茂来山鉄山遺跡の概略
  3. 霧久保沢から帰路 小海線 羽黒下駅まで - のんびりと山郷のWalk -

**和鉄の道・Iron Road Since 1999**  
**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**2000-2001** HP開設時の記録

**和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて**  
**日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録**  
**2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録**  
bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
by Mutsu Nakanishi

〈 第一分冊 2000年File 〉 >

Iron Road [1] 2000

1996.10-2000.8



2001. 8. 15.





2001. 8. 15.



# 収録 たたら製鉄の歴史探訪 2000・2001

Mutsu Nakanishi HP 私の和鉄の道・Iron Road Reviw にかえて

## 日本の源流・たたら探訪 日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る



**URL:** <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

1990 年代 たたら製鉄・日本の歴史などに興味をいだいて中国山地の製鉄遺跡などを始めていた 1990 年代 茨城県波崎に単身赴任。九十九里浜そして鹿島の浜に砂鉄があり、製鉄伝承も数多くある事にびっくり。休みを利用して 関東や東北の製鉄遺跡等を訪ねる中で、鉄や日本の歴史探訪をライフワークにして home page を立ち上げようと取り組みました。

名前は「Iron Road・和鉄の道」にと。

今までの歩いた各地の探訪アルバムや博物館展示資料等々。

九十九里を歩きながら ページ内容構想リストをねって、スタートした home page の始まり。

HP 開設時の掲載ページを収録した「和鉄の道・Iron Road2020・2021」には ホームホームページ開設にあたってのたたら製鉄の Review や「鉄」への思いを詰め込んだ掲載記事の数が詰まった和鉄の道の Review 記事満載。

この home Page の始まりを読み返して そのまま 和鉄の道 Review 資料として整えました。重複掲載の内容も多々ありますが、お許しを。

また、自分で書き起こさなかった転機・引用掲載が多々あり、できるだけ、出典とその旨を付記していますが、お許しください。

開設後約 20 年を経過して、掲載記事ファイルも肥大化し、雑然と記事満載に。。当初目標にしたたたら探訪・日本の起源探訪もほぼ達成。

また、スマホ・パソコンの普及し、種々の情報も容易に手に入るようになり、個人の勝って気ままな記事収集にも疑問。掲載記事の選択整理と総合整理に取り掛かりはじめた次第です。

後期高齢者の風来坊 勝手気ままな「私の和鉄の道 Review」の一冊です

2021.12.5. From Kobe Mutsu Nakanishi

## まえがき 『閃光』と『肌光』 - 鉄への思い -

心情は『前向いて ただひたむきに』 そのengineは『Openness & Frankness』  
技術屋としての姿勢は『不思議やなあ 面白いなあ』『観たり、聞いたり、試したり』

『現在の鉄』が『産業の米』ならば『古代 和鉄』の系譜は『日本の源流』。

日本各地には『たたら』と呼ばれる古代から連綿と続く『日本の和鉄』の膨大な痕跡がある。今表舞台では見えないが、これらと和鉄の流れが「日本を作り、日本の文化・産業を担ってきた」に違いない。日本全国の奥深い山々や川筋には、日本に鉄を伝え、鉄精錬をはじめた渡来人に始まる「産鉄の民」の系譜があり、また、日本各地の山深い谷筋には山を開き作られた鉄の精錬場の遺跡が残っている。この精錬場には各地から砂鉄や薪・墨などの原料が集められ、また生産された鉄が日本各地に運ばれていった。海岸沿いをまた、山を越え、そして幾筋もの川筋をさかのぼり、発達した通商の道が製鉄の山々から各地に張り巡らされた。

古くは大陸から日本への鉄伝来の道・日本各地への鉄伝播の道。そしてこれらは時代を超えて日本各地の文化・産業を担った「和鉄の道」。そこでは多くの人達が交流を繰り返しそして日本が出来てきた。

1988年昭和63年の夏スタート以来 十数年 日本各地を歩いた「Iron Road・和鉄の道」Country Walkを整理して一冊にまとめました。このcountry walkは材料研究者としての自分史のような気もしています。そこから 何が出てくるのか・・・

昭和43年に鉄鋼会社に入り、鉄鋼材料の研究者としてスタートし、約40年 鉄鋼・非鉄金属材料 そしてセラミックス・機能樹脂と仕事の変遷とともに本当に幅広い材料に取組み、材料科学 接合・ハイブリッド化 そしてその機能開発の研究者として、材料開発・実用化開発に関わることが出来ました。

恩師 田村今男先生からは

「鉄鋼は剛柔にして、しかもその態を変える。古くから多くの人の知恵が使われている。

材料の成分・製造履歴が材料の性質にきわめて重要であり、『先人の知恵を見よ』」と教えられた。

また、専門の溶接・接合冶金の分野の諸先生・先輩諸氏からは

「溶接のルーツは「奈良の大仏」の鑄掛け。

「奈良の大仏」から「宇宙開発」まで脈々と続く溶接の歴史を見よ」と良く聞かされてきました。

「オリジンの大切さと「ルーツ」へさかのぼる解析。そして本質を見る眼」がいつも頭の中を駆け巡った若い日々でありました。

昭和63年7月 鹿島・波崎の研究所に単身赴任したのを機会に何か関東ではじめたいと思っていた矢先に、波崎の研究所が建っている「若松」の地名が常陸風土記に出てくる古代砂鉄出土の地である事を知り、また、何気なく訪れた波崎日川の砂丘・九十九里の浜で大量の砂鉄を見て、何か因縁めいた感じを受けて始めたのがこの『たたら探訪』のスタート。

自分の趣味として『たたら 和鉄』にこだわって日本各地行く先々でcountry walk。

銚子から岬町大東崎まで砂鉄の砂浜「九十九里浜」を歩いたのをスタートに日本古刀の里 千種・備前。

奥出雲の「たたら」そして奥三陸の海岸へ。

学問的に緻密な裏づけを求めるわけではなく、ただその地に行ってただ立たずんで、地形を眺めながら、この地の人の足跡をまた時代を思いめぐらすだけの探訪。

でも、色々な場所で多くの人に会い、本当にこの10数年非常に楽しい胸わくわくのlife workとなりました。

鹿島・波崎から次の赴任地 山口県美祿では秋吉台の麓 中国山地の奥深い山の中。しかし海岸には弥生時代に大陸からやってきた数百体の渡来人が、望郷の念を抱いて西の海を眺めながら眠る「土井が浜弥生遺跡」があり、鳥取・岡山から島根奥出雲にかけての奥深い山々には数多くの「たたら」の跡。せっせと通いました。この間 美祿ではコンピュータ革命の一端を担った世界最先端の技術開発にも携わり、先端ビジネスの厳しさと面白さ そして 若い人たちとの交流の中から生まれるクリエイション。都会では味わえぬ多くの事と素晴らしい仲間を得ました。

結婚した娘が住んだ鳥取県米子。大山の麓伯耆の国・出雲の国は古代鉄が日本誕生のドラマを演出した土地。

そして、親父が生まれ育った丹後の羽衣伝説は「鉄伝播」の証。丹後の家の直ぐ北の丘から突如古代この地方の鉄を支配した豪族の墓が出てきたのにもビックリでした。

東北にも隋分通いました。

青森三内丸山遺跡・縄文のストーンサークルなど青森へせっせと通う中 鉄のない縄文の時代のすばらしさと多くの仲間にも出会えました。先人の墓を中心に丸い輪になって暮らす縄文人。

「現代人として 何か忘れ去ったものを取り戻したい。・・・」いつも そんな感じがしています。

古代文明論に詳しい森本哲郎氏は「三内丸山縄文遺跡」が「世界三大文明にも匹敵する木の文明」であると指摘された。巨大柱に支えられた檜や大型住居などが整然とならぶ巨大都市。森の中に作られた多彩な植物栽培と日本全国から集まってきた漆・土器・石器の数々。

この「巨大木の加工技術」はさらに時代を経て 船による日本各地との交流をさらに盛んにし、空高くそびえる出雲大社の空中神殿 そして東大寺大仏殿へ。 さらに日本各地に残る「御柱」へと連綿と日本文化・文明をつないで行く。

石器から鉄器へと変化はしたが、「加工工具の技術」や「加工技術」の果たした役割の大きさは世界文明としての位置付けを指摘されるとあらためてその技術の偉大さにただビックリ。

「和鉄」が日本産業の米としての物質的役割ばかりでなく、当初意識していなかったのですが、その時代時代の社会形成に大きな影響を与え、日本各地の伝説・神話を産み、「日本誕生」のドラマを演出し、「日本人の心情・文化」の形成にきわめて大きな影響を与えてきた事を知るに至って その広がりにはますますビックリしています。

「Iron Road・和鉄の道」この言葉を口にした時の広がり・人との繋がりにはやっぱり「鉄の持つすごさ エネルギー」を物語っている。

今 鉄鋼は産業の米としての役割がゆらぎ、表舞台からは退場を余儀なくされていると言われる。

でも、先人の知恵が凝縮された鉄の世界。

### 『溶鋼のまばゆい輝き「閃光」と「くろがね」の落ち着いた「肌光」』

必ずや時代を動かす力として今後も多くの広がりをもたらして行くだろう。

この十数年 日本各地を歩いた「Iron Road・和鉄の道」Country Walk。大半は家内と二人の「二人三脚」。まだまだ 行きたい場所考えたいことも多い。

津軽・兵庫千種・丹後そして山陰奥出雲はまだまだ通いたい。そして 東北・三陸 秋田・白神 近江・越 そして 朝鮮・中国へ いかねばならぬ field は無尽蔵。今後を楽しみにしています。

そこから また 何が出てくるのか・・・・・・・・

2001. 8. 15. 神戸にて 2003. 5. 15. 追記

材料技術屋 40年 いろんなことが在りましたが おもしろい材料技術屋人生でした  
今後も姿勢は同じ 『さあ 第一歩 先に向かって』です。

2003.6月 鉄にたずさわれたことを誇りに思いつつ  
中西睦夫

M. Nakanishi Internet Home Page 『IRON ROAD 和鉄の道』  
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/index.htm>  
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/iron.htm>

# 『和鉄の道』口 絵



大江山 酒天童子 鬼の像



奥出雲 ヤマタノオロチ伝説

日本各地に散らばる『たたら』製鉄遺跡やその資料館等を訪れた時に見たり入手した資料から 『たたら』製鉄図並びに砂鉄を採取した場所等の写真並びに採取した砂鉄を分析した写真等ができましたので、少し古いですが整理しました。

2002.1.12. 柏にて M.Nakanishi

## 1. 現在も継承されている『たたら製鉄』

1. 島根県吉田村鉄のミュージアム  
「菅谷たたら」



2. 島根県横田町 日本刀剣保護協会  
「日刀保たたら」



## 2. 絵図に描かれた「たたら製鉄」

### 1. 四合吹き of 図

岩手県久慈「たたら館」入場券より



### 2. 島根県広瀬町

金屋子神社縁起絵巻より



### 3. 兵庫県千種町 千種町歴史民俗博物館蔵絵巻より



3



### 4. 山口県福栄村大板製鉄遺跡 ホームページより



### 3. 日本各地にある砂鉄

kcie2.htm by M. Nakanishi



1. 日本各地で採取した砂鉄例
2. 砂鉄の形態・成分分析例

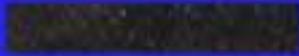
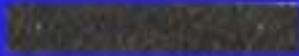
#### 3.1. 日本各地で採取した砂鉄例

以前 房総の浜や千種川の河原等で採取した砂鉄まじりの砂を磁石で選別。のりのついた紙の上にそれをばら撒き標本していた資料やその砂鉄を走査電顕で覗いた写真等がでてきましたので整理。

波によって浜に打ち寄せられた砂鉄が風によって描く美しい模様の数々。

よく、『鳴き砂』の浜の美しさが語られますが、砂鉄が舞う『砂鉄の浜』も劣らずどこも本当に美しい浜でした。ポケットからそっと磁石を出してその砂が吸い寄せられるかどうかチェックした事など思い出しています。

また、電子顕微鏡の中に角の取れた砂鉄がびっしり浮かび上がった様も印象的でした。

採取した砂鉄例	
	皆生浜 浜砂鉄 H4. 8. 11. 奥出雲 吉田村 菅谷たたらで採取
	奥出雲鳥上山 山砂鉄 H4. 8. 11. 奥出雲 横田町 日刀保たたらで採取
	兵庫 千種川 川砂鉄 H4. 9. 28. 千種町 千種川で採取
	波崎 日川浜 浜砂鉄 H4. 7. 26. 茨城県波崎町 波崎砂丘で採取
	房総 大東崎 浜砂鉄 H4. 7. 4. 千葉県 九十九里浜 大東崎浜で採取
	
砂 鉄	砂鉄の混じった浜砂



福島県 原町市 金沢製鉄遺跡の近傍 北泉海浜公園



茨城県波崎町 日川浜・波崎海岸砂丘 千葉県



千葉県 飯岡浜・九十九里浜

### 3.2. 砂鉄の形態・成分分析例

#### 砂鉄の走査電顕写真

日川浜採取 砂鉄



茨城県波崎 日川浜 採砂鉄電顕

# 砂鉄の成分分析の一例

房総 九十九里浜 大東崎浜採取 H4. 7. 4.

	C	Si	Mn	P	S	Cu	Ti	Fe	Al	O	N
A	0.06	17.12	0.30	0.017	0.037	0.03	2.25	26.0	1.57	2.1	0.0090
B	0.05	11.37	0.30	0.015	0.037	0.03	3.60	29.5	1.54	29.0	0.0075

1) 試料 A: 300 $\mu$ m 71V1(下)  
B: 71V1(上)



房総 砂鉄の浜 日川浜 波崎砂丘



BC 800	600	400	300	200	100	0	100	200	300	400	500	600	700	800	1000	1500
	縄文晩期	弥生前期	中期	後期	古墳前期	中期	後期	飛鳥	奈良	平安						室町
				【鑄造破片再生の時代】				【本格鍛冶の時代】				【鉄の量産化の時代】↑				
日本古代 和鉄の歴史				【原始鍛冶の時代】				【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】								
				【鍛打伸展鍛冶の時代】				【鉄の多様化の時代】								

### 1. 縄文晩期～弥生前期 紀元前2世紀～紀元1世紀 【鑄造破片再生の時代】

中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鑄物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。

### 2. 弥生時代中期～後期 紀元1世紀～3世紀初頭 【原始鍛冶の時代】

薄く板状に鑄込み表面脱炭去れた素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われるようになる。

### 3. 弥生時代後期以降～古墳時代中期 2世紀～4世紀 【鍛打伸展鍛冶の時代】

中国では脆い鑄鉄鑄物ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状錬鉄が得られるようになり、脱炭鑄鉄と同時に日本にこれらが持ち込まれるようになり、これらを素材とした鍛錬加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。

### 4. 古墳時代初頭以降 初期～中期 3世紀前半～5世紀 【本格鍛冶の時代】

大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流布。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。

この当時 半島朝鮮半島の南部辰韓・加耶と倭国との交流が始り、4世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄い鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。当初3世紀には北九州に限られた鉄の先進地が5世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。

5世紀後半になると畿内には大泉遺跡のような大規模な專業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

### 5. 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5世紀末～8世紀 【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】

その始りはまだはっきりしないが、5世紀末から6世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始り、鉄素材の自給が始まった。また 国内に大量に存在する砂鉄を原料とした精錬も始り、日本での鉄自給の波が西国から東へ広がって行く。

7世紀末から8世紀には現在の福島県原ノ町近傍(行方製鉄遺跡)まで広がりさらに、9世紀には青森岩木山北山麓での製鉄が確認されている。

### 6. 奈良・平安時代 8世紀～11世紀 【鉄の多様化の時代】

竪型炉が関東・東国に出現し、大型の箱型炉や鑄物遺跡の出現など鉄生産が日本全国におよび、鉄生産の多様化が進む。本格的な鑄物生産がはじまり鉄の多様化がはじまる。

### 7. 中世 15世紀以降 【鉄の量産化の時代】

高殿たたらが鉄山経営として成り立ち 出雲など中国地方の生産が他を圧倒して行く

## 『Iron Road 和鉄の道』【1】

はじめに

M.Nakanishi home page 『IRON ROAD 和鉄の道』

日本誕生とたたら 歴史雑感 『IRON ROAD と日本誕生のロマン』  
 出雲と新羅・朝鮮との関係 -スサノオ伝説とたたら-  
 たたら製鉄の起こりと発達  
 「たたら」製鉄 日本古来の砂鉄製鉄法

## 『IRON ROAD 和鉄の道』【1】

1. 『和鋼・たたら』との出会い  
 【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
2. 日本人のルーツと「和鉄の道 Iron Road」の接点を求めて  
 『弥生人の源流を探る =西から東へ=』土井ヶ浜シンポジウムの周辺で
  1. 山口県土井が浜弥生遺跡 と 「土井が浜シンポジウム」
    - 1.1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム
    - 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』
    - 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認  
 -日 中調査団 ルート論争に一石-
  2. 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて
  3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』
  4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来
  5. 『ヤマトノオロチを退治したスサノオノミコトは朝鮮からやってきた』
  6. 出雲と朝鮮新羅の関係 ・ 日本誕生とたたら 歴史雑感・
3. 岡山県 富村 鍛冶谷たたら 【鍛冶谷たたらと初花】
  1. 富村鍛冶屋谷 たたら遺跡
  2. 『初花 - ほとばしるたたら溶鉄の造形 - 』
4. 古代畿内勢力 蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡  
 【黄金吹く「行方製鉄遺跡」】
  1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
  2. ヒタカミ「日高見(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
  3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城遺跡」
5. 山陰の古代鉄の大王国 伯耆国  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -  
 【溝口の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】
  1. 『鉄の伝来をもたらし古代 山陰鉄の王国の出現』  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
  2. 『古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡』 -鳥取県淀江町・大山-
  3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯

6. 津軽の古代鉄の大王国  
【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津軽の製鉄地帯】
  1. 鬼伝説と古代製鉄
  2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
  3. 空沢製鉄遺跡群 鱒ヶ沢町湯舟 と 「鬼伝説」
  4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湊
7. 東北 秋田・青森 縄文のストーンサークル  
【縄文人の心を映すストーンサークル】
  1. 縄文のストーンサークル これも iron road
  2. 秋田県 鹿角市 大湯 ストーンサークル
  3. 青森県 青森市 小牧野 遺跡
  4. 青森県 青森市 山内丸山 遺跡 ストーンサークル
  5. 秋田県 鷹巣町 伊勢堂 岱 遺跡
8. 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」  
【鬼沢の鬼神社 十腰内巖鬼神社を訪ねて】
  1. 「弘前ねぶた」
  2. 「鬼沢のねぶた」出陣へ
  3. 岩木山の鬼伝説
  4. 鬼神社 巖鬼山神社を訪ねて
9. 山口県のたたら 美祢河原上たたら遺跡
10. 丹後国の古代鉄の王国  
【天女の通った道は鉄の道 【羽衣伝説】】
  1. 丹後国 古代 鉄の王国
  2. 「羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道」
  3. 弥生時代 3 世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂・今井墳丘墓遺跡
  4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳
11. もう一つの邪馬台国 丹後国  
【大陸と日本を結ぶ古代丹後の国の大製鉄加工基地遠所遺跡】
  1. もう一つの邪馬台国 -丹後の国の重要性-
  2. 弥栄町 遠所製鉄遺跡 - 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート -
  3. 遠所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷
  4. 遠所遺跡原料 高チタン系砂鉄の謎  
- 現在の溶接材料につながる高チタン滓系 -
  5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪

## 『IRON ROAD 和鉄の道』

BY M.NAKANISHI ironprint.htm



古代から昭和初期に至るまで、日本に西洋製鉄法が根づくまでの間、『たたら』と呼ばれる砂鉄と木炭を使った 素晴らしい日本独特の製鉄があった。

3世紀～5世紀、さらに飛鳥・奈良時代に至るまで、朝鮮半島から、日本沿岸をめぐる『大陸からの鉄伝来の道』があった。

大陸からの「稲作」や弥生文化の伝来の道 数多くの渡来人がやって来て、「日本誕生」に関わった道 『たたら』の言葉の響きの中にあるロマンに魅せられ 『COUNTRY WALK 『IRON ROAD -和鉄探訪-』をスタートした。



全国至る所に『たたら』の製鉄遺跡・砂鉄の産地があるが・・・

弥生時代・日本の誕生が金属器の使用に始まるとすると武器・農耕機具等の『鉄器』の支配は日本の国の広がりにはきわめて重要な役割を担ったに違いない。

『日本誕生』と『鉄』の展開には、非常にミステリアスな出会いがあるに違いない。

最近の青森三内丸山縄文遺跡や吉野ヶ里遺跡に代表される弥生遺跡の発掘は 日本の誕生研究に大きな展開をもたらしている。

また、昨年全国をブームの渦に巻き込んだアニメ映画「もののけ姫」は「たたら」を広く一般の人の人たちに紹介するきっかけとなった。

司馬遼太郎著『街道を行く』の一遍である「砂鉄の道」や「朝鮮半島を行く」の中には著者の鋭精緻な知識・現地主義に裏付けられた鋭い歴史観とあいまって、古代の『たたら』や『渡来人』『日本誕生』のロマンが熱っぽく語られている。

最近 金属学会報・鉄鋼協会誌に『たたら』『古代鉄』の詳細な研究報告が発表され、学術的にも また、最近多くの人々が取り組んでいる。

# 日本誕生とたたら 歴史雑感

## 『IRON LOAD と日本誕生のロマン』

出雲と新羅・朝鮮との関係 -スサノオ伝説とたたら-  
susaprint.htm 1998.11.1.

いつたい弥生人はどこからやってきたのか？ 鉄器はどこから伝わったのか？

『日本誕生』の古代には、北九州・出雲・吉備・丹後・津軽などに時代はこととするとしても大和と拮抗する王国があったという。この頃、また 朝鮮半島の百済・新羅・高麗から多くの渡来人がやってきて、日本誕生に関わったという。しかも、鉄の集団と密接に関係して・・・



(慶州：天馬塚にある天馬図)

崇高な文化をこれ一枚で感じることができる



よみがえる古代鉄の王国

伽耶王国展より 1992.8.9.

新羅の前身である弁・辰韓にふれた「魏志東夷伝」に「国から鉄が出、倭などみな随ってこれを取る」という記述がある。この事は古代朝鮮に製鉄技術があり、それを日本の前身である倭からも取りに行くなどの交流があったことを示している。

また、その後の日本誕生にかかわる出雲スサノオ伝説とも絡み、非常に興味深い。そのほか新羅王の冠の飾りに出雲が主産地としてよく知られていた勾玉が使用されていることも興味深い。

### 【出雲スサノオ伝説】

当時 朝鮮半島では部族・民族間の戦い繰り広げられ、難を逃れた多くの人たちが渡来人として日本にやってきた。スサノオノミコトもその一人で新羅系の人たちと共に日本に逃れ、出雲に来て、すでにやってきて、農耕の民と争っていた先住のたたら民を討ち、国を治め出雲の王となった。その後、百済系の人たちの大和朝廷に国を譲った。スサノオノミコトが鉄を目指して朝鮮半島 当時の新羅から日本にやって来たともいわれている。

出雲人の祖先は一体どこから来たのであろうか？

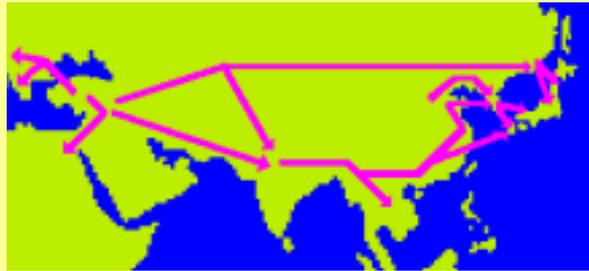
出雲は新羅から船を迎日湾に浮かべると海流によってたどり 着くことの出来る場所である。

当時から大勢の移民が出雲に流れ着いたか、意図的に渡来していたと考えられる。

一方出雲と対峙していた大和朝廷は百済系と言われており、「記紀」等の記述から、出雲を新羅系と認識していたと考えられている。

出雲では砂鉄が取れ、縄文時代の中期頃からすでに素朴な鉄生産が行われていたという記述もある。倭から弁・辰韓に鉄を取りに行った人々の情報の中に出雲の鉄のことが含まれていたとしてもあながち妄想ではなからう。

### 【大陸/朝鮮半島・日本への古代鉄伝来の道】



瀬戸内

〔北九州－瀬戸内－備中・美作－兵庫・千種－大和・畿内〕

日本海西沿岸

〔北九州・長門－出雲－丹後－若狭・琵琶湖-大和・畿内〕

日本海沿岸

〔北九州・長門－出雲－丹後－若狭・越－秋田・津軽-松前・北海道〕

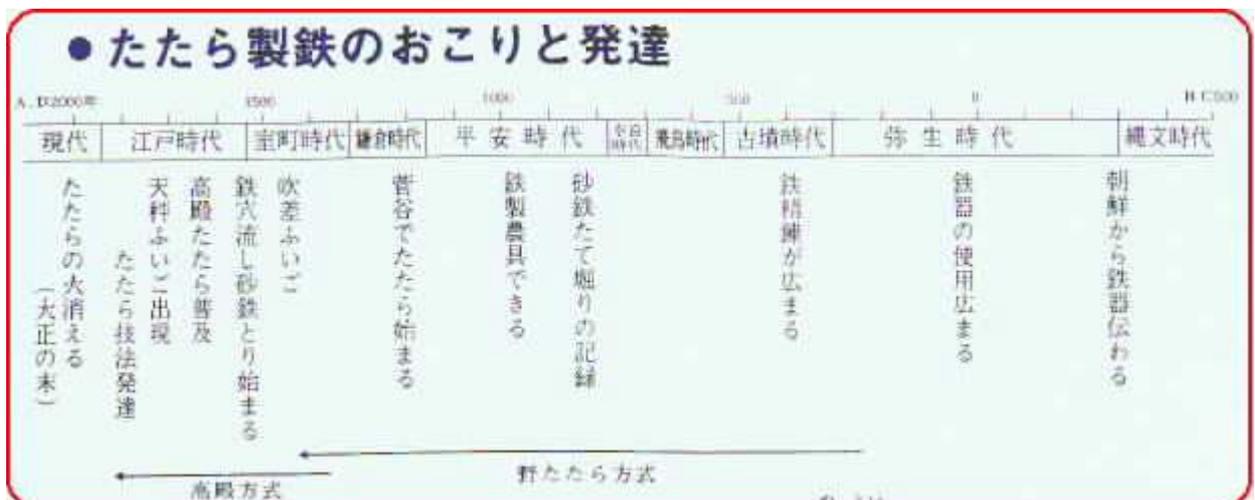
太平洋沿岸ルート

〔津軽－三陸－房総－畿内・紀伊半島・瀬戸内・北九州・〕

太平洋・畿内

〔北九州・瀬戸内・紀伊半島・畿内・河内・大和〕

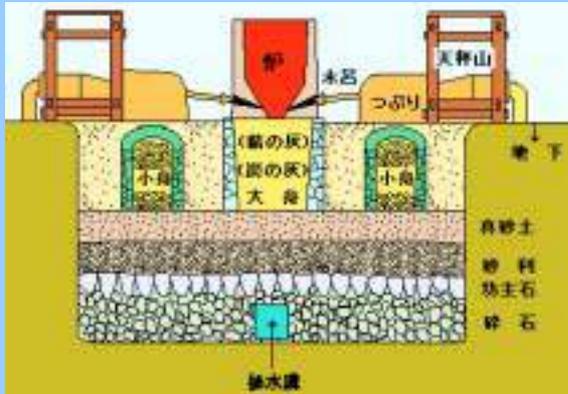
## たたら製鉄の起こりと発達



# 「たたら」製鉄

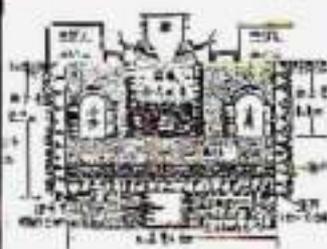
日本古来の砂鉄製鉄法

1998.10.1. giho.htm



## 日本独自の古来製鉄 【たたら製鉄】

四合次製鉄図



たたら製鉄のしくみ

「たたら」は粘土製の炉の中へ、原料である砂鉄15トンと燃料である木炭15トンを交互に挿入し、砂鉄を溶かして鉄の塊を得る製鉄法である。

作業は三日三晩にわたって行われ、最終日には炉を壊して炉の底で成長した約2.5トンにもなる鉄の塊「けら」を取り出す。

「けら」は冷却した後、細かく粉砕し、「玉鋼」「歩(ぶ)けら」「けら銚(ずく)」等に分ける。

玉鋼」は日本刀の材料に、「歩けら」「けら銚」はさらに加熱鍛錬により「包丁鉄」となり、工具、農具の材料になる。

『たたら製鉄法』は古代より、砂鉄と木炭を使った日本独特の製鉄法として近代製鉄法が百欧から入ってくるまで栄えた。  
 古代稲作に続く鉄の伝来は日本・大和誕生のルーツに大きく関わっている。  
 また、『たたら』の良質な鉄【玉鋼】は日本刀の原材料として近代製鉄法では再現できず、現在に至るまで珍重されている。  
 『たたら』の誕生・その性能は神祕のベールに包まれている。



【 たたら 製鉄法 】

現在も「たたら」の技法を使って玉鋼を生産している施設

名称	住所	電話番号
日刀保たたら	横田町大呂	0854-52-1010
現代たたら (和鋼生産研究開発施設)	吉田村吉田 たたら鍛冶工房	0854-74-0301



**伝統の技**

精進こめて玉鋼焼「たたら保集」

玉鋼に伝統の技を打ち込む日刀保・小林兄弟

日本刀剣保存協会  
**たたら**

**鉄の歴史村 吉田村と菅谷たたら**

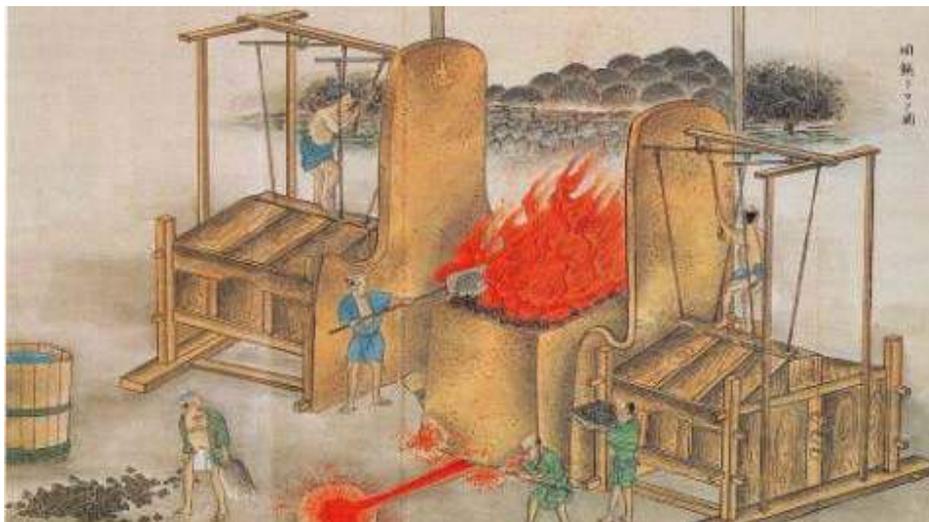
## 「Iron Road 和鉄の道」【1】 和鉄探訪

1. 『和鋼・たたら』との出会い  
【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
2. 日本人のルーツと「和鉄の道 Iron Road」の接点を求めて  
『弥生人の源流を探る =西から東へ=』土井ヶ浜シンポジウム周辺で
  1. 山口県土井が浜弥生遺跡 と 「土井が浜シンポジウム」
    - 1.1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム
    - 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』
    - 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認 ・日中調査団 ルート論争に一石・
  2. 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて
  3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』
  4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来
  5. 『ヤマトノオロチを退治したスサノオノミコトは朝鮮からやってきた』
  6. 出雲と朝鮮新羅の関係 ・日本誕生とたたら 歴史雑感・
3. 岡山県 富村 鍛冶谷たたら 【鍛冶谷たたらと初花】
  1. 富村鍛冶屋谷 たたら遺跡
  2. 『初花 - ほとばしるたたら溶鉄の造形 - 』
4. 古代畿内勢力 蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡  
【 黄金吹く「行方製鉄遺跡」 】
  1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
  2. ヒタカミ「日高見(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
  3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城遺跡」
5. 山陰の古代鉄の大王国 伯耆国 ・日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -  
【溝口の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】
  1. 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰鉄の王国の出現』  
・日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
  2. 『古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡』・鳥取県淀江町・大山・
  3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯
6. 津軽の古代鉄の大王国 【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津軽の製鉄地帯】
  1. 鬼伝説と古代製鉄
  2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
  3. 空沢製鉄遺跡群 鱒ヶ沢町湯舟 と「鬼伝説」
  4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湊
7. 東北 秋田・青森 縄文のストーンサークル 【縄文人の心を映すストーンサークル】
  1. 縄文のストーンサークル これも iron road
  2. 秋田県 鹿角市 大湯 ストーンサークル
  3. 青森県 青森市 小牧野遺跡 ストーンサークル
  4. 青森県 青森市 山内丸山遺跡 ストーンサークル
  5. 秋田県 鷹巣町 伊勢堂岱遺跡 ストーンサークル

8. 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」【鬼沢の鬼神社 十腰内巖鬼神社を訪ねて】
  1. 「弘前ねぶた」
  2. 「鬼沢のねぶた」出陣へ
  3. 岩木山の鬼伝説
  4. 鬼神社 巖鬼山神社を訪ねて
9. 山口県のたたら 美祢河原上たたら遺跡
10. 丹後国の古代鉄の王国 【天女の通った道は鉄の道 【羽衣伝説】】
  1. 丹後国 古代 鉄の王国
  2. 「羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道」
  3. 弥生時代 3世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂・今井墳丘墓遺跡
  4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳
11. もう一つの邪馬台国 丹後国
 

【大陸と日本を結ぶ古代丹後の国の大製鉄加工基地遠所遺跡】

  1. もう一つの邪馬台国 ・丹後の国の重要性・
  2. 弥栄町 遠所製鉄遺跡 - 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート -
  3. 遠所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷
  4. 遠所遺跡原料 高チタン系砂鉄の謎 - 現在の溶接材料につながる高チタン滓系 -
  5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪



## 『 IRON LOAD - 砂鉄/たたらとの出会い 』

- 茨城県鹿島・波崎&amp;千葉県九十九里浜 - 1995.10.

『IRON LOAD』-和鉄の道-

3世紀～5世紀さらに飛鳥・奈良時代に至るまで、中国・朝鮮半島から、日本沿岸をめぐる『鉄の道』があったという。

- 瀬戸内〔北九州-瀬戸内-備中・美作-兵庫・千種-大和〕
- 日本海・若狭・琵琶湖-大和〔丹後・若狭&越-大和〕
- 日本海沿岸〔北九州・長門-出雲-丹後-越-秋田・津軽〕
- 北太平洋沿岸〔津軽-三陸-房総--大和〕

## 1. 『たたら』との出会い

- 茨城県鹿島・波崎&amp;千葉県九十九里浜 -- 『IRON LOAD 1.』 -



鹿島製鉄遺跡図



茨城県 波崎砂丘



千葉県九十九里浜

1991年茨城県鹿島・波崎に転任し、波崎の海岸砂丘・九十九里浜を歩いて驚いた。歩いている足元の砂に砂鉄が大量にまじっている。すごい量だ。

鉄鋼会社に入って、20数年。赴任先の研究所の敷地の地名にも、そこが昔砂鉄の産地であることが、常陸風土記に記されている。

『たたら』むかし少しかじった言葉 この言葉にこだわって country walk したら.....と頭に浮かんだ。

まず、九十九里浜の完全踏破。兵庫県千種・奥出雲のたたら製鉄遺跡にも.....再度 出掛けよう。

“COUNTRY WALK”をこの『たたら』にこだわってやって見ることにした。

日本には、古代から『たたら製鉄法』と呼ばれる砂鉄と木炭を使う日本独特の製鉄があったという。

弥生時代・日本の誕生が金属器の使用に始まるとすると武器・農耕機を初めとする『鉄器』の支配は日本の国の広がりにかわめて重要な役割を担ったに違いない。

3世紀～5世紀さらに飛鳥・奈良時代には朝鮮半島から、＜日本海沿岸＞＜三陸・房総・太平洋沿岸一大和＞＜北九州・瀬戸内一大和＞など日本沿岸をめぐる『鉄の道』があったという。

日本の国の展開と『鉄』の展開には、非常にミステリアスな出会いが有るに違いない。

スタートは夏の暑い日。銚子の丘に立つ赤いとんがり帽の教会から九十九里浜の海岸全踏破と浜砂鉄の採取から.....

休みごとに歩いている内に冬になり、そして、1995年 仕事で訪れたアメリカ アリゾナで セドナ

へ案内してもらって驚いた。真っ赤な砂地の街・真っ赤な岩山。まさしくベンガラ(赤鉄鉱)の岩山・街。

「たたら」を訪ねる walking はますます広がっている。

スタートとした銚子の教会から約1 KM。最初に砂鉄を見つけた九十九里浜の端飯岡海岸の浜を見下ろす崖に飯岡灯台がある。この飯岡灯台のすぐそばに洒落た小さなレストランがある。

この walking を完了する時には、このレストランで夕日を見ながらワインをゆっくり飲みかわすことにしている。何時完了するかわからないけれども・・・・

1995.10. 茨城県鹿島郡波崎町にて M.Nakanishi

## 2. 茨城県鹿島・波崎 & 千葉県九十九里浜 『たたら・製鉄遺跡』探訪

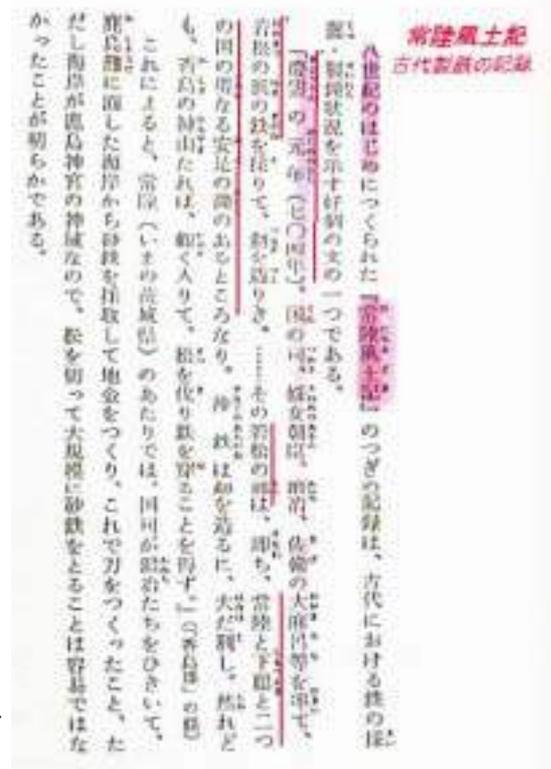
### 【常陸風土記 古代砂鉄精練の記録】



利根川河口の逆水門より鹿島・波崎工業地帯を望む

古代「常陸風土記」に記載された砂鉄採取・精練の地「若松」はその中央にある。

また、その先鹿島灘に対峙する波崎砂丘には大量の砂鉄があり、その風紋が素晴らしい。



### 【波崎海岸砂丘 砂鉄の堆積・風紋】



### 【飯岡浜 九十九里浜砂鉄堆積浜】 -砂鉄の浜(飯岡浜)-



【海上町岩井安町製鉄遺跡】 -飯岡浜北の海岸段丘の丘-



### 岩井安町製鉄遺跡の概要

◎ 所在地 千葉県海上町岩井安町 浜原谷に面する段丘上

◎ 遺跡年代 古墳時代中期4世紀前半(佐賀郡からの出土品で決す)

◎ 製鉄遺跡とは 1. 炉前 2. 集積 3. 焼結 4. 運搬 5. 焼結部片  
6-1. 製鉄部片 6-2. 製鉄 6の6つの異なる土層が重なった遺跡あり、3-6の焼結部片のみを示す場合は製鉄遺跡と見ても多い。

製鉄遺跡の概観 縄文時代(晩期) 3基-鉄器時代 出立部4軒 古墳時代 16軒  
5基-平安時代 2軒 方眼瓦葺基土基 溝3条。

遺跡の概要  
平安時代遺跡は、沖積堆積する段丘上位置する製鉄遺跡で、炉前、焼結部片からなる。平安時代には各時代の製鉄の存在することが判明しました。考古学的手法として、鉄屑を析出した製鉄部片、(炉前部)炉前部は古墳時代以前のものである。佐賀郡の古墳群は、若干の精製土を産出し、600-800を産出。出土遺物は、鉄屑のほか、鉄器、ハンマー(石製)、土器、土器等です。古墳時代は、炉前部の出土品は、産出の部です。平安時代は、製鉄の部に入ると考えられます。全国的に見ても、平安時代の調査例は、佐賀でも佐賀の調査例が、研究結果によって時期決定に関しては見られるところがあります。

(平安時代)は平安時代の製鉄遺跡(製鉄部)があります。

岩井安町遺跡から発見された佐賀鉄(製鉄部)製造部が確定されたため、炉前と製鉄部(炉前)は、炉前部は、平安時代は、おそらく古墳時代以前に、その後の遺跡(古墳)に製造部を移したものと考えられます。おそらく丹波川の流域(北瀬谷)に製造部を移した製鉄上河原があるものと考えられます。

政府の指示は、平安時代より平安時代の遺跡時代遺跡から平安時代の約30%は、平安時代のものを中国や朝鮮半島から輸入して、その後もしばらくは、輸入した鉄製物を製造部に加工する段階が設けられます。

【べんがらの岩山・街 SEDONA】 -アメリカ フリゾナ州-



2.

## 日本人のルーツと Iron Road の接点を求めて

『弥生人の源流を探る =西から東へ=』

japanprint.htm

1. 山口県土井が浜弥生遺跡 と 「土井が浜シンポジウム」	
1.1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム	dhmprint.htm
1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』	dhm2print.htm
1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認 日中調査団 ルート論争に一石	dhm3print.htm
2. 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて	roots1print.htm
3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』	roots2print.htm
4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来	gaya1print.htm
5. 『ヤマタノオロチを退治した スサノオノミコトは朝鮮からやってきた』	susano1print.htm
6. 出雲と朝鮮新羅の関係 日本誕生とたたら 歴史雑感	susaprint.htm



## 1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム

【 土井が浜 弥生パーク 】

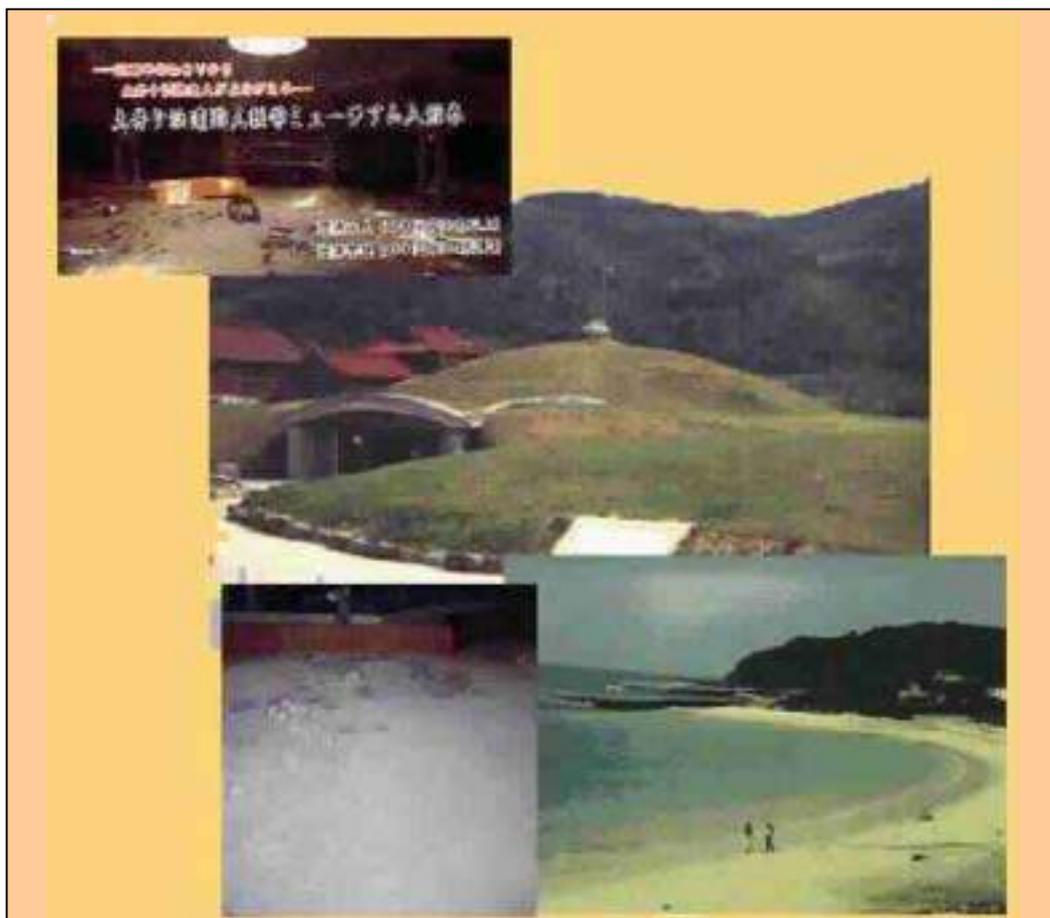
山口県豊浦郡と豊北町

dhm.htm by M.Nakanishi 1999.5.3.

### 1.1. 土井が浜 人類学ミュージアム

土井が浜遺跡は、遠い2000年の昔 日本の歴史を考える国立の史跡公園です。

この日本海を臨む浜辺の丘の上には、300体を超える弥生人骨が整然と  
並んで埋葬・出土した非常に貴重な集団墓地遺跡です。



この多くの弥生人骨は、日本人の起源を考えるうえで、また、埋葬の在り方は弥生人の生活を知るうえで大変重要な資料を提供しています。

この土井が浜人類学ミュージアムでは 中国の研究者達と共同研究が行われる一方毎年人類学シンポジウムが開催され、この渡来系弥生人のルーツ調査が行われています。

【土井が浜 人類学博物館ドームの内部】



発掘された状態でドームがかけられ内部が見学できます

その結果、ここから出土した弥生人の人骨は、中国内陸部の黄河・長江に挟まれた地帯から出土する人骨とよく似ている事が、発見され、弥生人のルーツの一つがこの地方にあることが判りつつあります。



【土井が浜渡来系 弥生人と縄文人の顔骨格の相違】

縄文・弥生の時代を超えて、大陸から多くの人々が渡来し、数々の文化を伝え、この日本を形作ってきました。2000年前の昔中国春秋戦国の動乱の中、大陸から渡来し、日本人として生涯をとじた渡来人達が、望郷の念を抱きつつ海をへだててはるか遠い故郷の方向をじっと眺めつつ、この丘で今も眠りについている。  
北九州・山口地方の渡来系弥生人のルーツが土井が浜弥生遺跡です。

## 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨（予報）』

松下孝幸 ・ 韓康信

1998.6.30. 土井ヶ浜人類学博物館にて

dhm2.htm 1999.54.24. by M.Nakanishi 資料収録

私たち学際的共同研究チームは、土井ヶ浜弥生人など、縄文人的特徴をもたない弥生すなわち渡来系と呼ばれている弥生人のルーツを探るために、中国の研究者と共同研究をおこなってきた。

94年から96年までの山東省との共同研究で、山東省臨?から出土した周代末と漢代人骨が、北部九州や山口の弥生人骨によく似ていることが、明らかになり、北部九州・山口タイプの弥生人のおおもとは中国大陸にあると考えても差し支えない状況になりました。

しかし、私たちはこの事実から北部九州・山口タイプの人は山東省から来た、といってるわけではない。どこから来たかはまだわからないが、おおもとは大陵にあるといってもいいだろうと思っている。これから先は「直接どこから、どのようなルートで、どこへ入ってきたか」という課題と「本当のルーツはどこか」という2つの課題で調査研究を進めていく計画である。

「本当のルーツはどこか?」というのは土井ヶ浜弥生人や吉野ヶ里弥生人など日本では渡来系弥生人とよばれている人々の形質は「どこまでさかのぼれるのか?」「中国大陸ではいつごろからこのような特徴をもった人々がどこに現れたのか?」という意味である。

山東省臨?では周代末からは確実にこのような特徴を示していましたので、おそらく周代までは確実にさかのぼれると私たちは考えている。

日本列島への渡来を考える場合は、日本人はよく北からとか南からとかいうが、中国でヒトの移動を考える場合は、西から東への流れを無視するわけにはいかない。

私は、黄河と揚子江の二大河川に沿ってヒトと文化が西から東へ移動したのではないかと、考え、まず黄河と揚子江の源流がある青海省の古人骨の特徴を調べてみることにした。

幸いなことに青海省からは保存状態のよい青銅器時代の人骨が多数発掘され、韓先生のご努力でそれらが保管・管理・整理されていた。

現在、私たちはこの人骨の研究をおこなっているが、人骨が多量なためにまだ彫塑途中なので、今年は研究の一部をご紹介します。

第6回 土井ヶ浜シンポジウムにて

### 1. 弥生人の地域差

1. 北部九州・山口タイプ	1. 顔が長い(顔の高さが高い) 2. 鼻の付け根が扁平 3. 高身長(男性 162~164 cm 女性 150cm程度)
2. 西北九州タイプ	1. 顔が短い 2. 眉上弓の隆起が強く、鼻骨が隆起し鼻根部が陥凹しており、ホリが深い容貌 3. 低身長(男性 158cm程度 女性 148cm程度) 4. 風習的抜歯を行っている。
3. 南九州・南西諸島タイプ	1. 著しい「低・広顔」(西北九州弥生人の特徴がさらに顕著) 2. 強い「短頭性」(頭を上からみた形が円に近い) 3. 著しい低身長 {男性 153~155 程度 女性 141~145cm程度} 4. 風習的抜歯を行なっている。

## 【弥生人と縄文人の頭骨の特徴と差】

<山口県土井が浜人類学ミュージアム>



### 2. 地域差が生じた理由

西北九州タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 縄文人の特徴と同じ</li><li>・ 彼らは縄文人の子孫？</li></ul>
北部九州・山口タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 縄文人の特徴は見られない</li><li>・ 彼は大陸からの渡来人か？</li></ul>

### 3. 中国大陸の2,000年前の古人骨

山東省の臨沂の漢代と周代の人骨は北部九州・山口タイプに酷似。

### 4. 青海省青銅器時代人骨 資料{頭蓋}

各人骨の所属時代は、？ 約文化および辛店文化期の青銅器時代で、日本の縄文時代 後期に相当する。

上孫家	アハトラ山	李家山	合計
232	37	24	293

### 5. 李家山頭蓋の特徴

- ・ 頭型は中頭型。
- ・ 顔の特徴は高さが高く、幅が狭い(高顔・狭顔)。
- ・ 鼻根部は扁平。

土井ヶ浜弥生人や吉野ヶ里弥生人などの渡来系弥生人に酷似。

土井ヶ浜弥生人の形質的特徴の原形は青銅器時代までさかのぼる可能性が強くなってきた。

土井ヶ浜の海岸丘で、遠く大陸へ続く日本海を眺めつつ眠る土井ヶ浜人。

弥生人については日本人のルーツの集団の一つが、黄河・揚子江に挟まれた流域からやって来たらしい。

中国・朝鮮半島の多くの国の興亡の中 朝鮮海峡を渡り、日本にやって来た。

この弥生中期の土井ヶ浜人が鉄を持ってきたかどうか?はまだ判っていない。

しかし この道は日本へ数々の文化を伝えた本街道。

日本へ鉄を伝えた『 Iron Road 』も間違いなくこの道であつたに違いない。

日本人の起源 シリーズ 1 土井が浜 弥生人のルーツ

### 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認

日中調査団 ルート論争に一石

朝日新聞 1999年3月19日朝刊より

choko.htm 1999.3.25

『大陸から稲作や金属器など弥生文化を伝え、現代日本人の成立にも大きな影響を与えたとされる渡来系弥生人にそっくりな人骨を中国・長江（揚子江）流域で初めて確認した』と3月18日 日中共同調査団が発表  
日中共同調査団

日本側団長、山口敏・国立科学博物館名誉研究員  
中国側団長、鄭厚本・南京博物院考古研究所長



北方系とされてきた渡来系弥生人の故郷のひとつが長江下流域にもあったことをうかがわせる発見で、朝鮮半島経由ルートと江南ルートに分かれて論争湖続く弥生文化の伝播をめぐっても大きな関心を集めそうだ。

中国・江蘇省の梁王城、胡場などから出土した古人骨を対象に、1996年度から人類学者グループが南京博物院と調査を進めていたもの。

日本の弥生時代とその直前にあたる春秋戦国時代から前漢時代の人骨約二十体の頭がい骨や四肢骨、歯を計測。併せてDNAも調べた。

その結果、北部九州や山口県で見つかる、背が高く面長でのっぺりした顔立ちの渡来系弥生人と姿形が酷似し、遺伝的にも近いことがわかった。

また、弥生時代にみられる抜歯の風習も確認された。

日本人の成立については、南方系とされる彫りが深く低身長 of 縄文人に、大陸北部の北方系の渡来系弥生人が混血したという見方が有力。九〇年代に入り中国では、黄河下流域の山東省や内陸部の青海省などでも渡来系弥生人に似る骨が確認されているが、長江下流域では知られていなかった。

山口団長は「稲作文化の中心は長江流域。渡来系弥生人を北アジア的とする通説に修正が必要ではないか」と話している。

近年、長江流域は、中国文明とは別に独自の高度な文明を持っていたとして注目を集めている。春秋戦国時代には呉・越や楚などの国が興った。畑作地域の華北とは異なる稲作圏であることから、稲作中心の弥生文化は直接ここから日本列島に流入したとする説があり、有力な朝鮮半島経由説と対立している。

考古学的に江南ルートの存在を主張してきた

樋口隆康・奈良県立橿原考古学研究所長の話

長江流域は人類学では手が付けられていなかった。渡来系弥生人に似ているならば彼らが弥生文化を持ってきたと言っていい。

弥生文化が来た道はいろんな道があったことを示す育力な資料だ。

## 2. 日本人のルーツと Iron Road の接点を求めて

『弥生人の源流を探る -西から東へ=』

-土井が浜シンポジウムの周辺で-

日本人のルーツ

### 渡来系弥生人の源流を求めて

大陸から日本海を渡る『渡来人の道 鉄の道』を考える

roots1.htm 1999. 4. 24.

昨日 弥生時代の大集落・大型建物の列柱の出た大阪府池上曽根遺跡の大型建造物の完成を記念して隣接の大阪府立弥生文化博物館で開催中の『渡来人登場・弥生文化を開いた人々 --』展を見に行った。大阪から和歌山へのバイパス国道 26 号線沿いの和泉市と泉大津市の境の市街地に新たに復元された巨大な列柱を並べた建物と広い遺跡に隣接して弥生博物館が建っていた。東には河内から大和へ続く山々が見え、渡来人の郷 河内飛鳥がすぐ近くここも間違いなく渡来人の足跡が感じられる。



大阪府池上曽根弥生遺跡に復元された大型建造物



弥生特有の線描 船と狩猟 船の舳先に鶺が見える

このページを気にかかっているインターネット ホームページ『IRON ROAD・たたら』の「大陸との交流」のページを進めるきっかけにしようと思う。

300 体を超える渡来人が望郷の念を抱いて日本海のかなたの大陸を眺めながら整然と並んで眠る山口県響灘の土井が浜の海岸丘遺跡。出雲の国に入り、ヤマタノオロチを退治したスサノウノミコトは戦乱の朝鮮半島の小国の王子。鉄を持って日本に逃れてきたと言う。邪馬台国の所在地は北九州・畿内???

日本海側や瀬戸内沿いにヤマトに向かって点々と続く金属器と稲作集落の弥生の遺跡・古代王国の連環。

などなど。

紀元前 1 世紀から 3 世紀にかけて中国・朝鮮半島の戦乱の世に戦乱を逃れ、多くの渡来人が日本へやって来たという。

大陸から九州・西日本に続くこの道は渡来人と一緒に歩んだ『稲の道』『鉄の道』『大和・日本成立の東遷の道』。

その黎明には大陸からやって来た幾多の渡来人一族の群れがこの道をと通っていった。

そして、弥生人の子孫が渡来人達の技術・技能を借り、それらを融合して築いた大和の国。

稲作を伝え、金属器を伝え、集落を作り、国へと発展し、日本の骨格が出来ていったと言われている。

昨年 土井が浜人類学ミュージアムで『土井が浜人のルーツ・日本のルーツ』の資料を貰った。

これらを手がかりに渡来人の道 「鉄の道」を考えてみたい。

3月に娘のいる米子訪問を機に「和鉄・渡来の民が色濃く足跡を残す古代王国の地」である奥出雲・伯耆の国を訪ねた。

- ・日野川・斐伊川の流れてたたら衆の守り神金屋子神社。
- ・スサノオ神話の鳥上の峯〔船通山〕とヤマタノオロチ。
- ・司馬亮太郎著『街道を行く:安芸の道』で読んだ  
「石見風土記の丘・江の川と三次盆地渡来人とたたら」

曾根池上遺跡に併設された大阪府立弥生文化博物館で開催されている「渡来人登場 -弥生文化を開いた人々」展 を見つつ、また、曾根池上弥生遺跡の中に立ち、バラバラではあるが次々と古代ロマンの膨らむ一日でした。

ちょうど朝日新聞に日本渡来人のルーツが黄河流域のみならず揚子江の中流も考えられるとの日中共同研究の記事。 中国大陸の文化の伝播が川沿いの南北のみならず両者を繋ぐ東西にも広がっていったと伝えている。

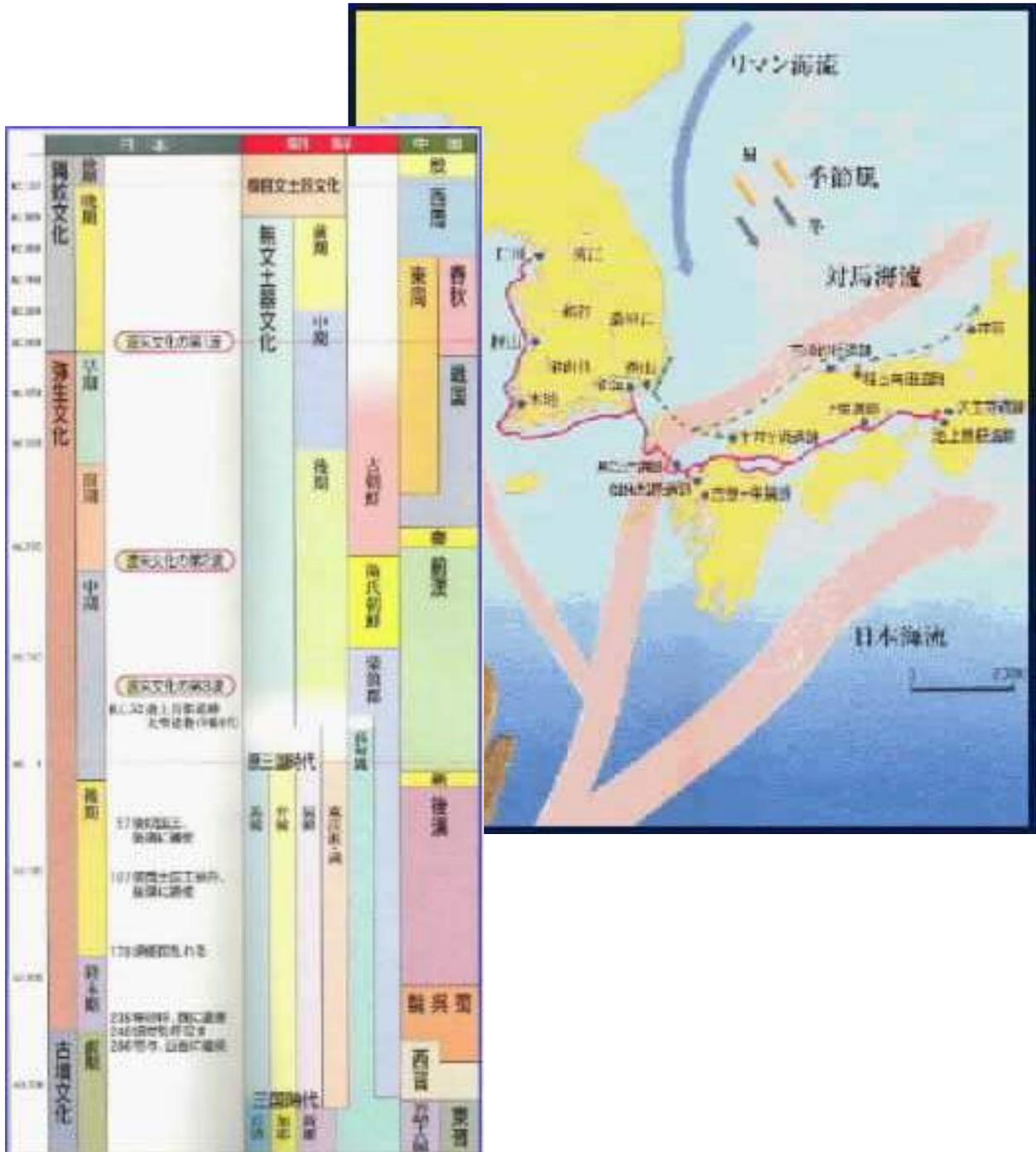
土井が浜 人類学ミュージアムの「土井が浜人 ルーツ研究」の資料にも同じ事をみた。

【 参 考 】

弥生時代の東アジア史年表 <日本・朝鮮・中国>

弥生 日本 の起源黎明期 大陸環境と渡来人

朝鮮から日本への推定航路 & 弥生時代の東アジア年表



日本人のルーツ と Iron Load の接点を探して

### 3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』

第6回 土井が浜シンポジウム

#### 『弥生人の源流を探る・西から東へ・』

ーシンポジウム開会挨拶より転記・

土井が浜遺跡・人類学ミュージアム 松下孝幸館長

1998.8.30. 土井が浜人類学ミュージアムにて

roots2print.htm 1999. 5. 4. by M..Nakanishi 収録

【松下孝幸館長基調 Review】

#### 『 弥生人の源流を探る ・ 西から東へ ・ 要約 』

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 館長 松下孝幸

1998.8.30. 第6回土井が浜シンポジウムにて

『土井ヶ浜シンポジウム』は、人類学ミュージアムの活動の大きな柱で人類学的成果と考古学的成果などを広く普及し、その成果を分かちあうことを目的として、学際的に行なっているシンポジウムです。今年第6回目になり、また日中共同シンポジウムの5回目となりました。

1993年 第1回 テーマ

「弥生人は海をかけて南北に交流したか」

1994年～1996年 第2,3,4回テーマ

「北部九州・山口と中国山東省のヒトと文化」

(中国山東省の考古学者と中国の人類学者との共同討論)

1994年から、人類学ミュージアムは中国山東省の考古学者や中国の人類学者と共同で、土井ヶ浜弥生人などの渡来系弥生人のルーツを明らかにする調査と研究を行なったので、その成果を普及するためのシンポジウムでした。

この共同研究によって北部九州・山口の弥生人のルーツ（おおもと大陸にあると考えてもよさそうです。また、土井ヶ浜弥生人の形質的特徴は、山東省での調査の結果、周代までは確実にさかのぼれることがわかりました。この結果を踏まえて、今後の次ぎの課題を解決するための調査研究を行って行こうと考えています。

直接の渡来地はどこか、

形質的起源はどこまでさかのぼれるか・そしてそれはどこの地域か、

大陸の文化と人骨をみていると、南北間の流ればかりでなく、東西間の動きもあるようでこれも軽視できません。

「黄河と長江の二大河川に沿ってヒトと文化が西から東へ移動した可能性があるのではないか」と考え、両河川の源流がある青海省から出土した古人骨を、1997年から1999年まで青海省と共同で研究し、弥生人の源流を深ってみたいと思います。

【 渡来系弥生人 と 縄文人をルーツとする弥生人の特徴 】



渡来系弥生人  
北九州・山口タイプ  
土井ヶ浜人  
【弥生中期】



縄文人系弥生人  
西北部・南九州タイプ  
佐賀県詫田西分遺跡  
【弥生中期】



縄文人  
長崎県脇岬遺跡  
【縄文後期】

【西日本の主な弥生人 人骨出土地と渡来人のルート】

「渡来人登場 - 弥生文化を開いた人々 -」展資料より 1999.4. 22



【渡来系弥生人と縄文人をルーツとする弥生人の特徴】



## 4. 古代日本と中国や朝鮮の交流と鉄の伝来

gaya1print.htm

弥生時代 日本と中国・朝鮮半島との間には化ば都な交流があり、これらの交流・日本への渡来を通じて日本・日本人のルーツである弥生文化・弥生人が成立した。

弥生時代の農耕文化を支えた農耕器具や日本成立への戦乱を乗り切る武器として『鉄器の伝来』もこれらの交流を通じてもたらされ、『たたら』製鉄として昭和の世まで約 2000 年の長きに渡り、連綿と日本を支えてきた。

この弥生・古墳時代の鉄器・製鉄技術の伝来についての記述について、思いつくまま調べている。

1999. 5. 2. 神戸にて M..Nakanishi

中国ではすでに紀元前 5 世紀には鉄器文化が花開いており、戦乱・民族の移動交流を通じて四方に広がっていった。春秋戦国時代以来中国で繰り返された戦乱が朝鮮半島に作用し、日本にも渡来の民を通じて影響し、この過程で日本にも鉄器が伝えられたと考えられます。

「三国志」魏志韓伝によると紀元前 2, 3 世紀中国の政策や動乱の影響を受け、朝鮮半島の社会や政治が移り変わり、大勢の人々が移動・移住したと伝えている。

朝鮮北部から陸路ばかりでなく、山東半島・遼東半島周辺の朝鮮半島西岸ばかりでなく、朝鮮海峡を渡り、日本にも集団で渡った民がいたこと想像され、日本と中国・朝鮮半島の交流が活発にあったと考えられている。

また、魏志韓伝にはこの紀元前 2,3 世紀から紀元 1 世紀にかけて、「弁辰の国は鉄を産し、韓・(ワイ)倭 皆がそれを求めてくる」と記している。そして、大和朝廷の成立する 3 世紀には南朝鮮の弁韓・辰韓地方から鉄の王国伽耶諸国が成立し、これら諸国と日本との活発な交流を通して、鉄製品の輸入・本格的な製鉄技術の移入が始まり、『大和の国・日本』の成立に大きな影響を与えた。

日本書紀によれば、出雲国でヤマタのオロチを退治したスサノウノミコトはこの戦乱の南朝鮮からの渡来した集団の長と伝えている。

司悠司は小説『霸王スサノオ伝説』でこのスサノウを伽耶国の王子として製鉄技術を持って先に渡来していた集団(ヤマタノオロチ)を滅ぼし、さらに次

々と土着豪族を斬り従えて出雲・大和を平定し、ついには日本統一をはたす大ロマンを小説に書き上げている。

真偽は別にして、当時の日本と朝鮮諸国との交流・鉄の役割等を生き生きと



小説に仕上げている。

朝鮮とのかかわりは人・文化・鉄のみならず 言葉・文字に至るまで想像を広げればいくらでも広がって行く。万葉集も古来朝鮮のことばとして解釈すると非常に理解しやすいとも聞く。

史実とはかけ離れているかも知れないが『たたら』を key word に時代をみると古代のみならず、実にスケールの大きな口マンを秘めている。今は山奥の奥の奥の谷あいのどん尽きにあるなにもない『たたら』遺跡に立ってその時代時代について色々想像をめぐらすのも楽しい。

それは何も古代に限らない。

1999. 5 .2.夜 神戸自宅にて 中西睦夫

\*\*\*\*\*

## 表 古代日本と中国・朝鮮の交流と鉄の役割

奥出雲横田町 ホームページ資料より)

西 暦	和 暦	時 代	内 容
B C 600		縄 文	インドやエジプトで鉄器文化隆盛
B C 500		弥 生	中国で鉄器文化隆盛
B C 27		弥 生	天日槍命 鉄器類を天界に献上する (日本書紀)
57	建武中元 2		国使節が後漢に行き金印を授かる
239	景初 3		卑弥呼が魏に朝貢し「親魏倭奴国王」 の称号を授かる
252			済の使節が鉄器財宝類を大和朝廷に献上する
324		大和・古墳	高麗より鉄楯・鉄的が大和朝廷に献上される
538			仏教伝来
593			聖徳太子摂政になる
645	大化 1 年	飛 鳥	大化の改新
670	天智 9 年		水碓により鉄を冶す
687	持統 1 年		新羅より大和朝廷に金・銀・鉄が献上される。
659	斎明 5 年		出雲大社造営さる
701	大宝 1 年	奈 良	大宝律令制定この頃、備後八郡の調(税金) として「麻布・鋤・鉄」が収められている
733	天平 5 年		出雲国風土記が撰せられる この頃、既に奥出雲仁多郡に製鉄あり
794	延暦 13 年	平 安	恒武天皇、都を平安京に移す以後明治維新 まで都となる
800 頃			この頃、刀剣鍛冶技術が確立。名刀が多く 造られる。 中国地方の租税(調)は鉄・鋤が中心となる

佐古和枝氏 「海を渡ってきた人々」より

## 渡来人のもたらした鉄

### 絵で見る考古学



## 鉄器の伝来と渡来人

日本列島に稲作の文化がもたらされてしばらくたったころ、青銅器と鉄器がほとんど同時に日本に入ってきたと思われます。鉄よりやわらかい青銅器は、細かな模様や形を鑄出した祭の道具になりましたが、銅よりも硬鉄器は、実際に切ったり削ったりする道具として用いられました。

日本の弥生時代と同じころ、朝鮮半島の南部の伽耶地方では鉄器の文化が栄え、日本列島にも鉄がたくさんもたらされたようです。

でも錆びたとき銅よりも残りにくい鉄は、発掘調査をしてもなかなか見つかりません。

地中で腐ってしまいやすいというだけでなく、実際に使う道具として利用価値が高かったので、何度も砥石で研ぎ直して、使いづらいほど小さくなるまで使ったために残りにくいのかもかもしれません

参考資料 朝鮮 三国時代 伽耶の鉄

### 鉄の古代王国 伽耶国の精巧な鉄製品【5世紀】

#### 日本等との交易に用いられた鉄てい



#### 鉄製の甲冑



鉄製甲冑【5世紀】

## 鉄製の武具と馬飾り



よみがえるる古代王国 『伽耶文化展』より  
於 京都国立博物館 1992.8.28.

---

by M.Nakanishi 1999.5.4. 第1版

### たたら吹き製鉄



日本書紀伝承による 1～2 世紀頃の日本

## 5. 『ヤマタノオロチを退治したスサノオノミコト』

susano1print.htm 1999.5.3.



1～2 世紀の日本は統一の前夜 多くの国に分かれ戦乱が続いていた。  
中国・朝鮮半島においても戦乱が続き百済・伽耶・新羅等の国々が覇権を争い、  
それらの戦乱をのがれ、朝鮮海峡を渡り日本へ来る渡来人集団も少なくなかった。

1999.5.3. M.Nakanishi 記

### 日本書紀・後漢書 倭伝 の伝承記述

スサノウノミコトが舞い降りたという鳥上の峯 (船通山)



### 「日本書紀」の伝承

「一書に口はく、素囊鳴尊、その子五十猛神を帥めて、新羅国に降到りまして、曾戸茂梨の處に居します。すなわち興言して日はく、「この地は吾居らまく欲せじ」とのたまひて、遂に埴土を以て舟に作りて、乗りて東に渡りて、出雲国の簸川上に所在る鳥上の峯に到る」

ある書にいわく、  
スサノオの尊は、その子供のイタケルの神を連れてソシモリというところに住んだ。  
しかし、スサノオの尊は、「わたしはこの地には居たくないと思う」とおっしゃって埴土で舟を作り、それに乗って東に渡り、出雲の国斐伊川の川上にある鳥上の峯に至った。

『日本書紀』よりー

## 「後漢書」倭伝の記述

「桓・靈の間、倭国大いに乱れ、更々相攻伐し、歴年主なし」  
後漢の桓帝・靈帝の在位の期間、倭国は大いに乱れて  
互いに攻め合い何年もの間主がなかった。  
『後漢書 倭伝』より

## 奥出雲国 簸川〔斐伊川〕の流れ と ヤマトノオロチ

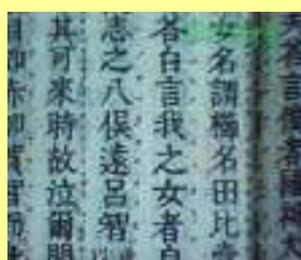


『八俣の大蛇』は蛇行する『斐伊川』ともこの川の上流域で行われた『たたら』衆および『たたら炉』から流れ出る『溶銑』の象徴とも言われる。

また 船通山のふもと鳥上では、今も技術伝承を兼ねた『たたら吹き』製鉄が行われ、刀剣の材料として、得られた『玉鋼』が全国の刀匠たちに配られている。(日刀保たたら)

## やまたの大蛇退治と草薙の剣

## 日本書紀の伝承



「期に至りて大蛇あり。頭尾各八岐あり。眼は赤酸醬のごとし。松柏、背上に生ひて、八丘八谷の蔓延れり。酒を得るに及至りて、頭を各一の槽におとし入れて飲む。酔ひて睡る。

時に素戔鳴尊、すなわち所帯かせる十握剣を抜きて、寸にその蛇を斬る。尾に至りて剣の刃少しき欠けぬ。故、その尾を割裂きて視せば、中に一の剣あり。所謂草薙剣なり」

その時刻になって、ヤマトノオロチがやって来た。オロチの頭と尾はそれぞれ八俣に分かれており、眼は赤ほうずきのようにであった。背中には松や柏がぴっしりと生え、多くの丘や谷にまで広がっていた。酒を見つけると、頭をそれぞれ八つの桶に突っ込んで飲み、酔って眠ってしまった。

そのとき、スサノオの尊は、腰にさしていた十握の剣を抜いてオロチをズタズタに斬り殺した。

オロチの尾を斬ったとき、剣の刃が少し欠けたため、その尾を裂いて見てみると、中に一振りの剣があった。これが草薙の剣である。

『日本書紀』より

## 6. 出雲と朝鮮・新羅との関係

### ・ 日本誕生とたたら 歴史雑感 -

susaprint.htm

新羅の前身である弁・辰韓にふれた「魏志東夷伝」に「国から鉄が出、倭などみな随ってこれを取る」という記述がある。

この事は古代朝鮮に製鉄技術があり、それを日本の前身である倭からも取りに行くなどの交流があったことを示している。

また、その後の日本誕生にかかわる出雲スサノオ伝説とも絡み、非常に興味深い。

そのほか新羅王の冠の飾りに出雲が主生産地としてよく知られていた勾玉が使用されていることも興味深い。

#### 出雲スサノオ伝説

当時 朝鮮半島では部族・民族間の戦い繰広げられ、難を逃れた多くの人たちが渡来人として日本にやってきた。

スサノオノミコトもその一人で新羅系の人たちと共に日本に逃れ、出雲に来て、すでにやってきて、農耕の民と争っていた先住のたたら民を討ち、国を治め出雲の王となった。その後、百済系の人たちの大和朝廷に国を譲った。

スサノオノミコトが鉄を目指して朝鮮半島 当時の新羅から日本にやって来たともいわれている。

出雲人の祖先は一体どこから来たのであろうか？

出雲は新羅から船を迎日湾に浮かべると海流によってたどり着くことの出来る場所である。

当時から大勢の移民が出雲に流れ着いたか、意図的に渡来していたと考えられる。

一方出雲と対峙していた大和朝廷は百済系と言われており、「記紀」等の記述から、出雲を新羅系と認識していたと考えられている。出雲では砂鉄が取れ、縄文時代の中期頃からすでに素朴な鉄生産が行われていたという記述もある。倭から弁・辰韓に鉄を取りに行った人々の情報の中に出雲の鉄のことが含まれていたとしてもあながち妄想ではなからう。



(慶州：天馬塚にある天馬図)  
崇高な文化をこれ一枚で感じることができる



よみがえる古代鉄の王国  
伽耶王国展より 1992.8.9.

「日本人のルーツと Iron Road」の接点を求めて

『弥生人の源流を探る -西から東へ-』

【完】

## 3.

## 岡山県 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡

1999. 3. 12. 訪問 tmsn.htm



1. 富村鍛冶屋谷 たたら遺跡
2. 『初花 - ほとばしるたたら溶鉄の造形 - 』

## 1. 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡

岡山県の山奥に備前・吉備のたたら遺跡を尋ねた。吉井川沿いは古くから砂鉄の出るところ。

吉井川の源流・鳥取県と岡山県の県境の富村に鍛冶屋谷たたら遺跡を訪ねた。

津山から県境に向かって車で約一時間。途中には昔鏡作りの渡来人がいたと言う鏡部町をとおり、吉井川沿いを奥津温泉に抜ける街道を進み、山へ向かって細い一本道を進む。山間の道のあちこちでフキノトウが芽を出す暖かい3月の日でしたが山又山、途中からは残雪の残る峠道を分け入った人里端なれた山の中、富村 鍛冶屋谷のたたら遺跡は雪の中にひっそりと眠っていました。



岡山県/鳥取県の県境近く 山また山の中 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡

どこもそうであるように、この遺跡も山又山の山奥の村のそのどんつきの山の斜面の林の中に大きなたたら製鉄の痕跡を示していた。

富村は古代よりたたら製鉄が行われた場所といわれるが、この遺跡は津山藩営大倉山鉄山のひとつで江戸時代から明治の半ばまで製鉄の行われた遺跡と言う。

吉井川河口近くには鉄さびの深いこげ茶の味わいを持つ備前焼の里や備前長船 日本古来の刀鍛冶の

郷『長船』などがあり、そして古代吉備王国、源流にはたたら山・鏡部の郷とこの流域が古来より栄え、その原動力が鉄との深いつながりにあったに違いない。

北に出雲の王国 東にたたら製鉄伝来の播磨の国千草 国産み神話の淡路島そして日本の中心大和。

『もののけ姫』の鉄山もこんなところか・・・と。

明日は娘のいる米子へ行って、それからヤマタノオロチ伝説の奥出雲 船通山・金屋子神社を訪ねる予定。

1999.3.12. 記

\*\*\*\*\* 富村 たたら展示館 \*\*\*\*\*



\*\*\*\*\* 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡 \*\*\*\*\*



## 4.

## 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫

## 「行方製鉄」遺跡を訪ねる

福島県原町市 金沢製鉄遺跡

1999.11.13. hrmci.htm by Mutsuo Nakanishi



- 4.1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
- 4.2. ヒタカミ「日高見(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
- 4.3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城遺跡」

## 4.1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫 「行方製鉄」遺跡を訪ねる

福島県 原町 金沢製鉄遺跡



朝日新聞 「日本の原像」の記事 福島県原町市金沢製鉄遺跡とその上に建つ発電所

今日は 久しぶりに家内と二人 昼の常磐線 快晴の空に映える太平洋の海を眺めました。 朝日新聞大阪版夕刊に「日本の現像 鉄器登場」が連載され、福島県原町市に「日本誕生」にかかわった大規模な製鉄遺跡の有った事を知り、日立にいる姉を訪ねがてら家内と二人で出掛けた。

東京から常磐線の特急で約4時間。日立から太平洋を眺めながら、勿来・常磐を過ぎて福島県にはいり、山間から東に太平洋 西に阿武隈山地を望む盆地にはいる。

「相馬馬追い祭り」で有名な相馬盆地の中心に原町市がある。

この原町市の北の外れ相馬市に隣接した金沢地区の太平洋に面した丘陵から、東日本最大の製鉄遺跡群が出土した。

7世紀後半の奈良時代 日本統一へ向けて、坂上田村麻呂ほか東北征伐が行われたが、その兵器製造所

として武器製造の拠点として 日本統一に重要な役割を果たした「陸奥の国 真吹郷 行方の製鉄」である。

遺跡は東北電力の原町発電所の中にあり、連絡もとらずふらっと出掛けた為残念ながら中に入れず。発電所の建っている外から遺跡群のある丘の周辺を歩き眺めてきました。

発電所の建設により、海岸周辺は良く整備された美しい静かな公園となっていた。太平洋とはるか遠くをゆく船をまた日の出を見るには絶好のポイント。太平洋に面してこの遺跡の上に建つ、東北電力原町発電所とそれに隣接して太平洋の荒波に洗われる海岸北泉海浜公園 砂鉄の海岸で遊んで帰りました。

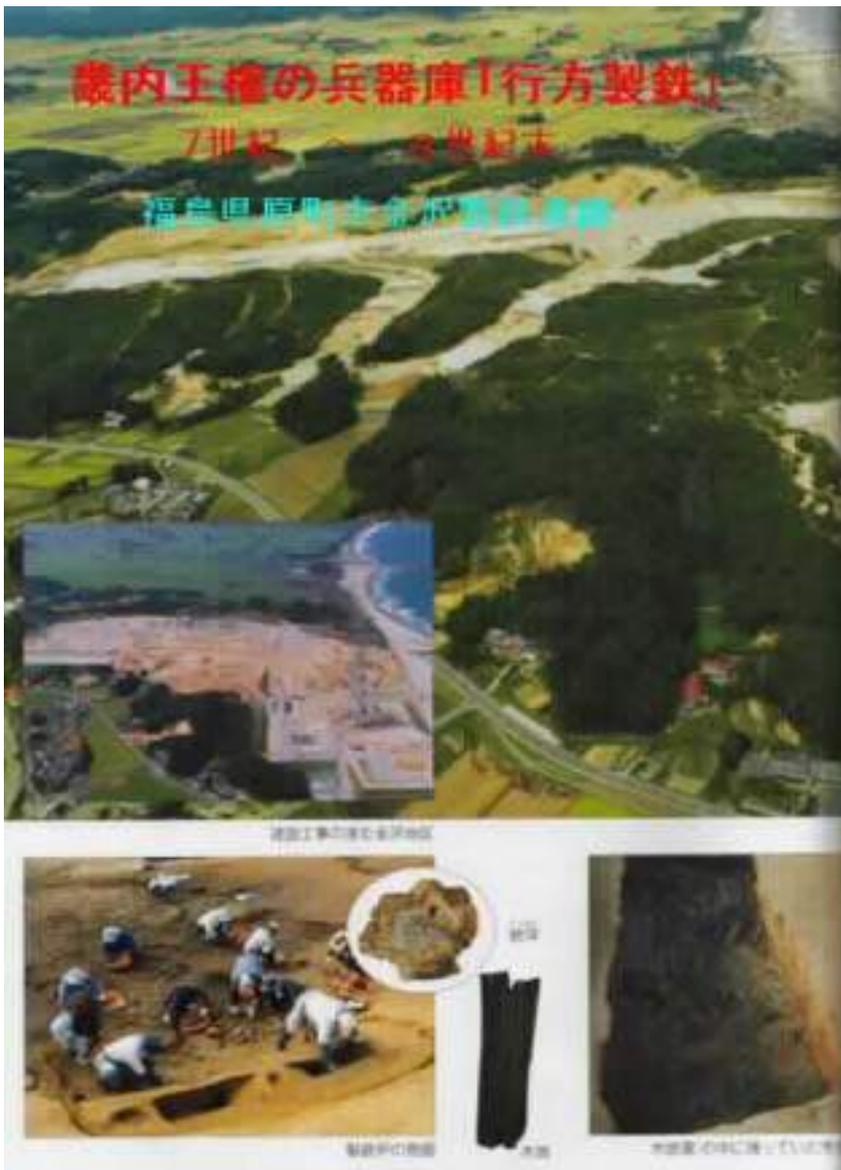
後日東北電力 原町発電所の石田純一氏より、丁寧なお手紙とともにこの製鉄遺跡発掘の記録資料やビデオまた 鈴木啓氏「宇多・行方の製鉄をめぐって」等多くの貴重な資料を送っていただいた。

1. 金沢製鉄遺跡 東北電力 原町発電所 資料より
2. 金沢製鉄遺跡の特徴
3. 砂鉄の舞う浜 北泉浜 福島県原町市北泉海浜公園
4. 北泉浜で 浜砂鉄が描く模様
5. 「iron Road 鉄の道」

朝日新聞 「日本の原像」より

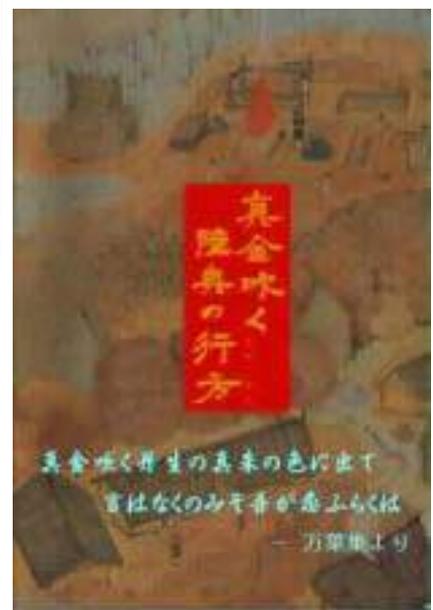
# 1. 金沢製鉄遺跡

東北電力 原町発電所 資料より



万葉集 14巻 3560首

「真金吹く丹生の真朱の色に出  
言はなくのみそ音が悲ふらくは」



## 8世紀蝦夷征伐と行方製鉄遺跡

「たたら」遺跡の多くが山深い奥地の谷あいにあるのに対し、この金沢地区製鉄遺跡群は海岸に面した丘陵にある。すぐそばに背後の阿武隈山地から流れ出て、太平洋の荒波に洗われ、堆積した浜砂鉄の宝庫 泉・北泉の浜がある。

この明るい丘陵の谷間に7世紀から8世紀末にかけ、大規模な製鉄炉や鍛冶炉・炭焼き炉など数々の製鉄鍛冶が営まれた。

当時 奈良時代 畿内王権が着々と日本を統一をめざし、その勢力を東北にまで拡大、蝦夷征伐を盛んに行っていた。

この行方製鉄はその「王権の兵器庫」として重要な役割を果たした。

坂上田村麻呂の蝦夷征伐により 蝦夷勢力が討ち果たされ、胆沢城(現在の一関市)が築かれ、東北が平定されると兵器の需要の低下とともにこの行方製鉄も衰退してゆく。

# 「真金吹く丹生の真朱の色に出て

## 言はなくのみそ吾が恋ふらくは」

この歌は原町市金沢の「真吹郷 行方製鉄」を歌ったものであると鈴木啓氏は述べている。万葉集に読まれるほどの有名な大規模な製鉄所であった事がしのばれる。

「宇多・行方の製鉄をめぐって」より

### 2. 金沢製鉄遺跡の特徴

石田氏からいただいた資料によるこの遺跡の全盛期 たたら炉は縦型炉から箱型炉に進化し、踏み鞆を有していることに特徴があり、その踏み鞆のあとが完全な形で出土している。

この踏み鞆の採用により、製鉄量は大幅に増大したことは想像に難くない。

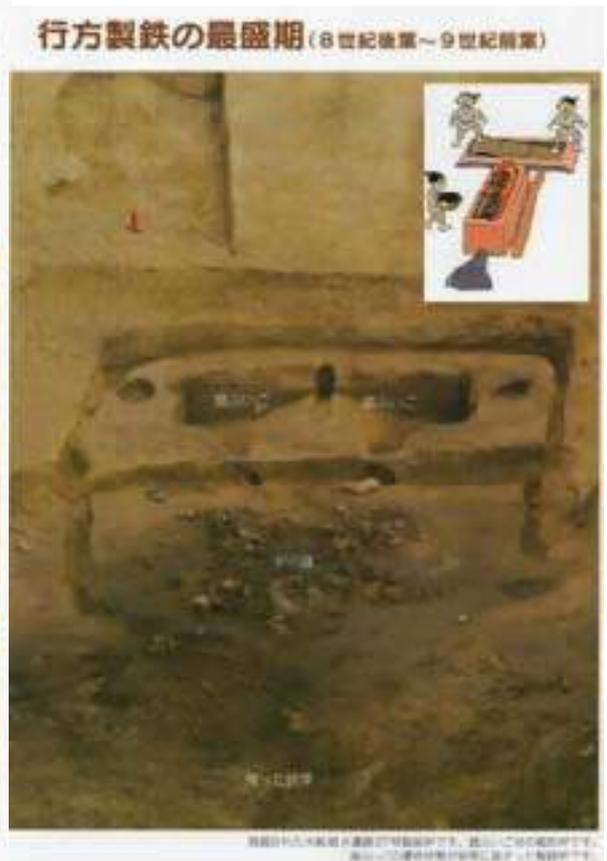
この踏み鞆を持つ箱型炉が全国へ波及して行き、時代が下るに従って天秤鞆を持つ大規模なたたら炉へと進化して生産量を大幅に伸ばしていた。

このように「たたら製鉄」や「鍛冶」として「鞆」は極めて重要で、後年これらの繁栄を祈願する祭りを「鞆まつり」と呼び、今も続いている。

江戸時代 紀伊国屋文左衛門が嵐について 江戸へ運んだみかんは江戸の鍛冶師たちの「鞆祭り」の供え物として必須のみかんであったと言われている。



踏み鞆と箱型炉の復元



出土した踏み鞆と箱型炉 8世紀

### 3. 砂鉄の舞う浜 北泉浜 福島県原町市北泉海浜公園



北泉浜で きらきら光る砂鉄



砂鉄の浜で 白砂が風に幾筋も舞う

発電所の正門のすぐ横は松林におおわれ、綺麗に整備された北泉海浜公園。海岸にはきっと砂鉄があるはずと砂鉄を探しに行きましたが 本当に印象的な美しい白浜で黒い細かな砂鉄が白砂に混じって 実に綺麗な紋様を描いていました。

見渡す限り太平洋の中 荒波にもまれて沢山の若者が大きな波にサーフィンを楽しんでいる一方 誰もいない砂浜では、波にもまれた細かい砂鉄が 美しい砂鉄の風紋を作り、その上を細かい白砂が風によっていく筋も 流れて、家内と二人風の中に立って見とれていました。

#### 4. 北泉浜で 浜砂鉄が描く模様





風に舞う砂鉄が描く風紋

## 5. 「Iron Road 鉄の道」

7世紀から8世紀東北にあった蝦夷国・出羽国・津軽国 畿内王権の蝦夷地征伐で次々と畿内王権に組み入れられ、日本国が誕生した。

これらの国には 恐らく北のまほろば 三内丸山遺跡・亀が岡文化などに代表される縄文人やオホーツクの民の血が濃く流れていたに違いない。

これらの国と弥生人の血を色濃く持つ畿内王権とが会いそして日本国の完成へ。

戦いに使われた蝦夷の刀は日本刀の原型となった「蕨手刀」。それが原型となって刀は突く武器から切る武器へと変身し、戦いの主力武器へ。

この蝦夷と畿内大和政権との戦いの武器調達を担った鍛冶の主力が、この金沢の製鉄遺跡。

ここでも 「Iron Road・鉄の道」が歴史の重要な転換点の役割を演じ、出会いを演出している。

この日本誕生に役割を演じ、縄文と弥生人融合を演出した浜の砂鉄を紙にさっと包んでポケットに入れ、この浜を後にした。

私にとっては 空白だった鹿島・房総から三陸海岸の間の部分 阿武隈山地・陸奥のたたら遺跡との最初の出会いだった。

原町は相馬馬追いで有名な町であるが、日本誕生に関わった製鉄の重要な町でも有る。

真金吹く 陸奥の行方 福島県原町市金沢 真吹郷

「真金吹く丹生の真朱の色に出て 言はなくのみそ吾が恋ふらくは」

1999.11.13. 福島県原町市 北泉海岸・金沢地区製鉄遺跡にて

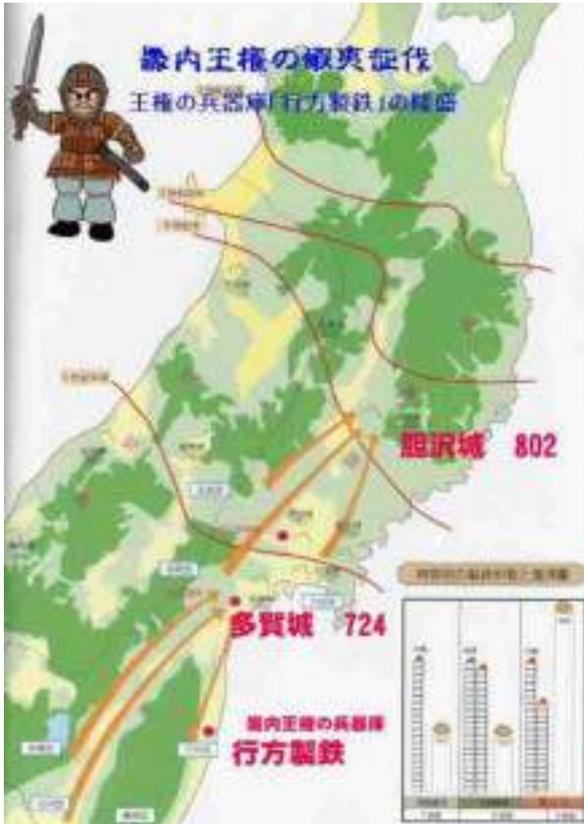
## 4.2. 日高見(北上)の鬼 「蝦夷(エミシ)の雄 アテルイ」

佐藤清忠氏著 「ヒタカミの鬼アテルイと田村麻呂」より抜粋

<http://yositsune.ichinoseki.ac.jp/SATOK/pr/ezo/oni.htm>

1999.11.27.採取

htkmi.htm by Mutsuo Nakanishi



東北電力 原町発電所発行「真金吹く陸奥の行方」より

「それ以前にも、紀古佐美(きのこさみ)率いる約5万朝廷軍をわずか千数百の兵で打ち破り、遁走を余儀なくしたこともあった蝦夷の雄 アテルイ 774年から38年間続いた蝦夷征伐戦争で、前沢・衣川付近でひと頃は約10万の田村麻呂率いる朝廷軍の侵入を迎えた。

日本を二分した畿内政権と蝦夷との戦いの戦場が日高見(北上)一関から始まった。

8世紀末の10万の大軍が、胆沢平野へとなだれこんできたのだが、胆沢の巨星、アテルイはひるまず、戦い大軍を翻弄した

しかし801年、初老の域に達したアテルイは、朝廷軍が現水沢市に造った胆沢城(後の鎮守府)を目の当たりにし、田村麻呂に最後まで残った500の兵を連れて降伏し、都に連れてこられた。

朝廷はこの天才指揮官らを田村麻呂必死の懇願に関わらず斬首してしまった。

みちのく民衆のこころ、怨念の歴史は、この時から始まった。

さまざまな伝説が生まれ、今日までも、奥浄瑠璃や祭の形で語り継がれてきた。

佐藤清忠氏 「ヒタカミの鬼-アテルイと田村麻呂」より抜粋

畿内政権が行方(現在の福島県原町市)に大規模な製鉄所を持ち大量の武器の製造を行っていたが、対抗する蝦夷国も日本刀の原型になった蕨手刀(わらびてとう)の量産技術をもっていた。憶測では、渤海など大陸との交易や出羽や津軽との交流により、採鉱、燃料調達、製鉄の技術を持っていたものと推定される。

目立った戦争経験がない蝦夷国が朝廷の十分の一以下の兵力で抵抗でき、民の心を結集できたのだろう。



畿内政権と戦った蝦夷国アテルイの武器 蕨手刀の分布

### 4.3. 8世紀 紀元724 蝦夷と戦った

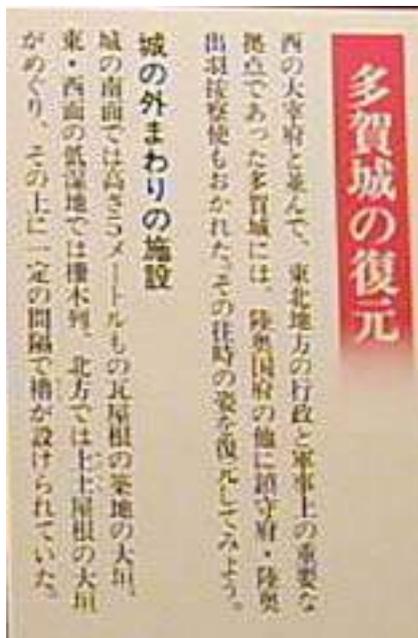
## 畿内王権の前線基地 「多賀城遺跡」

2000.1.20. tgjyo.htm by M.Nakanishi

多賀城は仙台平野の東北端に位置し、海拔4mの低地から50mを越す丘陵地まで起伏に富んだ地域を占めている。

周囲は約900m四方の不整形に土塀や柵木列がめぐり、その中央に約100m四方の政庁がある。その周辺には多くの役所や兵氏の住居などがある。

佐倉歴史民俗博物館にかざられたこの復元模型は780年の伊治公皆麻呂の乱で焼失後に復興された平安初期の姿を示している。



4. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫  
「行方製鉄」遺跡を訪ねる

【完】

5.

# 山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -

## 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰 鉄の王国の出現』

・日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -

sanin.htm by M.Nakanishi 2000, April

- 5.1. 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰鉄の王国の出現』  
・日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
- 5.2. 『古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡』・鳥取県淀江町・大山・
- 5.3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯

山陰 鉄の王国 - 伯耆の国・ Iron Road

## 5.1. 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰鉄の王国の出現』

・日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -



### 1. 出雲青銅器文化の終焉と鉄の王国の出現



365本の銅剣 16本の銅矛 6個の銅鐙が  
各々まとめて埋められていた  
出雲荒神谷遺跡



まとめて出土した  
銅剣 365本



出土した16本の銅矛  
と6個の銅鐙

弥生後期一世紀ごろ、出雲には銅剣・銅鐙に代表される青銅文化圏が開く巨大な山陰・出雲王国があった。そして、出雲荒神谷で、大量にまとめてうずめられた銅剣が発見されたのを最後に銅剣をもった青銅器の文化権が出雲から忽然として消えた。

その後、この地方には韓国に多くの例がある突出角を有する大きな方墳が出現する。

またこの四隅突出方墳墓には多くの鉄製品が副葬されている。

この文化の交代が起こる同時代の遺跡からは 大量の石のつぶて・鏃や石剣などの武器が発見されており、この地域で弥生後期一世紀頃 大きな戦いがあったと考えられる。

これら 出雲の青銅器文化や鉄の伝来を告げる四隅突出方墳墓に代表される山陰・出雲王国の形成には日本海を大陸から渡ってきた渡来人が深く関わっていたことは疑う余地がない。

出雲神話に見られる『やまたの大蛇』伝説もこれら渡来人を含めた新住民と先住民の争いの構図が読み取れる。

特に一世紀後半頃から 3 世紀にかけて、強力な鉄製の武器・農耕具を持った渡来人が大陸・朝鮮半島から日本海沿岸の各地に次々に現れ、先住の民と融合しながら、山陰から北陸地方(当時越の国)にかけての日本海沿岸に鉄と稲作など農耕を持つ強力な王国を作った。

## 2. 奥出雲 ヤマタの大蛇伝説と船通山 出雲鉄の王国の出現

### 出雲仲仙寺古墳 四隅突出墳丘墓



## 3. 伯耆の国 鉄の王国 妻木晩田弥生遺跡・淀江・溝口

伯耆の国 優美な姿をみせる大山を背景に島根半島・弓ヶ浜を望む日本海沿岸淀江の地にも王国が出現した。

日本海を望む小高い丘に大陸との密接な関係を示す多数の四隅突出墳墓群ならびに多数の鉄製品が発見される妻木晩田遺跡とそれに続く古墳遺跡群である。

時代がくだり日本が誕生した白鳳時代には淀江廃寺遺跡が発見されている。



まさに畿内・大和に次ぐ、強大な文化圏があったことがわかる。鉄の日本伝来と深くかかわった伯耆の王国である。

また、伯耆の国の『たたら製鉄』の源流となり、遠く背後にそびえる船通山(鳥上山 ヤマトタケルの伝説の地)から流れ出た日野川が大山の山麓を縫って流れ下り、この淀江の地で日本海に注いでいる。伯耆の国の母なる川にふさわしい大河である。

この日野川沿い 大山の西山麓 伯耆溝口は古代の一大製鉄基地であったことがわかってきた。

この伯耆溝口には、古代たたら製鉄 製鉄技術を持った渡来人と大きな関わりを持つ「鬼伝説」が伝えられており、同時に鉄滓が出土する古代製鉄群が発見されている。

渡来人と強い関わりのある四隅突出方墳墓群・大量の鉄製品の出土そして一大製鉄基地の存在を示す製鉄遺跡群。これらは古代早くから伯耆の国に製鉄の技術が伝来し、それを基礎にした「鉄の一大王国」があったことを示している。娘が嫁いで 米子に住んだのを機会に幾度となく、この淀江の地を訪ね、鉄を日本にもたらした渡来人 古代伯耆の王国に思いを馳せた。

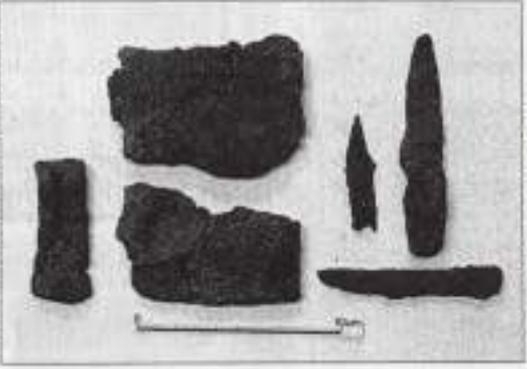
2000.3.25. by M.Nakanishi

### 参 考 鉄器登場 朝日新聞 夕刊

日本の原像 第9部 鉄器登場 ③

## 日本海沿岸に続く「道」

東本願寺遺跡より少し前、奥に延びた山を登ると、山頂に建てられた日野川製鉄群から、二百メートル以上の高さで、山頂と山麓を結ぶように、長さ約五十メートルの鉄器が出土している。このほか、東本願寺遺跡から、鉄器の出土品が、約五十メートルの長さで、山頂と山麓を結ぶように、長さ約五十メートルの鉄器が出土している。



この大規模な製鉄群は、長さが二メートルの鉄器や、ヤリガンテ、タガネなど、製鉄、鍛冶、鋳造技術による製鉄が盛んに行われていた。製鉄の土壌層は、約五十メートルの長さで、山頂と山麓を結ぶように、長さ約五十メートルの鉄器が出土している。



この大規模な製鉄群は、長さが二メートルの鉄器や、ヤリガンテ、タガネなど、製鉄、鍛冶、鋳造技術による製鉄が盛んに行われていた。製鉄の土壌層は、約五十メートルの長さで、山頂と山麓を結ぶように、長さ約五十メートルの鉄器が出土している。

この大規模な製鉄群は、長さが二メートルの鉄器や、ヤリガンテ、タガネなど、製鉄、鍛冶、鋳造技術による製鉄が盛んに行われていた。製鉄の土壌層は、約五十メートルの長さで、山頂と山麓を結ぶように、長さ約五十メートルの鉄器が出土している。

山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -

## 5.2. 「古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡」

・鳥取県淀江町・大山町・

mkbnda1print.htm by M.Nakanishi April,2000



妻木晩田遺跡は鳥取県大山町と淀江町にまたがる丘陵にある弥生時代後期(いまから2000年～1700年ほど)を中心とする大集落遺跡群です。

16ヘクタールの調査区で、800軒をこえる建物からなる大規模な村と、山陰地方独特の四隅突出墓 21基もみつかりました。



四隅突出墳丘墓



遺跡から弓ヶ浜



遺跡から日本海

この地域は、大山の北なだらかな斜面の先端部、日本海に面する淀江町の東の丘陵地帯にあり前面には古代に淀江の潟湖があった淀江平野、さらにその向こうには広大な日本海が広がる大陸との交通の盛んであったところで、周囲の山には古墳が多く築かれ、またその東部には壁画の断片が出土した淀江廃寺・真名井の泉と呼ばれる白鳳時代から絶えることのない大山の湧水がある白鳳の里があり、古代から開けた王城の地の一つです。

### 妻木晩田遺跡 鳥取県淀江町・大山町



妻木晩田遺跡は洞ノ原遺跡、妻木山遺跡、妻木新山遺跡、仙谷墳墓群、松尾頭遺跡、松尾城遺跡、小真石清水遺跡という7つの遺跡の総称で、遺跡の範囲は調査された部分だけで約16ヘクタール、吉野ヶ

里遺跡のほぼ4倍の広大な遺跡です。

それぞれの遺跡は住居が密集する地域、倉庫の密集する地域、広場、祭殿や有力者の館のある特別な地域があります。判明しているだけで、竪穴住居358軒、掘立柱建物355棟があり、また四隅突出墳20基も見つかっています。



妻木晩田遺跡と 吉野ヶ里・池上遺跡の比較

これらの遺跡は丘陵一帯に分布し、それらがひとつずつ別個の役割を持っていたと見られ、それがひとつの王国ともいふべき集合体を形成している点で、従来の弥生遺跡観の見直しを迫る重要な遺跡です。いままで発掘された弥生の集落は、吉野ヶ里遺跡など従来の弥生遺跡では、環壕の外側つまり、集落のそとに重要な倉庫群が発見され、不思議に思われていましたが、この妻木晩田遺跡のあり方から見て、弥生の集落はもっともっと広大に広がっていた可能性が出てきました。

吉野ヶ里遺跡をはじめ池上曾根遺跡にしても、今想像されているより広大な規模の集落であった可能性があります。

妻木晩田遺跡は、弥生時代における日本海沿岸部の様相を知りうる遺跡であると同時に、わが国における弥生の集落観の見直しという問題を提起した重要な遺跡です。

またこの遺跡は今日まで一切破壊を免れてきて、約二千年前の弥生の原風景をすべて見ることのできる希有の遺跡でもあります。

妻木晩田遺跡 インターネット ホームページより

この遺跡の居住域からは、200点を超える鉄器が工具・農機具を中心に発掘され、日本海側では群を抜く多さです。

また 鋳造品も含まれ、直接・間接的に大陸から持ち込まれたものも多いと想像されており、この地域が鉄の集散地として 大陸や日本各地と強い交渉力を持つ一大拠点であったことがうかがえます。

「鉄と四隅突出墳丘墓」に代表される大陸からの渡来人と既に日本にいた人達が出合い、融合して王国を築いて行った「鉄伝来の道 Iron Road」が見て取れる重要な遺跡でもあります。

(「発掘された日本列島'99」より 千葉県松戸博物館 2000.1.21.)



古代山陰の製鉄遺跡群



妻木晩田遺跡出土鉄器製品

私をはじめ妻木晩田遺跡のある丘陵に登ったのは 2000年1月の冬の午後。あたり一面銀世界。妻木晩田遺跡も遠望する淀江平野も白銀の中にすべて埋もれていました。

周囲の森の中に囲まれて細い白い道で点々とつながる真っ白な丘と雪から頭を出している切株とが妻木晩田遺跡であることを示していました。

丘から丘へ本当に広大な村があった事が実感されます。

環濠や一つの丘の上に独立してある小さな村との弥生集落からはほど遠い広大な集落群である。

高い丘の上に立つと眼下の雪の平原の向こうに島根半島の山々と真っ青な日本海が広がり、大陸へとつながる道が見て取れました。季節は違いますが、丁度青森「山内丸山遺跡」もこんな風でした。



森に囲まれ、大山の姿は見えませんが、大山に向かって南へこの丘を抜けて行くと大山の山裾の谷間には点々と続く古代伯耆の国の大製鉄地帯「伯耆溝口」。

古代鉄の渡来人もこの森の中を抜け、大山の山麓へ散っていったに違いない。また 大山山麓の各地で精錬された鉄がこの地に運び込まれ、日本各地に運ばれて行ったであろう。

はるか西の大陸・幾多の弥生人が日本海を向いて整然と眠る土井が浜 ・出雲・奥出雲の国東をみると丹後・越の国 そして この弥生よりももっと古い縄文の王国「津軽 山内丸山遺跡」南には 大山の山合を縫って 吉備の国 そして畿内へと... 。

根拠はないが 鉄と共に古代人が歩いたと想像すると楽しくなる。

真っ青の空の下 誰もいない白銀の遺跡で一人足跡をつけ、楽しんで帰りました。

## 冬の妻木晩田遺跡 2000.1.29.

mkbnda2print.htm by M.Nakanishi



米子から 雄大な雪の大山を眺めながら、higy way を東へ約 10 分 日野川を渡ると雪原がひろがる淀江平野。 大山・溝口・津山へ曲がる米子道をやり過ぎすと雪原の向こう大山の山裾に帯のように黒くつながっている丘陵とその前に大きな櫓が見えてくる。 白鳳の里と古代の古墳群のある丘陵地帯である。この丘陵のひとつが妻木晩田遺跡であり、その西には淀江廃寺のあった丘が連なっている。この丘陵へばりつくように、古代から栄えた妻木・淀江・真名井の里がつながっている。



淀江のインターで下り、南へこの丘陵に向かって突き進む。淀江高校の横の山合の道を丘の中に突き進むと妻木晩田古墳の丘陵である。 ほどなく妻木晩田遺跡への上り口を上がると森に囲まれて幾つもの平坦な丘が雪にうもれている。丘を取り囲む樹木の緑と雪原 静かな「妻木晩田遺跡」である。



小高い山之上に「弥生の森」の看板が見える。誰もいない雪原の雪の上に足跡をつけながら遺跡の中心部に入っていった。小高い丘へ登って行くとそこからは淀江平野の向こうに日本海が広がっていた。

『日本誕生』の前夜 鉄とともに大陸からやってきた渡来人がつくったと想像する弥生の大集落。鉄の集散の一大拠点として、多くの人がこの丘にやって来たに違いない。

『山陰・伯耆の古代鉄の王国・妻木晩田遺跡』は雄大な伯耆富士を背に日本海と弓ヶ浜をみおろす小高い弥生の森の雪にひっそりとうずもれていました。



**雪に埋まる妻木晩田遺跡**

山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -

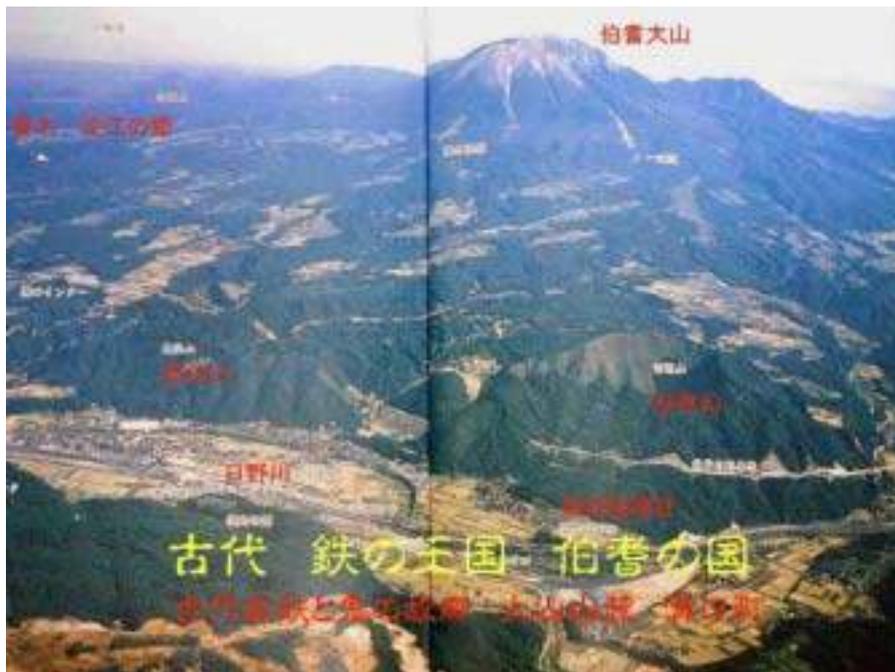
### 5.3. 溝口 鬼伝説と伯耆の国の製鉄地帯

・日本最古の鬼伝説から・

2000.3.10.

孝霊天皇 鬼伝説 伯耆 溝口

mzgciprint.htm by M.Nakanishi



大山山麓の「伯耆 溝口」は古代伯耆の国の一大製鉄地帯。

中国山地の山奥から流れ出て大山の山麓を縫い日本海へ流れ出る日野川。この日野川が大山の山裾から平野部に出る山合が伯耆溝口。この日野川沿いの山中は砂鉄の宝庫。

この溝口の地では古代から、この川や山中の砂鉄と山中の樹木を焼いて作った木炭を使って、製鉄が広く行われてきた。

この山間の溝口を抜けるとそこは大山をバックに日本海まで、淀江・妻木の平野・丘陵が大きく広がっている。この淀江の地は古代より、大陸から多くの渡来人がやって来て栄えた王城の地。

大山の山裾の丘陵地帯の前に広がるこの平野部は 古代広々とした湖が日本海に通じていたという。この大山山麓の丘陵地帯に古代からの数々の遺跡・古墳が眠っている。かつては大陸から数多くの人達が淀江の湖を通してここに新天地を求めてやって来た。

稲作・鉄の技術も大陸の多くの文化とともにこれらの人たちと一緒にやって来た。

妻木晩田弥生遺跡そしてその後の白鳳時代に続く数々の古墳群・淀江廃寺遺跡みんなこの丘陵の上にある。

白鳳の郷と呼ばれる古墳群のひろがる丘陵の上に立ったのは 梅雨の6月の朝。

眼前には緑一色の田畑がひろがり、その向こうには真っ青の日本海・島根半島の山々が霧雨に煙っていた。丘の下の里には きれいな湧き水が音を立てて流れ、水車がまわる水の里。

王城の地は今は本当に静かな日本の原風景。

## 孝霊天皇 鬼伝説 伯耆 溝口 ・楽楽福神社 古文書より・

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。

この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を奪って人々を苦しめていました。これを聞かれた孝霊天皇は、みずから軍勢を率 いて鬼住山の南のこれより少し高い笹苞山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治されました。

天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹巻の団子を献上し、士気が大いに上がったといひます。

それで、この山を笹苞山(さすとさん)と呼ぶようになりました。

鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。

兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。

ある晩 眠っている天皇に「笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を遅い退治出来るでしょう」とのお告げがあった。これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して、舞いあがった笹の後を追ひ、鬼退治に向かいました。

笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべも無く、麓に逃げて降参 しました。

人々は大変喜んで 麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。

これが楽楽福(ささふく)神社のいわれです。

### 淀江平野と白鳳の郷



鬼伝説はこの製鉄技術と関わった渡来人と深く関わっている事が日本各地の多くの事例で良く知られている。この溝口の『鬼伝説』も同様に古代製鉄 製鉄技術をもたらした渡来人と深く関わっている。古代の伯耆国の大製鉄地帯「日野川・溝口」につながる淀江の地は古代日本の大陸への前線基地。そこには大陸との密接な交流から生まれた縄文・弥生の妻木晩田遺跡・白鳳の淀江廃寺と続く独自王国勢力と大和朝廷の勢力との何らかの交渉があったに違いなく、この『鬼伝説』がそれを伝えているのかも知れない。

淀江の湖を通過してやって来た渡来人が日野川の砂鉄と出会い自分達の持っている製鉄技法を発展させ

て行った。鉄と炭を求めて 大山の山中に入っていったに違いない。

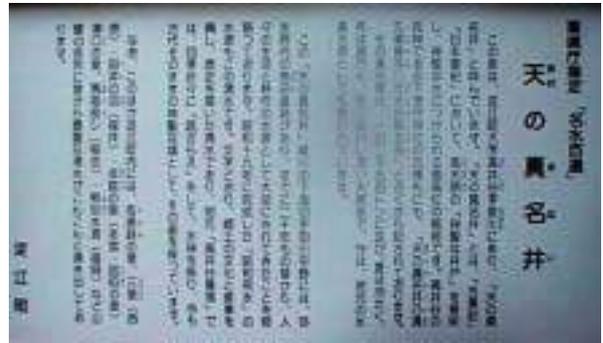
楽楽福(ささふく)の「ささ」は「砂鉄」を「福」は「吹く」と関係があるといわれ、「たたら」製鉄との関係つまり、鉄の技術を持ってやって来た渡来人と先に定住した農耕の民との争いの様相が色濃く見えます。しかし、稲作の鉄の鍬なくしては発展しなかったであろう。このような産鉄の民が日本の到る所で「鬼」としてえがかれている。

時の権力者は鉄を得て、さらに巨大になって行ったに違いないのにそれを支えた産鉄の民が「鬼」とはいかにも理不尽に思う。

もっとも、やはり古代津軽の製鉄地帯であった岩木山山麓の村には、鬼が村の開墾の水路を一夜にして作ってくれたとして 節分には「福は内鬼は内」と祝う村もある。

また 伝説の大男 映画「もののけ姫」に登場した「ダイダラボッチ」も「たたら製鉄」と関連づける説もあり、この時には「ダイダラボッチ」は村人を助けるユーモラスな大男と描かれることが多い。

## 淀江廃寺 & 真名井の泉



また、この溝口の鬼伝説には異説があって、この鬼退治を姫を母とする孝霊天皇の皇子『鷲王』であるとも言われている。この妻木の地が大陸からやって来た鉄の渡来人と深く関係づけられる妻木晩田弥生集落遺跡の地であることを考え合わせると、この鬼退治伝説の主人公 孝霊天皇やその皇子『鷲王』が大陸からの渡来系の人達であるとの説も一層真実味を帯びてくる。

妻木晩田遺跡や古代の古墳が広がる白鳳の郷の丘に立って、日野川沿いに広がる淀江平野から日本海を眺めると日本古代の想像がどこまでも広がって行く。

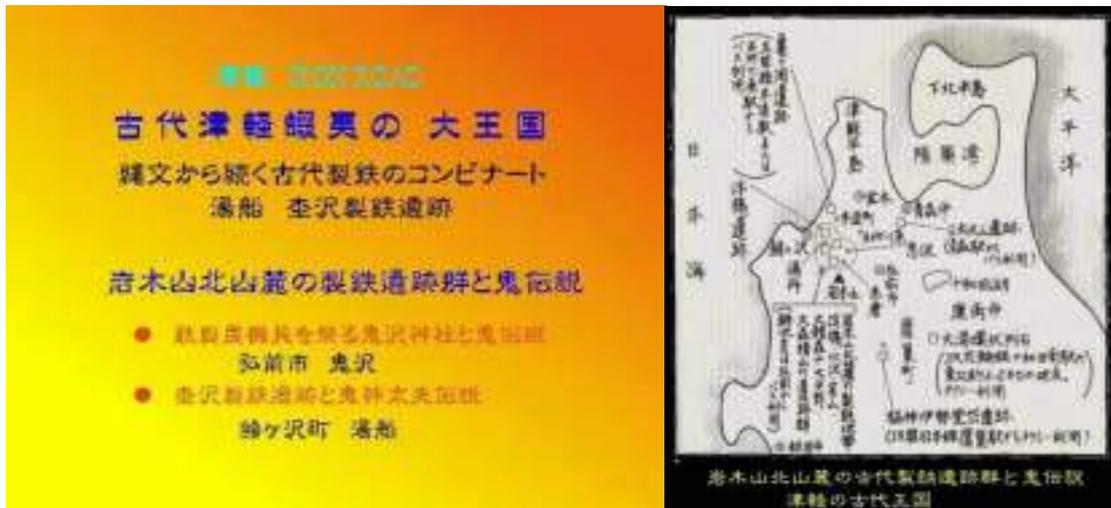
鉄の産出地帯「溝口」の古代鬼伝説が、古代この地で栄えた「伯耆 鉄の王国」を支え、日本誕生に大きな影響を与えた事を伝えている。

山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -  
『鉄の伝来をもたらした古代 山陰 鉄の王国の出現』

〔完〕

## 岩木山北山麓の製鉄遺跡群と鬼伝説

tgruoni.htm by M.Nakanishi 2000.3.5.



- 6.1. 鬼伝説と古代製鉄
- 6.2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
- 6.3. 空沢製鉄遺跡群 鱒ヶ沢町湯船 と「鬼伝説」
- 6.4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湊



【岩木山から津軽半島から北海道を望む】 【北海道側から十三湖・七里長浜・岩木山を望む】

岩木山の頂上から 北を見ると眼下に、点々池・湿地が広がる広大な津軽平野「北のまほろば津軽の王国」が望める。北山麓には鬼伝説をもつ古代一大製鉄基地 鱒ヶ沢から弘前の幾多の沢筋がひろがっている。その向こうには、広々と開けた平野部が広がり、数々の縄文遺跡がある森田村そして五所川原・弘前・青森の市街の東西のベルトが伸び、陸奥湾を望む青森のはずれには、縄文の巨大都市山内丸山縄文遺跡が見える。

その奥の津軽半島に目を転じると日本海にそってまっすぐに北に伸びた砂鉄の浜『七里長浜』が見える。その海岸の湿地帯・池塘群の丘には亀ヶ岡縄文文化と呼ばれる縄文遺跡がちらばり、その奥には中世安東氏の繁栄を支えた貿易港 十三湖・十三湊が見え、竜飛岬を隔てて北海道 かつてのオホーツクの王国の地が見える。

津軽へ初めて行って<もう 30 数年経つが、何時行っても新しい発見の有る津軽。

原色と太い線で描かれるあの躍動感あふれるねぶた絵とねぶたのリズム 津軽三味線の響き 恐山

のイタコ。そして、地吹雪までも観光資源としてしまう。古代からの津軽王国の歴史が今も続く活力のある地域である。

津軽へ初めて行って もう 30 数年経つが、何時行っても新しい発見の有る津軽。しかし、日本書紀によれば、この津軽の蝦夷と大和朝廷軍とは戦闘を交えたというよりも、和睦によって、大和朝廷の支配下にはいったものであると言われる。

独自の文化をもった勢力圏 津軽王国が弥生時代～中世までずっと独立性を保って存在してきたという。

弥生時代後半から 6,7 世紀にかけて、大陸・朝鮮半島からやって来た渡来人技術集団によって伝来した鉄器・製鉄技法が日本で活発に取り入れられ、製鉄も行われるようになり、それらを手に入れた各地の王国 文化圏が日本統一をめざして覇を競い、その中から大和朝廷・日本が誕生した。

そして日本の大半を統一し、東国毛野・常陸国まで進出してきた大和朝廷は 8～9 世紀初には、東北部蝦夷征伐に乗りだし、大量の鉄製武器が動員された。

既に紹介した福島県原町に存在する製鉄遺跡群はまさに大和朝廷蝦夷征伐の兵器庫として隆盛を極めた大製鉄遺跡である。また、畿内河内の古市台地の大製鉄遺跡群をはじめ、京都府丹後半島弥栄町の製鉄遺跡群 吉備・出雲・そして伯耆など中国山脈各地や九頭竜川流域の越の国など日本各地の製鉄遺跡群もこの時代隆盛のひとつのピークを迎える。

大陸からつながってきた『鉄の道・Iron Road』が日本誕生を演出した流れである。

話を津軽に戻すと『鉄の道・Iron Road』は古来早くから、日本海 海路 津軽にもつながっており、日本列島の北の端で大きな独自文化圏を築いてきた。ただ、日本・大和朝廷の敵方勢力圏から外れていた為、北海道と同様 未開の土地と切り捨てられていたにすぎない。

事実 岩木山北山麓が古代の大製鉄地帯であったことが その地帯に伝わる鬼伝説と多くの製鉄遺跡群によって判ってきている。



津軽 鬼の故郷 岩木山と岩木山神社

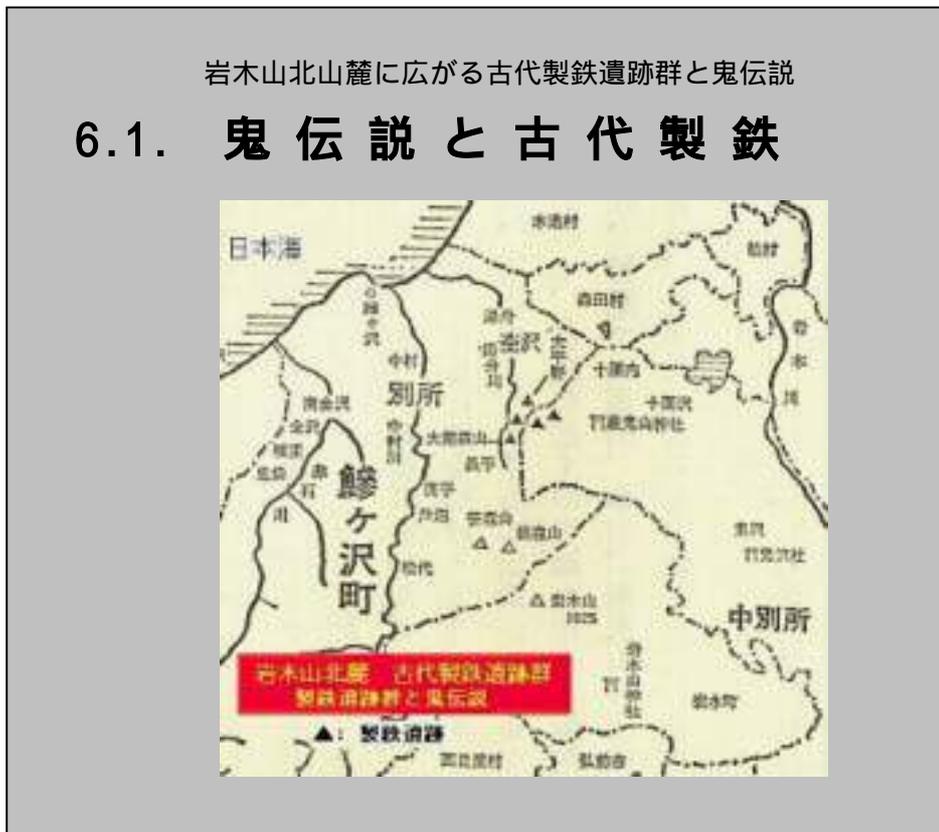
この製鉄遺跡から発掘される炉の構造が、この時代大和朝廷の支配下にあった製鉄遺跡の炉とは少し異なっており、伝播の道が少し違っていると言われている。また、柴田弘武氏らの本によるとこれら鉄の技術を持った東北の集団がその後の時代に俘囚として、日本各地でたたら製鉄に従事し、たたら製鉄の伝播に大きな役割をはたしたことが示されている。当時 奥州・津軽の製鉄技術の優秀性が大和朝廷でも認められており、完全に津軽を征服しなかったことと合わせるとあまりきっちりとした証拠は見されていないが、津軽に巨大な鉄の王国があった。証拠であろう。

昨年秋、津軽を訪問し、岩木山に登り、縄文文化の花開いた津軽半島西海岸を歩き、鉄の痕跡を探した時にはその痕跡は見つけれなかった。しかし、山内丸山遺跡・亀ヶ岡縄文文化のスケールにふれ、また、「ねぶた」のあの山車の迫力、そして 現代の青森の明るさとエネルギーに圧倒され、ここにも古

代日本誕生にかかわった「Iron Road」が伸びていると想像していた。

岩木山の北麓一体が古代の大製鉄遺跡群であり、また、製鉄と関係深い「鬼伝説」の伝わる土地であることを知ったのはつい最近であり、いつも津軽王国の存在を意識していたものの、製鉄遺跡の存在を知り、また、じっくりと岩木山麓を歩いたことと合わせ、やっと津軽 鉄の王国『津軽鉄の道・Iron Road』の存在が実感として結びついた。

雪が消え、暖かい花の季節には、是非 この岩木山北麓に広がる古代製鉄の地を訪ねたい。



岩木山から岩木山北麓にかけての一带では、多くの鬼伝説が伝承されており、同時に古代の大製鉄遺跡群や鉄滓が数多く発見されている。鬼伝説と古代製鉄遺跡との関わり合いは日本各地で見られ、鬼伝説の有る所 かならずや古代製鉄と何らかのつながりがあったことが、製鉄遺跡や鉄滓の発掘や地名等から判って来た。吉備の桃太郎伝説 丹後の大江山鬼伝説 伯耆の国大山山麓溝口の鬼伝説 北上山地地・一関の鬼伝説 そして津軽岩木山北山麓の鬼伝説などいずれも古代製鉄の技術を持って渡来した産鉄の民との関わりが深い。

この伝説に登場する「鬼」とはいったい誰か？。

製鉄の民が真っ赤な顔をして、髪を振り乱しながら鉄を打っている様子が鬼と映ったのかもしれない。製鉄には鉄を精錬するための炉の場所として、風が吹きあがる谷間や山すそが必須であり、大量の炭の必要から森林の伐採が必要で、製鉄炉が築かれると山が丸裸になってしまう。鉄生産に付随した森林の大量伐採と 砂鉄・鉄鉱石採取のための山を切り崩しと川流し等による山の荒廃により起こる自然災害により、農耕の民との争いもたえなかったと想像される。山深く入った産鉄の民は山と里人との争いを通して 山の民=「鬼」 悪者として描かれるこ

とが多い。しかし、時には里に下りてきたこの産鉄の民が開墾を促進し「開拓の祖」と善者にもなった。これらが鬼伝説として、また 地名として今に伝えられている。

一昨年 大ヒットした映画「もののけ姫」の記憶は新しい。

また、各地に残る大男「ダイダラボッチ・ダイダラ坊」の伝説や「河童」伝説も産鉄の民・渡来人との関わりがあるとの説があるが、よく判らない。

## 6.2. 岩木山北麓 鬼沢「鬼神社」と「鬼伝説」 弘前市 鬼沢



鬼神社 社殿 多数の農耕具献額を掲げた鬼神社正面 農耕具の献額

弘前市から岩木山を左手に見ながら鱒ヶ沢町に向かう県道を行くと「鬼沢」という地名が見えてきます。この集落には、「鬼神社」があり、鬼が御神体として祀られ、農業の守護神として地域の人々の信仰を集めています。この地の鬼神社には、『山から下りてきた鬼が、一夜にして荒地に一大水路を作り上げ、農耕の民の開墾を助けた』との鬼伝説が伝わっています。2月の節分、この地域の人たちは今も「鬼は内、福は内」と言い、鬼を悪者ではなく、自分達の守護神として祭っている。

鬼神社のご神体は鉄滓を数個積上げたもので、古くから石の仏様として大事に祭られてきたという。また、神社拝殿正面の頭上には奉納額が並んでいるが、それら全部が全部、農耕具だというのが非常におもしろい。

このように鬼沢神社はこの地が古くからの製鉄地帯である事を含め、鉄との関わりが非常に深く、これがまた、『鬼伝説』とも結びついている。

岩木山にいた沢山の鬼たちが山麓に流れ出る赤倉川の流域に移り住み、この鬼沢の鬼もこの赤沢の鬼が下りてきたといわれている。岩木山から赤倉に下って行く途中には 今も「鬼の土俵」などの地名が残っている。

赤倉の山にいた製鉄の民が真っ赤な顔をして、髪を振り乱しながら鉄を打ち、農具を作っている様子が、村人には鬼と映ったのかもしれない。

### 津軽 岩木山麓 鬼沢に伝わる「鬼伝説」

青森県 弘前市 鬼沢

昔々このあたりはやせた荒地で、作物の実りはきわめて悪かった。そこへ、岩木山の赤倉から下りてきたという鬼が現れ、せっせとこの荒地を耕し始めた。村人達は、これを見て、ただの鬼ではないと思

い、開墾の困難と農業用水の必要を鬼に訴えた。すると鬼は、それでは力を貸そうと言ったきり、姿を消してしまった。翌朝になって村人たちが行ってみると荒地には、一筋の水の流れが勢いよくほとばしっているではないか。

村人たちは、さっそくその水を田に引き、以後、その水は干ばつの時も決して枯れることはなかったという。

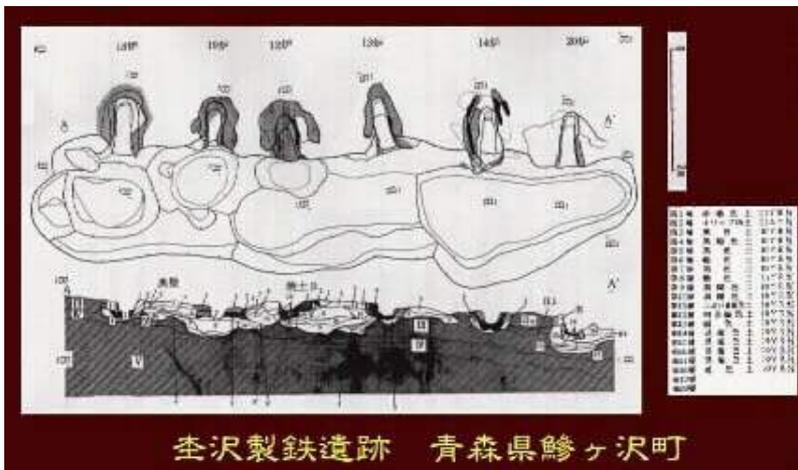
村人たちは、非常に喜んで、鬼に感謝するため、神社を建立して「鬼神社」と名づけ、村の名前も「鬼沢」としたという

### 6.3. 空沢製鉄遺跡群 鱒ヶ沢町湯舟 と「鬼伝説」



青森県鱒ヶ沢町から南に広がる岩木山北山麓の一带は鬼神伝説を持つ古代から続く一大製鉄地帯の中に、鱒ヶ沢湯舟で発見された空沢製鉄遺跡がある。

数基単位で整然と並んだ製鉄炉跡 134 基とともに鉄滓・羽口や炭焼がまなどが発見された。



空沢製鉄遺跡 青森県鱒ヶ沢町

【青森県鱒ヶ沢町 教育委員会 資料より】



傾斜地の斜面に長さ 1m 前後 幅 50cm 弱 高さ 30cm 程度の製鉄炉が数基づつ整然と並び、その前にこれらの前庭部には共用される廃滓ピットと作業場がある。

このような一連の製鉄炉をもつ製鉄場が 9 群 total 30 数基の製鉄炉などが発掘されている。

大半が、10 世紀平安時代の製鉄炉遺跡であるが、このような小型の製鉄炉が整然と並び製鉄場を基本とする製鉄遺跡は、同時代日本中央に見られる製鉄遺跡にはない独自の形式を有する遺跡である。

また この一帯は縄文時代から続く製鉄地帯であり、数々の縄文遺跡もあり、本遺跡も古い製鉄遺跡の上に築かれていることから、この地での製鉄はもっと時代を遡れるといわれている。

このように独自の形式を持つ製鉄遺跡が発見されたことからこの地が古くからの津軽蝦夷の王国を支えた一大製鉄基地と考えられる。

## 湯舟の鬼神太夫伝説

鯉ヶ沢町



湯舟 中央の杉木立の上にお宮がある

### 湯舟 湯舟神社

昔 鬼神太夫(鬼)と呼ぶ剛力の刀鍛冶がいました。

桂山の刀鍛冶長者の娘を愛して、娘をくれるようにと申し込んだ。

困った長者は一策を案じ、一晩の内に拾腰(本)の刀を鍛えたら娘をやると約束した。

すると、鬼神太夫は一晩の内に、全部刀を鍛えて持ってきたが、

長者が一本盗んで鳴沢川に捨ててしまった。

それで、鬼太夫は刀が一本足りず、娘を貰えずあきらめて、

「十腰無い十腰無い」とつぶやきながら、さびしく去っていった。

それで、それ以後この地を「十腰無い」がなまって「十腰内」というようになった。

その後、鬼長者の妹娘と結婚した鬼神太夫の弟が、ある日のこと

鍛冶場の片隅に残っていた玉鋼を見つけ、刀鍛冶の兄が打ったものであると打ち明け、

その玉鋼を氏神として八幡様に祭った。

長者が亡くなる時姉娘には形見として湯舟(鉄を冷やす水を入れた船)をやり、

分家させた。また、妹娘には金敷(鉄を打つ台)をくれた。

それが湯舟村 金敷村の起こりとなった。

また、長者が刀を捨てた刀が浮いた所を「浮太刀」と言うようになった。

今の「浮田」である。

なお、鬼神太夫の打った刀の一本が今も岩木山 巖鬼神社に祭られているという。

「ふるさと あじがさわ」より

増補 蝦夷と製鉄遺跡の発見

一地名も伝説も鉄づくめ——岩木山ろく一帯

製鉄史の研究をしている「たたら研究会」（本部・広島大学）の穴沢義功委員によると、古代の製鉄炉の数はこれまで岡山県内の遺跡（古墳時代）の五十九基が最高、製鉄技術が普及発展した奈良・平安時代では本沢遺跡が最多になる、という。しかも、同遺跡では、古いものを焼した上に新しい伊を築いており、相当の長期間、鉄を生産していた、とみられる。

岩木山ろくには製鉄遺跡が多い。本沢遺跡の南約四キロの鯉ヶ沢町・大平野遺跡と大前森山遺跡からは平安時代の製鉄炉跡がそれぞれ、三、四基出土。山ろく周辺の森田村や五所川原市では、鉄を加工する鍛冶場が多数見つかった。

しかも、山ろくは砂鉄の産地。鯉ヶ沢町の郷土史家、坂井冬樹さんによると、二十年ほど前まで、赤ん坊の頭大の金葉（かなくそ）製鉄したあとのクズ（くず）が山中にゴロゴロころがっていた。鉄が不足した戦時中は、本沢遺跡近くの鳩沢駅から貨車で搬出するほどだった、という。

鯉ヶ沢町内には、鉄にちなんだ地名が多い。同遺跡がある地区の地名「湯舟一」は「熱した鉄を冷やす水の入った舟」。隣接地区の「小塚敷」は「金敷」（鉄を打つ台）が転じた、とされる。刀鍛冶の若者を取り上げた伝説「鬼神太夫」。遺跡近くの神社のご神体は、巨大な鉄の塊……と鉄づくめなのだ。

平安時代、坂上田村麻呂らが蝦夷を征討し中央政府の勢力圏は次第に北上したが、東北北部は帰還せず蝦夷の反乱や、陸奥の豪族・安倍氏と中央から派遣された東國の武士団の衝突（前九年の役）など戦乱が相次いだ。岩木山ろく一帯の「製鉄コンビナート」が、武器や農具に使われた鉄の、北日本における供給源だった可能性が高い。

## 空沢製鉄遺跡の特徴

中央と違う炉の型、高い生産力をしめず  
平安時代の「製鉄コンビナート」が八日までに岩木山ろく・西津軽郡鯉ヶ沢町湯舟の本沢（もくさわ）遺跡で見つかった。付近には製鉄・鍛冶（かじ）の遺跡のほか、鉄にちなんだ伝説、地名が多い。今回の発見は、岩木山ろく一帯が当時、「蝦夷（えみし）の地」だったとされる東北北部の鉄生産の「拠点」の一つで、北日本の鉄製品の供給源だった可能性を強く示している。

発掘調査に当たった東北文化財調査センターによると、製鉄炉、木炭窯、鍛冶場、住居、それに戸の跡といった「製鉄工場」と工人たちの生活の場がまとまって出土したのは、県内では初めて。二十三基前後の炉跡はトンブ相の斜面の土を掘り出してつくられていた。

今回発掘された製鉄工場遺跡の範囲は、東西約三十メートル、南北約百二十メートル。南側に製鉄炉群が六列並び、さらに燃料を生産する木炭窯跡が三基あった。北側には、十九棟の住居と三基の鍛冶場を配置。製鉄炉群の斜面の上方には相い構、住居部分の南方には幅三メートルの大きな溝が走っていた。相い構は製鉄炉への水の侵入を防ぐためのもの、大きい溝は防衛用だった可能性があると、としている。

多い製鉄や鍛冶の遺構

- 空沢遺跡 製鉄炉跡調査報告
- 青森県 鯉ヶ沢町 教育委員会送付資料
- 鯉ヶ沢 鬼伝説資料
- 青森県 鯉ヶ沢町 教育委員会送付資料
- 「謎解き日本古代史の歩き方」
- 彩流社
- 柴田弘武著 「鉄と俘囚の古代史」
- 彩流社

### 6.4. 中世 津軽安東氏の拠点 十三湊

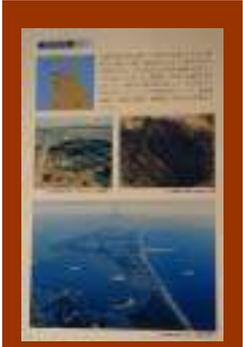
・活発な国内各地・大阪との交易 & 鉄の積出・  
[jyusanprint.htm](http://jyusanprint.htm) by M.Nakanishi 2000. 2. 22.

十三湊は十三湖と日本海にはさまれた砂州上に発達した港町。鎌倉時代には既に港町が存在し、室町時代には安東氏の居所としても大いに栄えた。

「津軽船」と呼ばれる船便で中央と結ばれる一方、当時の最北端の港として、北の世界とつながるターミナルとしての役割をはたし、中国との交易をはじめ、国内外の物産がこの地に集まった。

輸入陶器や安東氏の館跡や町屋などが発掘されている。

縄文時代の一大文化圏として脚光を浴びた津軽がその後大和朝廷の支



配下に入ったものの遠く未開の土地として、歴史の世界からは消えてしまう。  
大和朝廷の影響の及ばない中で、独立の勢力として文化を育ててきたとおもわれる。そして、中世 安東氏の日本海交易による繁栄により、世界の物産が集まる大交易港湊町として脚光をあびた。  
またこの時代 鉄の積み出し港としても栄え、津軽岩木山周辺の古代製鉄の流れが連綿と引き継がれ、この時代においても 津軽が製鉄の大基地であり、安東氏の勢力もこの鉄の生産によるとも言われている。

私が昨年秋、再度 十三湊を訪れたときには、台風の嵐の中。

荒れ狂う日本海に抗して砂州がひろがり、その内海・十三湖 十三湊では数多くの船が嵐のおさまるのを待っていた。天然の良港である。

日本海の荒波と風が吹きすさが北の端にあって、十三湊の繁栄の理由が判ったような気がした。

もっとも、十三湊はその後の大地震と日本海が吹き寄せ体積する砂によって 浅くなり また放棄され、現在ではひっそりとした津軽の一漁 港となっている。

本年 1 月 千葉県松戸市の博物館で催された『日本列島発掘'99』展で昨年 発掘調査された十三湊旧跡から出土した数々の物産を見た。中国の磁器はじめ、日本各地の品物が広くこの北の端の十三湊に集められ、また各地に散って行く。出土品の多用さと豪華さから、当時の十三湊の繁栄振りがよく判かる。



十三湊遺跡より  
発掘された公益品の数々



「発掘された日本列島展」より 松戸博物館

## 6. 古代津軽 北の鉄の大王国【1】

岩木山北山麓の製鉄遺跡群と鬼伝説

〔完〕

7.

## 『 秋田・青森 縄文 の ストーンサークル 』 探 訪

・ 縄文人の心を考える これも iron road -  
oyu0print.htm 2000.11.1. by M.Nakanishi



秋田県鷹巣 伊勢堂岱遺跡 H12. 9. 15.

秋田県 鹿角市 大湯ストーンサークル	青森県 青森市 小牧野遺跡	青森県 青森市 山内丸山遺跡	秋田県 鷹巣 伊勢堂岱遺跡
-----------------------	------------------	-------------------	------------------

## 【 内 容 】

1. 縄文の心を考える これも「Iron Road」
2. 縄文のストーンサークル
  - a. 「大湯 環状列石群 野中堂遺跡 & 万座遺跡
  - b. 青森市 小牧野遺跡」探訪
  - c. 山内丸山遺跡の「ストーンサークル」と「墓の道」探訪
  - d. 「伊勢堂岱遺跡のストーンサークル」探訪
3. 「縄文人の心を映すストーンサークル」
4. 岩木山北山麓 鬼伝説の郷から 縄文人へ

## 7.1. 縄文のストーンサークル これも Iron Road

この夏 東北芸術工科大 赤坂憲雄教授の講演「縄文人の心を表すストーンサークル」の話に感激。是非その現場に立ちたいと8月「秋田大湯の縄文のストーンサークル」を訪ねたのにつづいて、9月この山内丸山遺跡お月見の会訪問を機会に秋田鷹巣の伊勢堂岱遺跡・青森小牧野遺跡そして一番古い山内丸山遺跡のストーンサークルをも見てきました。

静かな森の中、縄文人の心に触れたいと誰もいない遺跡の中にどっぷり浸かって帰りました。

### 【青森・秋田 縄文のストーン サークル】



青森山内丸山遺跡

青森小牧野遺跡

秋田県鷹巣 伊勢堂岱遺跡

秋田大湯  
野中堂・万座遺跡

津軽・秋田の鬼は「産鉄の民」。

「津軽の赤鬼」「ねぶた」を象徴する「赤」も縄文から繋がる「赤」のながれでは・・・。

何の根拠もないが、心情的に東北に惹き付けられ、せつせと東北がよい。山内丸山のあの櫓を赤に塗ってとイメージしている人達も知りました。発想が根拠を引出してくるのでは・・・。

弥生人が鉄を手にして なんて考えなくても あの縄文のストーンサークルを絆として、平和に暮らしていた人達が或日 鉄を手に入れて・・・。

そこから 時代が激動の世に変化して...そして人間観も変わってきて・.....。

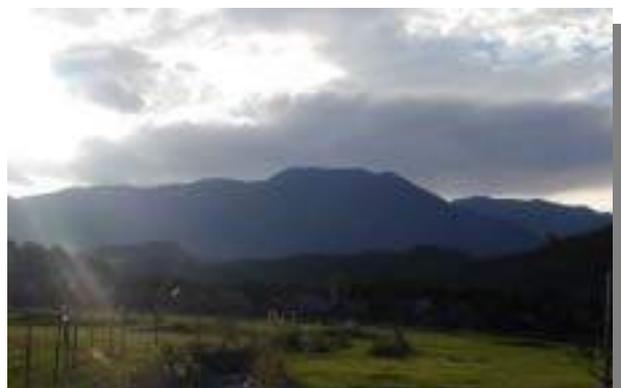
「ストーンサークルが縄文人の心・人間観を映すのなら 鉄が弥生のそしてその後の日本人の人間観を強引に変えて行ったか・・・。」これも時代を介して流れる日本の「Iron Road」。

青森から秋田に広がるストーンサークル・縄文とその後の弥生・産鉄の民遺跡その重なりが日本人の精神構造・多様性の源泉は・・・。

「たたら民」を描いた映画「もののけ姫」の舞台 白神山地が日本海に落ち込む五能線の荒々しい海岸を眺めながらそんな事を考えていました。



五能線 秋田・青森県境海岸



世界遺産 白神山地

五能線の中から 秋田・青森県境の荒々しい海岸を眺めつつ

2000. 9. 17. 夕 by M. Nakanishi

## 7.2. 縄文のストーンサークル walking

### A. 『秋田県鹿角市 大湯 縄文のストーンサークル探訪記』

『野中堂遺跡』と『万座遺跡』

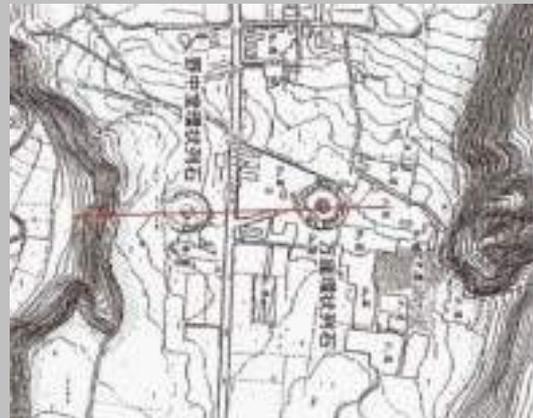


[oyu1.htm](#)    [oyu2print.htm](#)

2000.8.4. by M.Nakanishi

7月の初め、東京で「東北学」を提唱する山形芸術工科大学の赤坂憲雄教授の講演の言葉に深く感銘を受け、是非とも、大湯縄文のストーンサークルの場に立ちたいというのが、今回のwalking目的の一つだった。

「東北を理解するには縄文のストーンサークルに立たねば...」とちょうど「津軽ねぶた」にも抱いていた一種あこがれにも似た気持ちで、まぶしい太陽が照りつける夏の午後 秋田県鹿角「大湯環状列石群ストーンサークル」を訪れた。 2000.8.4.



「穢れ」を知らぬ縄文人・「戦いのない」縄文人のメッセージ。

「縄文人の心を映すストーンサークル」縄文人の意識・人間観が縄文の村の形態を生み、この「縄文のストーンサークル」を作った。

「日本人のやさしさの痕跡がここにあるのではないだろうか...」

また「東北の風土がこれを起点にしているのではないか...」

2000. 7. 7. 赤坂憲雄氏 山内丸山縄文発信の会 東京・縄文塾講演から

## 1. 弘前駅から奥羽本線特急に乗って大館へ

列車は奥羽山脈山脈の中に分け入り、約1時間で大館につく。「大館で花輪線に乗換え十和田南へ」と考えていたが、都合の良い列車無し。特急が留まる駅とはいえ、駅前には本当に閑散としている。時計が止まって一切がストップしているような何とも不気味な感じ。

大館といえば、「秋田まげわっぱ」の中心都市と考えていた私は本当に戸惑った。後で判ったが、街の中心は駅から南へ川を渡った新市街地に移っている。国鉄の駅ではなく郊外や駅ではないショッピングモールなどを中心に展開する新市街地に今の日本の都市の縮図を見る。それが、本当に地方へ行くほどはっきりしている。駅から500mほど先にバスセンターを見つけ、そこからバスで鹿角花輪駅へ行く事にした。それでも約1時間待たねばならない。



【鹿角花輪盆地と米代川 ストーンサークルにはこの川の上流側支流の河原石が使われた】

## 2. 大館から鹿角花輪駅へ

バスは米代川沿いに奥羽山脈の中に分け入って行く。交通の便から言うと本当に山奥である。南側は八幡平の山々 北側は十和田湖や八甲田の山々に挟まれた花輪盆地の中心に鹿角市がある。そして、この盆地の中、花輪線十和田南駅や鹿角花輪駅から十和田湖へ上がって行く途中の高台に大湯ストーンサークルがある。

能代川は大河である。奥羽山脈の中に曲がりくねりながら川と並行してバスは進む。あちこちでアユ漁をしている多くの人達の姿が、まわりの山々の景色とあいまって美しい。自然が主役。そんな中へどんどんバスが入って行く。最も鹿角市 JR 花輪駅近傍は八幡平や八甲田・十和田などへの中心基地として大きな新市街が展開されていた。

恐らく新しいスタイルの観光都市に見えた。

花輪駅からタクシーで約15分。市街地を抜け、八甲田の山々へ向かって幾つかの丘陵地を登った高台が「大湯ストーンサークル」であった。午後3時。雲があるが、真夏の太陽が西の空に輝いていた。

縄文のストーンサークル

## 3. 「大湯 環状列石群 野中堂遺跡 & 万座遺跡」

oyu5.htm



【中堂遺跡】

【万座遺跡】

広い草原の中、北へ八甲田の峰に向かって真っ直ぐ伸びる一本道を挟んですぐ、両側に整備された万座・野中堂の縄文遺跡がある。写真で見なれた日時計状列石と二重の環状列石が配された野中堂遺跡がすぐ傍にあった。道をへだてて、反対側は広い草原であり、その中には沢山の石が環状に配された大きなストーンサークルがある。

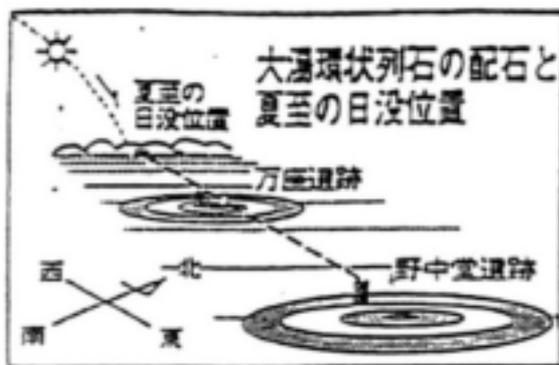
このストーンサークルの向こうに復元された幾棟かの住居が見え、ストーンサークルを中心に広い緑地公園として、整備されている。また、道を隔てて存在する野中堂遺跡では、ストーンサークルの周辺部の発掘調査が進行中であり、竪穴住居跡の存在が期待されているが、まだはっきりしない。

この野中堂遺跡と万座遺跡のストーンサークルの中心やストーンサークルのシンボル日時計状列石はほぼ一直線に並んでおり、この直線上の先に夏至の太陽が沈むという。

早速野中堂遺跡の日時計状列石の後ろにまわって、両遺跡が一直線に並ぶ位置に立って見る。

夏至ではない今の時期では太陽の位置と両遺跡が並ぶ位置とは随分離れているようだ。

しかし、縄文人が太陽の運行をきっちり知っていたというのは事実らしく、現代と縄文時代の地軸の傾きの補正等を入れるとほぼこの仮説は正しいという。



どちらのストーンサークルも内帯・外帯二つの円環状の列石があり、この帯の間にストーンサークルのシンボルと言われる一組の日時計状列石が空に向かってそそり立っている。また、ストーンサークルの環状に積まれた列石は平面で見ると漫然と並べられているようにみえるが、どちらの遺跡もきっちりとした石組を有し、この石組の下からは墓が発掘され、西北西を向いて整然と埋葬されているという。これらストーンサークルの外側には四本柱の建物そして竪穴式住居が取り囲んで整然と建っていたという。

縄文人達は米代川の河原から大量の石をこの丘に運び上げ、この集落の中心にストーンサークルを作り、集落の村人が死ぬとこのストーンサークルで石組みの墓を作り、弔い祭りを行なったに違いない。おそらく村中総出であつたらう。

「死者と共に暮す生活意識」これが、縄文人の特徴ある人間観といわれる。この草原の一角にすわり、かつて在った縄文の村と暮しをイメージする。このストーンサークルは何をイメージし、何を今に語りかけているのか??? 色々の事が頭によぎるが、よく判らない。遠く山に囲まれた森のなかで、ストーンサークルを中心に自然と調和して、穏やかに暮す森の民・集団があつた。それが日本人のルーツ。

#### 4. 縄文のストーンサークルの地に立って



ストーンサークルは何を示しているのか 考えるのは勝手。

実に気分爽快な午後になりました。

このストーンサークルの前に座り、まわりを眺めているこの気分が日本人気質の第一歩。なにか日頃の喧騒から逃れた気分がそうさせるのか実に気持ちが良い。墓場にいるという暗い印象を想像するが、全くそんな気持ちも無し。山々に囲まれた草原の上で自然を満喫。 ついでながら、また、この草原で一人の若者に会いましたが、「神戸から来たと……」

グルット見まわしても 10 人の人影も見えぬこの奥羽山脈の奥 神戸から遠くはなれたこの鹿角の地に神戸の 2 人が入る。全くの偶然であるが、人の動きとは面白い物である。 また、逆にこのストーンサークルには人を惹きつける何かがあると観じた次第。

一度ここに 1 日座っていて、訪れる人達のに「何を求めて 何処から…」と尋ねて見たら面白いと思う。日本人の奥にある何かが見えてくるかもしれない。

「死者と共に暮す」との生活感覚は本来キリスト教など一神教にある感覚といわれる。

多神教ではあまりない感覚といわれる。仏教・神教「ヤオヨロズノ神」の日本の底にまた別の感覚がある。まさに日本そのものの多重性。そんな中であって「ねぶた」そしてこの「ストーンサークル」 また「いたこの口寄せ」といい、何か日本人の琴線にふれるところが東北にはある。

精神的な日本人の気質形成の場に古くストーンサークルが一役買い、根強く今に生きていると考えたい。歴史民俗博物館の辻誠一郎氏のいう「日本の多様な植生がそこに住む日本人の多感多様な気質を育んだ」とすれば、その生活の場としてのストーンサークルが「縄文の生活を通して日本人のやさしさの気質を育てた」のではないだろうか ??

大河米代川を遡り、奥羽山脈の奥深く 白神・八甲田・八幡平の山々に囲まれた花輪盆地の高台の草地にすわりこんで、ぼんやりと一人暮れ行く自然の風景を眺めていると縄文の時代にタイムスリップして、ゆったりとした気楽な気分になる。

何を考えるでなく、約 30 分 万座遺跡の広大な草原にすわってストレス解消の精神浴でした。



この遺跡の草原では今、当時の樹木が沢山植えられ、縄文の森が育てられている。2,3 年先 さらに 10 年近くを必要とするかも知れないが、くり林など深い森に囲まれて、ストーンサークルを中心に復元された竪穴住居が立ち並ぶ縄文の村が静かに待っているかもしれない。

残念ながら、雲が出て 夕日の沈むのを見ることが出来なかったが、暮色が深くなって大湯のストーンサークルから、バスで鹿角花輪駅へ。そして 高速バスで盛岡へ。

気分爽快。初めて見た「山々をバックに立つ日時計状の列石と環状列石群」さらには「津軽岩木山山麓

の原生林の鬼とネブタ」が「静」と「動」として頭の中で駆け巡っている。

奥羽山脈の奥地から流れ出した大河米代川沿いの流域・大湯にも、時代が下ってくると弥生の人々が住み、そして「たたら 鉄」の遺跡があるという。

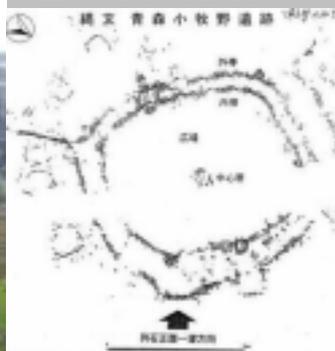
「山が人を呼ぶのか 川が人をゆぶのか 山川あるところ人有り」「IRON ROAD」がここにも通っていました。

2000. 8.4. 盛岡からの新幹線の中で by M.Nakanishi

縄文のストーンサークル walking

## B. 「青森市 小牧野遺跡」探訪

kmkinoprint.htm 2000. 10. 1. by M.Nakanishi



【 青森市 小牧野遺跡 縄文のストーンサークル 】

1. 「青森市 小牧野遺跡」縄文のストーンサークル
2. 「青森 小牧野遺跡」解説小牧野遺跡紹介文より 青森市教育委員会資料抜粋



【青森市 小牧野遺跡 その概要】

## 1. 「青森市 小牧野遺跡」 縄文のストーンサークル walking



小牧野遺跡近傍



小牧の遺跡の位置



小牧野遺跡入口の道標

9月16日 早朝 タクシーで小牧野遺跡を訪ねた。

街の人に聞くと「あそこはバスもなく、車でないと行けぬ」と言われたが、後から考えると丘の下まではバスが走っている。【もっとも 2時間に1本程度で便利の悪いことには変わりなし。】

青森の市街から八甲田に向って タクシーで約 30 分。青森空港のある丘陵と一つ西側の丘陵で、もう青森の市街から外れ、南へ八甲田の酸湯へ向う山裾の丘陵地に小牧野遺跡は存在する。

荒川と入内川に挟まれた丘陵地で、背後に大きな八甲田の山々が見える。野沢の小さな集落で、酸湯へ向う幹道を離れて、人里をから林の中の丘陵へと続く一本道を登り、丘陵へあがったところ一面の畑が続く中に小牧野遺跡への標識があり、その向こうに小牧野遺跡の森が見えた。

早朝朝7時すぎの朝靄の中を一人誰もいない小牧野遺跡の中に足を踏み入ると、山内丸山遺跡の人の列が嘘のように静まり返った森の中に凄い量の石組で作られたストーンサークルが眼に入ってきた。

大湯や伊勢堂岱遺跡のストーンサークルが平板状にストーンサークルが形成されているのに対し、周辺の樹木に包まれて、その特徴ある石組みが少し傾斜をつけて土地を掘り込み、立体的に立て掛けた状態で円環が続いている。



国史跡小牧野遺跡の石碑



日時計状列石



二重の円環の石組

小牧野式石組

円環の右の方には日時計状列石〔山内丸山の岡田康博先生「はひまわり状」という〕が本ストーンサークルの象徴として立っている。ストーンサークルの日時計状列石の右側の周辺部は林になり、丘陵地の崖となって下へおちこんでいるのであるが、この林の中に多数の土坑墓が発掘されていた。

朝靄につつまれ、このストーンサークルの中心にひとり立っていると朝霧がその幕となって「これから始まる一大古代激」を棧敷で待ちうけている感じがしてならなかった。

恐らく 古代には、幾つも並ぶこの丘陵地の何処かで、まだ見つからない集落の人達が、八甲田の山を背にこの小牧野のストーンサークルを毎日眺め、葬祭の時には 幾つもの兄弟の村の人達が一同にこのストーンサークルにあつまり、弔い、お互いの絆を確かめあつたに違いない。環境の変化で大きな集落が維持できなくなり、分村する時にこのストーンサークルが現われてくると言われている。

「このストーンサークルの各位置が元の村の円環の集落の居住位置を現わしているとしたら、

このストーンサークルに自分の定席があり、それが天空・宇宙においても定席があるとしたら。」

自然発生的に円環にこだわった縄文人がそこに自分達のステイタスを見出して行ったのではないだろ

うか... ..

だとしたら あの小牧野式と呼ばれる列石の配列もそれぞれ個性があるはず ... ..

もうここまでくれば妄想かも。

野球や映画の開始前の期待に満ちたあの想像・あのイメージのふくらみ..... ..

「霧がはれ、もう幕があくかな... ..」とゆったりとした落ち着いた気分の早朝 walk でした



ストーンサークル



朝霧のストーンサークルを背に



日時計状列石

縄文のストーンサークルは墓場と関係しているが、全く暗さなし。

現代の都市にある公園墓地がそれまでの寺などに隣接した暗い墓場のイメージ`を払拭しつつあるのも広く考えれば現代のストーンサークルか?

昨日見た山内丸山遺跡の林の中のストーンサークル形成の原型なども重ねイメージをふくらませながら、林の中の丘陵地を野沢の集落までゆっくり下り、バスで青森へ。

2000. 9. 16. 早朝 青森 小牧野遺跡で M. Nakanishi

## 資 料

### 青 森 市 小 牧 野 遺 跡

青森市教育委員会資料より抜粋

aokmkinoprint.htm by M.Nakanishi 2000.10.1.



小牧野遺跡は青森市野沢字小牧野に所在し、今から約4,000年前の縄文時代後期前半に作られた環状列石を主体とする遺跡で1995年には国史跡指定を受けている。

勘定列石は、こぶし大から50?60cm位の大きさの河原石を用いて作られた直径3mの中央帯、29mの内帯、35mの外帯の3つの輪からできています。

内帯と外帯は細長い石を縦に、その両側に平らな石を3?6個積み重ね、これを繰り返すことによって形作られており、その石の総数は2,000個にもなります。

この配列は「小牧野式」と呼ばれる特徴を持っており、これらの石組み配列の下には墓がなく、ストーンサークルの石組みの下に墓がある大湯のストーンサークルとは異なります。



【朝霧の中の小牧野遺跡 ストーンサークル 2000.9.16. 朝】



【 特徴あるストーンサークル円環の列石 小牧野式列石 2000.9.16. 】

調査は今もつづいていますが、これまでの調査によると、周辺部には環状列石を形成してきたと考える集落の存在はもとより、列石構築期の 竪穴式住居跡の存在も確認されていません。また、環状列石の周辺からは、土坑基群（墓域×食料貯蔵用の土坑群（貯蔵施設） 遺物の捨 場が検出されています。〔周辺の貯蔵施設は、列石を作っている期間やそこを使用、管理する期間に必要な食料貯蔵施設であり、捨て場はその時に廃棄されたゴミ処分場であったと推測されている〕

これらの事やから祈願や呪術に使用されたと思われる遺物も多く出土していることから、環状列石は、墓の機能も含めた「葬祭の場」あるいは「神聖な場」と考えられています。

このストーンサークルは傾斜した台地を造成して平場を作り出した後に作られています。どのようにしてこの土木工事が行われていたのかも興味深いところです。

また、この遺跡からは朱塗りの土器や土偶なども発見されています。

このストーンサークルの謎を追って小牧野遺跡では現在でも調査が続けられている。

【ストーンサークルの周辺部 森の中で続く発掘調査 2000.9.16.】



青森市では、今後この小牧野遺跡を、発掘調査の成果をもとに、縄文人の世界観を視覚的に理解できるような遺構や縄文時代の植生等を考慮した環境などを復元し、当時の歴史や自然の一端を肌で体験できるような「史跡公園」の整備を目指しています

縄文のストーンサークル」の原型

## C. 山内丸山遺跡の「ストーンサークル」と「墓の道」 探 訪

snsnaiprint.htm 2000.10.15. by M.Nakanishi



青森山内丸山遺跡と「墓の道」

1. 岡田康博先生の見学会
2. 「日時計状石組」
3. 「ストーンサークル
4. 「墓の道」

縄文中期の巨大縄文遺跡 青森市「山内丸山縄文遺跡」。その発見は今までの日本の縄文観を変えようとしています。

縄文人の心・人間観を映すと言われる「縄文のストーンサークル」。

山内丸山遺跡にもその原型といわれる「ストーンサークル 環状配石墓」があり、岡田康博先生の案内で見学することが出来ました。

10.15.午後山内丸山遺跡にて

# 1. 三内丸山遺跡岡田康博先生の見学会

山内丸山の集落から東に伸びる「縄文の道」が既に発掘調査され、その道の両側には土坑墓が並び縄文の「墓の道」である事が明らかになっている。

この「縄文の道」とは別に山内丸山の集落の中心部から南へ伸びるもう一本の縄文の道が最近発見されている。

この道も「墓の道」でその周辺からは土坑墓が多数発見されると共に、伊勢堂岱遺跡や小牧野遺跡等に見られる縄文のストーンサークルの原型というべき環状配石墓が幾つも発見された。

今回の山内丸山遺跡訪問の目的は、昨年に続いて山内丸山遺跡の中で「縄文の月見の宴」に参加することと縄文のストーンサークルの原型となった山内丸山遺跡の「ストーンサークル」を見ること。

9.15.午後 この山内丸山遺跡の岡田康博氏の案内で2000年に新たに調査されているところ

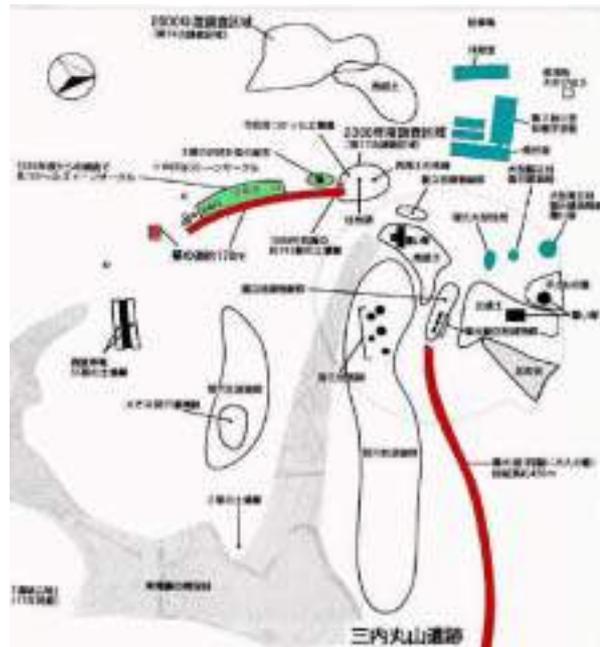
とその中心にあるストーンサークルのある「縄文の道」を案内してもらった。

発掘者である岡田先生に直接発掘の様子と共に縄文の人達の生活・墓場のイメージなどを直接聞いた事は本当にラッキーでした。

2000年の西盛土の端部発掘調査区域で住居跡の調査が進められたが、その住居跡のすぐ南側から多数の土坑墓が密集して見つかった。そのすぐ横のところから南へ縄文の道が伸びている。

また、この道の入口に近いところで日時計状の組石が3基みつき、更に今は登り勾配の林の中に続くこの「縄文の道」を入れて行くとストーンサークルが幾つも見つかった。そして更に遺跡の端までこの道は続いている。

集落から東西に伸びる道と同様性格的には「墓の道」である。この端のところ縄文のこの道の断面が見られた。



東西に伸びる「墓の道」とストーンサークル



山内丸山遺跡と「墓の道」の位置

集落から墓場を南北に伸びる黄土色の「縄文の道」が貫いている。その道の入口の所には幾つもの土坑墓・板囲いの墓に囲まれて日時計状の

組石があり、この墓の道を登って行くと木立の中に山内丸山遺跡のストーンサークルがひっそりありました。



岡田氏は縄で区切られた中の青いカバーのかけられた発掘部にみんなを招き入れ、「ひょい」とカバーを開けて、本当にまじかで発掘された部分を丁寧に発掘の意味をはなしてもらった。

黄土色した縄文の地層と黒のそれ以後の地層のフツとした違いをかぎわけ、立体の形を掘り起こし、縄文の遺物を浮かび上がらせて行く。

縄の外からは見えない「土器のかけら」土の色の違いで見分ける「土坑墓の穴」など見過ごしてしまうところが足元にある。

こんな真近で次々と発掘の中を自由に見学・解説してもらったことはなかった。

つい先だっても、ある遺跡で「縄の中にはいるな」「外からでも、写真とるなら事前に教育委員会で許可もらってこい」と本当に「遺跡はだれのもの・・・」と疑いたくなる経験した後だったので、この岡田先生の見学会にはビックリ。山内丸山遺跡に繋がる人達 本当は皆さんえらい学者さんなのでしょうが、同時に一般の人の考えも貪欲に吸収し、新しい視点で考えるとい

った姿勢 山内丸山遺跡研究者の気風と聞きましたが、岡田先生はそんな気風を作ってこられた中心人物。市民参加型のイベントが次々行なわれている遺跡・「遺跡から月見をして縄文を考えよう」などちょっと遺跡に繋がる学者の発想とは違う良さ。それが山内丸山遺跡にはあり、一般人である私など、訪れるたびに、親しみの中に、新しい発見とエネルギーを得られる原因。

ちょっと感傷的に「縄文のストーンサークル」を捉えていた私でしたが、今回の見学会で岡田先生からストーンサークルを眼前にして縄文の中味の中味を間近で解説してもらったことで、新しい視点がぼくにも出来ました。ほんとラッキーでした。

市民や一般の人も参加できるこの山内丸山遺跡にその中心となる「縄文研究のナショナルセンター」が早くでき、新しい発想の中で、新しい縄文感がきずきあげられることを強く期待しています。

2000.9.15. 中西 睦夫

## 2. 「日時計状配石」 (ひまわり状配石)

snsnnai2print.htm



日時計状配石

真中の棒状の石がサークルの中心に立っていたと推定されている。



西盛土の端 住居跡・土坑墓等発掘現場

(左端に青いシートがかけられているあたりが日時計状配石が見つかったあたり)

西盛土の末端の西側に広がる住居跡の発掘調査が推進されているがその地域から多数の土坑墓がみつかった。兆度南側に広がる丘の裾のあたりである。当初 このあたりも住居跡が発掘されるとかんがえられていたが、思いもかけず、多数の土坑墓や板囲いの墓が発見され、ここを通過して南北に伸びる「墓の道」が南の丘に向かって斜面をのぼっていく。この登り口のところに日時計状石組が発見された。兆度山内丸山遺跡の集落から墓場に入る入り口あたりである。



岡田先生はこの配石を「日時計状配石」とは呼ばず、「ひまわり状配石」と呼ぶ。言われて見ると其の方が近いとも思える。真中に少し他より大きな細長い石が見えるが、配石の真中に立っていたものと思われる。ここでは3基の日時計状配石が見つり、山内丸山遺跡の勢力が最も強かつ

た縄文中期 5000 年 4500 年前のもの。この山内丸山遺跡の時代に続く縄文後期には大湯や伊勢堂岱遺跡・小牧野遺跡にみられるような大きなストーンサークルがあらわれ、ストーンサークルにアクセントを添えるがごとく、この日時計状配石が円環の傍に一基立っている。

山内丸山遺跡のような巨大な縄文集落が形成された縄文後期に続く時代に、これら巨大集落は小さな集落へと分散して行く。

この過程で集落とは別のところに巨大なストーンサークルがこの「日時計状組石」を伴って現われてくる。

山内丸山遺跡では、この日時計状配石の周辺にはストーンサークルではなく、多数の土坑墓があり、この墓場並びに墓場を南に貫く「墓の道」のモニュメントのごとくこの日時計状配石が建っている。もっとも この配石から「墓の道」を南に登って行ったところで、規模は小さいが7基の円環状配石墓「ストーンサークル」が道の片側に並んで発見されている。

縄文のストーンサークルに必須の日時計状配石と環状列石とが、ここで揃って出てきている。

この「ひまわり状組石」近傍の「墓の道」の両側には道路に直角に頭を西にした多数の墓が並んでいるという。



日 時 計 状 配 石

西北西は死者と関係する方向？ 沈む太陽に向かって並んで居るのか？ また、この南北の墓の道と太陽や周りの山々との関係は????この南北の道は「岩木山」が眺められる方向でもある。

### 3. 「墓の道」に並ぶ「ストーンサークル・環状配石墓」

・「縄文のストーンサークルの原型」・

snsnai3print.htm



「日時計状組石」のところから今は林の中を南北に伸びる「墓の道」

山内丸山遺跡のストーンサークル 環状配石墓は林の中のこの道の傍に並んで見つかりました .

山内丸山遺跡の墓場を南北に貫く「縄文の道」。日時計状組石のところから、この登坂の道を林の中に登って行くと、そこにストーンサークルがありました . 小牧野や伊勢堂岱遺跡のストーンサークルから較べるとはるかに小さく石の数も少ない . しかし、この環状の配石のまわりからは多数の墓穴が見つかり、墓であることは間違いない。



山内丸山遺跡の環状配石墓とその中の墓穴 林の中にあるその山内丸山遺跡のストーンサークルに立って見るとあの数十メートルを越える環状の列石とは異なりその規模は小さく、環状配石の環の直径は4~5メートル程度。確かに環状に石が配されている事が良く解るが、石の数も少なく 不ぞろいである。あの日時計状組石があるかどうか 良く解らない .

その時は気がつかなかったが、本に載せられた山内丸山遺跡のストーンサークルの写真を見ると円環に配された組石の中に他の石よりも大きく細長い石が一つあり、これはやっぱり円環のところに立っていたと想像され、円環と円環の脇に立つ日時計状石の両方がこの環の中に揃っている。でも、少し時代が早いといっても 小牧野遺跡や伊勢堂岱遺跡のストーンサークルと印象が大きく違う。

圧倒的に石の量が少ない。こんなストーンサークルが「墓の道」の片側に沿って幾つも発見されている。

岡田先生の話によれば、「このストーンサークルは一機につくられたのではないだろう。人がなくなるとここに墓をつくり、石を回りに配する。また次にと次々と墓が作られるに従って石が運ばれ、長い時間を経過してこの環状に配石が作られた。時には古い墓の石を並べかえることもやられたに違いない」と。山内丸山の人たちは、まだ、このストーンサークルその物には意識しておらず、墓場の墓の配列としか認識していなかったと思う。人を葬るその時々円環の一部のところに墓をほり、石を積む。長い時を経て、円環が作られていった。

恐らく山内丸山遺跡の人々にとっては、円環に次々人を葬って墓を作って行くことは意識していたとしても、円環そのものには意味を見出していなかったのでは？ これで納得。

山内丸山遺跡のような巨大な縄文集落が形成された縄文後期に続く次の時代には、これら巨大集落は小さな集落へと分散して行き、この過程で集落とは別のところに巨大なストーンサークルが「日時計状組石」を伴って現われてくる。

「縄文のストーンサークル」として知られる巨大な環状列石を有する小牧野遺跡・伊勢堂岱遺跡や大湯のストーンサークルなどである。環状の列石の下には墓穴がない場合もあり、環状列石その物が純粹に墓穴の組石とは考えられない。つまり円環そのものに意味があると考えられてる。もっともこれらストーンサークルの内部や一部周辺から墓穴や甕棺が発掘され、共同墓場としての機能も有している。

「この縄文のストーンサークル 環状列石は何を意味するのか？」は今も謎ではあるが、次のように考えられている。

「かつて同じ祖先を持ち、同じ集落に住んだ人達が、小さな集落に分散して行く過程で、巨大集落の墓場にあった共同墓地「環状列石墓」のストーンサークルを思い出し、集落は分散しても、祖先を同じくする絆として、一同が会する広場・墓場並びに祭式・祭を行なう場所としてこのストーンサークルを集落とは別に作った。

周辺から良く見える川筋の丘陵地を選び、大きな土木工事を行ない整地したところにまわりの山々や太陽の運行など自然と関係ずけて、川から多数の石を運び上げて、環状に組石の列を作り大きなストーンサークルを作った。

山内丸山遺跡に見られる環状配石墓の形が、さしてそこに葬られている祖先への敬愛の念の意識が次の時代にお互いの絆を確かめ合う場のイメージをクリアーにして巨大なストーンサークルをつくっていった。まさに「縄文のストーンサークル」の原型が山内丸山遺跡の環状配石墓・ストーンサークルで見られる。

### 【 山内丸山遺跡の最も高い場所 】



遺跡の最も高い高台  
西の岩木山を望む



遺跡の最も高い高台  
ここにも竪穴住居



山内丸山南盛土 集落の中心部

山内丸山遺跡では別々に幾つもあった環状列石墓とひまわり状組石。縄文人の心の支えとして たえず、環の意識があり、また 祖先と一緒に生活するとの意識がり、集落の中時には中心に墓があった。争いのないやさしさの象徴が円環であるとも聞く。縄文の人達が無意識に持っていた円環のイメージが長い年月をかけて 祖先を祭る墓場のストーンサークル そして墓場の象徴としてあった日時計状列石が円環の傍に添えられた。

それが次の時代 幾つかの集落に分散して行く時に、この円環の墓場を同じ祖先を持つ集団の絆を確かめる場としてよみがえらせ、通の墓場・祭式の広場として、丘を削り、巨大なストーンサークルを一機に作り、年に何度となくここに集まり、祭式をおこなった。

ここに縄文の人達の心の象徴としてはっきりと「ストーンサークル」が意識されていく。

東北芸術工科大の赤坂憲雄氏は「縄文の人達の間観 しいては日本人の間観の原点がこのストーンサークルを通して考えられる」という。

山内丸山遺跡の一番高い丘の上へのぼると南に八甲田の峯峰・西に遠く岩木山 東北に下北の峯峰いずれも特徴のある山々がのぞまれ、これら山々に囲まれた台地の林の中に山内丸山の巨大遺跡がみえる。実に素晴らしい自然に囲まれた土地で人々は争いもなく豊かな縄文の時代を育んで行った。

縄文の文化観を変えたこの場所は同時に縄文人の間観・精神そして 日本人の考え方の原点を作った遺跡でもある。

2000.11.1. by M.Nakanishi

## 4. 山内丸山遺跡 南北に伸びる縄文の「墓の道」

snsnai4print.htm



山内丸山遺跡 南北に伸びる「墓の道」

西盛土の北の端 竪穴住居に隣接して密集した土坑墓があり、3基の「日時計状配石」がある。ここから南の丘へ丘を巻きながらの「墓の道」が伸びている。この「墓の道」の片側には7基の「環状配石墓」が並んで発見された。今から約5000年前 B.C.3000 縄文中期 山内丸山遺跡が最も栄えた時代である。この「墓の道」の断面が切り取られているところへ岡田先生の案内で行った。



集落の中心から南北に伸びる「墓の道」 断面

「黄土色した縄文の地層」とそれ以後の時代の「真っ黒な地層」とがはっきり区分して見える。岡田先生の説明によると 道の部分と自然堆積の部分の差の見分け方は次の通りである。



道の部分 | 縄文時代の表土部

黒い土の下にある黄土色縄文の土【縄文の道断面の拡大】

「縄文の道」の部分では「黄土色 黒色」の変化がはっきりしているのに対し、自然のままの堆積の場合 両方の土が交じり合うため、「少しぼけた黄色」になる。」と。地層の断面の「黄土色」の部分を追って行くと黒と黄土色の混じったぼけた色の境界部と両者の色が交じり合わず はっきり

「黄土色」した境界をもつ「縄文の道」の部分とに分かれる。

4~5M の巾で自然の地層から少し掘り込んで道が作られている。つまりこの縄文の「墓の道」はまわりよりも低く掘り込んで南北に伸びている。「なぜ道が掘り込んで作られたのか」定かでないが、岡田先生の説では、「掘り込むことで雑草などがはえにくくなったのでは?」といわれている。

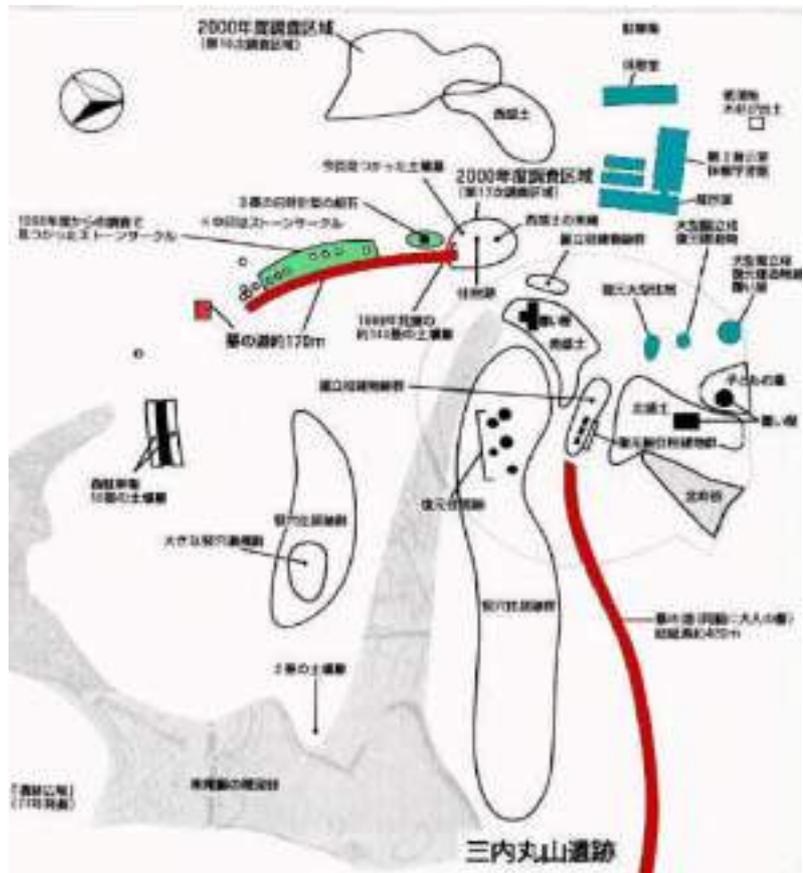
山内丸山遺跡では 広い「縄文の道」が集落から東西・南北の二つの方向に伸びていた。また、この道の傍には墓が点々と作られた「墓の道」であったことが判って来ている。

東西の道は南北の道にくらべて 少し広く巾 7~10M 程度南北の道は 4~5M 程度である。また 東西の道には点々と土坑墓が並ぶのに対し、東西の道には傍らに密集して沢山の土坑墓がある所そして日時計状配石 環状配石墓が並び、この2本の墓の道では様相が少し異なっている。

山内丸山遺跡ではこの色々なタイプの墓の存在から「もう縄文のこの時代には階級が存在していたのでは?」と岡田先生は考えている。また、延々と土坑墓続く「墓の道」。

なんの根拠もないが、この「墓の道」そのものも「ストーンサークル」の環状列石ではないか? 集落からでた東西・南北の2本の「墓の道」がぐるっと墓場や居住区を巡り、ひとつにつながるとすれば「環状につながる墓地 ストーンサークル」そのものではないか・・・・・・ 何となく「墓の道」を考えるとそんな気持ちになってきた。

まだまだ、勉強不足で考えが及ばないが、縄文の丘に立ち、ゆったりとあかねにそまってゆく夕日をながめていると気分爽快 リフレッシュされた気分になってくる。本当に静かではあるが、いつもパワーを与えてくれる遺跡である。



「縄文のストーンサークル」の原型  
山内丸山遺跡の「ストーンサークル」と「墓の道」 探訪  
「完」

縄文のストーンサークル

## D. 「伊勢堂岱遺跡のストーンサークル」探訪

秋田県鷹巣町 2000.9.15.

dodaiprint.htm by M.Nakanishi 2000.11.1



米代川の上流 鹿角市大湯のストーンサークルから 少し下ってきた秋田県鷹巣町に大きな「縄文のストーンサークル伊勢堂岱遺跡」が発掘されている。

大湯のストーンサークルの環状列石には墓整然と並んであるのに対し、青森県小牧野遺跡の環状列石では、特徴てきな石組でストーンサークルが構成され、その下には墓がない。これらの中間的な性格を持っているのが伊勢堂岱遺跡のストーンサークルと言われている。

8月に大湯のストーンサークルに行ったときには行程の調整つかず、行くのをあきらめた遺跡である。

9月15日 青森 山内丸山・小牧野遺跡のストーンサークルを回るスタートとしてまず、この伊勢堂岱遺跡から訪問する事とした。前回交通事情に泣いたので今回は飛行機で鷹巣町を訪問し、それから車で青森へ出ることにした。



地図を見ると能代市・鷹巣町・大館市の兆度中間の丘陵地に「秋田北空港」があり、この空港からすこし鷹巣の方へ行った丘陵地の端 米代川に隣接して伊勢堂岱遺跡が見える。この空港開設の取付け道路を作る過程で本遺跡が発見され、発掘頂さが続けられている。

八幡平・秋田駒ヶ岳から北へ流れ出た米代川が山間を抜け鹿角で行く手を阻まれ、ここで北からながれてくる川とここで合流して、大きく西に流れをかえる。そして、大館・鷹巣と山間の盆地を縫って能代で日本海に注ぐ。

大湯のストーンサークルはこの米代川が大きく西に流れをかえる鹿角の合流点のすぐ上の丘にあり、今回訪問した伊勢堂岱遺跡はそこから約40km西へ下った鷹巣町の外れの丘の上にある。

日本海沿岸にいた縄文人が縄文後期約4000年前にこの米代川を遡って内陸に移り住んで行ったに違いない。前回大湯へ行った時も感じたのですが、山間をぬって流れる米代川はスケールの大きい大河で

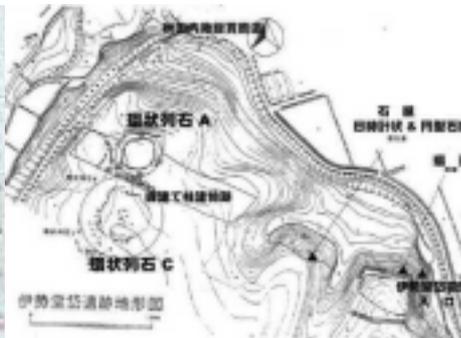
ある。鹿角の盆地といい、鷹巣の盆地といいまわりは山又山。川沿いの台地に集落を構え、森と川の恵みで生活が成立っていた。古代には食料を得る重要な川であると同時に重要な交通路であったろう。米代川にかかる橋から見る伊勢堂岱遺跡は盆地から見ると一番よく見える一等地である。

朝一番の飛行機で秋田北空港へ。正解でした。空港から鷹巣町の方へタクシーで約 15 分のところ。鷹巣の街から米代川を渡った田園地帯 米代川を見下ろす丘陵地の高台に遺跡がありました。

もっとも 遺跡を見学した後、鷹巣の街から青森へ行こうとしましたが、それが全くだめ。汽車午後までバスも全くなし。

鷹巣は昔は秋田内陸の奥の奥と思っていましたが、やっぱり今もってダメ。特に青森へは奥羽山脈錠が関の峠を超えねばならず、また盛岡へは十和田・八幡平の山々が壁を作っており、県境の壁の凄さ今もって感じました。東京へ帰る方が近いです。

## 1. 「伊勢堂岱遺跡 ストーンサークル」探訪



台地の北の端に入口があり、西へ向って 真っ直ぐ丘に登って行く広い幅の道がつけられ、遺跡の丘に登って行く。恐らくこの道が空港から鷹巣へのアクセス道路になる予定だったのだろう。この広い道を昇って行くと平らに整地された広い台地があり、この左右に良く整備された環状列石 A,C がありました。右側の環状列石 A は 25Mx30M。左側の環状列石 C は直径 40M。そしてこの列石のまわりには整然と掘立柱建物が整然と並んで発掘されている。



【伊勢堂岱遺跡 環状列石 A&C 遺跡入口側から】





【 伊勢堂岱遺跡 環状列石 A&C 遺跡奥から 】

どちらの遺跡も大量の石で円環が作られているが、石の大きさ形はばらばら。  
特に列石 C では大きすぎて環状が把握しにくい。この掘立柱建物跡も同時代の大湯や小牧野遺跡と同じく生活の兆項はみられず、やはり集落は別の場所にあったと考えられています。

環状列石 A



環状列石 C



きっちりと整備され、遺跡の詳細な説明板が建てられており、ゆっくり思うがままに歩く事が出来ましたこの遺跡のストーンサークルもまわりの森によって視界がさえぎられ、あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさの中にある。

道具のなかった時代に大規模な土木工事をほどこし、このような環状列石の墓をきずき、集落の人を自

分達の祖先が集っているここに埋葬し、折にふれ、祭を行ない、祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。このストーンサークルを中心とした祖先との絆 集落の人達との絆 それが「縄文の人達の心」を知る大きな手がかりといわれている。

これら ストーン サークルを作った集落は大湯・小牧野の場合もそしてこの伊勢堂岱遺跡の場合も解明されていない。どこに集落があったのか 非常に興味のある所である。

誰もいない森の中 一人たっているとひょいと宇宙人でもあらわれてくるような錯覚に陥る。

2000.9.15. 秋田県 鷹巣町 伊勢堂岱遺跡にて

## 7.2. 縄文のストーン サークル 探 訪 【完】

### 7.3. 『 縄文人の心を映すストーンサークル 』

oyu6.htm by M.Nakanishi



鹿角市 大湯のストーンサークル

そもそも 縄文のストーンサークルとは何なのか...・

ストーンサークルはこの米代川沿いの海岸段丘の上など東北地方を中心に日本各地で縄文後期の遺跡として発見されている。

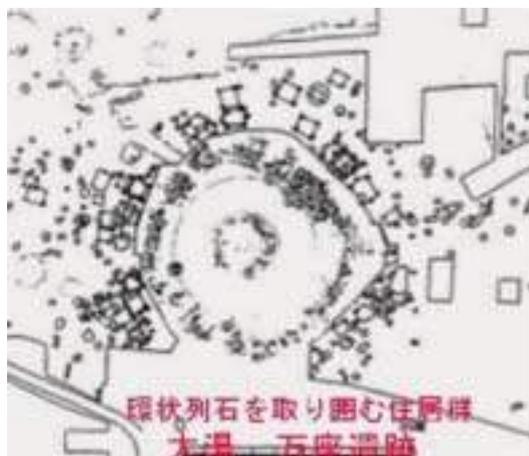
昔から多くの説があったが、今はほぼ墓地および墓地を中心とした祭りの場とする説が有力である。

また、縄文人が天体の運行を知っており、ストーンサークルの形態や場所そして日時計状の石組など星や太陽の運行を知っていて、ストーンサークルを作ったとも言われている。

数多くのストーンサークルが発掘され、円環の中や石組の下から墓が見つかり、縄文人の暮らしと直結した墓場または祭祀の場と考えられている。

赤坂憲雄氏はその講演の中で、「数々の縄文のストーンサークルから、縄文人の心の奥を読み取ることが出来る。それがずっと受け継がれ、日本人の心を形成しているのではないか...・」と講演。

縄文人の人間観とストーンサークルの形態の変化について、ご自分の研究の結果を解説され、深く感銘を受けた。縄文人の集落では、ストーンサークルが形成される縄文後期以前から、集落の中心部に広場があり、その広場を中心に同心円状に生活空間が広がっている。竪穴式住居が取り囲み、貯蔵穴やゴミ捨場などがある。墓場もこの同じ、生活場所の中にあり、死者と共に生活をする。



大湯 万座遺跡

ストーンサークルを取り囲む建物群

そして、縄文後期 集落が大きくなってくるとそれらの集落が分化して行く過程でストーンサークルが色々な形態を取って現われてくる。

米代川の河岸段丘にある秋田県伊勢堂岱遺跡やこの大湯万座遺跡などの縄文のストーンサークルではストーンサークルの円環の石組みや内環と外環の間などから墓が発掘されている。

そして、このストーンサークルの周辺部からは円環状に規則的に並んだ竪穴住居あとや土器など多様な遺物が発見されている。発見された住居跡が生活の場であったかどうかは非常に興味のあるところであるが、現状では生活の痕跡は見つかっていない。死者を弔う祭礼の建物跡と考えられている。

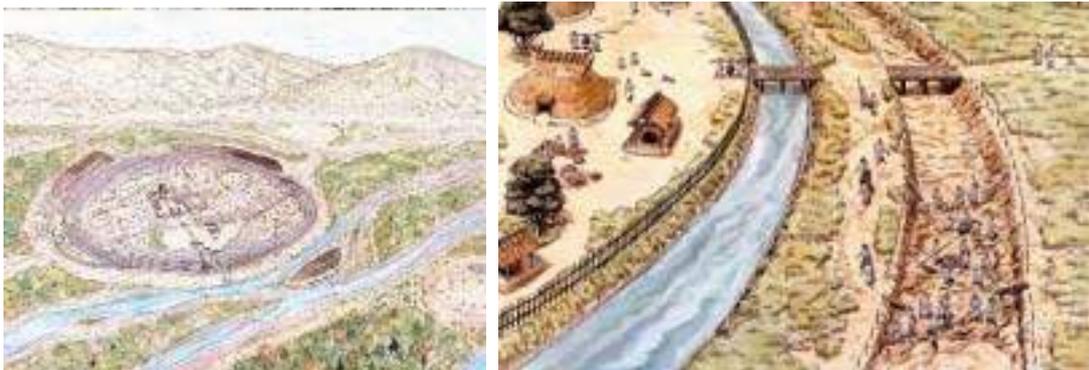
生活の場の中心に墓場が置かれていた時代から 集落分化の時代に集落統合の精神的中心として墓場を持ったストーンサークルが置かれる。

このストーンサークルの広場では分化した集落の人達が集まり弔いの祭や祭礼が祖先の霊と共に進められてきたと考えられている。。

縄文人の意識・人間観として「先祖・死者に対する敬愛の念」「定住をはじめた縄文人の仲間意識」がストーンサークルを作り、「誰でも受け入れる争いのすくない穏やかな生活」それがストーンサークルの形になって完成されたのでは・・・と考えたい。

(赤坂氏の講演をそんな風に受け取った。)

一方、 弥生の村村では、環濠で囲まれた生活の場とこの環濠の外に墓場があり、生活の場と墓場とははっきり区別されており、そこには大きな人間観の差がある。



#### 【環濠で囲まれた弥生の村】

青森小牧野遺跡でも、生活の場とは異なる場所にストーンサークルが作られている。その場所は二つの川に挟まれた尾根筋の高台を意図的に削って作られている。恐らくは集落からは、何時も墓場を意識出来る場所として選択し土木工事を行なったに違いない。

例えば 集落が大きくなり、分化する時のもう一つの形態として、生活する場所とは別に、そのそれぞれが共に集い、祭祀を行なう共通の場として形成されたものと考えれば弥生の墓場の考え方とは大きく異なっている。「生」の世界と「死」の世界の分化がはじまったと考えるにしても、その根本はむしろ大きくなった集落の意識を繋ぐ絆として、また、祖先を弔い祭る墓場と一緒に生活するとの意識の中で、墓は特別な場所として意識の中の村の中心にあったのではないだろうか...

年に何回かこのストーンサークルに人達が集まり、祭祀を一緒に行なった場であったに違いない。死者に対する「穢れ」のイメージが全く見られないと言われる縄文人の人間観がこの縄文のストーンサークルと自分達の集落の住居配置に結実しているといわれる。

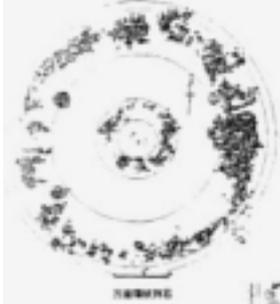
環濠によってはっきりと「生」と「死」の世界を区別し、「死」の世界を「穢れ」と意識した弥生人の人間観とははっきり異なり、したがって、弥生人の生活が始まるとこのストーンサークルも消滅する。「円環の不思議な魅力」 縄文人の心のふるさとの思いがこのストーンサークルこめられているような気がする。

「争いや穢れの意識のない」縄文人と「戦い・争いが始まり、穢れ・差別の感情が生じてくる」弥生人との間には、気質・人間観の大きな変化がここに生じている。

「日本人のやさしさの秘密がこのストーンサークルにあると考える人は多いし、また、東北に今も残る座敷墓の風習なども同じ流れと理解できるのではないか?」と赤坂憲雄氏は講演された。

## 【 縄文のストーンサークルと石組 】

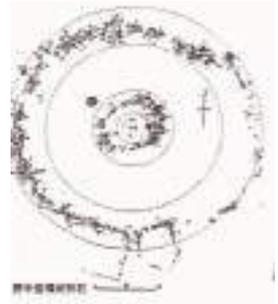
万座遺跡



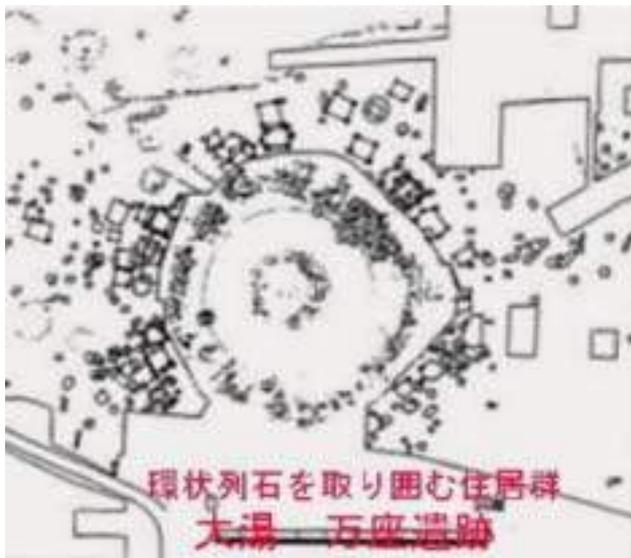
〔大湯 ストーンサークル〕



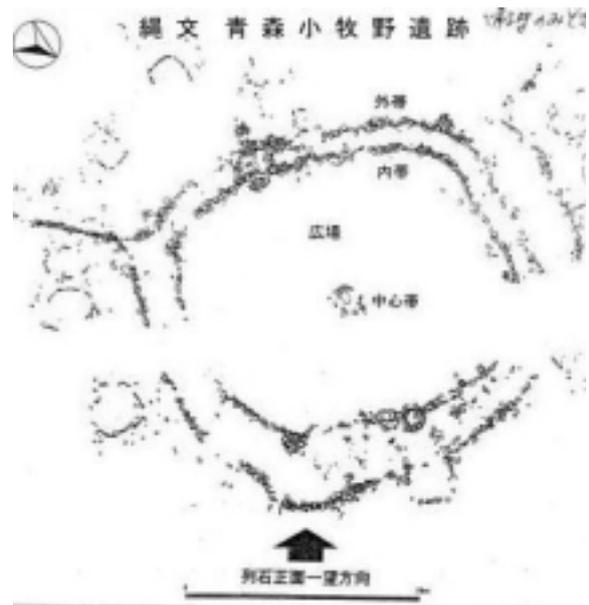
野中堂遺跡



## 【 ストーンサークルの二つのタイプ 】



ストーンサークルを取り囲む竪穴住居群  
〔円環の下に墓がある type〕



b. 住居跡がない 青森小牧野遺跡  
〔円環の下に墓がない type〕

## 7.4. 岩木山北山麓 津軽の古代製鉄地帯

### 鬼伝説の里から 縄文人へ

oyuprint.htm

東北の縄文人が作ったストーン サークル。 祖先を敬い自分達の村の絆の中心にあったストーン サークル。 このストーンサークルが多数ある東北 秋田・津軽は次の時代『産鉄の民』のふるさと。 縄文から弥生へ。 ストーン サークルを作った縄文の民と鉄を持ち込んだ弥生の民との出会い そして紛争。 そんな中から 各地に残る産鉄の民の『鬼伝説』。

縄文の民は『穢れを知らない争いのないやさしい民』。 一方 各地に残る多くの鬼伝説の中で 津軽の鬼伝説は農耕の民やその土地の民と交流をもつ『心やさしい鬼』。 縄文から弥生への移行の中で 脈々と続く『日本人の心・日本人の精神的支柱』がこの土地で 鉄を媒介に醸成されていったのではないだろうか・・・ 人っ子一人いない静かな森の中 ストーン サークルの中に立つと不思議に岩木山北山麓の『鬼のふるさと』が思われてならなかった。

弘前から鱒ヶ沢にかけて岩木山北山麓の幾重もの沢筋は古代の大製鉄地帯であり、『津軽の鬼伝説の里』と重なる。

弘前市鬼沢・鬼神社 「弘前市赤倉・岩木山赤倉口」 「弘前市十腰内・巖鬼山神社」「鱒ヶ沢市湯舟・湯舟神社と空沢製鉄遺跡」などである。

前の晩に「弘前ねぶた」を見学したが、真っ暗な中で笛と太鼓のリズムにあわせ躍動する「ねぶた絵」の迫力はその色とあいまって、灼熱の鉄のイメージがぴったり。

思っても見なかった「鬼沢のねぶた」に何の根拠もないが、古代渡来人がこの津軽の地で起こした製鉄の祭と重ね合わせていた。まだ、朝もやの中にあるこの岩木山北山麓の沢筋の村村を訪ね昔に思いを馳せた。

何処からこの製鉄の民はやって来たのか また この地の鬼伝説が通常の「悪い鬼」ばかりでなく民を助ける「良い鬼」の伝承をしているのは 津軽に住んできた人達のやさしさか.....。

だとしたら それはこの地が早くから「争いのない排他性を持ち合わせぬ」縄文人が開いてきた土地だからだろうか・・・.....。

原生林の中、誰もいない巖鬼山神社に一人立ちそんな事を考えていた。

「縄文人の系譜が連なる産鉄の民」東北にそれを感じている。

岩木山の北山麓鬼伝説の郷 何処までも続くリンゴ林の中の本道を通り弘前へひきかえした。

今回の東北 walking の締めくくりは 秋田鹿角「大湯の縄文のストーンサークル」探訪。 ねぶたが飾られた弘前駅を鹿角花輪へ向かった。

**【秋田・青森 縄文 の ストーンサークル 探 訪 】**

**【完】**

## 8.

## 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」

## 「鬼沢・鬼神社」・「十腰内・巖鬼神社」

2000.8.3-4 onisawaprint.htm by M.Nakanishi

【鬼沢のねぶた】

【岩木山 赤倉口】



8月東北は祭の季節。

弘前ねぶたと秋田・大湯のストーンサークルに接したくて、8月3.4日の休みを利用して日朝早く東北へ飛出した。今回津軽 walking の目的は古代の製鉄地帯であり、ねぶたの発祥の地でもある岩木山山麓弘前・五所川原のねぶたを見て、古代製鉄のエネルギーをねぶたに感じることを目的。

赤坂先生編集の「東北学2」に鬼沢・鬼神社の祭礼のきれいな写真が紹介されているのを発見。ねぶたを見て、岩木山北山麓の古代津軽の大製鉄地帯に伝わる鬼伝説と関係する鬼神社・巖鬼神社を訪ねる予定を組んで出かけた。

2000.8.3, M.Nakanishi 訪問記

## 【 内 容 】

1. 「弘前ねぶた」
2. 「鬼沢のねぶた」出陣へ
3. 岩木山の鬼伝説
4. 鬼神社 巖鬼山神社を訪ねて

## 8.1. 弘前ねぶた



8月3日夕方 盛岡-弘前の高速バスで弘前に到着。駅には「弘前ねぶた」が飾られ、観光客を迎えてくれるが、もっと混雑を想像していたが、予想外。

むしろ青森「ねぶた」観光列車が出たり、駅員はそのPRに忙しい。もっとも、五所川原・弘前とも「ねぶた」で宿をとるのはむづかしい。やっと弘前公園の近所の街中の旅館に宿が取れた。

五所川原の「ねぶた」は高さのあるおおきな「立ちねぶた」として有名でひそかに見ることに期待していたが、今日は前夜祭で火は入るものの運行なしとのこと。ゆっくり弘前のねぶたを見ることにした。



午後7時夕闇せまる弘前城のお堀端から運行がはじまった。例の「ねぶた」の囃子とともに扇型のねぶたが一斉に動き出した。

巨大な太鼓の上にも打ち手がまたがり、太鼓の上下から打ちたたき凄い音とリズムをだしている。

津軽じょっぱり太鼓というそうだが、この強烈な音とリズムを伴走に中国三国志等の絵が描かれた「ねぶた」が多次から次と繰り出される。

その数50を越える連。ねぶたの総数優に100を越える。



## 弘前ねぶた

弘前の「ねぶた」は扇形で、一つの連では、小さなねぶたを先頭に大小幾つものねぶたを出し、一番最後に大きなねぶたと大きな太鼓とその打ち手を先頭にした囃子方が続く。

それらのねぶたの大きさに応じて その引き手・担ぎ手も小さな子供達から大人まで、いろんな年齢の人が一つの連を組み行進する。

このねぶたの共同運行に参加することを「出陣」という。街や集落のあちこちに「出陣」の登りがひるがえり、それぞれの街が、「ねぶた」を出していることをほこっている。

日が落ち暗くなると引き手や周りの建物の影が消え、囃子の主役である太鼓とねぶただけが浮かび上がり、太鼓を中心とした囃子に乗って、時々「トウリヤートリヤ」の声が掛けられる。また、表には三国志等を題材にしたねぶた絵が描かれ、裏面には美人画が描かれる。このコントラストもおもしろい。この表・裏面の絵を見せる為、この扇型の部分を引き手が回転させると見物している人達からパチパ



と拍手がおきる。青森ねぶたのあの「ハネコ」はいないが、太鼓のリズムは強烈だし、都会では消えた津軽の街のエネルギーを感じると同時に実に美しく楽しい祭である。また、弘前の街の性格から来るのが良く判らないが、殆どの連が地域・地区の連で、他の観光化した祭に見られる企業の連とそのPRの連は少なく、絵もほぼ伝統のねぶた絵にまとめられており、手作り・地域の人みんな楽しんでいているといった風が色濃く守られている。例えば幼稚園のグループが沢山出陣

していたが、小さなねぶたに子供達の今のキャラクタがまじっているが、ほほえましく全く違和感がない。



次から次と連がくりだし、横丁を歩くと運行に参加するねぶたが順番待ちであふれている。少し離れて町をみると祭りのさなかであるが、どこも普通にいつもとかわらずと言った風。街も人も特別な風ではなく、みんな楽しみで仕事を終え、ねぶたに参加するため、三々五々集まっている。そうでないといつまで7日間もつづかない。

また この祭はどこかの神社の祭礼といったものでなく、みんなで夏を楽しんでいる。後で知ったのであるが、街の中心部だけでなく近郷の集落もみなそれらの集落で準備し、この弘前の街の中心の運行に参加すると言う。

運行の丁度真中あたりで、明日出かける「鬼沢」集落の連が「鬼伝説の里・ねぶた」として登場。びっくりした。地図で言うともう弘前の外れ、街から岩木山の麓を鱒ヶ沢の方へ車で約30分のはず。随分遠く離れているのに。

後でわかったのだが、鬼沢の里は今も「鬼」を大事にするおおきな集落であった。

観光化せず、周りの集落も含め、老いも若者もそして子供たちもみんな、年に一回、弘前の街の中心にあつまって楽しむ手作りの祭それが「弘前ねぶた」。

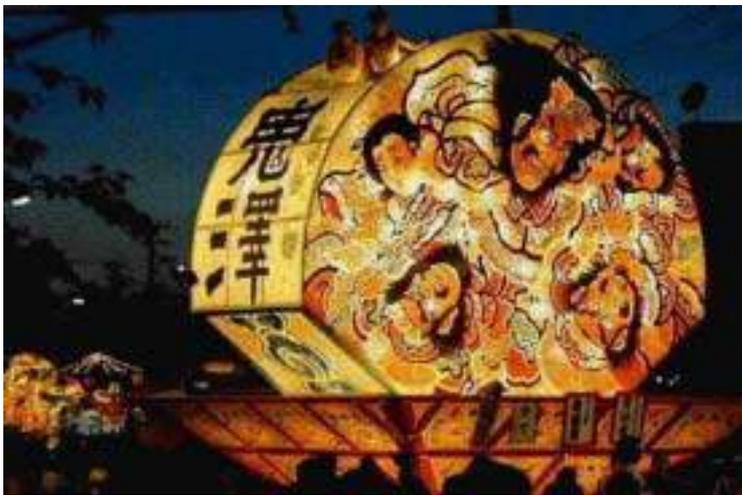
都会では消え去った地域のつながりを強く感じました。

## 8.2. 「鬼沢ねぶた」出陣



丁度運行の真中あたり、「鬼伝説の里 鬼沢」と浮かびあからせねぶたを先頭に「鬼沢ねぶた」の連がやって来た。大きな連である。

私の頭の中では、何の根拠もなく、津軽のエネルギーを「ねぶた」と「たたら・鬼伝説等古代からの文化」とをだぶらせて考えていたが、ストレートに「鬼沢の集落が鬼伝説の里として」ねぶたの運行に加わっている事に意外で少なからず感動した。



鬼沢は弘前の街から西へ鬼が住むと昔から伝えられる岩木山北山麓の赤倉山麓を鱒ヶ沢へ続く一本道を車で約30分。古代の集落遺跡や古代の大製鉄地帯の端にあり、次の鬼伝説があり、さらに4,5扣進むと弘前市の端「十腰内」。

この十腰内から鱒ヶ沢にかけては既に紹介した古代たたら遺跡が残る古代たたら中心地であり、古代遺跡ばかりでなく、有名な鬼伝説「鬼太夫伝説」や地名に古代たたら製鉄の基地としての痕跡を色濃く残している。

## 8.3. 岩木山の「鬼伝説」

【岩木山北山麓赤倉側 古代製鉄地帯の鬼伝説】

### 1. 鬼沢の「鬼伝説」

\*\*\*\* 津軽 岩木山麓 鬼沢に伝わる「鬼伝説」 \*\*\*\*

青森県 弘前市 鬼沢

昔々このあたりはやせた荒れ地で、作物の実りはきわめて悪かった。

そこへ、岩木山の赤倉から下りてきたという鬼が現れ、せっせとこの荒地を耕し始めた。

村人達は、これを見て、ただの鬼ではないと思い、開墾の困難と農業用水の必要を 鬼に訴えた。すると鬼は、それでは力を貸そうと言ったきり、姿を消してしまった。

翌朝になって村人たちが行ってみると荒れ地には、一筋の水の流れが勢いよくほとばしっているではないか。

村人たちは、さっそくその水を田に引き、以後、その水は干ばつの時も決して枯れることはなかったという。

村人たちは、非常に喜んで、鬼に感謝するため、神社を建立して「鬼神社」と名づけ、村の名前も「鬼沢」としたという

節分に豆をまかないという

### 2. 鬼神太夫伝説

\*\*\*\*\* 岩木山北山麓の「鬼太夫」伝説 \*\*\*\*\*

鱒ヶ沢町 湯舟 湯舟神社 弘前市 十腰内 巖鬼神社

昔 鬼神太夫(鬼)と呼ぶ剛力の刀鍛冶がいました。

桂山の刀鍛冶長者の娘を愛して、娘をくれるようにと申し込んだ。

困った長者は一策を案じ、一晩の内に拾腰(本)の刀を鍛えたら娘をやると約束した。すると、鬼神太夫は一晩の内に、全部刀を鍛えて持ってきたが、長者が一本盗んで鳴沢川に捨ててしまった。

それで、鬼太夫は刀が一本足りず、娘を貰えずあきらめて、

「十腰無い十腰無い」とつぶやきながら、さびしく去っていった。

それで、それ以後この地を「十腰無い」がなまって「十腰内」というようになった。

その後、鬼長者の妹娘と結婚した鬼神太夫の弟が、ある日のこと

鍛冶場の片隅に残っていた玉鋼を見つけ、刀鍛冶の兄が打ったものであると打ち明け、その玉鋼を氏神として八幡様に祭った。

長者が亡くなる時姉娘には形見として湯舟(鉄を冷やす水を入れた船)をやり、分家させた。また、妹娘には金敷(鉄を打つ台)をくれた。

それが湯舟村 金敷村の起こりとなった。

また、長者が刀を捨てた刀が浮いた所を「浮太刀」と言うようになった。

今の「浮田」である。

なお、鬼神太夫の打った刀の一本が今も岩木山 巖鬼神社に祭られているという。

「ふるさと あじがさわ」より

なお、このような鬼太夫伝説はほかにも日本各地にあり、鍛冶屋などが、実在の名刀 工などに鬼神の名をつけた伝説を作り広げたと言われている。

## 8.4. 赤倉山山麓に鬼神社・巖鬼山神社を訪ねて



岩木山北山麓のリング畑



鬼沢・鬼神社



十腰内 巖鬼山神社



赤倉口近傍 岩木山

1. 十腰内 鬼の総元締 巖鬼山神社
2. 鬼伝説の里 鬼沢 & 鬼神社

8月4日の早朝 弘前から鱒ヶ沢まで、岩木山北山麓に広がる赤倉側のに残る鬼伝説を訪ねるため、バスターミナルへ行った。予想していたとは言え、「一番奥の巖鬼山神社のある十腰内を通る鱒ヶ沢行 次は2時間後。鬼沢までは、約1時間後にある」との返事。

まあ、「岩木山山裾 鱒ヶ沢への1本道。何本かバスがあるかも」の淡い望みはダメでした。「バスだと約1時間。タクシーで約30分。」の話をついにタクシーにする。

タクシーの運転手氏に「岩木山の赤倉の集落を通して 一番奥の十腰内の巖鬼山神社に行き、引き返して鬼沢の鬼神社でおろしてほしい」と目的を伝えると「まあ 物好きな」と笑いながら「それでも 1年に数組 同じように鬼伝説やたたら製鉄遺跡を訪ねて、この赤倉側から鱒ヶ沢まで案内する」と。

岩木山北山麓は古代から開けた土地。この地では、岩木山の峰の一つで昔から鬼が集団で住んでいるといわれる巖鬼山(赤倉山とも言う)がその急峻な山裾を津軽半島にむかって伸ばしている。

そして、昔からこの赤倉山側の山裾から巖鬼山を通して頂上への険しい道が通じ、その入り口近傍の十腰内の山合の地に岩木山神社の元宮である巖鬼山神社がある。

岩木山神社のある百沢口が開かれるまではこの赤倉側の道が岩木山への本道で、古代より広く人々の信仰を集めている。

このあたり幾筋も伸びる沢筋からは古代から製鉄がおこなわれ、鉄滓や製鉄炉跡等が発見され、この地が古代津軽の一大製鉄地帯であることが判って来た。

その中で、十腰内から山裾の沢筋をすこし鱒ヶ沢の方に下った鱒ヶ沢町湯舟は十腰内や巖鬼山神社と共に、鬼神太夫の伝説の中心地である。

また数々の製鉄遺跡も発見されている。

鉄滓や羽口とともに100を越える製鉄炉や木炭炉の跡等が発見された空沢遺跡はここにある。

### 参 考 津軽岩木山北麓の古代津軽の大製鉄地帯と鬼伝説

う鬼伝説の里「鬼沢」は十腰内から3つほど集落を弘前の方へ戻ったところ。この鬼をまつる鬼神社は巖鬼神社を本社とする末社。

このように岩木山北山麓赤倉側の山合には、鬼伝説が広くつたわり、古代から渡来した産鉄の民が鉄の王国を築き、大和勢力と対峙する蝦夷の本拠地であったと推定されるが、まだ確たる証拠はない。

## 1. 十腰内 鬼の総元締 巖鬼山神社



弘前から街を出て、岩木川を渡り、岩木山山麓にさしかかるあたりからは、一面のリンゴ畑。リンゴの実をつけているもののまだ、青く熟した真っ赤な実になるには数ヶ月かかるだろう。

リンゴ畑の一本道を走るが、岩木山は霧の中で全くみえず。出発して 15 分ばかりすぎると岩木山の外周道路にでて、山壁が見えるほどに山が近くなる。赤倉の集落である。岩木山の輪郭が霧の中に薄っすらと見え、霧で埋まった幾筋もの谷筋・沢筋がみえ、いよいよ山の中に入ってきた。

赤倉から 10 分ほどさらに走り、鱒ヶ沢への道と別れ、巖鬼山神社への別れを山の中へと原生林の中に入っていくと谷筋の出口に巖鬼山神社が立っていた。



巖鬼山神社の中は鬱蒼とした谷間の森で、小さな社殿の横には千年を越える杉の巨大樹が天空にそびえ、古代から鬼伝説の世界をずっと眺めてきたに違いない。

本殿のすぐ西側の沢筋には、「龍神」がまつられている。深い樹木につつまれたこの沢筋からは一筋のきれいな水が流れおち、龍神とが重なり、産鉄の民が古くからこの谷筋でも、「製鉄をやっていたのでは?」と思えるような沢すじ。

おそらく境内の 2 本の杉の巨大樹はそれをじっと見てきたのでは・・・と想像を膨らませている。

誰もいない鬱蒼とした原生林の中にひっそりと「巖鬼山神社」がありました。  
でも「鬼の総元締の神社にしては明るい」と感じました。



千年杉の巨木 原生林につつまれた本殿 千年杉と本殿 本殿そば龍神を祭る沢筋

巖鬼山神社の中は鬱蒼とした谷間の森で、小さな社殿の横には千年を越える杉の巨大樹が天空にそびえ、古代から鬼伝説の世界をずっと眺めてきたに違いない。

本殿のすぐ西側の沢筋には、「龍神」がまつられている。深い樹木につつまれたこの沢筋からは一筋のきれいな水が流れおち、龍神とが重なり、産鉄の民が古くからこの谷筋でも、「製鉄をやっていたのでは?」と思えるような沢すじ。おそらく境内の2本の杉の巨大樹はそれをじっと見てきたのでは・・・と想像を膨らましている。

誰もいない鬱蒼とした原生林の中にひっそりと「巖鬼山神社」がありました。  
でも「鬼の総元締の神社にしては明るい」と感じました。

2000.8.4, M.Nakanishi 訪問記

## 2. 「鬼伝説の里」 鬼 沢 と 鬼 神 社

待たせたタクシーに乗って巖鬼山神社から約 10 数分。弘前の方へ引き返す。来るときに通った道から一筋北側のバス道を2,3の集落の家並をすぎると大きな明るい集落に入った。

山裾の村というより、大都会弘前のベッドタウンといった感じの前後を沢筋で区切られた明るい丘陵。それが鬼沢であった。もっと暗い山合の小さな集落をイメージしていたが、まったく異なる。これだけ大きければ、昨日の大きな鬼沢地区ねぶたの出陣もうなずける。

鬼伝説の鬼神社は、こんな街中の小さな森の中にひっそりありました。

「鬼が灌漑用に堰を築いて水不足をすくってくれた鬼沢」の伝説によって、いまも地域が一つにまとまれる鬼沢といったイメージを昨日の鬼沢のねぶたと重ねています。



鬼神社鳥居 鬼伝説の里 「鬼 沢」の集落 弘前市鬼沢 鬼神社社殿



【鬼神社 社殿正面に掲げられた農機具の献額】

鬼を祭る鬼神社の本殿の軒下には本殿正面も含め、ぐるりと幾つもの鉄製の農機具が献額として奉納されていました。

鉄の農機具を使って一夜にして、堰をきず<sup>°</sup>いて村の人たちを救った鬼の伝説からすれば、鉄の農機具は鬼つまり、産鉄の民の象徴といえます。

また「たたら民」と農民との深い結びつきを現わしているとも言えると考えます。

赤坂憲雄氏編集の「東北学 vol.2」には内藤正敏氏の「赤倉山の鬼神 津軽・鬼神社民俗誌」が収められ、鬼神社や巖鬼山神社などに伝わる貴重な民俗を整理している。

鬼神社では、鉄製の古い農機具がご神体として奉られている事や古くからの神事と鬼伝説との関係やこの地帯の製鉄と鬼や鬼伝説との関わり等が整理されている。

鬼神社の神事の中で、この農機具が吉凶を占うきわめて重要な役割を果たしている事がしめされており、長年にわたり、多くの農機具が献額として奉納されるのもうなずれる。



【鬼神社の神事 & 獅子舞】赤坂憲雄編「東北学2」より

津軽岩木山北山麓の古代製鉄の地を歩いてみて、もっと山奥まで立ち入り、もっと暗いイメージがついてまわると想像していたが、「鬼沢ねぷた」といい、鬼神社と鬼沢の集落といい、十腰内から鱒ヶ沢に連なる製鉄の村村いずれも想像とは別の明るいものでした。案内してくれたタクシー運転手氏いわく「良い鬼の伝説の地」が象徴的でした。

2000.8.4, M.Nakanishi 訪問記

「弘前ねぷた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」  
「鬼沢・鬼神社」・「十腰内・巖鬼神社」

〔完〕

## 9. 山口県の『たたら』遺跡

9.1. 山口県美祢市 河原上 たたら製鉄遺跡

9.2. 福栄村 大板山 たたら遺跡探訪

世界産業遺産 登録地  
明治日本の産業革命遺産(製鉄・製鋼、造船、石炭産業)



### 9.1. 山口県美祢市 河原上 たたら製鉄遺跡

1996.10.10



河原上製鉄遺跡



美祢市と秋芳町の境 たたらの山 花尾山

秋の日差しの強い午後。兼ねてより聞いていた美祢市の北 花尾山へ登る。

この近辺は大理石・石炭だけでなく、銅などの金属鉱山が古くからあり、すぐ近所的美東・秋芳町との境には古い時代に「銭」を鑄造した場所も残っている。

また、この山の南の山の本当に山奥のどん付には「たたら」の地名が 500 万分の 1 の地図に載っている。ひょっとして この地にも「たたら製鉄」の痕跡があるに違いない。

名水百選にも選ばれた花尾山の湧き水「別府池」のすぐ西隣の谷を川沿いに入ってゆく。

さらに、人家も途絶え、道も砂利道 ダムと池を過ぎ、杉林の中をどんどん林道をあがってゆく。

山道になって約 30 分。うっそうとした杉林の中、思いもかけず、山を背に幾段にも組まれた石垣の跡が見える。近くに谷川も見える。各地の沢筋でみた見た「たたら」の跡に近い。近づくと「河原上製鉄遺跡」の白い標識の杭が建っていました。美祿市と秋芳町の境の花尾山の南の山の中で、もう誰も住んでいない奥である。思いもかけずの 美祿でのたたら遺跡の出会いであった。

「かなな流し」の谷川もすぐ横にある。

おそらく そんな古い遺跡ではないが、しっかり、山の中に「たたら」場の遺構が残っている。明治・大正・昭和の初期まで、多くの人が行き来をした賑わいがこの山奥まであったに違いない。恐らく何年か前に発掘調査がきっちり行なわれたのであろうが、美祿の街で聞いた事がない。

今は全く山の中に打ち捨てられ、完全に賑わいの在った事も製鉄遺跡があることも完全に忘れられている。「たたら製鉄遺跡」は、どこもそうだが、本当に山奥の奥 かつての賑わいが信じられない場所に大きなたたらの集落が形成されていた。

それが、置き去りにされ、忘れ去られるか、または 開発の波に根底から掘り返され、跡形もなくなってしまうかしているのが、現状。鉄の生産には多くの人に関わり、出来たものが遠くに運ばれたに違いない。それは弥生時代から連綿と続く「人の流れ・文化の流れ」であり、華やかな往来と賑わいがあったに違いない。

今 ここに立ってもまったくそれはわからないが、.....「たたら」は間違いなくその証人といえる。



1996.10.10. 美祿にて 中西睦夫

## 9.2. 山口県 福栄村 大板山たたら遺跡

隠れキリシタンの里のさらに山奥の「隠れたたら」

1993.10.17. By M.Nakanishi



1993.10.17. 平成5年 10月17日

1993年の秋 新聞に掲載された記事から、山口県と島根県の県境に近い福栄村の山中に「たたら遺跡」があることを知りました。

山口県は山又山で、私の住んでいた美祢市も丁度日本海と瀬戸内海との真ん中の山の中の盆地なのですが、そこから秋吉台の山を越え、そこから日本海の海岸沿いに島根県益田へ続く低い山並が延々と続く。

この山並の北側 日本海側には 萩 須崎などわずかに海岸沿いの平地があるが、リアス式の海岸がつづく。地層が層状の断崖となって見られるフォルンフェルツもこの須崎の海岸にある。

また、一方 この山塊の南側と中国山地主稜線の山並の間にはさまれて山口から徳地・津和野へと続く狭い平野がある。日本海とこの狭い平地の間にはさまれた低い山並に点々と旭村・川上村・福栄村・むつみ村・阿武町への山村がつながる。



むつみ村鍛冶屋の交差点・キリシタンの隠れ里・大板たたら遺跡への山合いの道

萩市に流れ注ぐ阿武川沿いに阿武川ダムへ遡り、奥長門峡を越えてゆくと福栄村に入る。途中 むつみ村の山間の交差点には「鍛冶屋」の地名があり、最近まで鍛冶屋が会ったという。

瀬戸内・山口市側からも 日本海・萩から福栄村に入るにはどこからも人里端なれた山地を越えてゆかねばならない。北に萩 南西に山口 東に津和野の街を控え、山によって隔絶された土地で 古くは平家の落人伝説 迫害を受けたキリシタンの隠れ里という。実際交通の良い瀬戸内海側や美祢から行くと山又山を越えて越えてのところであるが、山に囲まれた明るい台地が広がっている。



この福栄村を縦貫して流れる大井川を遡って その水源近く人の気配の全く無い山中 鬱蒼とした森に包まれた山裾に「大板山たたら遺跡」がある。

又、この遺跡にいたる途中明るい田圃が広がる台地の集落「紫福」は迫害を受けたキリシタンの隠れ里と言われ、『キリシタンの理想境「至福」の地』からこの来ているといわれる。

#### キリシタンの隠れ里 福栄村「紫福」

山口のキリシタンといえば明治の初め津和野の乙女峠で殉教した 36 人の信徒が思い浮かぶが、山口は戦国時代キリシタン大名として栄華を誇った大内氏の領地であり、津和野・山口に近い隠れ里であるこの山間の台地には、あちこちにキリシタンの痕跡がある。「紫福」もそんな土地。萩や防府・長府の城下から遠く離れ、山又山を越えて隠れ住んだ土地であったろう。山又山の中で見つけた明るい台地そんな気持ちが「紫福」の名の中に込められているような気がする。

この至福の集落を抜け 大井川に遡ってゆく。全く人家が無くなり、この大井川の支流 山の口川に沿って車で 15 分程遡ってゆくとダムサイトに出る。ここから先はダム湖に沿ってガタガタの石ころ道誰もいない道をさらに山奥へ詰めた突き当りの所に駐車場があり、「大板山たたら遺跡」の看板 少し、山の中に分け入った林の中に大きな石碑がありました。



#### 大板山製鉄遺跡への入口 山の口ダム湖

このダムの水の中に大板山たたら山内の半分が水没している

山の斜面につけられた小道を上ってゆくとその両側に遺跡発掘調査中のビニールシートがかぶせられ、かつてのたたら場三内跡が広がり、その所と頃にたたら屋敷・高殿・炭焼場・鉄池などの名称の小さい札がつけられ、高殿へ登ってゆく脇には地位さな沢の流れがありました。

ほぼ他の場所のたたら場遺跡と同じような状況で林の中にひっそりと覆われていました。

山肌をなでながら林の中を吹き抜ける風のざわめきと沢を流れる水の音そして 時折、甲高い鳥の音がこだまする。自然の中の真っ只中。

後日 わかったのだが、この製鉄遺跡は江戸時代 萩藩の隠密が発見した津和野藩の「隠したらら」という。 この大板山に砂鉄無く、日本海側の港から砂鉄を運び、豊富なこの山の木炭で「たたら吹き」を行なったという。

本当に深い山中に隠れるように存在した理由がこれで納得。

「隠れ山のたたら場 ここで一人取り残されたら大変」の印象とともに、「このたたら遺跡も調査が終われば そのまま 誰も行かず、 また朽ち果て 自然の中にうずもれるのだろうなあ……。ダム湖の紅葉とともにこのたたら場が整備されればいいのだが……。 」と思いつつ、この遺跡を後にしたのを覚えています。

隠れ里の山奥に隠されたたたら場遺跡 それが「大板山たたら」でした。



【発掘調査中の大板山たたら製鉄遺跡 1993.10.17.】



今年 福栄村のインターネットホームページにこの「大板山たたら遺跡」が紹介されているのを見つけ、丁度訪問していた時はこの遺跡整備の為の発掘調査中であり、今はダムサイトに隣接したたたら遺跡公園に整備されている事を知りました。是非 再度訪問しようと思っています。

2001.12.23. 福栄村 大板山たたら遺跡をまとめつつ

## 「大板山たたら製鉄遺跡 概略」

『福栄村 大板山製鉄遺跡』インターネット ホームページ

<http://www.joho-yamaguchi.or.jp/fukuesho/kanko16.html> より

山ノ口川上流に存在する江戸時代の製鉄遺跡。

「砂鉄七里に炭三里」と言われ燃料の木炭を豊富に生産できる大板山に立地し、また、砂鉄は島根県の三隅町から北前船を利用し、奈古港経由で搬入した。

この遺跡での操業の時期は、江戸時代の宝暦年間(1751～64)、文化年間(1803～18)、安政年間(1854～60)の大きく3期にわたっています。このうち最後の安政年間の建物跡などが現在整備されています。山内と呼ばれる製鉄所には、製鉄炉のある建物(高殿)、事務所(元小屋)、鉄の脱炭加工場(鍛冶屋)、職人の住宅(下小屋)などの諸施設が設置されており全体が柵などで囲まれていました。

この遺跡の存在は萩藩が文化13年に津和野藩にはなった産業スパイの報告書でわかりました。

また、幕末安政年間の操業では萩藩が建造した軍艦庚申丸の原料鉄はここで作られました。

現在では、山の口ダムの建設によりたたら製鉄遺跡三内の南半分が水没しており、高殿や元小屋のある北半分のみが保存されています。

平成2年度から平成4年度の3ヶ年間で遺跡の発掘調査及び保存整備計画策定を行ない、平成5年度から平成7年度の3ヶ年で保存整備工事を施工。

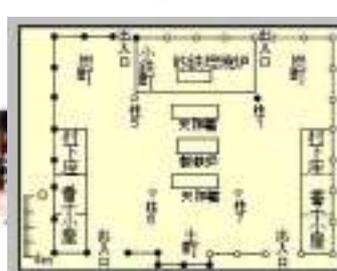
安政年間に操業した建物跡を中心に下記の遺構を保存整備。

高殿敷地の護岸、鉄池、元小屋、砂鉄洗場、高殿、小鍛冶屋、米蔵、庭園及び周辺施設等を整備し、総合説明板、施設の名称や内容を詳細に記入した説明板及び案内板を設置しました。

### 【整備された 大板山たたら製鉄遺跡 2001.12.23. インターネットより】



たたら炉跡



天秤鞆跡復元



鉄池

10.

丹後国 古代 鉄の王国【1】

天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」

『日本誕生前夜 - 丹後国 の IRON ROAD - 』

tngoprint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1.

【内 容】

- 10.1. 丹後国 古代 鉄の王国
- 10.2. 「羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道」
- 10.3. 弥生時代3世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂・今井墳丘墓遺跡
- 10.4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳

【参考】

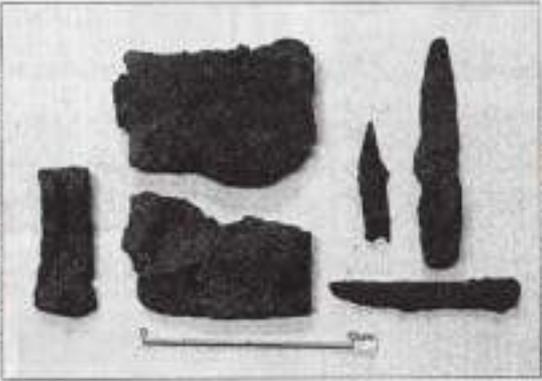
- 11. 丹後国 古代 鉄の王国【2】「もう一つの邪馬台国」  
古代丹後国の大製鉄地帯 弥栄町 竹野川沿いの丘陵地

tngo2print.htm

日本の原像

第9部 鉄器登場

### 日本海沿岸に続く「道」



東北秋田県より少し南、南西に約十の会津、半本内町で発見された鉄製山鏡。山鏡は、二百餘枚の鉄片を同心円状に並べたもので、直径は約五十センチメートルである。この山鏡は、東約四キロの道野・前内遺跡からは約五キロ離れた秋田県秋田市（約九十キロ）で発見された。この山鏡は、弥生時代中期（約二千七百）に造られたと考えられている。東北の山鏡は、弥生時代の鉄器の代表として知られている。東北の山鏡は、弥生時代の鉄器の代表として知られている。東北の山鏡は、弥生時代の鉄器の代表として知られている。



内では、ユバルトブルーの輝やかなカラースペクトルを呈する。これは、弥生時代の鉄器の代表として知られている。東北の山鏡は、弥生時代の鉄器の代表として知られている。東北の山鏡は、弥生時代の鉄器の代表として知られている。

（朝日新聞 大阪版 夕刊より）

## 10.1. 『日本誕生前夜 - 丹後国の IRON ROAD - 』

### 天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」



丹後の国 京都府峰山町赤坂。誰にも関係がないが、私の親父の故郷である。この赤坂で昨年弥生の大規模な墳墓が発見されたと聞いてビックリした。赤坂・今井墳丘墓遺跡である。

この地方が古代から開けた土地であり、この町のすぐ東に隣接した弥栄町から製鉄遺跡などの古代遺跡が続々と発見され、もしやと思っていましたが、本当にビックリした。

若くして大阪に出てきた父が生前口癖のように『丹後は山地水明の地...日本の中心』と言っていたのを思い出しています。この『たたら』の WALKING を始めた時には思いもよらぬ展開でただただ繋がり不思議さにビックリ。

日本国誕生の前夜の 3,4 世紀。この時期、大陸・朝鮮半島を含めた各地との交流は活発で、山陰地方では、四隅突出墓と呼ばれる方形の墳丘の四方に突出部を付けた墳丘墓が数多く作られた。その分布は出雲地方を中心に伯耆・北陸まで広がり、山陰の日本海側では出雲を中心とした政治的連携をもった大王国があった。

この時代 丹後には、出雲や他の山陰地方でみられ四隅突出型とは異なる大型の方形墳墓が築造され、数多くの鉄剣が副葬された大型墳丘墓遺跡や製鉄遺跡群の存在はこの地にも大きな独自勢力を持った古代鉄の王国があったことが覗える。



日本海側に点在する古代遺跡・丹後半島の古代製鉄関係遺跡【写真は大風呂南遺跡 出土品】

丹後半島のほぼ中央に大きな築造墳丘を有する峰山町赤坂今井遺跡・扇谷遺跡。

野田川が流れ下る加悦・岩滝町にあり、非常に美しいガラス製の青い腕輪が多くの鉄剣と共にほぼ完全な形で出土した岩滝大風呂南遺跡。そして丹後半島ほぼ中央竹野川が流れ下る弥栄町の奈良岡遺跡・遠所製鉄遺跡を初めとした数々の製鉄遺跡などである。

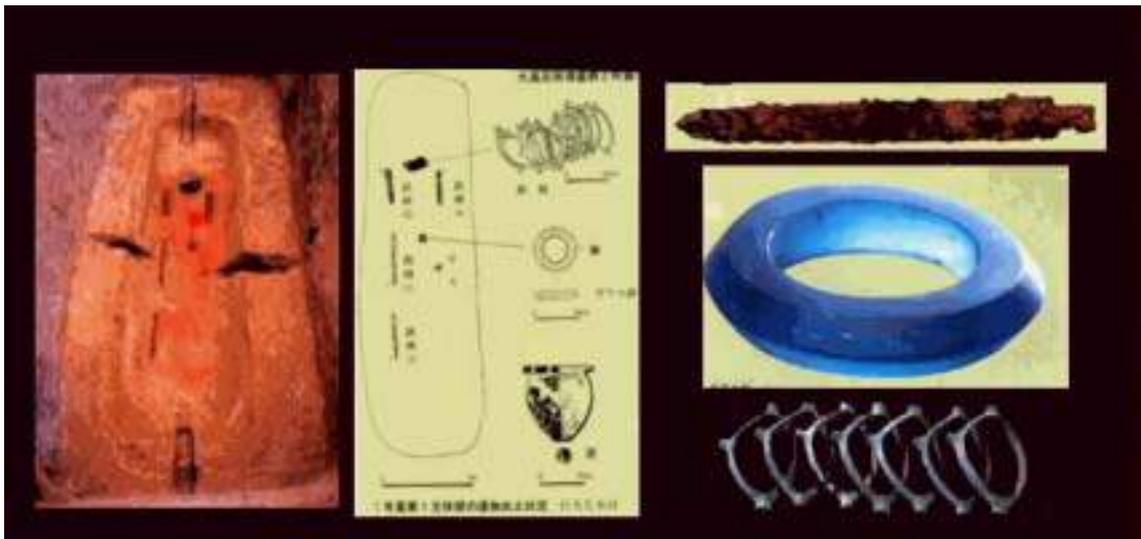
『峰山町 赤坂』は、日本海に面した網野町から山合を通過して峰山へ抜ける街道にあり、古くから丹後半島の険しい海岸を通らず、丹後半島の付け根を横断して岩滝町で若狭湾の海岸に出て畿内へとつながる道である。

網野の街から山間に入り、昭和の初め丹後大地震の郷村の断層地帯を抜け、峰山盆地にでる手前が『赤坂』である。後で知ったのだが、産鉄民の数々の研究をされている柴田弘武氏の本によれば、この『赤坂』にある『...・神社』は古代製鉄に関係のある遺跡と指摘されており、赤坂今井墳丘墓の発見で、この道が『日本海海岸から畿内へと続く古代 IRON ROAD』であるとの意を益々深くしている。

また、この丹後地方には『浦島太郎』伝説や『羽衣』伝説が伝えられており、古くから大陸と独自の交流があり、丹後古代鉄の王国として大きな勢力をもっていた。

大江山に源を発した野田川が流れ下る丹後半島の付け根岩滝町・加悦町近傍にも大風呂南遺跡など多くの古代遺跡が点在し、丹後半島の壁としてそびえる大江山には『鉄』と関係づけられる『鬼』伝説がある。『羽衣』伝説も産鉄の民と深い関係があるとする説〔柴田弘武氏「風と火の古代史」〕もあり、鉄と関係づけられる大きな王国がこの丹後半島にあったことは、疑う余地はなく、その中心地は大江山に源をはさる野田川が流れ下る加悦町・岩滝町近傍と比治山から流れ下る竹野川流域の弥栄町であろう。

## 【古代鉄の王国 丹後国の二つの中心地 竹野川・野田川流域】



1. 野田川流域 鉄の交易ルートににぎった首長の墓(推定) 大風呂南遺跡とその出土品



2. 丹後半島の中央部 竹野川流域

京都府弥栄町 ニゴレ製鉄遺跡 発掘風景と峰山町 赤坂今井墳丘墓

「羽衣伝説」の天女が舞い降りた比治山一体は大砂鉄地帯であり、天女がこの比治山から下ってきた竹野川沿いには扇山遺跡などの製鉄と関係する遺跡が点在し、そして天女が安住した弥栄町船木の対岸には古代丹後の国の大製鉄所 弥栄町木橋字鳥取の遠所遺跡が存在する。

柴田弘武氏や谷川健一氏が言う「天女が通った道は製鉄の道」まさに竹野川はそれを裏付けている。若干時期は新しくなるが、大和では前方後円形を呈する纏向型前方後円墳と呼ばれる墳丘墓が出現し畿内を中心に分布。また、尾張では前方後方形の墳丘墓が出現し東海を中心に分布圏を形成。

このように日本各地では、墓の形を共有することによって政治的な連合関係を結ぶいくつかの地域・大王国が出現してくる。

大陸・朝鮮半島から鉄の技術を持って渡ってきた多くの渡来人が、既にいる人達と融合しつつ、全国に幾つかの大王国を作り、そんな中から大和が勢力を伸ばし、他を従え、日本誕生を成し遂げていった。まさに大陸から海を越えてつながる『Iron Load』の道筋が見えてくる。

2000.5.1. 神戸にて M.Nakanishi

## 【参考】 丹後半島の古代製鉄遺跡



第1図 丹後半島内製鉄・製鉄関連遺跡

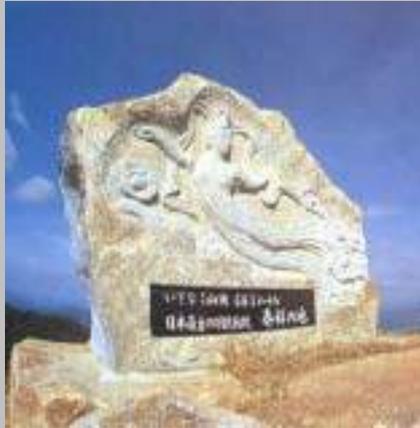
- |              |             |               |              |            |
|--------------|-------------|---------------|--------------|------------|
| 1. 畑大塚2号墳    | 2. 扇石浜遺跡    | 3. 小谷遺跡       | 4. 横枕遺跡      | 5. 竹野遺跡    |
| 6. 高山古墳群     | 7. 西小田遺跡    | 8. 上野遺跡       | 9. 井谷北遺跡     | 10. 井谷遺跡   |
| 11. 菅甲遺跡     | 12. 小野遺跡    | 13. 渡所遺跡群     | 14. ニブレ遺跡群   |            |
| 15. カンヤ谷遺跡   | 16. 横野遺跡    | 17. 和田野地区製鉄遺跡 | 18. 赤兵遺跡     |            |
| 19. 赤貝岡遺跡    | 20. 福谷遺跡    | 21. 全谷遺跡      | 22. かせ谷遺跡    | 23. 船木B遺跡  |
| 24. 扇形製鉄遺跡   | 25. 和赤A遺跡   | 26. 横木地区製鉄遺跡  |              |            |
| 27. ホエガ谷遺跡   | 28. 赤坂木沢散佈地 | 29. 小耳尾遺跡     | 30. 扇谷遺跡     | 31. 途中+丘遺跡 |
| 32. 宇谷遺跡     | 33. 柳谷遺跡    | 34. 上野遺跡      | 35. 左坂C-15号墳 |            |
| 36. 有明橋穴群    | 37. 中野遺跡    | 38. 柳谷遺跡      | 39. 定山遺跡     | 40. 庄内遺跡   |
| 41. 有熊遺跡     | 42. 瀬谷遺跡    | 43. 火口遺跡      | 44. 作山2号墳    |            |
| 45. いななきの岡遺跡 | 46. 塚ヶ谷2号墳  | 47. 長野遺跡      | 48. 左坂橋穴B支群  |            |

## 丹後の国 古代 鉄の王国

### 10.2. 天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」

峰山町に残る「天女」伝説・丹後国 IRON ROAD -

hgrmoprint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1.



【 磯砂山頂上にある羽衣伝説の碑 】

丹後地方には『浦島太郎』伝説や『羽衣』伝説が伝えられており、古くから大陸と独自の交流があり、丹後古代鉄の王国として大きな勢力をもっていた。『鉄』と関係づけられる『鬼』伝説の残っている大江山・野田川流域に対し、丹後半島・竹野川流域に伝わる『羽衣 天女』伝説もまた産鉄の民と深い関係があるとする説〔柴田弘武氏「風と火の古代史」〕もあり、この丹後の国の『羽衣・天女伝説』には強く惹かれる。

通常 「鬼伝説」の伝承は古代産鉄民及び古代製鉄遺跡と結び付けられている場合が多く、その代表例としては、ほかに、備前の「桃太郎の鬼退治」 津軽岩木山周辺の「鬼太夫伝説」 伯耆の国 溝口の「鬼伝説」などがあげられる。



そんな中で、柴田弘武氏著「風と火の古代史」を読むと「丹後の天女伝説」各地に広く流布されている大男「ダイダラボッチ」なども「たたら」製鉄の伝承と非常に密接な関係を持っていると言う。

古くから 聞かされてきた丹後の国の「羽衣・天女伝説」が「大陸との交流の伝承」とは思っていたが、古代製鉄と関係が有るとは考えても見なかった。しかし、丹後の国が古代鉄の大王国だったことと考え合わせるとその説にも納得させられる。

峰山盆地のはずれ「羽衣天女伝説」の天女が舞い降りたとの伝承のある比治山一体の山・谷は古くからの大砂鉄地帯である。また、天女がこの比治山から下ってきた竹野川沿いには峰山町の扇山遺跡・赤坂今井墳丘墓遺跡など多くの製鉄と関係する古代遺跡が点在し、さらに弥栄町に入ると多くの弥生遺跡や古代の製鉄遺跡画点存在する。とそして天女が安住した弥栄町船木の対岸には古代丹後の国の大製鉄所 弥栄町木橋字鳥取の遠所遺跡が存在する。

古代史・古代たたらの研究家 柴田弘武氏や谷川健一氏が言う「比治山から天女が川沿いに流浪して下ってきた竹野川はまさに製鉄の道」を裏付けている。

丹後半島の丁度中央にある峰山町に残る「天女」伝説の一つは和銅6年(713年)から天平にかけて献上された「丹後風土記」に記され、文字として残された日本最古の羽衣説話です。

謡曲「羽衣」は、この丹後のお話をもとにして作られました。

そして、もう一つは、口承説話として地域の人々が大切に語り継いできた羽衣天女のお話です

## 1. 和銅6年(713年)「丹後風土記」に記録されている

### 丹後国 羽衣 天女 伝説

丹後の磯砂山の中腹にある女池で8人の天女が水浴をしていたところ山麓に住む老夫が1人の天女の衣を隠してまった。

天に帰れなくなった天女は、以後10年間老夫婦の子とし酒を造り、機(はた)を織り、五穀の生産に励み家を富ませたが、老夫婦は、天女がだんだん邪魔になり追い出した。天女は泣く泣く竹野郡の奈具社に向かったという。

むかし、むかし、比治の山の頂に真井という大きな澄んだ池がありました。

その池に八人の天女が舞い降りて水浴びをしていました。それを見た里人の和奈佐という老夫婦が一人の天女の羽衣を隠してしまいました。

天に帰れなくなった天女はしづしづ老夫婦と暮らすことになりました。

天女は酒づくりが上手でこの一杯の酒は万病にききました。この酒は高い値で売れ、たちまちこの老夫婦も比治の里も豊かになりました。

そのうち十年ばかりたち、豊かになった老夫婦は心変わりして天女を家から追い出してしまいました。

嘆き悲しんだ天女は、”天の原、ふりさけ見れば霞立ち家路までいて、行方知らずも”と天を仰ぎながら歌を詠みました。

流浪の旅に出た天女は泣く泣く荒塩の村にたどり着き、その後、丹波の里の哭木(なきき)の村から奈具の里に行き、ここで落ちつきました。

この天女は奈具の社におまつりしている豊受大神で五穀、養蚕、酒づくり神様といわれ、その後豊受大神は伊勢神宮の外宮としてまつられています。

比治の里： 峰山町五箇・久次・鱒留付近 竹野川の支流鱒留川の源流五箇の南端磯砂山(いなさごやま)は比治山とも言い、この山の東側中腹にある女池が天女の舞い降りた真奈井だとされている。

この比治山・鱒留川源流域の山・谷間からは古代から豊富な砂鉄を算出する地帯であることが知られている。

荒塩の村： 峰山町久次だとされている。

丹波の里： 峰山町丹波この地の弥生時代前期末の扇谷遺跡からは鉄斧が出土した。

哭木の村： 峰山町内記 この地にある名木神社にも豊受大神(天女)が祭られている。

奈具の里： 弥栄町船木の里とされている。

竹野川沿いのこの地の対岸には古代の一大製鉄遺跡遠所遺跡がある。

このように伝説の天女は比治の里から竹野川沿いに下流へ流浪の旅を続け、峰山町丹波を通り、船木の里を安住の地としている。この天女のたどった竹野川沿いの道はまさに古代製鉄の遺跡 丹後の国の大製鉄地帯と重なっており、まさに『羽衣伝説 天女流浪の道は鉄の道』である。

## 2. 丹後地方に伝わる口承説話

### 羽衣天女 七夕伝説

むかし、むかし比治の山の頂き近くに大きな美しい池がありました。

その池に八人の天女が舞い降りて水浴びをしていました。天女が農業、養蚕、機織りの業をおかげで里は豊かになりました。

そのうち、天女は天が恋しくなって、隠してあった羽衣を見つけて天に帰りました。

その時、三右衛門に七日七日に会う約束をしましたが「あまのじゃく」は七月七日と偽って伝えました。

一年に一度しか会えないと思った三右衛門は天女を慕うあまり、夕顔の蔓を登って天上にあがり、天女に会うことができました。

天女と暮らしたい三右衛門は、天の川の架橋づくりを請け負いました。

橋が完成するまで天女を思いだしてはいけないという約束を破ったとたん、天の川は洪水になって、三右衛門は下界に追い出されてしまいました。

そして、七月七日の夜には天女が天の川のきらめく星となって三右衛門と三人の娘に会いにやってくるということです。



古代遺跡がならぶ弥栄町竹野川流域



峰山町 赤坂今井墳墓遺跡



弥栄町 遠所製鉄遺跡

### 10.3. 丹後国 古代 鉄の王国 『Iron Road』

## 赤坂今井墳丘墓遺跡

・ 弥生時代後期 国内最大級の墳丘墓 ・ 京都府 峰山町  
akskaprint.htm 2000.March by Mutsuo Nakanishi



京都府中郡峰山町赤坂で、弥生時代後期末（三世紀中ごろ）の国内最大級の方形墳丘墓が見つかり「赤坂今井墳丘墓」と命名された。

当時この地は天然の良港であった浅茂川湖から農耕の中心地である中郡盆地へ至る交通路の途中の谷筋に沿った丘陵地に位置し、南北 37.5m、東西 32.5m の方形で、高さ 3.5m。周囲に幅 5,6m のテラスがある。

弥生時代の大型墳丘墓には、楯築遺跡（岡山県倉敷市）などがあり、赤坂今井墳丘墓もこれに近い国内最大級の大きさで、被葬者は日本海沿岸の強大な首長の一人だったとみられ、墳墓の規模・形式の差などから、出雲や畿内と違う巨大勢力の存在がうかがえ、「古墳時代に先立つ弥生期に、すでに丹後に強大な大王国権力者が存在し、九州や朝鮮半島、中国との独自の交流、貿易を基盤にしていた」ことを裏付ける遺跡である。



赤坂今井墳丘墓主体部配置図

これまでに見つかった弥生時代の墳墓は、大風呂南墳墓を含めて、墳丘を大きく意識したものでないのに対し、墳丘の築造は、後方の山を切り崩し、新たに盛り土で形を整えている。規模だけでなく

工法上もかなりの労働力を費やしたである。

また埋葬施設の墓壙（こう）は、丘上の平たん面からは六基、テラス部分からは七基の計十三基が見かっている。

岩滝町大風呂墳墓など丹後半島の弥生時代後期のお墓からは多量の玉類や、鉄製品が出土することで全国的にも注目を集めているが、墳丘中央部に位置する最大の墓壙は長さ約十四メートル 幅は八メートル前後とみられ、弥生時代では国内最大。

それ以外の墓壙からは、珍しい舟形や箱形木棺跡のほか、鉄製のヤリガンナ、短刀、鉄鏃（ぞく）（かめ）なども見つかった。

（赤坂今井墳丘墓・今井城跡 峰山町現地説明会資料より抜粋 アレンジ）

by M.Nakanishi 2000.5.1.

## 赤坂今井遺跡探訪 2000. 8. 26.

私が赤坂今井遺跡を訪れたのは暑い夏の夕方。弥栄町の遠所・ニゴレ遺跡の後に建っている「味わいの郷」を訪れた後 従兄弟の家へ寄った時である。峰山の街中から網野への街道の峠を越えて赤坂の集落に入り、赤坂の集落を抜けてその北の外れの丘の上が赤坂今井遺跡。

丁度発掘調査がされている途中にであった。

網野への街道沿いの祖父たちの墓が在る丘のすぐ北隣の丘で本当に親父の実家のすぐ近所 あまりにも近い場所に遺跡があったのでビックリした。



遺跡の北の端の所から遺跡に上がって行くと幾人かの日とが忙しく発掘調査をしている所だった。小さい時から 幾度となく見上げてきた森が「古代 丹後の鉄の大王国を纏め上げてきた豪族の墓」そして通いなれたこの街道が日本海を渡ってきた古代渡来人が海岸から畿内・都へと通った「鉄の道 iron road」と思うと一層感慨深い。小さい時には思っても見なかった事である。遺跡のアポイント取っていないので、周りから眺めていたが、チョット遺跡のスナップ写真を取ろうとすると「カミナリ」が調査員から落ちた。「勝手に遺跡の写真をとるな教育委員会へ行って許可貰って遺跡にこい」と。「まあ なんと閉鎖的な 減る物でなしじゃまをしたわけもないのに・・・」とこれはこっちの勝手な言い分。でも チョットは頭に来ました。

今年はその山内丸山遺跡の開放的な空気を知っているだけに・・・

まあ これからも 峰山町の赤坂には行く機会もあり ゆっくり訪問したいと思いつつつ遺跡を下りた。



赤坂今井墳丘墓遺跡遺跡【1】 峰山町



赤坂今井墳丘墓遺跡遺跡【2】 峰山町【赤坂今井遺跡 発掘現場 2000.8.26.】

この古墳が作られた3世紀から古墳時代へと時代が下っていく過程で、渡来人が鉄をもたらし、この丹後が一大鉄の生産加工基地となり、大和の国形成の重要な役割を果たした。

今は本当にひっそりしたこの下の街道を当時はにぎやかに多くの人たちがとおり、多くの物産品と共に「鉄」が運ばれたに違いない。まさに日本誕生に大きな影響を与えた「鉄の道 iron road」が思いもかけず身近に現われた。

だとすると 僕のルーツもこの鉄の道に関与した鉄の渡来人の末裔か・・・.....

ほんとうに 親父の実家や墓のすぐ隣の丘なのにビックリ。

2000.8.26. 午後 京都府 峰山町赤坂にて M.Nakanishi

## 丹後国 古代鉄の王国 『Iron Road』

### 10.4. 美しいガラス腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南遺跡

ohfroprint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1



大風呂南墳墓群は多くの古代遺跡がある野田川流域の河口近い岩滝町にあり天橋立を隔てて若狭湾につながる阿蘇海沿岸部に隣接する丘陵の上であり、海を見下ろすことが出来る。

発掘調査の結果、弥生時代後期項半から末期にかけて造営された2基の墳墓から5つの墳墓主体部が出土した。特に丘陵先端部の1号墳墓からは豊富な副葬品が出土し、弥生の首長級の墳墓と見られている。1号墳墓では 巨大な木をくりぬいて作られた木棺の内側にはあざやかな朱が塗布され、埋葬者の頭の上側に9本、また両脇とその近傍に4本の鉄剣が置かれ、腕にはめられていたと推定されるあざやかな青色を発するガラスの腕輪が出土した。



また 頭の上側には貝輪系の銅釧や鉄鏃などの武具 勾玉など この時期他の遺跡では類を見ない多数の副葬品が埋葬されており、埋葬されている人物の権力の程が覗える。

10. 丹後 古代 鉄の王国【1】  
 「羽衣伝説」天女の通った道は「鉄の道」  
 【完】

## もう一つの邪馬台国 『和鉄の道 iron road』

11.

## 丹後国 製鉄コンビナート 遠所遺跡

tngo2.htm by Mutsuo Nakasnishi 2000.5.20.



1. もう一つの邪馬台国 ・丹後の国の重要性・ [tngo2print.htm](#)  
\*\*\* 丹後の国の重要性 \*\*\*
2. 弥栄町 遠所製鉄遺跡 [yskaenjyoprint.htm](#)  
\*\*\* 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート \*\*\*
3. 遠所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷 [yskafepprint.htm](#)
4. 遠所遺跡原料 高チタン系砂鉄の謎 [yskatiprint.htm](#)  
\*\*\* 現在の溶接材料につながる高チタン滓系 \*\*\*
5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪 1993.10.10. [yskangreprint.htm](#)

## 11.1. 『和鉄の道 iron road』丹後国の重要性



古代 丹後の国文化圏と畿内の先進文化圏の交流

畿内から弥生時代の先進的な遺跡が続々発見され、邪馬台国の所在地論争の畿内説を唱える人々の大きな根拠になっている。野洲・守山を中心とした銅鐸文化圏や奈良盆地の大集落で大きな望楼をもった『唐古・鍵遺跡』そして 大型建造を持った『和泉の池上遺跡』などである。

しかし、これらの先進文化を『鉄器』の面から見ると北九州文化圏に較べると圧倒的に鉄器は少ない。それが、古墳時代 大和朝廷の骨格があきらかになると畿内では、巨大な前方後円墳と膨大な鉄器を持って登場してくる。

大和朝廷成立には、明らかに『鉄器文化』が大きな影響を与えているが、『その鉄器文化がどのような

経路で畿内に入り、日本誕生に影響を与えたか』は邪馬台国論争とともに『日本誕生』の大きな謎である。



伊勢遺跡群の独立棟持柱建物跡  
滋賀県守山市



奈良唐古・鍵遺跡の望楼  
奈良県田原本町



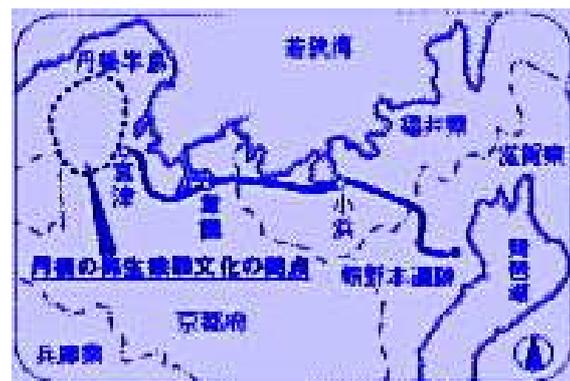
和泉池上遺跡大型構造物  
大阪府泉大津市

一方最近の各地での発掘から、日本誕生に役割を演じた「もう一つの邪馬台国『鉄の大王国』」の解明が進み、新しい史実をこの日本誕生・邪馬台国論争に付け加えつつある。

『大陸・朝鮮半島から畿内へ 日本誕生をもたらした鉄の道・iron road』。そしてこの『iron road』に沿って存在した数々の『鉄の大王国』。日本誕生に関わった北九州・筑紫の国 吉備の国 出雲の国などの「鉄の大王国」と共に最近の数々の遺跡発掘から、伯耆・丹後の鉄の王国 そして 越の国の存在が日本誕生に重要な役割を果たしたとして、俄かにクローズアップされてきている。

古代には 北九州から 瀬戸内を経て 大阪湾・熊野から 河内を通過して畿内へ抜ける文化の道 IRON ROAD が常に意識されてきた。しかし、最近の新しい発見から、大陸・朝鮮半島から直接の道も含めて、日本海沿い山陰の「iron road」が重要視されている。

また、これら山陰の国と畿内を結ぶ琵琶湖湖岸の近江の国の存在も重要であることが明らかになってきた。特に畿内と日本海を結ぶ最短距離の位置にある丹後の国には鉄の一大コンビナートが存在し、また琵琶湖北岸の熊野本製鉄遺跡にみられる一大鉄の工房の存在が判り、この丹後の国の鉄が畿内へ持ち込まれ、日本誕生に大きな役割を演じた考えられるに至った。



丹後国 遠所製鉄遺跡群と古代丹後国から畿内への鉄の道筋

日本誕生前夜の時代 丹後では大量の砂鉄を各地から集め、精錬から鍛冶道具作りまで、北九州や出雲・伯耆・吉備を含めても他に例をみない大規模な製鉄コンビナートがあり、ここで精錬加工された鉄が畿内大和政権の強力な支柱として畿内に持ち込まれ、大和政権勢力伝播の柱として使われた。(弥栄町遠所遺跡群)

また、継体天皇は越の国から畿内に入ったといわれており、これも越の国の鉄を背景とした政権交替とする説つもある。

これらが示すとおり「iron road」が大陸・朝鮮から 丹後の国を経て 畿内そして東海・信州方面へとつながって行ったといわれている。



古代の日本海を巡る『Iron Road』と 越の国 製鉄遺跡群

十数年前 茨城県波崎砂丘・千葉県九十九里浜で風に舞っていた膨大な砂鉄の面白さに付かれて始めた「たたら」訪ねての country walk。

対馬 北九州から 中国山地・出雲・吉備を手始めに房総・三陸・久慈そして津軽へ。伯耆・丹後・千種へも 今また 関東・東北へ。

山口県土井ヶ浜の弥生遺跡 多くの異邦人が大陸を眺めつつ何百体も眠っている姿を想像しつつ、日本海に沈む夕日を見て 大陸からつながる道が 出雲のヤマタノオロチ伝説 丹後の羽衣・浦島太郎伝説など大陸文化の匂いを感じつつ線になってつながればなあ...と何とはなしに考えていたが、今、はっきり「iron road 鉄の道」として 日本誕生に大きな役割を演じてきた道としてつながってきた。

大和朝廷成立後も東北征伐の鍵を握った鉄製武器。そして 奈良・平安のあの巨大木造建築群を支えた鉄製の釘や加工治具。刀鍛冶・鉄砲伝来から 近代日本の成立へ。

Country Walk を通じて知った多くの人達との出会いもふくめ、この「Iron Road Country Walk」の楽しみは尽きない。

2000. 5.20. M.Nakanishi

## 【参 考】

サイバー古代 ホームページ by The Yomiuri Shimbun Osaka Head Office,1998

特集 日本海鉄器ルート「もう一つの邪馬台国」

<http://www.ultra-k.com/kodai/jyo/old/tokusyu/tokusyu.htm>

by Mutsuo Nakanishi , 2000.6.4.

## 11.2. 丹後の国 古代初の大規模製鉄コンビナート

### 弥栄町 遠所製鉄遺跡

yskaenjyo.htm by Mutsuo Nakanishi, 2000. 6.4.



#### 1. 古代製鉄の起源

-朝鮮半島から渡来した

「鉄鉱石」精練と「たたら砂鉄」精練 -

弥生時代の確実な製鉄遺跡が発見されていないので、弥生時代に製鉄はなかったというのが現在の定説であります。

しかし、弥生時代中期には、すでに、国内各地で鑄造・鍛造された矛、剣、農具、漁具、工具が増えてきており、中期の中頃には朝鮮半島 南部から輸入された鉄ていを使用して、国内での鍛造(金槌などで金属塊を叩



いて成型する工法)が始まり鉄器の種類や形態にも地方差が現れてきます。

また、弥生時代には、大がかりな稲作が始まっており、これらの生産効率の上昇の為に鉄器が急速に普及し、これら鉄器製造の専門技術者も存在することが出来たと考えられています。

しかし、これら鉄器に加工されたすべての鉄原料は朝鮮半島からの輸入品であったと見られています。古墳時代(3世紀末?7世紀)になると、青銅器と共に多量の鉄器が発見されており、砂鉄を原料とした製鉄炉が京都府丹後半島の遠所遺跡(5世紀末)や岡山県の大蔵池南遺跡(6世紀末)などで見つかります。現在発見されている日本の古代刀(上古代刀)は、稲荷山古墳の鉄剣のような古墳出土のもの、正倉院や石上神宮などに所蔵されているものがあります。

これらの中で、4～6世紀初めのものは百煉刀に見られるような鉄鉱石から生成されたものであり、6世紀以後のものは、砂鉄から作られたものと推定されています。

この様に鉄のルーツには大陸・朝鮮半島に起源をもつ「鉄鉱石」精練と日本で急速に発達した「たたら砂鉄」精練の二つがあり、特に出雲・伯耆・丹後など日本海沿岸でスタートし、その後日本で固有の技術として急速に発達した砂鉄精練・たたら製鉄の起源については謎に包まれています。

この「たたら砂鉄」精練誕生には、5～6世紀にかけて、日本に関係が深く、鉄素材の産地であった任那を含む加羅地域が百済や新羅に押され、鉄の入手が困難になったことが大きな影響を与えたと考えられています。今のところ、確実と思われる日本での製鉄遺跡は6世紀前半まで溯れますが(広島県

カナクロ谷遺跡、戸の丸山遺跡、鳥根県今佐屋山遺跡など)、5世紀半ばに広島県三原市の大成遺跡で大規模な鍛冶集団が成立していたこと、6世紀後半の遠所遺跡(京都府丹後半島)では多数の製鉄、鍛冶炉からなるコンビナートが形成されていたことなどから、5世紀には既に製鉄が始まっていたと考えるのが妥当とされています。

いずれにしても 朝鮮半島から海を渡ってきた渡来工人によってもたらされた製鉄技術がさらに発展し、6世紀頃には広く日本で製鉄が行なわれていました。

古事記によれば応神天皇の御代に百済(くだら)より韓鍛冶(からかぬち)卓素が来朝したとあり、また、敏達天皇12年(583年)、新羅(しらぎ)より優れた鍛冶工を招聘し、刃金の鍛冶技術の伝授を受けたと記されています。この製鉄法は、鉄鉱石による製鉄法で大和朝廷の中枢を形成する大和、吉備に伝えられ、古代日本誕生初期には中枢の最重要な技術であったに違いない。

一方、出雲を中心とする砂鉄製錬の系譜は、やがて、伝来した技術のうち箱型炉製鉄法を取り入れて、古来の砂鉄製鉄と折衷した古代たたら製鉄法が生まれ、6世紀後半には、日本海側で畿内に最も近い丹後の国に製鉄から鉄製品までの大一貫製鉄コンビナートが出現し、数世紀に渡り大々的に畿内へ鉄製品を供給して行く。丹後半島の中央部弥栄町で発見された遠所製鉄遺跡の出現である。

## 2. 遠所製鉄遺跡とニゴレ製鉄遺跡



丹後半島 弥栄町 竹野川流域

## 2.1. 古代 大和の国衛製鉄コンビナート 遠所遺跡



丹後地域の古代製鉄遺跡群  
遠所遺跡と竹野川中流 製鉄関連遺跡

丹後地域で出土した鉄生産に関連する古代遺跡は 48 遺跡の多数にのぼり、この地域が鉄の主要生産地であったことを示している。

丹後地域における古代鉄の歴史は 弥生時代の峰山町扇谷遺跡からの鉄斧ならびに鍛冶生産の開始を示すフイゴ羽口・砂鉄系鍛冶滓の出土及び峰山町途中丘遺跡の鉾石系滓の出土などにはじまり、弥栄町奈具岡遺跡からは大量の鉄片や鉄製品が出土し、鉄器加工が行なわれていたと推定されている。

その後 古墳時代中期まで、丹後地方での鉄生産に関する資料はみいだされていないが、古墳時代中期以降 加悦町作山 2 号墳や大宮町左坂古墳久美浜町大塚古墳など丹後地域の各地から鍛冶精練関係の資料が見出されるようになり、その中心に遠所製鉄遺跡が置かれる。

遠所遺跡は弥栄町と網野町との境に近い木橋・鳥取の集落に近い丘陵地から発見されたわが国最古級（六世紀後半～八世紀後半）の製鉄コンビナートで、東西 400m・南北 800mにおよぶ大規模なもの。



遠所製鉄遺跡遺跡 2000.8.26.



弥栄町遠所遺跡(発掘当時)

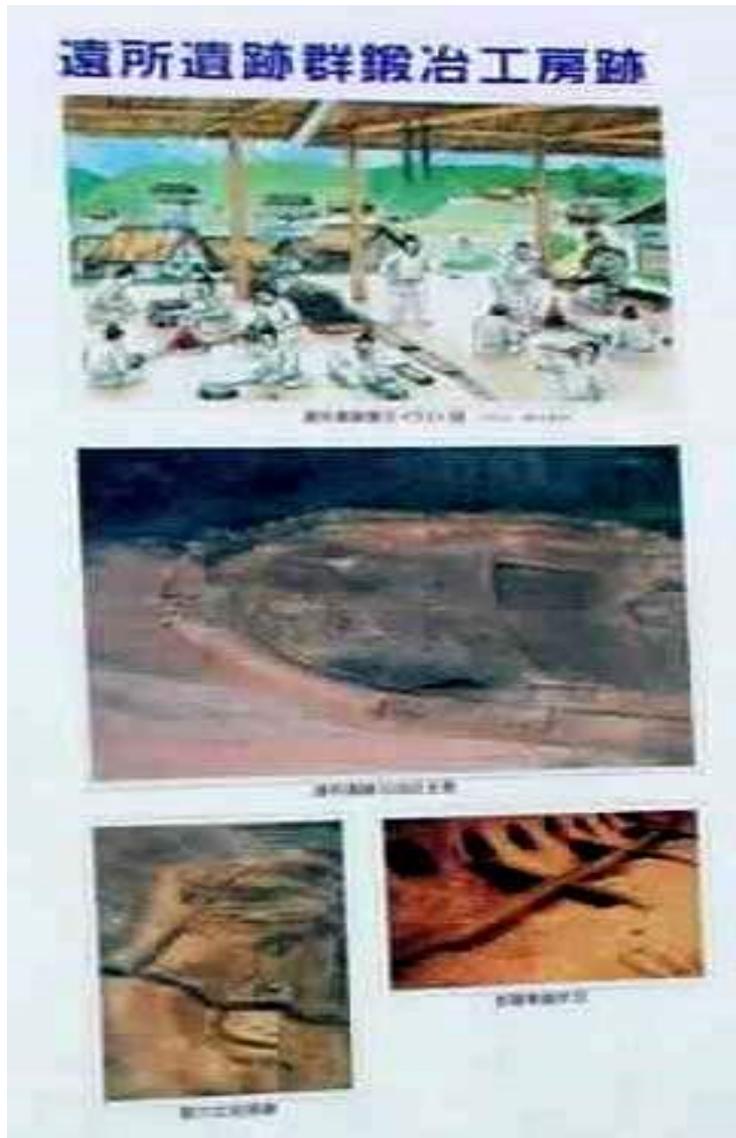
現在のところ、製鉄炉・鍛冶炉・炭窯・古墳・住居跡などが確認され、生産と生活の場が同じだったことや、約百人がこの一帯で作業し、高度な技術で一日に1kgの鉄が長期にわたって生産されていたと推定されている。

この遠所遺跡の東側に隣接して8世紀後半ならびに9世紀後半～10世紀初頭の製鉄炉を有する製鉄遺跡「ニゴレ遺跡」がある。また、遠所遺跡から東側竹野川の対岸の丘陵には8世紀中期から9世紀前半の製鉄炉・炭窯などを持つ黒部製鉄遺跡がある。

6世紀後半遠所遺跡で始まった丹後の国のたたら砂鉄精練が8世紀後半最盛期を迎え、黒部遺跡・ニゴレ遺跡へとほぼ同じ地域で連続と続いて行く。この竹野川中流の弥栄町鳥取・木橋の地域はまさに丹後の国の一大製鉄地帯であった。

遠所遺跡では、特に製鉄炉の出土は重要で周辺の他の製鉄遺跡が鍛冶炉の単独遺跡であるのに対し、多数の製鉄炉鍛冶炉の両方を有する原料から鉄製品までの一貫製鉄生産が数世紀に渡り、大規模に行なわれている事は他の地域では見られない大きな特徴で、日本における大規模な一貫製鉄生産はこの丹後の国遠所遺跡で始まったといっても過言でない。

出雲など他の山陰地方での古代製鉄においても遠所遺跡のごとく同じ場所で大規模に行なわれた例は見られない。また、この遠所遺跡での鉄原料が丹後地方の砂鉄ではなく、他の地域から大量に持ち込まれたものであることと考えあわせると、畿内大和朝廷にとってこの製鉄コンビナートが極めて重要な国衛工房であったことと良く符号し、奈良時代後半まで国衛工房として維持されたと見られている。



遠所遺跡立看板より

古代 当時の鍛冶工房の様子と鍛冶製鉄炉跡

### 11.3. 遠所遺跡の製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷

日本最初の大規模一貫製鉄コンビナート  
yskafe.htm by Mutsuo Nakanishi 2000. 6. 9.



図 遠所遺跡と製鉄炉発見場所

ここ遠所遺跡群では製鉄炉が4ヶ所から見ついている。(O地区 A地区 E地区 S地区)  
遠所遺跡では精錬滓その他の出土から5世紀末~6世紀初頭にかけて製鉄を行っていたと推定されているが、製鉄炉遺構そのものの発見は遺跡中央の谷間のO地区水田面から発見された6世紀頃半の古代製鉄炉遺構が最も古い。

その後 空白期があり、8世紀後半の遺構として、丘陵先端部をL字形にカットした扇形の平坦部(A地区)や丘陵谷部の平坦地(E,S地区)に構築された製鉄炉遺構発見されている。

(京埋セ遠所遺跡現地説明会資料 89-07, 90-04, 90-12より)

#### 1. 日本で発達した古代製鉄炉の形式



古代の製鉄炉には箱型炉と縦型炉があり、西国では箱型炉 東国では竪型炉が当初発達した。箱型炉は6世紀吉備の国ではじまり、西国・畿内から全国に広がったと言われている。

丹後の国でも遠所遺跡に見られるごとく6世紀後半には箱型炉での製鉄が発達した。

一方 竪型炉は8世紀初頭関東ではじまり 東北へ展開されて行く。

図 古代製鉄炉推定 箱型炉と竪型炉

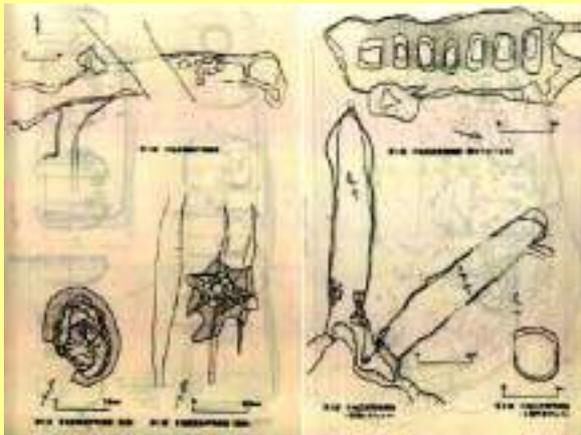
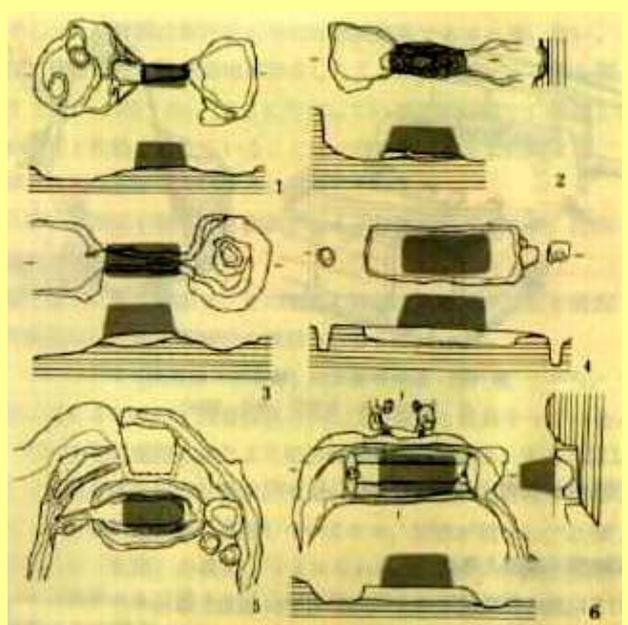


図 丹後国 箱型製鉄炉精練

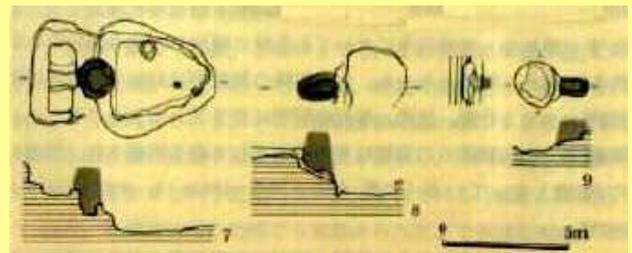


古代・中世 各地の箱型炉

行方製鉄の最盛期 (8世紀後半～9世紀前半)



図 箱型炉 炉と天秤鞆のイメージ図



古代・中世 各地の各種製鉄炉

図 古代・中世におけるさまざまな製鉄炉

第11図 古代・中世におけるさまざまな製鉄炉

1福岡早良瓦下遺跡 (7世紀後半) 2千葉県若林1遺跡 (8世紀前半) 3福岡県  
向田石遺跡2号炉 (8世紀前半) 4富山県石太郎C遺跡 (9世紀前半) 5広島県  
大矢遺跡 (11世紀) 6広島県石神遺跡 (14世紀中～15世紀前半) 7福直原高田C  
口遺跡1号炉 (9世紀前半) 8青森県大館森山遺跡3号炉 (9世紀後半～19世紀)  
9熊本県大津遺跡 (8世紀)

1～6は箱形炉、7～9は壺形炉である。1は古墳時代後期に吉備地方で成立した炉から発達したもので、当時の最先端技術として最初に各地に伝えられた炉である。その後、箱形炉は各地でさまざまに展開し、とくに中国地方では近世たたら製鉄の成立に向けて独自に発展する。壺形炉もまた全国に拡がり、地域ごとに定着の在り方が異なる。なおトーン部分は炉の大きかな位置を示し、正確な形態・大きさを示すものではない。

## 2. 遠所遺跡の製鉄炉と丹後の国の製鉄炉の変遷



図 遠所遺跡と製鉄炉発見場所

### 2.1. 遠所遺跡 O 地区出土の 6 世紀頂半の製鉄炉



6 世紀後半出土の製鉄炉【溝付き箱型製鉄炉】略図

O 地区から発見された製鉄炉は大部分削られていたが、浅い彫り込みと基礎となる石組部分が見つかり、方形の箱型炉であった。この製鉄炉の南側の地形が急に落ち込み、鉄滓や炉壁が大量に捨てられていた。製鉄炉の床面に 3 列計 8 石の敷石が残存し、内部は粉炭層が充填され防湿の配慮がなされている。

### 2.2. 遠所遺跡隆盛時の製鉄コンビナート A 地区 8 世紀後半出土の製鉄炉遺跡

丘陵先端部 A 地区からは 8 世紀後半の製鉄炉 5 基のが見ついている。

この地区からは炭窯や須恵器焼成窯や掘立柱建物 竪穴住居などが出土。

その遺物は 6 世紀末から 10 世紀にわたっていますが、大半は 8 世紀後半のものでした。

製鉄炉は丘陵裾部分を「L」字型にカットした平坦部に作られており、花崗岩の岩盤を掘り、炉の基礎にしたもので長さ 2.0Mx 幅 0.3Mx 深さ 0.1M が赤く変色。この彫り込みに粉炭層が充填されている。

同じような丘陵の傾斜地 E 地区からも 8 世紀後半の製鉄炉 1 基が見ついている。

8 世紀後半は奈良時代後半にあたり、遠所遺跡での製鉄が最も隆盛を極めた時代である。

また この地域や隣接地域からの砂鉄の貯蔵穴や鍛冶炉の発見 製鉄精練や鍛冶精練滓の出土により、この地域ではこの時代 原料から製鉄精練 鍛錬 製品加工までの一貫生産が大規模に行われていた事が判った。

### 2.3. S 地区 奈良時代後半の製鉄炉出土

丘陵谷間の平坦地(S 地区)から製鉄炉が出土。しかし、周りからは鍛冶炉は出土せず、ここで作った鉄を A 地区などに運んで鍛冶・加工していたと推定されます。

### 3. 遠所遺跡の製鉄炉につながる黒部遺跡・ニゴレ遺跡製鉄炉の変化



6世紀後半の製鉄炉出土以降遠所遺跡では8世紀後半まで遠所遺跡では製鉄炉が見つかっていない。

この空白期埋める製鉄遺跡として竹野川の対岸 黒部製鉄遺跡があり、8世紀中頃～9世紀前半にかけて12基の製鉄炉が出土。また8世紀後半遠所遺跡A地区の製鉄炉4基ほか隣接するニゴレ遺跡(主に9世紀後半～10世紀主に)から9基の製鉄遺跡が発見。

これら丹後半島弥栄町の竹野川中流域の丘陵地に存在した一大製鉄コンビナート古代古墳時代から日本誕生・大和朝廷の勢力を支え、そして 奈良時代後半衰退していった丹後の国

の製鉄コンビナートの変遷が明らかになった。製鉄炉から見るとこの地域における製鉄精練は6世紀後半から9世紀にかけて『遠所遺跡 黒部遺跡 黒部・遠所遺跡 ニゴレ遺跡』へと移って行った。この間、鉄の生産量が激変するとともに製鉄炉の大きさ・形式も大きく変わり、さらに精練に用いられた砂鉄原料も大きく転換している。

#### 3.1. 遠所遺跡の製鉄炉

下部構造を持つ大型箱型炉

6世紀後半及び8世紀後半の製鉄炉はいずれもU字型に溝をほりそのなかに粉炭層を引き詰めた下部構造を持ち、長さ2.0Mx幅0.3Mx深さ0.1Mの比較的浅いが大きな下部構造でその上に築造される箱型炉も大型であったことが推定される。

#### 3.2. 黒部遺跡の製鉄炉

下部構造を持つ大型箱型炉

下部構造を持たぬ小型箱型炉へ

黒部製鉄遺跡は8世紀代特に大半は8世紀後半の遺跡で9基の製鉄炉が出土している。

この製鉄炉の大半は遠所遺跡でみられる炉底に溝を持つ下部構造のある箱型炉であるが、9世紀前半の製鉄炉として下部構造の無い小型炉も同時に出土。

この遺跡では二つの形態の製鉄炉が同時期に存在していたことが判った。

下部構造を持たない製鉄炉では自然のくぼみに粘土が充填されており、平坦化されたその上に炉が築造されたと考えられている。

また 出土した遺物の分析からこの2つの形態は9世紀前半並存していたことが判明しています。



黒部遺跡で見つかった  
「下部構造有り(左)・無し(右)」  
両タイプの製鉄炉

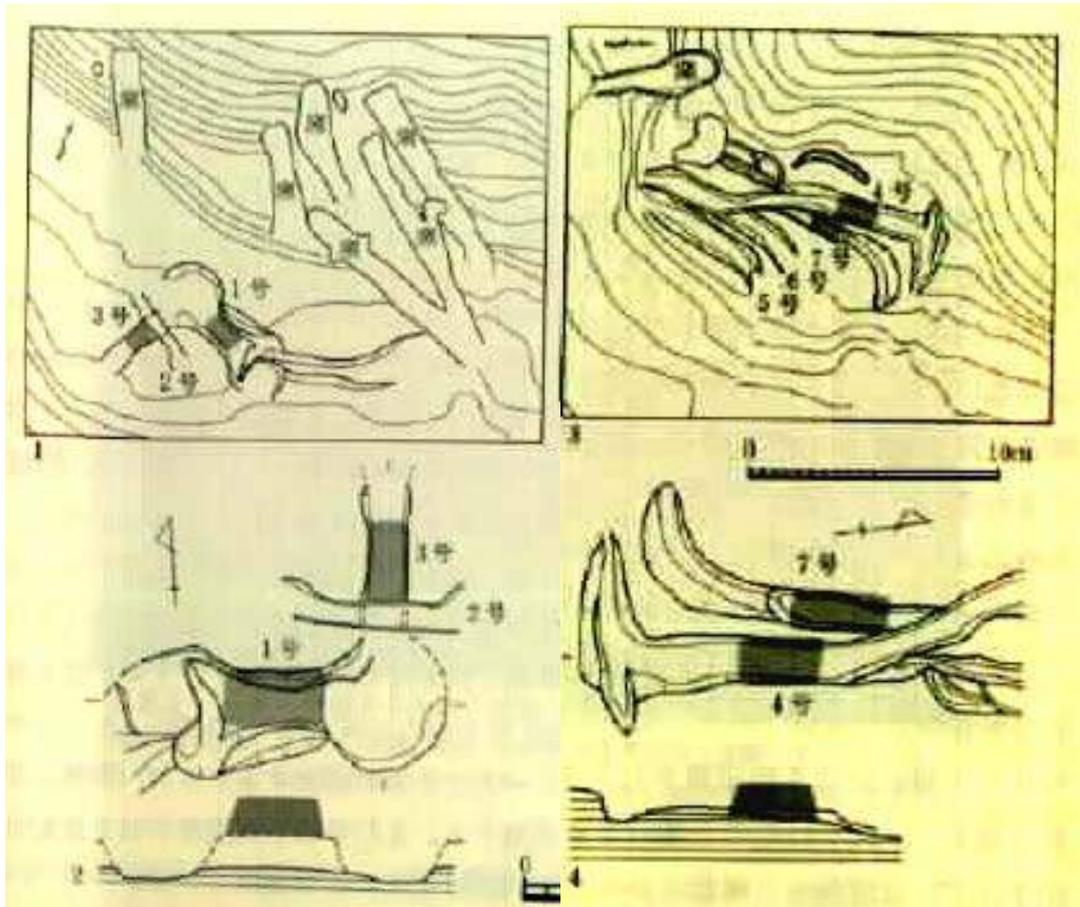


図 下部溝を持つ大型箱型製鉄炉  
8世紀後半～9世紀

図 下部溝の無い製鉄炉 連続移動  
8世紀中～後半

### 3.3. ニゴレ遺跡



遠所遺跡に隣接する製鉄遺跡で8世紀後半の下部構造を有する大型箱型炉と10世紀前半の下部構造を持たない小型炉が出土している。下部構造を持つ製鉄炉で長さ4.5M X 幅1M X 0.5Mの下部構造を持ち粉炭層が敷き詰められており、遠所遺跡にみられる大型の箱型炉である。一方10世紀前半の遺構である下部構造を持たぬ製鉄炉では、一辺が約80cm程度で徐々に山手へずらしながら築きなおしている。

以上のごとく 遠所遺跡で始まった丹後の国の古代製鉄は8世紀後半 大和朝廷の国衙製鉄コンビナートとして箱型の大型炉と鍛冶炉を備え遠所・黒部遺跡で全盛を迎える。

この時期には他の地域から大量にチタン系の砂鉄が持ち込まれ、鉄の大量集中生産が行なわれると共に鉄製品への加工も集中して行なわれた。出来あがった鉄の製品・半製品は若狭から近江の国に集められ、琵琶湖岸から飛鳥・奈良へ送られていった。

9世紀後半～10世紀にかけて大和朝廷の基盤が固まり、畿内での鉄の需要の変化 また他の国からの鉄が畿内に入ってくるようになり、丹後の国の鉄の価値が相対的に衰退し、それに伴って製鉄炉は小型小規模になり、製鉄原料も丹後の国国内産のものがかかわれるように変化する。

この丹後国の製鉄の衰退時期と呼応して 東北地方の蝦夷征伐にたいする東国における鉄の需要は大きいたかまり、福島県原町金沢にある金沢製鉄遺跡は畿内大和朝廷の兵器庫「行方の製鉄」として隆盛を極める事となる。

日本誕生とその後 大和朝廷の勢力の伸展と密接に鉄が関わり、日本誕生におおきな役割を果たした古代山陰の鉄の王国はその役割を終えて「鉄の道」の重要性は北・東国に移って行く。

いまは静かな田舎の風景がひろがる丹後半島。

「山高く、水清く、人うるわし」 日本一の国として父が自慢していた丹後の国に色々歩いてみると日本誕生の歴史を作った「Iron Road 鉄の道」があった。

小さい時に良く行った丹後の地の展開に自分なりに驚いている。

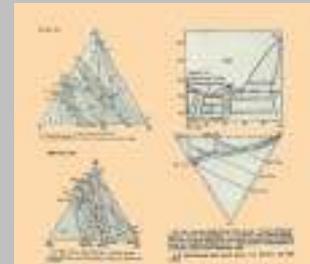
By Mutso Nakanishi 2000. 6. 7.

## 11.4. 遠所遺跡 高チタン系砂鉄原料の謎

### 他国産砂鉄原料での精

現在の溶接材料精練に生きる高チタン系

yskati.htm by Mutsuo Nakanishi



京都府埋蔵文化財研究センターでの遠所遺跡発掘調査報告によれば、製鉄原料として使われた砂鉄に極めて特異な特徴が見られる。

「6世紀後半の製鉄炉が発見された「0地区」をはじめ、遠所遺跡の各所で発見される砂鉄は、丹後半島で現在採取される砂鉄とは異なり、極めて高いチタン酸化物を含んでいる。一方、丹後地方で得られる砂鉄はチタン酸化物量が少ない。他の地域から砂鉄原料が持ち込まれている。」

この様に丹後地方には沢山の砂鉄原料がありながら、他の地域から大量の高チタン系砂鉄が持ち込まれ、製鉄がおこなわれたのはなぜか？

しかも、後世では 高チタン系砂鉄は使いにくいとされ、低チタン系砂鉄の産地に製鉄業そのものが出ていっているのに……。

また、丹後での製鉄が衰退してくる9世紀には丹後地方で産出される低チタン系の砂鉄へと代わっている。 興味の有るところである。

一般にチタン酸化物は、溶融点が高く、溶融しにくいばかりでなく、溶融して出来た滓が非常にネバく、精練時に「棚つり」現象などのトラブルを起こしやすいことから、後世では、チタン酸化物の多い砂鉄は嫌われてきた。特にたたら製鉄法が大きな飛躍をとげた近世江戸時代、チタン酸化物含有量の少ない出雲の砂鉄が他地域を次第に陵駕してゆき、出雲・中国地方が製鉄の中心地となった。

また、大陸から朝鮮半島を経て日本へ伝わった製鉄技術は当初 チタン酸化物含有量の少ない鉄鉱石原料を用いられていた。そして、日本で大量にある砂鉄に出会い、砂鉄を原料とした製鉄へと変遷して行く。朝鮮半島から吉備地方に伝わった箱型炉製鉄が日本国内に豊富にある砂鉄と出会い、「たたら」製鉄の原型である砂鉄による箱型炉製鉄法がこの遠所遺跡で大コンビナートとして花開く。

これとても、今のところ この砂鉄精練の始まりについても良く解っていないのが現状である。この砂鉄を原料とした古代たたら製鉄は日本海沿岸の山陰出雲・伯耆・丹後を経て越の国まで広がって行く。

一方 鉄鉱石を原料とした製鉄法は吉備の国から畿内河内国の製鉄法として、大和朝廷成立前後の我が国製鉄初期段階では重要な役割を果たした。

また このような箱型炉の歴史とは別に東国の国々を中心に縦型炉も日本に伝えられ、特に東北地方では縦型炉による鉄鉱石精練が製鉄の中心として発達してきた。

しかし、砂鉄原料埋蔵の豊富さから 次第に砂鉄原料による生産に変化をとげ、近世には奥出雲を中心とする中国地方での「たたら製鉄」へと次第に集約されて行くのである。

1. 遠所遺跡から出土した砂鉄の主要成分分析値
2. 遠所製鉄遺跡の原料は他国から持ち込まれた高チタン系砂鉄
  - ・ 丹後半島近傍の砂鉄は低チタン低塩基性成分砂鉄
3. 高チタン系砂鉄の熔融温度と塩基性成分の影響
4. 現在の溶接材料精練に生きる高チタン系滓

## 1. 遠所遺跡から出土した砂鉄の主要成分分析値

- ・ 丹後半島近傍の砂鉄は低チタン低塩基性成分砂鉄

遠所遺跡から出土した砂鉄の主要成分分析値

**表 丹後半島遠所遺跡で出土した砂鉄の分析値**

マーク	試料	出土位置	推定年代	Total Fe	FeO	Fe2O3	SiO2	MgO	CaO	TiO2	C	V	系
T-9013	砂鉄	【製鉄炉】	6世紀後半	56.24	24.76	52.88	4.51	3.34	1.75	10.61	0.55	0.24	高チタン系
T-9014	砂鉄	E 西川津場	6世紀後半	40.05	19.97	54.42	2.89	2.97	1.66	22.60	0.18	0.24	高チタン系
A-9	砂鉄	A 砂鉄埋納土坑	8世紀後半	50.8	26.9	54.0	1.57	2.28	1.20	12.5	0.07	0.29	高チタン系
T-905	砂鉄	A 製鉄炉	8世紀後半	65.30	23.57	67.17	1.90	1.94	0.62	3.48	0.04	0.22	中チタン系
A-10	砂鉄	A 自然堆積	縄文	68.1	21.5	72.9	2.02	1.39	0.32	0.70	0.10	0.16	極少塩基性成分
M6D-3	砂鉄	M6 土坑	8世紀後半	46.90	22.92	41.59	1.20	1.66	1.39	10.66	0.05	0.27	高チタン系
T-9015	砂鉄	E 製鉄炉	8世紀後半	60.59	24.02	59.92	2.12	2.29	1.10	9.57	0.11	0.26	高チタン系

(京都府立総合資料館 報告書 NO. 21, P. 112 大沢正巳氏「遠所遺跡出土製鉄関係遺物の金属学的調査」より抜粋)

● 8世紀の丹後半島での製鉄遺跡から出土する砂鉄のチタン含有量は数%以下となり、丹後半島近傍の砂鉄へと原料変化が疑われている。

遠所遺跡で製鉄が始まった6世紀後半の製鉄原料は出土する砂鉄・製鉄滓から他国から持ち込まれた数種類のチタン酸化物含有量の異なる高チタン系の砂鉄が使われていた。丹後半島にも砂鉄原料があるにもかかわらずである。

日本各地の砂鉄の主要成分分析値

**表 14 砂鉄成分**

	T-Fe	TiO <sub>2</sub>	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	P	S	Cu	Cr
青森 大 畑	56.84	13.78	3.75	6.28	0.37	0.054	0.057	0.002	0.023
天間林	58.80	11.00	6.00	2.00	—	0.045	0.020	0.019	痕跡
麻 代	53.00	12.50	6.00	2.75	0.50	0.130	0.040	痕跡	痕跡
三 沢	53.30	13.00	7.50	3.00	0.45	0.180	0.030	0.005	0.070
千葉 飯 岡	57.15	10.50	4.85	2.35	0.49	0.030	0.030	0.003	0.025
鳥根 飯 石	56.64	0.81	13.96	3.32	0.37	0.047	0.053	痕跡	—
仁 名	67.46	1.63	2.74	0.42	0.64	0.005	0.033	0.058	—
北海道中ノ沢	59.22	8.51	4.42	—	0.59	0.135	0.029	0.002	—
蟹 別	55.85	8.19	8.26	—	0.50	0.138	0.034	—	—

日本鉄鋼協会編『製鉄製鋼法』地人書院

遠所遺跡では、古代他国の製鉄と較べても非常に大規模な製鉄が数世紀にわたって同一場所で行なわれ、製鉄から鉄製品の加工にいたる一貫製鉄が行われていた。また この地域は畿内大和へ最も近い地の利を生かした大和朝廷の国衙製鉄工房であった。

これらの事を考えると大和朝廷の勢力の源泉として、各地から原料が大規模に集

められたとしても不思議ではない。むしろ この国産製鉄工房の重要性を考えるとそれは妥当とも言える。しかし、後世の大規模精練の知恵・技術からすれば なぜ 砂鉄精練が厳しい高チタン系の砂鉄原料が使われたのであろうか・・・？

## 2. 遠所製鉄遺跡の原料は他国から持ち込まれた高チタン系砂鉄

砂鉄原料には チタン酸化物が含まれることが多いわけであるが、丹後国の砂鉄はチタン酸化物が少なく、また出雲を含め、中国地方にはチタンの少ない砂鉄・製鉄原料がある。吉備に伝わった最初の頃の製鉄もチタンの少ない鉄粉鉱(チタンの少ない山砂鉄)ではないかと推定される。

それなのに、なぜ 各地から高チタン系の砂鉄を集めなければならなかったのか????

高チタン系砂鉄を必要とする必然があったと考えるのが妥当であろう。

遠所遺跡での製鉄は当時としては他国 出雲・伯耆国などと較べても何処よりも大規模であり、当時の大規模生産には後世の大規模生産とは違った理由で高チタン系砂鉄の方が向いているのではないかと・・・

### 1. 高チタン砂鉄の方が溶融点が低いのではないか

チタン酸化物単独では高温でしか溶融しない。当時既に 1400 を越える高温が得られる技術があったとは言え、厳しいと考えられる。

しかし、鉄酸化物との共存領域では鉄酸化物単独より溶融点が低くなる領域がある。

高温を得にくい古代の状況では、滓粘性が高く棚つりを生じ易いなどの欠点があってもメリットがあったのではないだろうか???

遠所遺跡から出土した鉄滓の組織からイルメナイトやルチルの結晶が大量に含まれており、少なくとも 1400 を越える温度が得られてする。

このような操業温度領域ではチタン酸化物との共存で砂鉄は溶融点がさがり、流動性が増し、精練が容易になったと考えられる。

### 2. 砂鉄に含まれる塩基性成分(CaO+MgO)が砂鉄の自溶性をもたらす

また チタン酸化物の他の成分との固溶状態を示す状態図を調べるとチタン酸化物と MgO CaO などの塩基性成分が混合されると少量であっても、その溶融点は著しく低下している。従って、チタン酸化物と同時にこれら塩基性成分が混じっていれば 溶融点は非常に安定して下がり、砂鉄の自溶性が促進され、高温が得にくい古代の状況下においてはスムーズな砂鉄の溶解精練が行なわれる。

鍵はチタン系というより、高塩基性成分含有による自溶性に有ると考えると矛盾なく説明できる。

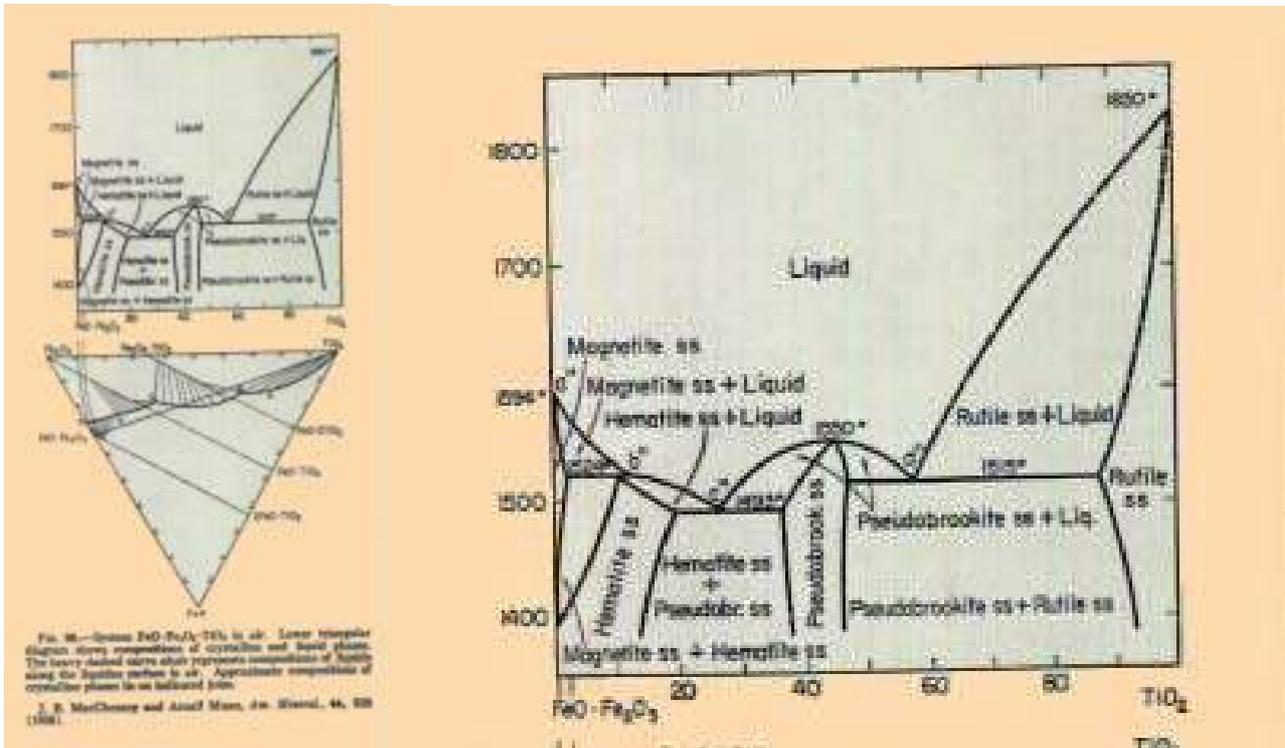
丹後国の砂鉄は低チタン系であると同時に塩基性成分の含有量が少ないといわれており、溶解初期には安定した砂鉄溶融が進まず、比較的低い温度での精練にはむしろ不都合と考えられる。

また、このような溶融状況をチタン酸化物や塩基性成分が支配すると考えると、出雲の近代たたら製鉄でも製鉄の初期にはチタン含有量の多い「赤目 浜砂鉄」を用い、溶融が安定してくると「山砂鉄」に切替えて行くと聞く。

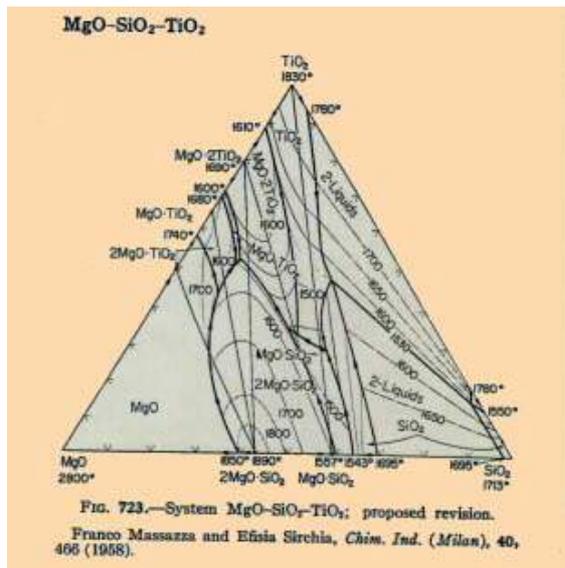
独断と私見ではあるが、古代における比較的小規模での大量精練ではむしろ比較的低温での溶融がスタートすると考えられる不純物成分の多い高チタン系砂鉄が使われたと考えられる。

遠所遺跡で使われた高チタン系砂鉄もそのチタン含有量に限って言えば、20 数%含有の超高チタン系 10% 程度の高チタン系 数%含有の中チタン系など数種類の物が使われており、厳しくチタン含有量が制限されていた訳でもない。

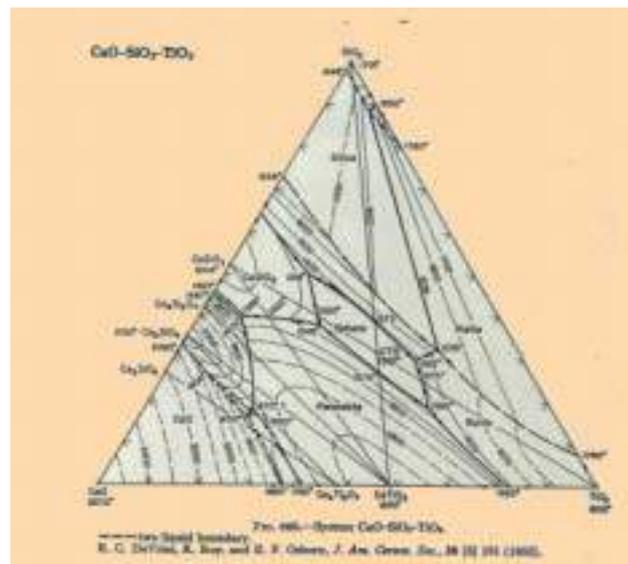
### 3. 高チタン系砂鉄の溶融温度と塩基性成分の影響



TiO<sub>2</sub> 添加の影響 【溶融滓の粘性増・溶融点変化】



塩基性成分 MgO 添加の影響  
【急激な溶融点の低下】



塩基性成分 cao 添加の影響  
【急激な溶融点の低下】

#### 4. 現在の溶接材料精練に生きる高チタン系砂鉄滓

他国の高チタン砂鉄を持ち込んでの大量生産。これがこの丹後国遠所遺跡での国衛製鉄コンビナートの役割だったに違いない。

事実 9世紀後半 国衛製鉄コンビナートの役割を終え衰退して行くとその製鉄原料は自国産の低チタン砂鉄原料にかわりまた、製鉄炉も小さな物に変化している。

これらの経過をみるとこの丹後の国の一大製鉄コンビナートが大和朝廷直営の製鉄コンビナートとして 極めて重要であり、日本誕生に大きな影響を与えた事が判る。

また、陸から日本海沿いに山陰をとおり丹後から若狭を経て熊野本製鉄遺跡・琵琶湖近江へそして飛鳥へ続く道こそが、日本誕生を支えた「鉄の道」「文化の道」でなかったか・・・・・・・・。

また 高チタン系の砂鉄は後世の「たたら製鉄」では嫌われ者となったが、チタン酸化物を含む溶融滓が精練に重要な働きを有している事は現在も変わらない。

今回遠所遺跡の精練滓の資料 特にチタン酸化物の重要性の指摘により、今まで不思議にも思わなかったのであるが、今実際に使われている溶接材料の基本滓系として、チタン酸化物が広く使われ、溶接ビード形成に重要な働きをしている事に気づいた。

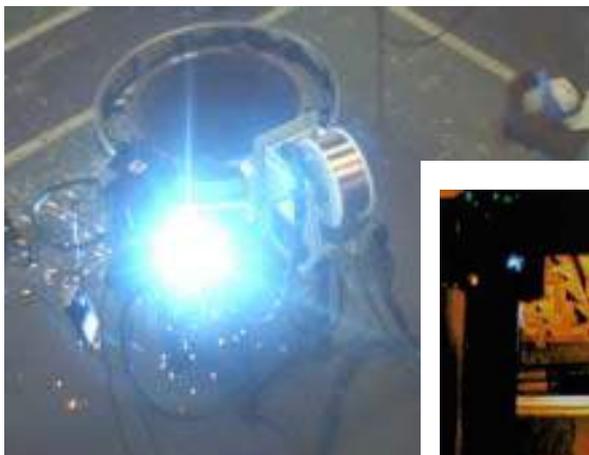
チタン酸化物の結晶系であるルチル系やイルミナイト系被覆アーク溶接棒や全姿勢ルチル内蔵フラックス充填 CORED WIRE などである。これらの溶接スラグ系はチタン系砂鉄精練と驚くほど似通っている。高チタン砂鉄のスラグの考え方は溶接の中に今も連綿とつながっている。

溶接の勉強を始めた頃 接合の起源は「奈良の大仏にあり」と大阪大学の西先生に教えてもらいましたが、溶接材料ではさらに遡って古墳時代 この遠所遺跡の高チタン砂鉄の精練にその原型がみられるのではないのでしょうか。

#### 【参考資料】

京都府遺跡調査報告 第21冊「遠所遺跡」1997 財団法人 京都府埋蔵文化財調査センター

by Mutsuo Nakanishi 2000. 6.8.



## 11.5. ニゴレ製鉄遺跡探訪

弥栄町鳥取郷

1993. 10. 10.



丹後地域の古代製鉄遺跡群 竹野川中流 製鉄関連遺跡



私がこの丹後の国の大製鉄地帯 弥栄町木橋・鳥取地区を訪問したのは1993年の秋 10月。

弥栄町木橋で製鉄遺跡が発見されたと聞き、家内と二人で雨上がりの午後訪ねました。

街の中心にある弥栄町役場に寄って、それから北に山合の丘陵地帯に入っていました。静かなひっそりとした「鳥取」の集落を抜け山間にかかるところが遺跡でした。ちょうどニゴレ遺跡の発掘調査の真っ最中。

誰もいない調査中の遺跡の中に出土した鉄滓などの箱が幾つも積上げられ、丘陵地の谷間の山肌や山裾に製鉄炉跡や炭窯跡が発掘されていた。

ほんとにひっそりとした山間の地であるが、古代にはこの

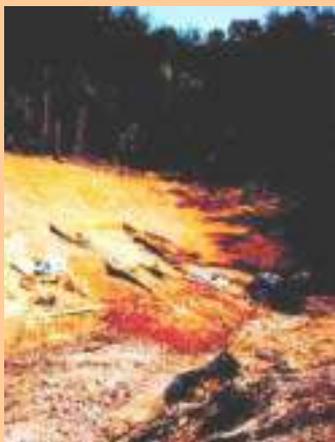
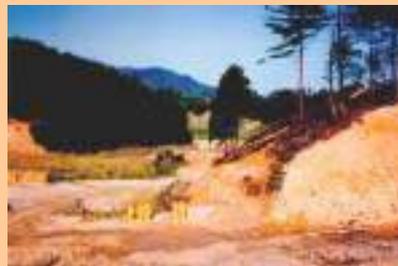
山間の地に多くの人が働き、またこのひっそりと静まり返った街道も畿内への主要街道として「鉄」を運んだに違いないとイメージを膨らませました。

この集落が「鳥取」という地名に鉄の地名に鉄の故郷といった感じを強く持ったのを覚えています。



**ニゴレ製鉄遺跡  
発掘調査現場【1】**

1993.10.10.



**ニゴレ製鉄遺跡 発掘調査現場【2】 1993.10.10.**

## 追伸 遠所・ニゴレ製鉄遺跡の今

2000.8.26.



丹後 味わいの郷

弥栄町鳥取郷 遠所・ニゴレ製鉄遺跡丘陵地帯の今 2000.8.26.

2000.8.26.遠所・ニゴレ製鉄遺跡の場所鳥取郷・木橋郷にまたがる丘陵地がリクレーション・リゾート施設『丹後 味わいの郷』に生まれかわり、多くの人を集めているのをテレビでみて、家内と二人でかけた。

私達がこの地を訪れたのが、1993.10.。ニゴレ製鉄遺跡の発掘調査の真っ最中であった。

今 この発掘当時の面影は全くなし。

ヨーロッパ風の建物が建ち並ぶ街が再現され、観光バスや車が行き交うリゾート地に変身。どこか一角に製鉄遺跡のモニュメントでも有るかと思っただが、それもなし。

背後にある遠所遺跡の1ブロックのみが、埋め戻されて残されていた。

ちょっと寂しい感じがするが、この都会から離れた過疎の山里での生活を考えると仕方のないことと割りきってはみたものの同じような施設が日本各地にバブルのように出来ている事思うと失われた物の重さ感じる時がくるのでは・・・との感傷もある。

もっとも、味わいの郷でドイツビールを飲みソーセージをほうばり、かつてドイツで同じような事をしたことを懐かしんでいたのも自分。



2000.11.10. by M.Nakanishi 追加

もう一つの邪馬台国 『鉄の道 iron road』  
山陰の鉄の大王国 丹後の国の製鉄コンビナート 遠所遺跡  
〔完〕

**和鉄の道・Iron Road Since 1999**  
**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**2000-2001** HP開設時の記録

**和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて**  
**日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録**  
**2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録**  
 bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
 by Mutsu Nakanishi

〈 第二分冊 2001 〉 File

Iron Road [1] 2000  
 1996.10-2000.8



2001. 8. 15.

Iron Road [2] 2001  
 2001-2002. 4



2002. 6. 1.



## 『Iron Road 和鉄の道』【1】

はじめに

M.Nakanishi home page 『IRON ROAD 和鉄の道』

日本誕生とたたら 歴史雑感 『IRON ROAD と日本誕生のロマン』  
 出雲と新羅・朝鮮との関係 -スサノオ伝説とたたら-  
 たたら製鉄の起こりと発達  
 「たたら」製鉄 日本古来の砂鉄製鉄法

## 『IRON ROAD 和鉄の道』【1】

1. 『和鋼・たたら』との出会い  
 【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
2. 日本人のルーツと「和鉄の道 Iron Road」の接点を求めて  
 『弥生人の源流を探る =西から東へ=』土井ヶ浜シンポジウムの周辺で
  1. 山口県土井が浜弥生遺跡 と 「土井が浜シンポジウム」
    - 1.1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム
    - 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』
    - 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認  
 -日 中調査団 ルート論争に一石-
  2. 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて
  3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』
  4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来
  5. 『ヤマトノオロチを退治したスサノオノミコトは朝鮮からやってきた』
  6. 出雲と朝鮮新羅の関係 ・ 日本誕生とたたら 歴史雑感・
3. 岡山県 富村 鍛冶谷たたら 【鍛冶谷たたらと初花】
  1. 富村鍛冶屋谷 たたら遺跡
  2. 『初花 - ほとばしるたたら溶鉄の造形 - 』
4. 古代畿内勢力 蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡  
 【黄金吹く「行方製鉄遺跡」】
  1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
  2. ヒタカミ「日高見(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
  3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城遺跡」
5. 山陰の古代鉄の大王国 伯耆国  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -  
 【溝口の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】
  1. 『鉄の伝来をもたらし古代 山陰鉄の王国の出現』  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
  2. 『古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡』 -鳥取県淀江町・大山-
  3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯

6. 津軽の古代鉄の大王国
  - 【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津軽の製鉄地帯】
  - 1. 鬼伝説と古代製鉄
  - 2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
  - 3. 空沢製鉄遺跡群 鱒ヶ沢町湯舟 と 「鬼伝説」
  - 4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湊
7. 東北 秋田・青森 縄文のストーンサークル
  - 【縄文人の心を映すストーンサークル】
  - 1. 縄文のストーンサークル これも iron road
  - 2. 秋田県 鹿角市 大湯 ストーンサークル
  - 3. 青森県 青森市 小牧野 遺跡
  - 4. 青森県 青森市 山内丸山 遺跡 ストーンサークル
  - 5. 秋田県 鷹巣町 伊勢堂 岱 遺跡
8. 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」
  - 【鬼沢の鬼神社 十腰内巖鬼神社を訪ねて】
  - 1. 「弘前ねぶた」
  - 2. 「鬼沢のねぶた」出陣へ
  - 3. 岩木山の鬼伝説
  - 4. 鬼神社 巖鬼山神社を訪ねて
9. 山口県のたたら 美祢河原上たたら遺跡
10. 丹後国の古代鉄の王国
  - 【天女の通った道は鉄の道 【羽衣伝説】】
  - 1. 丹後国 古代 鉄の王国
  - 2. 「羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道」
  - 3. 弥生時代 3 世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂・今井墳丘墓遺跡
  - 4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳
11. もう一つの邪馬台国 丹後国
  - 【大陸と日本を結ぶ古代丹後の国の大製鉄加工基地遠所遺跡】
  - 1. もう一つの邪馬台国 -丹後の国の重要性-
  - 2. 弥栄町 遠所製鉄遺跡 - 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート -
  - 3. 遠所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷
  - 4. 遠所遺跡原料 高チタン系砂鉄の謎
    - 現在の溶接材料につながる高チタン滓系 -
  - 5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪

## 『Iron Road 和鉄の道』【2】和鉄探訪

- □ 絵 1 Iron Road 和鉄の道 和鉄の技
- □ 絵 2 日本各地の鬼伝説
- □ 絵 3 古代 和鉄の歴史

## 『Iron Road 和鉄の道』【2】和鉄探訪

1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋
  1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋  
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 WALK
  2. 金屋子神社と金屋子神 神話  
古代製鉄の神 金屋子神の総社 島根県 広瀬町 WALK
  3. 兵庫県立歴史博物館〔1〕  
「千種鉄 たたら」 ビデオライブラリー
  4. 兵庫県立歴史博物館〔2〕  
兵庫歴博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」  
－中国伝来の弥生 鑄造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた－
2. 古代「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
古代出雲の国謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡
  1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
  2. 荒神谷遺跡 探訪
  3. 加茂岩倉遺跡 探訪
  4. 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎
3. 久しぶりに訪れた 房 総 九十九里 砂鉄の浜 飯岡浜
4. 接着・接合の原点 縄文の石鏃について「アスファルト」
5. 接合のルーツ 「漆」・「アスファルト」を見る ー「発掘された日本列島 2001」展ー  
日本固有「木の文化の加工技術」として
6. 鬼の住む山 京都府 大 江 山 Walk ー 大江山の鬼伝説に  
『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきたてて ー  
oeyma.htm by M. Nakanishi
  1. 鬼が住む山 大江山へ ー古代 iron road の夢のせてー
  2. 鬼の住む山 大江山 walk
  3. 酒呑童子説話と大江山「鬼退治」
7. 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て ールーツの旅に現代を重ねてー
8. 岩手県 北上川流域 の 和 鉄  
蝦 夷 の 主要武器 「蕨手刀」を訪ねてー関博物館へ  
日本刀 の ル ー ツ 「舞草刀」
  1. 北上川流域の和鉄
  2. ー関博物館で
9. 2000 年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄斧  
弥生時代高度な表面脱炭処理 鉄の強靱化熱処理伝来のルーツか？

10. 日本各地の鬼伝説 「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？
  1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説
  2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」
  3. 丹後国 大江山 酒天童子伝承
  4. 吉備国 桃太郎伝承の鬼ヶ城
  5. 青森県岩木山（巖鬼山）山麓の鬼伝説
11. 「真金吹く 吉備の国」吉備国 桃太郎伝説
  1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつくられた
  2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
    - (1) 「弥生の暮らし」を持たらした大陸からの渡来人 - NHK 「日本人遥かな旅」より -
    - (2) 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」
    - (1) 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」
    - (2) 鬼ノ城 walk - 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら-

● 参 考 日 本 の 鬼 伝 説
12. 第5回 暦博国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して
 『加耶の鉄と倭国』
  1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった？ - 日本古代鉄の歴史 -
  2. 「加耶の鉄を巡る古代日本の派遣争い」それが日本を造っていった
13. 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた 近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群
  1. 滋賀県古代製鉄遺跡
  2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる
 

草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ボケバラ)遺跡
  3. 資 料 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡
  4. 製鉄技術伝来と大陸・朝鮮から伸びる鉄の道
14. 幕末 信州 武州街道沿いの現地産出の鉄鉱石原料「たたら製鉄」
 - 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk - 長野県 南佐久郡 佐久町
  1. 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk
  2. 茂来山鉄山遺跡の概略
  3. 霧久保沢から帰路 小海線 羽黒下駅まで - のんびりと山郷のWalk -

**和鉄の道・Iron Road Since 1999**  
**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**〈第二分冊 2001〉**

**和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて**  
**日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録**  
**2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録**  
bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
by Mutsu Nakanishi

**Iron Road 【2】 2001**

2001-2002.4



2002. 6. 1.





2002.6.1.



和鉄の故郷 兵庫県千種 岩鍋



出雲 斐伊川

# Iron Road 和鉄の道 『和鉄の技』



高度な熱処理による脱炭表面処理がなされた中国製の古代 鑄造鉄斧



日本刀の源流

「蕨手刀」から「舞草刀」へ



舞草鍛冶の活動

奥州の刀鍛冶たちは、月のきたえ方や使いやすさをさらに求めていきました。

蕨手刀の柄を細くくりぬいても、板形蕨手刀をつくり、やがて長くて幅づくりの薄刀、毛板形太刀に発展させたのです。この毛板形太刀は、部では直刀の正姿に変わりました。今では、この刀が日本刀成立直前のものであるとされています。このように刀の変化に大きくかわったのが奥州舞草に仕込んだと伝えられる舞草鍛冶と考えられます。

接合・接着のルーツ 赤漆・アスファルト 「発掘された日本列島 2001」展より



縄文の赤漆と天然アスファルト塊



赤漆での修復痕跡のある土偶

日本古代から脈々と続く大木の加工技術

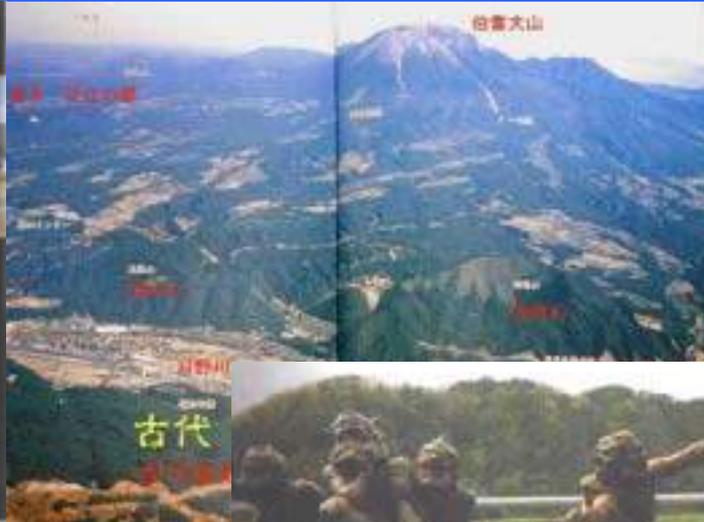
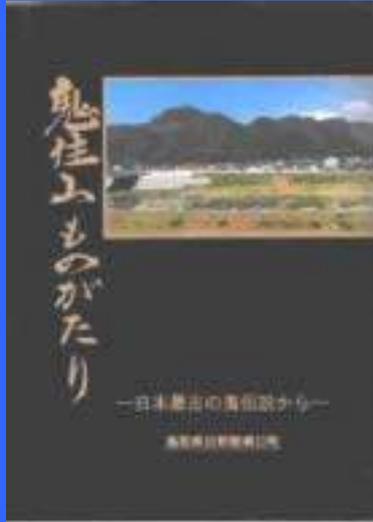


天空にそびえる古代出雲大社(推定模型)とそれを支えた宇豆柱の発掘

# 日本各地の鬼 & 鬼伝説

## 1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説

楽楽福神社の伝承



### 伯耆国 溝口 鬼住山の鬼

伯耆大山山麓 溝口

## 2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」

東北・北上地方 多賀城・胆沢城・秋田城遺跡



## 3. 丹後国 大江山酒天童子伝承

京都府 大江町



#### 4. 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼城 99.5.29.

「真金吹く 吉備の中山・・・」と歌われた吉備は 古代製鉄の発祥の地の一つ  
現在の総社市を中心とした吉備地方には古代遺跡・古代製鉄遺跡が目白押し  
この地には「桃太郎」伝説の源流「ウラの鬼伝説」と「鬼城」の遺跡がある



総社市郊外にある「鬼城」遺跡 99.5.29.



古代遺跡が広がる吉備国 ー鬼城からー



「桃太郎」伝説の吉備津彦神社

## 5. 青森県 岩木山 (巖鬼山) 山麓の鬼伝説

青森県 弘前市・鱒ヶ沢町

### 1. 巖鬼山の鬼伝説が広く伝承される鱒ヶ沢



岩木山 北麓赤倉口より



鱒ヶ沢へ流れ下る赤石川



岩木山北麓 十腰内 原生林の中 巖鬼山神社

### 2. 鬼神社と鬼沢の鬼伝承

弘前市鬼沢



鬼沢 鬼神社に掲げられた鎌等の鉄製品の献

# 古代 和 鉄 の 歴 史

BC 800	600	400	300	200	100	0	100	200	300	400	500	600	700	800	1000	1500
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
縄文晩期			弥生前期			中期	後期	古墳前期	中期	後期	飛鳥	奈良	平安	室町		
【鑄造破片再生の時代】							【本格鍛冶の時代】			【鉄の量産化の時代】↑						
日本古代 和鉄の歴史							【原始鍛冶の時代】			【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】						
							【鍛打伸展鍛冶の時代】			【鉄の多様化の時代】						

## 1. 縄文晩期～弥生前期 紀元前2世紀～紀元1世紀 【鑄造破片再生の時代】

中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鑄物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。

## 2. 弥生時代中期～後期 紀元1世紀～3世紀初頭 【原始鍛冶の時代】

薄く板状に鑄込み表面脱炭去れた素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われるようになる。

## 3. 弥生時代後期以降～古墳時代中期 2世紀～4世紀 【鍛打伸展鍛冶の時代】

中国では脆い鑄鉄鑄物ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状錬鉄が得られるようになり、脱炭鑄鉄と同時に日本にこれらが持ち込まれるようになり、これらを素材とした鍛錬加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。

## 4. 古墳時代初頭以降 初期～中期 3世紀後半～5世紀 【本格鍛冶の時代】

大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流布。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。

この当時 半島朝鮮半島の南部辰韓・加耶と倭国との交流が始り、4世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄い鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。当初3世紀には北九州に限られた鉄の先進地が5世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。

5世紀後半になると畿内には大泉遺跡のような大規模な專業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

## 5. 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5世紀末～8世紀 【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】

その始りはまだはっきりしないが、5世紀末から6世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始り、鉄素材の自給が始まった。また 国内に大量に存在する砂鉄を原料とした精錬も始り、日本での鉄自給の波が西国から東へ広がって行く。

7世紀末から8世紀には現在の福島県原ノ町近傍(行方製鉄遺跡)まで広がりさらに、9世紀には青森岩木山北山麓での製鉄が確認されている。

## 6. 奈良・平安時代 8世紀～11世紀 【鉄の多様化の時代】

竪型炉が関東・東国に出現し、大型の箱型炉や鑄物遺跡の出現など鉄生産が日本全国におよび、鉄生産の多様化が進む。本格的な鑄物生産がはじまり鉄の多様化がはじまる。

## 7. 中世 15世紀以降 【鉄の量産化の時代】

高殿たたらが鉄山経営として成り立ち 出雲など中国地方の生産が他を圧倒して行く

## 『Iron Road 和鉄の道』【2】和鉄探訪

- □ 絵 1 Iron Road 和鉄の道 和鉄の技
- □ 絵 2 日本各地の鬼伝説
- □ 絵 3 古代 和鉄の歴史

## 『Iron Road 和鉄の道』【2】和鉄探訪

1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋
  1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋  
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 WALK
  2. 金屋子神社と金屋子神 神話  
古代製鉄の神 金屋子神の総社 島根県 広瀬町 WALK
  3. 兵庫県立歴史博物館〔1〕  
「千種鉄 たたら」 ビデオライブラリー
  4. 兵庫県立歴史博物館〔2〕  
兵庫歴博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」  
－中国伝来の弥生 鑄造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた－
2. 古代「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
古代出雲の国謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡
  1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
  2. 荒神谷遺跡 探訪
  3. 加茂岩倉遺跡 探訪
  4. 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎
3. 久しぶりに訪れた 房 総 九十九里 砂鉄の浜 飯岡浜
4. 接着・接合の原点 縄文の石鏃について「アスファルト」
5. 接合のルーツ 「漆」・「アスファルト」を見る . -「発掘された日本列島 2001」展-  
日本固有「木の文化の加工技術」として
6. 鬼の住む山 京都府 大 江 山 Walk - 大江山の鬼伝説に  
『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきたてて -  
oeyma.htm by M. Nakanishi
  1. 鬼が住む山 大江山へ -古代 iron road の夢のせて-
  2. 鬼の住む山 大江山 walk
  3. 酒呑童子説話と大江山「鬼退治」
7. 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て -ルーツの旅に現代を重ねて-
8. 岩手県 北上川流域 の 和 鉄  
蝦 夷 の 主要武器 「蕨手刀」を訪ねて一関博物館へ  
日本刀 の ル ー ツ 「舞草刀」
  1. 北上川流域の和鉄
  2. 一関博物館で
9. 2000 年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄斧  
弥生時代高度な表面脱炭処理 鉄の強靱化熱処理伝来のルーツか？

10. 日本各地の鬼伝説 「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？
  1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説
  2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」
  3. 丹後国 大江山 酒天童子伝承
  4. 吉備国 桃太郎伝承の鬼ヶ城
  5. 青森県岩木山（巖鬼山）山麓の鬼伝説
11. 「真金吹く 吉備の国」吉備国 桃太郎伝説
  1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつくられた
  2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
    - (1) 「弥生の暮らし」を持たらした大陸からの渡来人 - NHK 「日本人遥かな旅」より -
    - (2) 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」
    - (1) 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」
    - (2) 鬼ノ城 walk - 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら-

● 参 考 日 本 の 鬼 伝 説
12. 第5回 暦博国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して
 『加耶の鉄と倭国』
  1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった？ - 日本古代鉄の歴史 -
  2. 「加耶の鉄を巡る古代日本の派遣争い」それが日本を造っていった
13. 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた 近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群
  1. 滋賀県古代製鉄遺跡
  2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる
 

草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ボケバラ)遺跡
  3. 資 料 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡
  4. 製鉄技術伝来と大陸・朝鮮から伸びる鉄の道
14. 幕末 信州 武州街道沿いの現地産出の鉄鉱石原料「たたら製鉄」
 - 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk - 長野県 南佐久郡 佐久町
  1. 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk
  2. 茂来山鉄山遺跡の概略
  3. 霧久保沢から帰路 小海線 羽黒下駅まで - のんびりと山郷のWalk -

## 播磨国 千 種 鉄

1.

「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地

## 和鉄のふる里『千種・岩野辺』

chigsal.htm by M.Nakanishi

- 1.1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋 Country Walk  
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 COUNTRY WALK
- 1.2. 古代製鉄の神 金屋子神社 COUNTRY WALK と 金屋子神 神話島根県 広瀬町
- 1.3. 兵庫県立歴史博物館〔1〕 「千種鉄 たたら」 ビデオライブラリー
- 1.4. 兵庫県立歴史博物館〔2〕 兵庫歴博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」

## 1.1. 和鉄のふる里『千種・岩野辺』



1. 和鉄「千種鉄」のふるさと『兵庫県 千種・岩鍋』とその歴史
2. 千種 天兒屋たたら公園と天兒屋鉄山跡
3. 古代金屋子神降臨の地 岩野辺(岩鍋)

## 1. 『兵庫県 千種』とその歴史

## 金屋子神 千種岩鍋 降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。

民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。

時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。

出雲国の野義郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて…

島根県 広瀬町 「金屋子神社」祭文より



国道沿い千種岩野辺に建つ  
金屋子神 降臨の碑



兵庫県千種の位置  
兵庫県宍粟郡 岡山県との境



千種鉄 和鉄 発祥の地 千種 と 千種川



国道沿い千種岩野辺に建つ  
金屋子神 降臨の碑

兵庫県の西端 中国山脈の南側山懐 岡山県との県境にそびえる三室山から氷ノ山にいたる山塊を背景にそこから流れ出る千種川に沿って千種の街が広がる。

ここは 中国山地の山懐千種川の源流に位置し、ここから算出する砂鉄を用いた「和鉄」発祥の地「千種鉄」の産地として古代から製鉄が盛んに行なわれたところである古代 金屋子神 千種 岩鍋の地への降臨伝説や「播磨風土記」にも記載があり、7,8世紀には盛んに製鉄が行なわれていたことが解っている。

また 伝承によると神功皇后が朝鮮出兵の帰りに瀬戸内海を通られ、千種川の河口が濁っているのに驚かれ「なぜ濁っているのか」とお供の者に尋ねられると「この川上で天兒屋根命の子孫が、鉄砂（カンナ）流しをしているからです。」と答えたと言われている。

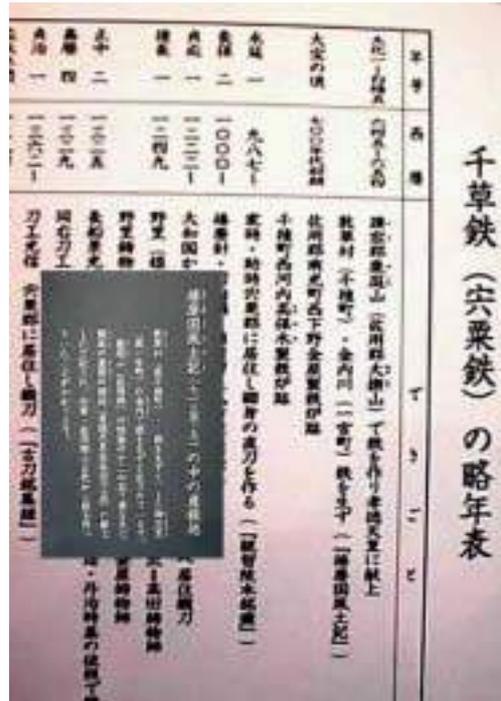
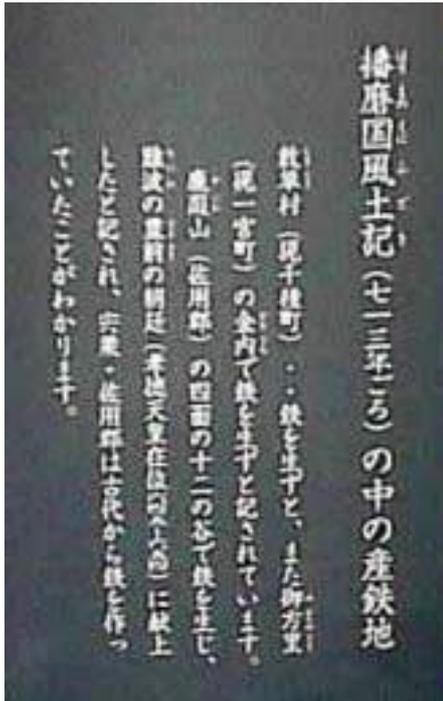
千種が古代より製鉄の産地であったことがこれらの資料からもしのげられます。

千種川を下ると播州赤穂市、その隣には岡山県備前市があります。中世、千草鉄は備前の刀匠たちに珍重され、数多くの国宝重文の名刀を残しています。そして、西洋鉄に取って変られる明治まで、長きにわたって、和鉄の一大製鉄産地であった。



千種川の流れ出る三室山の峯峰

● 播磨風土記 記載



713年頃 「敷草村〔現千種村〕金内川〔現一宮町〕で鉄を生ず」との記載  
千種「たたら学習館」展示より

● 金屋子神 伝承 と 千種 岩野辺〔岩鍋〕

**島根県能義郡広瀬町の金屋子神社の祭文**

『播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。民驚きて如何なる神ぞと問いまつる。時に、神託げて曰く、『われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん』として白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて……』

千種の岩鍋（現在の岩野辺）に天から金屋子の神が降り立ち、驚いた人々が何をされる神かと尋ねたら、金屋子の神であると応えさらにその地で鍋を作り、さらに金屋子の神は白鷺に乗られて現在の島根県能義郡に行かれたとも書かれている。 岩野辺の地名の由来は、ここから来ているとも言われている。

- 金屋子神社は「たたら製鉄」の守り神 島根県 広瀬町 金屋子神社 金屋子神話

## 2. 千種 天児屋たたら公園 と 天児屋鉄山跡



### A. 整備前の旧天児屋鉄山跡 walk 1990. 5. 26.

わたしが最初に千種を訪問したのは1990年5月。

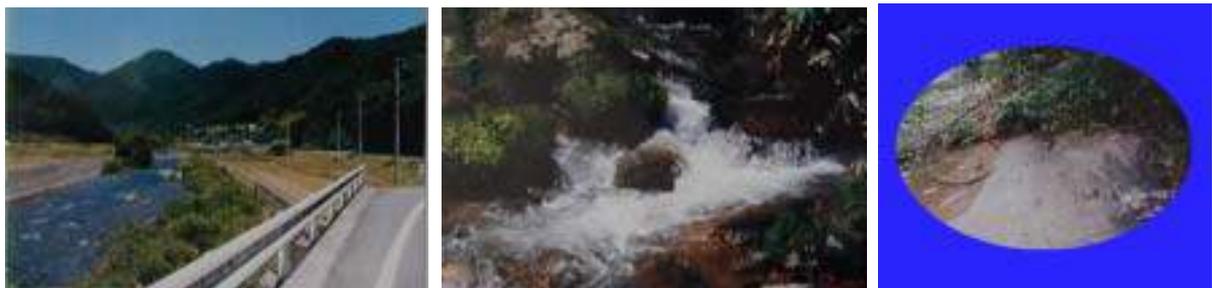
千種の街には立派な歴史資料館があり、そこには貴重なたたら関係の資料などが展示されている。

三室山の谷筋には現在も「たたら」の遺構〔天児屋鉄山遺跡〕が残っていると教えてもらい、千種の街の北側千種側沿いに広がる千種・三室高原へ登って行きました。

千種は岡山と兵庫の県境に位置し、周りを山に囲まれ 三室山を水源とするきれいな千種川が流れています。

この川の源流近くいく筋もの谷筋が砂鉄の宝庫で、古代からこの砂鉄をむ原料とした鉄生産が行なわれてきた。

〔資料によると千種の山々の花崗岩、閃緑岩、石英粗面岩などの地層にはすぐれた真砂砂鉄が含まれていて、今めざす天児屋鉄山跡ばかりでなく、高羅、荒尾鉄山など近世の遺跡や町内の至る所に点在する小規模な古い時代の「たたら」遺跡が点在している。〕



千種川とその川のふちに堆積した黒い砂鉄

川に下りるときれいな清流の川底には幾筋もの黒い堆積物があり、この川底の黒い堆積をすくいとり、磁石に近づけるとピツタリと吸いつき、紛れもなく砂鉄。今も川筋に在る砂鉄にビックリし、またここが千種鉄の発祥地であることに今更ながら納得。

この地が古代日本の鉄発祥の地。

「製鉄の神である金屋子神がこの千種に舞い降り、そこから吉備を経て奥出雲へ」という金屋子神伝説を頭に、透き通るような青空にそびえる県境の山々をながめながら、三室山の谷筋を上って行きました。もっとも 金屋子神が舞い降りたといわれる「岩鍋の地」は今登ってゆこうとする千種の街から北に広がる千種三室高原とは異り、千種の街の南から東へ波賀町へ抜ける国道を峰床山越えの山々へ向って行

く途中にある。

この千種川の周辺の山々いたる所が 古くからの千種鉄の山地として活用されてきたのだろう。

千種高原三室山へは舗装された立派な道路が岡山県境へ伸びており、途中で谷筋へ分け入る道に曲がり、登って行くとその途中に「鉄山橋」の名の橋があり、そこから少し登ったところそこが天児屋鉄山跡の草ぼうぼうの山端の道沿いに石垣と倒れかかった天児屋鉄山の看板があるのみだった。

草ぼうぼうで中に入れず、荒れ果て道からは全くここが鉄山であることがわかりませんでした。看板だけが、鉄山跡であることを示していました。

千種 旧天児屋 鉄山跡 walk

1990. 5. 26



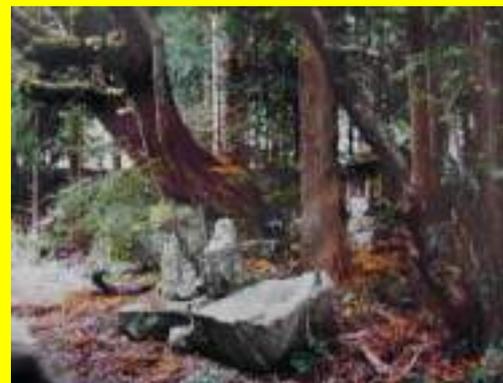
三室山



鉄山橋



天児屋鉄山 勘定場跡



天児屋鉄山 金屋子さん

天児屋鉄山は元禄年間、千草屋源右衛門が切り開いて鉄を吹き、泉屋（住友の分家）が 経営していたこともあるそうです。

明治九年ごろの鉄山が終わりに近づいた時代（閉山は明治十八年）にも七十戸三百人以上の人たちが働いていたといわれ、近世たたら遺跡の中でも規模の大きなたたら遺跡であるが、その時は全くわからず。

何回か訪れている間にこの鉄山遺構が整備されはじめ、金屋兎神を祭る祠をはじめとして、製鉄跡 カンナ流し場等が姿を現わしてきました。そして1997年 川筋には立派な「たたら学習館」が立ち、鉄山跡も立派な製鉄遺跡として整備されました。

## B. 整備された天児屋鉄山跡 天児屋たたら公園 と たたら学習館 1999. 5. 26.

スギの森の中に、山城を思わせるようなコケむした石垣が、段々状に続いて、草木の明るい若葉と対照的なコントラストを見せて道から少し上がったところには金屋子神が立派に祭られ「天児屋たたら公園」として整備されていました。

### 現在の天児屋鉄山跡 天児屋たたら公園 1999. 5.



【天児屋たたら公園の標識】



【たたら学習館】



【天児屋鉄山遺跡 勘定場】



【天児屋鉄山遺跡 たたら場跡】

日本の「たたら」製鉄発祥の伝説の地「千種」に多くの人たちがかかわった「たたら」製鉄の主要現場がすべてそろって跡地として残っている。それが、天児屋鉄山。

日本を造り、日本の発展を古代から今に至るまで支えた鉄。その日本固有の製鉄法である「たたら」の製鉄現場と勘定場など一連の作業場が鉄山としてこの製鉄発祥の地に復元整備されれば意義の深いものとなるとおもいますが……

日本各地にある同じような幾つもの「たたら館」。それはそれでその地方を支えた鉄の歴史を担うものとして意義があるでしょうが… 。 さあ どうでしょう。

2001. 1. 8. 昔の資料を整理しつつ by M. Nakanishi

by M. Nakanishi 2001. 1. 8.

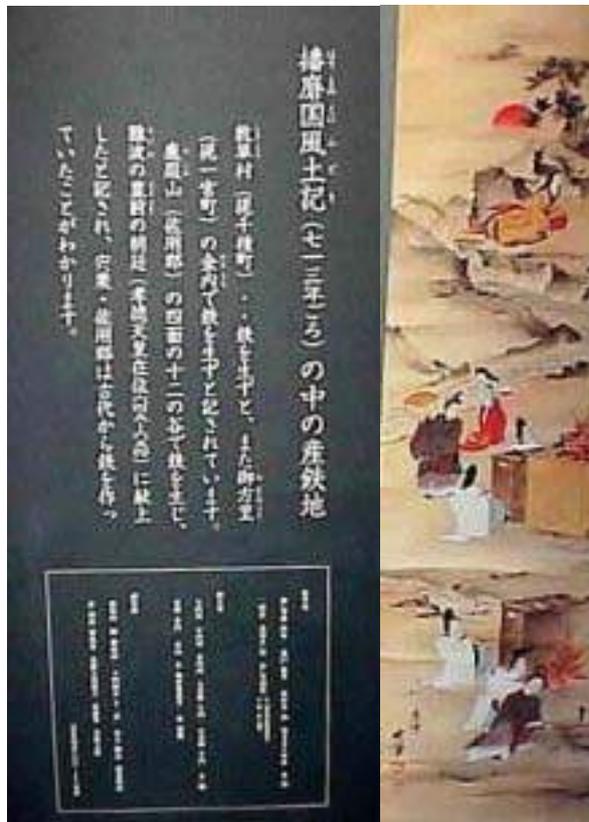
### C. 「たたら 学習館」



たたら学習館とその内部



たたら唄



播磨風土記の記述



初花の献額

## D. 天児屋たたら遺跡

天児屋鉄山跡の一角 遺跡跡のそばを流れる川淵に在り、たたら製鉄の歴史や工程を模型や図表等で詳しく紹介展示。また千種町で生産された玉鋼を使って製作された日本刀なども展示されている。すぐ横の道路を挟んだ右の山肌を階段状に切り開いた斜面状に石垣を積み、たたら場やかんな流し場ほか主要な天児屋鉄山の跡が整地され広がっている。

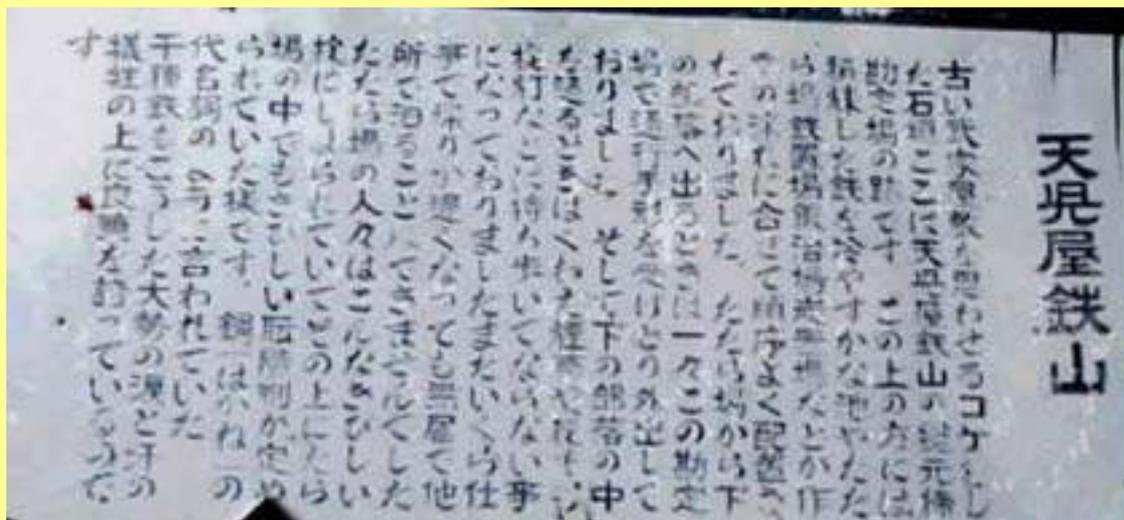


1999. 5. 15. 天児屋鉄山 勘定場跡



1990. 5 .26. 天児屋鉄山 勘定場跡

### 天児屋鉄山の総元締 勘定場跡に立つ看板 1990. 5. 26.



古い武家屋敷を思わせるコケむした石垣。ここは天児屋鉄山の総元締勘定場の跡です。この上の方には精練した鉄をひやす「かな池」や「たたら場」「鉄置場」「鍛冶場」「炭置場」などが作業の流れに合わせて順序よく配置されておりました。

「たたら場」から下の部落に出る時はいちいちこの勘定場で通行手形を受取り外出しておりました。そして下の部落を通る時はくわえ煙草や???提灯などを持ち歩いてならない事になっておりました。

いくら仕事で帰りが遅くなっても無届で他所で泊まる事は出来ませんでした。

たたら場の人々はこんな厳しい掟にしばられていてその上たたら場の中でも厳しい職階制が定められいた様です。

鋼の代名詞のように言われていた千種鉄もこうした大勢の涙と汗の犠牲の上に良質を誇っていました。



整備されて「たたら公園」となった天見屋鉄山遺跡 1999. 5. 15.



鉄穴流し跡 と 鉄山たたら場跡

「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地

### 3. 岩野辺〔岩鍋〕 1999. 5. 15.

iwnbe.htm by M. Nakanishi



千種 岩野辺



金屋子神社 祭文の写

#### 金屋子神 千種岩鍋 降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。

出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて・・・

島根県 広瀬町 「金屋子神社」祭文より

北の岡山・兵庫の県境から流れ出た千種川が山々が迫る細い谷合を南に流れ下る。源流地域から幾筋かの川が集まり、本流となって谷を下る丁度その出口少し広くなった盆地に千種の街があり、本流は瀬戸内海へ向って流れ下る。この千種川にそった一本道の両側に店が並ぶ千種の街並が広がっている。



神戸からやって来た眼には山奥のわりには明るい商店街を中心とした町並みである。

この千種の町にはいる手前の村には歌舞伎舞台が残っていて、今も農村歌舞伎が受け継がれていると言う。この山間の千種の街で千種川に沿って南の瀬戸内海へ抜ける街道と東西に中国山地の山間をぬって兵庫県・岡山県の町々を結ぶ山越の道国道429号とが交わっている。山間の重要路ではあろうが、昔の賑わいはなく、静かな山間をそれぞれ一筋の街道が貫いている。往時にはこの山奥で作られた「千種鉄」が、この千種の街に集められ、これらの街道を日本各地に運ばれ、多いにぎわったものと思われる。

たものと思われる。

千種歴史民俗資料館に残されている絵図に馬の背に積まれ運ばれて行く鉄と千種の街道の賑わいぶり

が描かれている。千種で作られた鉄が古代から明治の近代西洋の鉄がさかんになるまで、幾世代にも渡って運ばれて行った。この街道の十字路を東へ少し入っていった次の集落が「古代製鉄の神 金屋子神 降臨の伝承地 岩鍋」である。



千種の街道の賑わい 馬の背に載せて運ばれる鉄 千種町歴史民俗資料館で

千種の街へはいる南の入口のところに街道の十字路があり、東西にのびる国道 429 号線を東へ千種の家並を抜け、山間の道を 1km ほどのぼっていく。

国道 429 号線の道路標識とともに岩野辺の地名が不意にあらわれ、岩野辺の部落の家々が途切れ、山へ

かかる峠の三叉路の道端に大きな『古代製鉄の神 金屋子神 降臨の地 岩鍋』の碑が建っていた。

振りかえると千種の街の向こうに「たたら」の山々が、また北も道が伸びる東にも山々がひろがっている。

時たま通る車以外にひとかけなし。静寂の中に 何の説明書きもなくこの碑がたっている。この周辺の山々には「たたら」製鉄の遺跡の印が至る所にいれられているが、この峠からはなにも見えない。ただ 幾重にも重なって見える周辺の鬱蒼とした森と山々が「たたら」製鉄の繁栄を築いたものと想像する。

「一度どんどころなのか 訪れたい」とおもってきたが、本当にあっけない出会いであった。こんなに千種の街近く また 街道沿いが古代鉄発祥伝承の地「岩鍋」とはおもっても見なかった。

碑があるのみで なにもごてごてした説明書きがないのもいい。周辺の山々を眺めながら、少し三叉路をくだったり、まわりの山道を歩いたりしたが 今は本当に静かな山里である。

千種 岩鍋にて

by M. Nakanishi 1999. 5. 15.



# 金屋子神 降臨の伝承の地 千種岩鍋



製鉄の神 金屋子神の総社

## 1.2. 金屋子神社 と 金屋子神神話

島根県 広瀬町

hrse.htm by M. Nakanishi



広瀬町ホームページより

### 1. 金屋子神社 Country Walk



〔広瀬町 金屋子神社 1999.3.12.〕

1999年3月。米子の娘宅からは川沿いに中国山地へわけ行って車で1時間たらず城下町広瀬の街から更に山間に入ったところに「金屋子神社があった。広瀬町の最奥部の重畳たる中国山地の小盆地、西比田に鎮座し、広瀬町の中心からおよそ25kmの南方にある。

古来タタラ神である金屋子神の社として、鉄山師達の厚い信仰を得、今も鉄関係者の参詣の多いことが、奉納された数々の品々やその本殿の立派さ 良く整備掃き清められた境内の様子からうかがえる。

「たたら」遺跡を訪れると必ず「金屋子さん」が祭られているのを見て、総社である広瀬町 金屋子神社は是非行きたいと思っていたところである。

金屋子神信仰の詳細は金屋子神神話として別に記載したが、「鉄山秘書」〔1784〕には金屋神と「たたら製鉄」との関係伝承を次のように載せている。

「太古ある旱天の日、土民が雨乞いをしていたところ、播州宍粟郡岩鍋に高天原から一神が降臨し、金属器の製作法を教えた。

神はさらに西方に飛び、出雲国能義郡比田の黒田に至り、休んでいると、たまたま狩りに出ている安部氏の祖正重なるものがこれを発見。 やがて神託により、朝日長者なるものが宮を建立し、神主に正重を任じ、神は自ら村下となり、朝日長者は炭と粉鉄とを集めて吹くと、神通力によって鉄が限りなくわきでた」と。

鉄山秘書より

神社の大鳥居をくぐるとすぐ右手には、金屋子神信仰の中心にある金屋子神社の縁起や「たたら」にまつわる色々な事を映像や展示で示した立派な金屋子神話民俗館がある。

また 掃き清められた参道の正面奥に門越しに立派な本殿が見え、参道の片側道に沿って大きな「けら」が数個並べて置かれており、その奥に「金屋子神」が舞い降りたとされる「桂」の古木があった。

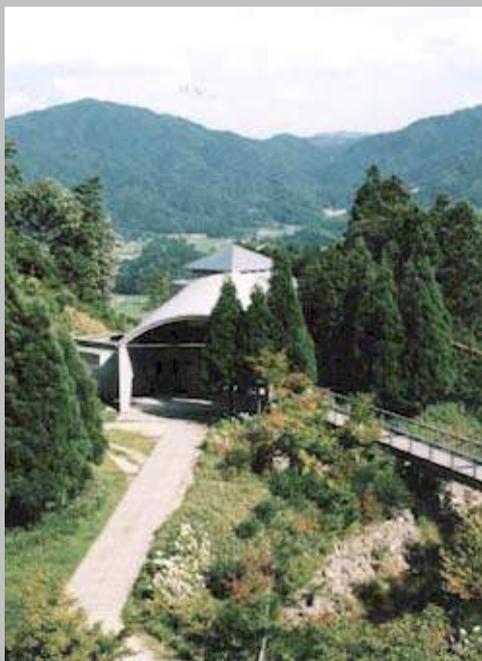
森につつまれた静けさの中に、掃き清められた境内に立派な本殿がある。

さすが製鉄の神 本殿には奉献された品々に各製鉄会社の名がずらっと並び、立派な本殿とともに、現在にいたるまでここが鉄の守り神であることを示している。



〔金屋子神社 参道脇に並べられた「けら」 1999. 3. 12. 〕

## 2. 金屋子神話民俗館と金屋子神話



金屋子神社の大鳥居をくぐり参道の直ぐ左手の森に囲まれた丘の上に立派な金屋子神話民俗館があり、有名な金屋子神神話がわかりやすく展示されている。

## 金屋子神話

### 金屋子神社に伝えられる製鉄と鍛冶の神々の神話



大昔のある年の夏のことです。播磨の国岩鍋（今の兵庫県と岡山県との境）という山の谷あいにある村あたりいったいは、何日も雨がふらず、太陽が毎日ぎらぎらと大地をこがす日が続きました。村人たちは、このままでは川の水も干あ bb がってしまい、田畑の作物もすべて枯れてしまうと、山に集まって雨が降るよう天の神に祈ることにしました。

村人たちは、奥深い谷川の岩かげのふちで、まわりを清めて火をたき、村おさが岩に向かって手を合わせ、呪文を唱えて一生懸命神に祈ると、不思議にも空にはにわかにかに雲がわきおこり、大つぶの雨がふってきまかした。「雨だ、雨だ」、「これで畑の作物も枯れずにすむ」、村びとたちは雨にぬれながら、鉦や太鼓をたたいてよろこびの踊りをおどり始めました。

たかぶる雨乞いの祭りのなかで村おさは、自分のところにひらめいた神に、「私たちの願いを、このようになえてくださったあなたは、いったいどなたさまなのか教えて下さい」と、感謝の気持ちをこめて聞きました。神は、「わたしは、金山彦天目一個神ともいう金屋子の神です。生き物に生命をよみがえらせたり、田畑の作物を豊かにみのらせるためには、水は最も大切なものの一つです。私は、この

地ではさまざまな人びとの幸せをまもるために雨を降らせましたが、これからは遠く西の方へいき、そこで鉄を吹き、道具をつくることを多くの人に教えなければなりません」といって、白鷺にのって天空高くに飛び立ちました。金屋子神は、出雲の国の上空までやってきました。そして空から鉄づくりに最も通じた地をさがしました。昔から『たたら』と言い伝えられてきた鉄づくりに、山や川でとれる砂鉄と、鉄をとかすのに必要な大量の木炭と、炉をつくるのにふさわしい



粘土がなくてはなりません。金屋子神は、その三つの条件をかねそなえた地として能義郡西比田を選びました。そして、西比田黒田の森の桂の木に降り立ちました。

金屋子神を最初に見つけたのは、山に犬を何匹もつれて猟に来ていた、安部正重という人でした。

犬たちは、白鷺のからだから放たれる神の光明（ひかり）をみて、身をちじめて吠えています。正重は、犬たちをなだめて神におそるおそる問いかけました。「あなたは

この地に何をしに来られたのですか」と。すると神は正重に、「われは金屋子の神なり。このところに住いして、『たたら』を仕立て、鉄（かね）を吹くわざを始めべし」と告げ、自らも神としてその仕事がうまくいくよう協力することを約束しました。



神からのお告げをつつしんで受けた正重は、近くに住む長田兵部朝日長者にこのことを伝え、ふたりはまず神がおりた桂の木のわきに金屋子神のお宮を建てることから仕事を始めました。そして、正重はその宮の神主に、また長田兵部朝日長者は、これからつくる『たたら』の村下（技師長）をつとめることになりました。『たたら』の高殿（施設）の建設には、金屋子神をとりまくおおぜいの神々が天から地上に来てかかわったと伝えられています。

建設現場に最初にあらわれたのは、なんとおどろくことに75人の子供の神々です。子供の神々は、まず75種類の仕事に必要な道具を

つくりました。始めは自分たちが村下となって土地を整備したり、杉の木を伐って『ふいご』をつくったりして、建設の総指揮にあたりました。

一方、朝日長者は山に入り砂鉄と炭を集めています。高殿では炉がつくられ、そのまわりには、建物の中心となるたいせつな6本の大きな柱が建てられ、その柱を金屋子神をはじめ、木の神、日の神、月の神が、東西南北の方向を分担して守っています。このほか屋根を火災から守る神、炉に風を送る風の神、風を送る『ふいご』などさまざまな道具をつかさどる神々、また、『たたら』には、数ぞえきれないほどおおぜいの神々が参加し、協力しています。

金屋子神は、奥出雲一帯に次々とたくさんの『たたら』の施設をつくりました。

金屋子神がかかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされました。

金屋子神がかかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされるので、金屋子神に対する信仰が、『たたら師』とよぶ、たたらで働く人たちのあいだにひろまっていきました。

たたら師たちからは、「金屋子さんは、生産を高める女の神さまだ」と信じる人も出てきました。また、人によっては「いや、金屋子さんは男の神さまだ。いつも炉の中の強い火の光りばかり見ているので、片目をとられてしまった。一つ目の神さまだ」という人もあらわれました。

ある年の冬、金屋子神は村下をつれて『たたら』に向かう途中、高殿の前でとつぜんとびだしてきた犬に吠えられ、ふたりはなんとか逃げようとしたのですが、びっくりした村下は、地面に落ちていた麻緒に、足の小指をとられころて転んで死んでしまいました。金屋子神は、集まってきた『たたら師』たちに、「村下の死骸は葬ってはいけません。そのまま高殿の元山柱にくくりつけて鉄を吹くのです」と、教えました。「たたら師」は、神のいわれるままにして仕事を続けると、いままで以上によい鉄を大量につくることができたということです。

金屋子神は、このように「死のけがれ」を好む不思議な性格の一面をもった神でもありました。

広瀬町 金屋子神話民俗館 資料より

2000. 1. 8. 作成 by M. Nakanishi

姫路市 兵庫県立歴史博物館 ビデオライブラリー

### 1. 3. 「千種鉄 と たたら製鉄」

hmzi1.htm by M. Nakanishi 2001. 1. 21.



千種町 千種川と砂鉄



千種 天児屋鉄山遺跡



金屋子神と岩野辺のたたら

日曜日 神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のビデオライブラリーの「千種鉄」のフィルムを見にでかけた。前に一度見た事があるのですが、もう一度「千種 たたら」の歴史について頭の整理のつもりででかけました

姫路城の北側 きれいに整備された公園の中に博物館がある。中に入ると思いもかけず、兵庫歴博ゼミの講演会村上泰樹氏「発掘から見た兵庫の歴史 兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。

古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか？」など 自分のイメージ高めようと思っている時だったので、本当に良い機会となりました。

また 今 千種町と隣接する山崎町の山奥で「古代たたら遺跡」の発掘がはじまっていると聞きました。是非たずねようと思っています。ビデオライブラリ「千種 たたら」のフィルムから 千種「天児屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることができました。また千種のたたらに関係した千種の町の人たちに連綿と続く苗も。ビデオからとった写真を少しスライド風にまとめました。また、最初に千種町歴史民俗資料館を訪れた時に「千種鉄」関係の資料を整理まとめられた本を戴きましたが、今読み返してみても多くの資料が整理されています。先のまとめに記すのを忘れませんでしたので参考に書名のみ記します。

●千種町教育委員会「たたらと村と百姓たち 千種鉄関係資料集一」 昭和 58 年 11 月 15 日発行

2001. 1. 21. 神戸にて M. Nakanishi

# 千種鉄とたたら製鉄

兵庫県立歴史博物館 ビデオ ライブラリーから

## 1. 金屋子神話と「たたら」製鉄図



## 2. 金屋子神 降臨伝承の地「千種 岩野辺」の製鉄遺跡



3. 「たたら」製鉄に関する苗字例



4. 千種川の流れと砂鉄



5. 千種 天兒屋鉄山遺跡



## 1.4. 「発掘が語る兵庫の歴史『兵庫の鉄』」

村上泰樹氏 講演

—中国伝来の弥生 鑄造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた—  
hmzi2.htm by M.Nakanishi 2001.1.21.

日曜日 神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のホームライブラリの「千種鉄」のフィルムを見にでかけた。

博物館では思いもかけず、兵博ゼミの講演会村上泰樹氏「兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。丁度古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか？」など 自分のイメージ高めようと思っている時でしたので、本当に良い機会となりました。

また 現実に今 発掘がはじまっている山崎町での「古代たたら遺跡」の紹介是非たずねようと思っています。

ライブラリ「千種 たたら」のフィルムから千種「天兒屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることができました。

また 千種のたたらに関係した苗字も

兵庫の地が発掘された弥生時代の鉄器・石器道具の分析から倭・大和とほぼ同じ先進の地であったという川村氏の考察 道具の見方 道具が語る考古学おもしろかったです。

また 紀元前 今から約 2000 年前 中国から伝来した鑄造鉄斧には、現在にも通ずる熱処理の原点とも言える脱炭の熱処理が行なわれていた事教えてもらいました。

鉄の技術の奥深さというか古代かには脈々と流れる鉄の技術に触れることができました。

寒い冬 家にじっとしていようかとも思いましたが、やっぱり 出かけるとそれだけの価値有り。



福岡県比恵弥生遺跡から出土した中国製鑄造鉄斧 断面  
弥生時代 中期 今から約 2000 年前

村上泰樹氏は「兵庫の鉄」講演の中で 村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」をベースに中国・朝鮮半島と「倭・日本」の交流・鉄伝来の歴史を解り易くレビューし、それらと兵庫で発掘された縄文遺跡・弥生遺跡からの出土鉄との関係が話された。

その中で道具 石器から鉄への変化 また、鉄の日本伝来が巻き起こす古代史の謎解明の手がかりとし

て、紀元前 今から約 2000 年前福岡の弥生遺跡から発見された中国大陸伝来の鑄物製鉄斧にスポットをあて、鉄伝来がの歴史を語られたが、実におもしろかった。

その中で出土した中国製の鑄造鉄斧の表面には 表面部をネバクするため均一の深さで脱炭層を付与する熱処理が施されている事知りました。(例えば 福岡県比恵遺跡鉄斧など)

村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」の表紙を飾る中国製鑄造鉄斧の断面写真は実にあざやかで、古代から現在へ通じる熱処理技術のまさに原点であると私も思います。

鉄器は韻鉄の加工がスタートといわれているが、紀元前中国では精練が既に行なわれ、その鉄を用途にあうように均一に熱処理する技術が既にあったこと驚きです。

また、低温加熱して鍛錬することで不純物や炭素を飛ばし、強靱化する技術(錬鉄)も既に紀元前にあったという。

いずれも現在に通じる鉄の技であり、7 世紀 古代丹後の「高チタン砂鉄によるたたら」の考え方が現在の溶接材料に通じる技であること見つけてびっくりしましたが、それよりもずっと以前に鉄の熱処理の技がほぼ完成された形で日本に入ってきていた事全く知らずビックリしました。

もっとも 日本では当時まだ作れず、日本で作れるようになるのはずっとあと 6~7 世紀。

おそらく 朝鮮半島と交流のあった北九州・吉備などに鉄製品や技法が最初に伝えられたと思われるが、倭・大和が次第にこの鉄のルート・製品の流れを支配することにより、圧倒的な強さを持ち 群雄割拠していた日本各地の豪族を配下においていったに違いない。そして その間 多くの渡来人を配下に鉄の精練・熱処理技術も学び取り、さらに巨大になっていったと考えられる。

今 日本で具体的な精練が行なわれたことがはっきりしているのは 6~7 世紀頃であり、それ以前の鉄の伝来・製造技術については良く判っておらず、日本誕生に間違いなく大きな役割を果たしたに違いない日本での鉄器の製造と日本誕生のロマンと重ね多くの古代史ファンや学者を魅了している。

千種川水系の兵庫県山崎町の一番北の端千種町と接するところ 丁度 古代製鉄発祥の伝承地である岩野辺から山を会して南側にあたる山奥小茅野後山で今古代のたたら遺跡の発掘が進んでいるとの事。今のところ平安時代には遡れるらしいが、調査が進めば、もっと古代へさかのぼれる可能性があるという。「古代製鉄発祥の地」の伝承のある「千種」近隣地で本当に「古代へ遡れる遺跡が出て来ないか」と期待。

是非暖かくなれば walk しようと思っている。

2001. 1. 21. 姫路 兵庫県歴史民俗博物館で By M. Nakanishi

~~~~~

### 播磨国 千 種 鉄

1. 「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地  
和鉄のふる里『千種・岩野辺』

【完】

## 2.

## 古代出雲の国 謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡

2001. 2. 12. kjina.htm by M. Nakanishi

古代「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
2000年前忽然と消えた大量の銅剣・銅矛・銅鐸がその姿を現わした



古代出雲 信仰の中心  
神名火山〔仏経山〕



大量の銅剣・銅矛・銅鐸が  
埋められていた荒神谷遺跡



大量の銅鐸が一度に出土  
加茂岩倉遺跡

## 古代出雲の国 謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡

1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
2. 荒神谷遺跡 探訪
3. 加茂岩倉遺跡 探訪
4. 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎



日本誕生前夜 古代出雲に花開いた青銅器文化が忽然と消えた。古代日本の「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ。それを今に伝えるのが 出雲 加茂岩倉・荒神谷遺跡だ。

2001. 4. 1. By M. Nakanishi

# 古代史の謎

## 2.1. 加茂岩倉遺跡・荒神谷遺跡 Country Walk



宍道湖の西の端 出雲大社の南 平野部から丘陵にかかる一帯は神話の国古代出雲国。この出雲の国の南側にそびえ、古代信仰の中心であった神名火山(仏経山)の山裾から平野部にかかる谷筋の山の山腹から大量の銅剣や銅矛・銅鐸が並んで埋められているのが発見された。荒神谷遺跡である。

また、ここから南東3.5kmの同じような丘陵地山腹から大量の銅鐸が出土した。〔加茂岩倉遺跡〕

日本各地で個々に発見されている古代銅剣・銅鐸の数を超える量がこの地に一度に埋められていた。弥生時代後期紀元2世紀頃と推定されている。

この出雲以外にこれほど大量の青銅器

まとめて発見された例はなく、またこの地が神話に語り継がれる出雲国であったことから、この時代に九州・近畿と並ぶ巨大な王国が出雲に在った事の証拠を提供した。

また、「なぜこのように大量の青銅器が埋められたのか」そしてその後 この地においても 忽然と青銅器は絶え 日本統一が進む古墳時代へと突入して行く。



加茂岩倉遺跡出土 大量の銅鐸



荒神谷遺跡出土 大量の銅剣・銅鐸・銅矛

「この時代 出雲で また 日本各地でなにが起こったのか」この出雲荒神谷・加茂岩倉遺跡の「大量の青銅器出土の謎」については多くの説があるがまだその謎は解けていない。

唯一言えるのはこの時代 「倭の国の大乱」と呼ばれる日本各地での内乱の時代を経て 九州・近畿・吉備・出雲・丹後など次第に統合され各地に王国が形成されて行く。そして、巨大化して行く大和連合。「鉄器」を支配し巨大な勢力を蓄積してきた天孫族大和が次第に各地の王国を従え日本を統一してゆく。大和勢力との戦いの過程で出雲における信仰の中心 国のシンボルであった青銅製祭祀器を隠すため埋めたのであろうか……また 戦いに敗れ 一度に廃棄させられたのか……

鉄の支配を通じ巨大化した大和勢力との戦いのなかで忽然として消えた出雲の王国 その文化の象徴が荒神谷・加茂岩倉遺跡に大量にかくされた青銅器であったのではなかったか……

古代中国・朝鮮半島から続く「鉄の道」が日本国内を進んで行く過程でおこった「青銅器文化の謎」。

古代日本の「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ それを今に伝えるのが 出雲 加茂岩倉・荒神谷遺跡だ。

本年2月 米子の娘のところを訪ねる機会があり、娘たちとそして 誕生を迎え用としている孫娘と一緒に念願の荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡を訪ねることが出来ました。

まだ少し肌寒い1日 どちらの遺跡にも人影なく、静かな森の中で古代に思いを馳せました。

縄文時代には 既に日本各地との交易が盛んに行なわれていた事が青森山内丸山遺跡の遺物からわかっている。そして弥生時代 戦乱の大陸や朝鮮半島からの季節風に乗ってやって来た多くの渡来人が多くの技術や文化を日本に持ち込んだ。大陸や半島から九州・瀬戸内・畿内へと続く瀬戸内の交流路と同時に 日本海沿岸にもまた時代を超えて大陸との交流路が続く。北九州・山口土井ヶ浜・出雲・伯耆の国麦晚田・丹後・北近江・越へと。

そして 九州各地 瀬戸内・畿内 そして 出雲など日本海沿岸に多くの国々が出来、相互に交流史ながら文化の花を咲かせる。そして巨大化する勢力が統合へ向けての戦乱の世が続いてゆく。

そんな中で 青銅器の文化が花咲いた出雲。

「この大量の青銅器を作った人達はなぜ一度にこれを捨てたのか？」

「敵から奪われるのを避けて隠したのか？」

「ヤッパリ強力な鉄の武器を持つ大和の勢力との戦いの為に神名火山が望める神聖な地に 隠し自分達の 国のシンボルを守ろうとしたのか？」

「出雲オオクニヌシノミコトの出雲国譲りの伝説と出雲大社縁起の伝説はこの争いを伝えているのか？」

根拠はないが次々と話は広がって行く ちょっぴり知っている事を披露してご満悦。

古代の遺跡など日頃全く興味のない娘夫婦もびっくり。「この娘が大きくなった時には 教科書にこの遺跡のっているだろうか 自分がこんな凄い遺跡に行ったことおもいだすやろか・・・」などと言っていました。

現代の生活空間からは離れた山裾の森の中。「こんなところになぜ・・・」と思うような山腹で「本当に良く見つかったなあ」と思います。

日本誕生と鉄の関わりの凄さにおもいを馳せ、孫娘の未来にも思いをはせた心地よい1日でした。

2001. 2. 12. 出雲 謎の荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡を訪問して  
by M. Nakanishi

古代「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
2000年前忽然と消えた大量の銅剣・銅矛・銅鐔がその姿を現わした



古代出雲 信仰の中心  
神名火山（伊勢山）



大量の銅剣・銅矛・銅鐔が  
埋められていた荒神谷遺跡



大量の銅鐔が一度に出土  
加茂岩倉遺跡

大量の銅剣・銅矛・銅鐸が隠すかのように整然と埋められていた

## 2.2. 出雲 荒神谷遺跡 探訪

島根県簸川郡斐川町大字神庭西谷

2001. 2. 12. by M. Nakanisi



荒神谷遺跡は、「出雲国風土記」に記されている神名火山（仏経山）の東約3 km、高瀬山北麓の低丘陵地帯に散在する小さな谷あいの一つにあります。

この荒神谷 神名火山の山裾の丘陵斜面から大量の銅剣と銅鐸・銅矛が相次いで見つかりました。現在は周辺の丘陵地をふくめた広大な史跡公園として整備され 誰もがおとずれられる森林公園になっています。

弥生青銅器が出土した地点は、標高28mあまりの小さな尾根の南斜面中程です。この地点は農道の予定地に決っていたため、県と町教委で分布調査を行い、県教委で遺跡の調査を行った結果、まったく幸運にも昭和59年7月、358本もの大量の銅剣が発見され、さらに翌60年、前年銅剣が大量に発見された場所から約7mはなれた隣接した場所から銅矛16本、銅鐸6個が一度に発見されました。

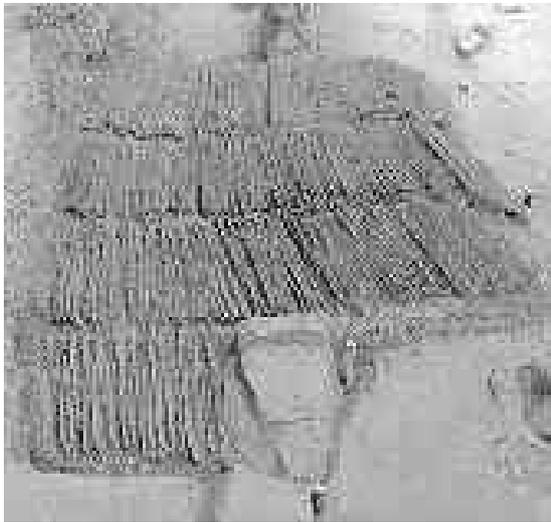
今も発見された時と同じようにレプリカが置かれまじかに発見された様子が見られるとともに、周辺の丘には遊歩道が整備され 青銅器が埋められた山腹全体が眺められるようになっています。



神庭荒神谷遺跡で 2001. 2. 12.



整備された発掘現場 左銅剣 右銅鐸・銅矛（西側）



発見された銅剣



発見された銅鐸・銅

左の写真は発見された銅剣の状態を示していますが、手前から一列に34本、111本、120本、93本の銅剣が、整然と並び、刃を起こして密着した状態で出土しました。日本全国の総出土数を上回る358本もの大量出土は、出雲に巨大な勢力が存在していたことを裏付ける証であり、古代史や考古学界に大きな波紋を投げかけた。これらの銅剣は弥生時代後期（2世紀）「中細形銅剣」類（あるいは「出雲型銅剣」）と呼ばれ、朝鮮半島産の鉛を使っているものが1本残り357本は中国産の鉛を使っていることが分かりました。

このうち100本以上に、刃の部分が刃こぼれのように「ぎざぎざ」が浮き出たものや、鑄型のずれによって刃表面に段差が出来たり、茎がゆがんだりしたままのものなど仕上げの不十分な剣が見つかった。

また328本の銅剣の茎（なかご）部分に「×」印が刻まれていました。

加茂岩倉遺跡から発見された銅鐸にも「×」印があったことで、荒神谷遺跡との関連が注目されています。

銅矛16本の長さは69センチから84センチで、実用品ではなく武器形の祭器だったと考えられます。

刃の部分はキラキラと輝く効果をねらって綾杉状に研ぐ方向をかえているものがある。

佐賀県の検見谷遺跡の銅矛と非常によく似ており、九州で矛製作されたものと考えられています。

また、銅鐸は6個、1号銅鐸は、吊り手の断面が二段になっていることや重弧文・市松文が描かれていることなど近畿地方では見られない大変個性的な銅鐸であり、5号銅鐸は吊り手の断面が厚い菱形であることから最古段階の銅鐸で内面にある突帯が擦り減っていることから長期間にわたって「カネ」として使用されたと思われます。

また、これら銅鐸の成分は、出土した大量の銅剣の成分に含まれる銅、鉛、スズや不純物の混合比率が一致することが分かり、どちらも出雲で製作された可能性があります。

銅鐸は近畿、銅剣は九州を中心とした文化圏とする考古学の通説に見直しを迫ることであります。



荒神谷遺跡の銅剣の柄に〔×〕印



岩倉岩倉遺跡出土の銅鐸にある〔×〕印

### 銅剣の柄にあった〔×〕印と加茂岩倉遺跡銅鐸の表面にある〔×〕印

〔×〕印の線刻は銅剣の柄（つか）に差し込む茎（なかご）にみられ、約1センチ四方の大きさがある。刻まれた理由は「工人グループのマーク」か「銅剣の祭り」の祭主の家紋」ともみられている。また、粗雑な作りの多い理由としては、銅剣や銅鐸などの青銅器はこれまで権力者や神の力を誇示するための儀式に使った後で土中に埋めたとする説が有力だった。しかし、弥生後期は稲作が富の象徴として確立する時期に当たり、宝器として見せるよりも、豊作を祈り地の霊に捧げるため、最初から土中埋納用に生産されたものとする説があります。

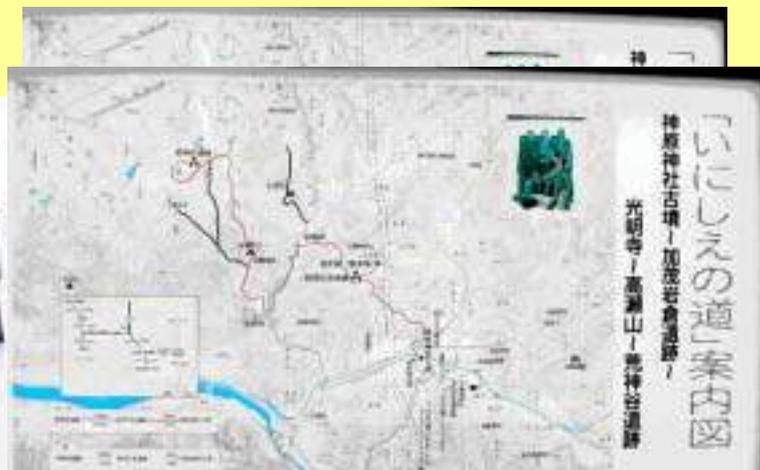
「なぜ 出雲で文化圏の異なる銅矛・銅鐸・銅剣が大量に見つかったか」については、出雲の国がもともと朝鮮半島・大陸からやって来た航海術にすぐれた渡来人が作った海の民の国であり、出雲が日本海を中心とした交易の集散地として、これら青銅器の工人も住みつきここで大量に作られた銅剣・銅鐸が全国へ配られたとする説もある。

古代出雲の国 謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡

出雲で作られた大量の銅鐸が約2000年 山中に隠されていた

## 2.3 加茂岩倉遺跡探訪

島根県加茂町大岩 2001. 2. 12 by M. Nakanishi





1996年10月14日加茂町の農道工事現場である丘陵地の山の中腹で39個もの銅鐸が埋まっているのが発見された。大量の銅剣が埋められていた荒神谷遺跡から南東へ約3.5kmはなれた仏経山の麓の谷に面した丘陵地の山腹である。また、加茂岩倉遺跡から少し行ったところに神原神社古墳があり、そこからは、邪馬台国・卑弥呼が魏に使いを送った年と言われる景初3年の年号の入った三角縁神獸鏡が発見されている。これら青銅器はいずれも出雲の国の祭祀と深く関わっていると考えられる。

銅鐸・銅剣・銅矛は弥生中期（紀元前1から紀元1世紀）のものでこの青銅器祭祀は弥生後期〔3世紀〕に出雲を中心に鳥取・富山などに四隅突出型方墳が現れてくると消えてしまう。

四隅突出型方墳の出現とは少し年代がずれるが、新しい勢力の伸張により、旧勢力である出雲が青銅器を集め、埋め隠すことをしいられ、加茂岩倉・荒神谷遺跡が形成されたと考えるとこの加茂岩倉・荒神谷遺跡の謎も理解出来る。

また この新勢力の伸張にはたした「鉄」の役割はおおきい。大和政権を打ちたてた天孫族 四隅突出方墳を作った伯耆・丹後・越などの諸王国が大陸・朝鮮半島を含め「鉄の覇」を競ったに違いない。

古代製鉄を勢力伸張の中心に据え 長年にわたり、iron road 鉄の道を巡って 諸国間の抗争が続き、この過程で出雲青銅祭祀器の埋蔵を「鉄の新しい王国に屈服していく中での抵抗の象徴」として見るとこの加茂岩倉・荒神谷遺跡の謎も解けてくる。

文化をも抹殺する力を持った鉄のすごさがここでも見える。



加茂岩倉遺跡のある大岩郷遺跡  
正面が大岩〔岩蔭〕岩倉遺跡は反対側

2月12日 朝早く 娘夫婦の案内で米子を出発して国道9号線を松江の方へ。松江の市内を避け玉造から南へ折れて丘陵地を西へ15分ほどで加茂岩倉の郷へ。ちょうど山陰高速道の工事が急てんぽで進んでいる谷合の道路際に岩倉の名の発祥の大岩 岩蔭が見て取れる。街の喧騒の中を脱し、四方丘陵地に囲まれた谷合の静かな場所である。冷たい風が吹きぬけ、朝霧の中「神おわす場所」の感じである。駐車場に車を置いて、谷合の道を10分ほど谷合を入ったところに加茂岩倉があった。今 史跡整備中と見え 足場が幾つも組まれていた。



加茂岩倉遺跡入口  
右手の丘の上が遺跡



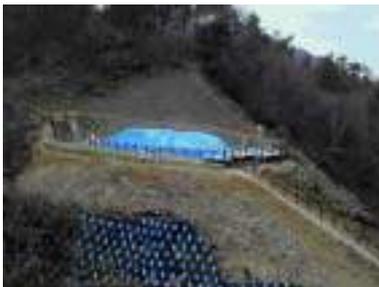
加茂岩倉遺跡からもと来た道  
遠方に島根半島を望む



本当に四方いずれも山裾が迫る狭い 谷のどんつきでどこにでもある山間の谷の中。隠す場所としては最適であったろう。大量の銅鐸が埋められていた位置は思ったよりも高く、谷合の道からは数10メートル上の山腹にあり、今高い階段と遊歩道の工事がされている。

本当にまわりには何の目印もないそれとって特徴のない谷合の枝分かれした支谷の山腹に約2000年にわたって隠されていた銅鐸。

どんな思いであったろうか……。



加茂岩倉遺跡への階段

私の知っている銅鐸は神戸の海から見渡せる山々から出土した大型の銅鐸。全く置かれた環境が違ったろう。

寒さに震えつつ、ここに銅鐸を埋め去って行った人達の思いを夢想しつつ、神庭荒神谷に向った。

2001. 2. 12. 加茂町大岩 加茂岩倉遺跡にて

by M. Nakanishi

## 加茂岩倉遺跡の銅鐸



加茂岩倉遺跡で発見された銅鐸の中 幾つかの出雲特有の紋様



加茂岩倉遺跡から出土した39個の銅鐸は、一箇所からの出土としては全国最多です。出土した銅鐸は弥生時代中期ごろに作成された古い形式のものと、新しい形式のものがあります。文様は流れるような流水文と帯を縦横に画いた袈裟襷文（けさたすきもん）と呼ばれるもののいずれかです。

銅鐸の大きさは形式ごとに大きさがそろっており、古く小さいものが約30cm前後、大きいものが約45cm前後で、銅鐸の多くは、大き

なものの中に小さなものを入れた入れ子の状態で発見されたものが

12組あり、その他3組も入れ子だったと推定されております。また、現在加茂岩倉銅鐸の内15個26個については、同じ鋳型で作られた、いわゆる兄弟銅鐸が存在することがわかっています。

発見された銅鐸のうち、幾つかは土製鋳型で作られ その紋様に近畿地方にない特徴があることや、その成分が荒神谷で出土した大量の銅剣とほぼ一致することなど、出雲ないしその周辺の職人の手によって作られたと考えられるふしが幾つか見つかかり、今までの考古学の常識を覆すと共に、出雲に出雲特有の文化をもった巨大な国



銅剣の柄の〔×〕印



銅鐸〔×〕印

があったことを推察する発見となった。加茂岩倉銅鐸の中で最も注目されるのは、銅鐸の身の上にシカ、トンボ等の絵画を画いた18・23・35号銅鐸であり、出雲あるいはその周辺で作られた可能性が最も高いと考えられる銅鐸が、この3個である。こらには出雲

以外では見つかっていない文様があります。例えば35号鐸には、袈裟襷（け

さだすき）文の交わる部分に、四角い文様が何重にも描かれています。

また23号鐸の鹿の下に書かれた動物も特徴的です。一説にはイノシシといわれているが、昆虫という説もあり、真相は謎につままれています。また一般に、袈裟襷文銅鐸は横帯が優先しますが、18号、23号、35号鐸は横帯と縦帯が交差しているのも大きな特徴です。また、出土した銅鐸の中の作った後荒神谷遺跡から見つかった銅剣の大半に着けられたと同じ「×」印をしたものが13個見つかっている。

## 2.4. 青銅祭祀器 埋蔵の謎

古代日本の「iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
それを今に伝えるのが 出雲 加茂岩倉・荒神谷遺跡だ



荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡で発見された大量の青銅器が何時埋められたのかは土器など年代を特定出来る遺物が出土せずはっきりしないが、埋められた青銅器の中で最も新しいものである大量の銅剣が製作されてまもなく弥生時代後期 2世紀頃 日本国中が「倭の大乱」と魏誌にかかれた時代と考えられている。

日本が邪馬台国はじめ多くの国々に分かれていた時代から、大和・天孫族により次第に統一され、大和政権が成立して行く「日本国誕生」の前夜 古墳時代の幕開け前の時代である。

この時代は大陸・朝鮮半島と日本の諸国との間には密接な交流があり、また、陸・朝鮮の戦乱をさげ、大陸・朝鮮半島から多くの渡来人がやって来た時代でもある。

朝鮮半島から 季節風に乗れ、壱岐・対馬をへて北九州に渡るルートがあり、また朝鮮半島 釜山付近から北西の季節風に乗ると用意に出雲・伯耆・丹後・越の国に至る。この日本海沿岸への大陸からのルートも広く使われていたと考えられ、人々の交流ばかりでなく 稲作の技術 土器 そして 青銅器・鉄器など数多くの技術が渡ってきた。

そして 日本各地にこれらの人々が住みつき先住の人達と融合しつつ多くの国が出来てきた。

出雲もその例にたがわず北九州の影響を受けつつも大きな国が成立していた。

出雲風土記などに語られる神話からは交易を支配した海の民が九州からやって来て次第に定住し王国を作ったと考えられている。

神名火山を信仰の中心として出雲の国の人々の心をつなぐ重要な祭祀が行われ、この儀式的中心に青銅製の祭祀器が使われた。また、同じ流れを持つ同盟の国々をつなぐ心柱としてこれらの青銅器製祭祀器がくばられることもあったろう。当初 北九州・畿内で作られたこれら青銅製祭祀器が出雲の国が巨大になるにつれ、これらの工人を出雲に住ませ、紋様などに独自の手を加え、出雲独自の文化に仕上げで行ったに違いない。

同様の流れは出雲ばかりでなく、九州・瀬戸内海諸国・畿内そして日本海沿岸各地で起こっていたに違いない。そして 日本各地でだんだん勢力を伸ばしてきた国々が衝突。戦いに敗れた国は併合され、独自に培ってきた文化も抹殺されてしまう。こんな事が日本各地で起こったであろう。

魏誌に書かれた「倭の国の大乱」の時代を迎える。この戦乱を支配したのは圧倒的に強力な武器となった鉄器である。大陸・朝鮮半島からの鉄器供給ルート並びに鉄器加工技術を持った国が次第に勢力を伸ばす。恐らく このルートの支配を巡って 朝鮮半島の諸国と日本各地の国々の交流は益々活発となり、

大和 吉備 出雲 伯耆 丹後 越 など日本各地で国々の連合が進み、大きな勢力に成長し、各種祭祀を伴う独自の文化圏を築いて行く。そして やがては これらの連合国どうしが相互に争う事となり、ついには、鉄のルートを支配し、独自に鉄器加工技術をいち早く身につけた大和が日本各地の王国を支配して行く。まさに 日本誕生のドラマが展開されようとしていた。

出雲も必死の抵抗を行なったであろうが、この潮流に飲み込まれた。しかし、出雲の勢力は強く簡単には征服されなかったのであろう。

しかし、抵抗も続かず出雲神話オオクニヌシノミコトの国譲り神話や出雲大社の縁起と神在月伝説に見られるごとく 和睦という名目で征服されて行く。その過程で出雲の心の中心であった青銅の祭祀器が神宿る神名火山のふもと谷に集め隠されたのではないだろうか

この荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡の出現により、出雲神話が俄然真実味を帯びてくる。

荒神谷遺跡の銅剣と加茂岩倉遺跡の銅鐸に刻まれていた×印も注目に値する。

×印は、同一の信仰集団が、埋納の際に、呪術を込めて刻んだと推定され、製作年代がまちまちな銅鐸と、製作して間もない大量の銅剣が同時に埋納されているのである。

青銅器の変遷は、戦乱が大規模になったのに伴い、より強力な呪力を求めて、九州では銅矛を、瀬戸内海では銅剣を、近畿・東海では銅鐸をそれぞれ大型化する。

しかし、そうした呪力の強化も、新たな思想と信仰を掲げ、豊富な鉄器で武装し、百戦錬磨の戦術を駆使する征服者集団(記・紀に見える天孫族)の力には及ばず、民衆の祭祀は弾圧され、青銅器は相次いで消滅し、初期大和政権の成立、古墳時代の幕開けという大きな画期を迎えたと……。

古代日本の「iron road 鉄の道」で練り広げられた壮絶なドラマ それを今に伝えるのが 出雲 加茂岩倉・荒神谷遺跡だ。

2001. 3. 18. 荒神谷・加茂岩倉遺跡を整理して  
by M. Nakanishi



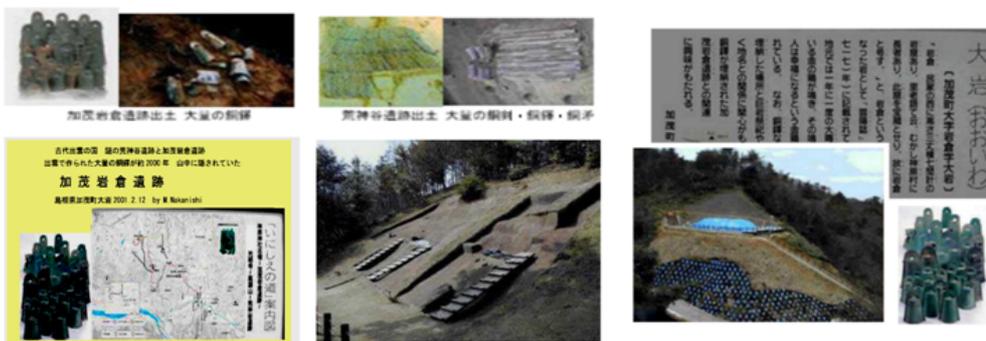
古代出雲 信仰の中心  
神名火山(仏経山)

大量の銅剣・銅矛・銅鐸が  
埋められていた荒神谷遺跡

大量の銅鐸が一度に出土  
加茂岩倉遺跡

古代出雲の国 謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡  
〔完〕

1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
2. 荒神谷遺跡 探訪
3. 加茂岩倉遺跡 探訪
4. 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎



## 3.

## 久しぶりに訪れた 九十九里

## 砂鉄の浜 飯岡浜と羽計台

2001. 4. 27. bioka.htm by M. Nakanishi



古代の湖に広がる水田と香取台地  
海上町 2001. 4. 27.



飯岡漁港とさの向こうに続く九十九里浜  
飯岡 刑部岬から 2001. 4. 27.

4. 27. 午後 約 10 年振り 九十九里 砂鉄の浜 飯岡浜まで 足をのびした。「Iron Road 鉄の道」を歩いてみようと考えたスタートが九十九里浜の北の起点 飯岡の浜。10 年ぶりに訪れた飯岡灯台のある刑部岬はきれいな公園になっていた。

眼下に見える飯岡漁港から南へまっすぐに伸びる九十九里浜 そして その東には古代大きな湖があった海上町の水田がひろがり、その端に「たたら製鉄遺跡」が点在する香取台地もそのまま。



飯岡浜から刑部岬・犬吠崎を望む飯岡浜



風紋に混じる砂鉄

飯岡の浜におりると 沖には砂防のブロック堤防がならび、砂に混じる砂鉄の量が随分すくなくなったように思う。銚子から飯岡・九十九里へ向う岬の上であり、昔随分世話になった教会へも上がってゆきました。

また、かつて住んでいた会社の寮のあった東庄香取台地の羽計台にも寄って見ました。

寮はもう別の建物に変わっていましたが、下総橋駅から羽計台への坂道も昔と変わらず静かな夕暮れ。



昔世話になった銚子の教会



羽計台の夕暮れ

古代の湖に遠々と広がる水田から九十九里

今はもう跡形もありませんが、この銚子から香取へと続く小高い台地が古代の『製鉄』の根拠地であったことを頭に浮かべながら、羽計台の台地の上を北へと帰って着きました。

「羽計」の地名が「たたら製鉄」に関係有る地名と教えてもらったのはずっと後この地を離れてから。

訪れた夕方 日没前 羽計台の東側からは、房総・鹿島・香取の古代製鉄遺跡の連なる場所 鹿島製鉄所の大工場が見て取れ、また台地西には古代の湖の後の地に水田が夕日に映えていた。

この香取台地は古代から今に至るまで製鉄との関わりを持つ重要な地点であり、台地の北の端にある香取神宮もきっと鉄との関わりがあるに違いないとおもえる。



羽計 なんとも奇妙な名前と思って生活していた昔、鉄との関わりを知って、もう一度この台地に立って見たいと思っていた。短時間ではあるが台地に立てた。

本当に夕日の素晴らしい夕暮れでした。

今度は是非ゆっくり 香取神社からこの台地を飯岡海岸へでて、銚子から利根川を渡り、砂鉄の砂丘が続く波崎日川浜 常陸風土記に砂鉄の記事が有る「若松」そして 鹿島神宮へ

時代の流れは無茶苦茶でしょうが 房総と常陸の国をつなぐ iron road 鉄伝播の道をたどって見たいと思っています。

久しぶりに飯岡・東庄訪問

帰路利根川沿いバイクを走らせつつ

2001. 4. 27. by M. Nakanishi

2001. 5. 12. by M. Nakanishi

## 接着・接合の原点

## 4.

## 縄文の石鏃について「アスファルト」

2001. 4. 27. asfa.htm by M. Nakanishi

4. 27. 青森山内丸山縄文遺跡から縄文列島へ「縄文文化の扉を開く」歴史民俗博物館企画展が佐倉の国立歴史民俗博物館で開催中。そのシンポジウムを聴講した。

先日 森本哲郎氏の講演で「山内丸山縄文遺跡」は世界4大文明にも並び 5大文明ではないか」と聞いたが 今「山内丸山縄文遺跡」の世界史的位置付けが議論されていた。

世界文明の展開が農耕定住によって育まれたという定説に対し、森と海に囲まれ農耕を持たぬ森の民が高度な文明を数千年にわたり育み、縄文の世界観を全くかえた青森山内丸山遺跡。

あのベストセラー「神々の指紋」で知られるイギリスの作家ハンコックも世界の古代遺跡探訪のドキュメント取材で山内丸山遺跡に訪れたという。

また、まだ 鉄器が現れる前の時代から 物と物との接合接着に「アスファルト」が使われていた。接合に携わるものとして、接合・接着の原点とでもいえる古代の「アスファルト」接着がどんなものか知りたと思っていました。 縄文時代このアスファルトは新潟「越」の国で産出。交易品として日本海沿岸で広く使われていたという。この「越」の国のアスファルトを石の鏃につけて柄と接続されて展示されていました。

いろんな本で聞いていたが、やっと現物見ることに出来ました。



石鏃とその柄の接合に使われた「アスファルト」

熔融接合の原点は「奈良の大仏の鑄掛け」。

それに先駆ける事数千年前 縄文時代からアスファルトによる接合・接着が行なわれていた。

同じ時代「漆」もまた土器の装飾・接着につかわれ、山内丸山遺跡の土器などの彩色にはベンガラをまぜた赤漆が用いられていた。

簡単そうで中々思いつかぬ物作りのアイデア。 数千年前 既に朝鮮半島から本州・北海道に至る日本海沿岸で「黒曜石」「ヒスイ」などと一緒に広く交易されており、弥生時代以降の「鉄」と同様に大きな文化圏をになう役割を果しているに違いない。

2001. 4. 27. 歴史民俗博物館 「縄文文化の扉を開く」展にて

## 5.

## 接合のルーツ 「漆」・「アスファルト」を見る

-「発掘された日本列島 2001」展-

-日本の固有の「木の文化の加工技術」として-

ursib.htm

6.16. 本年も 「発掘された日本列島 2001」展が両国の東京博物館で開催中。

今年の目玉は出雲大社の古代中空にそびえる神殿心柱の発掘。最近の古代遺跡発掘から、4世紀卑弥呼の時代 すでに大和に巨大勢力があり、「九州・出雲・東海・越」など日本各地の土器などからこれらの地方が大和の勢力下にあったことが判ってきて、また、従来考えられていた縄文時代には考えられない巨木を加工した日本古来の「木の文化」の存在など古代史が書き換えられようとしている。

出雲大社の発掘から、古代中空にそびえる巨大神殿〔東大寺大仏殿よりも大きな高さ 46M を越える建物〕伝承を裏付ける巨大心柱が発掘された。

春 出雲太神社の本殿の前にある発掘中の「宇豆柱」を見ましたが、大きな柱が三本束ねられ、すごいと思いました。



天空にそびえる 古代 出雲大社 想像図 NHK TV より



発掘中の宇豆柱

三本の大木が一つの柱に組み立てられている

三内丸山遺跡をはじめとして、古代遺跡で次々に見つかる巨大木加工技術。

これらから、日本には世界 3 大文明に匹敵する「木の文明・文化」があったとする説を唱える人が多くなってきているが、大空高くそびえる出雲神殿の存在はますます日本固有の「木の文化」の存在に根拠を与えるものと思う。ともすれば「日本の文化は渡来人によってもたらされた」とする日本古代史が今書き換えられようとしています。

三本の大木を束ねた柱が幾本も天空高くそびえ その柱の上 天空に大きな神殿がそびえている。

想像しただけでもびっくりする建造物

これが日本古来の文明がもたらした木の加工技術・ピラミッドに相当する文明の粋を集めた巨大木造建造物と言わずにおれようか・・・・・・

本当にビックリした。春 出雲大社でこの宇豆柱の発掘を見たときにはすごい柱だとは思いましたが、天空にそびえる神殿のスケールの大きさを見て本当にびっくり。

三内丸山の巨大な6本柱といい その後の弥生時代の巨大柱を使用した幾多の建造物 そしてこの出雲大社の古代神殿。日本の木の文化の素晴らしさが見えてくる。

そんな中で 古代の加工技術の基本となる接合と深くかかわっていた、縄文の「漆」と「アスファルト」が発掘展示されていた。

接合にたずさわるものの自負心かもしれないが、これらの加工技術が治具・工具をつくり きめの細かい加工を可能にし、その展開が日本の木の文化を大きく育てた事であろうことは想像できる。北海道垣の島遺跡から縄文早期の最古の「赤漆製品」が発掘され、従来大陸から伝わったとされていた「漆」が日本固有の技術である可能性が強まった。また、青森八戸の縄文遺跡からは「赤漆」により、接合補修された痕跡のある遮光器土土偶の首が発掘展示されており、古代の有力な接合・補修技術であることが判る。きっちりと補修接合として漆が使われているのを見るのは初めてでした。

また、新潟の青田縄文遺跡で出土した「天然アスファルトの塊」が展示され、古代縄文のアスファルトの塊も見るのが初めて。もう 数年にわたって 日本の接合・接着技術の原点として 「アスファルト」「漆」で設置・接合された物を見たくて色々博物館へ通いましたが 「アスファルト」につづいて「漆」でもが実際に使われた現物をやっと見る事が出来ました。

### 接合・接着のルーツ 赤漆・アスファルト 「発掘された日本列島 2001」展より



縄文の赤漆と天然アスファルト塊



赤漆での修復痕跡のある土偶

日本の古代の歴史が書き換えられようとしています。それと伴って 従来はあまり注目されていなかった「日本の木の文化」が世界文明の視点からも重要視されています。

日本固有の文化・技術と稲・鉄を中心とした大陸からの技術が融合し、日本が形作られた。

今、「古代鉄の流れ」からも不思議な事多く ちょっとづつ ベールが剥がされていくのが面白い。

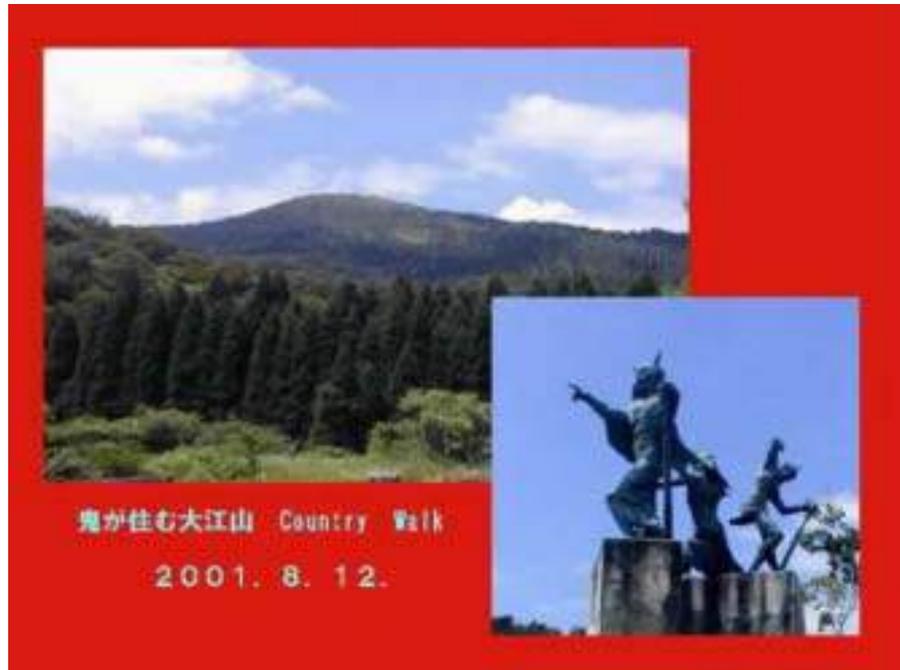
## 6.

## 鬼の住む山 京都府 大 江 山 Walk

・ 大江山の鬼伝説に

『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきたてて

oeyma.htm by M.Nakanishi



- 6.1. 鬼が住む山 大江山へ 古代 iron road の夢のせて
- 6.2. 鬼の住む山 大江山 walk
- 6.3. 酒吞童子説話と大江山「鬼退治」

8月12日 神戸から車で舞鶴自動車道を通って約2時間弱。お盆の休暇を利用して、あの鬼退治の大江山へ行ってきました。

京都の北 丹波と丹後の境に大江山がある。あの酒天童子の伝説・鬼の住む山である。小さい時から父の故郷丹後へ行くたびに通る道筋にあり、幾度もこの鬼退治伝説を聞かされてきた。

『『鬼』伝説のあるところ『たたら』製鉄遺跡あり』。

『たたら・iron road』探訪をはじめ、一度はきっちり大江山の山中へ入りたいと思ってきた場所である。

この大江山の北側丹後の国は古代大和政権誕生に先立って巨大な古墳が出現し、その後 弥栄遠所遺跡など多くの製鉄遺跡が点在する古代鉄の大王国の地。

大江山に続く丹後の山々(例えば 丹後峰山町の比治山など) には「鬼」伝承と同様「たたら」伝承と関係の深い「羽衣」伝説があり、ここから丹後半島を縦断して日本海に注ぐ竹野川流域には古代遺跡や古い「たたら」遺跡が点在している。

また 大江山に源を発し、丹後半島の付け根岩滝で宮津湾に注ぐ野田川流域にも古代遺跡や製鉄遺跡が点在し、丹後半島のもう一つの古代鉄の王国の根拠地。

一方この大江山の南の丹波側綾部・福知山は「綾部」の名が示すとおり古代大陸からの渡来人が住み着いた根拠地であり、由良川を介して日本海側の若狭・丹後と畿内を結ぶ要衝の地であり、ここにも由良川を支配する古代大王国があったという。

舞鶴道が綾部の街に入る手前の丘をトンネルで突き抜けるがこの丘は今からおよそ1500年前、由良川流域の王の墓として造られた巨大な私市円山古墳が遺跡公園としてきれいに整備されている。直径70m

を超える京都府最大の円墳で被葬者の強大な政治的権を如実にあらわしている。  
 このように大江山の北に広がる丹後は古代日本海側から畿内に至る重要な通商路であり、大陸から日本海を  
 通って日本へやってきた渡来の民・文化の重要な国であったことがうかがえる。



丹後・丹波は古代 大陸から日本海を渡ってきた渡来人たちが畿内へ進む道筋であり、 また、畿内の  
 勢力が古代和鉄の覇権をめぐる伸張してゆく道筋でなかったか。  
 畿内と丹後の国の間に立ちはだかる奥深い大江山。  
 立証されていないが、「古代鉄生産をめぐるの畿内と丹後・丹波の大王国の争いがこの大江山「鬼」  
 伝説を産んだのではないか？」という夢が丹後の羽衣伝説・大江山鬼伝説とともにふくらんでくる。  
 幾度となく綾部から丹後へのこの大江山の山越えの道を通りかかったことはあるものの一度は是非ゆっ  
 くり大江山の山中へ分け入りたいと思いながら機会を失ってきた。

## 6.1. 鬼が住む山 大江山へ

・ 古代 iron road のロマンをのせて ・



京都府大江町 大江山登山口



丹後国 古墳・製鉄関連遺跡分布

舞鶴道綾部インターチェンジから由良川沿いの山肌に沿ってすこし戻ったところから大江山・加悦・野田川町の標識に従って山の中に入ってゆく。

あまり高い山ではないが、森の中 幾度となくまがりくねりながら山を登ってゆく。こんなところに人家があるのかと思う奥にも人家がある。山道を約 30 分ほど走ると大江山登山口のところに出る。

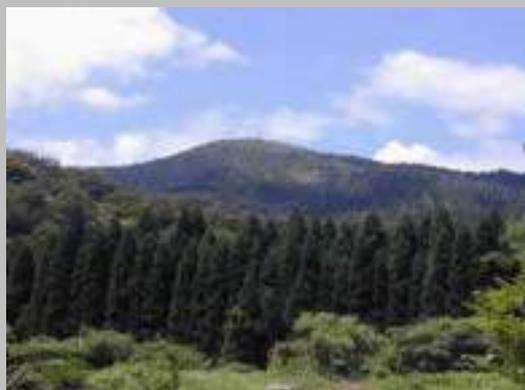
いつもはこの山中を走り抜け、大江山を越えると大江山に源を発す 京都府 大江町大江山登山口  
る野田川沿いに丹後側の加悦・野田川の町にでて、海岸沿いの岩滝口へ抜ける。この野田川沿いは古代から開けた土地であり、弥栄町の竹野川沿いととも古代の古墳や製鉄遺跡が分布している古代からの街道筋。今は道の両側から機織の音が響く街道筋。幾度となくこの大江山を越えて丹後へ行った道である。

山深い道ではあるが、古代からの街道筋、古代遺跡・製鉄遺跡の分布から見るとまぎれもない『丹後の国 Iron Road 』。

丹後で本格的な鉄の生産がいつどこでスタートしたかはっきりしませんが、5 世紀頃からこの野田川沿いや竹野川沿いに出現した大型古墳や製鉄遺跡からの鍛冶精錬スラグの発見等からこの流域で鉄の加工鍛冶もしくは精錬までもが始まっていたのではないかと考えられている。特にこの大江山の山懐は丹後の国 古代製鉄発祥の地の可能性がよい。

(弥栄町編古代製鉄と日本文化より)

## 6.2. 鬼の住む山 大江山 walk



大江山 大江山中腹 鬼公園から



鬼瓦モニュメント



鬼の交流博物館  
2001.8.12. 鬼公園にて

由良川の流れから大江山の中へ車を走らせて約 30 分 大江山登山口と書いた標識と鬼のモニュメントが迎えてくれる。本道から別れ、大江山へまっすぐ一本道が続いている。

もっと山奥の薄暗い感じを抱いていたが、非常に明るい谷筋である。この谷に分け入って少しいったところに大江山をバックに大きな鬼瓦のモニュメントがあり、鬼の交流館やロッジほかの野外活動施設がここに集まっている。数年前大江山で開かれた地域博覧会の会場だったところで周辺の山を含め、自然公園としてよく整備され、野鳥の森やキャンプ場がある。そして この広い公園の丘の一角に大江山をバックに酒吞童子ほかの鬼の群像のモニュメントが大きな台座の上に建ちここが鬼の故郷であることを主張している。ものすごい顔をした酒吞童子が京都を指差し茨木童子・星熊童子がそのそばで威嚇している。なんとも明るい。想像と大きな違いである。



大江山の鬼の群像 モニュメント



大江山林道 入口

大江山へのアプローチ



頂上下の崖 原生林に包まれて建つ  
御嶽稻荷神社



京都を指指し天空をにらむ  
酒呑童子の像

この自然公園から大江山の頂上直下のところにある古い御嶽稻荷神社のところまで林道が伸びている。

この林道は山深い原生林の中を曲がりくねりながら森の中を分け入り、ほぼ山を半周する形で頂上直下の切れ落ちた崖のふちに建つ御嶽稻荷神社で車道が終わる。ここからは「約30分 原生林の中の足場の悪い山道を登れば頂上」と山から下りてきた人に聞いた。

今回は家内と二人サンダル履きできたので、ここで断念。でもこの狭い崖のふちの森の中に立つと崖の向こうには若狭・日本海へと山並みがつづき、はるか下に小さな集落がぼんっと見え、いかにも鬼が居そうな深山の山中。登り口で描いたイメージとは本当 うらはらに低いが鬱蒼とした森に包まれた山々が幾重にも重なって深山である。

また、この林道の途中には 河守鉦山遺跡の標識がみられ、この大江山が鬼伝承とかかわりのある山「たたら」の痕山跡がここにもあると独り納得した次第。



大江山 林道で見つけた河守鉦山遺跡の標識

ものすごい形相をして京都を指差す酒吞童子の像の前に座り込み、大江山を眺めながら、「源頼光の鬼退治」の物語と製鉄の民が描かれた「もののけ姫」の映像をダブらせながら、この地で何が起こったのか 成敗された「鬼」はいったい誰なのか？ 遠い昔に思いをはせた次第である。

今回は かつて丹後の国の製鉄の民が鉄を求め、日本海側から野田川沿いにこの大江山の谷深く分け入り、製鉄をはじめたその道筋を野田川沿いに大江山頂上までたどってみたい。

今回の大江山 walk で長年いだいてきた「鬼退治の大江山」と「たたら 古代製鉄」の基地 丹後の国とこの国が日本形成に役割を果たしたその象徴としての「大江山」がやっと結びついた1日でした。

それにしても 製鉄の民としての鬼伝説の「鬼退治」 出雲のヤマタノオロチ退治 伯耆 鬼退治 吉備桃太郎伝説の基となった「鬼 ウラ」退治 東北 北上の鬼 蝦夷の雄「アルテイ」の征伐 そしてこの丹後の国 大江山の鬼退治 どれもこれもすべて「鬼はだまし討ち」にされている。

古代日本統一が図られていく中で、次々と退治された鬼たちの国。これらの国の勢力の強さがこの「鬼のだまし討ち」に象徴されていると言えてないだろうか・・・

大和政権のみが語られる日本の歴史。日本に縄文の時代 また渡来の民が大挙してやって来た弥生の時代。多くの人達の融合によって日本が形成されたばかりでなく その後融合され消えてしまったとはいえ、その地方地方にも鬼に代表される地方独自の文化があったとの歴史認識は今を考える上でも重要なポイントと思う。

2001.8.12. 京都府 大江山 walk by M. Nakanishi

・ 酒吞童子の像の前で大江山を見上げ  
古代の丹後の国 たたら民に思いをはせながら ・

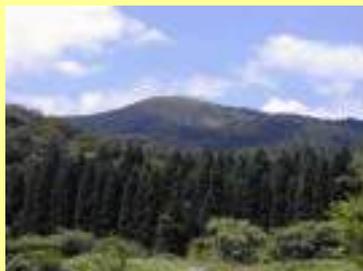
## 6.3. 大江山 酒吞童子 と 鬼伝説

oeoni.htm by M.Nakanishi



1. 大江山 鬼伝説の系譜
2. 酒吞童子 説話 -源頼光の鬼退治-
3. 大江山の鬼伝説に  
『Iron Road』の口マンをかきたてて

### 1. 大江山 酒吞童子説話 -源頼光の鬼退治-



大江山



鬼退治に出掛ける源頼光の一行

大江山には酒吞童子ほかの多くの鬼たちが住み、都などに出没し、荒らしまわっておりました。都では鬼による被害が大きいため、鬼退治をすることになり、その任務に源頼光が任命されました。頼光は配下の四天王と呼ばれる渡辺綱・坂田金時・碓井貞光・卜部季武をはじめ、彼らの家来などを引き連れ、大江山に向かいました。

途中、一行は三人の老翁(石清水八幡・住吉明神・熊野権現の化身)に出会い、老人たちから隠れ蓑と神酒を授かりました。隠れ蓑はそれを着ると鬼には姿が見えなくなり、神酒は人が飲めば力がつき、鬼が飲むと神通力を失うというものでした。そして、山伏の姿に変装するとよいと助言しました。そこで頼光らは老翁たちにもらった山伏の衣装に着替え、家来たちを帰らせ、山奥へ分け入って行きました。

やがて一行は川で血の付いた布を洗う老婆に出会いました。老婆は頼光たちを見ると「ここは鬼の里です。見つかる大変ですから、お逃げなさい」と言います。しかし頼光らは「我々はその鬼を退治に来たのだ」と告げ、老婆に、あなたはどのような方なのですか？と問います。すると老婆は涙を流しながら、身の上を語りました。老婆は鬼たちにさらわれた都の貴族の妻。しかし痩せていたため、食べられるのを免れ、鬼の神通力で200年の寿命を与えられ、下働きをして生き長らえているとの事でした。そして老婆は頼光たちに鬼の城への道筋や鬼の城の中の様子などを教えました。

やがて、頼光たちは鬼の城に到着。道に迷ったので泊めて欲しい、と言いました。鬼たちは承知して、一行を中に入れます。すると頼光は泊めてくれるお礼に、と酒を差しだし、鬼たちもそれを喜んで酒盛りが始まりました。大将の酒呑童子の他、四天王の星熊童子・虎熊童子・熊童子・かね童子そして近所の山から来ていた茨木童子。酒盛りが進むに連れ、鬼たちはすっかり上機嫌になりました。やがて夜になると、頼光らは起きだして老婆に聞いていた鬼の寝床に向かい、老翁たちにもらった隠れ蓑をつけて酒呑童子のそばに近寄り、一気に首をはねました。酒呑童子の首ははねられたまま頼光に飛びかかり、その兜にかみついたまま動かなくなりました。

酒呑童子は最期に「おのれ、凶ったか。鬼は決して人をだましたりしないものを」と言ったといます。

続いて頼光たちは他の鬼たちも次々と倒し全滅させました。そして鬼の亡骸を火葬にすると、山を降りました。途中、老婆と出会った川のところ、人の骨が倒れていました。あの老婆が鬼の神通力がなくなり、寿命により本来の姿に戻ったものでしょう。頼光たちは老婆の骨を丁寧に葬り、都へと帰って行きました。

この酒呑童子説話には その出身を含め、数多くの異説があり、時代時代を反映しつつ、説話として固まっていたと考えられます。

酒呑童子の伝説に関しては下記の文献が基本のようです。

「大江山絵詞」逸翁美術館蔵

15世紀初頭南北朝頃の成立。通称「香取本」。

香取神宮の大宮司家に伝わっていたもの。

「酒伝童子絵巻」サントリー美術館蔵

因幡池田家に伝わっていたもの。16世紀初頭の成立。

「御伽草子」の「酒呑童子」

16世紀末から17世紀初頃の成立。

## 2. 大江山 鬼伝説の系譜

大江山に遺る鬼伝説のうち、最も古いものが8世紀に、国の命令で丹後国が提出した地誌書ともいうべき「丹後風土記」の写しの一部といわれる「丹後風土記残缺」に記された陸耳御笠（くがみみのみかさ）の伝説である。

青葉山中にすむ陸耳御笠が、日子坐王の軍勢と由良川筋ではげしく戦い、最後、与謝の大山（現在の大江山）へ逃げこんだ、というものである。この陸耳御笠のことは、「古事記」の崇神天皇の条に、「日子坐王を旦波国へ遣わし玖賀耳之御笠を討った」と記されている。

また、用明天皇の時代というから六世紀の末ごろのこと、河守荘三上ヶ嶽（三上山）に英胡・軽足・土熊に率いられた悪鬼があつまり、人々を苦しめたので、勅命を受けた麻呂子親王が、神仏の加護を受け悪鬼を討ち、世は平穏にもどったというものである。麻呂子親王伝説の関連地は70ヵ所に及ぶといわれている。・「清園寺古縁起」

そして、その後の時代背景とこれら古代の大江山鬼伝説とが結びついて南北朝時代には酒吞童子説話としてかたちづくられて行く。そしてその後、これをもとにして、いろいろな物語がつくられてきた。

酒吞童子の名がはじめて登場するのは、15世紀初頭の「大江山酒天童子絵巻」（逸翁美術館蔵）と言われ、その後中世に入り、能の発達と共に謡曲「大江山」の主人公として、あるいは「御伽草子」の出現により、広く民衆の心の中に入り込んでいった。

酒吞童子をはじめとする鬼は古来からの土着の神の象徴であり、都の人々にとっては悪者であり、仏教や陰陽道などの信仰にとっても敵であり、妖怪であった。

退治される側の酒吞童子にとってみれば、自分たちが昔からすんでいた土地を奪った武将や陰陽師たち、その中心にいる帝こそが極悪人であったといえる。

酒吞童子は最期に「おのれ、凶ったか。鬼は決して人をだましたりしないものを」と言ったといいますが、この酒吞童子の最後の叫びは、土着の神や人々の更には自然そのものが征服されていくことへの哀しい叫び声であったのではないかとされている。

## 3. 酒吞童子に『Iron Road 和鉄の道』を重ねて

先にも示したごとく 大江山周辺の大江山や由良川の流域は古くから渡来人が日本海を渡り住み着いた文化先進の地であり、そしてこの奥深い大江山は都から丹後へ至る交通の要衝であり、難所でもあった。古代 朝鮮半島から日本海を渡り 日本へ持ち込まれた鉄は山陰の諸国で加工され、都に運ばれていった。また、その後製鉄の技法が伝えられるとそれら山陰の諸国は古代鉄の一大生産基地として勢力を進展。この鉄の覇権をめぐる日本統一を勧めつつあった畿内の勢力とこれら鉄の大王国との抗争が鬼伝説を産んだとも考えられ、その一大抗争があった地の一つが、丹後の国であったと想像される。

酒吞童子の祖先がヤマタノオロチを祭る一族から生まれたとする伝説 また酒吞童子の生誕・居所と関係深い土地として伝承されている近江・伊吹 越後・弥彦や丹後・大江山 などは修験道・山の民と深く結びつくばかりでなく、古代製鉄の民と極めて強い関連を持つ土地でもある。

この「鉄の道での覇権争い」が「大江山 鬼伝説」となり、それが、酒吞童子説話へと展開していったと考えることはあながち幻想とも言いがたく、『和鉄・たたら』のロマンを追うものにとっては一層そのロマンをかきたててくれる。

山陰鉄の大王国 奥出雲・伯耆そして丹後 この大陸から日本海側を通過して大和・畿内へと続く山陰の『iron road』で起こった鉄の覇権争いがその土地土地で『鬼伝説』を残し、日本誕生へとかわっていったのではないかと・・・

2001.9.7. 大江山の鬼 に 和鉄の道・遠き古代を夢見つつ

## 7.

## 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て

ルーツの旅に現代を重ねて

japan01.htm by M.Nakanishi 2001. 10. 10.



「日本人 はるかな旅 日本の源流」展

**国立科学博物館の正面にはニューヨーク貿易センタービル爆破テロの犠牲者への弔旗がかかげられていた。**

**本当にむなしい出来事 人類の長い歴史の智恵で克服できないものであろうか**

NHK で『日本人 はるかな旅』シリーズが始まっている。また、これにあわせ東京・上野の 国立科学博物館で『日本人 はるかな旅』展も始まった。

数百万年前 人類の祖先が誕生し、立ち上がって歩き出したその二足歩行の足跡が 350 万年前のアフリカの大地に記されている。その足跡化石が公開展示されていました。『ルーツのルーツ』に思いひとしお。

アフリカで誕生した人類がその後地球寒冷化の中、凍りつく大地を獲物・温暖の地を求め 遠くアジア大陸を渡り シベリヤを経由して 3 万年前 樺太・北海道・本州へと日本にやって来た原日本人。また、凍りつくアジア大陸の中、海面の低下により地続きの温暖の地となったマレーシア・インドネシア地域(スンターランド)から、2 万年前黒潮に乗って沖縄・鹿児島を経て日本にやって来た縄文人。落ち着いた気候に変化したこの長い縄文時代から弥生時代じょうにかけ、海や海峡をわたり朝鮮や大陸から日本にやって来た渡来の民。 これら日本列島へやって来た人たちが混じり合っ出来上がった日本人。

『日本人のルーツ・日本誕生』について、多くのロマンを込めて色々語られてきたが、そのベールが今ひとつ一つはがされつつある。

最近の遺伝子解析などの成果は数万年前の日本人のルーツの物語のみならず、『人類誕生の 35 万年前の姿』までもを生き生きと浮かび上がらせている。ビックリするような話であるが、いずれも根拠と立証がなされつつあるのが素晴らしい。

この展示をみていると『日本人は島の単一民族』などという考えは全く根拠を失ない、まさに『人間みな兄弟・地球人』の感がふつと浮かんで来る。



アフリカ タンザニア  
360 万年前の人類の先祖が印した  
二足歩行足跡の化石  
おとなと子供の二人連れか  
「日本人はるかな旅」展で



人類進化の歴史  
猿人・類人・原人から新人(現代人)へ  
茨城県立自然博物館 展示より

また、視点を厳しい環境を生き抜いてきた人類 35 万年延々と続く『知恵と技』に変えると「本当にまあ、よくこの激変する環境をのりこえてきたものだ」と感じる。今を激変の時代と捕らえているが、そんなものちっぽけに見えてくる。

縄文人は決して野山を駆け巡る野蛮人ではない。世界 4 大文明にも匹敵する『木の文化』を咲かしている。巨大な木を切り倒しそれを加工する技術は延々と今に続く日本の木の文化の支えである。

北の縄文の民三内丸山遺跡では巨大な木を加工する技を持ち、大きな集落の定住生活を栗などの木の実など植物栽培で成し遂げている。おそらく延々と栽培植物を捜し求め、やっと行き着いた結果であろう。

DNA 分析が栽培をうらづけている。

鹿児島の上野原縄文遺跡で発見された大量の平底土器は三内丸山縄文人の祖先たちが土器と火を使ってどんぐりなどの木の実を貯蔵・灰汁抜きをする事でその主食を狩猟肉食から植物へ拓げていった先駆の知恵であり、世界で一番早い平底土器使用と言われている。

この狭い日本列島での人口増ときびしい環境変化を知恵と技で生抜き、次々と素晴らしい技を生み出してきた祖先たちの姿が人類-日本人のルーツの中に位置付けられている。

1 天才の出現というより、その時々の人達が延々と技術を作り継承・改良してきた「人の技と知恵」。

「必要は発明の母」とよく言うが、現代に置き換えても本当に「素晴らしいアイデア」である。

でも これらの技は開発・改良に数百年・数千年という長い時間をかけた伝承・改良によって成し遂げられた技術でもある。原始航海術など現代においても「解明できていない謎」も多いがこれらも同じだろう。

現代のあくせくするスピードと付け焼刃的な対応「一夜にして変わる価値観」の連続多様化の時代 飽食の時代 機械文明の時代 といわれるが、何か満たされないこの現代を乗り越えるヒントがあるように思う。

いつも 技術革新に遅れまいとあくせくし、脅迫観念にとらわれている現代。何か毎日がちっぽけで、「生き方かえなあかんのかあ・・・」との不安感にさいなまれる現代。  
天才でもない人それぞれが今もコツコツと歴史を刻みつづけている。この刻みが何千年・何百万年か先にまで受け継がれ、平成の技として刻み付けられていると思うと元気が出てきます。  
こんな事が DNA 分析なんかで判るようになってきたこと全く知りませんでした、ビックリです。  
現在の日本人は「縄文人/弥生人いずれに近いか?」を顔分析から分析した結果も DNA 分析もほぼ「3 対 7」の比率だそうだ。 おそらく 耳の中の湿り具合なんかの分析もそれにちかいのではないだろうか・・・『蒙古斑はどうなんだろうか・・・』なんて想像が随分現実味を帯びて考えられる。  
「沖縄県人だ」「東北人」「はたまた京都の公家の出。 気質が違う」などと言ってみてもすべてこのルーツ日本人のかごの中で揺れているのにすぎないのか・・・・。そういえば、生き別れた親子の確認の手段に DNA 鑑定が使われるのも納得。  
今まさに起こっている戦争も貧困と飢えに苦しむ南北問題も 先を急ぐのではなく ルーツをベースに基へ基へとたどってゆけば、和解の道 協働の道がひらけるのではないか・・・  
共同の土俵へのアプローチこそ 350 万年前から延々と続く人類の知恵と技ではないか・・・・  
これを逸脱すると破滅への道 そんな風に思う。

技術屋では行き詰まった時は『原点に帰れ』とよく言うが、今がこれだろう。  
また、この流れを解き明かしてきた分析・計測法の進歩が時間の壁を次々と取り払っている。  
木に刻まれた年輪による年代計測法 放射性炭素 C14 による年代計測法など『時間を解き明かす計測法』と『ルーツ・伝承を解き明かす方法』としての DNA 分析等。  
これらの急速な進歩によって、今を想像だにできなかったことが、次々と解き明かされている。  
発掘で今の世に出てきた冷たい物としての道具や遺構が生き生きと人の姿 生活 生き様など時代時代の姿をふつふつと浮かび上がらせている。  
立証の手段を持つ事が物事を次々と深くつき進め、あいまいさを取り去って物事を前向きに前進させてゆく。  
人類がたどってきた足跡人類が生き延びてゆくためのアフリカからの壮大な旅 厳しい自然・環境変化との戦いの流れの中で会得した知恵・技の数々。何気なく暮らしてきた我々の中に引き継がれてきたそれらの大きさにビックリする。『本当にお互いに相容れないのでは・・・』と感じてきた肌の色さえも人類が環境対応の中で取得した知恵・技である。  
『森の民 縄文人』といわれるが 森に手を入れ住める環境に変えつつ森を住処にしてきたわけで、うっそうとした原始林の中に住んでいたわけでない。決して原始の森は人間がすめたものでない。  
縄文の『ストーンサークル』が作られた静寂の森の中に感じだ息遣いがこの人類がたどって来た足跡と知恵であったような気がする。

日本人はるかな旅 日本人の源流展をみて 歴史の流れと今を行き来しつつ

2001. 10. 10. 夜 暗闇を突っ走る東北新幹線の中で

## 岩手県 北上川流域 の 和 鉄

8.

蝦夷の主要武器 「蕨手刀」

日本刀のルーツ「舞草刀」を訪ねて一関博物館へ

2001. 10. 11, ktkmi01.htm by M. Nakanishi



一関市立博物館 一関市巖美溪

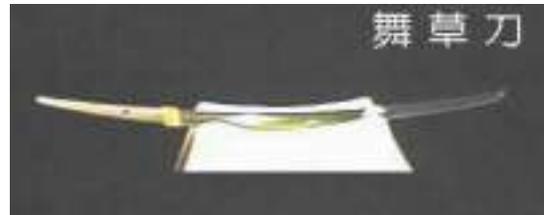


宮城・岩手の国境にそびえる栗駒山 2001. 9. 22.

## 古代 奥州で生まれた日本刀のルーツ



蕨手刀



舞草刀

## 8.1. 北上川流域の和鉄



岩手北上盆地から太平洋(右側) 栗駒山頂から 2001. 9. 22.

10 月半ば 一度訪問したいと考えていた北上・一関を訪問仙台をでて約 30 分 新幹線が広い宮城平野を抜け 右手に栗駒山・栗駒高原を背後にした広い田園地帯が広がる。栗駒山・焼石岳などの連なる奥羽山脈と北上山地にはさまれた広い田園地帯で、岩手県の母なる川「北上川」がその中央部を北から南へ流れ下る川沿いに南から北へ一関・平泉・水沢・江刺・北上・花巻・盛岡と点々と街が続く北上地方である。

ここは この山間は古代から鉄や金などの鉱物資源が豊富な土地で、古代 奥州・蝦夷 が活躍した根拠地。蝦夷の首領「アテルイ」が「蕨手刀」を武器に大和朝廷に最後まで抵抗した土地である。

水沢・江刺の北上川の東には奥州征伐の前線基地 胆沢城跡が残る。そして、中世 一関・平泉では金や鉄など豊富な鉱物資源を背景に藤原三代が栄華をほこった。

また、「鉄の国 岩手」を支える鉄の中心は「南部」久慈から釜石へかけての海岸地帯であるが、古代・中世にはむしろその中心は北上川沿いの盆地であると聞く。 蝦夷の兵器庫・鍛冶部がどこにあったの

か 自分は知らないが、蝦夷が使った「蕨手刀」。

それまで「突き」が主体の「直刀」であった刀に対し、「切る」ことを主に「反り」をつけた「蕨手刀」が、猛威をふるった。その後 中世この蝦夷刀鍛冶の伝統を受け継いだすごい刀「舞草刀」がこの土地（一関近郊 舞草）で生まれた。この刀が「反りと長身」を有する日本刀のルーツだという。

盛岡の岩手県立博物館には「奥州 和鉄」の多くの資料がありそう。また、一関博物館には「奥州鍛冶」や「蕨手刀」の展示があると聞き、是非一度ゆっくり訪ねたいところだった。

何度も東北新幹線では通るもののゆっくり歩いた事なし。一関・平泉に出掛けたのはもう 30 数年前。栗駒岳登山と引っ掛け、一関へ。また 10 月 11 日秋の溶接学会出席の帰りに盛岡岩手県立博物館そして現在の岩手一の工業都市北上にもよって帰りました。

一関博物館では蝦夷の首領アテルイが使った「蕨手刀」や古代奥州鍛冶の流れ 日本刀の原型「舞草刀」を知ることができました。また、奥州の和鉄製造に広く使われたと言う主要原料「餅鉄」。聞いた写真で見たことはありますが、まじかにみるのは初めてでした。ましてや 川などから得られ、そのまま製鉄原料として使われていたなど知らず。実際に物を見て、本などに書かれている事など理解出来ました。

北上川沿いに新幹線が走るたびに 一度は下車して調べて見たいとおもいつづけていた「和鉄の北上地方」「蝦夷と蕨手刀」と「餅鉄」。この二つの不思議な謎がやっと解けたような気がします。

今度は岩手のもう一つの和鉄の中心地 釜石から三陸海岸沿いに久慈まで歩きたい。10 数年前 後背地北上山地の圧倒的な木々の多さと海岸の陰しさに圧倒されながら歩いた和鉄の道。当時は全くみむきもされなかった和鉄の道ですが、今はどうなっているのだろうか????。

10 数年をへて 日本の近代製鉄業も変わりつつあり、また、日本各地のたたら遺跡が日本歴史の 1 ページとして掘り返されつつある今 どんな風になっているか 楽しみでもある。

2001. 10. 21. M. Nakanishi

岩手県 北上川流域 の 和 鉄

## 8.2. 一 関 市 立 博 物 館 で

ktkmi02.htm by M. Nakanishi



1. 餅 鉄
2. 蝦夷の首領 阿弭流 為の蕨手刀
3. 舞 草 刀
4. 参 考
  1. 古代畿内勢力の蝦夷征伐の兵器庫  
福島県原町 金沢製鉄遺跡
  2. 平泉中尊寺・盛岡 岩手県立博物館



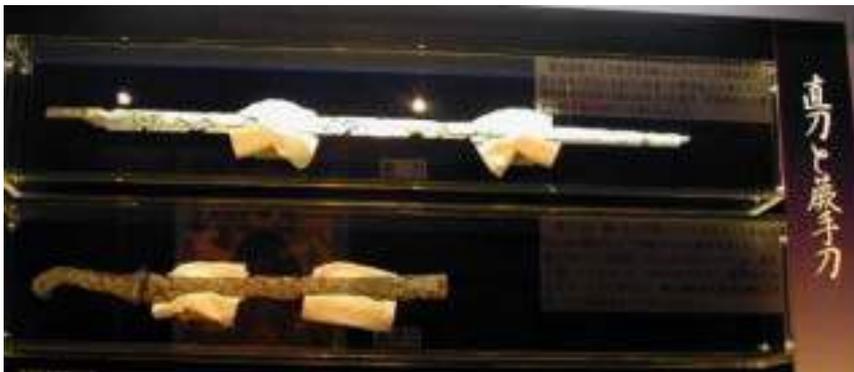
## 1. 餅鉄

古代東北地方で産出した粒状・塊状の磁鉄鉱で主砂鉄や鉄鉱石と共に蝦夷が使用した要鉄資源。  
 (平均2キロ。1個で50キロのものもあるという。)

餅鉄は破碎を必要としない粒状のものもあり、主に河の中などに堆積しているが、山道や耕地にもある。金属状の光沢があるので採取しやすい。特に岩手県釜石付近の餅鉄は純度が高く、鉄分含有量が平均70%。特にリンやイオウなどの不純物が少ないなど良質。

北上で後年出土した「蕨手刀」の製鉄原料として この「餅鉄」を原料として精練・鍛冶されたものが多数ふくまれているといわれている。

## 2. 蝦夷の首領 阿弭流為の蕨手刀



蕨手刀は5世紀末には既に製造がはじまっており、奈良時代後期を中心にして、奈良時代前期から平安時代初期にわたってつくられたもの。特に北上の胆沢と和賀が拠点とみられ、餅鉄や砂鉄を原料につくられた。この頃大和朝廷の奥州征伐に対して、激しく抵抗した蝦夷の主要武器として威力を発揮した。蝦夷の首領阿弭流為の蕨手刀は66cmぐらいあったという。



現在鹿児島や徳島まで180刀発見されているが、岩手が57刀と断然多い。奈良の正倉院にもこの「蕨手刀」がある。

一関市立関博物館 展示より

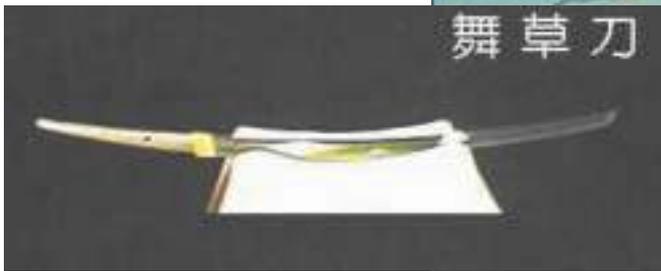
「奥州でいつ鉄の加工鍛冶・精練がはじまったのか？」は定かでないが、700年文武天皇の製鉄禁止例「東辺北辺に鉄冶を置く事得じ」との令がでて、蝦夷の武器作りに大和朝廷が神経質になっていた事が記されている。

この事から かなり古くから鉄の加工・鍛冶精練が始まっていた事がうかがえる。おそらく 大陸・朝

鮮半島からやって来た渡来人を通じ、鉄鍛冶の技術が伝えられていたのであろう。

この禁止令が出た頃 奥州には渡来人の刀匠(漢国鍛冶)がいたことが記録されている。そして この奥州の鉄鍛冶・刀作りの優秀性は奈良・平安時代都にも広く伝わり、奥州刀が都に広く持ち込まれている。一関郊外の「舞草」はその刀鍛冶の中心の一つとして、蝦夷が滅んだ跡 蕨手刀を改良して長身で反りのある刀「舞草刀」を作った。これが、日本刀のルーツとして奥州鍛冶とともに日本全国へ伝播していった。

### 3. 舞草刀



## 舞草刀 一関市

一関市を流れる北上川の東側にある舞草地区  
ここには鉄落山はじめ、刀鍛冶伝承や地名、  
信仰された石像などの平安時代に栄えた舞草  
刀鍛冶の痕跡が残っている。  
この地の鉄落山の南斜面から平安時代の土器  
とともに鉄滓が出土しています。  
刀身が長くて反りのある日本刀の原型がこの  
舞草など奥州で作られ都で評判になった。  
その後 藤原氏の衰退などで舞草など優秀な  
奥州の刀鍛冶が各地に散らばり、この特徴あ  
る刀作りが日本刀の原型として拡がっていった。  
蕨手刀を改良した舞草刀。舞草は日本刀の故郷



## 4. 参 考

### 1. 古代畿内勢力の蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡

【 黄金吹く 「行方製鉄遺跡」 】

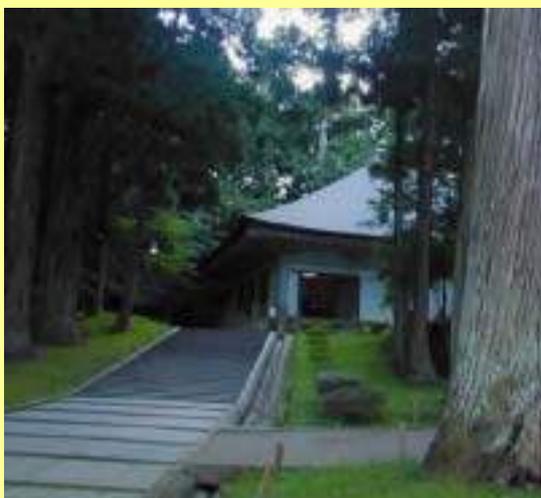


### 2. 「一 関 ・ 平 泉」 点 景



滝 美 関 と 一 関 博 物 館

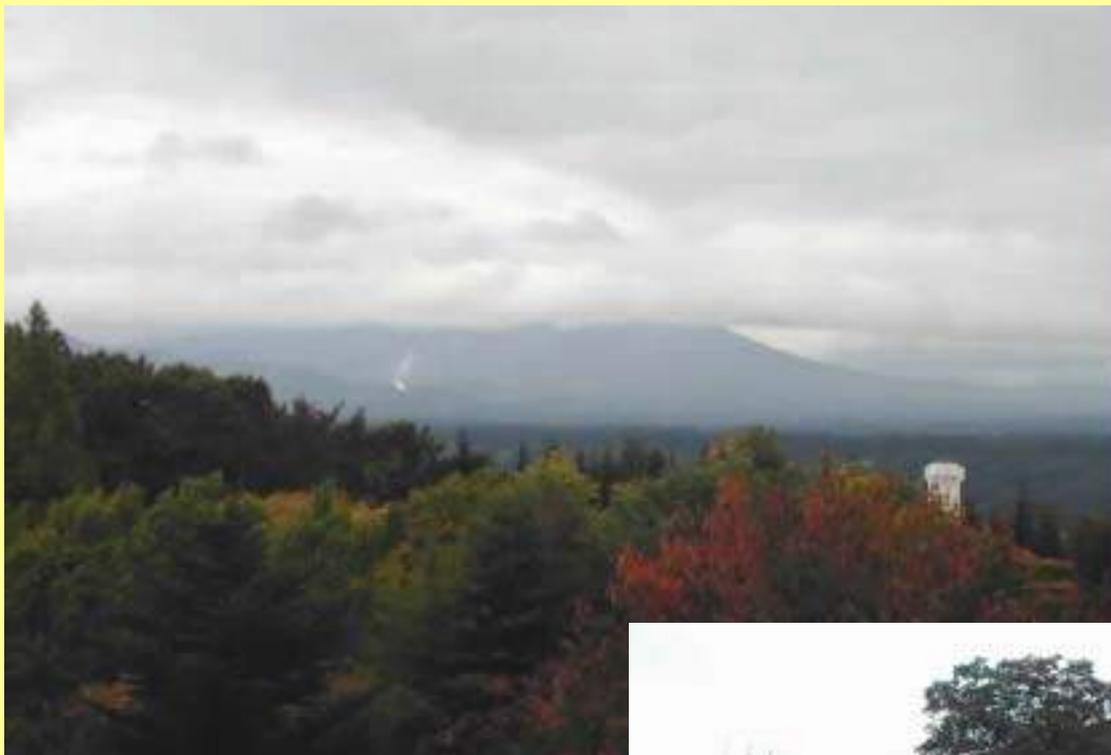
一 関 滝 美



平 泉 中 尊 寺 金 色 堂

中 尊 寺 从 前 九 年 の 役 古 戦 場 2001. 9. 22

### 3. 岩手 盛岡



岩手県立博物館 岩手山を望む



盛岡の夜景と旧岩手銀行本店 2001. 10. 11

## 9.

## 2000 年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄斧

約 2000 年前 弥生時代

高度な表面脱炭処理 鉄の強靱化熱処理伝来のルーツか？

古代 7 世紀 丹後遠所製鉄遺跡での「高チタン砂鉄によるたたら」製鉄は現在の溶接材料に通じる技。びっくりしましたが、先日 姫路兵庫県歴史民俗博物館での村上泰樹氏「兵庫の鉄」講演の中で起源前の弥生遺跡から発見される中国大陸伝来の鋳物製鉄斧では 表面をネバクするため脱炭の熱処理が施されている事知りました。（例えば 福岡県比恵遺跡鉄斧など）

また、低温加熱して鍛錬することで不純物や炭素を飛ばし、強靱化する技術（錬鉄）も既に紀元前にあったという。

後年の日本刀に見られる鍛錬技術や硬い鉄とねばい鉄のハイブリッド化技術のルーツがここにも見える。これらの技術も古代から連綿と現在に続く『鉄の技』・『先人の知恵』



高度な熱処理による脱炭表面処理がなされた中国製の古代 鋳造鉄斧

石器時代 黒曜石などガラス質で鋭利な癖開面を出す事が出来る小型の剥離石器の発明が人間の移動を可能にし、アフリカで生まれた人類大発展の起爆(特にシベリア・日本への移動。原日本人の形勢)の一つとなったといわれる。

鉄器についても一口に『日本 鉄器伝来』といわれるが、その鉄器とともに付帯するさまざまな技術が持ち込まれ、鉄器の使用のみならず、社会・文化変革の技術を提供し、更なる発展と日本形成に大きな役割を果たしていったといえる。

上記の弥生時代の中国製鉄斧にも、人類繁栄を作った近代鉄加工技術のルーツの一つが見える。

「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？

2002.2.3. joni.htm by M.Nakanishi

2002年2月3日 節分。

例年になく暖かい節分である。今年も各地で節分の行事として「鬼追いの豆まき」行事が行なわれている。

日本各地で広く鬼伝説が伝承されている。この鬼伝説には 古代「産鉄の民」「鉄の技術を伝えた渡来人」など「古代製鉄の日本伝来」と密接な関係があり、「鬼伝説」のあるところ「古代たたら」の地であることが多い。

「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？

鬼伝承が「古代 和鉄鉄」とかかわっていたとしたら「鉄とかかわっていた者はみな 悪者か・・・？」

「そんな事はない・・・」

「古代たたら」製鉄には「山を崩して その砂を川に流して砂鉄を得、また 大量の樹を切って炭を作る」つまり 山を丸裸にし、川を荒らし、汚染することがつきもの。

平野部の「農耕の民」と「産鉄の民」の争いがこのような「鬼伝説」となって伝承されているといわれる。また「産鉄の民」がもたらした「鉄」は「農耕具・武器」として圧倒的な威力を発揮。その支配をめぐって多くの部族・国が争い、多くの伝説を産んできた。

「鬼伝説」を伝承する側の立場で好きなように伝承された為にすべて「鬼退治」になってしまったのか・・・

日本に伝わる「鬼退治」伝承の多くが、いつも「だまし討ち」であったことは「鉄を有する民の勢力」がいかにか大きかったかを物語っている。抗争の中でこれらの勢力を取り込みつつ古代日本が形成されていったのではなかったか・・・。日本形成に果たした役割はむしろきわめて大きく、このことが「鬼伝説」がこれほど多く、また「今も親しみを持って 語り継がれている」理由でなかろうか・・・。また、青森県津軽 古代製鉄の郷 岩木山北山麓の弘前市鬼沢には「村人を助けた鬼」の伝承が伝わっている。今も節分には「福は内 鬼も内」と豆をまき、夏の「弘前ねぷた」には里を挙げて「鬼沢のねぷた」が街を練り歩く。今も里人に広く親しまれている。

節分の今日 日本各地に伝わる「鬼伝承」を「Iron Road 和鉄の道」を支えた人の群れと捕らえて整理をしてみました。

「古代産鉄の民」として日本の源流を作った「鬼」。日本の「鬼」バンザイの気持を込めて

2002.2.3. 節分 M.Naksanishi

### 日本各地の鬼伝説 リスト

1. 伯耆国 孝謙天皇 鬼退治伝説 鳥取県 溝口町  
日野川流域 楽楽福神社の伝承
2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」 岩手県一関・胆沢  
坂上田村麻呂の蝦夷征伐
3. 丹後国 大江山酒天童子伝承 京都府 大江町
4. 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼ヶ城 岡山県総社市
5. 青森県 岩木山(巖鬼山)山麓の鬼伝説 青森県弘前市・鱒ヶ沢市

# 1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説

楽楽福神社の伝承

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。

この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を奪って人々を苦しめていました。これを聞かれた孝霊天皇は、みずから軍勢を率いて鬼住山の南のこれより少し高い笹苞山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治されました。

天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹巻の団子を献上し、士気が大いに上がったといひます。それで、この山を笹苞山(さすとさん)とよぶようになりました。

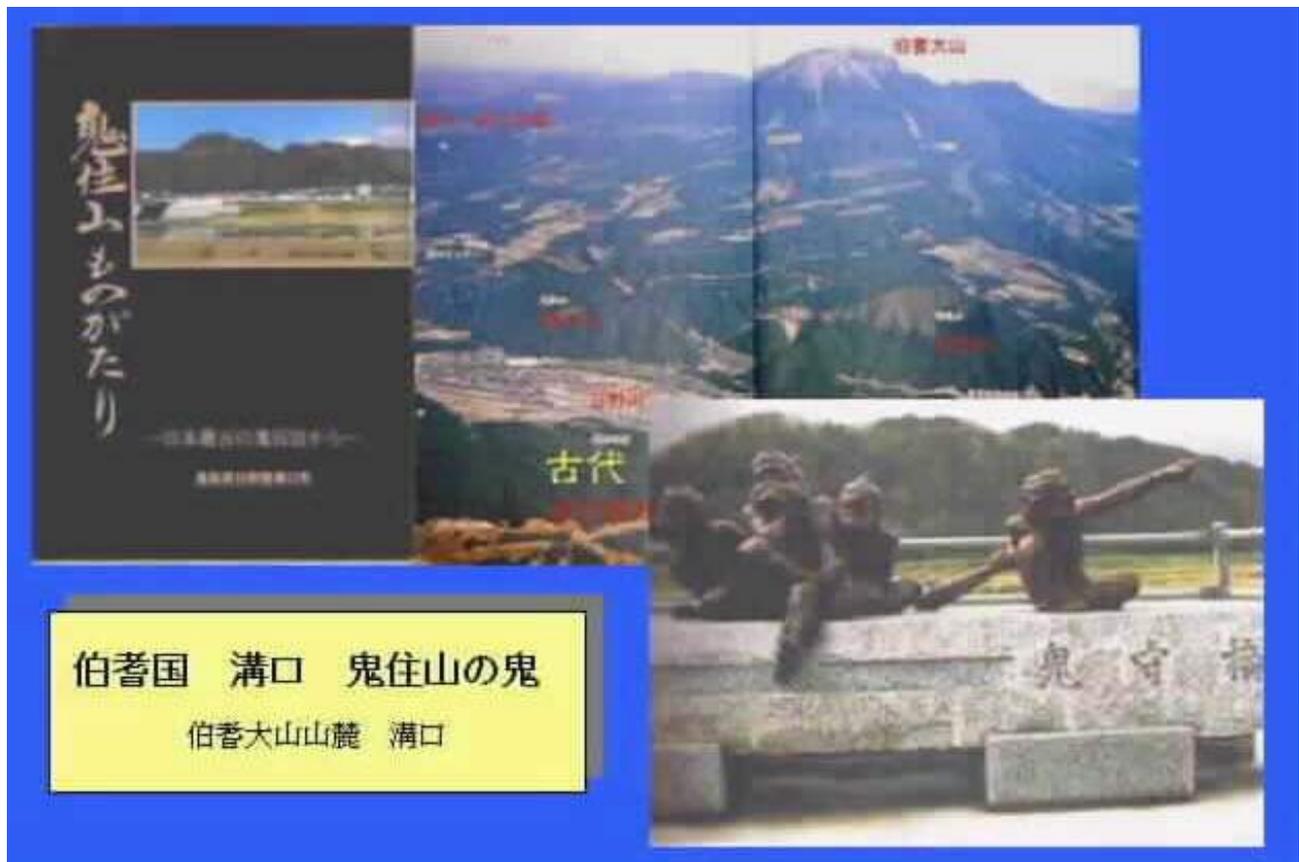
鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。ある晩 眠っている天皇に笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を遅い退治出来るでしょう」とのお告げがあった。

これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して舞いあがった笹の後に追い、鬼退治に向かいました。

笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべも無く、麓に逃げて降参 しました。

人々は大変喜んで麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。これが楽楽福(ささふく)神社のいわれです。

-楽楽福神社 古文書より-



大山山麓の「伯耆 溝口」は古代伯耆の国の一大製鉄地帯。

中国山地の山奥から流れ出て大山の山麓を縫い日本海へ流れ出る日野川。この日野川が大山の山裾から平野部に出る山合が伯耆溝口。この日野川沿いの山中は砂鉄の宝庫。この溝口の地では古代から、この川や山中の砂鉄と山中の樹木を焼いて作った木炭を使って、製鉄が広く行われてきた。

この山間の溝口を抜けるとそこは大山をバックに日本海まで、淀江・妻木の平野・丘陵が大きく広がっている。

この淀江の地は古代より、大陸から多くの渡来人がやって来て栄えた王城の地。

## 2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」

東北・北上地方 多賀城・胆沢城・秋田城遺跡



## 3. 丹後国 大江山酒吞童子伝承

京都府 大江町



801年、蝦夷征伐の本拠地として現水沢市に造った胆沢城（後の鎮守府）

「勇猛果敢な蝦夷の雄「アテルイ」は坂上田村麻呂率いる10万の大和朝廷軍を長年にわたり翻弄。「ヒタカミ（北上）の鬼」とおそれられた。多年にわたる戦いで兵力も次第に減少し、田村麻呂を信じてこれ以上の抵抗をあきらめて降伏。500の兵を連れて都に連れてこられたが朝廷は田村麻呂必死の懇願に関わらず斬首してしまった」という。

この一関・北上の北上川流域は豊富な鉄・鉱物資源を背景に東北で一番先に開けた地。金を背景にした藤原三代の栄華。

蝦夷の刀「葺手刀」を発展させ、日本刀の源流奥州鍛冶の伝統を作った「舞草刀」

ここも和鉄の故郷である。

大江山に住む酒吞童子ほかの多くの鬼たちが都を荒らしまわっていた。

源頼光はこの鬼退治の為配下の四天王と呼ばれる渡辺綱・坂田金時・碓井貞光・ト部季武などを引き連れ、大江山へ。

頼光たちは鬼の城に泊めてもらったお礼に酒を差しだして鬼たちと酒盛り。夜になると、頼光らは起きだして酒吞童子のそばに近寄り、一気に首をはねた。

酒吞童子の首ははねられたまま頼光に飛びかかり、その兜にかみついたまま動かなくなった。酒吞童子は最期に「おのれ、図ったか。鬼は決して人をだましたりしないものを」と言った」という。

大江山の北側にある丹後の国は古代鉄の王国。特に大江山近傍の山並から流れ下る野田川・竹野川流域は古代遺跡と共に製鉄遺跡が点在する一大製鉄地帯

## 4 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼城 99.5.29.

「真金吹く 吉備の中山 帯にセル 細谷川音のさや今朝」

”真金吹く”は吉備の枕詞。鉄の時に飛び散る火花を象徴している。

また、古墳の副葬品として鉄製品が出土（岡山市の神宮山古墳や金蔵山古墳）している。



鬼ヶ城から吉備の中山 児島湾を望む

「真金吹く 吉備の中山・・・」と歌われた吉備は 大和に対抗する古代王国があった所であり、かつ古代製鉄の発祥の地の一つ現在の総社市を中心とした吉備地方には古代遺跡・古代製鉄遺跡が目白押し。また、この地には「桃太郎」伝説の源流となった「ウラの鬼伝説」がある。

吉備の平野部から山にかかる所 吉備平野を一望出来る山の上に古代朝鮮の様式で作られた「鬼ヶ城」がある。詳細はまだ良くわかっていないが、古代 大陸からの進入に備えた砦だとも、この砦が「桃太郎の鬼退治」伝説の鬼ヶ城とも伝えられている。頂上に立つとその下の平野

には現在の総社市と古代吉備の国の数々の遺跡が広がり、直ぐ下の丘陵地帯の川筋からも「たたら遺跡」が発掘され 鉄穴流し場などが整備された自然公園となっている。

また、この総社の地の後背の山並みの中には、鬼の住む山としてもう一つ「鬼ヶ城山」がある。



総社市郊外にある「鬼ヶ城」遺跡 99.5.29

桃太郎伝説の原型 温羅伝説 温羅の居城と伝えられる「鬼ヶ城」

## 桃太郎伝説の原型「温羅伝説」

備中国 新山（にいやま、今の総社 市奥坂）に居城を築き西国から都へ通う船を襲っては人を殺め、財宝を奪うなど、数々の悪事を働き、人々は温羅を「鬼神」その居城を「鬼ノ城」と呼んで恐れていた。温羅の悪行にたまりかねた人々は和朝廷に温羅退治を申し出た。

武勇に優れた五十狭芹彦命（のちの吉備津彦命）。命は大軍を率いて吉備の中山に陣を張り、片岡山（倉敷市矢部）に石楯を築いて戦った。

合戦の時 命の放った矢は、鬼ノ城から温羅が投げた岩と 空中でぶつかり合っては落ち、なかなか勝負がつかない。そこで命は一度に二本の矢を放つと一本は温羅の投げる岩とぶつかり合い落下したが、もう一矢は温羅の左目に命中。温羅の左目から吹き出した血は血吸川

（総社市）に流れ、下流にある浜をも真っ赤に染めた。今その地は赤浜と呼ばれている。

命に追われた温羅は色々姿を変え逃げまわったが、とうとう命につかまり首をはねられた。ところが、その首は土中に埋めるなど色々手を尽くしたが、13年間もうなり続けた。

ある夜のこと、命の枕元に温羅が立ち「わが妻、阿曾媛に神饌を炊かしめよ。これまでの悪業の償いとして、この釜をうならせて世の吉凶を告げよう。」と。これが今に伝えられている吉備津神社の鳴釜神事である。



古代遺跡が広がる吉備国 ー鬼城からー



「桃太郎」伝説の吉備津彦神社

この桃太郎伝承・鬼伝説をどう読むか

温羅が朝鮮半島の百濟または新羅の王子としたら、この温羅一族は鉄の技術を持って日本にやってきて、吉備の和鉄の技術を展開した産鉄の民と考えられないか……。出雲のスサノオ伝説がスサノオノミコトを新羅の王子として伝承しているのと同じかも。確証はないが……

伝承を和鉄と重ねると良く符合して理解できる。大和朝廷が直接支配したかった吉備の和鉄。この鉄の覇権をめぐる吉備と大和との戦いがこの温羅伝説であり、桃太郎伝説と言えまいか。

吉備津神社の鳴釜神事の伝承と結びつけ、吉備にとって温羅は「鬼」ではなく 吉備繁栄をもたらした恩人であり、吉備の人達の思いを大和朝廷が無視できず、吉備津神社造営がなされたと考えている人もいる。

吉備の枕詞「真金吹く 吉備の中山・・・・・・」と歌われた古代の大製鉄地帯 吉備を舞台に鉄の派遣を巡っての戦い・しいては日本誕生のため 吉備で展開された大ドラマ それが「桃太郎」伝説ではないか・・・

鬼ヶ城の上に立ち、眼下に広がる吉備の古代遺跡 製鉄の中心だった中山の丘陵地を眺めながら、この温羅の伝説に思いをはせました。

## 5. 青森県 岩木山（巖鬼山） 山麓の鬼伝説

青森県 弘前市・鱒ヶ沢町

岩木山北山麓から鱒ヶ沢へ流れ下る赤石川・鳴沢川の流域は古代からの製鉄地帯であり、また、岩木山は「巖鬼山」の名が示すとおり、多くの鬼が住んでいたとされている。

山の麓にはその元締めとして岩木山を信仰の中心とした巖鬼山神社・岩木山神社や鉄製品を祭る鬼神社など数多くの鬼伝説を伝承する郷が点在する。

### 1. 巖鬼山の鬼伝説が広く伝承される鱒ヶ沢



岩木山 北麓赤倉口より



鱒ヶ沢へ流れ下る赤石川



岩木山北麓 十腰内 原生林の中 巖鬼山神社

鳴沢川の上流 原生林に包まれた巖鬼山神社の近くの郷鱒ヶ沢市十腰内には「この地の長者の娘に恋をした鬼が 長者の命で不眠不休で十二本の刀を打ったが、娘をやりたくない長者が その内の二本を隠し、結局 娘をもらえず、刀が十本しかない(十腰内)といいながら山に帰っていった」

という鬼伝承が在る。また、この地には古い製鉄地名と共に古代製鉄遺跡が幾つか発見されている。

## 2. 鬼神社と鬼沢の鬼伝承

## 弘前市鬼沢



また、岩木山北山麓の弘前市鬼沢には「村人を助けた鬼」の伝承が伝わっている。

「早魃で田畑が荒れて困っている村人を見て一夜にして水路を作り水をひいて山に帰っていった鬼  
今も節分には「福は内 鬼も内」と豆をまき、夏の「弘前ねぶた」には里を挙げて「鬼沢のねぶた」が  
街を練り歩く。」

また、この鬼沢の森の中にひっそりと鉄製品の献額を多数かかげた鬼神社がある。

今も里人に広く親しまれている「鬼の里 鬼沢」である。

「鬼」伝説 討たれる方の「鬼」には何か物悲しさと後ろめたさがついてまわる。  
古代から今まで色々な形で表現され、伝承されてきた鬼のさまざまな形態を見ると上記しさ  
「物悲しさと後ろめたさ」の裏にあるのはなにか・・・？  
日本人にとって「鬼」は「悪者」というより、愛すべき存在でなかったか・・・？。  
支配者に対して 必死に抵抗した「弱者」の代表ではなかったか・・・？

この鬼を古代日本に製鉄技術をもたらした「産鉄の民」とすると日本誕生のドラマはこの「産  
鉄の民」をはずしては語れない。しかし、伝えられた鉄の技術により、争いが一層激しい  
ものとなり、強者・弱者が生まれてきたのも事実。

現代の文明においても鉄を語る時 この二面性を常に持っていると言えまいか・・・

「鬼」伝説や伝承が色々変化して多数語られ、表現されるのもこの二面性ゆえ、また伝承の  
なかでも、知らず知らずこれを感じているといえまいか？

## 「真金吹く」吉備の国

「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」



古代 吉備国 総社市 「鬼ノ城」より遠望 99.5.29.

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた
2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  - 「弥生の`暮らし」を持たらした大陸からの渡来人  
- NHK 「日本人遥かな旅」より -
  - 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」
  - 参 考 日本 鬼伝説

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説【1】

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた

kibi0.htm by M.Nakanishi 2002.3.2.



吉備は後の時代に歌われた  
「鉄」と「桃太郎の鬼退治」  
伝説の国

「真金吹く」は  
吉備の枕言葉で鉄精錬で飛  
び散る火花の様を言い表し  
ている。



鬼ノ城から眼下に広がる古代吉備の国を遠望

眼下総社市の平野の向こうに吉備の中山から古代造山古墳ほか  
数々の遺跡そして四国の山並が眺望

岡山県総社市の背後にある丘陵地帯吉備高原南端の丘の上にある「鬼ノ城」に立ち、南を見下ろすと眼下には総社の市街・田園地帯が広がり、その向こうに点在するいくつかの古墳と丘陵地が見え、さらに児島半島を経て瀬戸内海・四国の山並がみえる。眼下に広がるこれらの地は古代吉備の国の中心地。

古代この総社のあたりまで内海が入り込み、古墳・丘陵が点在する。その一番左岡山よりの丘陵地が吉備の中山。眼下に広がる平野は古代吉備の国のまさに中心。

古代 朝鮮半島から北九州・瀬戸内海を通して大和へ至る大陸文化交流の道の真中にこの吉備の国

がどっしりと座っている。 渡来の民によって持たされた製鉄の技術がこの吉備の国に根付き、この古代鉄の一大生産地の覇権をめぐる諸国が争い、その覇権を握った大和を中心として日本が誕生する。

「吉備国の鉄の覇権をめぐる争い」「日本誕生前夜の鉄の争い」が「桃太郎の鬼退治」でなかったか……吉備の国に残る「鬼ノ城」とそこに伝承されている「温羅」伝説が「桃太郎の鬼退治」の元になったと言われ、この「Iron Road 和鉄の道」上での一大ドラマを描いているのではないかと……。

もっとも 現存する鬼ノ城の発掘調査からは7世紀後半大陸からの侵攻に備えて造られた多数の山城の一つと考えられている。しかし 公式にはこの「鬼ノ城」の記録は歴史書のどこにもなく、この城は元々大和勢力とは異なる吉備勢力の造った城もしくは 秘密裏に唐の備えとして築いたとの見方もある。(663年 倭国軍は朝鮮白村江で唐・新羅連合軍と戦い、大敗。 唐の再三の日本攻勢に怯えた日本が唐の侵攻に備えた 対応とすれば 発掘の結果は説明がつく。また、鬼ノ城のような歴史書に載っていない同時期の山城が瀬戸内海各地に約20もあるといわれている。)

吉備の国で何時「鉄の精錬製造」が初まったかは定かでないが、早くから大陸から輸入された鉄ていを加工する鍛冶が始り、その後鉄精錬も行なわれ、「真金吹く」の伝統が形成されていったと考えられる。総社市窪木薬師寺遺跡からは大陸製の鉄ていとともに鍛冶加工跡が出土している。

日本でも最古の製鉄遺跡の部類に入る総社千引かなくろ谷製鉄遺跡は6世紀後半の遺跡であり、6世紀後半には広く吉備の国で鉄精錬がおこなわれていたと考えられている。



総社市後背の丘陵地にそびえる「鬼ノ城」



備中で出土した大陸製鉄ていと鍛冶跡

## 2. 古代吉備の国 「鉄」そして「鬼」

kibi01.htm by M.Nakanishi

### 2.1. 「弥生の暮らし」を持たらした大陸からの渡来人

-NHK 「日本人遥かな旅」より-

弥生時代に大陸から北九州・山口に渡来した人々は今まで縄文人の暮らしを支えてきた狩猟・森の恵みに依存した採取の生活様式を一変させ、水田稲作により、安定した食料生産をもたらし、その人口を爆発的に増大させた。

また、森を切り開き、水田耕作を可能とする大規模な土木工事を可能とする鉄器並びにその鍛冶技術も大陸からもたらされた。(精練技術が何時もたらされたか? は現状まだ良く解らないがもっと後の時代と考えられている。)

これらの渡来系弥生人の集落はその人口を増加し、縄文人と融合しつつ東海・越前地方まで急速に東進・北進を続け、これらの中から巨大勢力・王国が生まれてくる。

自然環境が大きく異なる東海以東・以北の地方では急速には水田耕作は広がらず、従来森の恵みに依存した縄文人の世界が広がっており、東進の速度は鈍った。

しかし、この地方においても 水田稲作を学ぶ者 渡来人の移住等渡来系弥生人と縄文人が融合しあい、突如として、巨大な弥生集落が形勢され、次第に稲作弥生文化並びに鉄器の拡大と共に弥生の文化の時代に移っていった。

このような縄文の暮らしから弥生への変化が生じる過程において 日本の特筆すべき点は『相手を抹殺するのではなく 従来からいる縄文人と融合する事により、変化が進んだ』事であり、この伝統は良きにつけ悪しきにつけ、今日の日本文化にも脈々と受け継がれている。つまり、『稲作や鉄の技術等をもった渡来人がやってきて、彼らが日本を席卷し、縄文人を蹴散らして日本が誕生したのではない。』と言う事が遺伝子的にも数々の古代遺跡からの数々の遺物やその分布・伝承文化からも解ってきている。

また、最近の研究では 現代にいたるまで、日本人においては、原日本人を形成した縄文人と渡来系弥生人の融合の割合に差があることも解ってきている。

(ある地方が孤立してその系統を保っているというのではなく、日本人全体の中で、よく言われる縄文系あるいは弥生系の顔という話と同じであり、その根本には根絶ではなく、融合の中ではぐくんできた結果であると言われている。)

日本形成の根幹が大陸からの渡来人によってつくられながら、古代から今現在にいたるまで、大陸文化に同化される事なく、日本固有の文化が育まれてきた理由もこれで理解できる。

この事が理解されないと邪馬台国論争を初め、日本誕生の謎を秘めた古代は見えてこないと思われる。

その後 時期的には、弥生時代後期から古墳時代前期にあたる時期 大陸から色々な技術、銅器、鉄器などが流れ込んできた時期と重なるが、西日本では各地で巨大勢力が起こり、となり、日本誕生の前夜が形成された。



弥生後期～古墳時代 出土の鉄製武器

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 1. 北九州勢力   | 筑後川、有明海         |
| 2. 出雲勢力    | 斐伊川、宍道湖、中海      |
| 3. 吉備勢力    | 吉井川、旭川、高梁川、瀬戸内海 |
| 4. 伯耆      | 日野川             |
| 5. 大和、河内勢力 | 大和川、大阪湾         |
| 6. 丹後      | 竹野川、野田川         |
| 7. 越前勢力    | 白山からの九頭龍川、足羽川   |
| 8. 東海勢力    | 木曾川、長良川、揖斐川     |

これらの地域では大陸・朝鮮半島との交流の痕跡が明らかとなっており、さらには、主要な川の流域を中心に古くから鍛冶製鉄が行なわれた地域である。安定食糧である稲作による人口爆発とその水田開発工具としての鉄器製造の支配を通じ、巨大勢力 王国へと育っていった事がうかがえる。

これらの国々は互いに交易・交流すると共にさらには朝鮮半島の新羅・百済とも連携して、他の勢力を圧倒する王国に育ち、それらが並立する時代を経て、抗争・統一の時代へと突入する。日本誕生にかかわった北九州・河内・出雲・吉備・越等の国々である。

## 2. 2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」



「吉備の中山」の丘陵地



鬼退治伝説の吉備津彦命を祭る吉備津神社と吉備津彦神社

吉備国では後に古今和歌集に「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」と歌われるごとく、鉄・鍛冶生産が早くから行なわれてきた鉄の一大生産地。

大陸から北九州を経て畿内へ行く途中にある吉備では、いち早く大陸の新しい文化・技術が伝わったであろう。その中で、水田耕作・勢力伸張の大きな武器となった鉄精錬・鍛冶の技術も大きな川と内深く入り込んだ内海での豊富な砂鉄の体積を使って、この吉備の地でいち早く根付き、古代鉄の一大生産地となっていった。

まさに「真金吹く 吉備の中山 おびにせる 細谷川のおとのさやけさ」である。

”真金吹く”は吉備の枕詞であり、製鉄の時に飛び散る火花を象徴している。

また、後の時代の延喜式によると吉備は「調」として鋏や鉄を納める国として記載がなされ、中世以降も備前刀や備中鋏等の鉄製で吉備の国は、全国に知られている。

この「吉備の中山」は吉備の古墳群や国分寺跡が並ぶ総社の丘陵地に隣接する別の岡山よりの小さな丘陵地。この丘陵地の麓にも 吉備津神社 吉備津彦神社をはじめ、多くの古代遺跡がある。

吉備の持つ鉄の技術は吉備の勢力伸張の武器であると共に他の巨大化する勢力にとっても魅力的なものであり、この吉備の鉄の覇権をめぐる、連合・争いが巻き起こったであろうし、この中で吉備は出雲と同様大和の勢力下に組み込まれてゆく事になる。

この鉄の覇権をめぐる争いの伝承が「鬼ノ城 温羅伝承」つまり「桃太郎の鬼退治」の伝承であろう。

ぽかぽか陽気の中 眼下に広がる鬼の城。

「鬼ノ城」の丘に立ったのはもう随分前 99.5.29. もう記憶も少し薄れているが、ぽかぽか陽気の午後。こんな温暖の地でたとえ堅固な城であるにしても南に大きく開けた地が 「悪者の鬼の城」には似合わない。もっと 山奥か 人里はなれた未開の土地でなければ・・・。

やっぱり ここでも 鬼は悪者に仕立て上げられたのか・・・・・・・・・・

産鉄の民と支配者との争い 大和にとっては悪者であっても 吉備では良き隣人・恩人でなかったか 「鬼」「鬼」と悪者として追いまわす中に何か 親しみをこめ、「福は内 鬼は外」と豆をまく節分。

21世紀のキーワードと言われる「敵対・抹殺から融合・融和へ」鬼伝説の中にある「親しみ」もこれでないか・・・・・・・・

鉄は両刀の刃。

古代 そして日本の伝統の中に 21世紀を生き抜く解がないか・・・・・・・・・・

2002.2.24. 柏にて 鬼に親しみをこめて

by M. Nakanishi

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

### 3. 吉備の国 「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」

kibioni0.htm by M. Nakanishi

#### 1. 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」

#### 2. 鬼ノ城 walk - 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら



桃太郎伝説の鬼が住む「鬼の城」



「鬼ノ城」から古代吉備の国を望む 99.5.29.  
左「吉備の中山」右 造山古墳・国分寺ほか総社市街

### 3.1. 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」

#### 桃太郎伝説の原型「温羅伝説」

備中国 新山（にいやま、今の総社 市奥坂）に居城を築き西国から都へ通う船を襲っては人を殺め、財宝を奪うなど、数々の悪事を働き、人々は温羅を「鬼神」その居城を「鬼ノ城」と呼んで恐れていた。温羅の悪行にたまりかねた人々は大和朝廷に温羅退治を申し出た。武勇に優れた五十狭芹彦命（のちの吉備津彦命）。命は大軍を率いて吉備の中山に陣を張り、片岡山（倉敷市矢部）に石楯を築いて戦った。合戦の時 命の放った矢は、鬼ノ城から温羅が投げた岩と 空中でぶつかり合っては落ち、なかなか勝負がつかない。そこで命は一度に二本の矢を放つと一本は温羅の投げる岩とぶつかり合い落下したが、もう一矢は温羅の左目に命中。温羅の左目から吹き出した血は血吸川（総社市）に流れ、下流にある浜をも真っ赤に染めた。今その地は赤浜と呼ばれている。命に追われた温羅は色々姿を変え逃げまわったが、とうとう命につかまり首をはねられた。ところが、その首は土中に埋めるなど色々手を尽くしたが、13年間もうなり続けた。ある夜のこと、命の枕元に温羅が立ち「わが妻、阿曾媛に神饌を炊かしめよ。これまでの悪業の償いとして、この釜をうならせて世の吉凶を告げよう。」と。これが今に伝えられている吉備津神社の鳴釜神事である。

昔話の「桃太郎」は、吉備津彦命の「温羅退治」の伝承をもとに作られたといわれます。鬼のモデルになった「温羅」は、百済から渡来した王子で、性格は荒々しく、凶悪で、身の丈1丈4尺(約4m20cm)もあったといわれている。

現在の岡山県総社市の当時は海が入り込んだ先端の切り立った丘の上にある、朝鮮式山城、「鬼の城」に住み、瀬戸内海を通る船などを荒らしまわった。そこで大和朝廷は、武勇の誉れ高い吉備津彦命に鬼(温羅)退治を命じた。昔話の中で桃太郎のお供をした犬とキジは、吉備津彦命の犬飼と鳥飼の家臣といわれ、もう一人の猿がなにかは、わかっていない。捕らえられた温羅は首を切られ、地中深く埋められ、13年間もうなり続けた。ある晩吉備津彦命の夢枕に「ワシの首を吉備津神社のかまどの下に埋めてくれ。そうすれば釜をならして世の吉凶を占おう」。こうして始まったのが鳴釜神事です。御竈殿で行われる釜鳴の神事は、お釜の鳴動の音の大小長短によって吉凶禍福を占う。古く「本朝神社考」・上田秋成の『雨月物語』にも紹介されている。



吉備津神社



吉備津彦神社



この桃太郎伝承・鬼伝説をどう読むか

温羅が朝鮮半島の百濟または新羅の王子としたら、この温羅一族は鉄の技術を持って日本にやってきて、吉備の和鉄の技術を展開した産鉄の民と考えられないか・・・。

出雲のスサノオ伝説が確証はないがスサノオノミコトを新羅の王子として伝承しているのと同じかも。吉備は真金吹く和鉄の国。この鉄の覇権をめぐる吉備と大和との戦いがこの温羅伝説であり、桃太郎伝説と言えまいか・・・伝承を和鉄と重ねると良く符合して理解できる。吉備津神社造営や吉備津神社の鳴釜神事の伝承と結びつけ、温羅は「鬼」ではなく産鉄による吉備繁栄の恩人と考えている人もいる。

吉備の枕詞「真金吹く 吉備の中山・・・」と歌われた古代の大製鉄地帯 吉備を舞台に鉄の派遣を巡っての戦いそして、日本誕生の幕開けとして吉備で展開された大ドラマ それが「桃太郎」伝説ではないか・・・

鬼ヶ城の上に立ち、眼下に広がる吉備の古代遺跡 製鉄の中心だった中山の丘陵地を眺めながら、この温羅の伝説に思いをはせている

99.5.29. 「鬼ノ城」で by M.Nakanishi

### 3.2. 鬼ノ城 walk

- 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら



鬼ノ城山



鬼ノ城 と 鬼ノ城からの展望

総社の町の中を抜け、その背後の丘陵地帯を少し登った所(総社市奥坂)に古代の山城「鬼ノ城」がある。山あいの公園を抜けた小高い丘と丘の間の所に駐車場があり、「鬼ノ城」の立て札がある。

見あげる小高い丘そのものが城砦になっており、「鬼ノ城」。

そこから丘をまきながら小道を頂上に登り、北東の隅の城塞の頂上に達する。切り立った絶壁に、大小無数の石を積み上げた城堡が築かれ、標高四百メートルの頂からは総社市の市街と田園地帯を前に、古代における「吉備の中山」から「吉備の穴海」児島半島までがはるかに見渡せ、四国の山並みまでもが一望できる。

今でこそ内陸の城に見えるが、古代の海岸線ははるかに奥深くまで入り込んでいたらしく、海岸に隣接した「鬼が島」と呼ぶにふさわしい威容だったのだろう。「吉備津」などの地名にその名残がみられる。

「鬼ノ城」は、まさに戦略的に重要な場所に造られた古代の巨大要塞・朝鮮式山城である。「鬼ノ島」「鬼ノ城」と言うとは何か岩山の洞窟と想像していましたが、堅固な城砦で巨大な土木工事がなされた城。「鬼」

がつくった城などというものでなく、吉備の国の立派なリーダーが国を挙げて作ったものであろう。

この城が伝説の「温羅」の城としたら、吉備巨大な勢力をもった集団の居城として「温羅」伝説を「朝鮮半島からやって来た製鉄集団」と考えても良いのではないか

一説にはこの城は大陸からの侵攻に備えた城との考え方も在り、出土品等から七世紀後半から八世紀前半に機能していたとみられる。663年、日本軍が唐・新羅連合軍に敗れた朝鮮半島・白村江の戦いの後、朝廷が建設した大野城（福岡県）や屋島城（高松市）などの朝鮮式山城と構造は似ているが、史書に鬼ノ城に関する記述はなく、「鬼ノ城」が誰によって何の目的で作られたかは謎とされている。



吉備の国 古代遺跡マップと「鬼ノ城」



## 参考

### a. 吉備津宮縁起による温羅伝説

崇神天皇のころ、異国の鬼神が吉備国に空より下った。彼は百濟の王子で名を温羅（ウラ・オンラ）ともいい吉備冠者とも呼ばれた。彼の両眼は爛々として虎狼の如く、蓬々たる堀髪は赤きこと燃えるが如く、身長は一丈四尺にも及び、絶倫かつ剽悍で凶悪であつた。

彼はやがて新山に居城を構え、さらにその傍の岩屋山に楯を構えて、しばしば西国から都へ送る貢船や婦女子を掠奪したので、人民は恐れおののいてこの居城を「鬼ノ城」と呼び、都に行つてその暴状を訴えた。

朝廷は大いにこれを憂い、武將を遣わしてこれを討たしめたが、温羅は兵を用いること頗る巧で出沒は変幻自在容易に討伐し難かつたので空しく帝都に引き返した

そこで、つぎは武勇の間こえ高い孝靈天皇の皇子イサセリヒコノミコトが派遣された。

ミコトは大軍を率いて吉備国に下り、まず吉備の中山に陣を布き、西は片岡山（今の倉敷市日畑西山の楯築山）に石楯を築き立てて防戦の準備をした。

さていよいよ温羅と戦ふこととなつたが、もとより変幻自在の鬼神のことであるから、戦ふこと雷神の如くその勢いはすさまじく、さすがのミコトも攻めあぐんだ。

ミコトの射る矢は、鬼神が岩を投げて空中で噛み合い、海中に落ちた。

そこでミコトは千鈞の強弓で2本の矢を同時に射たところ、一本は岩にあたり落ちたが、1本は見事に温羅の左眼にあつたので、流るる血潮が流水となってほとぼした。（これが血吸川のいわれです）

温羅はたちまち雉と化して山中に隠れたが、ミコトは鷹となって追いかけたので、温羅はまた鯉と化して血吸川に温羅はついにミコトの軍門に降って吉備冠者の名をミコトに献上したので、それよりミコトは吉備津彦命と改称されることとなった。

吉備津彦命は鬼の頭をはねて申し刺しにしてこれを曝した。岡山市の首部（こうべ）はその遺跡とされる。しかるにこの首が何年となく大声を発し、唸り響いて止まらないので吉備津彦命は部下の犬飼建（イヌカイノタケル）に命じて犬に喰わした。それでもなお吠え止まないなのでその首を吉備津宮の釜殿のかまの下八尺を掘って埋めたが、なお一三年の間唸りは止まらず近里に鳴り響いた。

ところがある夜、命の夢に温羅の霊が現われて「吾が妻、阿曾媛をして釜殿のかまを炊かしめよ、幸あれば裕に鳴り禍あれば荒らかに鳴ろう」と告げた。これが吉備津神社につたわる釜鳴神事のおこりとされる。

## b. 再度 古代吉備 「鉄」と「鬼」



「吉備の中山」の丘陵地



鬼退治伝説の吉備津彦命を祭る吉備津神社と吉備津彦神社

## 「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」

吉備国では後に古今和歌集に「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」と歌われるごとく、鉄・鍛冶生産が早くから行なわれてきた鉄の一大生産地。

大陸から北九州を経て畿内へ行く途中にある吉備では、いち早く大陸の新しい文化・技術が伝わったであろう。その中で、水田耕作・勢力伸張の大きな武器となった鉄精錬・鍛冶の技術も大きな川と内深く入り込んだ内海での豊富な砂鉄の体積を使って、この吉備の地でいち早く根付き、古代鉄の一大生産地となっていた。

まさに「真金吹く 吉備の中山 おびにせる 細谷川のおとのさやけさ」である。

”真金吹く”は吉備の枕詞であり、製鉄の時に飛び散る火花を象徴。

後の時代の延喜式によると吉備は「調」として鋤や鉄を納める国として記載がなされ、中世以降も備前

刀や備中鍛等の鉄製で吉備の国は、全国に知られている。

「吉備の中山」は吉備の古墳群や国分寺跡が並ぶ総社の丘陵地に隣接する小さな丘陵地。

この丘陵地の麓にも 吉備津神社 吉備津彦神社をはじめ、多くの古代遺跡がある。

この吉備の持つ鉄の技術は吉備の勢力伸張の武器であると共に他の巨大化する勢力にとっても魅力的なものであり、この吉備の鉄の覇権をめぐる、連合・争いが巻き起こったであろうし、この中で吉備は出雲と同様大和の勢力下に組み込まれてゆく事になる。

この鉄の覇権をめぐる争いの伝承が「鬼ノ城 温羅伝承」つまり「桃太郎の鬼退治」の伝承であろう。

ぼかぼか陽気の中 眼下に広がる鬼の城。鬼ノ城」の丘に立ったのはもう随分前 99.5.29.。

「もう記憶も少し薄れているが、ぼかぼか陽気の午後。

こんな温暖の地でたとえ堅固な城であるにしても南に大きく開けた地が「悪者の鬼の城」には似合わない。 もっと 山奥か 人里はなれた未開の土地でなければ・・・。

やっぱり ここでも 鬼は悪者に仕立て上げられたのか・・・・・・・・・・

産鉄の民と支配者との争い 大和にとっては悪者であっても 吉備では良き隣人・恩人でなかったか

「鬼」「鬼」と悪者として追いまわす中に何か親しみをこめ、「福は内 鬼は外」と豆をまく節分。

21世紀のキーワードと言われる「敵対・抹殺から融合・融和へ」鬼伝説の中にある「親しみ」もこれではないか・・・・・・・・

鉄は両刀の刃。古代 そして日本の伝統の中に 21世紀を生き抜く解がないか・・・・・・・・・・

2002.2.24. 柏にて 鬼に親しみをこめて by M.Nakanishi

## 「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

【完】

### 「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた
2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  - 「弥生の`暮らし」を持たらした大陸からの渡来人 -NHK 「日本人遥かな旅」より
  - 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説

- 参 考 日本 鬼伝説

---

2002.3.2. by M.Nakanishi

第5回 暦博国際シンポジウム  
「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して  
『加耶の鉄と倭国』  
2002. 3. 13. 千葉県佐倉市 国立歴史民俗博物館



2002. 3. 13. から 4 日間 韓国と日本の考古学の先生中心に古代日本の成立に大きな影響を与えた朝鮮「加耶」と「倭」の交流について、最近の日本・韓国の発掘調査結果などを踏まえて「古代東アジアにおける倭と加耶の文化交流」についての国際シンポジウムが千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で開催された。このシンポジウムの初日に「加耶の鉄と倭国」のテーマで古代日本の製鉄のルーツや朝鮮半島の辰韓・加耶の鉄が古代日本成立にはたした役割等が新しい考古学調査を基に討論された。

「日本の古代製鉄のルーツは大陸・朝鮮にあることが定説になっており、この鉄の覇権をめぐって展開されたドラマが日本誕生に深く結びついている」と言われ、弥生時代から古墳時代そして大和朝廷の時代へと紀元 2~7 世紀の古代和鉄を探ってゆくと常に行き着く「朝鮮半島加耶の鉄」。

自分の知識と言えば、情報が断片的で、時代もきっちり把握できておらず、何とはなしに「加耶の鉄が製鉄の民と共に日本へやってきて、その鉄の歴史が古代日本誕生のドラマの中で数々の役割を演じてきた」と。

1. 吉備・出雲神話と鉄のかかわりと各地に残る古代「鬼伝説・羽衣伝説」
2. 出雲荒神谷に忽然と消えた青銅器文化と鉄のかかわり
3. 鉄とともに忽然と現れた四隅突出方墳から巨大前方後円墳への墳墓の変遷
4. 大和連合日本統一にはこの加耶の鉄が決定的役割をはたしたのではないかと等々。

自分のもっばらの関心事は「これら日本で起こった数々の事象・伝承が実際の大陸・朝鮮との交流史の中に於いて、考古学でかつ日本・朝鮮・中国での製鉄・鍛冶遺跡発掘で信憑性を持って語られているのか」「本当のところ 日本の鉄のルーツはわかってきたのか・・・」そんな興味を持って このシンポジウム聴講。

昨今の古代史ブームの中 もっとも興味を持たれている「古代日本のルーツ」にかかわる「朝鮮加耶と

の交流」がテーマであり、専門家ばかりでなく、各地の文化財保護に関わる人 そして私みたいな素人など 席が指定されるほどで、国立歴史民俗博物館の大ホールが満席の盛況であった。

## 12.1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった？ — 日本古代鉄の歴史 —

弥生の時代の始まりは鉄器使用に裏付けられた水田稲作によると言われる。`、  
 しかし、現状弥生時代には種々の鉄製工具が使われ出したが、いずれも日本で作られた鉄ではなく、大陸から持ち込まれた物と見られている。  
 一番古いもので紀元前2世紀頃から日本各地で鉄斧など鑄鉄製品が出土しているが、これらはすべて大陸からもたらされたもので、日本で鑄造された痕跡はない。  
 九州テクノ大野正巳氏らの鉄器遺物 鍛冶スラグなどの分析を通じた整理等をベースにシンポジウムでの諸氏の話をもとめ、日本での鉄の歴史を次のように整理した。

**表 日本古代鉄の歴史**

|             |     |     |      |     |     |           |     |            |     |                 |     |            |     |     |      |      |    |    |    |
|-------------|-----|-----|------|-----|-----|-----------|-----|------------|-----|-----------------|-----|------------|-----|-----|------|------|----|----|----|
| BC 800      | 600 | 400 | 300  | 200 | 100 | 0         | 100 | 200        | 300 | 400             | 500 | 600        | 700 | 800 | 1000 | 1500 |    |    |    |
| ▼           | ▼   | ▼   | ▼    | ▼   | ▼   | ▼         | ▼   | ▼          | ▼   | ▼               | ▼   | ▼          | ▼   | ▼   | ▼    | ▼    |    |    |    |
| 縄文晩期        |     |     | 弥生前期 |     |     | 中期        |     | 後期         |     | 古墳前期            |     | 中期         |     | 後期  |      | 飛鳥   | 奈良 | 平安 | 室町 |
| 【鑄造破片再生の時代】 |     |     |      |     |     | 【本格鍛冶の時代】 |     |            |     |                 |     | 【鉄の量産化の時代】 |     |     |      |      |    |    |    |
| 日本古代 和鉄の歴史  |     |     |      |     |     | 【原始鍛冶の時代】 |     |            |     | 【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】 |     |            |     |     |      |      |    |    |    |
| 【鍛打伸展鍛冶の時代】 |     |     |      |     |     |           |     | 【鉄の多様化の時代】 |     |                 |     |            |     |     |      |      |    |    |    |

1. **縄文晩期 ~ 弥生前期 紀元前2世紀 ~ 紀元1世紀** 【鑄造破片再生の時代】  
 中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鑄物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。
2. **弥生時代中期 ~ 後期 紀元1世紀 ~ 3世紀初頭** 【原始鍛冶の時代】  
 薄く板状に鑄込み表面脱炭された素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われる。
3. **弥生時代後期以降 ~ 古墳時代中期 2世紀 ~ 4世紀** 【鍛打伸展鍛冶の時代】  
 中国では脆い鑄鉄鑄物ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状鍊鉄が得られるようになり、日本では、脱炭鑄鉄と同時にこれらを素材とした鍛鍊加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。
4. **古墳時代初頭以降 初期 ~ 中期 3世紀前半 ~ 5世紀** 【本格鍛冶の時代】  
 大陸では塊状鉄精鍊が本格化し、鍛冶材料として広く流布。朝鮮半島でもこの塊状鉄精鍊がスタートしたと見られるが、はっきりしない。この当時 半島朝鮮半島の南部辰韓・加耶と倭国との交流が始り、4世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄い鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。  
 当初3世紀には北九州に限られた鉄の先進地が5世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。  
 5世紀後半になると畿内には大県遺跡など大規模な專業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

## 5. 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5世紀末～8世紀【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】

その始りはまだはっきりしないが、5世紀末から6世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始まり、鉄素材の自給が始まった。

また 国内に大量に存在する砂鉄を原料とした精錬も始まり、日本での鉄自給の波が西国から東へ広がって行く。

7世紀末から8世紀には現在の福島県原ノ町近傍(行方製鉄遺跡)まで広がりさらに、9世紀には青森岩木山北山麓での製鉄が確認されている。

## 6. 奈良・平安時代 8世紀～11世紀 【鉄の多様化の時代】

竪型炉が関東・東国に出現し、大型の箱型炉や鋳物遺跡の出現など鉄生産が日本全国におよび、鉄生産の多様化が進む。本格的な鋳物生産がはじまり鉄の多様化がはじまる。

## 7. 中世 15世紀以降 【鉄の量産化の時代】

高殿たたらが鉄山経営として成り立ち 出雲など中国地方の生産が他を圧倒して行く

日本では縄文晩期に鑄造鉄斧があらわれ、弥生時代には数多くの中国製と考えられる鉄斧が出土しているが、日本で鉄が自給されるのは5世紀末から6世紀と考えられ、それ以前には鍛冶滓などはみつかったても、製鉄炉や精錬スラグは見つからず、自給の鉄精錬が行われた痕跡は見つかっていない。

5世紀末 千引カナクロ谷製鉄遺跡等吉備の国で大陸と同じ方式の鉄鉱石原料とした鉄精錬が現れ、6世紀になると国内に大量にある砂鉄を原料とした製鉄炉もあらわれ、九州・西国から東へ急速に鉄の自給が進んで行く。

このことから 「鉄の時代の始まり=弥生時代」といわれるが、自前の鉄文化が日本で根付くのは大和朝廷が成立する飛鳥時代以降と言う事になる。

### ● 弥生時代 中国から移入された鑄造鉄斧等の鉄器類



弥生時代には大量の鉄斧が中国から伝来したが、これらの鉄斧表面は再加熱による表面弾炭処理が施され、硬くて脆い高炭素鑄鉄(白鉄)の表面にねばい脱炭層が付与されている。日本に鉄器が伝来した初期から高度の加工処理が施されていた。

また、これら日本に伝来した鉄斧は工具として使われたのみならず、この鉄斧や折損破片を鉄素材としてさらに鍛打・研磨・剥ぎ取りなどの技法により、工具に再生された。

弥生時代後期になる表面脱炭さした薄

い鑄造鉄板が伝来し、簡単な加熱曲げ加工が始まる。(原始鍛冶)

当時 中国は前漢の時代。前漢は全国に46の鉄官を置き鉄の生産すべて官営として管理下においた。これらの鉄が朝鮮半島に置かれた楽浪郡等4郡の交易基地を通じて日本にもたらされたと見られている。また、弥生後期から古墳前期にかけて、鉄鉱石を直接還元して鉄を作る塊状錬鉄法がおこなわれるようになり、脆い鉄に替わって ねばい鉄が得られるようになり、鍛冶材料として広く交易商品として中国朝鮮で流通するようになる。それらも日本に伝来し、本格的な過熱鍛冶が始まる。当初は中国製がそのまま日本にもたらされるが、次第に朝鮮半島で鍛冶加工されたり、朝鮮半島で製造されたものが日本

にもたらされる。特に4世紀 朝鮮半島の南端に近い加耶はこの鉄の生産・鍛冶・交易の中心地となり、日本にもたらされる鉄鍛冶材料も飛躍的に増大。  
この朝鮮からもたらされた鉄は冶具や水田耕作などの道具に鍛冶加工されたばかりでなく、武具としても広く用いられ、この朝鮮の鉄の派遣が日本(倭国)各地に起こった諸国の勢力争いの重要な武器となり、この中から大和連合が生まれ、日本を統一して行く事になる。



日本最古の中国製鉄斧が出土した  
福岡県曲り田遺跡



日本出土各種鉄器



近畿最古の鉄の斧  
京都府 扇谷遺跡 / 弥生前期末～中期初頃

近畿最古の鉄斧が出土した  
京都府 丹後扇谷遺跡



福岡県比恵弥生遺跡から出土した中国製鑄造鉄斧 断面 弥生時代 中期 今から約2000年前



福岡県比恵遺跡出土 中国製鑄造鉄斧 弥生中期 約2000年前  
紀元前 中国では既に鉄の鑄造として、高度な鑄造技術が存在  
その技術は現在にも通じる鉄の鑄である

## 2. 「加耶の鉄を巡る古代日本の派遣争い」それが日本を造っていった



中国製の鑄造鉄が大量に日本に移入された弥生時代 大陸との交流の主は朝鮮半島を通じてであり、中国では漢が成立し、紀元前2世紀末には全国46ヶ所に鉄官をおき、周辺諸国に主として鑄造鉄器供給をすると共に鉄を支配。倭・朝鮮諸国へは朝鮮半島に置いた楽浪・帯方郡など4郡を通じて供給された。  
その後、朝鮮半島では中国の鉄素材を板状鉄斧等に鍛冶加工するとともに製鉄の技術もつたわったと考えられ、朝鮮で鉄鉱石精錬された鉄が交易の中心として倭に持ち込まれるようになる。

2,3世紀になると中国歴史書に倭の記事が載るようになり、中国・朝鮮半島との交流が盛んになり鉄は重要な交易品となっていることが解る。

2世紀 「後漢書・東夷伝の弁辰条」には「国出鉄、倭・馬韓並従市之」の記述があり、「南部弁辰の地（弁韓後の加耶地域）で産出する鉄鉱石の製練（鍛錬）が行われ、その鉄を倭・韓の人たちが買っていた」との記述がある。おそらく斧状鉄板とみられている。

3世紀 卑弥呼が魏に遣使を送ったのが AD239 であり、「魏史・東夷伝の弁辰条」AD286 にも朝鮮半島南部弁辰の地（後の加耶地域）が「国出鉄、韓・倭、皆従取之」の記述がある。



吉備の遺跡ら出土した中国製 鉄てい



朝鮮半島から日本等周辺諸国へ交易された鉄てい

4世紀になると朝鮮半島では馬韓・弁韓・辰韓そしてそれらを引き継ぐ百濟・加耶・新羅の三国時代になるとその地方にある鉄鉱石を原料とした精錬・製鉄が盛んに行われるようになり、これらの国から周辺諸国・中国への鉄の輸出もさらに活発になったと推定されている。

4世紀半ばこれらの地域で斧状鉄板から鉄へへの形状変化がおり、鉄生産の中心をになった加耶など朝鮮半島南部から日本に製鉄素材として大量に日本へ持ち込まれるようになる。

この頃 高句麗の南下・漢の4郡の衰退による朝鮮半島の鉄交易先の変化そして朝鮮3国の勢力の変化など中国・朝鮮での勢力変化が頻繁に生じ、鉄の倭に対する供給基地であった加耶を中心とした朝鮮三国と倭の関係も鉄の覇権・文化交流も大きく揺れ動く事になる。また、これら大陸の先進文化と共に朝鮮各地から数多くの渡来人が日本にやってくる。

特に鉄の入手は日本国内諸国最重要項目であり、くるくると変わり行く朝鮮の情勢。鉄の入手・鉄の自給への道を巡って多くの交流があり、鉄の覇権をめぐる日本国内諸国の争いを経て、古墳時代から飛鳥時代への変遷 大和を中心とした連合による日本統一へと進んでいったと見るのも一つの側面であろう。

「加耶の鉄」を巡って「大陸から朝鮮・対馬をへて北九州・日本へ」壮大な古代「鉄の道」が大陸から海をわたって日本・畿内へと続いている。

第5回 暦博国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して

『加耶の鉄と倭国』

【完】

## 近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群



一野路小野山遺跡・木瓜原遺跡ほか一

古代大和勢力を支えた琵琶湖南岸の大製鉄地帯  
瀬田川兩岸の南郷・瀬田丘陵に広がる古代製鉄遺跡群

京都から滋賀県との境に連なる京都東山・逢坂山の峰々を越えて大津に入ると左手には比叡・比良の山々を背に琵琶湖が広がり、右手には湖南アルプスをはじめとした勢田丘陵が続く。

琵琶湖とこの湖南アルプスから鈴鹿へと続く山々の間には広大な近江平野が広がるが、大津はその入口部にあたる。北に大きく扇形に広がる琵琶湖は大津の東瀬田で上記した南に延びる湖南アルプスなどの丘陵地と京都東山連峰にはさまれた谷間を瀬田川となって南郷・宇治・大阪へ流れ下って行く。この瀬田川の東側から南東には広大な丘陵地が東西に延々と続き、その背後には笠置・信楽・鈴鹿の山々がさらに続いている。

この丘陵地と琵琶湖の間には大津・瀬田を入口に広大な近江平野が続く。この大津・瀬田から草津・野洲へと連なる平野部は琵琶湖を交易路として畿内と大陸並びに日本海沿岸・東国を結ぶ古代から開けた要衝の地で、大陸・朝鮮半島など新しい文化流入の地である。そしてこの瀬田川東岸の瀬田丘陵地と対岸を含めた南郷地区は古代の製鉄遺跡が点在し、7世紀後半から8世紀にかけての古墳時代から飛鳥時代・奈良時代にかけての古代畿内の大製鉄地帯だったと考えられている。

これらの南郷・瀬田丘陵地の製鉄遺跡の特徴は吉備の国と共に大陸・朝鮮半島で行われてきた鉄鉱石精練であり、他の地域が日本で改良された砂鉄精練であるのと大きく異なっている。

日本における精練・製鉄の始りは5世紀後半ないしは6世紀初頭 鉄鉱石精練法として大陸朝鮮から技術移転されたといわれ、吉備千引がなくろ谷遺跡等が日本で製鉄が行われたとの確認が取れる初期の製鉄遺跡と言われている。

大陸・朝鮮で砂鉄精練が行われていたとの実証はなく(最近朝鮮で大量の砂鉄が鍛冶工房と一緒に見つかった例がでてきた)砂鉄精練は日本で大きく改良発展したと考えられているが、この時代の製鉄炉として砂鉄精練の痕跡を残す製鉄遺跡も数多多く発見されている。この南郷・瀬田丘陵地で発掘された製鉄遺跡群は、日本での製鉄開始時期からは100年程度後の飛鳥時代の製鉄遺跡ではあるが、日本に最初に伝来した初期の製鉄法がそのまま踏襲されてき、それが大和勢力と密接に関係する吉備とこの近江の国のみであると考えれば鉄器文化先進の地北九州と朝鮮の結びつきを圧して大和・吉備の勢力が朝鮮の新しい勢力と組み鉄の覇権を握って日本統一を成し遂げたともあながち乱暴ではなかろう。

それ以後大和勢力は丹後・出雲などの砂鉄精練技術をもつ諸国をもが従えて行くが、日本統一の原動力となった近江の鉄鉱石精練技術がそのまま痕跡として受け継がれてきたのではないかと・・・

古代近江は琵琶湖を通じた交易の要衝としての重要性が強く指摘されているが、この近江の鉄の生産国としての重要性も認識せねばならない。

古代天智天皇の近江の宮 聖武天皇の信楽宮 そして雄略天皇の越の国からの大和入場もすべてこの近江の鉄を舞台にまわったのではないかと・・・?

# 1. 滋賀県の古代製鉄遺跡

## 滋賀県で確認されている 古代 製鉄遺跡一覧 (7~9世紀)

|            |            |               |            |
|------------|------------|---------------|------------|
| 1、太平遺跡     | 大津市石山寺辺町   | 27、小荒路遺跡      | 高島郡マキノ町小荒路 |
| 2、平津池ノ下遺跡  | 大津市平津一丁目   | 28、天神社裏山A遺跡   | 高島郡マキノ町海津  |
| 3、南郷遺跡     | 大津市南郷一丁目   | 29、海津B遺跡      | 高島郡マキノ町海津  |
| 4、芋谷南遺跡    | 大津市南郷四丁目   | 30、白谷遺跡       | 高島郡マキノ町白谷  |
| 5、山口遺跡     | 大津市南郷五丁目   | 31、北牧野A遺跡     | 高島郡マキノ町牧野  |
| 6、青江遺跡     | 大津市神領三丁目   | 32、北牧野C遺跡     | 高島郡マキノ町牧野  |
| 7、青江南遺跡    | 大津市神領四丁目   | 33、北牧野D遺跡     | 高島郡マキノ町牧野  |
| 8、月輪南流遺跡   | 大津市月輪三丁目   | 34、北牧野E遺跡     | 高島郡マキノ町牧野  |
| 9、源内峠遺跡    | 大津市瀬田南大萱町  | 35、大谷川遺跡      | 高島郡マキノ町牧野  |
| 10、関ノ津東遺跡  | 大津市関津三丁目   | 36、谷八幡遺跡      | 高島郡今津町梅原   |
| 11、小山池遺跡   | 大津市関津六丁目   | 37、東谷遺跡       | 高島郡今津町大供   |
| 12、大塚遺跡    | 大津市上田上中野町  | 38、酒波遺跡       | 高島郡今津町酒波   |
| 13、藤尾遺跡    | 大津市藤尾奥町    | 39、木津遺跡       | 高島郡新旭町養庭   |
| 14、大野遺跡    | 大津市真野大野一丁目 | 40、鶴川遺跡       | 高島郡高島町鶴川   |
| 15、木瓜原遺跡   | 草津市野路町     | 41、明神遺跡       | 高島郡高島町鶴川   |
| 16、湧谷遺跡    | 草津市野路町     | 42、山田地蔵谷遺跡    | 滋賀郡志賀町北小松  |
| 17、金鉄落遺跡   | 草津市野路町     | 43、膝山北川遺跡     | 滋賀郡志賀町北小松  |
| 18、野路小野山遺跡 | 草津市野路町     | 44、滝山遺跡       | 滋賀郡志賀町北小松  |
| 19、キドラ遺跡   | 彦根市中山町     | 45、オクヒ山遺跡     | 滋賀郡志賀町北小松  |
| 20、古橋東遺跡   | 伊香郡木之本町古橋  | 46、念仏山井天神社遺跡  | 滋賀郡志賀町南小松  |
| 21、黒山A遺跡   | 伊香郡西浅井町黒山  | 47、谷ノ口遺跡      | 滋賀郡志賀町南小松  |
| 22、黒山B遺跡   | 伊香郡西浅井町黒山  | 48、後山畦倉遺跡     | 滋賀郡志賀町北比良  |
| 23、ひくれ谷遺跡  | 伊香郡西浅井町小山  | 49、天神山金糞峠入口遺跡 | 滋賀郡志賀町南比良  |
| 24、小山A遺跡   | 伊香郡西浅井町小山  | 50、タタラ谷遺跡     | 滋賀郡志賀町小野   |
| 25、小山B遺跡   | 伊香郡西浅井町小山  | 51、金刀比羅神社遺跡   | 滋賀郡志賀町守山   |
| 26、大浦A遺跡   | 伊香郡西浅井町庄   | 52、二口遺跡       | 滋賀郡志賀町     |

滋賀県教育委員会ホームページ <埋もれた文化財の話> 「近江の鉄と銅」より

上記一覧表は滋賀県埋蔵文化財センターで作成された古代7世紀~9世紀の滋賀県製鉄遺跡の一覧表でその分布がきわめて特徴的で3地域に分けられることです。

1. 大津市から草津市にかけて位置する瀬田丘陵北面（瀬田川西岸を含む）、
2. 西浅井町、マキノ町、今津町にかけて位置する野坂山地山麓、
3. 高島町から志賀町にかけて位置する比良山脈山麓

このうち、野坂山地と比良山脈からは、磁鉄鉱が産出するので、その鉄鉱石を使用して現地で製鉄していたと考えられる。

特に野坂山地の磁鉄鉱は、『続日本紀』天平宝字6年(762)2月25日条に、「大師藤原惠美朝臣押勝に、近江国の浅井・高島二郡の鉄穴各一処を賜う」との記載があり、浅井郡・高島郡の鉄穴に相当するものと考えられ、全国的にも高品質の鉄鉱石であったことが知られます。

一方、瀬田丘陵近辺では、現在のところ磁鉄鉱の産出は知られておらず、この地での製鉄は、原料の鉄鉱石をどこからか運んできて生産したと考えられ、規模が大きく、かつ古代では例のない防湿施設をもつ木瓜原遺跡の製鉄炉や、6基の製鉄炉を整然と配置し、高品位の鉄鉱石を使用している野路小野山遺跡の製鉄炉などを考えるとこの瀬田丘陵での製鉄は律令国家がかかわる官営工場の可能性が高い。

そこで注目されるのが、『続日本紀』天平14年(743)12月17日条の「近江の国司をして、有勢の家の専ら鉄穴を貪り、貧賤の民の採り用い得ぬことを禁断せしむ」という記述です。これによると、近江国で、有力な官人・貴族たちが、公民を使役して私的に製鉄を行っていたというのです。その場所がどこで、7~9世紀にかけて、瀬田丘陵を中心に近江国の各地で製鉄生産が行われていたことは、律令国家成立期において近江国が政治的・経済的にきわめて重要な位置を占めていたことを示しています。

## 2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる

草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ボケバラ)遺跡



3月23日京都から草津市の野路小野山製鉄遺跡など古代 大和政権成立の黎明の時代に極めて重要な役割をはたしたといわれる瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群を訪ねた。

3月13日国立歴史民俗博物館で開催された「加耶の鉄と倭」の国際シンポジウムで古代日本誕生の黎明期に大和連合のバックボーンとして鉄自給の使命を担ってさっそうと登場した近江の国琵琶湖南岸の鉄鉱石精練の話聞いた。



比叡ドライブウェイ 山中越え 琵琶湖から瀬田丘陵

近江が鉄の国であることは司馬遼太郎の「街道を行く」等ではいたもののそれはむしろ大陸と関係して湖北・比良山麓と考えていたので話を聞いてビックリ。

余知らなかったが、かつてよく通った南郷・瀬田の瀬田川沿いの丘陵地 最近 龍谷大学の理工 立命館大学の理工が進出し

たあの瀬田丘陵に古代の大規模な製鉄遺跡群があるという。資料も予備知識も全く無し。

でもあの丘陵地が続く近江平野は縄文・弥生の時代から開け、渡来人も多く住んだ古代の文化先進地。また 丘陵の奥にはかつて古代に都が造営された信楽があり、鈴鹿から笠置の峰々へ。またこの山間をぬけると飛鳥・奈良へと古代の道が続いている。



古代製鉄遺跡群のある瀬田丘陵の位置

さっそく地図と地名を頼りにまず一番解りやすそうな草津市野路小野山製鉄遺跡を訪ねる事にした。

京都から滋賀へ抜けるルートは幾つかあり、大動脈である国道1号線・名神高速道は京都から山科を抜け逢坂山を越えてゆく。また 京都の街の北から比叡山の南側を越える山中越えや比叡山の北を越える途中越えの道がある。京都から琵琶湖へ抜け、琵琶湖と山々との間の狭い平地に広がる大津の街を街道が抜けて行く。琵琶湖が瀬田・淀川として南に流れ出す口にかけてられた近江大橋を渡り草津にはいる。

大阪からだともう少し南側 国道1号線を瀬田の唐橋で瀬田川を渡り草津へ。

JR南草津駅のところで国道1号線を右に曲がる。

面真近かに幾重にも重なって住宅が立ち並ぶ丘陵が東西にのびている。瀬田丘陵である。約 500m ばかり進んでこの丘陵地にさしかかるところが京滋バイパスの野路中央のインター。このバイパスを越えたところに小野山団地のバス停があり、野路小野山製鉄遺跡もほぼこのあたりであるが、全くみあたらず。街の人たちに聞くが誰も要領を得ず。



国道1号線 京滋バイパス 草津市野路中央インター交差点付近

南西から延びる瀬田丘陵の北側の山裾 この道路の下に野路小野山遺跡がある

さらに丘陵地を少し登って行くと立命館大の正面の入口。もう一度引き返し、団地の中をうろうろするが解らず。通りがかりのお爺さんが「バイパスの直ぐ北側のところだ」と教えてくれるがやっぱり何も無し。近所をウロウロ約30分。 近くに草津玉川公民館を見つけそこで話をしてやっと所在が解った。

「インターそのものが小野山遺跡。約10mばかり土盛をせず橋になっているその下が遺跡」と教えてもらう。また「立命館大学正面のはいったところのグランドの下が木瓜原製鉄遺跡。ここは発掘跡が保存されているが、グランドの下なので事前に申し込んで扉を開けてもらわないとダメだろう」と。

「街の中 街として開発される中での遺跡の保存がいかに難しいか う・・・ん」とうなってしまった。

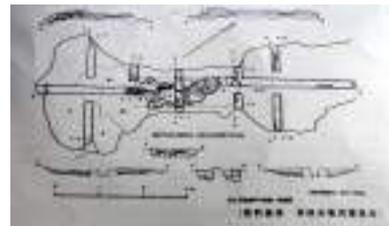
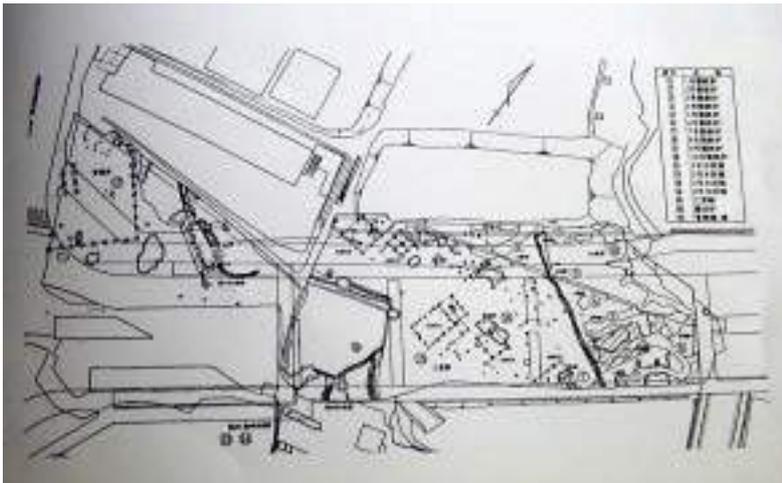


京滋バイパス 野路中央インターの橋脚の下にある野路小野山製鉄遺跡

この京滋バイパスの国道の下には下記のような7世紀末から8世紀半ばにかけての長方形の箱型製鉄炉11基・木炭窯6基・鍛冶工房とみられる掘建て柱建物など製鉄に関する一連の大製鉄遺跡遺構がまとまって眠っている。

一度調査後、埋め戻された遺跡は平成12年にバイパス下を中心に再度部分的に掘り起こされ、保存状態の確認が行われた。

〔滋賀埋文ニュース 第253号より〕



野路小野山遺跡概要と発掘された製鉄炉 野路小野山遺跡発掘調査概報より

京滋バイパスの野路中央の交差点の直ぐ東側約10mの幅で土盛のない橋になっていましたが、暗い橋の下です。調査は終わっているとは言いながら厳しいと感じました。



木瓜原製鉄遺跡が地下に保存された草津キャンパス グラウンド  
立命館大 草津市

立命館大もやっぱり土曜日  
でダメでした。

この南郷・瀬田の丘陵地は交  
通の要衝として また京  
都・大阪のベッドタウン  
とて有無を言わず開発の  
進んだところ。

古代から多くの渡来人がこ  
の地で日本人たちと一緒  
になって 鉄の自給に命を  
かけて取組みそれが原動、  
力となって 次第に大和政  
権から日本律令国家へ

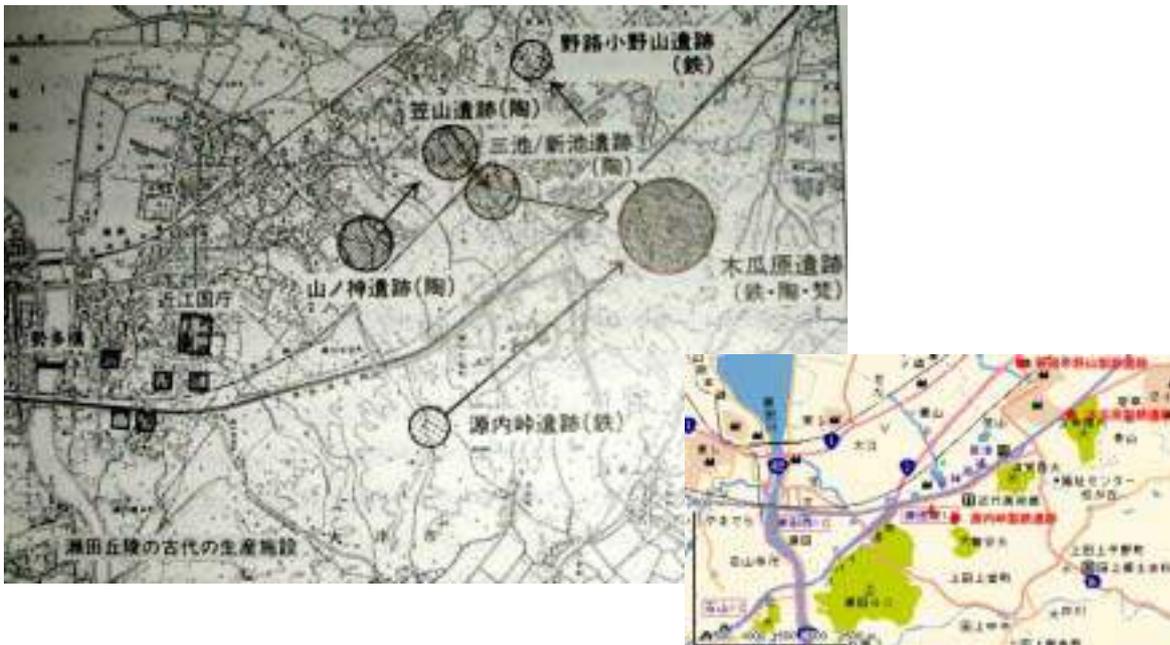
古墳時代から飛鳥・奈良の時代へと移っていく。この南郷・瀬田丘陵の製鉄遺跡と日本誕生のドラマ また、近江平野で発掘される数々の古代遺跡。近江の国の位置付けを考えるとこの地に総合的な古代博物館があっても良い地域ではないかと思うのですが・・・・。

今は住宅地開発の中に完全に埋もれてしまった瀬田丘陵。古代日本形成の重要な役割を担った畿内屈指の鉄の大生産地。眼前に広がる琵琶湖を眺めながら京都に山越えするとこの地の重要性が実感としてわかってくる。

大津市南郷・瀬田地区 龍谷大のある丘陵 今滋賀県文化財センター等がたちならんでいるが、この地も源内峠製鉄遺跡や桜峠遺跡など古代製鉄遺跡が発掘されている。このあたりも住宅地。きっちり遺跡がのこっているのだろうか？

源内峠製鉄遺跡はこの瀬田丘陵で発掘された一番古い遺跡と言う。

### 3. 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群 個々の製鉄遺跡概要



## ● 草津市 野路小野山製鉄遺跡

野路小野山製鉄遺跡は、市内野路町字小野山に所在する遺跡で、京滋バイパス建設に伴う発掘調査によって製鉄炉 11 基、木炭窯 6 基、大鍛冶跡、工房跡などが発見された。

この遺跡のある瀬田丘陵には、他にも木瓜原（ぼけわら）遺跡、観音堂遺跡、源内峠遺跡など多くの製鉄遺跡が集中し、飛鳥時代から奈良時代にかけての国内でも有数の製鉄地帯である。

瀬田丘陵の製鉄遺跡群の中では、野路小野山製鉄遺跡が最も新しい段階の遺跡と考えられ、操業の中心は 8 世紀なかば頃奈良時代の遺跡と推定されている。それ以前の遺跡では、1 基から数基の大型製鉄炉を用いて鉄が生産されていたが、野路小野山製鉄遺跡では、やや小型の製鉄炉を 6 基並べて操業していたことがわかっている。これは、熱効率のよい小型の製鉄炉を用いて良質の鉄を多量に生産することを目的としたためと考えられています。

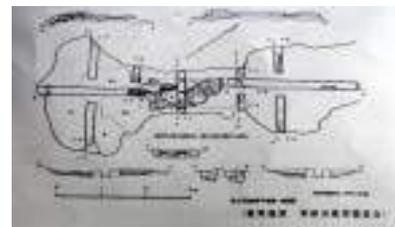
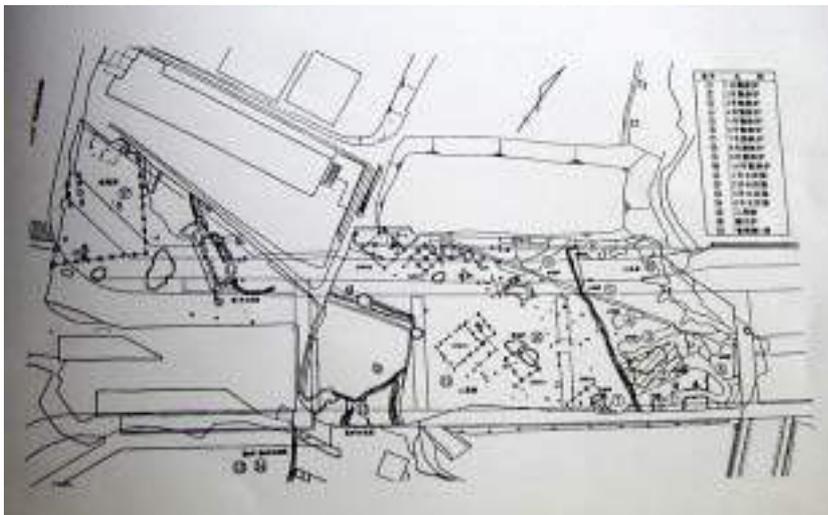


小野山遺跡製鉄炉跡



小野山遺跡復元模型

[天平の都 紫香楽] 刊行委員会発行 滋賀県信楽町 ホームページより



野路小野山遺跡概要と発掘された製鉄炉 野路小野山遺跡発掘調査概報より



製鉄原料として使われた鉄鉱石の一例

さらに、ここから出土している鉄鉱石は、他遺跡のものとは比べて極めて良質で、近隣では採集されないものであり、また、その鉄鉱石を分割する方法についても、高度な技術が用いられていたといわれています。これらのことから、野路小野山製鉄遺跡は、当時の最新の技術を用いて作られた製鉄所であったと考えることができる。

このように遠隔地から良質の原料を集め、最新の技術を導入することができたのは、一地方勢力の力だけでは困難であり、背後に大きな力が存在していたと考えられます。

この頃中央では聖武天皇の時代で、唐の文物制度を採用し、国政を充実させていました。野路小野山の地に作られた製鉄所は、中央の権力と深く関わりがあったと考えることができます。

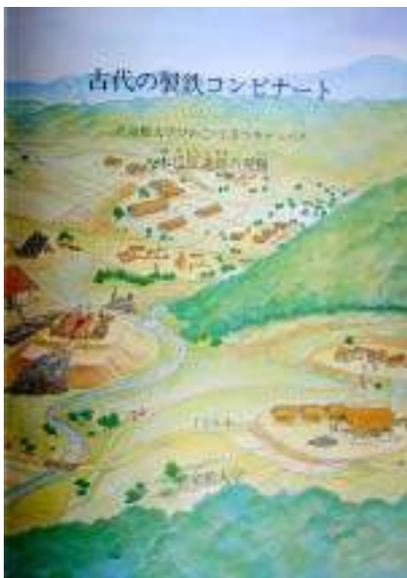
● 草津市 木瓜原製鉄遺跡 (立命館大ホームページより)



木瓜原(ぼけわら)遺跡は、七世紀末から八世紀初頭までの製鉄遺跡。立命館大学 草津キャンパスの建設に先立ち 1990 年から 1992 年にかけて発掘調査され、7 世紀末から 8 世紀初めにかけての貴重な製鉄遺跡である事が判明。現在、立命館大学の草津キャンパスのグラウンド地下に発掘された状態のままに保存されている。

この遺跡は箱型の製鉄炉と鍛冶場 木炭炉・須恵器窯・梵鐘の鑄造場など多岐にわたる生産施設が配置されたコンビナートの様相を呈する大規模な遺跡である。また 製鉄炉は他地域の同時代の製鉄炉と比べて格段に大きく(2.8x0.6m) 地下防湿近構造も丁寧で近江の中心的製鉄所であったと考えられる。

この木瓜原遺跡の概要については『「古代の製鉄コンビナート」立命館大学びわこ・くさつキャンパス 木瓜原遺跡の発掘』1994 年 立命館大学の小冊子にわかりやすくまとめられている。



木瓜原遺跡の製鉄炉遺構 『「古代の製鉄コンビナート」木瓜原遺跡の発掘』より

● 大津市瀬田 源内峠製鉄遺跡 龍谷大学 安食氏ホームページより



源内峠製鉄遺跡 発掘風景 安食真城氏ホームページより



源内峠遺跡の発掘報告を伝える 源内峠遺跡で発掘された製鉄炉 滋賀埋文ニュース 第221号より  
滋賀埋文ニュース 第221号

源内峠遺跡は龍谷大学瀬田学舎（大津市瀬田大江町横谷）のすぐ近く。昭和52・60年度の2度にわたる調査で遺跡は7世紀後半の製鉄炉跡で瀬田丘陵一帯では最古の遺跡である可能性があり、鉄鉱石精練が行われた箱形の4つの製鉄炉が発見された。調査後現地は埋め戻され現地保存の処置が取られているという。

まだ、自分で現地に立つ事できていませんが、龍谷大学の安食真城氏がホームページで発掘の時の様子を紹介されており、また安食氏並びに滋賀県埋蔵文化材センターの藤崎高志氏より貴重な資料を送っていただいたので、その中から遺跡の様子を紹介する。

あたりには鉄粉が80センチから1メートルも体積しており、約20～30トン程度あるとみられることから、この地で長期間にわたって作業が繰り返されたと推測されている。

古くから地道があり、鉄粉が多く見られたことから、以前からこの場に遺跡があるのではないかと考えられていた。龍谷大学開学時に道路をつけるに当たり調査をして遺跡の存在が確認された。

7世紀 藤原京、大津京、紫香樂京などの造営に大量の鉄が使われたのではないかと考えられている。

7世紀後半は朝鮮半島白村江での敗戦・百濟の滅亡・新羅の朝鮮半島統一と朝鮮半島との関係で国際緊張が高まり、朝鮮半島からの交易も思うに任せず、大和朝廷にとってこの源内峠製鉄遺跡等南郷・瀬田丘陵での鉄生産・自給が極めて重要な時であったと考えられ、その後この瀬田丘陵で次々と大規模な官営と見られる製鉄基地が営まれ、律令国家形成のバックボーンとして機能する。

## 4. 製鉄技術伝来と大陸・朝鮮から伸びる鉄の道



古墳時代中期 4世紀から5世紀にかけて朝鮮の加耶が鉄素材の供給基地として成長そこから鉄の形で大量に輸入された鉄は日本国内で数々の工具・武器・武具に鍛冶加工されて用いられた。日本では鉄素材の供給を加耶を中心とした朝鮮に頼らざるを得ず、国内諸勢力は朝鮮諸国との鉄供給をめぐる連携を進める一方、技術移転をベースに鉄自給の道が模索されてきた。この時期 中国・朝鮮も戦乱の時代であり、高句麗が勢力を伸ばし、南下してくると百済のみならず加耶諸国も圧迫され、鉄の供給も逼迫し、供給基地も変化する。また、新羅が順次勢力を伸ばし、6世紀半ばには加耶がほろぶ。このような5~7世紀にかけての朝鮮半島の混乱は日本の諸国にも大きな影響を与え、鉄の覇権をめぐる朝鮮諸国との連携や大量の渡来人の流入が生じる中、北九州や大和連合等諸国が対立し、百済と結び鉄の覇権を握った大和が次第に日本諸国を統合して日本骨格を作ってゆく。また、大和は同時に渡来人の技術をいち早く吸収し、鉄の自給についても、早くから大規模精錬を開始し、この鉄の力をもって諸国を統一し、7世紀初頭には律令国家を作り上げ、飛鳥・奈良時代を作ってゆく。大和朝廷の勢力の源泉となったのが、朝鮮からの鉄の移入と同時にこの瀬田丘陵での鉄自給と考えられている。

日本での鉄の生産は5世紀末から6世紀初頭まで遡れると言われているが、この近江の国瀬田丘陵ではおそらく渡来人のもたらした技術による鉄鉱石による鉄精錬が7世紀にはスタートしている。

他の地域がやっと鉄鉱石の代替原料として砂鉄を見つけ。これを用いた効率・品質でも劣る鉄精錬を開始している時にこの瀬田丘陵では大和国営の大規模な鉄生産がおこなわれ、次々と勢力を伸ばしていったと推定される。

まさに古墳から飛鳥・奈良時代にかけての日本骨格の誕生には朝鮮の鉄を巡る戦いそして日本での鉄自給の戦いが重要な役割を演じており、大和から朝鮮半島への幾重もの『Iron Road 和鉄の道』があり、近江の国はその重要な中心地として栄えたと考えられる。

この大和の繁栄を支えたのはこの近江国瀬田丘陵の鉄・吉備国の鉄であり、その後 これに丹後や越の国の鉄が加わり、蝦夷地征伐の8世紀には今の福島県原町金沢地区の行方の製鉄基地が加わって行く。

鉄の自給を達成し 大和朝廷を支えた「近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群」

—野路小野山遺跡・木瓜原遺跡ほか—

【完】

## Iron Road 【2】 2001

2001-2002. 4



4. 27. 大型連休のはじまり。 5月の連休との谷間に仕事あり。ぼんやりと1日ゆったりと春の信州へ出掛け 八ヶ岳山麓を小海線でめぐり、茅野にも行きたいと考えていた矢先に信州「佐久」で江戸末期の「たたら」遺跡「佐久町 茂来山鉄山」が調査されたとの昨年9月「信濃毎日」の記事が眼に飛び込んできた。

## 信濃毎日 2001. 9. 9. 「茂来山たたら」の記事

## 江戸末期の製鉄「たたら」地下遺構 佐久町で確認

長野県佐久町で、江戸時代末期につくられた「たたら」と呼ばれる製鉄用の地下遺構が、良好な状態で残っていることが8日までに、町教委が進めている発掘調査で分かった。調査担当の研究者によると、たたらの遺構がはっきりと確認できたのは中部地方では初めて。たたらは主に鉄の産地で発見されており、この遺構付帯のような鉄鉱石の産地で、たたらを輸入したのが確認されたのは全国でも珍しいという。製鉄史や県内産業史をたどる上で貴重な資料となりそうだ。

遺構が確認したのは、町町大目内の「茂来山（ちらいさん）たたら遺跡」。小海町境の茂来山（一、七〇メートル）の登山道入り口付近の山林内にある。この場所に製鉄所があったことは知られており、町史跡に指定されている。町教委は発掘調査への後援申請に併し、今年一月から十日までの予定で、「高野（たかの）」と呼ばれる中核遺跡の地下遺構部分を中心に行う「試掘」している。

この結果、縦約十メートル、横約八メートルにわたって、窯の遺構を特定。窯を加熱するための炭などを入れる「火舟（あひぶね）」と呼ばれる遺構は、長さ五メートル、幅約六メートル、深さ九十センチ。その周囲は粘土を張り付けた石垣になっていた。火舟に水分が入らないように、火舟の両側まで火をたいて周囲の土を乾燥させるための「小舟（こぶね）」と呼ばれる溝も確認され、長さ五メートル、幅六十センチ、深さ九十センチのはほぼ完全な形で残っていた。

調査した広島大学大学院の河村正利教授（文化財学）によると、たたら遺構の確認例は、中国地方に多いが、東日本では、福島県や岩手県で一箇所しかないという。しかも、たたらは鉄の産地に似た構造で、「鉄鉱石産地でたたらを輸入した例が確認されたのは全国でも初めてではないか」としている。今後、産出した鉄鉱石を貯め入れるために細かく砕く際、どのような方法がとられたのかなどの調査が続く。

遺構はいったん埋め戻す予定で、その前の九日午前九時半から、一般住民対象の見学会を開く。町教委は「産業者と相談し、常時見学が可能になるよう検討したい」としている。

古くから鉄鉱石や鉱物が出る現地でそのまま鉄山が経営された貴重な遺跡との話に興味津々。

日本の鉄製錬は6,7世紀 朝鮮半島から伝来。鉄鉱石原料を用いた「たたら」製鉄がそのスタート。しかし、日本各地に豊富にある「砂鉄」を用いたたたら製鉄に直ぐ移ってゆく。わずかに 東北地方に鉄鉱石製錬が残っているのみと考えていた。

江戸時代といえもう奥出雲・中国山地の「砂鉄」による大型たたら製錬華やかな時代。その時代に 信州で鉄鉱石原料によるたたら製鉄が実施されたと言う事と縄文の時代を含め、早くから開けた信州の地でのたたら製鉄遺構 信州にたたら遺跡など思いも寄らなかったのに興味深々。

地図で調べると千曲川をはさんで平野部があり、その両側を奥秩父へ連なる山々と八ヶ岳の山々が対峙する佐久町。佐久町の東側南端の山間を奥秩父から千曲川へ流れ下る抜井川があり、その川に沿って 佐久から十石峠を経て武州・奥秩父へつながる武州街道〔国道 255 号線〕が走っている。この武州街道を歩いて行くとすぐ前方左手にいくつかの低い山の上に正三角錐の美しいピラミットの山が見えてくる。この山が「茂来山」高さ 1717m。この山中に分け入ったところに茂来山鉄山遺跡がある。その高さ 山容の大きさから 八ヶ岳・蓼科の山々や浅間山の陰に隠れて目立たないが 佐久平からみると東に美しいピラ



茂来山 1717m 長野県 佐久町

ミッド形状の山体を見せ一目で判る山である。



昔 この佐久平から十石峠越えて 武州・奥秩父へと繋ぐ武州街道の街道脇で旅人たちにその姿を楽しませたに違いない。

今 信州 佐久は雪解けの水がながれ、八ヶ岳の峰々をバックに一編に春の花が咲き満ちているに違いない。小海線に乗って八ヶ岳の麓を回るのもよし・茂来山に登るのもよし。

佐久ー秩父の幹線 武州街道と茂来山鉄山遺跡の位置

## 1. 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk 長野県 南佐久郡 佐久町

幕末 秩父と信州を結ぶ武州街道沿いで

現地産出の鉄鉱石原料を使った「たたら製鉄」があった



千曲川越しにみた茂来山



佐久町のシンボル「たんぽぽ」と JR 小海線 海瀬駅



信州「佐久」へいってみようと思いついたのが吉日 4.27.朝 7時7分の長野新幹線に飛び乗る。

兎に角 速い。もう8時半には新幹線「佐久平」の駅に立っていました。小海線に乗り換えて 千曲川沿いに約30分佐久平を南へ、佐久町の羽黒下駅 海瀬駅へ。残念ながら蓼科・八ヶ岳連峰は霞んで良く見えない。新幹線の「佐久平」駅があるのが 佐久市 そこから 小海線は千曲川の東側の山裾を上流へ走り、地域医療の先駆で有名な佐久総合病院がある臼田町その隣りが佐久町 そして八ヶ岳の麓小海町 千曲川の源流品の川上へと続く。

海瀬駅で小海線を降りるが無人駅。全く案内板もなし 但し 直ぐ横が抜井川であり、これを遡れば行ける。

でも 遺跡の位置も正確にはよくわからず、羽黒下の駅まで戻り タクシーで奥の部落大日向へ行き、

鉄山遺跡のある茂来山登山道へ入ることにする。ここでもまた、「もの好きな・・・」と笑われたが、幸いやっと正確な遺跡の位置を知っている人に巡り会いほぼ 20 分程で大日向へ。  
残念ながら茂来山のピラミダルな姿は雲の中見えず。もっとも歩いて帰る道すがらずっとその美しい姿を見せてくれた。また、山は「親子連れの熊が出た」とかで登山禁止。道であった街の人も「自分も見て、次の日に人がおそわれた・・・」と言うので残念ながら一人では前へ進みがたく茂来山 鉄山遺跡の上 営林署跡地の登山口まで行って引き返した。



海瀬駅から抜井川沿いの集落を抜け 茂来山の麓 大日向集落へ 2002. 4. 27.

海瀬駅を東に折れて抜井川沿いに集落が点在する広い谷筋を奥秩父への道 武州街道を進むと 田圃のあちこちには黄色いタンポポが咲き乱れ春を告げている。  
小海線の駅名表示板にも「タンポポ」の花の絵と「花のまち さく」の表示が添えられ、この街がタンポポが咲き乱れる日本原風景がみられる街であることにいつわりなし。  
田圃と連なる山々を見ながらよく整備されたバイパス道路を進む。  
大きな送電鉄塔がこの平地を横切って伸びている。黒部一秩父一関東への幹線送ルートと表記されており、ここが今も信州と関東を結ぶ重要幹線であることが判る。  
約 20 分ほど進んで 右手に 茂来山から伸びる深い沢とそこを流れ下るの合流点に来る。茂来山登山道の標識も見える。大日向の集落である。右からの深い沢が霧久保沢 流れ下る川が切り久保川で ここまで来ると雲と前の山々にさえぎられ、小さな山の連なりの向こうにピラミッドの輪郭が一部見える。



大日向 茂来山の登山口 と 霧久保沢

茂来山登山道と書かれた標識の所から茂来山へ沢筋につけられた砂利道を一気に登って行く。  
 もう 誰もいない山中へ分け入って行く。右手の谷川に沿って新緑の林の中を道が山へ登って行く。山道の両側には「山吹」が黄色の花をつけ歓迎してくれている。約 15 分ほど谷筋を山中へ分け入ったところ、谷川と反対側 道脇の脇林の中に少し平らな部分が見え、其の中央部 木立の中の地面に青いビニールシートが被せてある。ただそれだけ 標識もなにもなし。茂来山 鉄山遺跡である。



霧久保沢 茂来山への登山道と 道端の「ヤマブキ」 - 茂来山 鉄山への道 2002. 4. 27. -

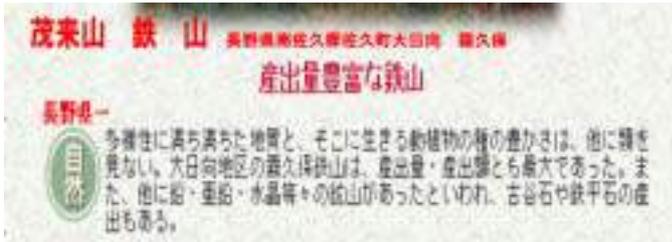


鉄鉱石原料によるたたら製鉄が行われた 幕末 の 茂来山 鉄山 遺跡

タクシーを帰して 一人其の中に立つ。

この遺跡の横で 谷川は滝となって雪解けの清流を落としている。そのそばで山吹が実に鮮やかな黄色の花を咲かせ、山全体が芽吹きを終えた若葉が覆う木立の中ウグイスの鳴き声が響き渡るたたら遺跡跡。周辺を少し歩くと幾段かの平らな土地があり、その段差を区切る石垣跡も見える。幕末の遺跡と聞いたのでまだ 周りに人の生活のにおいがすると思ったが、全く何もない。関西以西の遺跡にある金屋子さんも無し。ただ ひっそりと山肌の斜面の端 林の中にひっそりと埋もれている。

## 2. 茂来山 鉄山 遺跡 の 概 略



佐久町公民館の平岡氏から後日この茂来山鉄山遺跡の発掘図や公開資料を沢山送っていただいた。

この鉄山が経営されたのは幕末 嘉永元年・1848年から山火事で焼失する文久2年・1862年までの14年間と言われ、その後製鉄は大日向に移され 明治の初め頃まで経営された。

一方この地はその後畑となったりして私有地として管理され この地の下にたたら製鉄遺構そのまま埋もれていると言う。大日向の集落から徒歩で約30分～1時間山の中へ入ったところ。やっぱりこの鉄山も集落からは少し奥に入り、隔離されている。今は全くその面影も見えず山中である。

往時は沢山の人がこの鉄山へ往来し、また 大日向から武州街道を通過して江戸にこの鉄も送られたに違いない。今はみるかげもないが・・・・・・・・

資料によるとこの鉄山遺跡のある大日向集落の奥 霧久保沢周辺は昔から磁鉄鉱石はじめ 多くの金属鉱石が出る所であり、ここから出る鉄鉱石を粉碎してたたら製鉄に供したと思われる。また、青いシートがかけられた所がたたら炉跡で2基あったらしい。

### 2.1. 茂来山 鉄山 遺跡 今と昔



| 調査項目  | 調査結果                                                    | 調査場所 | 調査日時    | 調査者 |
|-------|---------------------------------------------------------|------|---------|-----|
| 遺構の位置 | 遺構の位置は、調査地の北東部にあり、周囲は土壌が赤褐色で、遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。 | 調査地  | 2001年9月 | 調査者 |
| 遺構の形状 | 遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。                              | 調査地  | 2001年9月 | 調査者 |
| 遺構の材質 | 遺構の材質は、土壌の色が赤褐色で、遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。             | 調査地  | 2001年9月 | 調査者 |
| 遺構の用途 | 遺構の用途は、調査地の北東部にあり、周囲は土壌が赤褐色で、遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。 | 調査地  | 2001年9月 | 調査者 |

史料

明治35年(1902) 幸平博士編纂『茂来山鉄山の遺跡』

遺跡の位置は、調査地の北東部にあり、周囲は土壌が赤褐色で、遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。

遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。

遺構の材質は、土壌の色が赤褐色で、遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。

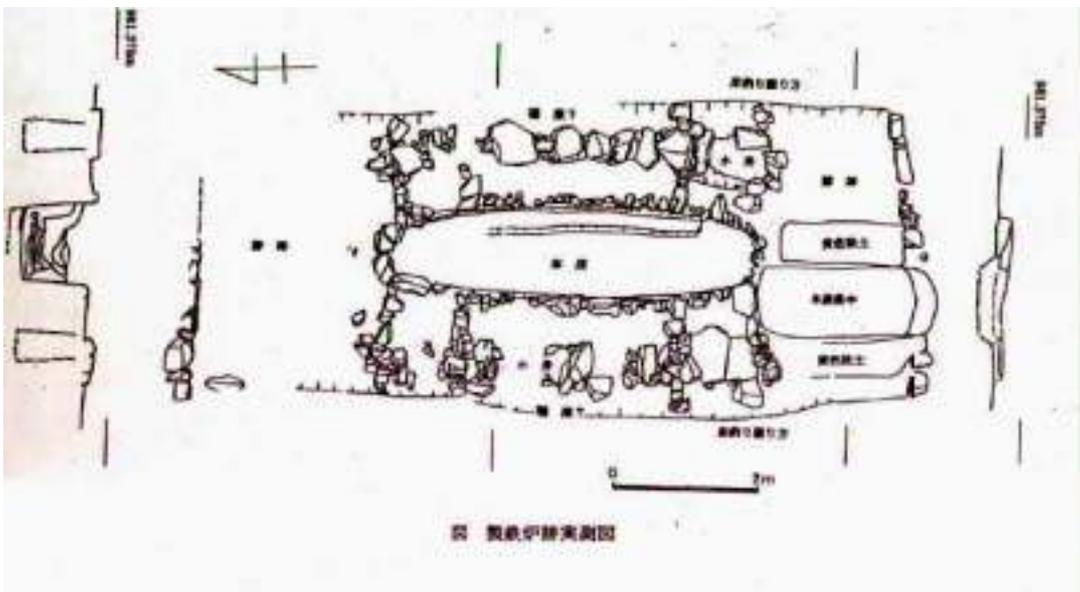
遺構の用途は、調査地の北東部にあり、周囲は土壌が赤褐色で、遺構の形状は長方形で、長さ約10m、幅約5mである。

注：表1、表2、史料は、高山太郎『茂来山鉄山の遺跡』(1902)より引用

## 2.2. 茂来山 鉄山 遺跡 試掘調査 2001.9.



## 2.3. 茂来山 鉄山のたたら製鉄炉 概要



## 2. 4. 鉄鉱石採掘 露天掘りの跡 と 製鉄スラグの分析結果



表1 郡沢鋼滓、茂来山鉄滓の化学分析結果 (重量%)

|         | SiO <sub>2</sub> | MnO  | S     | P     | Cu    | MgO  | CaO   | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | TiO <sub>2</sub> | T-Fe  |
|---------|------------------|------|-------|-------|-------|------|-------|--------------------------------|------------------|-------|
| 郡沢鋼滓 ①  | 45.40            | 3.06 | 0.774 | 0.055 | 0.149 | 1.43 | 18.77 | 1.53                           | 0.11             | 19.74 |
| 郡沢鋼滓 ②  | 54.03            | 1.03 | 0.354 | 0.114 | 0.241 | 1.40 | 8.70  | 12.05                          | 0.53             | 11.37 |
| 茂来山鉄滓③  | 28.47            | 0.23 | 0.015 | 0.070 | 0.002 | 1.00 | 8.66  | 5.61                           | 0.30             | 42.07 |
| 茂来山鉄滓④  | 29.24            | 0.23 | 0.022 | 0.071 | 0.002 | 1.01 | 10.62 | 5.94                           | 0.47             | 38.43 |
| 茂来山が跡鉱石 | 1.07             | 0.45 | 0.015 | 0.026 | 0.015 | 8.19 | 8.10  | 0.26                           | 0.81             | 70.02 |
| 参考新石鉄鉱石 | 2.01             | 0.99 | 0.002 | 0.023 | 0.002 | 8.14 | 8.40  | 0.54                           | 0.33             | 69.88 |

(注) 国立歴史民俗博物館田口尚、東京工業大学高塚秀治の分析による。



この遺跡からさらに奥へ少し進むと登山道脇の崖に2,3穴があいているのがみえる。脇には含銅または鉄鉱石であろう石くずが散在している。資料によるとこの霧久保沢は古くから鉱山産出地であり、当時このあたりからは豊富な鉄鉱石が発見され、露天掘りが当時行われたあたりである。

この豊富な鉄鋼石を砕いて原料として鉄鋼精錬が行われたらしい。

砂鉄原料のたたら製鉄華やかな江戸幕末の時代に、ここの現地から産出する鉄鉱石原料はよっぽど魅力的であったに違いない。疑問が残るが・・・この茂来山鉄山で作られた鉄が何に使われ、どこで消費されたのかによってその謎も解けてこよう。今はまだ その解を持っていない?。

また、平岡氏に送っていただいた資料によると信州ばかりでなく東北地方を除いて 鉄鉱石製錬を行ったたたら製鉄遺構が残っているのはほかに例がなく、また 東国で完全な形でのたたら製鉄炉遺構が見つかったのはじめてであり、本当に貴重な遺跡である。

## 2. 5. 茂来山 たたら製鉄遺跡 周辺

2002. 4. 27. 茂来山 霧久保沢で



茂来山 たたら遺跡 周辺 スナップ



茂来山 たたら遺跡の上流 滝がかかる霧久保沢

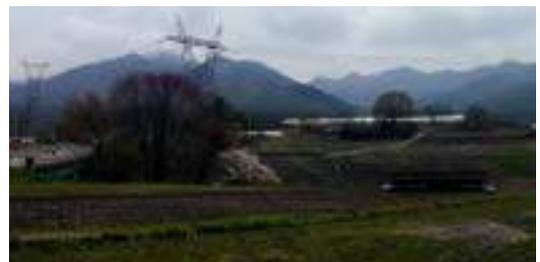
### 3. 霧久保沢から帰路 小海線 羽黒下駅まで のんびりと山郷の Walk

遺跡があるからいうのではないが、この霧久保沢の清流 花と新緑の中 滝を作り美しい渓谷美を見せている。この道をそのまま詰めると茂来山の頂上に約2時間で立てるとの事だったが、茂来山の尾根への取っ付き口に熊出没 通行禁止の札と鎖があり、一人では薄気味悪く引き返し、ゆっくり JR 羽黒下駅まで春の里歩きをする。

霧に包まれていた山も下るにつれ、日がさしだした。田圃のあぜにはタンポポが黄色いベルトを作り桜・桃が満開。今潜り抜けてきた山は芽吹いた若葉の緑で一杯 気持ちの良い里歩きとなった。



茂来山登山堂を大日向の集落に降りてきて



武州街道沿い 大日向から海瀬へ 山里の walk

大日向の集落から見上げるとチョコッと茂来山の頭が見え、さほど興味のある山に見えない。

「茂来山も ここからだ と 周りの山とあまり変わらず ですね・・・」という身を乗り出して来て「もっと佐久の平野に下ると その大きさが見えてくる。 佐久の街からだ と 抜井川越しにスケールの大きなピラミッドが堂々とした姿で現れてくる」と。



武州街道 大日向近傍から 後ろに頭をのぞかせる茂来山



a. 海瀬駅東 抜井川ごしに



b. 海瀬駅西 千曲川ごしに

JR 海瀬駅近傍からピラミッド型の美しい姿を見せる茂来山

朝は霧と車で通ったので気が付かなかったが、街の人たちが自慢するのとおり、佐久の街に近づくにつれ、美しく均整の取れたピラミダルな姿が一層高く抜きんでて見えてくる。立派な山である。

1 時間ちょっとで千曲川と抜井川の合流点 海瀬駅にて 小諸の方へ流れ下る千曲川沿いに羽黒下の駅まで歩いた。

春先の信州の山里をポカポカ陽気に誘われて歩いたのは初めてであるが 実にすがすがしい気分で山へ登るのとはまた違った魅力である。そして たたら製鉄遺跡遺構をその山の中に抱えこんで、ピラミダルな姿を見せる茂来山とその渓谷も味わい深い。

新緑の中 山吹が咲き 鳥が鳴き 清流が心地よい音を響かせている明るい谷にひっそりと静かに埋る製鉄遺跡。そして あぜ道のここかしこでタンポポ 桃の花が咲く山里 実に美しい光景ばかりが目に焼きついている。

ルンルンの気分で小海線に乗った。

2002. 4. 27.

小海線の車窓をながめながら

M. Nakanishi

なお 帰って知ったのだが、この「茂来山 鉄山」については 畠山次郎氏の「 灼熱の火 ―茂来山鉄山物語―」の労作がある。ゆっくりと読もうと思っている。

また、この茂来山鉄山遺跡に関する資料を色々ご送付いただいた佐久町公民館の平岡豊彦氏に感謝する。



武州街道 大日向近傍から 後ろに頭をのぞかせる茂来山



a. 海淵駅東 枝井川ごしに



b. 海淵駅西 千倉川ごしに

JR海淵駅近傍からピラミット型の美しい姿を見せる茂来山

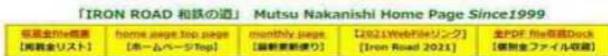
**和鉄の道・Iron Road Since 1999**  
**日本の源流・たたら探訪** HP開設時の記録  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**2000-2001**  
和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて  
日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録  
bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
by Mutsu Nakanishi

おもいつくまま 気のむくまま 巡った和鉄の道  
山・川・海そして街歩きの延長として  
2000年と2001年にたたら製鉄のルーツ探求をイメージに  
日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
関東柏に単身赴任の時 頭にあったことをライフワークにと  
HP開設して 休日を利用しての風来坊  
風来坊Walkの始まりでもあり よく歩いたなぁとなつかしい  
2分冊にうまく整理ファイル化されていたので、そのまま記録に  
2021.12.5.作成



インターネット取蔵 のリスト

古いAlbumを[記録]「Mutsu Nakanishiの和鉄 一往來と共に」部としてPDF file として保管しましたが、  
インターネットを通じて紹介してきた 1999-2021 現在までの Home Page 掲載資料がある  
Web HTML File・PDF 記録資料・スライド動画 File などの対応に立てば……  
■ 私のライフワーク「和鉄の道・Iron road」 ■ 高松伸隆の記録HP「東尾37舎」  
■ 山口崇美寿 秋篠陶器 田中清平さんのHP「鉄鏡 陶器 田中清平 萬房HAZUKI」の掲載記録がある  
■ 私のライフワーク Mutsu Nakanishi Home Page 和鉄の道・Iron road  
■ <https://www.wasahi-net.or.jp/~z44m/nk/ke/>  
■ <https://www.wasahi-net.or.jp/~z44m/nk/ke/monthly/index.htm>



「IRON ROAD 和鉄の道」 Mutsu Nakanishi Home Page Since1999  
「IRON ROAD・和鉄の道」 Top Page since 1999  
『和鉄の道 たたら探訪』 Iron Road・『風来坊』 Country Walk・『四季折々』 From Kobe



■『和鉄の道 たたら探訪』Iron Road ■『風来坊』Country Walk ■『四季折々』From Kobe



**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**2000-2001** HP開設時の記録

**和鉄の道・Iron Road Since 1999**  
**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**2000-2001** HP開設時の記録  
和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて  
日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録  
bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
by Mutsu Nakanishi



1990年代 たたら製鉄・日本の歴史などに興味を  
いだいて中国山地の製鉄遺跡などを始めていた  
1990年代 茨城県波崎に単身赴任。  
九十九里浜そして鹿島の浜に砂鉄があり、製鉄伝  
承も数多くある事にびっくり。

休みを利用して 関東や東北の製鉄遺跡等を訪ね  
る中で、鉄や日本の歴史探訪をライフワークにし  
てhome pageを立ち上げようと取り組みました。  
名前は「Iron Road・和鉄の道」にと。

今までの歩いた各地の探訪アルバムや博物館展示  
資料等々。  
九十九里を歩きながら ページ内容構想リストを  
ねって、スタートしたhome pageの始まり。

たたら製鉄のReview や「鉄」への思いを詰め込  
んだ掲載記事の数々が詰まった「和鉄の道・Iron  
Road 2020&2021」です。

このhome Page の始まりの資料を読み返して  
そのまま 和鉄の道 Review 資料に整えました。

重複掲載の内容も多々ありますが、お許しを。  
また、自分で書き起こさなかった転機・引用掲載  
が多々あり、できるだけ其の旨ふきしていますが  
お許しください。

風来坊 勝手気ままな「私の和鉄の道 Review」  
の一冊です

2021.12.5. From Kobe Mutsu Nakanishi



『Iron Road 和鉄の道』[1]

はじめに

M. Nakanishi home page 『IRON ROAD 和鉄の道』

- 日本誕生とたら 歴史雑感 『IRON ROAD と日本誕生のロマン』  
— 出雲と新羅・朝鮮との関係 —スサノオ伝説とたら—
- たたら製鉄の起こりと発達
- 「たたら」製鉄 日本古来の砂鉄製鉄法

『IRON ROAD 和鉄の道』[1]

- 『和鋼・たたら』との出会い  
【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
- 日本人のルーツと「和鉄の道 Iron Road」の接点を求めて  
『弥生人の源流を探る -西から東へ-』土井ヶ浜シンポジウムの周辺で
  - 山口県土井ヶ浜弥生遺跡 と「土井ヶ浜シンポジウム」
    - 1.1. 土井ヶ浜弥生遺跡 8 人類学ミュージアム
    - 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』
    - 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認  
—日 中調査団 ルート論争に一石—
  - 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて
  - 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』
  - 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来
  - 『ヤマトノオロチを退治したスサノオノミコトは朝鮮からやってきた』
  - 出雲と朝鮮新羅の関係 —日本誕生とたら 歴史雑感—
- 岡山県 富村 鍛冶谷たたら 【鍛冶谷たたらと初花】
  1. 富村鍛冶谷 たたら遺跡
  2. 『初花 -ほとぼしるたたら溶鉄の造形-』
- 古代畿内勢力 蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡  
【黄金吹く「行方製鉄遺跡」】
  1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
  2. ヒタカミ「日高見(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
  3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城 遺跡」
- 山陰の古代鉄の大王国 伯耆国  
—日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road —  
【溝口の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】
  1. 『鉄の伝来をもたらし古代 山陰鉄の王国の出現』  
—日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road —
  2. 『古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡』—鳥取県淀江町・大山—
  3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯

4. 津軽の古代鉄の大王国  
【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津軽の製鉄地帯】
  1. 鬼伝説と古代製鉄
  2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
  3. 志保製鉄遺跡群 静ヶ沢町舟倉 と「鬼伝説」
  4. 中世の安東都市 安東氏の拠点 十三瀬
- 東北 秋田・青森 縄文のストーンサークル  
【縄文人の心を映すストーンサークル】
  1. 縄文のストーンサークル これも iron road
  2. 秋田県 雄物川 大瀬 ストーンサークル
  3. 青森県 青森市 小牧野遺跡
  4. 青森県 青森市 山内丸山遺跡 ストーンサークル
  5. 秋田県 鷹巣町 伊野 釜ヶ崎遺跡
- 『仙崎ねぶた』と岩木山北山麓「鬼伝説の里」  
【鬼沢の鬼神社 十内内瀬鬼神社を訪ねて】
  1. 『仙崎ねぶた』
  2. 『鬼沢のねぶた』出陣へ
  3. 岩木山の鬼伝説
  4. 鬼神社 巖屋山神社を訪ねて
- 山口県のたたら 美祿河原上たたら遺跡
- 丹後国の古代鉄の王国  
【天女の通った道は鉄の道 【平衣伝説】】
  1. 丹後国 古代 鉄の王国
  2. 『平衣伝説 天女の通った道は鉄の道』
  3. 弥生時代3世紀の大室磯立墓遺跡 赤坂・寺井磯立墓遺跡
  4. ガラスの神輪と大室の鉄製が出土した大室高南古墳
- もう一つの聖馬台国 丹後国  
【大隅と日本を結ぶ古代丹後の国の大製鉄加工基地遺跡群】
  1. もう一つの聖馬台国 -丹後の国の重要性-
  2. 赤木町 遺所製鉄遺跡 -丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート-
  3. 遺所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の遺産
  4. 遺所遺跡資料 高子タン系砂鉄の謎  
—現在の溶鉄材料につながる高タン系高子—
  5. 発掘調査中のニゴロ産種探訪

『Iron Road 和鉄の道』[2] に続く

『Iron Road 和鉄の道』[2] 和鉄探訪

- 口 絵 1 Iron Road 和鉄の道 和鉄の技
- 口 絵 2 日本各地の鬼伝説
- 口 絵 3 古代 和鉄の歴史

『Iron Road 和鉄の道』[2] 和鉄探訪

- 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鏡
  1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鏡  
古代製鉄の神 金屋子神 岡崎伝承の地 WALK
  2. 金屋子神社と金屋子神 神話  
古代製鉄の神 金屋子神の総社 島根県 広瀬町 WALK
  3. 兵庫県立歴史博物館 (1)  
「千種鉄 たたら」ビデオライブラリー
  4. 兵庫県立歴史博物館 (2)  
兵庫歴史博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」  
—中国伝来の弥生 精進鉄弁には既に熟地用による表面加工がおこなわれていた—
- 古代「Iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
古代出雲の国謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡
  1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
  2. 荒神谷遺跡 探訪
  3. 加茂岩倉遺跡 探訪
  4. 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎
- 久しぶりに訪れた 房 総 九十九里 砂鉄の浜 飯沼浜
- 接合・接合の原点 縄文の石炭について「アスファルト」
- 接合のルーツ 「漆」・「アスファルト」を見る。—発掘された日本列島 2001—第1  
日本固有「木の文化の加工技術」として
- 鬼の住む山 京都府 大 江 山 Walk - 大江山の鬼伝説に  
『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきたてて -  
oeyma.htm by M. Nakanishi
  1. 鬼が住む山 大江山へ -古代 iron road の夢のせて-
  2. 鬼の住む山 大江山 walk
  3. 酒吞童子伝説と大江山「鬼退治」
- 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て -ルーツの旗に現代を畫ねて-
- 岩手県 北上川流域 の 和 鉄  
蝦 夷 の 主要武器 「藤手刀」を訪ねて一関博物館へ  
日本刀 の ルーツ 「藤手刀」
  1. 北上川流域の和鉄
  2. 一関博物館で
- 2000年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄弁  
弥生時代高度な表面炭化処理 鉄の強靱化熱処理伝来のルーツか？

10. 日本各地の鬼伝説 「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？
  1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説
  2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」
  3. 丹後国 大江山 酒天童子伝承
  4. 吉備国 桃太郎伝承の鬼ヶ城
  5. 青森県岩木山(巖鬼山)山麓の鬼伝説
11. 「黄金吹く 吉備の国」吉備国 桃太郎伝説
  1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智慧と融合して原日本がつくられた
  2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」  
(1)「弥生の暮らし」を待たした大陸からの渡来者 —NHK「日本人運かな旅」より—  
(2) 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」  
(1) 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」  
(2) 鬼ノ城 walk -朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら-
- 参 考 日本 鬼伝説

12. 第5回 層層国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加那の交流」に参加して  
『加那の鉄と倭国』
  1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった？ — 日本古代鉄の歴史 —
  2. 「加那の鉄を運る古代日本の派生争い」それが日本を造っていった
13. 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた 近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群
  1. 滋賀県古代製鉄遺跡
  2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる  
草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ボケバラ)遺跡
  3. 資 料 瀬田丘陵の 古代製鉄遺跡
  4. 製鉄技術伝来と大陸・朝鮮から伸びる鉄の道
14. 幕末 信州 武州街道沿いの現地産出の鉄鉱石原料「たたら製鉄」  
—「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk - 長野県 南佐久郡 佐久町
  1. 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk
  2. 茂来山鉄山遺跡の概略
  3. 霧久保沢から帰路 小海線 羽黒下駅まで - のんびりと山郷の Walk -

和鉄の道・Iron Road Since 1999  
 日本の源流・たたら探訪  
 日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る  
 2000-2001  
 和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて  
 日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
 2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録  
 bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
 by Mutsu Nakanishi  
 < 第一分冊 2000年File >

Iron Road (1) 2000  
 1996.10-2000.8



2001. 8. 15.



Iron Road (1) 2000  
 1996.10-2000.8



2001. 8. 15.



まえがき 『閃光』と『靑光』 - 鉄への思い -

心情は「前向きで だだむきに」 そのengineは「Openness & Frankness」  
 根拠としての姿勢は「本意を伝え 面白いを」 「観たり、聞いたり、試したり」

『現在の鉄』が『産業の米』ならば『古代・和鉄』の系譜は『日本の源流』。  
 日本各地には『たたら』と呼ばれる古代から連続と続く『日本の和鉄』の膨大な遺産がある。  
 今表舞台では見えないが、これら和鉄の流れが『日本を作り、日本の文化・産業を担ってきた』に違いない。  
 日本全国の奥深い山々や川筋には、日本に鉄を伝え、鉄精錬をはじめた渡来人に始まる『産鉄の民』の系譜  
 があり、また、日本各地の山深い谷筋には山を開き作られた鉄の精錬場の遺跡が残っている。  
 この精錬場には各地から砂鉄や薪・炭などの原料が集められ、また生産された鉄が日本各地に運ばれていっ  
 た。 海岸沿いをまた、山を越え、そして幾筋もの川筋をさかのぼり、発達した通商の道が製鉄の山々から  
 各地に張り巡らされた。  
 古くは大陸から日本への鉄伝来の道・日本各地への鉄伝播の道、そして、これらは時代を超えて日本各地の  
 文化・産業を担った『和鉄の道』。そこでは多くの人達が交流を繰り返して日本が出来てきた。  
 1988年昭和63年の夏スタート以来、十数年、日本各地を歩いた『Iron Road・和鉄の道』Country Walk を  
 整理して一冊にまとめました。この country walk は材料研究者としての自分史のような気もしています。  
 そこから、何が出てくるのか・・・

昭和43年に鉄鋼会社に入り、鉄鋼材料の研究者としてスタートし、約40年、鉄鋼・非鉄金属材料、そして  
 セラミクス・機能樹脂と仕事の変遷とともに本当に幅広い材料に取組み、材料科学、接合、ハイブリッド  
 化、そしてその機能開発の研究者として、材料開発・実用化開発に関わることが出来ました。  
 恩師 田村今男先生からは  
 「鉄鋼は剛柔にして、しかもその形を変える。古くから多くの人知恵が使われていた。」  
 「材料の成分・製造履歴が材料の性質にきわめて重要であり、「先人の知恵を見よ。」と教えられた。  
 また、専門の溶接・接合冶金の分野の諸先生・先輩諸氏からは  
 「溶接のルーツは『奈良の大仏』の鉄掛け。」  
 「奈良の大仏」から「宇宙開発」まで脈々と続く溶接の歴史を見よ」と良く聞かされてきました。  
 「オリジン」の大切さと「ルーツ」へさかのぼる解析。そして本質を見る眼」がいつも頭の中を駆け巡った若  
 い日々でありました。

昭和63年7月 鹿島・波崎の研究所に単身赴任したのを機会に何か関東ではじめたいと思っていた矢先に、  
 波崎の研究所が建っている「若松」の地名が常陸風土記に出てくる古代砂鉄出土の地である事を知り、また、  
 何気なく訪れた波崎日川の砂丘・九十九里の浜で大量の砂鉄を見て、何か固めたい感じを受けて始めたの  
 がこの『たたら探訪』のスタート。  
 自分の趣味として『たたら 和鉄』にこだわって日本各地行く先々で country walk 。  
 金子から伊豆大東崎まで砂鉄の砂浜「九十九里浜」を歩いたのをスタートに日本古刀の里 千種・備前、  
 奥出雲の「たたら」そして奥三陸の海岸へ。  
 学問的に体系的な裏づけを求めるわけではなく、ただその地に行きたくてたたらたたらと、地形を眺めながら、この  
 地の人の足跡をまた時代を思いめぐらすだけの探訪。  
 でも、色々な場所で多くの人に会い、本当にこの10数年非常に楽しい暇わくわくの life work となりました。  
 鹿島・波崎から次の赴任地 山口県美祿では秋吉台の麓 中国山地の奥深い山の中、しかし海岸には弥生時  
 代に大陸からやってきた数百年の渡来人が、望郷の念を抱いて西の海を眺めながら眠る「土井が浜弥生遺跡」  
 があり、鳥取・岡山から鳥根奥出雲にかけての奥深い山々には数多くの「たたら」の跡、せつせと通いました。  
 この間、美祿ではコンピュータ革命の一端を担った世界最先端の技術開発にも携わり、先端ビジネスの  
 厳しさと面白さ、そして、若い人たちの交流の中から生まれるクリエイション、都会では味わえぬ多  
 事と素直らしい仲間を得ました。  
 結婚した娘が住んだ鳥取県米子、大山の麓伯耆の国・出雲の国は古代鉄が日本誕生のドラマを演出した土地。

そして、親父が生まれ育った丹後の羽衣伝説は「鉄伝播」の証。 丹後の家の直ぐ北の丘から突如古代この  
 地方の鉄を支配した豪族の墓が出てきたのにビックリでした。  
 東北にも幾分通いました。  
 青森三内丸山遺跡・縄文のストーンサークルなど青森へせつせと通う中、鉄のない縄文の時代のすばらしさ  
 と多くの仲間にも出会えました。 先人の墓を中心に丸い輪になって暮らす縄文人。  
 「現代人として、何か忘れ去ったものを取り戻したい、・・・」いつも、そんな感じがしています。  
 古代文明論に詳しい森本哲郎氏は「三内丸山縄文遺跡」が「世界三大文明にも匹敵する木の文明」であると  
 指摘された。 巨大柱に支えられた縄文や大型住居などが整然と並ぶ巨大都市。 森の中に作られた多彩な植物  
 栽培と日本全国から集まってきた漆・土器・石器の数々。  
 この「巨大木の加工技術」はさらに時代を経て、船による日本各地との交流をさらに盛んにし、空高くそび  
 える出雲大社の空中神殿、そして東大寺大仏殿へ、 さらに日本各地に「御社」へと連続と日本文化・  
 文明をつないでいく。  
 石器から鉄器へと変化はしたが、「加工工具の技術」や「加工技術」の果たした役割の大きさは世界文明とし  
 ての位置付けを担われるとあらためてその技術の偉大さにただビックリ。

「和鉄」が日本産業の米としての物質的役割ばかりでなく、当初意識していなかったのですが、その時代時  
 代の社会形成に大きな影響を与え、日本各地の伝説・神話を産み、「日本誕生」のドラマを演出し、「日本人  
 の心情・文化」の形成にきわめて大きな影響を与えてきた事を知るに至って、その広がりがいまさらながら  
 ビックリしています。  
 「Iron Road・和鉄の道」この言葉に口にした時の位がり・人との繋がりはやっぱり「鉄の持つすごさ エネ  
 ルギー」を物語っている。  
 今、鉄鋼は産業の米としての役割がゆらぎ、表舞台からは退場を余儀なくされていると言われる。  
 でも、先人の知恵が凝結された鉄の世界。

「深淵のまばゆい輝き『閃光』と『くらがね』の落ち着いた『靑光』」

必ずや時代を動かす力として今後多くの広がりをもたらして行くだろう。

この十数年、日本各地を歩いた『Iron Road・和鉄の道』Country Walk。 大半は案内と二人の「二人三脚」。  
 まだまだ、行きたい場所考えたいことも多い。  
 津軽・兵庫千種・丹後そして山陰奥出雲はまだまだ通いたない。そして、東北・三陸、秋田・白神、近江・越  
 前、そして、朝鮮、中国へ、いかなばならぬ field は無尽蔵。 今後を楽しみにしています。  
 そこから、また、何が出てくるのか・・・

2001.8.15 神戸にて 2003.5.15 追記

材料技術屋 40年、いろんなことが在りましたが、おもしろい材料技術屋人生でした。  
 今後とも姿勢は同じ、「さあ、第一歩、先に向かって。」です。

2003.6月、鉄にたざされたことを誇りに思いつつ  
 中西 隆夫

M Nakanishi Internet Home Page 『IRON ROAD 和鉄の道』  
<http://www.asahi-net.or.jp/~zpd4m-nkns/index.htm>  
<http://www.asahi-net.or.jp/~zpd4m-nkns/iron.htm>

Iron Road (1) 2000

1996.10-2000.8

『和鉄の道』 絵



大江山 酒天童子 鬼の像



奥出雲 ヤマタノオロチ伝説

日本各地に散らばる『たたら』製鉄遺跡やその資料館等を訪れた時に見たり入手した資料  
 から、『たたら』製鉄図並びに砂鉄を採取した場所等の写真並びに採取した砂鉄を分析し  
 た写真等ができましたので、少し古いですが整理しました。

2002.1.12. 柏にて M. Nakanishi

1. 現在も継承されている『たたら製鉄』

- 1. 島根県吉田村鉄のミュージアム 「菅谷たたら」
- 2. 島根県横田町 日本刀剣保護協会 「日刀保たたら」



2. 絵図に描かれた「たたら製鉄」

- 1. 四合吹きの図 岩手県久慈「たたら館」入場券より
- 2. 島根県広瀬町 金屋子神社縁起絵巻より



- 3. 兵庫県千種町 千種町歴史民俗博物館蔵絵巻より



- 4. 山口県福栄村大板製鉄遺跡 ホームページより





『Iron Road 和鉄の道』【1】

はじめに

M Nakanishi home page 『IRON ROAD 和鉄の道』

- 日本誕生とたたら 歴史雑感 『IRON ROAD』と日本誕生のロマン  
— 出雲と新羅・朝鮮との関係 — ササノオ伝説とたたら—
- たたら製鉄の起こりと発達
- 「たたら」製鉄 日本古来の砂鉄製鉄法

『IRON ROAD 和鉄の道』【1】

1. 『和鋼・たたら』との出会い  
【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
2. 日本人のルーツと『和鉄の道 Iron Road』の接点を求めて  
【弥生人の源流を探る 西から東へ】土井が浜シンボジウム周辺で  
1. 山口県土井が浜弥生遺跡 と「土井が浜シンボジウム」  
1.1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム  
1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』  
1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認  
— 日 中調査団 ルート論争に一石—  
2. 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて  
3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』  
4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来  
5. 『ヤマトノオロチを退治したササノオノミコトは朝鮮からやってきた』  
6. 出雲と朝鮮新羅の関係 — 日本誕生とたたら 歴史雑感—
3. 岡山県 富村 鍛冶谷たたら 【鍛冶谷たたらと初花】  
1. 富村鍛冶屋谷 たたら遺跡  
2. 『初花 — ぼとぼしるたたら浴鉄の造形 —』
4. 古代畿内勢力 蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡  
【黄金吹く「行方製鉄遺跡」】  
1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる  
2. ヒタカミ「日高見(北上)の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ  
3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城遺跡」
5. 山陰の古代鉄の大王国 伯耆国  
—日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road—  
【溝口の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】  
1. 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰鉄の王国の出現』  
—日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road—  
2. 『古代 鉄の集散地 美木晩弥生遺跡』—鳥取県淀江町・大山—  
3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯

4. 津經の古代鉄の大王国  
【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津經の製鉄地帯】  
1. 鬼伝説と古代製鉄  
2. 岩木山北麓 奥沢 「鬼神社」と「鬼伝説」  
3. 生沢製鉄遺跡群 懸ヶ沢町遺跡 と「鬼伝説」  
4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湯  
5. 東北 秋田・青森 鶴文のストーンサークル  
【鶴文の心を映すストーンサークル】  
1. 鶴文のストーンサークル これも iron road  
2. 秋田県 鹿角市 大湯 ストーンサークル  
3. 青森県 青森市 小牡野遺跡  
4. 青森県 青森市 山内丸山遺跡 ストーンサークル  
5. 秋田県 鹿角町 伊勢堂遺跡
4. 『私鉄わぶた』と岩木山北山麓「鬼伝説の星」  
【鬼伝説の鬼神社 十福内鬼鬼神社を訪ねて】  
1. 『私鉄わぶた』  
2. 『鬼伝説のわぶた』出陣へ  
3. 岩木山の鬼伝説  
4. 鬼神社 巖見山神社を訪ねて
9. 山口県のとたら 奥物河原上たたら遺跡
10. 丹後国の古代鉄の王国  
【天女の通った道は鉄の道 【丹波製鉄】】  
1. 丹後国 古代 鉄の王国  
2. 『羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道』  
3. 弥生時代「世紀の大型墳墓墓道跡 赤坂・今井墳墓墓道跡  
4. ガラスの駒輪と大量の鉄剣が出土した大塚高両古墳
11. もう一つの丹波台国 丹後国  
【大隅と日本を結ぶ古代丹波の国の大製鉄加工基地遺跡遺跡】  
1. もう一つの丹波台国 —丹後の国の重要性—  
2. 丹波町 遺跡製鉄遺跡 — 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート—  
3. 遺跡遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の史迹  
4. 遺跡遺跡原料 高子タン系砂鉄の謎  
— 現在の溶錬材料につながる高子タン系—  
5. 発掘調査中のニゴレ遺跡発掘

『Iron Road 和鉄の道』【1】に続く

エピソード『和鉄の道』を歩き始めて

M. Nakanishi home page

『IRON ROAD 和鉄の道』

BY M. NAKANISHI ironprint.htm



古代から昭和初期に至るまで、日本に西洋製鉄法が根づくまでの間、『たたら』と呼ばれる砂鉄と木炭を使った素晴らしい日本独特の製鉄があった。  
3世紀〜5世紀、さらに飛鳥・奈良時代に至るまで、朝鮮半島から、日本沿岸をめぐる「大陸からの鉄伝来の道」があった。  
大陸からの「稲作」や弥生文化の伝来の道 数多くの渡来人がやって来て、「日本誕生」に関わった道『たたら』の言葉の響きの中にあるロマンに魅せられ 『COUNTRY WALK 『IRON ROAD 和鉄探訪』』をスタートした。



全国至る所に『たたら』の製鉄遺跡・砂鉄の産地があるが、  
弥生時代・日本の誕生が金属器の使用に始まるとして武器・農耕用具等の『鉄器』の支配は日本の国の広がりにきわめて重要な役割を担ったに違いない。  
『日本誕生』と『鉄』の展開には、非常にミステリアスな出会いがあるに違いない。

- 最近の青森三内丸山縄文遺跡や吉野ヶ里遺跡に代表される弥生遺跡の発掘は日本の誕生研究に大きな展開をもたらしている。  
また、昨年全国をブームの渦に巻き込んだアニメ映画『もののけ姫』は『たたら』を広く一般の人々に紹介するきっかけとなった。
- 司馬遼太郎著『街道を行く』の一環である『砂鉄の道』や『朝鮮半島を行く』の中には著者の鋭敏な知識・現地主義に裏付けられた鋭い歴史観とあいまって、古代の『たたら』や『渡来人』『日本誕生』のロマンが熱く語られている。
- 最近 金属学会報・鉄鋼協会誌に『たたら』『古代鉄』の詳細な研究報告が発表され、学術的にも、最近多くの人々が取り組んでいる。

たたら製鉄機材 風来坊 和鉄の道・iron road 製鉄炉遺跡を訪ねて

わてつ みら

和鉄の道 Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」  
日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、維持している日本独自の製鉄法である。



日本に『鉄』が伝来して、この『たたら製鉄』が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の進化が続き、

その技術がさらに磨き加えながら1500年経って来た日本独自の製鉄技術。「鉄は玉座なり」「鉄は源義経の米」と『鉄』の力が加えられるが、一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本の国造りを作ってきた。

そんな、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ日本各地のたたら製鉄遺跡がもともた消え去ろうとしている。

製鉄は生産された鉄塊の取り出し場に凍結するので 製鉄現場遺跡に残っている遺構はそんな生産設備の残骸。製鉄現場遺跡にはそんな遺構・生活の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマ・歴史が何の美しい景色とともに二重に現れて残っています。

日本で輝き出された数々のドラマ そして その後の風景を少しでも残しておきたいと『和鉄の道・Iron Road』として日本各地をCountry Walk しつづめています。

鉄は「文化」をばくむくとともに数々の「戦さ」をも生んだといわれる。それだけ 鉄の力の大きさを証明であり、そうだろうと思いますが、大事なのは それを使う人々の力・心。

その根拠には日本人の心の故郷「心癒しき神々の世界」がある。「鉄」の持つ魅力 「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」その美しさをこれからも大事にしたいと思っています。



# 日本誕生とたたら 歴史雑感

## 『IRON LOAD と日本誕生のロマン』

— 出雲と新羅・朝鮮との関係 —スサノオ伝説とたたら—  
susaprint.htm 1998.11.1.

いつたい弥生人はどこからやってきたのか？ 鉄器はどこから伝わったのか？  
『日本誕生』の古代には、北九州・出雲・百濟・丹後・津軽などに時代はこととするとしても大和と拮抗する王国があったという。この頃、また 朝鮮半島の百濟・新羅・高麗から多くの渡来人がやってきて、日本誕生に関わったという。しかも、鉄の集団と密接に関係して・・・



(廣州：天馬塚にある天馬刀)



よみがえる古代鉄の王国  
倭国王国展より 1992.8.9.

新羅の前身である弁・辰韓にふれた『魏志東夷伝』に「国から鉄が出、倭などみな随ってこれを取る」という記述がある。この事は古代朝鮮に製鉄技術があり、それを日本の前身である倭からも取りに行くなどの交流があったことを示している。

また、その後の日本誕生にかかわる出雲スサノオ伝説とも絡み、非常に興味深い。そのほか新羅王の冠の飾りに出雲が主産地としてよく知られていた勾玉が使用されていることも興味深い。

### 【出雲スサノオ伝説】

当時 朝鮮半島では部族・民族間の戦い種広げられ、難を逃れた多くの人たちが渡来人として日本にやってきた。スサノオノミコもその一人、新羅系の人たちと共に日本に逃れ、出雲に来て、すでにやってきて、農耕の民と争っていた先住のたたらを討ち、国を治め出雲の王となった。その後、百濟系の人たちの大和朝廷に国を譲った。スサノオノミコが鉄を目指して朝鮮半島 当時の新羅から日本にやって来たともいわれている。

出雲人の祖先は一体どこから来たのであろうか？  
出雲は新羅から船を迎日湾に浮かべると海流によってたどり 着くことの出来る場所である。当時から大勢の移民が出雲に流れ着いたか、意図的に渡来していたと考えられる。一方出雲と対峙していた大和朝廷は百濟系と書かれており、「記紀」等の記述から、出雲を新羅系と認識していたと考えられている。  
出雲では砂鉄が取れ、縄文時代の中期頃からすでに素朴な鉄生産が行われていたという記述もある。僅から弁・辰韓に鉄を取りに行った人々の情報の中に出雲の鉄のことが含まれていたとしてもあながち妄想ではなからう。

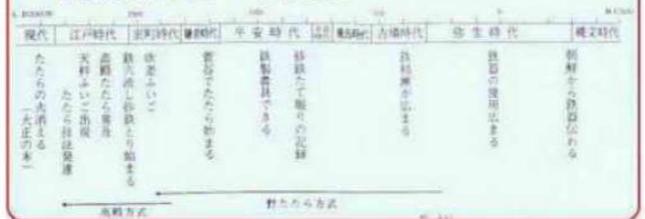
### 【大陸/朝鮮半島-日本への古代鉄伝来の道】



- 瀬戸内  
〔北九州-瀬戸内-備中・美作-兵庫・千種-大和・畿内〕
- 日本海沿岸  
〔北九州・長門-出雲-丹後-若狭-琵琶湖-大和・畿内〕
- 日本海沿岸  
〔北九州・長門-出雲-丹後-若狭-越前-秋田・津軽-松前・北海道〕
- 太平洋沿岸ルート  
〔津軽-三陸-房総-畿内-紀伊半島-瀬戸内-北九州-〕
- 太平洋-畿内  
〔北九州-瀬戸内-紀伊半島-畿内-河内-大和〕

### ● たたら製鉄の起こりと発達

#### ● たたら製鉄のおこりと発達



# 「たたら」製鉄

日本古来の砂鉄製鉄法

1998.10.1. giho.htm



### ◆現在も「たたら」の技術を活かして生産されている伝統的製鉄

| 名称                    | 住所               | 電話番号         |
|-----------------------|------------------|--------------|
| 日刀保たたら                | 横田町大呂            | 0854-52-1010 |
| 現代たたら<br>(和鋼生産研究開発施設) | 吉田村吉田<br>たたら鍛冶工房 | 0854-74-0301 |



### 日本独自の古来製鉄【たたら製鉄】

4000年の鉄製鉄法

たたら製鉄法は古来より、新羅と本原を傳った日本独自の製鉄法として古代製鉄法が古くから入ってくるまで受け継がれてきた。古代製鉄に続く鉄の伝来は日本・本和誕生のルーツに大きくかかわっている。また、「たたら」の良質な鉄【玉鋼】は日本刀の原料材として近代製鉄法では再現できません。現在に至るまで継承されている。たたら製鉄の歴史・その仕組みは神秘的ページに書かれている。

「たたら」は粘土製の炉の中へ、原料である砂鉄15トンと燃料である木炭15トンを交互に挿入し、砂鉄を溶かして鉄の塊を得る製鉄法である。

作業は三日三晩にわたって行われ、最終日には炉を壊して炉の底で成長した約2、5トンにもなる鉄の塊「けら」を取り出す。

「けら」は冷却した後、細かく粉砕し、「玉鋼」「歩くけら」「けら鉄(ずく)」等に分ける。

玉鋼は日本刀の材料に、「歩けら」「けら鉄」はさらに加熱加圧により「包丁鉄」となり、工具、農具の材料になる。

### 伝説の技

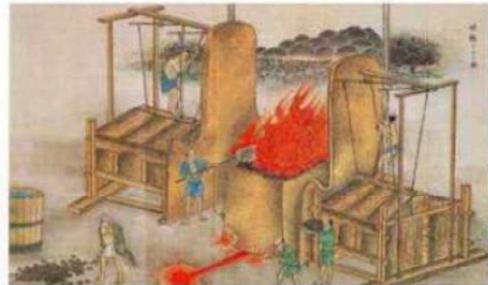
日本刀創生博物館



【たたら製鉄法】

1. 『和鋼・たたら』との出会い
  - 【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸 茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
2. 日本人のルーツと「和鉄の道 Iron Road」の拠点を求めて
  - 『弥生人の源流を探る -西から東へ-』土井ヶ浜シンポジウムの周辺で
  - 山口県土井が浜弥生遺跡と「土井が浜シンポジウム」
  - 1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』
  - 1.3. 長江で『遼東系弥生人』の人骨初確認 -日中調査団 2. ルート論争に一石- 日本人のルーツ遼東系弥生人の源流をもとめて
  - 3. 『弥生人の源流は大體のどこまでさかのぼれるか』
  - 4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来
  - 5. 『ヤマトノオロチを退治したスサノオノミコトは朝鮮からやってきた』
  - 6. 出雲と朝鮮新羅の関係 -日本誕生とたたら 歴史雑感-
  - 3. 岡山県 富村 鍛冶谷たたら 【鍛冶谷たたらと初花】
  - 1. 富村鍛冶谷 たたら遺跡
  - 2. 『初花 - ほとぼしるたたら溶鉄の造形 -』
  - 4. 古代畿内勢力 蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡
    - 【黄金吹く「行方製鉄遺跡」】
    - 1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
    - 2. ヒタカミ「白鷲堂(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
    - 3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前進基地「多賀城遺跡」
    - 5. 山陰の古代鉄の大王国 伯耆国 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road-
- 【瀬川の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】
  - 1. 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰鉄の王国の出現』 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road-
2. 『古代 鉄の集積地 養木晩田弥生遺跡』-鳥取県淀江町・大山-
3. 『瀬川の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯
  - 6. 津軽の古代鉄の大王国 【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津軽の製鉄地帯】
  - 1. 鬼伝説と古代製鉄
  - 2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
  - 3. 空沢製鉄遺跡群 郷々沢町湯舟と「鬼伝説」
  - 4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湯
    - 7. 東北 秋田・青森 縄文のストーンサークル 【縄文人の心を映すストーンサークル】
1. 縄文のストーンサークル -れいも Iron Road-
  - 2. 秋田県 鹿角市 大湯ストーンサークル
  - 3. 青森県 青森市 小牧野遺跡 ストーンサークル
  - 4. 青森県 青森市 山内丸山遺跡 ストーンサークル 廣
  - 5. 秋田県 奥町 伊勢堂岱遺跡 ストーンサークル

8. 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」【鬼沢の鬼神社 十層内蔵鬼神社を訪ねて】 1. 「弘前ねぶた」
  - 2. 「鬼沢のねぶた」出陣へ
  - 3. 岩木山の鬼伝説
  - 4. 鬼神社 巖鬼山神社を訪ねて
9. 山口県のたたら 美祿河原上たたら遺跡
10. 丹後国の古代鉄の王国 【天女の通った道は鉄の道 【羽衣伝説】】
  - 1. 丹後国 古代 鉄の王国
  - 2. 「羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道」
  - 3. 弥生時代 3世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂・今井墳丘墓遺跡
  - 4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳
11. もう一つの邪馬台国 丹後国
  - 【大陸と日本を結ぶ古代丹後の国の大製鉄加工基地遺跡】
  - 1. もう一つの邪馬台国 -丹後の国の重要性-
  - 2. 弥栄町 遺所製鉄遺跡 - 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート -
  - 3. 遺所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷
  - 4. 遺所遺跡原料 高タンパク系砂鉄の謎 - 現在の溶接材料につながる高タンパク系 -
  - 5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪





2. 日本人のルーツと Iron Road の接点を求めて

『弥生人の源流を探る -西から東へ-』  
japanprint.htm

1. 山口県土井が浜弥生遺跡 と 「土井が浜シンポジウム」

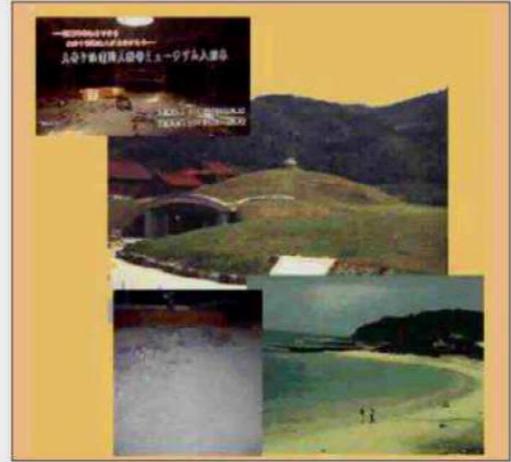
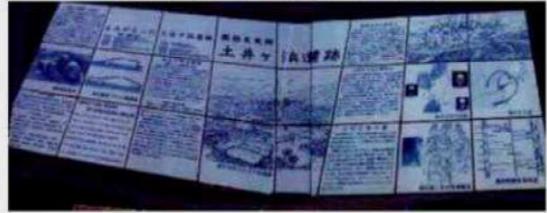
- 1.1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム dhmprint.htm
- 1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』 dhm2print.htm
- 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認 dhm3print.htm  
日中調査団 ルート論争に一石
- 2. 日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて rootsprint.htm
- 3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』 roots2print.htm
- 4. 古代日本と中国・朝鮮の交流 鉄の伝来 gaya1print.htm
- 5. 『ヤマタノオロチを退治した  
スサノオノミコトは朝鮮からやってきた』 susano1print.htm
- 6. 出雲と朝鮮新羅の関係  
日本誕生とたたら 歴史雑感 susaprint.htm

1. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム

【 土井が浜 弥生パーク 】  
山口県豊浦郡と豊北町  
dhm.htm by M.Nakanishi 1999.5.3.

1.1. 土井が浜 人類学ミュージアム

土井が浜遺跡は、遠い2000年の昔 日本の歴史を考える国立の史跡公園です。  
この日本海を臨む浜辺の丘の上には、300体を超える弥生人骨が整然と  
並んで埋葬・出土した非常に貴重な集団墓地遺跡です。



この多くの弥生人骨は、日本人の起源を考えるうえで、また、埋葬の在り方は弥生人の生活を知るうえで大変重要な資料を提供しています。

この土井が浜人類学ミュージアムでは 中国の研究者達と共同研究が行われる一方毎年人類学シンポジウムが開催され、この渡来系弥生人のルーツ調査が行われています。

【土井が浜 人類学博物館ドームの内部】



発掘された状態でドームがかけられ内部が見学できます



その結果、ここから出土した弥生人の人骨は、中国内陸部の黄河・長江に挟まれた地帯から出土する人骨とよく似ている事が、発見され、弥生人のルーツの一つがこの地方にあることが判りつつあります。

縄文・弥生の時代を超えて、大陸から多くの人が渡来し、数々の文化を伝え、この日本を形作ってきました。2000年前の昔中国春秋戦国の動乱の中、大陸から渡来し、日本人として生涯を過ごした渡来人達が、望郷の念を抱きつつ海をへだててはるか遠い故郷の方向をじっと眺めつつ、この丘で今も眠りについている。

北九州・山口地方の渡来系弥生人のルーツが土井が浜弥生遺跡です。



【土井が浜渡来系 弥生人と縄文人の顔骨格の相違】

参考資料 第6回 土井が浜シンポジウム 講演資料より

1.2. 『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨 (予報)』

松下孝幸 ・ 韓康信  
1998.6.30 土井が浜人類学博物館にて  
dhm2.htm 1999.54.24. by M.Nakanishi 資料収録

私たち学際的共同研究チームは、土井が浜弥生人など、縄文人的特徴をもたない弥生すなわち渡来系と呼ばれる弥生人のルーツを探るために、中国の研究者と共同研究をおこなってきた。94年から96年までの山東省との共同研究で、山東省臨?から出土した周代末と漢代人骨が、北部九州や山口の弥生人骨によく似ていることが、明らかに。北部九州・山口タイプの弥生人のおおもとは中国大陸にあると考えても差し支えない状況になりました。

しかし、私たちはこの事実から北部九州・山口タイプの人は山東省から来た、といっているわけではない。どこから来たかはまだわからないが、おおもとは大陸にあるといってもいいだろうと思っている。これから先は「直接どこから、どのようなルートで、どこへ入ってきたか」という課題と「本当のルーツはどこか」という2つの課題で調査研究を進めていく計画である。「本当のルーツはどこか?」というのは土井が浜弥生人や吉野ヶ里弥生人など日本では渡来系弥生人とよばれている人々の形質は「どこまでさかのぼれるのか?」「中国大陸ではいつごろからこのような特徴をもった人々がどこに現れたのか?」という意味である。

山東省臨?では周代末からは確実にこのような特徴を示していましたので、おそらく周代までは確実にさかのぼれると私たちは考えている。

日本列島への渡来を考える場合は、日本人はよく北からとか南からとかいうが、中国でヒトの移動を考える場合は、西から東への流れを無視するわけにはいかない。

私は、黄河と揚子江の二大河川に沿ってヒトと文化が西から東へ移動したのではないかと、考え、まず黄河と揚子江の源流がある青海省の古人骨の特徴を調べてみることにした。幸いなことに青海省からは保存状態のよい青銅器時代の人骨が多数発掘され、韓先生のご努力でそれらが保管・管理・整理されていた。

現在、私たちはこの人骨の研究をおこなっているが、人骨が多量なためにまだ形造途中なので、今年は研究の一部をご紹介します。

第6回 土井が浜シンポジウムにて

1. 弥生人の地域差

|                |                                                                                                                             |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 北部九州・山口タイプ  | 1. 顔が長い(顔の高さが高い)<br>2. 鼻の付け根が扁平<br>3. 高身長(男性 162~164 cm 女性 150cm程度)                                                         |
| 2. 西北九州タイプ     | 1. 顔が短い<br>2. 眉上弓の隆起が強く、鼻骨が隆起し鼻根部が陥凹しており、ホリが深い容貌<br>3. 低身長(男性 158cm程度 女性 148cm程度)<br>4. 風習的技術を行っている。                        |
| 3. 南九州・南西諸島タイプ | 1. 著しい「低・広顔」(西北九州弥生人の特徴がさらに顕著)<br>2. 強い「短頸性」(顔を上からみた形が円に近い)<br>3. 著しい低身長 [男性 153~155 程度 女性 141~145cm程度]<br>4. 風習的技術を行っていない。 |

【弥生人と縄文人の頭骨の特徴と差】  
 <山口県土井が浜人類学ミュージアム>



2. 地域差が生じた理由

|            |                |
|------------|----------------|
| 西北九州タイプ    | ・ 縄文人の特徴と同じ    |
|            | ・ 彼らは縄文人の子孫？   |
| 北部九州・山口タイプ | ・ 縄文人の特徴は見られない |
|            | ・ 彼は大陸からの渡来人か？ |

3. 中国大陸の2, 000年前の古人骨

山東省の臨沂の漢代と周代の人骨は北部九州・山口タイプに類似。

4. 青海省青銅器時代人骨 資料【頭蓋】

各人骨の所属時代は、？ 約文化および石店文化期の青銅器時代で、日本の縄文時代 後期に相当する。

| 上孫家 | アハトラ山 | 李家山 | 合計  |
|-----|-------|-----|-----|
| 232 | 37    | 24  | 293 |

5. 李家山頭蓋の特徴

- ・ 頭型は中頭型。
  - ・ 顔の特徴は高さが高く、幅が狭い（高顔・狭顔）。
  - ・ 鼻根部は扁平。
- 土井ヶ浜弥生人や吉野ヶ里弥生人などの渡来系弥生人に類似。

土井ヶ浜弥生人の形質的特徴の原形は青銅器時代までさかのぼる可能性が強くなってきた。

土井ヶ浜の海岸丘で、遠く大陸へ続く日本海を眺めつつ眠る土井ヶ浜人。  
 弥生人としての日本人のルーツの集団の一つが、黄河・揚子江に挟まれた流域からやって来たらしい。  
 中国・朝鮮半島の多くの国の興亡の中 朝鮮海峡を渡り、日本にやって来た。  
 この弥生中期の土井ヶ浜人が鉄を持ってきたかどうか？はまだ判っていない。  
 しかし、この道は日本へ数々の文化を伝えた本街道。  
 日本へ鉄を伝えた『Iron Road』も間違いなくこの道であつたに違いない。

1999. 4. 24 神戸にて 中西

弥生人の源流を探る -西から東へ-[2]

2. 日本人のルーツと Iron Road の接点を求めて

『弥生人の源流を探る -西から東へ-』  
 -土井が浜シンポジウムの周辺で-

日本人のルーツ  
 渡来系弥生人の源流を求めて  
 -大陸から日本海を渡る『渡来人の道 鉄の道』を考える -  
 roots1.htm 1999. 4. 24.

昨日 弥生時代の大量・大型建物の列柱の出た大阪府池上曾根遺跡の大型建造物の完成を記念して開催の大阪府立弥生文化博物館で開催中の『渡来人登場 -弥生文化を開いた人々-』展を見に行った。  
 大阪から和歌山へのバイパス国道 26 号線沿いの和泉市と東大津市の境の市街地に新たに復元された巨大な列柱を並べた建物と広い遺跡に隣接して弥生博物館が建っていた。  
 東には河内から大和へ続く山々が見え、渡来人の郷 河内飛鳥がすぐ近くここも間違いなく渡来人の足跡が感じられる。



大阪府池上曾根弥生遺跡に復元された大型建造物



弥生特有の絵描 船と狩猟 船の船先に楫が見える

日本人の起源 シリーズ 1 土井が浜 弥生人のルーツ  
 1.3. 長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認

日中調査団 ルート論争に一石  
 朝日新聞 1999年3月19日朝刊より  
 choko.htm 1999. 3. 25

『大陸から稲作や金属器など弥生文化を伝え、  
 現代日本人の成立にも大きな影響を与え  
 たとされる渡来系弥生人にそっくりな人  
 骨を中国・長江（揚子江）流域で初めて確  
 認した』と3月18日 日中共同調査団が発表  
 日中共同調査団  
 日本側団長、山口純・国立科学博物館名誉研究員  
 中国側団長、鄭厚本・南京博物院考古研究所長



北方系とされてきた渡来系弥生人の故郷のひとつが長江下流域にもあったことそうかがわかる発見で、  
 朝鮮半島経由ルートと江南ルートに分かれて論争継続 弥生文化の伝播をめぐっても大きな関心を集  
 めそうだ。

中国・江蘇省の梁王城、胡埭などから出土した古人骨を対象に、1996年度から人類学グループが南京  
 博物院と調査を進めていたもの。

日本の弥生時代とその直前にあたる春秋戦国時代から前漢時代の人骨約二十体の頭が骨や四肢骨、歯  
 を計測。併せてDNAも調べた。

その結果、北部九州や山口県で見つかる、背が高く身長でのっぺりした顔立ちの渡来系弥生人と姿形が  
 酷似し、遺伝的にも近いことがわかった。

また、弥生時代にみられる技術の風習も確認された。

日本人の成立については、南方系とされる形が深く低身長の人種に、大陸北部の北方系の渡来系弥  
 生人が混血したという見方が有力。九〇年代に入り中国では、黄河下流域の山東省や内陸部の青海省な  
 どでも渡来系弥生人に似る骨が確認されているが、長江下流域では知られていなかった。

山口団長は「稲作文化の中心は長江流域。渡来系弥生人を北アジア的とする通説に修正が必要ではないか  
 か」と話している。

近年、長江流域は、中国文明とは別に独自の高度な文明を持っていたとして注目を集めている。春秋戦  
 国時代には呉・越や楚などの国が興った。稲作地域の華北とは異なる稲作圏であることから、稲作中心  
 の弥生文化は直接ここから日本列島に流入したとする説があり、有力な朝鮮半島経由説と対立している。

- 考古学的に江南ルートの存在を主張してきた  
 樋口隆康・奈良県立橿原考古学研究所長の話  
 長江流域は人類学では手が付けられていなかった。渡来系弥生人に  
 似ているならば彼らが弥生文化を持ってきたと書きたい。  
 弥生文化が来た道はいろんな道があったことを示す有力な資料だ。

このページを気にかかっているインターネット ホームページ『IRON ROAD たらた』の「大陸との交  
 流」のページを進めるきっかけにしようと思う。

- ◆ 300 体を超える渡来人が望郷の念を抱いて日本海のかなたの大陸  
 を眺めながら整然と並んで眠る山口県曾根の土井が浜の海岸丘遺跡。
- ◆ 出雲の国に入り、ヤマタノオロチを退治したスサノヲノミコトは  
 戦乱の朝鮮半島の小国の王子。鉄を持って日本に連れてきたと言う。
- ◆ 邪馬台国の所在地は北九州・畿内???
- ◆ 日本海側や瀬戸内沿いにヤマトに向かって点々と続く金属器と稲作  
 集落の弥生の遺跡・古代王国の連環。

などなど。

紀元前1世紀から3世紀にかけて中国・朝鮮半島の戦乱の世に戦乱を逃れ、多くの渡来人が日本へや  
 ってきたという。

大陸から九州・西日本に続くこの道は渡来人と一緒に歩んだ『稲の道』『鉄の道』『大和・日本成立の東  
 遷の道』。

その黎明には大陸からやって来た幾多の渡来人一族の群れがこの道と通っていった。

そして、弥生人の子孫が渡来人達の技術・技能を借り、それらを融合して築いた大和の国。  
 稲作を伝え、金属器を伝え、集落を作り、国へと発展し、日本の骨格が出来ていったと言われている。

昨年 土井が浜人類学ミュージアムで『土井が浜のルーツ・日本のルーツ』の資料を買った。  
 これを手がかりに渡来人の道 「鉄の道」を考えてみたい。

3月に娘のいる米子訪問を機に「和鉄・渡来の民が色濃く足跡を残す古代王国の地」である奥出雲・伯  
 耆の国を訪れた。

- ・ 日野川・斐伊川の流れてたら衆の守り神屋敷神社。
- ・ スサノヲ神話の鳥上の峯【船通山】とヤマタノオロチ。
- ・ 司馬亮太郎著『街道を行く：安芸の道』で読んだ  
 「石見風土記の丘・江の川と三次盆地渡来人とたらた」

曾根池上遺跡に併設された大阪府立弥生文化博物館で開催されている「渡来人登場 -弥生文化を開  
 いた人々」展を見つつ、また、曾根池上弥生遺跡の中に立ち、バラバラではあるが次々と古代ロマンの影  
 らむ一日でした。

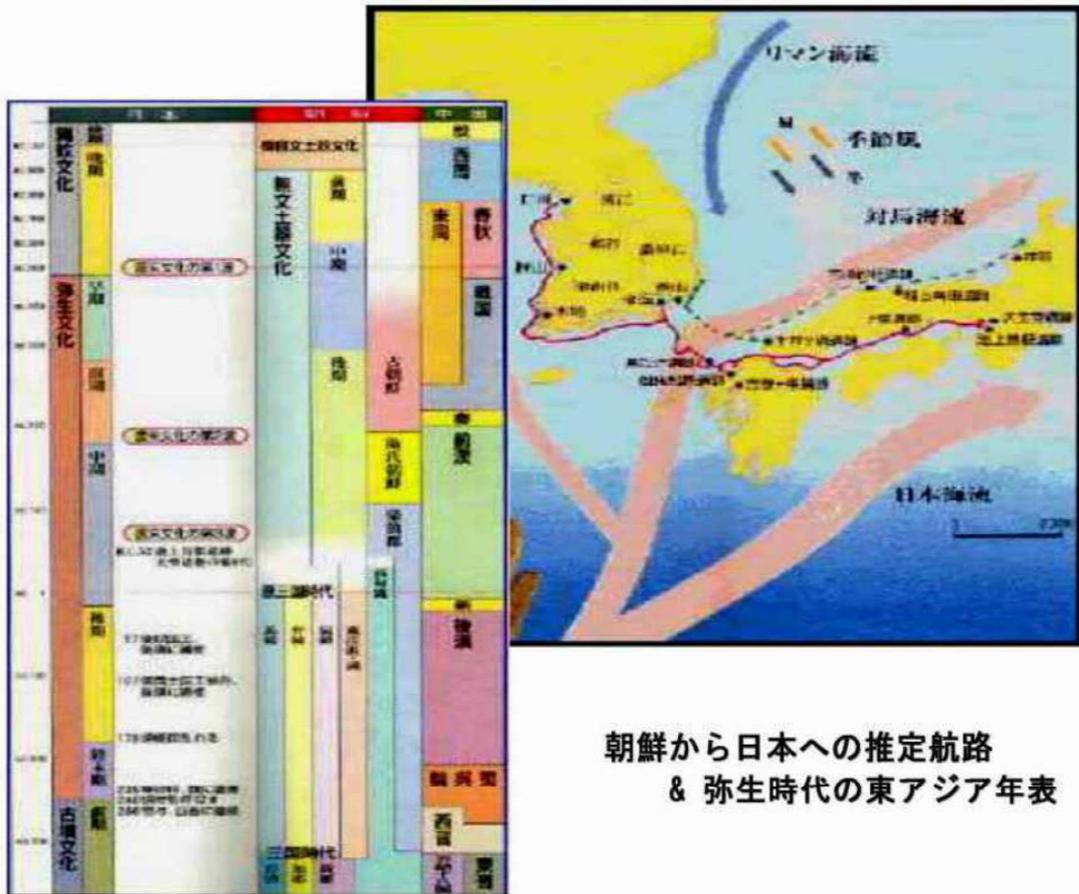
ちょうど朝日新聞に日本渡来人のルーツが黄河流域のみならず揚子江の中流も考えられるとの日中共同  
 研究の記事。中国大陸の文化の伝播が川沿いの南北のみならず両者を繋ぐ東西にも広がっていった  
 と伝えている。

土井が浜 人類学ミュージアムの「土井が浜 ルーツ研究」の資料にも同じ事を見た。

1999. 4. 24. 神戸にて 中西

【参考】弥生時代の東アジア史年表〈日本・朝鮮・中国〉

弥生 日本の起源黎明期 大陸環境と渡来人



朝鮮から日本への推定航路 & 弥生時代の東アジア年表

弥生人の源流を探る -西から東へ-【3】

日本人のルーツと Iron Load の接点を探して

3. 『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』

第6回 土井が浜シンポジウム

『弥生人の源流を探る-西から東へ-』

—シンポジウム開催挨拶より転記—

土井が浜遺跡・人類学ミュージアム 館長 松下孝幸  
1998. 8. 30. 土井が浜人類学ミュージアムにて  
roots2print.htm 1999. 5. 4. by M. Nakanishi 収録

【松下孝幸館長基調 Review】

『弥生人の源流を探る -西から東へ- 要約』

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 館長 松下孝幸  
1998. 8. 30. 第6回土井が浜シンポジウムにて

『土井ヶ浜シンポジウム』は、人類学ミュージアムの活動の大きな柱で人類学的成果と考古学的成果などを広く普及し、その成果を分かちあうことを目的として、学際的に行なっているシンポジウムです。今年第6回目になり、また日中共同シンポジウムの5回目となりました。

- 1993年 第1回 テーマ  
「弥生人は海をかけて南北に交流したか」
- 1994年～1996年 第2,3,4回 テーマ  
「北部九州・山口と中国山東省のヒトと文化」  
(中国山東省の考古学者と中国の人類学者との共同討論)

1994年から、人類学ミュージアムは中国山東省の考古学者や中国の人類学者と共同で、土井ヶ浜弥生人などの渡来系弥生人のルーツを明らかにする調査と研究を行なったので、その成果を普及するためのシンポジウムでした。

この共同研究によって北部九州・山口の弥生人のルーツ（おおよそ大陸にあると考えてもよさそうです。また、土井ヶ浜弥生人の形質的特徴は、山東省での調査の結果、周代までは確実にさかのぼれることがわかりました。この結果を踏まえて、今後の次の課題を解決するための調査研究を行って行こうと考えています。

- ① 直接の渡来地はどこか、
- ② 形質的起源はどこまでさかのぼれるか・そしてそれはどこの地域か、

大陸の文化と人骨をみていると、南北間の流ればかりでなく、東西間の動きもあるようでこれも軽視できません。  
「黄河と長江の二大河川に沿ってヒトと文化が西から東へ移動した可能性があるのではないか」と考え、両河川の源流がある青海省から出土した古人骨を、1997年から1999年まで青海省と共同で研究し、弥生人の源流を深めてみたいと思います。

【渡来系弥生人と縄文人をルーツとする弥生人の特徴】



【西日本の主な弥生人 人骨出土地と渡来人のルート】

『渡来系弥生人』 弥生文化を創った人々 -展覧資料より 1999. 4. 22



【渡来系弥生人と縄文人をルーツとする弥生人の特徴】



#### 4. 古代日本と中国や朝鮮の交流と鉄の伝来

弥生時代 日本と中国・朝鮮半島の間には化ば都な交流があり、これらの交流・日本への渡来を通じて日本・日本人のルーツである弥生文化・弥生人が成立した。  
 弥生時代の農耕文化を支えた農耕器具や日本成立への戦乱を乗り切る武器として『鉄器の伝来』もこれらの交流を通じてもたらされ、『たたら』製鉄として昭和の世まで約2000年の長きに渡り、連綿と日本を支えてきた。  
 この弥生・古墳時代の鉄器・製鉄技術の伝来についての記述について、思いつくまま調べている。

1999. 5. 2. 神戸にて M. Nakanishi

中国ではすでに紀元前5世紀には鉄器文化が花開いており、戦乱・民族の移動交流を通じて四方に広がっていった。春秋戦国時代以来中国で繰り返された戦乱が朝鮮半島に作用し、日本にも渡来の民を通じて影響し、この過程で日本にも鉄器が伝えられたと考えられます。

『三国志』魏志韓伝によると紀元前2、3世紀中国の政策や動乱の影響を受け、朝鮮半島の社会や政治が移り変わり、大勢の人々が移動・移住したと伝えている。

朝鮮北部から陸路ばかりでなく、山東半島・遼東半島周辺の朝鮮半島西岸ばかりでなく、朝鮮海峡を渡り、日本にも集団で渡った民がいたこと想像され、日本と中国・朝鮮半島の交流が活発にあったと考えられている。

また、魏志韓伝にはこの紀元前2、3世紀から紀元1世紀にかけて、「弁辰の国は鉄を産し、韓・(ワイ)倭 皆がそれを求めてくる」と記している。そして、大和朝廷の成立する3世紀には南朝鮮の弁韓・辰韓地方から鉄の王国伽耶諸国が成立し、これら諸国と日本との活発な交流を通して、鉄製品の輸入・本格的な製鉄技術の移入が始まり、『大和の国・日本』の成立に大きな影響を与えた。

日本書紀によれば、出雲国でヤマタのオロチを退治したスサノノミコはこの戦乱の南朝鮮からの渡来した集団の長と伝えている。

司悠司は小説『蘇王スサノオ伝説』でこのスサノヲを伽耶国の王子として製鉄技術を持って先に渡来していた集団(ヤマタノオロチ)を滅ぼし、さらに次々と土着豪族を斬り倒して出雲・大和を平定し、ついには日本統一をはたす大ロマンを小説に書き上げている。

真偽は別にして、当時の日本と朝鮮諸国との交流・鉄の役割等を生き生きと



小説に仕上げています。

朝鮮とのかかわりは人・文化・鉄のみならず 言葉・文字に至るまで想像を広げればいくらでも広がって行く。万葉集も古来朝鮮のことばとして解釈すると非常に理解しやすいと聞く。

史実とはかけ離れているかも知れないが『たたら』をkey wordに時代をみると古代のみならず、実にスケールの大きなロマンを秘めている。今は山奥の奥の谷あいのどん底にあるなにもない『たたら』遺跡に立ってその時代時代について色々想像をめぐらすのも楽しい。

それは何も古代に限らない。

1999. 5. 2. 夜 神戸自宅にて 中西睦夫

表 古代日本と中国・朝鮮の交流と鉄の役割

| 奥出雲横田町 ホームページ資料より |        |       |                                                                               |
|-------------------|--------|-------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 西暦                | 和暦     | 時代    | 内容                                                                            |
| B C 600           |        | 縄文    | インドやエジプトで鉄器文化隆盛                                                               |
| B C 500           |        | 弥生    | 中国で鉄器文化隆盛                                                                     |
| B C 27            |        | 弥生    | 天日槍命 鉄器類を天界に献上する<br>(日本書紀)                                                    |
| 57                | 建武中元 2 |       | 国使節が後漢に行き金印を授かる                                                               |
| 239               | 景初 3   |       | 卑弥呼が魏に朝貢し「親魏倭奴国王」の称号を授かる                                                      |
| 252               |        |       | 済の使節が鉄器財宝類を大和朝廷に献上する                                                          |
| 324               |        | 大和・古墳 | 高麗より鉄槌・鉄的が大和朝廷に献上される                                                          |
| 538               |        |       | 仏教伝来                                                                          |
| 593               |        |       | 聖徳太子摂政になる                                                                     |
| 645               | 大化 1年  | 飛鳥    | 大化の改新                                                                         |
| 670               | 天智 9年  |       | 水碓により鉄を治す                                                                     |
| 687               | 持統 1年  |       | 新羅より大和朝廷に金・銀・鉄が献上される。                                                         |
| 659               | 斉明 5年  |       | 出雲大社造営される                                                                     |
| 701               | 大宝 1年  | 奈良    | 大宝律令制定この頃、備後八郡の調(税金)として「麻布・楸・鉄」が収められている                                       |
| 733               | 天平 5年  |       | 出雲国風土記が撰せられる                                                                  |
| 794               | 延暦 13年 | 平安    | この頃、既に奥出雲仁多郡に製鉄あり                                                             |
| 800頃              |        |       | 恒武天皇、都を平安京に移す以後明治維新まで都となる<br>この頃、刀剣鍛冶技術が確立。名刀が多く造られる。<br>中国地方の租税(調)は鉄・楸が中心となる |

#### ● 参考資料 1

佐古和枝氏 「海を渡ってきた人々」より  
 渡来人もたらした鉄  
 絵で見る考古学



#### 鉄器の伝来と渡来人

日本列島に稲作の文化がもたらされてしばらくたつたころ、青銅器と鉄器がほとんど同時に日本に入ってきたと思われます。鉄よりやわらかい青銅器は、細かな模様や形を鑄出した祭の道具になりましたが、銅よりも硬鉄器は、実際に切ったり削ったりする道具として用いられました。

日本の弥生時代と同じころ、朝鮮半島の南部の伽耶地方では鉄器の文化が栄え、日本列島にも鉄がたくさんもたらされたようです。

でも錆びたとき銅よりも残りにくい鉄は、発掘調査をしてもなかなか見つかりません。地中で腐ってしまいやすいというだけでなく、実際に使う道具として利用価値が高かったため、何度も砥石で研ぎ直して、使いづらいうほど小さくなるまで使ったために残りにくいのもかもしれません。

● 参考資料 朝鮮 三国時代 伽耶の鉄

鉄の古代王国 伽耶国の精巧な鉄製品【5世紀】

日本等との交易に用いられた鉄てい

鉄製の甲冑



#### 鉄製の武器と馬飾り



よみがえる古代王国 『伽耶文化展』より  
 於 京都国立博物館 1992. 8. 28.

by M. Nakanishi 1999. 5. 4. 第1版

#### ● たたら吹き製鉄



日本書紀伝承による 1~2 世紀頃の日本

5. 『ヤマトノオロチを退治したスサノオノミコト』

susanoIprint.htm 1999. 5. 3.



1~2 世紀の日本は統一の前夜 多くの国に分かれ戦乱が続いていた。中国・朝鮮半島においても戦乱が続き百済・伽耶・新羅等の国々が覇権を争い、それらの戦乱をのがれ、朝鮮海峡を渡り日本へ来る渡来人集団も少なくなかった。  
— 1999. 5. 3. M.Nakanishi 記

日本書紀・後漢書 倭伝 の伝承記述

スサノウノミコトが舞い降りたという島上の峯 (船通山)



● 「日本書紀」の伝承

「一書に口はく、兼葭鳴尊、その子五十猛神を帥みて、新羅国に降りりまして、曾戸茂梨の處に居しませ。すなわち興言して日はく、「この地は吾居らまく欲せじ」とのたまひて、遂に埴土を以て舟に作りて、乗りて東に渡りて、出雲国の箴川上に所在の島上の峯に至る」

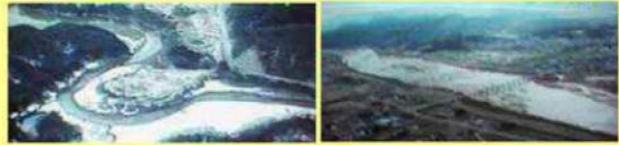
ある書にいわく、  
スサノオの尊は、その子供のイタケルの神を連れてソシモリというところに住んだ。  
しかし、スサノオの尊は、「わたしはこの地には居たくないと思う」とおっしゃって埴土で舟を作り、それに乗って東に渡り、出雲の国斐伊川の川上にある島上の峯に至った。

—『日本書紀』より—

● 「後漢書」倭伝の記述

「桓・靈の間、倭国大いに乱れ、更々相攻伐し、歴年主なし」  
後漢の桓帝・靈帝の在位の期間、倭国は大いに乱れて互いに攻め合い何年もの間主がなかった。  
—『後漢書 倭伝』より—

奥出雲国 箴川(斐伊川)の流れと ヤマトノオロチ



『八俣の大蛇』は蛇行する『斐伊川』ともこの川の上流域で行われた『たたら』衆および『たたら炉』から流れ出る『溶鉄』の象徴とも言われる。  
また 船通山のふもと島上では、今も技術伝承を兼ねた『たたら吹き』製鉄が行われ、刀剣の材料として、得られた『玉鋼』が全国の刀匠たちに配られている。(日刀保たたら)

やまたの大蛇退治と草薙の剣 —— 日本書紀の伝承



「期に至りて大蛇あり。頭尾各八岐あり。眼は赤酸器のごとし。松柏、背上に生ひて、八丘八谷の蔓延れり。酒を得るに及至りて、頭を各一の槽におとし入れて飲む。酔ひて睡る。時に兼葭鳴尊、すなわち所帯かせる十握剣を抜きて、寸にその蛇を斬る。尾に至りて剣の刃少し欠けぬ。故、その尾を割裂きて視せば、中に一の剣あり。所謂草薙剣なり」  
その時刻になって、ヤマトノオロチがやって来た。オロチの頭と尾はそれぞれ八俣に分かれており、眼は赤ほうずきのようなものであった。背中には松や柏がびっしりと生え、多くの丘や谷にまで広がっていた。酒を見つけると、頭をそれぞれ八つの桶に突っ込んで飲み、酔って眠ってしまった。  
そのときスサノオの尊は、腰にさしていた十握の剣を抜いてオロチをズバズバに斬り殺した。オロチの尾を斬ったとき、剣の刃が少し欠けたため、その尾を裂いて見ると、中に一振り目の剣があった。これが草薙の剣である。

『日本書紀』より

6. 出雲と朝鮮・新羅との関係

— 日本誕生とたたら 歴史雑感 —

susaprint.htm

新羅の前身である弁・辰韓にふれた「魏志東夷伝」に「国から鉄が出、倭などみな随ってこれを取る」という記述がある。  
この事は古代朝鮮に製鉄技術があり、それを日本の前身である倭からも取りに行くなどの交流があったことを示している。  
また、その後の日本誕生にかかわる出雲スサノオ伝説とも絡み、非常に興味深い。  
そのほか新羅王の冠の飾りに出雲が主生産地としてよく知られていた勾玉が使用されていることも興味深い。



(慶州：天馬塚にある天馬図) よみがえる古代鉄の王国  
崇高な文化をこれ一枚で 伽耶王国展より 1992. 8. 9.  
感じることができる

「日本人のルーツと Iron Road」の接点を求めて

『弥生人の源流を探る -西から東へ-』

【完】

出雲スサノオ伝説

当時 朝鮮半島では部族・民族間の戦い繰り広げられ、難を逃れた多くの人たちが渡来人として日本にやってきた。  
スサノオノミコトもその一人で新羅系の人たちと共に日本に逃れ、出雲に来て、すでにやってきて農耕の民と争っていた先住のたたら民を討ち、国を治め 出雲の王となった。  
その後、百済系の人たちの大和朝廷に国を譲った。

スサノオノミコトが鉄を目指して朝鮮半島 当時の新羅から日本にやって来たともいわれている。

出雲人の祖先は一体どこから来たのであろうか？  
出雲は新羅から船を迎日湾に浮かべると海流によってたどり着くことの出来る場所である。  
当時から大勢の移民が出雲に流れ着いたか、意図的に渡来していたと考えられる。  
一方出雲と対峙していた大和朝廷は百済系と言われており、「記紀」等の記述から、出雲を新羅系と認識していたと考えられている。  
出雲では砂鉄が取れ、縄文時代の中期頃からすでに素朴な鉄生産が行われていたという記述もある。  
倭から弁・辰韓に鉄を取りに行った人々の情報の中に出雲の鉄のことが含まれていたとしてもあながち妄想ではなからう。

### 3. 岡山県 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡

Iron Road (I) 2000  
1996.10.2000

1999. 3. 12 訪問 tmsn.htm



1. 富村鍛冶屋谷 たたら遺跡
2. 『初花 - ほとぼしるたたら溶鉄の造形 - 』

#### 1. 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡

岡山県の山奥に備前・吉備のたたら遺跡を尋ねた。吉井川沿いは古くから砂鉄の出るところ。吉井川の源流・鳥取県と岡山県の県境に鍛冶屋谷たたら遺跡を訪ねた。津山から県境に向かって車で約一時間。途中には昔鏡作りの渡来人がいたと言う鏡師町をとおし、吉井川沿いを奥津温泉に抜ける街道を進み、山へ向かって細い一本道を進む。山間の道のあちこちでフキノトウが芽を出す暖かい3月の日でしたが山又山、途中からは残雪の残る峠道を分け入った人里端なれた山の中、富村 鍛冶屋谷のたたら遺跡は雪の中にひっそりと眠っていた。

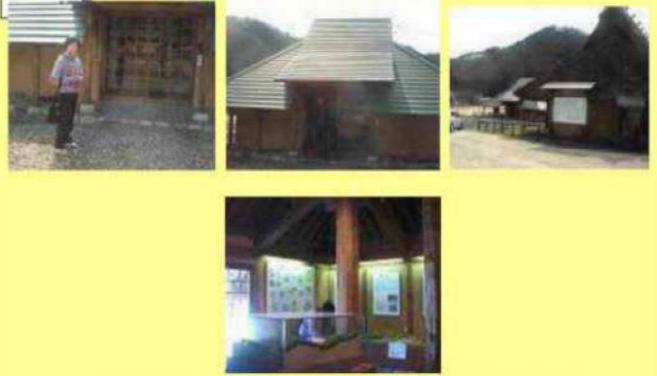


岡山県/鳥取県の県境近く 山また山の中 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡

どこもそうであるように、この遺跡も山又山の山奥の村のそのどんづきの山の斜面の林の中に大きなたたら製鉄の痕跡を示していた。富村は古代よりたたら製鉄が行われた場所といわれるが、この遺跡は津山藩宮大倉山鉄山のひとつで江戸時代から明治の半ばまで製鉄が行われた遺跡と言う。

吉井川河口近くには鉄さびの深いこげ茶の味わいを持つ備前焼の里や備前長船 日本古来の刀鍛冶の郷『長船』などがあり、そして古代吉備王国、源流にはたたら山・鏡師の郷とこの流域が古来より栄え、その原動力が鉄との深いつながりにあったに違いない。北に出雲の王国 東にたたら製鉄伝来の播磨の国千草 国産み神話の淡路島そして日本の中心大和。『もののけ姫』の鉄山もこんなところか・・・と。明日は娘のいる米子へ行って、それからヤマタノオロチ伝説の奥出雲 船通山・金屋子神社を訪ねる予定。 1999. 3. 12 記

#### \*\*\*\*\* 富村 たたら展示館 \*\*\*\*\*



#### \*\*\*\*\* 富村 鍛冶屋谷 たたら遺跡 \*\*\*\*\*



### 4. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器陣庫

Iron Road (I) 2000  
1996.10.2000

#### 「行方製鉄遺跡」を訪ねる

福島県原町市 金沢製鉄遺跡 1999.11.13.  
hrnci.htm by Mutsuo Nakanishi



1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器陣庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
2. セタカミ「白鷺見(北上)」の鬼 蝦夷(エミシ)の雄アテルイ
3. 8世紀 蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多賀城遺跡」

として武器製造の拠点として 日本統一に重要な役割を果たした「陸奥の国 真吹郡 行方の製鉄」である。遺跡は東北電力の原町発電所の中にあり、連絡もとらずふらっと出掛けたい気持ながら中に入らず、発電所の建っている外から遺跡群のある丘の周辺を歩き回ってきました。発電所の建設により、海岸周辺は良く整備された美しい静かな公園となっていた。太平洋とはるか遠くをゆく船をまた日の出を見るには絶好のポイント。太平洋に面してこの遺跡の上に建つ、東北電力原町 発電所とそれに隣接して太平洋の荒波に洗われる海岸北東海浜公園 砂鉄の海岸で遊んで帰りました。

後日東北電力 原町発電所の石田純一氏より、丁寧なお手紙とともにこの製鉄遺跡発掘の記録資料やビデオ また 鈴木啓三「半歩・行方の製鉄をめぐって」等多くの貴重な資料を送っていただいた。

1. 金沢製鉄遺跡 東北電力 原町発電所 資料より
2. 金沢製鉄遺跡の特徴
3. 砂鉄の舞う浜 北東浜 福島県原町市北東海浜公園
4. 北東浜で 浜砂鉄が描く模様
5. 「Iron Road 鉄の道」

#### 4. 4. 1. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器陣庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる



今日は 久しぶりに家内と二人 昼の常磐線 快晴の空に映える太平洋の海を眺めました。朝日新聞 大阪版夕刊に「日本の原像 - 鉄器登場 -」が連載され、福島県原町市に「日本誕生」にかかわった大規模な製鉄遺跡の存在を知り、日立にいる姉を訪ねてから家内と二人で出かけた。東京から常磐線の特急で約4時間。日立から太平洋を眺めながら、勿来・常磐を過ぎて福島県にはいり、山間から東に太平洋 西に阿武隈山地を望む盆地にはいる。「相馬馬追い祭り」で有名な相馬盆地の中心に原町市がある。この原町市の北の沖根相馬市に隣接した金沢地区の太平洋に面した丘陵から、東日本最大の製鉄遺跡群が出土した。7世紀後半の奈良時代 日本統一へ向けて、坂上田村麻呂ほか東北征伐が行われたが、その兵器製造所

朝日新聞 「日本の原像」より



「真金吹く丹生の真朱の色に出

言はなくのみそ吾が恋ふらくは」

この歌は原町市金沢の「真吹郷 行方製鉄」を取ったものであると鈴木啓氏は述べている。万葉集に読まれるほどの有名な大規模な製鉄所であった事がしのばれる。

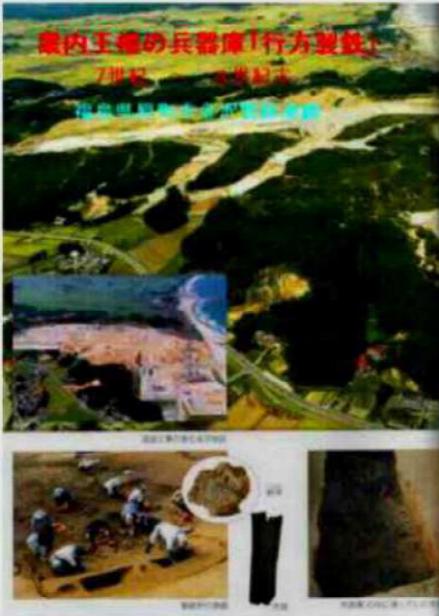
「宇多・行方の製鉄をめくって」より

2. 金沢製鉄遺跡の特徴

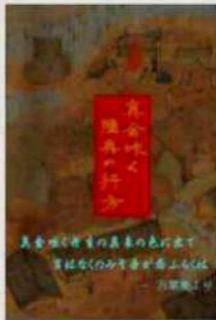
石田氏からいただいた資料によるこの遺跡の全盛期 たたら炉は縦型炉から箱型炉に進化し、踏み轆を有していることに特徴があり、その踏み轆のあとが完全な形で出土している。この踏み轆の採用により、製鉄量は大幅に増大したことは想像に難くない。この踏み轆を持つ箱型炉が全国へ波及して行き、時代が下るに従って天秤轆を持つ大規模なたたら炉へと進化して生産量を大幅に伸ばしていた。このように「たたら製鉄」や「鍛冶」として「轆」は極めて重要で、後年これらの繁栄を祈願する祭りを「轆まつり」と呼び、今も続いている。江戸時代 紀伊国屋文左衛門が風をつけて 江戸へ運んだみかんは江戸の鍛冶師たちの「轆祭り」の供え物として必須のみかんであったと言われている。

**行方製鉄の最盛期** (古世紀遺跡～全世紀遺跡)

**踏み轆と箱型炉の復元**      **出土した踏み轆と箱型炉 8世紀**



万葉集二巻 3560首  
「真金吹く丹生の真朱の色に出  
言はなくのみそ吾が恋ふらくは」



● 8世紀蝦夷征伐と行方製鉄遺跡

「たたら」遺跡の多くが山深い奥地の谷あいにあるのに対し、この金沢地区製鉄遺跡群は海岸に面した丘陵にある。すぐそばに背後の阿武隈山地から流れ出て、太平洋の荒波に洗われ、堆積した浜砂鉄の宝庫・北泉の浜がある。この明るい丘陵の谷間に7世紀から8世紀末にかけ、大規模な製鉄炉や鍛冶炉、炭焼き炉など数々の製鉄鍛冶が営まれた。当時 奈良時代 畿内王権が着々と日本を統一をめざし、その勢力を東北にまで拡大、蝦夷征伐を盛んに行っていた。この行方製鉄はその「王権の兵器庫」として重要な役割を果たした。坂上田村麻呂の蝦夷征伐により 蝦夷勢力が打ち果たされ、胆沢城(現在の一関市)が築かれ、東北が平定されると兵器の需要の低下とともにこの行方製鉄も衰退してゆく。

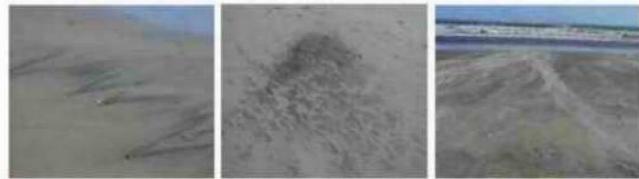
3. 砂鉄の舞う浜 北泉浜 福島県原町市北泉海浜公園



北泉浜で きらきら光る砂鉄      砂鉄の浜で 白砂が風に幾筋も舞う

発電所の正門のすぐ横は松林におおわれ、綺麗に整備された北泉海浜公園。海岸にはきっと砂鉄があるはずと砂鉄を探しに行きましたが 本当に印象的な美しい白浜で黒い細かい砂鉄が白砂に混じって 実に綺麗な模様を描いていました。見渡す限り太平洋の中 荒波にもまれて沢山の若者が大きな波にサーフィンを楽しんでいる一方 誰もいない砂浜では、波にもまれた細かい砂鉄が 美しい砂鉄の風紋を作り、その上を細かい白砂が風によっていく筋も 流れて、家内と二人風の中に立って見とれていました。

4. 北泉浜で 浜砂鉄が描く模様



風に舞う砂鉄が描く風紋

5. 「Iron Road 鉄の道」

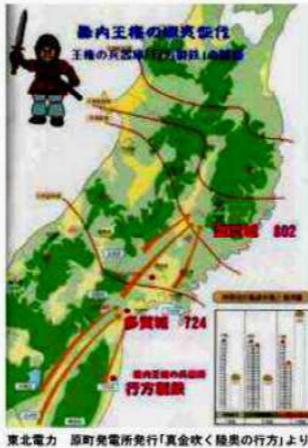
7世紀から8世紀東北にあった蝦夷国・出羽国・津軽国 畿内王権の蝦夷地征伐で次々と畿内王権に組み入れられ、日本国が誕生した。これらの国には 恐らく北のまほろば 三内丸山遺跡・亀岡文化などに代表される縄文人やオホーツクの民の血が濃く流れていたに違いない。これらの国と弥生人の血を色濃く持つ畿内王権とが出会いそして日本国の完成へ。戦いに使われた蝦夷の刀は日本刀の原型となった「藤手刀」。それが原型となって刀は突く武器から切る武器へと変身し、戦いの主力武器へ。この蝦夷と畿内大和政権との戦いの武器調達を担った鍛冶の主力が、この金沢の製鉄遺跡。ここでも 「Iron Road 鉄の道」が歴史の重要な転換点の役割を演じ、出会いを演出している。この日本誕生に役割を演じ、縄文と弥生人融合を演出した浜の砂鉄を紙にさっと包んでポケットに入れ、この浜を後にした。私にとっては 空白だった鹿島・房総から三陸海岸の間の部分 阿武隈山地・陸奥のたたら遺跡との最初の出会いだった。原町は相馬馬追いで有名な町であるが、日本誕生に関わった製鉄の重要な町でも有る。

真金吹く 陸奥の行方 福島県原町市金沢 真吹郷  
「真金吹く丹生の真朱の色に出 言はなくのみそ吾が恋ふらくは」

1999. 11. 13. 福島県原町市 北泉海岸・金沢地区製鉄遺跡にて

## 4.2. 日高見(北上)の鬼「蝦夷(エミシ)の雄 アテルイ」

佐藤清忠氏著 「ヒタカミの鬼アテルイと田村麻呂」より抜粋  
<http://yositsune.ichinoseki.ac.jp/SATOK/pr/ezo/oni.htm>  
 1999.11.27. 採取  
 htkmi.htm by Mutsuo Nakanishi



「それ以前にも、紀古佐美(きのこさみ)率いる約5万朝廷軍をわずかに数百の兵で打ち破り、遁走を余儀なくしたこともあった蝦夷の雄 アテルイ 774年から38年間続いた蝦夷征伐戦争で、前沢・衣川付近でひとは約10万の田村麻呂率いる朝廷軍の侵入を迎えた。日本を二分した畿内政権と蝦夷との戦いの戦場が日高見(北上)一帯から始まった。8世紀末の10万の大軍が、胆沢平野へとなだれこんできたのだが、胆沢の巨星、アテルイはひるまず、戦い大軍を翻弄した。しかし801年、初老の城に達したアテルイは、朝廷軍が現水沢市に造った胆沢城(後の鎮守府)を目の当たりにし、田村麻呂に最後まで残った500の兵を連れて降伏し、都に連れてこられた。朝廷はこの天才指揮官らを田村麻呂必死の懇願に関わらず斬首してしまった。みちのく民衆のこころ、怨念の歴史は、この時から始まった。さまざまな伝説が生まれ、今日までも、奥浄瑠璃や祭の形で語り継がれてきた。」

佐藤清忠氏 「ヒタカミの鬼アテルイと田村麻呂」より抜粋

畿内政権が行方(現在の福島県原町市)に大規模な製鉄所を持ち大量の武器の製造を行っていたが、対抗する蝦夷国も日本刀の原型になった蕨手刀(わらびてとう)の量産技術をもっていた。憶測では、渤海など大陸との交易や出羽や津軽との交流により、採鉱、燃料調達、製鉄の技術を持っていたものと推定される。目立った戦争経験がない蝦夷国が朝廷の十分の一以下の兵力で抵抗でき、民の心を結集できたのだろう。



蝦夷の蕨手刀の分布  
 畿内政権と戦った蝦夷国アテルイの武器  
 蕨手刀の分布

## 4.3. 8世紀 紀元 724 蝦夷と戦った

### 畿内王権の前線基地 「多賀城遺跡」

2000.1.20. tgjyo.htm by M.Nakanishi

多賀城は仙台平野の東北端に位置し、海拔4mの低地から50mを越す丘陵地まで起伏に富んだ地域を占めている。周囲は約900m四方の不整形に土塙や柵木列がめぐり、その中央に約100m四方の政庁がある。その周辺には多くの役所や兵士の住居などがある。

佐倉歴史民俗博物館にかざられたこの復元模型は780年の伊治公普麻呂の乱で焼失後に復興された平安初期の姿を示している。



4. 7世紀 畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫  
 「行方製鉄」遺跡を訪ねる  
 【完】

## 5. 山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -

『鉄の伝来をもたらした古代 山陰 鉄の王国の出現』  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -  
 sanin.htm by M.Nakanishi 2000, April

- 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰鉄の王国の出現』  
 -日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
- 『古代 鉄の集積地 妻木晩田弥生遺跡』-鳥取県淀江町・大山-
- 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯



### 1. 出雲青銅器文化の終焉と鉄の王国の出現



365本の銅剣 16本の銅矛 6個の銅鐔が  
 各々まとめて埋められていた  
 出雲荒神谷遺跡

まとめて出土した 出土した16本の銅矛  
 銅剣365本 と6個の銅鐔

弥生後期一世紀ごろ、出雲には銅剣・銅鐔に代表される青銅文化圏が花開く巨大な山陰・出雲王国があった。そして、出雲荒神谷で、大量にまとめてうずめられた銅剣が発見されたのを最後に銅剣をもった青銅器の文化権が出雲から忽然として消えた。

その後、この地方には韓国に多くの例がある突出角を有する大きな方墳が出現する。

またこの四隅突出方墳には多くの鉄製品が副葬されている。この文化の交代が起こる同時代の遺跡からは、大量の石のつぶて・鏃や石剣などの武器が発見されており、この地域で弥生後期一世紀頃 大きな戦いがあったと考えられる。これら 出雲の青銅器文化や鉄の伝来を告げる四隅突出方墳に代表される山陰・出雲王国の形成には日本海を大陸から渡ってきた渡来人が深く関わっていたことは疑う余地がない。出雲神話に見られる『やまたの大蛇』伝説もこれら渡来人を含めた新住民と先住民の争いの構図が読み取れる。

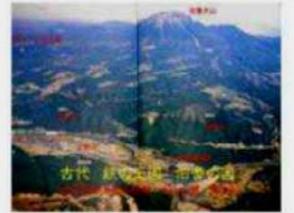
特に一世紀後半頃から 3世紀にかけて、強力な鉄製の武器・農具を持った渡来人が大陸・朝鮮半島から日本海沿岸の各地に次々に現れ、先住民と融合しながら、山陰から北陸地方(当時越前国)にかけての日本海沿岸に鉄と稲作など農耕を持つ強力な王国を作った。

### 2. 奥出雲 ヤマタの大蛇伝説と船通山 出雲鉄の王国の出現 出雲仲仙寺古墳 四隅突出墳丘墓



### 3. 伯耆の国 鉄の王国 妻木晩田弥生遺跡・淀江・溝口

伯耆の国 優美な姿をみせる大山を背景に鳥根半島・弓ヶ浜を望む日本海沿岸淀江の地にも王国が出現した。日本海を望む小高い丘に大陸との密接な関係を示す多数の四隅突出墳丘墓ならびに多数の鉄製品が発見される妻木晩田遺跡とそれに続く古墳遺跡群である。時代がぐだり日本が誕生した白鳳時代には淀江奥寺遺跡が発見されている。



まさに 畿内・大和に次ぐ、強大な文化圏があったことがわかる。鉄の日本伝来と深くかかわった伯耆の王国である。

また、伯耆の国の『たたら製鉄』の源流となり、遠く背後にそびえる船通山(鳥上山 ヤマトタケルの伝説の地)から流れ出た日野川が大山の山麓を縫って流れ下り、この淀江の地で日本海に注いでいる。伯耆の国の母なる川にふさわしい大河である。

この日野川沿い 大山の西山麓 伯耆溝口は古代の一大製鉄基地であったことがわかってきた。この伯耆溝口には、古代たたら製鉄 製鉄技術を持った渡来人と大きな関わりを持つ「皇伝説」が伝えられており、同時に鉄滓が出土する古代製鉄群が発見されている。

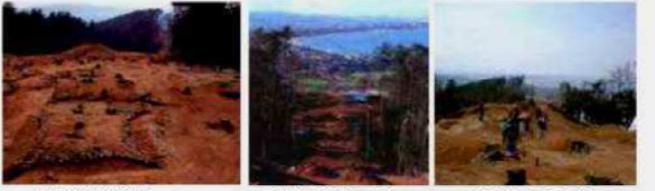
渡来人と強い関わりのある四隅突出方墳墓群・大量の鉄製品の出土そして一大製鉄基地の存在を示す製鉄遺跡群。これらは古代早くから伯耆の國に製鉄の技術が伝来し、それを基礎にした「鉄の一大王国」があったことを示している。娘が嫁いで 米子に住んだのを機会に幾度となく、この淀江の地を訪ね、鉄を日本にもたらした渡来人 古代伯耆の王国に思いを馳せた。

2000.3.25. by M. Nakanishi

参 考 鉄器登場 朝日新聞 夕刊



山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -  
5.2. 「古代 鉄の集散地 妻木晩田弥生遺跡」  
-鳥取県淀江町・大山町-  
mkbnda1print.htm by M. Nakanishi April, 2000



四隅突出墳丘墓 遺跡から弓ヶ浜 遺跡から日本海  
この地域は、大山の北ならぬ斜面の先端部、日本海に面する淀江町の東の丘陵地帯にあり前面には古代に淀江の潟湖があった淀江平野、さらにその向こうには広大な日本海が広がる大陸との交通の盛んであったところで、周囲の山には古墳が多く築かれ、またその東部には壁面の断片が出土した淀江廃寺・真名井の泉と呼ばれる白鳳時代から絶えることのない大山の湧水がある白鳳の里があり、古代から開けた王城の地の一つです。

妻木晩田遺跡 鳥取県淀江町・大山町



妻木晩田遺跡は河ノ原遺跡、妻木山遺跡、妻木新山遺跡、仙谷墳墓群、松尾頭遺跡、松尾城遺跡、小真石清水遺跡という7つの遺跡の総称で、遺跡の範囲は調査された部分だけで約16ヘクタール、吉野ヶ

里遺跡のほぼ4倍の広大な遺跡です。それぞれの遺跡は住居が密集する地域、倉庫の密集する地域、広場、祭殿や有力者の館のある特別な地域があります。判明しているだけで、竪穴住居358軒、掘立柱建物355棟があり、また四隅突出墳20基も見つかっています。



妻木晩田遺跡と 吉野ヶ里・池上遺跡の比較

これらの遺跡は丘陵一帯に分布し、それらがひとつずつ別個の役割を持っていたと見られ、それがひとつの王国ともいえるべき集合体を形成している点で、従来の弥生遺跡観の見直しを迫る重要な遺跡です。いままで発掘された弥生の集落は、吉野ヶ里遺跡など従来の弥生遺跡では、環境の外側つまり、集落のそばに重要な倉庫群が発見され、不思議に思われていたが、この妻木晩田遺跡のあり方から見て、弥生の集落はもっともっと広大に広がっていた可能性が出てきました。

吉野ヶ里遺跡をはじめ池上管根遺跡にしても、今想像されているより広大な規模の集落であった可能性がありそうです。

妻木晩田遺跡は、弥生時代における日本海沿岸部の様相を知りうる遺跡であると同時に、わが国における弥生の集落観の見直しという問題を提起した重要な遺跡です。

またこの遺跡は今日まで一切破壊を免れてきて、約二千年前の弥生の原風景をすべと見ることのできる希有の遺跡でもあります。

妻木晩田遺跡 インターネット ホームページより

この遺跡の居住域からは、200点を超える鉄器が工具・農具を中心に発掘され、日本海側では群を抜く多さです。

また 鑄造品も含まれ、直接・間接的に大陸から持ち込まれたものも多いと想像されており、この地域が鉄の集散地として 大陸や日本各地と強い交渉力を持つ一大拠点であったことがうかがえます。

「鉄と四隅突出墳丘墓」に代表される大陸からの渡来人と既に日本にいた人達が出会い、融合して王国を築いて行った「鉄伝来の道 Iron Road」が見て取れる重要な遺跡でもあります。

(「発掘された日本列島'99」より 千葉県松戸博物館 2000.1.21.)



古代山陰の製鉄遺跡群 妻木晩田遺跡出土鉄器製品

私をはじめ妻木晩田遺跡のある丘陵に登ったのは 2000年1月の冬の午後。あたり一面銀世界。妻木晩田遺跡も遠望する淀江平野も白銀の中にすべて埋もれていました。

周囲の森の中に囲まれて細い白い道で点々とつながる真っ白な丘と雪から顔を出している切株とが妻木晩田遺跡であることを示していました。

丘から丘へ本当に広大な村が有った事が実感されます。環濠や一つの丘の上に独立してある小さな村との弥生集落からはほど遠い広大な集落群である。

高い丘の上に立つと眼下の雪の平原の向こうに島根半島の山々と真っ青な日本海が広がり、大陸へとつながる道が見て取れました。季節は違いますが、丁度青森(山内丸山遺跡)もこんな風でした。



森に囲まれ、大山の姿は見えませんが、大山に向かって南へこの丘を抜けて行くくと大山の山裾の谷間には点々と続く古代伯耆の國の大製鉄地帯「伯耆溝口」。

古代鉄の渡来人もこの森の中を抜け、大山の山麓へ散らかったに違いない。また 大山山麓の各地で精錬された鉄がこの地に運び込まれ、日本各地に運ばれて行ったであろう。

はるか西の大陸・幾多の弥生人が日本海を向いて整然と眠る土井が浜・出雲・奥出雲の国東をみると丹後・越の國 そして この弥生よりもっと古い縄文の王国「津軽 山内丸山遺跡」南には 大山の山合を縫って 吉備の國 そして畿内へと・・・。

根拠はないが 鉄と共に古代人が歩いたと想像すると楽しくなる。真っ青の空の下 誰もいない白銀の遺跡で一人足跡をつけ、楽しんで帰りました。

冬の妻木晩田遺跡 2000. 1. 29.

mkbnda2print.htm by M. Nakanishi



米子から 雄大な雪の大山を眺めながら、higy way を東へ約 10 分 日野川を渡ると雪原がひろがる淀江平野。大山・溝口・津山へ曲がる米子道をやり過ごす雪原の向こう大山の山裾に帯のように黒くつながっている丘陵とその前に大きな槽が見えてくる。白風の里と古代の古墳群のある丘陵地帯である。この丘陵のひとつが妻木晩田遺跡であり、その西には淀江廃寺のあった丘が連なっている。この丘陵へはりつくように、古代から栄えた妻木・淀江・真名井の里がつながっている。



淀江のインターを下り、南へこの丘陵に向かって突き進む。淀江高校の横の山合の道を中心に突き進むと妻木晩田古墳の丘陵である。ほどなく妻木晩田遺跡への上り口を上がると森に囲まれて幾つもの平坦な丘が雪にもうれている。丘を取り囲む樹木の緑と雪原 静かな「妻木晩田遺跡」である。



小高い山の上に「弥生の森」の看板が見える。誰もいない雪原の雪の上に足跡をつけながら遺跡の中心部に入っていた。小高い丘へ登って行くとそこからは淀江平野の向こうに日本海が広がっていた。『日本国生』の前夜 鉄とともに大陸からやってきた渡来人がつくったと想像する弥生の大集落。鉄の集約の一大拠点として、多くの人がこの丘にやって来たに違いない。『山陰・伯耆の古代鉄の王国・妻木晩田遺跡』は雄大な伯耆富士を背に日本海と弓ヶ浜をみおろす小高い弥生の森の雪にひっそりとうずもれていた。



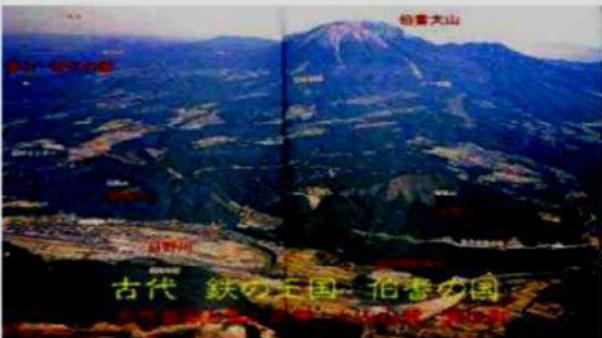
雪に埋まる妻木晩田遺跡

山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -

5.3. 溝口 鬼伝説と伯耆の国の製鉄地帯

—日本最古の鬼伝説から—  
2000. 3. 10.

孝靈天皇 鬼伝説 伯耆 溝口  
mzgoiprint.htm by M. Nakanishi



大山山麓の「伯耆 溝口」は古代伯耆の国の一大製鉄地帯。中国山地の山奥から流れ出て大山の山麓を縫い日本海へ流れ出る日野川。この日野川が大山の山裾から平野部に出る山合が伯耆溝口。この日野川沿いの山中は砂鉄の宝庫。この溝口の地では古代から、この川や山中の砂鉄と山中の樹木を焼いて作った木炭を使って、製鉄が広く行われてきた。この山間の溝口を抜けるとそこは大山をバックに日本海まで、淀江・妻木の平野・丘陵が大きく広がっている。この淀江の地は古代より、大陸から多くの渡来人がやって来て栄えた王城の地。大山の山裾の丘陵地帯の前に広がるこの平野部は 古代広々とした湖が日本海に通じていたという。この大山山麓の丘陵地帯に古代からの数々の遺跡・古墳が眠っている。かつては大陸から数多くの人達が淀江の湖を渡ってここに新天地を求めてやって来た。稲作・鉄の技術も大陸の多くの文化とともにこれらの人たちと一緒にやって来た。

妻木晩田弥生遺跡そしてその後の白鳳時代に続く数々の古墳群・淀江廃寺遺跡みんなこの丘陵の上にある。白風の里と呼ばれる古墳群のひろがる丘陵の上に立ったのは 梅雨の 6 月の朝。眼前には緑色の田畑がひろがり、その向こうには真っ青の日本海・島根半島の山々が霧雨に煙っていた。丘の下には きれいな湧き水が音を立てて流れ、水車がまわる水の里。王城の地は今も本当に静かな日本の原風景。

孝靈天皇 鬼伝説 伯耆 溝口 —楽楽福神社 古文書より—

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を持って人々を苦しめていました。これを聞かれた孝靈天皇は、みずから軍勢を率 いて鬼住山の南のこれより少し高い笹原山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治されました。天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹原の団子を献上し、士気が大いに上がったといいます。それで、この山を笹原山(さすとさん)と呼ぶようになりました。鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。ある晩 眠っている天皇に「笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を猛烈に退治出来るでしょう」とのお告げがあった。これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して、舞いあがった笹の葉を追い、鬼退治に向かいました。笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべも無く、麓に逃げて降参しました。人々は大変喜んで 麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りしました。これが楽楽福(ささふく)神社のいわれです。

淀江平野と白鳳の郷

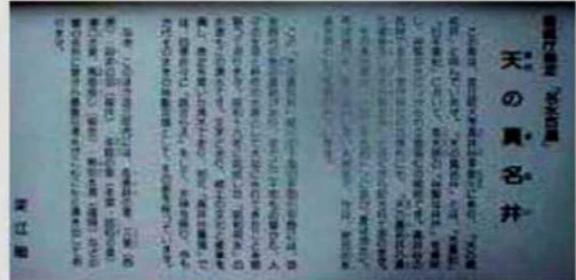
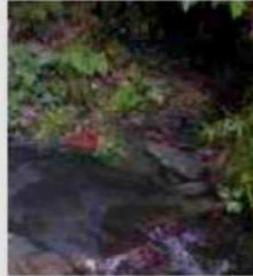


鬼伝説はこの製鉄技術と関わった渡来人と深く関わっている事が日本各地の多くの事例で良く知られている。この溝口の『鬼伝説』も同様に古代製鉄 製鉄技術をもたらした渡来人と深く関わっている。古代の伯耆国の大製鉄地帯「日野川・溝口」につながる淀江の地は古代日本の大陸への前線基地。そこには大陸との密接な交流から生まれた縄文・弥生の妻木晩田遺跡・白風の淀江廃寺と続く独自王国勢力と大和朝廷の勢力との何らかの交渉があったに違いない、この『鬼伝説』がそれを伝えているのかも知れない。淀江の湖を渡ってやって来た渡来人が日野川の砂鉄と出会い自分達の持っている製鉄技法を発展させ

て行った。鉄と炭を求めて 大山の山中に入っていったに違いない。  
 葉栗福(ささふく)の「ささ」は「砂鉄」を「福」は「炊く」と関係があるといわれ、「たたら」製鉄との関係つまり、鉄の技術を持ってやって来た渡来人と先に定住した農耕の民との争いの様相が色濃く見えます。しかし、稲作も鉄の産なくしては発展しなかったであろう。このような産鉄の民が日本の到る所で「鬼」としてえがかれている。

時の権力者は鉄を得て、さらに巨大になって行ったに違いないのそれを支えた産鉄の民が「鬼」とはいかにも理不尽に思う。  
 もっとも、やはり古代津軽の製鉄地帯であった岩木山麓の村には、鬼が村の閉塞の水路を一夜にして作ってくれたとして 節には「福は内鬼は内」と祝う村もある。  
 また 伝説の大男 映画「もののけ姫」に登場した「ダイダラボッチ」も「たたら製鉄」と関連づける説もあり、この時には「ダイダラボッチ」は村人を助けるユーモラスな大男と描かれることが多い。

淀江廃寺 & 真名井の泉



また、この溝口の鬼伝説には異説があって、この鬼退治を姫を母とする孝霊天皇の皇子『鸕鷀王』であるとも言われている。この妻木の地が大陸からやって来た鉄の渡来人と深く関係づけられる妻木晩田弥生集落遺跡の地であることを考え合わせると、この鬼退治伝説の主人公 孝霊天皇やその皇子『鸕鷀王』が大陸からの渡来系の人達であるとの説も一層真実味を帯びてくる。  
 妻木晩田遺跡や古代の古墳が広がる白鳳の郷の丘に立って、日野川沿いに広がる淀江平野から日本海を眺めると日本古代の想像がどこまでも広がって行く。

鉄の産出地帯「溝口」の古代鬼伝説が、古代この地で栄えた「伯耆 鉄の王国」を支え、日本誕生に大きな影響を与えた事を伝えている。

山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -  
 『鉄の伝来をもたらした古代 山陰 鉄の王国の出現』

〔完〕

古代津軽 北の鉄の大王国 [1]



6. 岩木山北山麓の製鉄遺跡群と鬼伝説

tgruoni.htm by M. Nakanishi 2000.3.5.

- 6.1. 鬼伝説と古代製鉄
- 6.2. 岩木山北麓 鬼沢 「鬼神社」と「鬼伝説」
- 6.3. 空沢製鉄遺跡群 勢ヶ沢町湯舟 と「鬼伝説」
- 6.4. 中世の交易都市 安東氏の拠点 十三湊



【岩木山から津軽半島から北海道を望む】 【北海道側から十三湖・七里長浜・岩木山を望む】

岩木山の頂上から 北を見たと眼下に、点々池・湿地が広がる広大な津軽平野「北のまほろば津軽の王国」が望める。北山麓には鬼伝説をもつ古代一大製鉄基地 勢ヶ沢から弘前の農多の沢筋がひろがっている。その向こうには、広々と開けた平野部が広がり、数々の縄文遺跡がある森田村そして五所川原・弘前・青森の市街の東西のベルトが伸び、陸奥湾を望む青森のはずれには、縄文の巨大都市山内丸山縄文遺跡が見える。

その奥の津軽半島に目を転じると日本海にそってまっすぐに北に伸びた砂鉄の浜『七里長浜』が見える。その海岸の湿地帯・池津群の丘には亀ヶ岡縄文文化と呼ばれる縄文遺跡がちらばり、その奥には中世安東氏の繁栄を支えた貿易港 十三湖・十三湊が見え、電飛岬を隔てて北海道 かつてのオホーツクの王国の地が見える。

津軽へ初めて行ってもう30数年経つが、何時行っても新しい発見の有る津軽。  
 原色と太い線で描かれるあの躍動感あふれるねぶた絵とねぶたのリズム 津軽三味線の響き 恐山

のイタコ。そして、地吹雪までも観光資源としてしまう。古代からの津軽王国の歴史が今も続く活力のある地域である。

津軽へ初めて行って もう30 数年経つが、何時行っても新しい発見の有る津軽。しかし、日本書紀によれば、この津軽の蝦夷と大和朝廷軍とは戦闘を交えたというよりも、和睦によって、大和朝廷の支配下にはいったものであると言われる。

独自の文化をもった勢力圏 津軽王国が弥生時代～中世までずっと独立性を保って存在してきたという。弥生時代後半から 6.7世紀にかけて、大陸・朝鮮半島からやって来た渡来人技術集団によって伝来した鉄器・製鉄技法が日本で活発に取り入れられ、製鉄も行われるようになり、それらを手に入れた各地の王国 文化圏が日本統一をめざして覇を競い、その中から大和朝廷・日本が誕生した。  
 そして日本の大半を統一し、東国毛野・常陸国まで進出してきた大和朝廷は 8～9世紀初には、東北部蝦夷征伐に乗りだし、大量の鉄製武器が動員された。  
 既に紹介した福島県原町に存在する製鉄遺跡群はまさに大和朝廷蝦夷征伐の兵器庫として隆盛を極めた大製鉄遺跡である。また、畿内河内の古市台地の大製鉄遺跡群をはじめ、京都府丹後半島弥生町の製鉄遺跡群 吉備・出雲・そして伯耆など中国山脈各地や九頭竜川流域の越の国など日本各地の製鉄遺跡群もこの時代隆盛のひとつのピークを迎える。  
 大陸からつながってきた『鉄の道・Iron Road』が日本誕生を演出した流れである。

話を津軽に戻すと『鉄の道・Iron Road』は古来早くから、日本海 海路 津軽にもつながっており、日本列島の北の端で大きな独自文化圏を築いてきた。ただ、日本・大和朝廷の敵方勢力圏から外れていた為、北海道と同様 未開の土地と切り捨てられていたにすぎない。  
 事実 岩木山北山麓が古代の大製鉄地帯であったことが その地帯に伝わる鬼伝説と多くの製鉄遺跡群によって判ってきている。



津軽 鬼の故郷 岩木山と岩木山神社

この製鉄遺跡から発掘される炉の構造が、この時代大和朝廷の支配下にあった製鉄遺跡の炉とは少し異なっており、伝播の道が少し違っているとされている。また、柴田弘武氏の本によるとこれら鉄の技術を持った東北の集団がその後の時代に母因として、日本各地でたたら製鉄に従事し、たたら製鉄の伝播に大きな役割をはたしたことが示されている。当時 奥州・津軽の製鉄技術の優秀性が大和朝廷でも認められており、完全に津軽を征服しなかったことと合わせるとあまりきっちりとした証拠は発見されていないが、津軽に巨大な鉄の王国があった。証拠であろう。  
 昨春秋、津軽を訪問し、岩木山に登り、縄文文化の花開いた津軽半島西海岸を歩き、鉄の痕跡を探した時にはその痕跡は見つけられなかった。しかし、山内丸山遺跡・亀ヶ岡縄文文化のスケールにふれ、また、「ねぶた」のあの山車の迫力、そして 現代の青森の明るさとエネルギーに圧倒され、ここにも古代日本誕生にかかわった「Iron Road」が伸びていると想像していた。

岩木山の北麓一帯が古代の大製鉄遺跡群であり、また、製鉄と関係深い「鬼伝説」の伝わる土地であることを知ったのはつい最近であり、いつも津軽王国の存在を意識していたものの、製鉄遺跡の存在を知り、また、じっくりと岩木山麓を歩いたことと合わせ、やっと津軽 鉄の王国『津軽鉄の道・Iron Road』の存在が実感として結びついた。

雪が消え、暖かい花の季節には、是非 この岩木山北麓に広がる古代製鉄の地を訪ねたい。

岩木山北麓に広がる古代製鉄遺跡群と鬼伝説

## 6.1. 鬼伝説と古代製鉄



岩木山から岩木山北麓にかけての一帯では、多くの鬼伝説が伝承されており、同時に古代の大製鉄遺跡群や鉄滓が数多く発見されている。鬼伝説と古代製鉄遺跡との関わり合いは日本各地で見られ、鬼伝説の有る所 かならずや古代製鉄と何らかのつながりがあったことが、製鉄遺跡や鉄滓の発掘や地名等から判って来た。吉備の桃太郎伝説 丹後の大山山鬼伝説 伯耆の国大山山麓溝口の鬼伝説 北上山地一帯の鬼伝説 そして津軽岩木山北麓の鬼伝説などいずれも古代製鉄の技術を持って渡来した産鉄の民との関わりが深い。

この伝説に登場する「鬼」とはいったい誰か？  
製鉄の民が真っ赤な顔をして、髪を振り乱しながら鉄を打っている様子が鬼と映ったのかもしれない。製鉄には鉄を精錬するための炉の場所として、風が吹きあがる谷間や山すそが必須であり、大量の炭の必要から森林の伐採が必要で、製鉄炉が築かれると山が丸裸になってしまう。鉄生産に付随した森林の大量伐採と 砂鉄・鉄鉱石採取のための山を切り崩しと川流し等による山の荒廃により起こる自然災害により、農耕の民との争いもたえなかつたと想像される。山深く入った産鉄の民は山と里人との争いを通して 山の民=「鬼」 悪者として描かれるこ

とが多い。しかし、時には里に下りてきたこの産鉄の民が開墾を促進し「開拓の祖」と善者にもなった。これらが鬼伝説として、また 地名として今に伝えられている。  
一昨年 大ヒットした映画「もののけ姫」の記憶は新しい。

また、各地に残る大男「ダイダラボッチ・ダイダラ坊」の伝説や「河童」伝説も産鉄の民・渡来人との関わりがあるとの説があるが、よく判らない。

## 6.2. 岩木山北麓 鬼沢「鬼神社」と「鬼伝説」弘前市 鬼沢



鬼神社 社殿 多数の農耕具献額を掲げた鬼神社正面 農耕具の献額

弘前市から岩木山を左手に見ながら御ヶ沢町に向かう県道を行くと「鬼沢」という地名が見えてきます。この集落には、「鬼神社」があり、鬼が御神体として祀られ、農業の守護神として地域の人々の信仰を集めています。この地の鬼神社には、『山から下りてきた鬼が、一夜にして荒地に一大水路を作り上げ、農耕の民の開墾を助けた』との鬼伝説が伝わっています。2月の節分、この地域の人たちは今も「鬼は内、福は内」と言い、鬼を悪者ではなく、自分達の守護神として祭っている。

鬼神社のご神体は鉄滓を数個積上げたもので、古くから石の仏様として大事に祭られてきたという。また、神社拝殿正面の頭上には奉納額が並んでいるが、それら全部が全部、農耕具だというのが非常に珍しい。

このように鬼神社はこの地が古くからの製鉄地帯である事を含め、鉄との関わりが非常に深く、これがまた、『鬼伝説』とも結びついている。

岩木山にいた沢山の鬼たちが山麓に流れ出る赤倉川の流域に移り住み、この鬼沢の鬼もこの赤沢の鬼が下りてきたといわれている。岩木山から赤倉へ下って行く途中には 今も「鬼の土俵」などの地名が残っている。

赤倉の山にいた製鉄の民が真っ赤な顔をして、髪を振り乱しながら鉄を打ち、農具を作っている様子が、村人には鬼と映ったのかもしれない。

### 津軽 岩木山麓 鬼沢に伝わる「鬼伝説」

青森県 弘前市 鬼沢

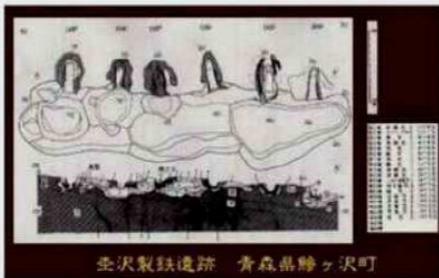
昔々このあたりはやせた荒地で、作物の実りはきわめて悪かった。そこへ、岩木山の赤倉から下りてきたという鬼が現れ、せつせとこの荒地を耕し始めた。村人達は、これを見て、ただの鬼ではないと思い、開墾の困難と農業用水の必要を鬼に訴えた。すると鬼は、それでは力を貸そうと言ったきり、姿を消してしまった。翌朝になって村人たちが行ってみると荒地には、一筋の水の流れが勢いよくほとばしっているではないか。村人たちは、さっそくその水を田に引き、以後、その水は干ばつの時も決して枯れることはなかったという。村人たちは、非常に喜んで、鬼に感謝するため、神社を建立して「鬼神社」と名づけ、村の名前も「鬼沢」としたという

## 6.3. 空沢製鉄遺跡群 御ヶ沢町湯舟 と「鬼伝説」



青森県御ヶ沢町から南に広がる岩木山北麓の一帯は鬼伝説を持つ古代から続く一大製鉄地帯の中に、御ヶ沢湯舟で発見された空沢製鉄遺跡がある。

数基単位で整然と並んだ製鉄炉跡 134 基とともに鉄滓・羽口や炭塊がまなどが発見された。



空沢製鉄遺跡 青森県御ヶ沢町

【青森県御ヶ沢町 教育委員会 資料より】

傾斜地の斜面に長さ 1m 前後 幅 50cm 弱 高さ 30cm 程度の製鉄炉が数基づつ整然と並び、その前にそれらの前底部には共用される炭滓ピットと作業場がある。

このような一連の製鉄炉をもつ製鉄場が 9 群 total 30 数基の製鉄炉などが発掘されている。大半が、10 世紀平安時代の製鉄炉遺跡であるが、このような小型の製鉄炉が整然と並び製鉄場を基本とする製鉄遺跡は、同時代日本中央に見られる製鉄遺跡にはない独自の形式を有する遺跡である。

また この一帯は縄文時代から続く製鉄地帯であり、数々の縄文遺跡もあり、本遺跡も古い製鉄遺跡の上に築かれていることから、この地での製鉄はもっと時代を遡れるといわれている。

このように独自の形式を持つ製鉄遺跡が発見されたことからこの地が古くからの津軽蝦夷の王国を支えた一大製鉄地帯と考えられる。

### 湯舟の鬼神太夫伝説 御ヶ沢町



湯舟 中央の杉木立の上にお宮がある

湯舟 湯舟神社

昔 鬼神太夫(鬼)と呼ぶ剛力の刀鍛冶がいました。桂山の刀鍛冶長者の娘を愛して、娘をくれるようにと申し込んだ。困った長者は一策を案じ、一晩の内に拾穂(本)の刀を鍛えたら娘をやると約束した。すると、鬼神太夫は一晩の内に、全部刀を鍛えて持ってきたが、長者が一本盗んで鳴沢川に捨ててしまった。それで、鬼神太夫は刀が一本足りず、娘を買えずあきらめて、「十種無い十種無い」とつぶやきながら、さびしく去っていった。それで、それ以後この地を「十種無い」がなまって「十種内」というようになった。その後、鬼長者の妹嫁と結婚した鬼神太夫の弟が、ある日のこと鍛冶場の片隅に残っていた玉鋼を見つけ、刀鍛冶の兄が打ったものであると打ち明け、その玉鋼を氏神として八幡様に祭った。

長者が亡くなる時姉嫁には形見として湯舟(鉄を冷やす水を入れた船)をやり、分家させた。また、妹嫁には金敷(鉄を打つ台)をくれた。それが湯舟村 金敷村の起こりとなった。

また、長者が刀を捨てた刀が浮いた所を「浮太刀」と言うようになった。今の「浮田」である。

なお、鬼神太夫の打った刀の一本が今も岩木山 巖鬼神社に祭られているという。

「ふるさと あじがさわ」より

### 空沢製鉄遺跡の特徴

中央の赤い部分が「高い産力」を示す

空沢製鉄遺跡は、青森県空沢町に位置する。この遺跡は、中世の製鉄技術の発展を示す重要な遺跡である。特に、この遺跡からは、当時の製鉄技術の高度さを示す多くの遺物が出土している。また、この遺跡からは、当時の製鉄技術の発展を示す多くの遺物が出土している。また、この遺跡からは、当時の製鉄技術の発展を示す多くの遺物が出土している。

空沢製鉄遺跡は、青森県空沢町に位置する。この遺跡は、中世の製鉄技術の発展を示す重要な遺跡である。特に、この遺跡からは、当時の製鉄技術の高度さを示す多くの遺物が出土している。また、この遺跡からは、当時の製鉄技術の発展を示す多くの遺物が出土している。また、この遺跡からは、当時の製鉄技術の発展を示す多くの遺物が出土している。

空沢遺跡 製鉄炉跡調査報告 青森県 空沢町 教育委員会送付資料  
 空沢遺跡 鬼伝説資料 青森県 空沢町 教育委員会送付資料  
 『謎解き日本古代史の歩き方』 彩流社  
 柴田弘武著 「鉄と倭人の古代史」 彩流社

### 6.4. 中世 津軽安東氏の拠点 十三湊

一活発な国内各地・大阪との交易 & 鉄の積出し  
 jyusanprint.htm by M.Nakanishi 2000. 2. 22.

十三湊は十三湖と日本海にはさまれた砂州上に発達した港町。鎌倉時代には既に港町が存在し、室町時代には安東氏の居所としても大いに栄えた。「津軽船」と呼ばれる船便で中央と結ばれる一方、当時の最北端の港として、北の世界とつながるターミナルとしての役割をはたし、中国との交易をはじめ、国内外の物産がこの地に集まった。輸入陶器や安東氏の館跡や町屋などが発掘されている。縄文時代の一大文化圏として脚光を浴びた津軽がその後大和朝廷の支配



配下に入ったものの遠く未開の土地として、歴史の世界からは消えてしまう。大和朝廷の影響の及ばない中で、独立の勢力として文化を育ててきたとおもわれる。そして、中世 安東氏の日本海交易による繁栄により、世界の物産が集まる大交易港湊町として脚光を浴びた。またこの時代 鉄の積み出し港としても栄え、津軽岩木山周辺の古代製鉄の流れが連続と引き継がれ、この時代においても 津軽が製鉄の大基地であり、安東氏の勢力もこの鉄の生産によるとも言われている。私が昨年の秋、再度 十三湊を訪れたときには、台風の嵐の中。荒れ狂う日本海に抗して砂州がひろがり、その内海・十三湖 十三湊では数多くの船が嵐のおさまるのを待っていた。天然の良港である。日本海の荒波と風が吹きすさぶ北の端にあって、十三湊の繁栄の理由が判ったような気がした。もっとも、十三湊はその後の大地震と日本海が吹き寄せ体積する砂によって 浅くなり また放棄され、現在ではひっそりとした津軽の一漁 港となっている。本年1月 千葉県松戸市の博物館で催された『日本列島発掘'99』展で昨年 発掘調査された十三湊旧跡から出土した数々の物産を見た。中国の磁器はじめ、日本各地の品物が広くこの北の端の十三湊に集められ、また各地に散って行く。出土品の多用さと豪華さから、当時の十三湊の繁栄振りがよく判かる。



「発掘された日本列島展」より 松戸博物館  
 6. 古代津軽 北の鉄の大王国【1】  
 岩木山北山麓の製鉄遺跡群と鬼伝説  
 【完】

### 7. 『秋田・青森 縄文のストーンサークル』探訪

一縄文人の心を考える これも iron road - Iron Road 01 2000  
 oyuOprint.htm 2000.11.1. by M.Nakanishi



|                       |                  |                   |                   |
|-----------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 秋田県 鹿角市<br>大湯ストーンサークル | 青森県 青森市<br>小牧野遺跡 | 青森県 青森市<br>山内丸山遺跡 | 秋田県 鹿角市<br>伊勢堂岱遺跡 |
|-----------------------|------------------|-------------------|-------------------|

### 【内容】

1. 縄文の心を考える これも「Iron Road」
2. 縄文のストーンサークル
  - a. 「大湯 縄文石の群 群中堂遺跡」探訪
  - b. 青森市「小牧野遺跡」探訪
  - c. 「山内丸山遺跡のストーンサークル」探訪
  - d. 「伊勢堂岱遺跡のストーンサークル」探訪
3. 「縄文人の心映すストーンサークル」
4. 岩木山北山麓 鬼伝説の場から 縄文人へ

### 7.1. 縄文のストーンサークル これも Iron Road

この夏 東北芸術工科大 赤坂憲雄教授の講演「縄文人の心映すストーンサークル」の語に感激。是非その現場に立ちたいと8月「秋田大湯の縄文のストーンサークル」を訪ねたのについて、9月の山内丸山遺跡お月見の会訪問を機会に秋田鹿角の伊勢堂岱遺跡・青森小牧野遺跡そして一番古い山内丸山遺跡のストーンサークルも見てきました。静かな森の中、縄文人の心に触れたいと誰もいない遺跡の中にどっぷり浸かって撮りました。



津軽・秋田の鬼は「産鉄の民」。「津軽の赤鬼」「ねぶた」を象徴する「赤」も縄文から繋がる「赤」のながれでは……。何の根拠もないが、心情的に東北に惹き付けられ、せつせと東北がよい。山内丸山のあの墳を赤に塗ってイメージしている人達も知りました。発想が縄文を引出してくるのでは……。弥生人が鉄を手にして なんて考えなくても あの縄文のストーンサークルを絆として、平和に暮らしていた人達が或日 鉄を手に入れて……。そこから 時代が激動の世に変化して…そして人間観も変わってきて……。『ストーンサークルが縄文人の心・人間観を映すのなら 鉄が弥生のそしてその後の日本人の人間観を強引に変えて行ったか……。これも時代を介して流れる日本の「Iron Road」。青森から秋田に広がるストーンサークル・縄文とその後の弥生・産鉄の民道跡その重なりが日本人の精神構造・多様性の源泉は……。『たたら民』を描いた映画「ものけ姫」の舞台 白神山が日本海に落ち込む五能線の荒々しい海岸を眺めながらそんな事を考えていました。



五能線 秋田・青森県境海岸 世界遺産 白神山  
 一 五能線の中から 秋田・青森県境の荒々しい海岸を眺めつつ  
 2000. 9. 17. 夕 by M.Nakanishi

7.2. 縄文のストーンサークル walking

A. 『秋田県立博物館 大湯 縄文のストーンサークル探訪記』

『野中堂遺跡』と『万座遺跡』



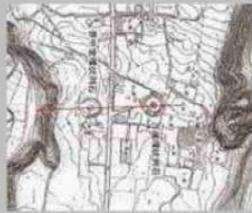
縄文のストーンサークル walking 秋田・大湯環状列石群

2000.8.4. by M.Nakanishi

7月の初め、東京で「東北学」を提唱する山形芸術工科大学の赤坂憲雄教授の講演の言葉に深く感銘を受け、是非とも、大湯縄文のストーンサークルの場に立ちたいというのが、今回の walking 目的の一つだった。

「東北を理解するには縄文のストーンサークルに立たねば…」とちょうど「津軽ねぶた」にも抱いていた一種あこがれにも似た気持ちで、まぶしい太陽が降り注ぐ夏の午後、秋田県鹿角「大湯環状列石群ストーンサークル」を訪れた。

2000.8.4.



「縄文」を知らぬ縄文人、「縄文」の「縄文」人のメッセージ。

「縄文人の心を映すストーンサークル」縄文人の意識・人間観が縄文の村の形態を生み、この「縄文のストーンサークル」を作った。

「日本人のやさしさの使節がここにあるのではな、いづらうか…」また「東北の風土がこれに起点にしているのではな、いづらうか…」

2000.7.7. 赤坂憲雄氏 山内丸山縄文発信の会 東京・縄文塾講師から

広い草原の中、北へ八甲田の峰に向かって真っ直ぐ伸びる一本道を挟んで、両側に整備された万座・野中堂の縄文遺跡がある。写真で見られた日時計状列石と二重の環状列石が配された野中堂遺跡がすぐ傍にあった。道を進んで、反対側は広い草原であり、その中には沢山の石が環状に配された大きなストーンサークルがある。

このストーンサークルの向こうに覆元された幾層かの住居が見え、ストーンサークルを中心に広い耕地 公園として、整備されている。また、道を隔てて存在する野中堂遺跡では、ストーンサークルの周辺部の発掘調査が進行中であり、堅穴住居跡の存在が期待されているが、まだはっきりしない。この野中堂遺跡と万座遺跡のストーンサークルの中心やストーンサークルのシンボル日時計状列石はほぼ一直線に並んでおり、この直線上の先に夏至の太陽が沈むという。早速野中堂遺跡の日時計状列石の後ろにまわって、両遺跡が一直線に並ぶ位置に立って見る。夏至ではない今の時期では太陽の位置と両遺跡が並ぶ位置とは随分離れているようだ。しかし、縄文人が太陽の運行をさっぱり知っていたというのは事実らしく、現代と縄文時代の地軸の傾きの補正等を入れるとほぼこの仮説は正しいという。



どちらのストーンサークルも内帯・外帯二つの円環状の列石があり、この帯の間にストーンサークルのシンボルと言われる一組の日時計状列石が向空に向かってそそり立っている。また、ストーンサークルの環状に積まれた列石は、平面で見ると型と並べられているようにみえるが、どちらの遺跡もきっちりとした石垣を有し、この石垣の下からは墓が発掘され、西北西を向いて整然と埋葬されているという。これらストーンサークルの外側には四本柱の建物として堅穴式住居が取り囲んで整然と建てられたという。縄文人達は米代川の河原から大量の石をこの丘に運び上げ、この集落の中心にストーンサークルを作り、集落の村人が死ぬとこのストーンサークルで石組みの墓を作り、早い祭りを行なったに違いない。おそらく村中総出であったろう。

「死者と共に暮らす生活意識」これが、縄文人の特徴ある人間観といわれる。この草原の一角にすわり、かつて在った縄文の村と暮らすイメージする。このストーンサークルは何をイメージし、何を今に語りかけているのか? 色々な事が頭によぎるが、よく判らない。遠く山に囲まれた森のなかで、ストーンサークルを中心に自然と調和して、穏やかに暮らす森・集落があった。それが日本人のルーツ。

1. 五所澤から鹿角花輪駅へ

列車は奥羽山脈山脈の中に分け入り、約1時間で大館につく。「大館で花輪線に乗り換え十和田南へ」と考えていたが、都合の良い列車無し。特急が留まる駅とはいえ、駅前には本当に閑散としている。時計が止まって一切がストップしているような何とも不気味な感じ。

大館といえば、「秋田まげわっぱ」の中心都市と考えていた私は本当に戸惑った。後で分かったが、街の中心は駅から南へ川を渡った新市街地に移っている。国鉄の駅ではなく郊外や駅ではないショッピングモールなどを中心に展開する新市街地に今の日本の都市の輪郭を見る。それが、本当に地方へ行くほどはっきりしている。駅から500mほど先にバスセンターを見つけ、そこからバスで鹿角花輪駅へ行く事にした。それでも約1時間待たねばならない。



【鹿角花輪盆地と米代川 ストーンサークルにはこの川の上流側支流の河原石が使われた】

2. 大館から鹿角花輪駅へ

バスは米代川沿いに奥羽山脈の中に分け入って行く。交通の便から言うと本当に山奥である。南側は八幡平の山々、北側は十和田湖や八甲田の山々に挟まれた花輪盆地の中心に鹿角市がある。そして、この盆地の中、花輪線十和田南駅や鹿角花輪駅から十和田湖へ上って行く途中の高原に大湯ストーンサークルがある。

米代川は大河である。奥羽山脈の中に曲がりなりながら川と並行してバスは進む。あちこちでアユ漁をしている多くの人達の姿が、まわりの山々の景色とあいまって美しい。自然が主役。そんな中で、どんぱスが入って行く。最も鹿角市 JR 花輪駅近郊は八幡平や八甲田・十和田などの中心基地として大きな新市街が展開されていた。

恐らく新しいスタイルの観光都市に見えた。

花輪駅からタクシーで約15分。市街地を抜け、八甲田の山々へ向かって幾つもの丘陵地を登った高原が「大湯ストーンサークル」であった。午後3時。雲があるが、真夏の太陽が西の空に輝いていた。

縄文のストーンサークル

3. 『大湯 3遺跡(大湯環状列石群・野中堂遺跡・万座遺跡)』

0905.htm



【中堂遺跡】

【万座遺跡】

4. 縄文のストーンサークルの発想地立って



ストーンサークルは何を示しているのか考えるのは勝手。実際に気分爽快な午後になりました。このストーンサークルの前に座り、まわりを眺めているこの気分が日本人 気質の第一歩。なにか日頃の喧嘩から逃れた気分がそうさせるのか実に気持ちが良い。墓場に在るといって暗い印象を想像するが、全くそんな気持ちも無し。山々に囲まれた草原の上で自然を満喫。ついでながら、また、この草原で一人の若者に会いました。が、「神戸から来た」と……

神戸から遠くはなれたこの鹿角の地に

グルッと見まわしても10人の人影も見えぬこの奥羽山脈の奥、神戸の2人が入る。全くの偶然であるが、人の動きとは面白い物である。また、逆にこのストーンサークルには人を惹きつける何かがあると観じた次第。

一度ここに1日座っていて、訪れる人達のに「何を求めて 何処から」と尋ねて見たら面白いと思う。日本人の奥にある何かが見えてくるかもしれない。

「死者と共に暮らす」との生活感覚は本来キリスト教など一神教にある感覚といわれる。多神教ではあまりない感覚といわれる。仏教・神教「ヤマトノミコ」の日本の底にまた別の感覚がある。まさに日本そのものの多霊性。そんな中にある「ねぶた」そしてこの「ストーンサークル」また「いたこの口寄せ」とい、何か日本人の等線にふれるところが東北にはある。

精神的な日本人の気質形成の端に古くストーンサークルが一役買、複雑く今に生きていて考えた。歴史民俗博物館の辻親一氏のいう「日本の多様な種生がそこに住む日本人の多様な気質を育んだ」とすれば、その生活の場としてのストーンサークルが「縄文の生活を通して日本人のやさしさの気質を育てた」のではないだろうか??

大河米代川を遡り、奥羽山脈の奥深く、白神・八甲田・八幡平の山々に囲まれた花輪盆地の高原の草地にすわりこんで、ぼんやりと一人暮れ行く自然の風景を眺めていると縄文の時代にタイムスリップして、ゆつたりとした気楽な気分になる。

何を考えるでなく、約30分、万座遺跡の広大な草原にすわってストレス解消の精神浴でした。



この遺跡の草原では今、当時の樹木が沢山植えられ、縄文の森が育てられている。23年先さらに10年近くを必要とするかも知れないが、くり林など深い森に囲まれて、ストーンサークルを中心に復元された堅穴住居が立ち並ぶ縄文の村が静かに待っているかもしれない。

残念ながら、雲が出て、夕日の沈むのをみる事が出来なかったが、暮色が深くなって大湯のストーンサークルから、バスで鹿角花輪駅へ。そして、高速バスで盛岡へ。

気分爽快。初めて見た「山々をバックに立つ日時計状の列石と環状列石群」さらには「津軽岩木山麓

の原生林の鬼とネブタが「静」と「動」として頭の中で駆け巡っている。  
奥羽山脈の奥地から流れ出した大河米代川沿いの流域・大澤にも、時代が下ってくると弥生の人が住み、そして「たたら 鉄」の遺跡があるという。  
「人が人を呼ぶのか 川が人をゆぶのか 山川あるところ人有り」「IRON ROAD」がここにも通っていました。

2000. 8. 4. 盛岡からの新幹線の中で by M.Nakanishi

# 1.「青森市 小牧野遺跡」縄文のストーンサークル walking



小牧野遺跡近傍

小牧野遺跡の位置

小牧野遺跡入口の道標

9月16日 早朝 タクシーで小牧野遺跡を訪ねた。

街の人に聞くと「あそこはバスもなく、車でないと行けぬ」と言われたが、後から考えると丘の下まではバスが走っている。【もっとも 2時間に1本程度で便利の悪いことには変わりなし。】

青森の市街から八甲田に向かって タクシーで約30分。青森空港のある丘陵と一つ西側の丘陵で、もう青森の市街から外れ、南へ八甲田の麓へ向う山裾の丘陵地に小牧野遺跡は存在する。

荒川と入内川に挟まれた丘陵地で、背後に大きな八甲田の山々が見える。野沢の小さな集落で、酸湯へ向う幹道を離れて、人里をから林の中の丘陵へと続く一本道を登り、丘陵へあがったところ一面の畑が続く中に小牧野遺跡への標識があり、その向こうに小牧野遺跡の森が見えた。

早朝朝7時すぎの朝露の中を一人誰もいない小牧野遺跡の中に足を踏み入れると、山内丸山遺跡の人の列が嘘のように静まり返った森の中に凄じい量の石組で作られたストーンサークルが眼に入ってきた。

大澤や伊勢堂岱遺跡のストーンサークルが平板状にストーンサークルが形成されているのに対し、周辺の樹木に包まれて、その特徴ある石組みが少し傾斜をつけて土地を掘り込み、立体的に立て掛けた状態で円環が続いている。



国史跡小牧野遺跡の石碑 日時計状列石 二重の円環の石組 小牧野式石組

円環の右の方には日時計状列石【山内丸山の岡田康博先生「はひまわり状」という】が本ストーンサークルの象徴として立っている。ストーンサークルの日時計状列石の右側の周辺部には林になり、丘陵地の崖となって下へおちこんでいるのであるが、この林の中に多数の土坑墓が発掘されていた。

朝露につつまれ、このストーンサークルの中心にひとり立っている朝露がその霧となって「これから始まる一大古代激」を機数で待ちうけている感じがしてならなかった。

恐らく 古代には、幾つも並ぶこの丘陵地の何処かで、まだ見つかっていない集落の人達が、八甲田の山を背にこの小牧野のストーンサークルを毎日眺め、葬祭の時には 幾つもの兄弟の村の人達が一同にこのストーンサークルにあつまり、弔い、お互いの絆を確かめあつたに違いない。環境の変化で大きな集落が維持できなくなり、分村する時にこのストーンサークルが現われてくると言われている。

「このストーンサークルの各位置が元の村の円環の集落の居住位置を現わしているとしたら、

このストーンサークルに自分の定席があり、それが天空・宇宙においても定席があるとしたら。」自然発生的に円環にこだわった縄文人がそこに自分達のステイタスを見出して行ったのではないだろうか……

だとしたら あの小牧野式と呼ばれる列石の配列もそれぞれ個性があるはず……

## 縄文のストーンサークル walking B. 「青森市 小牧野遺跡」探訪

kmkinoprint.htm 2000. 10. 1. by M.Nakanishi



【青森市 小牧野遺跡 縄文のストーンサークル】

- 1.「青森市 小牧野遺跡」縄文のストーンサークル
- 2.「青森 小牧野遺跡」解説小牧野遺跡紹介文より 青森市教育委員会資料抜粋



【青森市 小牧野遺跡 その概要】



もうここまでくれば妄想かも。

野球や映画の開始前の期待に満ちたあの想像・あのイメージのふくらみ……

「霧がはれ、もう幕があくかな……」とゆったりとした落ち着いた気分の早朝 walk でした



ストーンサークル 朝露のストーンサークルを背に 日時計状列石

縄文のストーンサークルは墓場と関係しているが、全く暗さなし。

現代の都市にある公園墓地がそれまでの寺などに隣接した暗い墓場のイメージを払拭しつつあるのも広く考えれば現代のストーンサークルか?

昨日見た山内丸山遺跡の林の中のストーンサークル形成の原型なども重ねイメージをふくらませながら、林の中の丘陵地を野沢の集落までゆくり下り、バスで青森へ。

2000. 9. 16. 早朝 青森 小牧野遺跡で M. Nakanishi

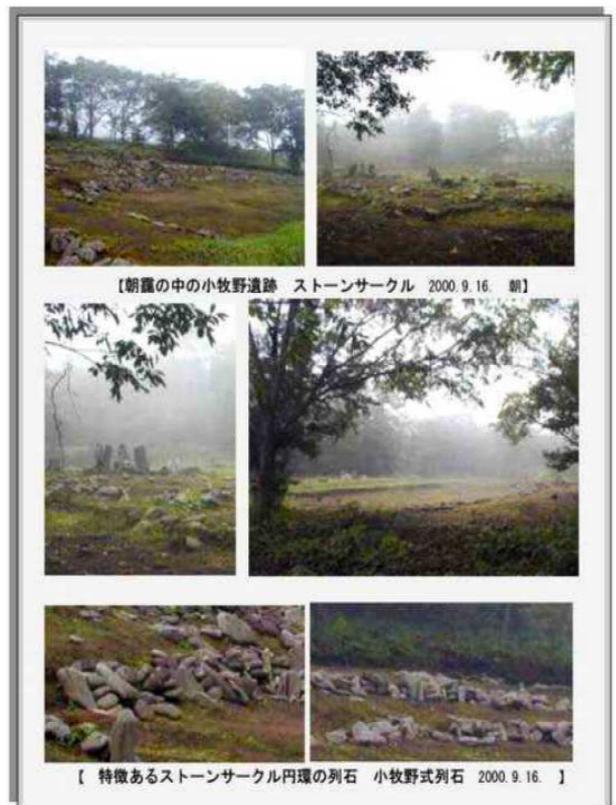
### 資料

#### 青森市 小牧野遺跡 — 青森市教育委員会資料より抜粋 —

aokmkinoprint.htm by M.Nakanishi 2000.10.1.



小牧野遺跡は青森市野沢字小牧野に所在し、今から約4,000年前の縄文時代後期前半に作られた環状列石を主体とする遺跡で1995年には国史跡指定を受けている。  
勸定列石は、こぶし大から50?60cm位の大きさの河原石を用いて作られた直径3mの中央帯、29mの内帯、35mの外帯の3つの輪からできています。  
内帯と外帯は細長い石を縦に、その両側に平らな石を3?6個積み重ね、これを繰り返すことによって形作られており、その石の総数は2,000個にもなります。  
この配列は「小牧野式」と呼ばれる特徴を持っており、これらの石組み配列の下には墓がなく、ストーンサークルの石組みの下に墓がある大澤のストーンサークルとは異なっています。



【朝露の中の小牧野遺跡 ストーンサークル 2000.9.16. 朝】

【特徴あるストーンサークル円環の列石 小牧野式列石 2000.9.16. 朝】

調査は今もつづいていますが、これまでの調査によると、周辺部には環状列石を形成してきたと考える集落の存在はもとより、列石構築期の 窪穴式住居跡の存在も確認されていません。また、環状列石の周辺からは、土坑基群(墓域×食料貯蔵用の土坑群(貯蔵施設)、遺物の捨 場)が検出されています。[周辺の貯蔵施設は、列石を作っている期間やそこを使用、管理する期間に必要な食料貯蔵施設であり、捨て場はその時に廃棄されたゴミ処分場であったと推測されている]

これらの事やから折簡や祝詞に使用されたと思われる遺物も多く出土していることから、環状列石は、墓の機能も含めた「葬祭の場」あるいは「神聖な場」と考えられています。

このストーンサークルは傾斜した台地を造成して平場を作り出した後に作られています。どのようにしてこの土木工事が行われていたのかも興味深いところです。

また、この遺跡からは朱塗りの土器や土偶なども発見されています。このストーンサークルの謎を追って小牧野遺跡では現在でも調査が続けられています。



青森市では、今後この小牧野遺跡を、発掘調査の成果をもとに、縄文人の世界観を視覚的に理解できるような遺構や縄文時代の植生等を考慮した環境などを復元し、当時の歴史や自然の一端を肌で体験できるような「史跡公園」の整備を目指しています

### 1. 三内丸山遺跡岡田康博先生の見学会

山内丸山の集落から東に伸びる「縄文の道」が既に発掘調査され、その道の両側には土坑墓が並び縄文の「墓の道」である事が明らかになっている。

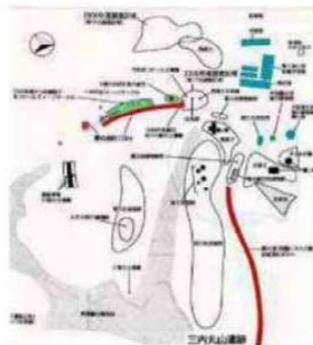
この「縄文の道」とは別に山内丸山の集落の中心部から南へ伸びるもう一本の縄文の道が最近発見されている。

この道も「墓の道」でその周辺からは土坑墓が多数発見されると共に、伊勢堂岱遺跡や小牧野遺跡等に見られる縄文のストーンサークルの原型というべき環状配石墓が幾つも発見された。今回の山内丸山遺跡訪問の目的は、昨年に続いて山内丸山遺跡の中で「縄文の見聞の宴」に参加することと縄文のストーンサークルの原型となった山内丸山遺跡の「ストーンサークル」を見学すること。

9.15.午後 この山内丸山遺跡の岡田康博氏の案内で2000年に新たに調査されているところとその中心にあるストーンサークルのある「縄文の道」を案内してもらった。発掘者である岡田先生に直接発掘の様子と共に縄文の人達の生活・墓場のイメージなどを直接聞けたのは本当にラッキーでした。

2000年の西盛土の発掘調査区域で住居跡の調査が進められたが、その住居跡のすぐ南側から多数の土坑墓が密集して見つかった。そのすぐ横のところから南へ縄文の道が伸びている。また、この道の入口に近いところで日時計状の組石が3基見つかり、更に今は盛り配の林の中に横この「縄文の道」に入って行くとストーンサークルが幾つも見つかった。そして更に遺跡の端でこの道は続いている。

集落から東西に伸びる道と同様性格的には「墓の道」である。この道のところで縄文のこの道の断面が作られた。



東西に伸びる「墓の道」とストーンサークル



山内丸山遺跡と「墓の道」の位置

集落から墓場を南北に伸びる黄色色の「縄文の道」が貫いている。その道の入口の所には幾つもの土坑墓・板間の墓に囲まれて日時計状の

組石があり、この墓の道を整って行くと木立の中に山内丸山遺跡のストーンサークルがひっそりありました。

### 縄文のストーンサークルの原型 C. 山内丸山遺跡の「ストーンサークル」の原形を探る

snrnaiprint.htm 2000.10.15, by M.Nakanishi



1. 岡田康博先生の見学会
2. 岡田康博先生の見学会
3. 「日時計状配石」
4. 「墓の道」ストーンサークル
4. 「墓の道」

縄文中期の巨大縄文遺跡 青森市「山内丸山縄文遺跡」。その発見は今までの日本の縄文観を変えようとしています。縄文人の心・人間観を映すとされる「縄文のストーンサークル」。山内丸山遺跡にもその原型といわれる「ストーンサークル 環状配石墓」があり、岡田康博先生の案内で見学することが出来ました。10.15.午後山内丸山遺跡にて



岡田氏は縄で区切られた中の青いカバーのかけられた発掘部にみんなを招き入れ、「ひよい」とカバーを開けて、本当にまじかまで発掘された部分を丁寧に発掘の意味をはなしてもらった。黄土色した縄文の地層と黒のそれ以後の地層の分つた違いを かぎわけ、立体的形を掘り起こし、縄文の遺物を浮かび上がらせて行く。縄の外からは見えない「土器のかけら」土の色の違いで見分ける「土坑墓の穴」など見過ごしてしまうところが足元にある。こんな真近で次々と発掘の中を自由に見学・解説してもらったことはなかった。

つい先だって、ある遺跡で「縄の中にはいるな」「外からでも、写真とるなら事前に教育委員会で許可もらってこい」と本当に「遺跡はだれのもの・・」と疑いたくなる経験した後だったので、この岡田先生の見学会にはビックリ。山内丸山遺跡に繋がる人達 本当は皆さんえらい学者さんなのでしようが、同時に一般の人の考えも貪欲に吸収し、新しい視点で考えるといった姿勢 山内丸山遺跡研究者の気風と聞きましたが、岡田先生はそんな気風を作ってくれた中心人物。市民参加型のイベントが次々行なわれている遺跡・「遺跡から月見をして縄文を考えよう」などちょっと遺跡に繋がる学者の発想とは違う良さ。それが山内丸山遺跡にはあり、一般人である私など、訪れるたびに、親しみの中に、新しい発見とエネルギーを得られる原因。ちょっと感傷的に「縄文のストーンサークル」を捉えていた私でしたが、今回の見学会で岡田先生からストーンサークルを眼前にして縄文の中味の中味を間近で解説してもらったことで、新しい視点がよくにも出来ました。ほんとにラッキーでした。

市民や一般の人でも参加できるこの山内丸山遺跡にその中心となる「縄文研究のナショナルセンター」が早くでき、新しい発想の中で、新しい縄文感がきずきあげられることを強く期待しています。

2000.9.15. 中西 隆夫

### 2. 「日時計状配石」 (ひまわり状配石)

snrnaip2print.htm



日時計状配石

真中の棒状の石がサークルの中心に立っていたと推定されている。



西盛土の端 住居跡・土坑墓等発掘現場

(左端に青いシートがかけられているあたりが日時計状配石が見つかったあたり)

西盛土の末端の西側に広がる住居跡の発掘調査が推進されているがその地域から多数の土坑墓がみつかった。兆度南側に広がる丘の裾のあたりである。当初 このあたりも住居跡が発掘されるとかかんがえられていたが、思いもかけず、多数の土坑墓や板囲いの墓が発見され、ここを通過して南北に伸びる「墓の道」が南の丘に向かって斜面をのぼっていく。この登り口のところに日時計状石組が発見された。兆度山内丸山遺跡の集落から墓場に入る入り口あたりである。



岡田先生はこの配石を「日時計状配石」とは呼ばず、「ひまわり状配石」と呼ぶ。言われて見ると其の方が近いとも思える。真中に少し他より大きな細長い石が見えるが、配石の真中に立っていたものと思われる。ここでは3基の日時計状配石が見つり、山内丸山遺跡の勢力が最も強かった。縄文中期 5000 年 4500 年前のもの。この山内丸山遺跡の時代に続く縄文後期には大溝や伊勢堂岱遺跡・小牧野遺跡にみられるような大きなストーンサークルがあらわれ、ストーンサークルにアクセントを添えるがごとく、この日時計状配石が円環の傍に一基立っている。

山内丸山遺跡のような巨大な縄文集落が形成された縄文後期に続く時代に、これら巨大集落は小さな集落へと分散して行く。この過程で集落とは別のところに巨大なストーンサークルがこの「日時計状配石」を伴って現われてくる。

山内丸山遺跡では、この日時計状配石の周辺にはストーンサークルではなく、多数の土坑墓があり、この墓場並びに墓場を南に貫く「墓の道」のモニュメントのごとくこの日時計状配石が建っている。もっとも この配石から「墓の道」を南に登って行ったところで、規模は小さいが7基の円環状配石「ストーンサークル」が道の片側に並んで発見されている。縄文のストーンサークルに必須の日時計状配石と環状列石とが、ここで揃って出てきている。この「ひまわり状配石」近傍の「墓の道」の両側には道路に直角に道を西にした多数の墓が並んでいるという。



日時計状配石

西北西は死者と関係する方向？ 沈む太陽に向かって並んで居るのか？ また、この南北の墓の道と太陽や周りの山々との関係は????この南北の道は「岩木山」が眺められる方向でもある。

岡田先生の話によれば、「このストーンサークルは一機につくられたのではないだろう。人がなくなるとここに墓をつくり、石を回りに配す。また次に次々と墓が作られるに従って石が運ばれ、長い時間を経過してこの環状に配石が作られた。時には古い墓の石を並べかえることもやられたに違いない」と。山内丸山の人たちは、まだ、このストーンサークルその物には意識しておらず、墓場の墓の配列としか認識していなかったと思う。人を葬るその時々円環の一部のところに墓をほり、石を積む。長い時を経て、円環が作られていった。恐らく山内丸山遺跡の人々にとっては、円環に次々人を葬って墓を作って行くことは意識していたとしても、円環そのものには意味を見出していなかったのでは？ これで納得。山内丸山遺跡のような巨大な縄文集落が形成された縄文後期に続く次の時代には、これら巨大集落は小さな集落へと分散して行き、この過程で集落とは別のところに巨大なストーンサークルが「日時計状配石」を伴って現われてくる。「縄文のストーンサークル」として知られる巨大な環状列石を有する小牧野遺跡・伊勢堂岱遺跡や大溝のストーンサークルなどである。環状の列石の下には墓穴がない場合もあり、環状列石その物が純粋に墓穴の組石とは考えられない。つまり 円環そのものに意味があると考えられる。もっとも これらストーンサークルの内部や一部周辺から墓穴や壙棺が発掘され、共同墓場としての機能も有している。

「この縄文のストーンサークル 環状列石は何を意味するのか？」は今も謎ではあるが、次のように考えられている。「かつて同じ祖先を持ち、同じ集落に住んだ人達が、小さな集落に分散して行く過程で、巨大集落の墓場にあった共同墓地「環状列石」のストーンサークルを思い出し、集落は分散しても、祖先を同じくする絆として、一同が会する広場・墓場並びに祭式・祭を行なう場所としてこのストーンサークルを集落とは別に作った。周辺から良く見える川筋の丘陵地を選び、大きな土木工事をしない整地したところにまわりの山々や太陽の運行など自然と関係づけ、川から多数の石を運び上げて、環状に組石の列を作り大きなストーンサークルを作った。

### 【 山内丸山遺跡の最も高い場所 】



遺跡の最も高い高台  
西の岩木山を望む



遺跡の最も高い高台  
ここにも壙穴住居

### 3. 「墓の道」に並ぶ「ストーンサークル・環状配石墓」

—縄文のストーンサークルの原型—  
snsnna13print.htm



「日時計状配石」のところで今は林の中を南北に伸びる「墓の道」山内丸山遺跡のストーンサークル 環状配石墓は林の中のこの道の傍に並んで見つかりました。山内丸山遺跡の墓場を南北に貫く「縄文の道」。日時計状配石のところから、この登坂の道を林の中に登って行くと、そこにストーンサークルがありました。小牧野や伊勢堂岱遺跡のストーンサークルから較べるとはるかに小さく石の数も少ない。しかし、この環状の配石のまわりからは多数の墓穴が見つかっており、墓であることは間違いない。



山内丸山遺跡の環状配石墓とその中の墓穴 林の中にあるその山内丸山遺跡のストーンサークルに立って見るとあの数十メートルを超える環状の列石とは異なりその規模は小さく、環状配石の環の直径は4~5メートル程度。確かに環状に石が配されている事が良く解るが、石の数も少なく 不ぞろいである。あの日時計状配石があるかどうか 良く解らない。その時は気がつかなかったが、本に載せられた山内丸山遺跡のストーンサークルの写真を見ると円環に配された組石の中に他の石よりも大きく細長い石が一つあり、これはやっぱり円環のところに立っていたと想像され、円環と円環の間に立つ日時計状石の両方がこの環の中に揃っている。でも、少し時代が早いとしても 小牧野遺跡や伊勢堂岱遺跡のストーンサークルと印象が大きく違う。圧倒的に石の量が少ない。こんなストーンサークルが「墓の道」の片側に沿って幾つも発見されている。

山内丸山遺跡に見られる環状配石墓の形が、さしてそこに葬られている祖先への敬愛の念の意識が次の時代にお互いの絆を確かめ合う場のイメージをクリアーにして巨大なストーンサークルをつくっていた。まさに「縄文のストーンサークル」の原型が山内丸山遺跡の環状配石墓・ストーンサークルで見られる。



山内丸山南盛土 集落の中心部

山内丸山遺跡では別々に幾つもあった環状列石墓とひまわり状組石。縄文人の心の支えとして たえず、環の意識があり、また 祖先と一緒に生活するとの意識があり、集落の中時には中心に墓があった。争いのないやさしさの象徴が円環であるとも聞く。縄文の人達が無意識に持っていた円環のイメージが長い年月をかけて 祖先を祭る墓場のストーンサークル そして墓場の象徴としてあった日時計状列石が円環の傍に添えられた。それが次の時代 幾つかの集落に分散して行く時に、この円環の墓場を同じ祖先を持つ集団の絆を確かめる場としてよみがえらせ、通の墓場・祭式の広場として、丘を削り、巨大なストーンサークルを一機に作り、年に何度となくここに集まり、祭式をおこなった。ここに縄文の人達の心の象徴としてはっきりと「ストーンサークル」が意識されていく。

東北芸術工科大の赤坂憲雄氏は「縄文の人達の人間観 しいては日本人の人間観の原点がこのストーンサークルを通して考えられる」という。山内丸山遺跡の一番高い丘の上ののぼると南に八甲田の峰々・西に遠く岩木山 東北に下北の峰々いずれも特徴のある山々がのぞまれ、これら山々に囲まれた台地の林の中に山内丸山の巨大遺跡がみえる。実に素晴らしい自然に囲まれた土地で人々は争いもなく豊かな縄文の時代を育んでいった。縄文の文化観を変えたこの場所は同時に縄文人の人間観・精神そして 日本人の考え方の原点を作った遺跡でもある。

#### 4. 山内丸山遺跡 南北に伸びる縄文の「墓の道」



山内丸山遺跡 南北に伸びる「墓の道」

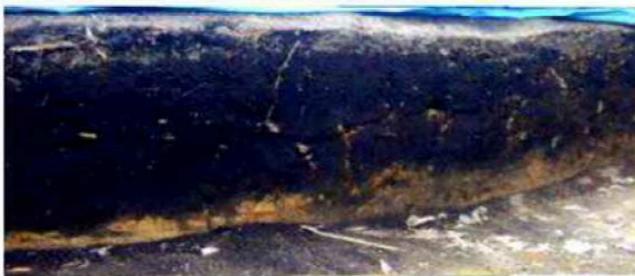
西盛土の北の端 竪穴住居に隣接して密集した土坑墓があり、3基の「日時計状配石」がある。ここから南の丘へ丘を巻きながらの「墓の道」が伸びている。この「墓の道」の片側には7基の「環状配石墓」が並んで発見された。今から約5000年前 B.C.3000 縄文中期 山内丸山遺跡が最も栄えた時代である。この「墓の道」の断面が切り取られているところへ岡田先生の案内で行った。



縄文の道 - 山内丸山遺跡 墓の道 -

集落の中心から南北に伸びる「墓の道」 断面

「黄土色した縄文の地層」とそれ以後の時代の「真っ黒な地層」とがはっきり区分して見える。岡田先生の説明によると 道の部分と自然堆積の部分の差の見分け方は次の通りである。



「道の部分」 - 縄文時代の表土部

黒い土の下にある黄土色縄文の土【縄文の道断面の拡大】

「縄文の道」の断面では黄土色-栗色の層化がはっきりしているのに対し、自然の堆積の層の両方の土が交じり合うため「少し黒い栗色になる。また、断面の断面の「黄土色」の部分の色が

って行くとき黄土色の混じった栗色の境界線と両色の色が交じり合っさり

「黄土色」した境界をもつ「縄文の道」の部分とに分かれる。

4~5Mの中で自然の地層から少し掘り込んで道が作られている。つまりこの縄文の「墓の道」はまわりよりも低く掘り込んで南北に伸びている。「なぜ道が掘り込んで作られたのか」定かでないが、岡田先生の説では、「掘り込むことで雑草などがえにくくなったのでは?」といわれている。

山内丸山遺跡では 広い「縄文の道」が集落から東西・南北の二つの方向に伸びていた。

また、この道の傍には墓が点々と作られた「墓の道」であったことが判って来ている。

東西の道は南北の道にくらべて 少しく中 7~10M 程度南北の道は4~5M程度である。また 東西の道には点々と土坑墓が並ぶのに対し、東西の道には傍らに密集して沢山の土坑墓がある所として日時計状配石 環状配石墓が並び、この2本の墓の道では様相が少し異なっている。

山内丸山遺跡ではこの色々なタイプの墓の存在から「もう縄文のこの時代には階級が存在していたのでは?」と岡田先生は考えている。また、延々と土坑墓続く「墓の道」。

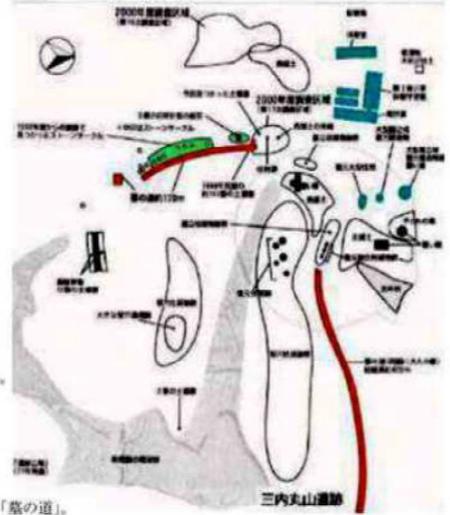
また、延々と土坑墓続く「墓の道」。

なんの根拠もないが、この「墓の道」そのものも「ストーンサークル」の環状列石ではないか? 集落からでた東西・南北の2本の「墓の道」がぐる

っと墓場や居住区を回り、ひとつにつながるとすれば「環状につながる墓地 ストーンサークル」そのものではないか.....

何となく「墓の道」を考えるとそんな気持ちになってきた。

まだまだ、勉強不足で考えが及ばないが、縄文の丘に立ち、ゆったりとあかねにそまてゆく夕日をながめてながめると気分爽快 リフレッシュされた気分になってく、本当に静かではあるが、いつもパワーを与えてくれる道跡である。



「縄文のストーンサークル」の原型 山内丸山遺跡の「ストーンサークル」と「墓の道」探訪 「完」

#### D. 「伊勢堂岱遺跡のストーンサークル」探訪

秋田県鹿角市 2000.9.15.  
dodaiprint.htm by M. Nakanishi 2000.11.1



秋田県鹿角 伊勢堂岱遺跡 H12.9.15.

米代川の上流 鹿角市大湯のストーンサークルから 少し下ってきた秋田県鹿角市に大きな縄文のストーンサークル伊勢堂岱遺跡が発掘されている。大湯のストーンサークルの環状列石には墓壙と並んであるのに対し、青森県小牧野遺跡の環状列石では、特徴的な石組でストーンサークルが構成され、その下には墓がない。これらの中間的な性格を持っているのが伊勢堂岱遺跡のストーンサークルと言われている。

8月に大湯のストーンサークルに行ったときには行程の調整つまず、行くのをあきらめた道跡である。9月15日 青森 山内丸山・小牧野遺跡のストーンサークルを回るスタートとして、この伊勢堂岱遺跡から訪問する事とした。前回交通事情に泣いたので今回は飛行機で鹿角市を訪問し、それから汽車で青森へ出ることとした。



伊勢堂岱遺跡

撮影地: 米代川河原より

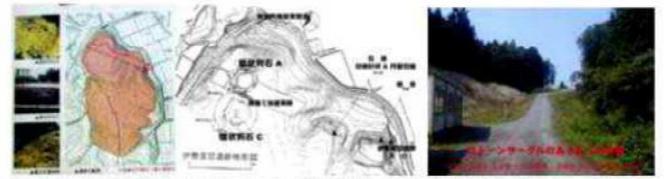
地図を見ると鹿角市・鹿角市・大館市の高度中間の丘陵地に「秋田北空港」があり、この空港からすこし鹿角の方へ行った丘陵地の端 米代川に隣接して伊勢堂岱遺跡が見える。この空港開設の取付け道路を作る過程で本遺跡が発見され、発掘頂上が続けられている。

八幡平・秋田駒ヶ岳から北へ流れ出た米代川が山間を抜け鹿角で行く手を阻まれ、ここで北からながれてくる川とここで合流して、大きく西に流れをかえる。そして、大館・鹿角と山間の盆地を流れて鹿角で日本海に注ぐ。

大湯のストーンサークルはこの米代川が大きく西に流れをかえる鹿角の合流点のすぐ上の丘にあり、今回訪問した伊勢堂岱遺跡はそこから約40km西へ下った鹿角市の外れの丘の上にある。日本海沿岸にいた縄文人が縄文後期約4000年前にこの米代川を避けて内陸に移り住んで行ったに違いない。前回 大湯へ行った時も感じたのですが、山間をぬって流れる米代川はスケールの大きい大河で

ある。鹿角の盆地といい、鹿角の盆地といいまわりは山又山、川沿いの台地に集落を構え、森と川の恵みで生活が成立していた。古代には食料を得る重要な川であると同時に重要な交通路であったろう。米代川にかかる橋から見る伊勢堂岱遺跡は益地から見ると一番よく見える一等地である。朝一番の飛行機で秋田北空港へ。正解でした。空港から鹿角市の方へタクシーで約15分のところ。鹿角の街から米代川を渡った田園地帯 米代川を見下ろす丘陵地の高台に道跡がありました。もっとも 道跡を見学した後、鹿角の街から青森へ行くこととしたが、それが全くだめ。汽車午後までバスも全くなし。鹿角は昔は秋田内陸の奥の奥とと思っていましたが、ヤッパリ今もってダメ。特に青森へは奥羽山脈が関の峠を超えねばならず、また盛岡へは十和田・八幡平の山々が壁を作っており、県境の壁の凄さ今もって感じました。東京へ帰る方が近いです。

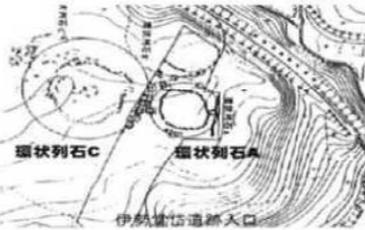
#### 1. 「伊勢堂岱遺跡 ストーンサークル」探訪



台地の北の端に入口があり、西へ向って 真っ直ぐ丘に登って行く広い道の道がつけられ、遺跡の丘に登って行く。恐らくこの道が空港から鹿角へのアクセス道路になる予定だったのだろう。この広い道を昇って行くときと平地に整地された広い台地があり、この左右に良く整備された環状列石A Cがありました。右側の環状列石Aは25x30M。左側の環状列石Cは直径40M。そしてこの列石のまわりには整然と並立柱状建物が整然と並んで発掘されている。



【伊勢堂岱遺跡 環状列石A&C 遺跡入口側から】





【伊勢堂岱遺跡 環状列石 A&C 遺跡奥から】

どちらの遺跡も大量の石で円環が作られているが、石の大きさはばらばら。特に列石 C では大きすぎて環状が把握しにくい。この掘立柱建物跡も同時代の大湯や小牧野遺跡と同じく生活の兆候はみられず、やはり集落は別の場所にあったと考えられています。

環状列石 A

環状列石 C



きちんと整備され、遺跡の詳細な説明板が建てられており、ゆっくり思うがままに歩く事が出来ました。この遺跡のストーンサークルもまわりの森によって視界がさえぎられ、あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさの中にある。道具のなかった時代に大規模な土木工事をほどこし、このような環状列石の墓をきずき、集落の人を自

分達の祖先が集まっているここに埋葬し、折にふれ、祭を行ない、祖先を同じくする人たちの絆を強くしたいと考えられる。このストーンサークルを中心とした祖先との絆 集落の人達との絆 それが「縄文の人達の心」を知る大きな手がかりといわれている。これらストーンサークルを作った集落は大湯・小牧野の場合もそしてこの伊勢堂岱遺跡の場合も解明されていない。どこに集落があったのか 非常に興味のある所である。誰もいない森の中 一人たっているとひよいと宇宙人でもあらわれてくるような錯覚に陥る。

2000.9.15. 秋田県 鹿角町 伊勢堂岱遺跡にて

7.2. 縄文のストーンサークル探訪【完】

### 7.3. 『縄文人の心を映すストーンサークル』

oyu6.htm by M. Nakanishi

鹿角市 大湯のストーンサークル

そもそも 縄文のストーンサークルとは何なのか・・・。ストーンサークルはこの米代川沿いの海岸段丘の上など東北地方を中心に日本各地で縄文後期の遺跡として発見されている。

昔から多くの説があったが、今はほぼ墓地および墓地を中心とした祭祀の場とする説が有力である。また、縄文人が天体の運行を知っており、ストーンサークルの形態や場所そして日時計状の石組など星や太陽の運行を知っている。ストーンサークルを作ったとも言われている。数多くのストーンサークルが発掘され、円環の中や石組の下から墓が見つかり、縄文人の暮らしと直結した墓場または祭祀の場と考えられている。

赤坂憲雄氏はその講演の中で、「数々の縄文のストーンサークルから、縄文人の心の奥を読み取ることが出来る。それがずっと受け継がれ、日本人の心を形成しているのではないか・・・」と講演。縄文人の人間観とストーンサークルの形態の変化について、ご自分の研究の結果を解説され、深く感銘を受けた。縄文人の集落では、ストーンサークルが形成される縄文後期以前から、集落の中心部に広場があり、その広場を中心に同心円状に生活空間が広がっている。竪穴式住居が取り囲み、貯蔵穴やゴミ捨場などがある。墓場もこの同じ、生活場所の中にあり、死者と共に生活をする。ストーンサークルを取り囲む建物群



一方、弥生の村では、環濠で囲まれた生活の場とこの環濠の外に墓場があり、生活の場と墓場とははっきり区別されており、そこには大きな人間観の差がある。

【環濠で囲まれた弥生の村】

青森小牧野遺跡でも、生活の場とは異なる場所にストーンサークルが作られている。その場所は二つの川に挟まれた尾根の高台を意図的に削って作られている。恐らくは集落からは、何時も墓場を望み出来る場所として選択し土木工事を行ったに違いない。

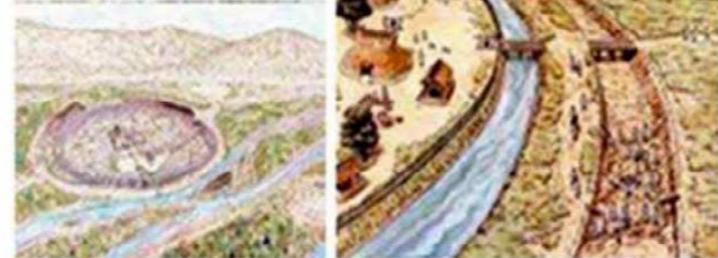
例えば 集落が大きくなり、分化する時のもう一つの形態として、生活する場所とは別に、そのそれぞれが共に集い、祭祀を行なう共通の場として形成されたものと考えたと弥生の墓場の考え方とは大きく異なっている。「生」の世界と「死」の世界の分化がはじまったと考えるにしても、その根本はむしろ大きくなった集落の意識を繋ぐ絆として、また、祖先を平気な墓場と一緒に生活するとの意識の中で墓に特別な場所として意識の中の村の中心にあったのではないだろうか...

年に何回かこのストーンサークルに人達が集まり、祭祀を一緒に行った場であったに違いない。死者に対する「穢れ」のイメージが全く見られないと言われる縄文人の人間観がこの縄文のストーンサークルと自分達の集落の住居配置に結実しているといわれる。

環濠によってははっきりと「生」と「死」の世界を区別し、「死」の世界を「穢れ」と意識した弥生人の人間観とははっきり異なり、したがって、弥生人の生活が始まるとこのストーンサークルも消滅する。「円環の不思議な魅力」縄文人の心のふるさととの思いがこのストーンサークルにこめられているような気がする。

「争いや穢れの意識のない」縄文人と「戦い・争い」が始まり、穢れ・差別の感情が生じてくる弥生人との間には、気質・人間観の大きな変化がここに生じている。

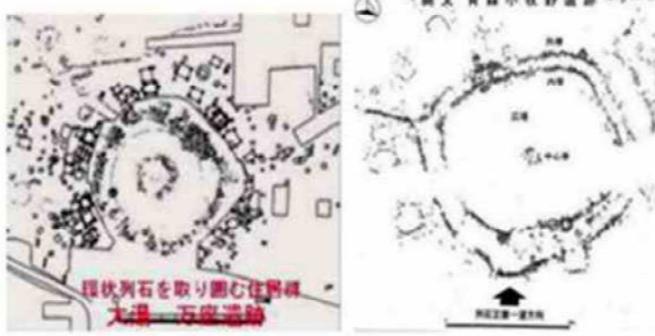
「日本人のやさしさの秘密がこのストーンサークルにあると考える人は多いし、また、東北に今も残る産土墓の風習なども同じ流れと理解できるのではないかと」と赤坂憲雄氏は講演された。



【縄文のストーンサークルと石組】



【ストーンサークルの二つのタイプ】



ストーンサークルを取り囲む竪穴式住居群 (円環の下に墓がある type)

b. 住居跡がない 青森小牧野遺跡 (円環の下に墓がない type)

## 7.4. 岩木山北山麓 津軽の古代製鉄地帯

### 鬼伝説の里から 縄文人へ

oyuprint.htm

東北の縄文人が作ったストーン サークル。祖先を敬い自分達の村の祥の中心にあったストーン サークル。このストーンサークルが多数ある東北 秋田・津軽は次の時代『産鉄の民』のふるさと。縄文から弥生へ。ストーン サークルを作った縄文の民と鉄を持ち込んだ弥生の民との出会い そして紛争。そんな中から 各地に残る産鉄の民の『鬼伝説』。

縄文の民は『穢れを知らない争いのないやさしい民』。一方 各地に残る多くの鬼伝説の中で 津軽の鬼伝説は農耕の民やその土地の民と交流をもつ『心やさしい鬼』。縄文から弥生への移行の中で 脈々と続く『日本人の心・日本人の精神的支柱』がこの土地で 鉄を媒介に醸成されていったのではないだろうか……。人っ子一人いない静かな森の中 ストーン サークルの中に立つと不思議に岩木山北山麓の『鬼のふるさと』が思われてならなかった。

弘前から勝ヶ沢にかけて岩木山北山麓の幾重もの沢筋は古代の大製鉄地帯であり、『津軽の鬼伝説の里』と重なる。

弘前市鬼沢・鬼神社 「弘前市赤倉・岩木山赤倉口」 「弘前市十腰内・巖鬼山神社」 「勝ヶ沢市湯舟・湯舟神社と壱沢製鉄遺跡」 などである。

前の晩に「弘前ねぶた」を見学したが、真っ暗な中で笛と太鼓のリズムにあわせ躍動する「ねぶた絵」の迫力はその色とあいまって、灼熱の鉄のイメージがびびりたり。

思っても見なかった「鬼沢のねぶた」に何の根拠もないが、古代渡来人がこの津軽の地で起こした製鉄の祭と重ね合わせていた。まだ、朝もやの中にあるこの岩木山北山麓の沢筋の村を訪ねる思いを馳せた。

何処からこの製鉄の民はやって来たのか また この地の鬼伝説が通常の「悪い鬼」ばかりでなく民を助ける「良い鬼」の伝承をしているのは 津軽に住んできた人達のやさしさか……。だとしたら それはこの地が早くから「争いのない排他性を持ち合わせぬ」縄文人が開いてきた土地だからだろうか……。

原生林の中、誰もいない巖鬼山神社に一人立ちそんな事を考えていた。

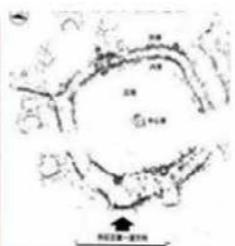
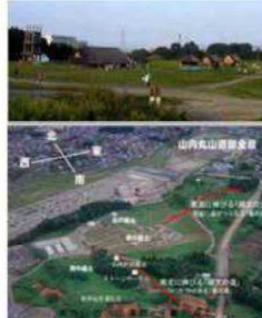
「縄文人の系譜が連なる産鉄の民」東北にそれを感じている。

岩木山の北山麓鬼伝説の郷 何処までも続くリンゴ林の中の本道を通りひきかえした。

今回の東北 walking の締めくくりは 秋田鹿角 大湯の縄文のストーンサークル 探訪。ねぶたが飾られた弘前駅を鹿角花輪へ向かった。

### 【秋田・青森 縄文のストーンサークル 探訪】

【完】



ストーンサークルを取り囲む壁状住居群 (内環の下に墓がある type)

住居跡がない 青森小牧野遺跡 (内環の下に墓がない type)

## 8. 「弘前ねぶた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」

「鬼沢・鬼神社」・「十腰内・巖鬼神社」

Iron Road (I) 2000

2000.8.3-4 onisawaprint.htm by M.Nakanishi

1996.10-2000.4

【鬼沢のねぶた】

【岩木山 赤倉口】



## 8.1. 弘前ねぶた



8月3日夕方 盛岡-弘前の高速バスで弘前に到着。駅には「弘前ねぶた」が飾られ、観光客を迎えてくれるが、もっと混雑を想像していたが、予想外。

むしろ青森「ねぶた」観光列車が出たり、駅員はそのPRに忙しい。もっとも、五所川原・弘前とも「ねぶた」で宿をとるのはむづかしい。やっとなら公園の近所の旅館に宿が取れた。

五所川原の「ねぶた」は高さのあるおきな「立ちねぶた」として有名でひそかに見ることに期待していたが、今日は前夜祭で火は入るものの運行なしとのこと。ゆっくり弘前のねぶたを見ることにした。



午後7時夕間を弘前城のお堀端から運行がはじまった。例の「ねぶた」の囃子とともに扇型のねぶたが一同に動き出した。

巨大な太鼓の上にも打ち手がまたがり、太鼓の上下から打ちたたき凄音とリズムをだしている。津軽じょっぱり太鼓というそうだが、この強烈な音とリズムを伴って中国三国志等の絵が描かれた「ねぶた」が多から次と繰り出される。

その数50を超える連。ねぶたの総数便に100を超える。

8月東北は祭の季節。

弘前ねぶたと秋田・大湯のストーンサークルに推したくて、8月3・4日の休みを利用して日朝早く東北へ飛出した。今回津軽 walking の目的は古代の製鉄地帯であり、ねぶたの発祥の地でもある岩木山山麓弘前・五所川原のねぶたを見て、古代製鉄のエネルギーをねぶたに感じることが目的。

赤坂先生編集の「東北学2」に鬼沢・鬼神社の祭礼のきれいな写真が紹介されているのを発見。ねぶたを見て、岩木山北山麓の古代津軽の大製鉄地帯に伝わる鬼伝説と関係する鬼神社・巖鬼神社を訪ねる予定を組んで出かけた。

2000.8.3. M.Nakanishi 訪問記

### 【内 容】

1. 「弘前ねぶた」
2. 「鬼沢のねぶた」出陣へ
3. 岩木山の鬼伝説
4. 鬼神社 巖鬼山神社を訪ねて



弘前ねぶた

弘前の「ねぶた」は扇型で、一つの連では、小さなねぶたを先頭に大小幾つものねぶたを出し、一番最後に大きなねぶたと大きな太鼓とその打ち手を先頭にした囃子方が続く。それらのねぶたの大きさに応じて その引き手・担ぎ手も小さな子供連から大人まで、いろんな年齢の人が一つの連を組み行進する。このねぶたの共同運行に参加することを「出陣」という。街や集落のあちこちに「出陣」の登りがひるがえり、それぞれの街が、「ねぶた」を出していることをほこっている。

日が落ち暗くなると引き手や周りの建物の影が消え、囃子の主役である太鼓とねぶただけが浮かび上がり、太鼓を中心とした囃子に乗って、時々「トウリヤードリ」の音が掛けられる。また、表には三国志等を題材にしたねぶたの絵が描かれ、裏面には美人画が描かれる。このコントラストもおもしろい。この表・裏面の絵を見せる為、この扇型の部分を引き手が回転させると見物している人達からパチパチと拍手がおきる。青森ねぶたのあの「ハネコ」



はいないが、太鼓のリズムは強烈だし、都会では消えた津軽の街のエネルギーを感じる。と同時に実に美しく楽しい祭である。また、弘前の街の性格から来るのか良く判らないが、殆どの連が地域・地区の連で、他の観光化した祭に見られる企業の連とそのPRの連は少なく、絵もほぼ伝統のねぶた絵にまどめられており、手作り・地域の人みんなが楽しんでいるといった風が色濃く守られている。例えば幼稚園のグループが沢山出陣

していたが、小さなねぶたに子供連の今のキャラクタがまじっているが、ほほえましく全く違和感がない。



次から次と連がくりだし、横丁を歩くと運行に参加するねぶたが順番待ちであふれている。少し離れて町をみると祭りのさなかであるが、どこも普通にいつもとかわらずと言った風。街人も特別な風ではなく、みんな楽しみで仕事を終え、ねぶたに参加するため、三々五々集まっている。そうでないと1-7日まで7日間もつづかない。

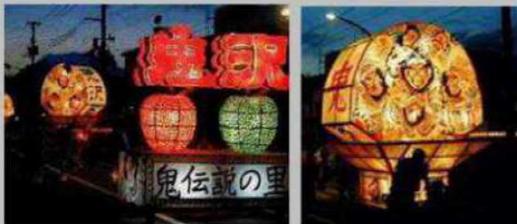
また この祭はどこかの神社の祭礼といったものでなく、みんなで夏を楽しんでいる。後で知ったのであるが、街の中心部だけでなく近郷の集落もみなそれらの集落で準備し、この弘前の街の中心の運行に参加すると言う。

運行の丁度真中あたりで、明日出かける「鬼沢」集落の連が「鬼伝説の里・ねぶた」として登場。びっくりした。地図で言うともう弘前の外れ、街から岩木山の麓を鯉ヶ沢の方へ車で約30分のはず。随分遠く離れているのに。

後でわかったのだが、鬼沢の里は今も「鬼」を大事にするおきな集落であった。観光化せず、周りの集落も含め、老いも若者もそして子供たちもみんな、年に一回、弘前の街の中心にあつまって楽しむ手作りの祭 それが「弘前ねぶた」。都会では消え去った地域のつながりを強く感じました。

2000. 8. 3. M. Nakanishi 訪問記

## 8.2. 「鬼沢ねぶた」出陣



丁度運行の真中あたり、「鬼伝説の里 鬼沢」が浮かびあがらせねぶたを先頭に「鬼沢ねぶた」の連がやって来た。大きな連である。私の連の中では、何の形もなく、津軽のエネルギーを「ねぶた」と「ただら・鬼伝説」からの文化とを込めさせて考えていたが、ストレートに「鬼沢の里」として「ねぶた」の運行に加わっている事に意外で少なからず感動した。

鬼沢は弘前の街から西へ鬼が住むと昔から伝えられる岩木山北麓の赤倉山麓を鯉ヶ沢へ続く一本道を車で約30分。古々の集落津軽や古々の大製鉄地帯の裏にあり、次の鬼伝説があり、さらに4.5 ㎞進むと弘前市の端十郎内。

この十郎内から鯉ヶ沢が古々の里と紹介した古々の里の津軽の集落の古々の里の中心地であり、古代津軽の心であり、有名な鬼伝説「鬼太夫伝説」や地名に古々の里の集落の基地としての歴史を色濃く残している。

有名な鬼伝説「鬼太夫伝説」や地名に古々の里の集落の基地としての歴史を色濃く残している。

なお、このような鬼太夫伝説はほかにも日本各地にあり、観音様などが、実在の名刀工などに鬼神の名をつけた伝説を作りはたと言われている。

## 8.3. 岩木山の「鬼伝説」

### 【岩木山北山麓赤倉側 古代製鉄地帯の鬼伝説】

1. 鬼沢の「鬼伝説」  
 \*\*\*\* 津軽 岩木山麓 鬼沢に伝わる「鬼伝説」 \*\*\*\*  
 青森県 弘前市 鬼沢  
 昔々このあたりはやせた冷涼地で、作物の成りはさめて悪かった。そこへ、岩木山の赤倉から下りてきたという鬼が降り、せせとこの荒地を耕し始めた。村人達はこれを見て、たまたま鬼ではないと思ひ、開墾の邪魔と農業用水の必要を鬼に訴えた。すると鬼はそれでは力を貸そうと言ったさき、姿を消してしまった。翌朝になって村人たちが行ってみると冷涼地には、一筋の水の流れが勢いよくほとほと流れているではないか。村人たちは、さっそくその水を田に引き、以後その水は干ばつの時も決して枯れることはなかったという。村人たちは、非常に喜んで、鬼に感謝するため、神社を建立して「鬼神社」と名づけ、村の名前も「鬼沢」としたという。● いまでも鬼沢の人達は、節分に豆をまがらないという

2. 鬼神太夫伝説  
 \*\*\*\*\* 岩木山北山麓の「鬼太夫」伝説 \*\*\*\*\*  
 鯉ヶ沢町 湯舟 湯舟神社 弘前市 十郎内 鬼鬼神社  
 昔 鬼神太夫(鬼)と呼ぶ剛力の刀鍛冶がいました。桂山の刀鍛冶長者の娘を愛して、娘をくれるようにと申し込んだ。困った長者は一策を案じ、一晩の内に拾得(木)の刀を鍛えたら娘をやると約束した。すると、鬼神太夫は一晩の内に、全部刀を鍛えて持ってきたが、長者が一本盗んで鴨沢川に捨ててしまった。それで、鬼神太夫は刀が一本足りず、娘を買えずあきらめて、「十郎無十郎無」とつぶやきながら、さびしく去っていった。それで、それ以後この地を「十郎無」となってしまう。その後、鬼神長者の娘と結婚した鬼神太夫の弟が、ある日のこと鍛冶場の片隅に残っていた玉鋼を見つけ、刀鍛冶の兄が打ったものであると打ち明け、その玉鋼を氏神として八幡様に祭った。長者が亡くなると姉妹には形見として湯舟(鉄を冷やす水を入れた船)をやり、分家させた。また、妹には金敷(鉄を打つ台)をくれた。それが湯舟村 金敷村の起こりとなった。また、長者が刀を捨てた刀が浮いた所を「浮太刀」と言うようになった。今の「浮田」である。なお、鬼神太夫の打った刀の一本が今も岩木山 鬼鬼神社に祭られているという。「ふるさと あじがさわ」より

## 8.4. 赤倉山山麓に鬼神社・巖鬼山神社を訪ねて



岩木山北山麓のリンゴ畑 鬼沢・鬼神社 十腰内 巖鬼山神社 赤倉口近傍 岩木山

1. 十腰内 鬼の総元締 巖鬼山神社
2. 鬼伝説の里 鬼沢&鬼神社

8月4日の早朝 弘前から鎌ヶ沢まで、岩木山北山麓に広がる赤倉側に残る鬼伝説を訪ねるため、バスターミナルへ行った。予想していたと言え、「一番奥の巖鬼山神社のある十腰内を通る鎌ヶ沢行 次は2時間後。鬼沢までは、約1時間後にある」との返事。

まあ、「岩木山山裾 鎌ヶ沢への1本道。何かバスがあるかも」の淡い望みはダメでした。「バスだと約1時間。タクシーで約30分」の話をたよりにタクシーにする。タクシーの運転手氏に「岩木山の赤倉の集落を通過して 一番奥の十腰内の巖鬼山神社に行き、引き返して鬼沢の鬼神社でおろしてほしい」と目的を伝えると「まあ 物好きなのと笑いながら「それでも1年に数回 同じように鬼伝説やたたら製鉄遺跡を訪ねて、この赤倉側から鎌ヶ沢まで案内する」と。

岩木山北山麓は古代から開けた土地。この地では、岩木山の峰の一つで昔から鬼が集団で住んでいるといわれる巖鬼山(赤倉山とも言う)がその急峻な山裾を津軽半島にむかって伸ばしている。

そして、昔からこの赤倉山側の山裾から巖鬼山を越えて頂上への険しい道が通じ、その入り口近傍の十腰内の山合の地に岩木山神社の元宮である巖鬼山神社がある。

岩木山神社のある百沢口が開かれるまではこの赤倉側の道が岩木山への本道で、古代より広く人々の信仰を集めている。

このあたり産鉄も伸びる沢筋からは古代から製鉄がおこなわれ、鉄滓や製鉄炉跡等が発見され、この地が古代津軽の一大製鉄地帯であることが判って来た。

その中で、十腰内から山裾の沢筋をすこし鎌ヶ沢の方に下った鎌ヶ沢町湯舟は十腰内や巖鬼山神社と共に、鬼神太夫の伝説の中心地である。

また数々の製鉄遺跡も発見されている。

鉄滓や羽口とともに100を超える製鉄炉や木炭炉の跡等が発見された空沢遺跡はここにある。

### 参 考 津軽岩木山北麓の古代津軽の大製鉄地帯と鬼伝説

う鬼伝説の里「鬼沢」は十腰内から3つほど集落を弘前の方へ戻ったところ。この鬼をまつる鬼神社は巖鬼山神社を本社とする末社。

このように岩木山北山麓赤倉側の山合には、鬼伝説が広くつたり、古代から渡来した産鉄の民が鉄の王国を築き、大和勢力と対峙する蝦夷の本拠地であったと推定されるが、まだ確たる証拠はない。

## 1. 十腰内 鬼の総元締 巖鬼山神社



弘前から街を出て、岩木川を渡り、岩木山山麓にさしかかるあたりからは、一面のリンゴ畑。リンゴの実をつけているものまだ、青く熟した真っ赤な実になるには数ヶ月かかるだろう。リンゴ畑の一本道を走るが、岩木山は霧の中で全く見え。出発して15分ばかりすぎると岩木山の外周道路にでて、山裾が見えるほどに山が近くなる。赤倉の集落である。岩木山の輪郭が霧の中に薄っすら見え、霧で埋まった幾筋もの谷筋・沢筋がみえ、いよいよ山の中に入ってきた。赤倉から10分ほどさらに走り、鎌ヶ沢への道と別れ、巖鬼山神社への別れを山の中へと原生林の中に入って行く。谷筋の出口に巖鬼山神社が立っていた。



巖鬼山神社の中は鬱蒼とした谷間の森で、小さな社殿の横には千年を超える杉の巨大樹が天空にそびえ、古代から鬼伝説の世界をずっと眺めてきたに違いない。本殿のすぐ西側の沢筋には、「龍神」がまつられている。深い樹木につつまれたこの沢筋からは一筋のきれいな水が流れおち、龍神とが重なり、産鉄の民が古くからこの谷筋でも、「製鉄をやっていたのでは?」と思えるような沢すじ。おそらく境内の2本の杉の巨大樹はそれをじっと見てきたのでは・・・と想像を膨らませている。おそらく境内の2本の杉の巨大樹はそれをじっと見てきたのでは・・・と想像を膨らませている。

誰もいない鬱蒼とした原生林の中にひっそりと「巖鬼山神社」がありました。でも「鬼の総元締の神社にしては明るい」と感じました。



巖鬼山神社の中は鬱蒼とした谷間の森で、小さな社殿の横には千年を超える杉の巨大樹が天空にそびえ、古代から鬼伝説の世界をずっと眺めてきたに違いない。本殿のすぐ西側の沢筋には、「龍神」がまつられている。深い樹木につつまれたこの沢筋からは一筋のきれいな水が流れおち、龍神とが重なり、産鉄の民が古くからこの谷筋でも、「製鉄をやっていたのでは?」と思えるような沢すじ。おそらく境内の2本の杉の巨大樹はそれをじっと見てきたのでは・・・と想像を膨らませている。

誰もいない鬱蒼とした原生林の中にひっそりと「巖鬼山神社」がありました。でも「鬼の総元締の神社にしては明るい」と感じました。

2000.8.4. M. Nakanishi 訪問記

## 2. 「鬼伝説の里」 鬼沢 と 鬼神社

持たせたタクシーに乗って巖鬼山神社から約10分。弘前の方へ引き返す。来るときに通った道から一筋北側のバス道を2.3の集落の家並をすぎると大きな明るい集落に入った。

山裾の村というより、大都会弘前のベッドタウンといった感じの前後を沢筋で区切られた明るい丘陵。それが鬼沢であった。もっと暗い山合の小さな集落をイメージしていたが、まったく異なる。これだけ大きければ、昨日の大きな鬼沢地区ねぶたの出陣もうなずける。

鬼伝説の鬼神社は、こんな街中の小さな森の中にひっそりありました。「鬼が灌漑用に堰を築いて水不足をすくってくれた鬼沢」の伝説によって、いまも地域が一つにまとまれる鬼沢といったイメージを昨日の鬼沢のねぶたと重ねています。



鬼神社鳥居 鬼伝説の里「鬼沢」の集落 弘前市鬼沢 鬼神社社殿



【鬼神社 社殿正面に掲げられた農機具の献額】



【鬼神社の神事 獅子舞】赤坂憲雄編「東北学2」より

津軽岩木山北麓の古代製鉄の地を歩いてみて、もっと山奥まで立ち入り、もっと暗いイメージが生まれてきたと想像していたが、「鬼沢ねぶた」といって、鬼神社と鬼沢の集落といえ、十腰内から鎌ヶ沢に連なる製鉄の村村いづれも想像とは別の明るいものでした。案内してくれたタクシー運転手氏いわく「良い鬼の伝説の地」が象徴的でした。

2000.8.4. M. Nakanishi 訪問記

「弘前ねぶた」と岩木山北麓「鬼伝説の里」  
「鬼沢・鬼神社」・「十腰内・巖鬼山神社」

【完】

## 9. 山口県の『たたら』遺跡

### 9.1. 山口県美祿市 河原上 たたら製鉄遺跡

Iron Road (I) 2000

### 9.2. 福栄村 大板山 たたら遺跡探訪

1996.10.2000.8

1996.10.2000.8



### 9.1. 山口県美祿市 河原上 たたら製鉄遺跡

1996.10.10



河原上製鉄遺跡 美祿市と秋芳町の境 たたら山 花尾山

秋の日差しの強い午後。兼ねてより聞いていた美祿市の北 花尾山へ登る。  
この近辺は大理石・石炭だけでなく、銅などの金属鉱山が古くからあり、すぐ近所の美東・秋芳町との境には古い時代に「鉄」を鑄造した場所も残っている。  
また、この山の南の山の本当に山奥のどん付には「たたら」の地名が 500 万分の 1 の地図に載っている。ひょっとして この地にも「たたら製鉄」の痕跡があるに違いない。  
名水百選にも選ばれた花尾山の湧き水「別府池」のすぐ西隣の谷を川沿いに入ってゆく。  
さらに、人家も途絶え、道も砂利道 ダムと池を過ぎ、杉林の中をどンドン林道をあがってゆく。

山道になって約 30 分。うっそうとした杉林の中、思いもかけず、山を背に幾段にも組まれた石垣の跡が見える。近くに谷川も見える。各地の沢筋でみた見た「たたら」の跡に近い。近づくとも「河原上製鉄遺跡」の白い標識の杭が建っていました。美祿市と秋芳町の境の花尾山の南の山の中で、もう誰も住んでいない奥である。思いもかけずの 美祿でのたたら遺跡の出会いであった。

「かなん流し」の谷川もすぐ横にある。  
おそらく そんな古い遺跡ではないが、しっかり、山の中に「たたら」場の遺構が残っている。  
明治・大正・昭和の初期まで、多くの人が行き来をした賑わいがこの山奥まであったに違いない。恐らく何年前に発掘調査がきちり行なわれたのであろうが、美祿の街で聞いた事がない。

今は全く山の中に打ち捨てられ、完全に賑わいの在った事も製鉄遺跡があることも完全に忘れられている。「たたら製鉄遺跡」は、どこもそうだが、本当に山奥の奥 かつての賑わいが信じられない場所に大きなたたら集落が形成されていた。  
それが、置き去りにされ、忘れ去られるか、または 開発の波に根絶から掘り返され、跡形もなくなってしまいかしてのが、現状。鉄の生産には多くの人が関わり、出来たものが遠くに運ばれたに違いない。それは弥生時代から連続と続く「人の流れ・文化の流れ」であり、華やかな往来と賑わいがあつたに違いない。  
今 ここに立ってもまったくそれはわからないが……「たたら」は間違いないその証人といえる。



1996.10.10. 美祿にて 中西健夫

### 9.2. 山口県 福栄村 大板山たたら遺跡

隠れキリシタンの里のさらに山奥の「隠れたたたら」

1993.10.17. By M. Nakanishi



1993.10.17. 平成 5 年 10 月 17 日  
1993 年の秋 新聞に掲載された記事から、山口県と鳥取県の県境に近い福栄村の山中に「たたら遺跡」があることを知りました。  
山口県は山又山で、私の住んでいた美祿市も下度日本海と瀬戸内海の間真ん中の山の中の盆地なのですが、そこから秋吉台の山を越え、そこから日本海の海岸沿いに鳥取県益田へ続く低い山並が延々と続く。  
この山並の北側 日本海側には 萩 須崎などわずかに海岸沿いの平地があるが、リアス式の海岸がつづく。地層が層状の断崖となって見られるフォルンフェルトもこの須崎の海岸にある。  
また、一方 この山境の南側と中国山地主軸線の山並の間にはさまれて山口から徳地・津和野へと続く狭い平野がある。日本海とこの狭い平地の間にはさまれた低い山並に点々と旭村・川上村・福栄村・むつみ村・阿武町への山村がつながる。



むつみ村鍛冶屋の交差点・キリシタンの隠れ里、大板たたら遺跡への山合いの道

萩市に流れ注ぐ阿武川沿いに阿武川ダムへ通り、奥長門峠を越えてゆくと福栄村に入る。  
途中 むつみ村の山間の交差点には「鍛冶屋」の地名があり、最近まで鍛冶屋があつたという。

瀬戸内・山口市側からも 日本海・萩から福栄村にはどこからでも人里堆なれた山地を越えてゆかねばならない。北に萩 南に山口 東に津和野の街を控え、山によって隔絶された土地で 古くは平家の落人伝説 迫害を受けたキリシタンの隠れ里という。実際交通の良い瀬戸内海側や美祿から行くとも山又山を越えて越えてのころであるが、山に囲まれた明るい台地が広がっている。



キリシタンの隠れ里 福栄村「崇福」

山口のキリシタンといえば明治の初め津和野の乙女峠で殉教した 36 人の信徒が思い浮かぶが、山口は戦国時代キリシタン大名として栄華を誇った大内氏の領地であり、津和野・山口に近い隠れ里であるこの山間の台地には、あちこちにキリシタンの遺跡がある。「崇福」もそんな土地。萩や防府・長府の城下から遠く離れ、山又山を越えて隠れ住んだ土地であつたろう。山又山の中で見つけた明るい台地そんな気持ちが「崇福」の名の中に込められているような気がする。  
この至福の集落を抜け 大井川に遡ってゆく。全く人家が無くなり、この大井川の支流 山の川口に沿って車で 15 分程遡ってゆくダムサイトに出る。ここから先はダム湖に沿ってガタガタの石ころ道誰もいない道をさらに山奥へ詰めた突き当りの所に駐車場があり、「大板山たたら遺跡」の看板 少し、山の中に分け入った林の中に大きな石碑がありました。



大板山製鉄遺跡への入口 山のロダム湖

このダムの水の中に大板山たたら山内の半分が氷没している  
山の斜面につけられた小道を上ってゆくとその両側に遺跡発掘調査中のビニールシートがかぶせられ、かつてのたたら場三内跡が広がり、その所と頃にたたら屋敷・高殿・炭焼場・鉄池などの名称の小さい札がつけられ、高殿へ登ってゆく脇には地位さな沢の流れがありました。  
ほぼ地の場所のたたら場遺跡と同じような状況で林の中にひっそりと覆われていました。  
山肌をなでながら林の中を吹き抜ける風のざわめきと沢を流れる水の音そして 時折、甲高い鳥の音がこだまする。自然の中の真只中。

後日 わかったのだが、この製鉄遺跡は江戸時代 萩藩の隠密が発見した津和野藩の「隠したらら」という。この大板山に砂鉄無く、日本海側の港から砂鉄を選び、豊富なこの山の木炭で「たたら吹き」を行なったという。

本当に深い山中に隠れるように存在した理由がこれで納得。

「隠れ山のたたら場 ここで一入り残された大炭」の印象とともに、「このたたら遺跡も調査が終われば そのまま 誰も行かず、また朽ち果て 自然の中にうずもれるのだろうか・・・」。ダム湖の紅葉とともにこのたたら場が整備されればいいのだが・・・」と思いつつ、この遺跡を後にしたのを覚えています。

隠れ里の山奥に隠されたたたら場遺跡 それが「大板山たたら」でした。



【発掘調査中の大板山たたら製鉄遺跡 1993.10.17.】



今年 福栄村のインターネットホームページにこの「大板山たたら遺跡」が紹介されているのを見つけ、丁度訪問していた時はこの遺跡整備の為の発掘調査中であり、今はダムサイトに隣接したたたら遺跡公園に整備されている事を知りました。是非 再度訪問しようと思っています。

2001.12.23. 福栄村 大板山たたら遺跡をまとめつつ

「大板山たたら製鉄遺跡 概略」

『福栄村 大板山製鉄遺跡』インターネット ホームページ

<http://www.joho-yamaguchi.or.jp/fukuesho/kankoi6.html> より

山ノ口川上流に存在する江戸時代の製鉄遺跡。

「砂鉄七里に炭三里」と言われ燃料の木炭を豊富に生産できる大板山に立地し、また、砂鉄は鳥根県の三隅町から北前船を利用して、奈古港経由で搬入した。この遺跡での操業の時期は、江戸時代の宝暦年間(1751~64)、文化年間(1803~18)、安政年間(1854~60)の大きく3期にわたっています。このうち最後の安政年間の建物跡などが現在整備されています。山内と呼ばれる製鉄所には、製鉄炉のある建物(高殿)、事務所(元小屋)、鉄の炭加工場(鍛冶屋)、職人の住宅(下小屋)などの諸施設が設置されており全体が櫛などで囲まれていました。この遺跡の存在は萩藩が文化13年に津和野藩にはなった産業スパイの報告書でわかりました。また、幕末安政年間の操業では萩藩が建造した軍艦庚申丸の原料鉄はここで作られました。

現在では、山のロダムの建設によりたたら製鉄遺跡内の南半分が水没しており、高殿や元小屋のある北半分のみが保存されています。

平成2年度から平成4年度の3ヶ年間で遺跡の発掘調査及び保存整備計画策定を行ない、平成5年度から平成7年度の3ヶ年で保存整備工事を施工。

安政年間に操業した建物跡を中心に下記の遺構を保存整備。

高殿敷地の護岸、鉄池、元小屋、砂鉄洗場、高殿、小鍛冶屋、米蔵、庭園及び周辺施設等を整備し、総合説明板、施設の名称や内容を詳細に記入した説明板及び案内板を設置しました。

【整備された 大板山たたら製鉄遺跡 2001.12.23. インターネットより】



たたら炉跡

天秤稱跡復元

鉄池

10. 丹後国 古代 鉄の王国【1】

Iron Road【1】2000  
1996.10.2000.8

天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」

『日本誕生前夜 - 丹後国 の IRON ROAD -』  
tngoprint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1.

【内容】

- 10.1. 丹後国 古代 鉄の王国
- 10.2. 「羽衣伝説 天女の通った道は鉄の道」
- 10.3. 弥生時代3世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂・今井墳丘墓遺跡
- 10.4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳

【参考】

11. 丹後国 古代 鉄の王国【2】「もう一つの邪馬台国」

古代丹後国の大製鉄地帯 弥栄町 竹野川沿いの丘陵地  
tngo2print.htm

10.1. 『日本誕生前夜 - 丹後国の IRON ROAD -』  
天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」



丹後国 京都府峰山町赤坂。誰にも関係がないが、私の親父の故郷である。この赤坂で昨年弥生の大規模な墳墓が発見されたと聞いてビックリした。赤坂・今井墳丘墓遺跡である。

この地方が古代から開けた土地であり、この町のすぐ東に隣接した弥栄町から製鉄遺跡などの古代遺跡が続々と発見され、もしやと思っていました。本当にビックリした。

若くして大阪に出てきた父が生前口癖のように『丹後は山地水明の地…日本の中心』と言っていたのを思い出しています。この『たたら』の WALKING を始めた時には思いもよらぬ展開でただただ驚きの不思議さでビックリ。

日本国誕生以前の 3.4 世紀。この時期、大陸・朝鮮半島を含めた各地との交流は活発で、山陰地方では、四隅突出墓と呼ばれる方形の墳丘の四方に突出部を付けた墳丘墓が数多く作られた。その分布は出雲地方を中心に伯耆・北陸まで広がり、山陰の日本海側では出雲を中心とした政治的連携をもった大王国があった。

この時代 丹後には、出雲や他の山陰地方でみられ四隅突出型とは異なる大型の方形墳墓が築造され、数多くの鉄剣が副葬された大型墳丘墓遺跡や製鉄遺跡群の存在はこの地にも大きな独自勢力を持った古代鉄の王国があったことが窺える。



日本海側に点在する古代遺跡・丹後半島の古代製鉄関係遺跡【写真は大風呂南古墳 出土品】

日本の原像

第9回 鉄器登場

日本海沿岸に続く「道」

(朝日新聞 大阪版 夕刊より)

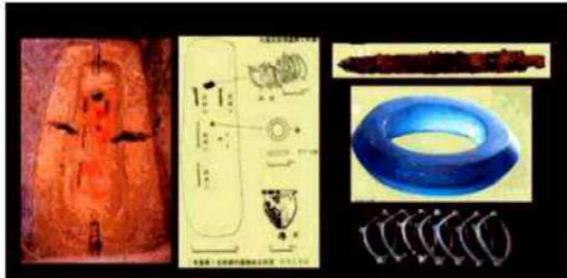
丹後半島のほぼ中央に大きな築造遺丘を有する峰山町赤坂今井遺跡・扇谷遺跡。野田川が流れる加悦・岩滝町にあり、非常に美しいガラス製の青い腕輪が多く鉄剣と共にほぼ完全な形で出土した岩滝大風呂南遺跡。そして丹後半島ほぼ中央竹野川が流れる下流の弥栄町の奈良岡遺跡・遠所製鉄遺跡を初めとした数々の製鉄遺跡などである。

『峰山町 赤坂』は、日本海に面した網野町から山合を通って峰山へ抜ける街道にあり、古くから丹後半島の険しい海岸を越らず、丹後半島の付け根を横断して岩滝町で若狭湾の海岸に出て畿内へとつながる道である。

網野の街から山間に入り、昭和の初め丹後大置の郷村の断層地帯を抜け、峰山盆地にでる手前が『赤坂』である。後で知ったのだが、産鉄民の数々の研究をされている柴田弘武氏の本によれば、この『赤坂』にある『…神社』は古代製鉄に関する遺跡と指摘されており、赤坂今井墳丘墓の発見で、この道が『日本海海岸から畿内へと続く古代 IRON ROAD』であるとの意を益々深くしている。また、この丹後地方には『浦島太郎』伝説や『羽衣』伝説が伝えられており、古くから大陸と独自の交流があり、丹後古代鉄の王国として大きな勢力をもっていた。

大江山に源を発した野田川が流れる丹後半島の付け根岩滝町・加悦町近傍にも大風呂南遺跡など多くの古代遺跡が点在し、丹後半島の壁としてそびえる大江山には『鉄』と関係づけられる『鬼』伝説がある。『羽衣』伝説も産鉄の民と深い関係があるとする説〔柴田弘武氏「風と火の古代史」〕もあり、鉄と関係づけられる大きな王国がこの丹後半島にあったことは、疑う余地はなく、その中心地は大江山に源をたづねる野田川が流れる下流加悦町・岩滝町近傍と比治山から流れる竹野川流域の弥栄町であろう。

【古代鉄の王国 丹後国の二つの中心地 竹野川・野田川流域】



1. 野田川流域 鉄の交易ルートをぎった首長の墓(推定) 大風呂南遺跡とその出土品



2. 丹後半島の中央部 竹野川流域  
京都府弥栄町 ニゴレ製鉄遺跡 発掘風景と峰山町 赤坂今井墳丘墓

『羽衣伝説』の天女が舞い降りた比治山一体は大砂鉄地帯であり、天女がこの比治山から下ってきた竹野川沿いには扇山遺跡などの製鉄と関係する遺跡が点在し、そして天女が安住した弥栄町船木の対岸には古代丹後の国の大製鉄所 弥栄町木橋宇鳥取の遺跡遺跡が存在する。

柴田弘武氏や谷川健一氏が言う「天女が通った道は製鉄の道」まさに竹野川を裏付けている。若干時期は新しくなるが、大和では前方後円形を呈する扇向型前方後円墳と呼ばれる墳丘墓が出現し畿内を中心に分布。また、尾張では前方後方形の墳丘墓が出現し東海を中心に分布圏を形成。このように日本各地では、墓の形を共有することによって政治的な連合関係を結ぶいくつかの地域・大王国が出現してくる。

大陸・朝鮮半島から鉄の技術を持って渡ってきた多くの渡来人が、既にいる人達と融合しつつ、全国に幾つかの大王国を作り、そんな中から大和が勢力を伸ばし、他を従え、日本誕生を成し遂げていった。まさに大陸から海を越えてつながる『Iron Road』の道筋が見えてくる。

2000.5.1. 神戸にて M.Nakanishi

【参考】 丹後半島の古代製鉄遺跡



- |            |          |               |            |          |
|------------|----------|---------------|------------|----------|
| 1. 弥栄2号墳   | 2. 扇山遺跡  | 3. 小谷遺跡       | 4. 橋本遺跡    | 5. 竹野遺跡  |
| 6. 扇山古墳群   | 7. 西小田遺跡 | 8. 上野遺跡       | 9. 丹谷北遺跡   | 10. 丹谷遺跡 |
| 11. 豊平遺跡   | 12. 小野遺跡 | 3. 成内遺跡       | 14. ニゴレ製鉄所 | 15. 丹波遺跡 |
| 16. カジヤコ遺跡 | 16. 鏡野遺跡 | 17. 和田野地区製鉄遺跡 | 22. 小谷遺跡   | 23. 船木遺跡 |
| 18. 丹波遺跡   | 19. 丹波遺跡 | 20. 輪谷遺跡      | 21. 金谷遺跡   | 22. 小谷遺跡 |
| 24. 弥栄製鉄遺跡 | 25. 船木遺跡 | 26. 船木地区製鉄遺跡  | 27. 船木遺跡   | 28. 船木遺跡 |
| 29. 小谷遺跡   | 30. 船木遺跡 | 31. 船木遺跡      | 32. 船木遺跡   | 33. 船木遺跡 |
| 34. 船木遺跡   | 35. 船木遺跡 | 36. 船木遺跡      | 37. 船木遺跡   | 38. 船木遺跡 |
| 39. 船木遺跡   | 40. 船木遺跡 | 41. 船木遺跡      | 42. 船木遺跡   | 43. 船木遺跡 |
| 44. 船木遺跡   | 45. 船木遺跡 | 46. 船木遺跡      | 47. 船木遺跡   | 48. 船木遺跡 |

丹後の国 古代鉄の王国  
10.2. 天女の通った道は鉄の道「羽衣伝説」  
峰山町に残る「天女」伝説 丹後国 IRON ROAD -  
hgrmpoint.htm by M.Nakanishi 2000.5.1.



【 磯砂山頂上にある羽衣伝説の碑 】

丹後地方には『浦島太郎』伝説や『羽衣』伝説が伝えられており、古くから大陸と独自の交流があり、丹後古代鉄の王国として大きな勢力をもっていた。『鉄』と関係づけられる『鬼』伝説の残っている大江山・野田川流域に対し、丹後半島・竹野川流域に伝わる『羽衣 天女』伝説もまた産鉄の民と深い関係があるとする説〔柴田弘武氏「風と火の古代史」〕もあり、この丹後の国の『羽衣・天女伝説』には強く惹かれる。

通常「鬼伝説」の伝承は古代産鉄民及び古代製鉄遺跡と結び付けられている場合が多く、その代表例としては、ほかにも、備前の「桃太郎の鬼退治」津軽岩木山周辺の「鬼太夫伝説」伯耆の国 溝口の「鬼伝説」などがあげられる。

そんな中で、柴田弘武氏著「風と火の古代史」を読むと「丹後の天女伝説」各地に広く流布されている大男「ダイダラポッチ」なども「たたら」製鉄の伝承と非常に密接な関係を持っていると言う。

古くから 聞かされてきた丹後の国の「羽衣・天女伝説」が「大陸との交流の伝承」とは思っていたが、古代製鉄と関係が有るとは考えても見なかった。しかし、丹後の国が古代鉄の大王国だったことと考え合わせるとその説にも納得させられる。峰山盆地のはずれ「羽衣天女伝説」の天女が舞い降りたとの伝承のある比治山一体の山・谷は古くからの大砂鉄地帯である。また、天女がこの比治山から下ってきた竹野川沿いには峰山町の扇山遺跡・赤坂今井墳丘墓遺跡など多くの製鉄と関係する古代遺跡が点在し、さらに弥栄町に入ると多くの弥生遺跡や古代の製鉄遺跡遺跡が点在する。そして天女が安住した弥栄町船木の対岸には古代丹後の国の大製鉄所 弥栄町木橋宇鳥取の遺跡遺跡が存在する。

古代史・古代たたら研究者 柴田弘武氏や谷川健一氏が言う「比治山から天女が川沿いに流れて下ってきた竹野川はまさに製鉄の道」を裏付けている。丹後半島の丁度中央にある峰山町に残る「天女」伝説の一つは和銅6年(713年)から天平にかけて献上された「丹後風土記」に記され、文字として残された日本最古の羽衣伝説です。謡曲「羽衣」は、この丹後のお話をもとにして作られました。そして、もう一つは、口承話として地域の人々が大切に語り継いできた羽衣天女のお話です

1. 和銅6年(713年)「丹後風土記」に記録されている  
丹後国 羽衣 天女伝説

丹後の磯砂山の中腹にある女池で8人の天女が水浴をしていたところ山麓に住む老夫が1人の天女の衣を隠してしまった。

天に帰れなくなった天女は、以後10年間老夫の子と酒を造り、機(はた)を織り、五穀の生産に勤み家を富ませたが、老夫は、天女がだんだん邪魔になり追い出した。天女は泣く泣く竹野川の祭具社に向かったという。

むかし、むかし、比治山の頂に真井という大きな澄んだ池がありました。その池に八人の天女が舞い降りて水浴びをしていました。それを見た里人の和奈佐という老夫婦が一人の天女の羽衣を隠してしまいました。

天に帰れなくなった天女はしぶしぶ老夫婦と暮らすことになりました。天女は酒づくりが上手でこの一杯の酒は万病にききました。この酒は高い値で売れ、たちまちこの老夫婦も比治の里も豊かになりました。

そのうち十年ばかりたち、豊かになった老夫婦は心変わりして天女を家から追い出してしまいました。

嘆き悲しんだ天女は、「天の原、ふりさけ見れば霞立ち家路までいて、行方知らずも」と天を仰ぎながら歌を詠みました。

流浪の旅に出た天女は泣く泣く荒れの村にたどり着き、その後、丹波の里の哭木(なきき)の村から祭具の里に行き、ここで落ちつきました。

この天女は祭具の社におまつりしている豊受大神で五穀、養蚕、酒づくり神様といわれ、その後豊受大神は伊勢神宮の外宮としてまつられています。

比治の里： 峰山町五箇・久次・舞留附近 竹野川の支流舞留川の源流五箇の南端磯砂山(いなさごやま)は比治山とも言い、この山の東側中腹にある女池が天女の舞い降りた真奈井だとされている。この比治山・舞留川源流域の山・谷間からは古代から豊富な砂鉄を算出する地帯であることが知られている。

荒れの村： 峰山町久次だとされている。

丹波の里： 峰山町丹波この地の弥生時代前期末の扇谷遺跡からは鉄斧が出土した。

哭木の村： 峰山町内記 この地にある名木神社にも豊受大神(天女)が祭られている。

祭具の里： 弥栄町船木の里とされている。

竹野川沿いのこの地の対岸には古代の大製鉄遺跡遺跡遺跡がある。このように伝説の天女は比治の里から竹野川沿いに下流へ流浪の旅を続け、峰山町丹波を通り、船木の里を安住の地としている。この天女のたどった竹野川沿いの道はまさに古代製鉄の道 丹後の国の大製鉄地帯と重なっており、まさに『羽衣伝説 天女流浪の道は鉄の道』である。

## 2. 丹後地方に伝わる口承説話 羽衣天女 七夕伝説

むかし、むかし比治の山の頂き近くに大きな美しい池がありました。  
その池に八人の天女が舞い降りて水浴びをしていました。天女が農業、養蚕、機織りの業をおかして里は豊かになりました。  
そのうち、天女は天が恋しくなって、隠してあった羽衣をつけて天に帰りました。  
その時、三右衛門に七日七日に会う約束をしましたが「あまのじゃく」は七月七日と偽って伝えました。  
一年に一度しか会えないと思った三右衛門は天女を慕うあまり、夕顔の蔓を登って天上に上がり、天女に会うことができました。  
天女と暮らしたい三右衛門は、天の川の架橋づくりを請け負いました。  
橋が完成するまで天女を思いだしてはいけないという約束を破ったとたん、天の川は洪水になって、三右衛門は下界に追い出されてしまいました。  
そして、七月七日の夜には天女が天の川のきらめく星となって三右衛門と三人の娘に会いにやってくると言うことです。



古代遺跡がならぶ弥栄町竹野川流域



峰山町 赤坂今井墳墓遺跡

弥栄町 造所製鉄遺跡

工法上もかなりの労働力を費やしたである。  
また埋葬施設の基壇（こう）は、丘上の平坦な面からは六基、テラス部分からは七基の計十三基が見られている。  
岩滝町大風呂墳墓など丹後半島の弥生時代後期のお墓からは多量の玉類や、鉄製品が出土することで全国的にも注目を集めているが、墳丘中央部に位置する最大の墓壇は長さ約十四メートル、幅は八メートル前後とみられ、弥生時代では国内最大。  
それ以外の墓壇からは、珍しい舟形や箱形木棺跡のほか、鉄製のヤリガンナ、短刀、鉄鏝（ぞく）（かめ）なども見つかった。

（赤坂今井墳墓・今井城跡 峰山町現地説明会資料より抜粋 アレンジ）

by M.Nakanishi 2000.5.1.

## ● 赤坂今井遺跡探訪 2000.8.26.

私が赤坂今井遺跡を訪れたのは暑い夏の夕方、弥栄町の造所・ニゴレ遺跡の後に建っている「味のいの郷」を訪れた後、従兄弟の家へ寄った時である。峰山の街中から網野への街道の峠を越えて赤坂の集落に入り、赤坂の集落を抜けてその北の外れの丘の上が赤坂今井遺跡。  
丁度発掘調査がされている途中であった。  
網野への街道沿いの祖父たちの墓が在る丘のすぐ北隣の丘で本当に親父の実家のすぐ近所、あまりにも近い場所に遺跡があったのでビックリした。



遺跡の北の端の所から遺跡に上がって行くと幾人かの人が忙しく発掘調査をしている所だった。小さい時から、一度となく見上げてきた森が「古代 丹後の鉄の大王国」を纏めてきた豪族の墓、そして通いながらこの街道が日本海を渡ってきた古代渡来人が海岸から畿内・都へと通った「鉄の道 iron road」と思うと一層感慨深い。小さい時には思っても見なかった事である。  
遺跡のポイント取っていないので、周りから眺めていたが、チョット遺跡のスナップ写真を取ろうとすると「カメラリ」が調査員から落ちた。「勝手に遺跡の写真を撮るとな教育委員会へ行って許可貰って遺跡にこい」と。「まあ、なんと閉鎖的な、滅る物でなしじやまをしたわけでもないのに・・・」とこれはこっちの勝手な言い分。でも、チョットは頭に来ました。  
今年はその山内丸山遺跡の開放的な空気を知っているだけに・・・  
まあ、これからは、峰山町の赤坂には行く機会もあり、ゆっくり訪問したいと思いつつ遺跡を下りました。



赤坂今井墳墓遺跡遺跡【1】 峰山町

## 10.3. 丹後国 古代 鉄の王国 『Iron Road』

### 赤坂今井墳丘墓遺跡

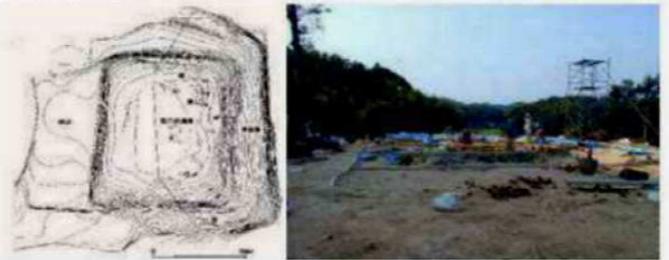
一弥生時代後期 国内最大級の墳丘墓 — 京都府 峰山町  
akskaprint.htm 2000. March by Mutsuo Nakanishi



京都府中部峰山町赤坂で、弥生時代後期末（三世紀ごろ）の国内最大級の方形墳丘墓が見つかり「赤坂今井墳丘墓」と命名された。

当時この地は天然の良港であった浅茂川湖から農耕の中心地である中部盆地へ至る交通路の途中の谷筋に沿った丘陵地に位置し、南北 37.5m、東西 32.5m の方形で、高さ 3.5m、周囲に幅 5.6m のテラスがある。

弥生時代の大型墳丘墓には、橋梁遺跡（岡山県倉敷市）などがあり、赤坂今井墳丘墓もこれらに近い国内最大級の大きさで、被葬者は日本海沿岸の強大な首長の一人だったとみられ、墳墓の規模・形式の差などから、出雲や畿内と違う巨大勢力の存在がうかがえ、「古墳時代に先立つ弥生期に、すでに丹後に強大な大王国権力者が存在し、九州や朝鮮半島、中国との独自の交流、貿易を基盤にしていた」ことを裏付ける遺跡である。



赤坂今井墳丘墓主体部配置図

これまでに見つかった弥生時代の墳墓は、大風呂南墳墓を含めて、墳丘を大きく意識したものでないのに対し、墳丘の築造は、後方の山を切り崩し、新たに盛り土で形を整えている。規模だけでなく



赤坂今井墳丘墓遺跡遺跡【2】 峰山町【赤坂今井遺跡 発掘現場 2000.8.26.】

この古墳が作られた3世紀から 古墳時代へと時代が下っていく過程で、渡来人が鉄をもたらした。この丹後が一大鉄の生産加工基地となり、大和の国形成の重要な役割を果たした。

今は本当にひっそりとしたこの下の街道を当時はにぎやかに多くの人たちがとおり、多くの物産と共に「鉄」が運ばれたに違いない。まさに 日本誕生に大きな影響を与えた「鉄の道 iron road」が思いもかけず身近に現われた。

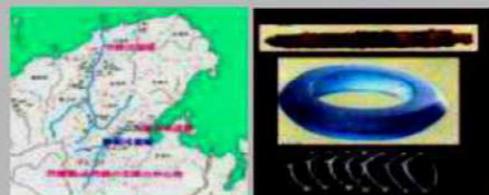
だとすると 僕のルートもこの鉄の道に關与した鉄の渡来人の末裔か……

ほんとうに 親父の実家や墓のすぐ隣の丘なのにビックリ。

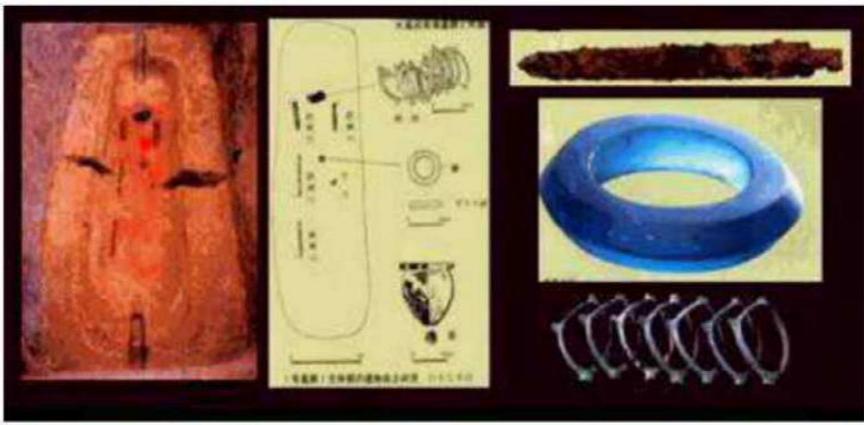
2000.8.26. 午後 京都府 峰山町赤坂にて M.Nakanishi

## 丹後国 古代鉄の王国 『Iron Road』

### 10.4. 美しいガラス腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南遺跡



大風呂南墳墓群は多くの古代遺跡がある野田川流域の河口近い岩滝町にあり天橋立を隔てて若狭湾につながる阿蘇海沿岸部に隣接する丘陵の上にあり、海を見下ろすことが出来る。

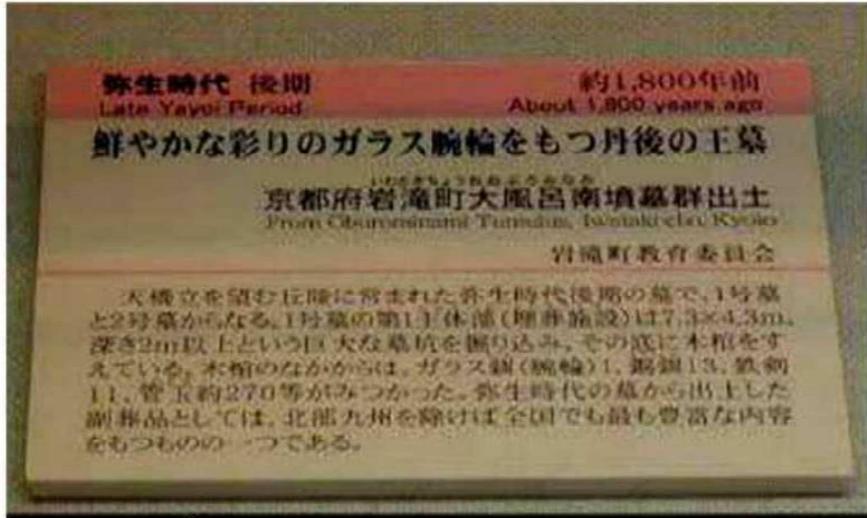


発掘調査の結果、弥生時代後期項半から末期にかけて造営された2基の墳墓から5つの墳墓主体部が出土した。特に丘陵先端部の1号墳墓からは豊富な副葬品が出土し、弥生の首長級の墳墓と見られている。

1号墳墓では 巨大な木をくりぬいて作られた木棺の内側にはあざやかな朱が塗布され、埋葬者の頭の上側に9本、また両脇とその近傍に4本の鉄剣が置かれ、腕にはめられていたと推定されるあざやかな 青色を発するガラスの腕輪が出土した。

また 頭の上側には貝輪系の銅釧や鉄釧などの武具 勾玉など この時期他の遺跡では類を見ない多数の副葬品が埋葬されており 埋葬されている人物の権力の程が見える。

丹後 古代 鉄の王国【1】  
「羽衣伝説」天女の通った道は「鉄の道」  
〔完〕



もう一つの邪馬台国『和鉄の道 iron road』

11. 丹後国 製鉄コンビナート 遠所遺跡 [Iron Road 1] 2000  
tngo2.htm by Mutsuo Nakasnishi 2000.5.20. 1995.10.2000.1



1. もう一つの邪馬台国 -丹後の国の重要性- tngo2print.htm  
\*\*\* 丹後の国の重要性 \*\*\*
2. 弥生町 遠所製鉄遺跡 yskaenjyoprint.htm  
\*\*\* 丹後の国 古代最古の製鉄コンビナート \*\*\*
3. 遠所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷 yskafepprint.htm
4. 遠所遺跡原料 高チタン系砂鉄の謎 yskatiprint.htm  
\*\*\* 現在の溶接材料につながる高チタン滓系 \*\*\*
5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪 1993.10.10. yskangreprint.htm

11.1. 『和鉄の道 iron road』丹後国の重要性



畿内から弥生時代の先進的な遺跡が徐々に発見され、邪馬台国の所在地論争の畿内説を唱える人々の大きな根拠になっている。野洲・守山を中心とした銅鐸文化圏や奈良盆地の大集落で大きな望楼をもった『唐古・鍵遺跡』そして 大型建造を持った『和泉の池上遺跡』などである。しかし、これらの先進文化を『鉄器』の面から見ると北九州文化圏に較べると圧倒的に鉄器は少ない。それが、古墳時代 大和朝廷の骨格があらがらくなってくと畿内では、巨大な前方後円墳と樹大な鉄器を持って登場してくる。

大和朝廷成立には、明らかに『鉄器文化』が大きな影響を与えているが、『その鉄器文化がどのような経路で畿内に入り、日本誕生に影響を与えたか』は邪馬台国論争とともに『日本誕生』の大きな謎である。



伊勢遺跡群の独立棟持柱建物跡 滋賀県守山市  
奈良唐古・鍵遺跡の望楼 奈良県田原本町  
和泉池上遺跡大型構造物 大阪府泉大津市

一方最近の各地での発掘から、日本誕生に役割を演じた「もう一つの邪馬台国『鉄の大王国』」の解明が進み、新しい史実をこの日本誕生・邪馬台国論争に付け加えつつある。

『大陸・朝鮮半島から畿内へ 日本誕生をもたらした鉄の道 iron road-』。そしてこの『iron road』に沿って存在した数々の『鉄の大王国』。日本誕生に関わった北九州・筑紫の国 吉備の国 出雲の国などの『鉄の大王国』と共に最近の数々の遺跡発掘から、伯耆・丹後の鉄の王国 そして 越の国の存在が日本誕生に重要な役割を果たしたとして、俄かにクローズアップされてきている。

古代には 北九州から 瀬戸内を経て 大阪湾・熊野から 河内を運って畿内へ抜ける文化の道 IRON ROAD が常に意識されてきた。しかし、最近の新しい発見から、大陸・朝鮮半島から直接の道も含めて、日本海沿い山陰の「iron road」が重要視されている。

また、これら山陰の国と畿内を結ぶ琵琶湖湖岸の近江の国の存在も重要であることが明らかになってきた。特に畿内と日本海を結ぶ最短距離の位置にある丹後の国には鉄の一大コンビナートが存在し、また琵琶湖北岸の熊野本製鉄遺跡にみられる一大鉄の工場の存在が判り、この丹後の国の鉄が畿内へ持ち込まれ、日本誕生に大きな役割を演じた考えられるに至った。

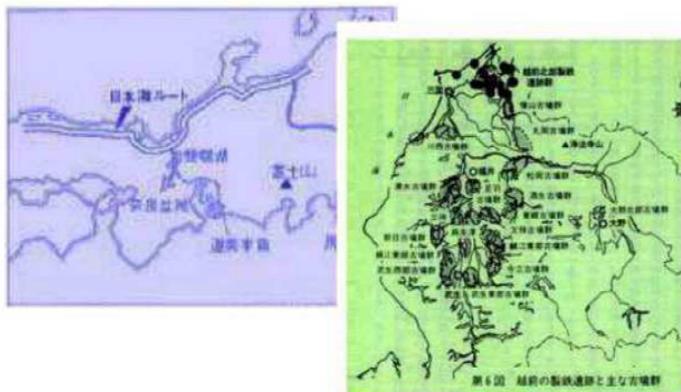


丹後国 遠所製鉄遺跡群と古代丹後国から畿内への鉄の道筋

日本誕生前夜の時代 丹後では大量の砂鉄を各地から集め、精錬から鍛冶道具作りまで、北九州や出雲・伯耆・吉備を含めても他に例をみない大規模な製鉄コンビナートがあり、ここで精錬加工された鉄が畿内大和政権の強力な支柱として畿内に持ち込まれ、大和政権勢力伝播の柱として使われた。(弥生町遠所遺跡群)

また、継体天皇は越の国から畿内に入ったといわれており、これも越の国の鉄を背景とした政権交替とする説もある。

これらが示すとおり「Iron Road」が大陸・朝鮮から 丹後の国を経て 畿内そして東海・信州方面へとつながっていったといわれている。



## 古代の日本海を巡る『Iron Road』と 越の国 製鉄遺跡群

十数年前 茨城県波崎砂丘・千葉県九十九里浜で風に舞っていた巨大な砂鉄の面白さに付かれて始めた「たたら」訪ねての country walk。

対馬 北九州から 中国山地・出雲・吉備を手始めに房総・三陸・久慈そして津軽へ。柏耆・丹後・千種へも 今また 関東・東北へ。

山口県土井竹浜の弥生遺跡 多くの異邦人が大陸を眺めつつ何百体も眠っている姿を想像しつつ、日本海に沈む夕日を見て 大陸からつながる道が 出雲のヤマタノオロチ伝説 丹後の羽衣・浦島太郎伝説など大陸文化の匂いを感じつつ線になってつながればなあ…と何とはなしに考えていたが、今は、はっきり「Iron Road 鉄の道」として 日本誕生に大きな役割を演じてきた道としてつながってきた。大和朝廷成立後も東北征伐の鍵を握った鉄製武器。そして 奈良・平安のあの巨大木造建築群を支えた鉄製の釘や加工用具。刀鍛冶・鉄砲伝来から 近代日本の成立へ。

Country Walk を通じて知った多くの人達との出会いもふくめ、この「Iron Road Country Walk」の楽しみは尽きない。

2000. 5. 20. M. Nakanishi

### 【参考】

サイバー古代 ホームページ by The Yomiuri Shinbun Osaka Head Office, 1998

特集 日本海鉄器ルート「もう一つの邪馬台国」

<http://www.ultra-k.com/kodai/jyo/old/tokusyu/tokusyu.htm>

by Mutsuo Nakanishi , 2000. 6. 4.

## 11.2. 丹後の国 古代初の大規模製鉄コンビナート

### 弥栄町 遠所製鉄遺跡

yskaenjyo.htm by Mutsuo Nakanishi, 2000. 6. 4.



### 1. 古代製鉄の起源

—朝鮮半島から渡来した

「鉄鉱石」精練と「たたら砂鉄」精練 - 弥生時代の確実な製鉄遺跡が発見されていないので、弥生時代に製鉄はなかったというのが現在の定説であります。しかし、弥生時代中期には、すでに、国内各地で鑄造・鍛造された矛、剣、農具、漁具、工具が増えてきており、中期の中頃には朝鮮半島 南部から輸入された鉄ていを使用して、国内での鍛造(金槌などで金属塊を叩

いて成型する工法)が始まり鉄器の種類や形態にも地方差が現れてきます。

### 2.1. 古代 大和の国術製鉄コンビナート 遠所遺跡



丹後地域の古代製鉄遺跡群  
遠所遺跡と竹野川中流 製鉄関連遺跡

丹後地域で出土した鉄生産に関連する古代遺跡は 48 遺跡の多数にのぼり、この地域が鉄の主要生産地であったことを示している。丹後地域における古代鉄の歴史は 弥生時代の峰山町扇谷遺跡からの鉄弁ならびに鍛冶生産の開始を示すフイゴ羽口・砂鉄系鍛冶滓の出土及び峰山町途中丘遺跡の磁石系滓の出土などにはじまり、弥栄町奈具岡遺跡からは大量の鉄片や鉄製品が出土し、鉄器加工が行われていたと推定されている。その後 古墳時代中期まで、丹後地方での鉄生産に関する資料はみいだされていないが、古墳時代中期以降 加悦町作山2号墳や大宮町左坂古墳久美浜町大塚古墳など丹後地域の各地から鍛冶精練関係の資料が見出されるようになり、その中心に遠所製鉄遺跡が置かれる。遠所遺跡は弥栄町と網野町との境に近い木橋・鳥取の集落に近い丘陵地から発見されたわが国最古級(六世紀後半～八世紀後半)の製鉄コンビナートで、東西 400m・南北 800mにおよぶ大規模なもの。



遠所製鉄遺跡 2000. 8. 26.

また、弥生時代には、大がかりな稲作が始まっており、これらの生産効率の上昇の為に鉄器が急速に普及し、これら鉄器製造の専門技術者も存在することが出来たと考えられています。しかし、これら鉄器に加工されたすべての鉄原料は朝鮮半島からの輸入品であったと見られています。古墳時代(3世紀末7世紀)になると、青銅器と共に多量の鉄器が発見されておき、砂鉄を原料とした製鉄炉が京都は丹後半島の遠所遺跡(5世紀末)や岡山県の大蔵池南遺跡(6世紀末)などで見つかっています。現在発見されている日本の古代刀(上古代刀)は、稲荷山古墳の鉄剣のような古墳出土のもの、正倉院や石上神宮などに所蔵されているものがあります。これらの中で、4～6世紀初めのもは百練刀に見られるような鉄鉱石から生成されたものであり、6世紀以後のものは、砂鉄から作られたものと推定されています。この様に鉄のルーツには大陸・朝鮮半島に起源をもつ「鉄鉱石」精練と日本で急速に発達した「たたら砂鉄」精練の二つがあり、特に出雲・柏耆・丹後など日本海沿岸でスタートし、その後日本で固有の技術として急速に発達した砂鉄精練・たたら製鉄の起源については謎に包まれています。この「たたら砂鉄」精練誕生には、5～6世紀にかけて、日本に深く関係が深く、鉄素材の産地であった任那を含む加羅地域が百済や新羅に押され、鉄ていの入手が困難になったことか大きな影響を与えたと考えられています。今のところ、確実と思われる日本での製鉄遺跡は6世紀前半まで溯れますが(広島県カクログ谷遺跡、戸の丸山遺跡、鳥根県今佐屋山遺跡など)、5世紀半ばに広島県三原市の大成遺跡で大規模な鍛冶集団が成立していたこと、6世紀後半の遠所遺跡(京都府丹後半島)では多数の製鉄、鍛冶炉からなるコンビナートが形成されていたことなどから、5世紀には既に製鉄が始まっていたと考えるのが妥当と思われると思います。いずれにしても 朝鮮半島から海を渡ってきた渡来工人によってもたらされた製鉄技術がさらに発展し、6世紀頃には広く日本で製鉄が行われていました。

### 2. 遠所製鉄遺跡とニゴレ製鉄遺跡



丹後半島 弥栄町 竹野川流域

古事記によれば応神天皇の御代に百済(くだら)より韓鍛冶(からかぬち)卓素が来朝したとあり、また、敏達天皇12年(583年)、新羅(しらぎ)より優れた鍛冶工を招聘し、刃金の鍛冶技術の伝授を受けたと記されています。この製鉄法は、鉄鉱石による製鉄法で大和朝廷の中枢を形成する大和、吉備に伝えられ、古代日本誕生初期には中枢の最重要な技術であったに違いない。

一方、出雲を中心とする砂鉄製鉄の系譜は、やがて、伝来した技術のうち箱型炉製鉄法を取り入れて、古来の砂鉄製鉄と折衷した古代たたら製鉄法が生まれ、6世紀後半には、日本海側で畿内に最も近い丹後の国に製鉄から鉄製品までの大一貫製鉄コンビナートが出現し、数世紀に渡り大々的に畿内へ鉄製品を供給して行く。丹後半島の中央部弥栄町で発見された遠所製鉄遺跡の出現である。

### 11.3. 遠所遺跡の製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷

日本最初の大規模一貫製鉄コンビナート  
yskafe.htm by Mutsuo Nakanishi 2000. 6. 9.



弥生町 遠所遺跡 (免掘当時)

現在のところ、製鉄炉・鍛冶炉・炭窯・古墳・住居跡などが確認され、生産と生活の場が同じだったことや、約百人がこの一帯で作業し、高度な技術で一日に1kgの鉄が長期にわたって生産されていたと推定されている。

この遠所遺跡の東側に隣接して8世紀後半ならびに9世紀後半～10世紀初頭の製鉄炉を有する製鉄遺跡「ニゴレ遺跡」がある。また、遠所遺跡から東側 竹野川の対岸の丘陵には6世紀中期から9世紀前半の製鉄炉・炭窯などを持つ黒部製鉄遺跡がある。

6世紀後半遠所遺跡で始まった丹後の国のたたら砂鉄精錬が8世紀後半最盛期を迎え、黒部遺跡・ニゴレ遺跡へとほぼ同じ地域で連続と続いて行く。この竹野川中流の弥生町鳥取・木橋の地域はまさに丹後の国の一貫製鉄地帯であった。

遠所遺跡では、特に製鉄炉の出土は重要で周辺の他の製鉄遺跡が鍛冶炉の単独遺跡であるのに対し、多数の製鉄炉鍛冶炉の両方を有する原料から鉄製品までの一貫製鉄生産が数世紀に渡り、大規模に行なわれている事は他の地域では見られない大きな特徴で、日本における大規模一貫製鉄生産はこの丹後の国遠所遺跡で始まったといっても過言でない。

出雲など他の山陰地方での古代製鉄においても遠所遺跡のごとく同じ場所で大規模に行なわれた例は見られない。また、この遠所遺跡での鉄原料が丹後地方の砂鉄ではなく、他の地域から大量に持ち込まれたものであると考えあわせると、畿内大和朝廷にとって この製鉄コンビナートが極めて重要な国産工場であったことと良く符号し、奈良時代後半まで国産工場として維持されたと見られている。

#### 遠所遺跡群鍛冶工房跡



遠所遺跡立看板より  
古代 当時の鍛冶工房の様子と鍛冶製鉄炉跡

by Mutsuo Nakanishi 2000. 6. 9.



図 遠所遺跡と製鉄炉発見場所

ここ遠所遺跡群では製鉄炉が4ヶ所から見ついている。(0地区 A地区 E地区 S地区) 遠所遺跡では精錬済その他の出土から5世紀末～6世紀初頭にかけて製鉄を行っていたと推定されているが、製鉄炉遺構そのものの発見は遺跡中央の谷間の0地区水田面から発見された6世紀後半の古代製鉄炉遺構が最も古い。

その後 空白期があり、8世紀後半の遺構として、丘陵先端部をL字形にカットした扇形の平坦部(A地区)や 丘陵谷部の平坦地(E S地区)に構築された製鉄炉遺構発見されている。

(京理社遠所遺跡現地説明会資料 89-07, 90-04, 90-12より)

#### 1. 日本で発達した古代製鉄炉の形式



古代の製鉄炉には箱型炉と竪型炉があり、西国では箱型炉 東国では竪型炉が当初発達した。箱型炉は6世紀古墳の国ではじまり、西国・畿内から全国に広がったと言われている。丹後の国でも遠所遺跡に見られるごとく6世紀後半には箱型炉での製鉄が発達した。一方 竪型炉は8世紀初頭関東ではじまり 東北へ展開されて行く。

図 古代製鉄炉推定 箱型炉と竪型炉

#### 2. 遠所遺跡の製鉄炉と丹後の国の製鉄炉の変遷

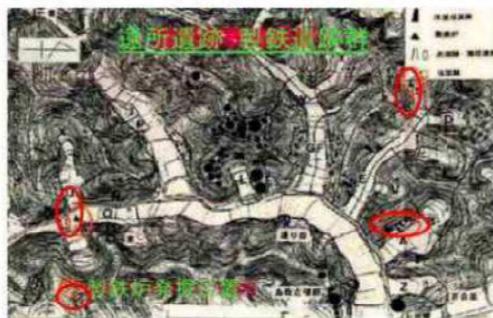


図 遠所遺跡と製鉄炉発見場所

##### 2.1. 遠所遺跡0地区出土の6世紀後半の製鉄炉



0地区から発見された製鉄炉は大部分崩壊していたが、浅い影り込みと基礎となる石組部分が見つかり、方形の箱型炉であった。この製鉄炉の南側の地形が急に落ち込み、鉄滓や炉壁が大量に捨てられていた。製鉄炉の床面に3列計8石の敷石が残存し、内部は粉炭層が充填され防湿の配慮がなされている。

6世紀後半出土の製鉄炉【溝付き箱型製鉄炉】略図

##### 2.2. 遠所遺跡隆盛時の製鉄コンビナートA地区 8世紀後半出土の製鉄炉遺跡

丘陵先端部 A地区からは8世紀後半の製鉄炉5基が見ついている。この地区からは炭窯や須恵器焼成窯や竪柱建物 竪穴住居などが出土。その遺物は6世紀末から10世紀にわたっていますが、大半は8世紀後半のものでした。製鉄炉は丘陵裾部分を「L」字型にカットした平坦部に作られており、花崗岩の岩盤を掘り、炉の基礎にしたもので長さ2.0Mx幅0.3Mx深さ0.1Mが赤く変色。この影り込みに粉炭層が充填されている。同じような丘陵の傾斜地E地区からも8世紀後半の製鉄炉1基が見ついている。8世紀後半は奈良時代後半にあたり、遠所遺跡での製鉄が最も隆盛を極めた時代である。また この地域や隣接地域からの砂鉄の貯蔵庫や鍛冶炉の発見 製鉄精錬や鍛冶精錬の出土により、この地域ではこの時代 原料から製鉄精錬 鍛錬 製品加工までの一貫生産が大規模に行われていた事が判った。

##### 2.3. S地区 奈良時代後半の製鉄炉出土

丘陵谷間の平坦地(S地区)から製鉄炉が出土。しかし、周りからは鍛冶炉は出土せず、ここで作った鉄をA地区などに運んで鍛冶・加工していたと推定されます。

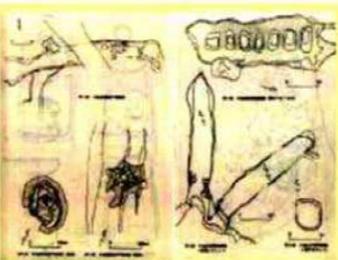
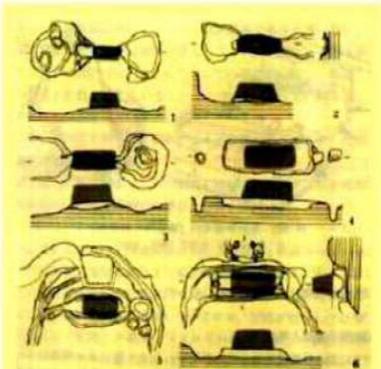


図 丹後国 箱型製鉄炉精練



図 箱型炉 炉と天秤輪のイメージ図



古代・中世 各地の箱型炉



図 古代・中世におけるさまざまな製鉄炉

#### 第11図 古代・中世におけるさまざまな製鉄炉

- 1 福原早岐瓦下遺跡 (7世紀後半)
- 2 千栗原若林1遺跡 (8世紀前半)
- 3 福島県向田石遺跡2号炉 (8世紀前半)
- 4 富山県石丸部遺跡 (9世紀前半)
- 5 広島県大矢遺跡 (11世紀)
- 6 広島県石神遺跡 (14世紀中～15世紀前半)
- 7 福島県向田C・D遺跡1号炉 (9世紀前半)
- 8 青森県大館森山遺跡3号炉 (9世紀後半～10世紀)
- 9 熊本県大峰遺跡 (8世紀)

1～6は箱型炉、7～9は竪型炉である。1は古墳時代後期に吉備地方で成立した炉から発達したもので、当時の最先端技術として最初に各地に伝えられた炉である。その後、箱型炉は各地でさまざまな展開し、とくに中国地方では近世までの成立に向けて独自に発展する。竪型炉はまた全国に拡がり、地域ごとに定着の在り方が異なる。なおトーン部分は炉の大きさを示し、正確な形態・大きさを示すものではない。

### 3. 遠所遺跡の製鉄炉につながる黒部遺跡・ニゴレ遺跡製鉄炉の変化



6世紀後半の製鉄炉出土以降遠所遺跡では8世紀後半まで遠所遺跡では製鉄炉が見つからない。  
この空白期埋める製鉄遺跡として竹野川の対岸 黒部製鉄遺跡があり、8世紀中頃～9世紀前半にかけて12基の製鉄炉が出土。また8世紀後半遠所遺跡A地区の製鉄炉4基ほか隣接するニゴレ遺跡(主に9世紀後半～10世紀主)から9基の製鉄炉が発見。  
これら丹後半島弥栄町の竹野川中流域の丘陵地に存在した一大製鉄コンビナート古代古墳時代から日本誕生・大和朝廷の勢力を支え、そして 奈良時代後半衰退していった丹後の国の製鉄コンビナートの衰退が明らかになった。製鉄炉から見るとこの地域における製鉄精錬は6世紀後半から9世紀にかけて『遠所遺跡→黒部遺跡→黒部・遠所遺跡→ニゴレ遺跡』へと移っていった。  
この間、鉄の生産量が激変するとともに製鉄炉の大きさ・形式も大きく変わり、さらに精錬に用いられた砂鉄原料も大きく転換している。

#### 3.1. 遠所遺跡の製鉄炉 下部構造を持つ大型箱型炉

6世紀後半及び8世紀後半の製鉄炉はいずれもU字型に溝をほりそのなかに粉炭層を引き詰めた下部構造を持ち、長さ2.0Mx幅0.3Mx深さ0.1Mの比較的浅いが大きな下部構造でその上に築造される箱型炉も大型であったことが推定される。

#### 3.2. 黒部遺跡の製鉄炉

下部構造を持つ大型箱型炉  
→下部構造を持たぬ小型箱型炉へ

黒部製鉄遺跡は8世紀代特に大半は8世紀後半の遺跡で9基の製鉄炉が出土している。  
この製鉄炉の大半は遠所遺跡でみられる炉底に溝を持つ下部構造のある箱型炉であるが、9世紀前半の製鉄炉として下部構造の無い小型炉も同時出土。  
この遺跡では二つの形態の製鉄炉が同時期に存在していたことが判った。  
下部構造を持たない製鉄炉では自然のくぼみに粘土が充填されており、平坦化されたその上に炉が築造されたと考えられている。  
また 出土した遺物の分析からこの2つの形態は9世紀前半並存していたことが判明しています。



黒部遺跡で見つかった「下部構造有り(左)・無し(右)」両タイプの製鉄炉

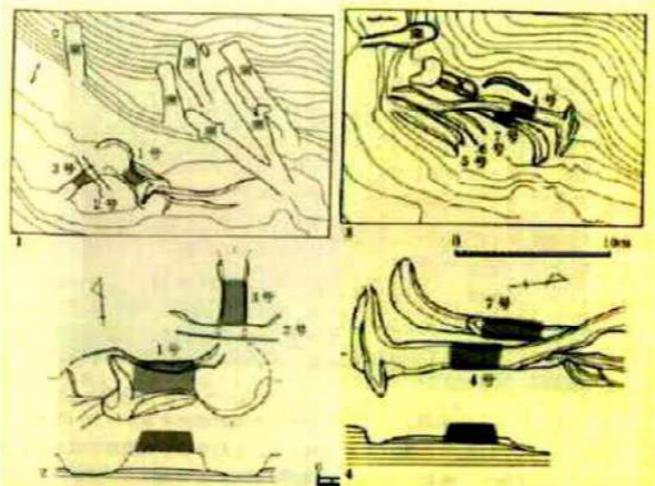


図 下部溝を持つ大型箱型製鉄炉 8世紀後半～9世紀  
図 下部溝の無い製鉄炉 連続移動 8世紀中～後半

#### 3.3. ニゴレ遺跡



遠所遺跡に隣接する製鉄遺跡で8世紀後半の下部構造を有する大型箱型炉と10世紀前半の下部構造を持たない小型炉が出土している。下部構造を持つ製鉄炉で長さ4.5M X 幅1M X 0.5Mの下部構造を持ち粉炭層が敷き詰められており、遠所遺跡にみられる大型の箱型炉である。一方10世紀前半の遺構である下部構造を持たぬ製鉄炉では、一辺が約80cm程度で徐々に山手へずらしながら築きおしている。

以上のごとく 遠所遺跡で始まった丹後の国の古代製鉄は8世紀後半 大和朝廷の国産製鉄コンビナートとして箱型の大型炉と鍛冶炉を備え遠所・黒部遺跡で全盛を迎える。  
この時期には他の地域から大量にチタン系の砂鉄が持ち込まれ、鉄の大量集中生産が行なわれると共に鉄製品への加工も集中して行なわれた。出来あがった鉄の製品・半製品は若狭から近江の国に集められ、琵琶湖岸から飛鳥・奈良へ送られていった。  
9世紀後半～10世紀にかけて大和朝廷の基盤が固まり、畿内での鉄の需要の変化 また他の国からの鉄が畿内に入ってくるようになり、丹後の国の鉄の価値が相対的に衰退し、それに伴って製鉄炉は小型小規模になり、製鉄原料も丹後の国内産のものが見つかるように変化する。

この丹後の国の製鉄の衰退時期と呼応して 東北地方の蝦夷征伐にたいする東国における鉄の需要は大きくなり、福島県原町金沢にある金沢製鉄遺跡は畿内大和朝廷の兵器庫「行方の製鉄」として隆盛を極める事となる。

日本誕生とその後 大和朝廷の勢力の伸展と密接に鉄が関わり、日本誕生におきな役割を果たした古代山陰の鉄の王国はその役割を終えて「鉄の道」の重要性は北・東国に移って行く。

いまは静かな田舎の風景がひろがる丹後半島。  
「山高く、水清く、人うるわし」 日本一の国として父が自慢していた丹後の国に色々歩いてみると日本誕生の歴史を作った「Iron Road 鉄の道」があった。  
小さい時に良く行った丹後の地の展開に自分なりに驚いている。

By Mutsuo Nakanishi 2000. 6. 7.

### 11.4. 遠所遺跡 高チタン系砂鉄原料の謎

他国産砂鉄原料での精

現在の溶接材料精錬に生きる高チタン系

yakati.htm by Mutsuo Nakanishi



京都府埋蔵文化財研究センターでの遠所遺跡発掘調査報告によれば、製鉄原料として使われた砂鉄に極めて特異な特徴が見られる。  
「6世紀後半の製鉄炉が発見された「0地区」をはじめ、遠所遺跡の各所で発見される砂鉄は、丹後半島で現在採取される砂鉄とは異なり、極めて高いチタン酸化物を含んでいる。一方、丹後地方で得られる砂鉄はチタン酸化物量が少ない。他の地域から砂鉄原料が持ち込まれている。」  
この様に丹後地方には沢山の砂鉄原料がありながら、他の地域から大量の高チタン系砂鉄が持ち込まれ、製鉄がおこなわれたのはなぜか?  
しかも、後世では 高チタン系砂鉄は使いにくいとされ、低チタン系砂鉄の産地に製鉄業のものが移っていったのに・・・・・・。  
また、丹後の製鉄が衰退してくる9世紀には丹後地方で産出される低チタン系の砂鉄へと代わっている。 興味の有るところである。  
一般にチタン酸化物は、溶融点が高く、溶融しにくいばかりでなく、溶融して出来た湯が非常にネバく、精錬時に「糊つき」現象などのトラブルを起こしやすいことから、後世では、チタン酸化物の多い砂鉄は嫌われてきた。 特にたたら製鉄法が大きな飛躍をげた近世江戸時代、チタン酸化物含有量の少ない出雲の砂鉄が他地域を次第に陵駕してゆき、出雲・中国地方が製鉄の中心地となった。  
また、大陸から朝鮮半島を経て日本へ伝わった製鉄技術は当初 チタン酸化物含有の少ない鉄鉱石原料を用いられていた。そして、日本で大量にある砂鉄に出会い、砂鉄を原料とした製鉄へと変遷して行く。朝鮮半島から吉備地方に伝わった箱型炉製鉄が日本国内に豊富にある砂鉄と出会い、「たたら」製鉄の原型である砂鉄による箱型炉製鉄法がこの遠所遺跡で大コンビナートとして花開く。  
これとても、今のところ この砂鉄精錬の始まりについても良く解っていないのが現状である。  
この砂鉄を原料とした古代たたら製鉄は日本海沿岸の山陰出雲・伯耆・丹後を経て越の国まで広がって行く。

一方 鉄鉱石を原料とした製鉄法は吉備の国から畿内河内国の製鉄法として、大和朝廷成立前後の我が国製鉄初期段階では重要な役割を果たした。  
また このような箱型炉の歴史とは別に東国の国々を中心に縦型炉も日本に伝えられ、特に東北地方では縦型炉による鉄鉱石精錬が製鉄の中心として発達してきた。  
しかし、砂鉄原料埋蔵の豊富さから、次第に砂鉄原料による生産に変化をとり、近世には奥出雲を中心とする中国地方での「たたら製鉄」へと次第に集約されて行くのである。

1. 遠所遺跡から出土した砂鉄の主要成分分析値
2. 遠所製鉄遺跡の原料は他国から持ち込まれた高チタン系砂鉄  
→ 丹後半島近傍の砂鉄は低チタン低塩基性成分砂鉄
3. 高チタン系砂鉄の溶融温度と塩基性成分の影響
4. 現在の溶接材料精錬に生きる高チタン系湯

#### 1. 遠所遺跡から出土した砂鉄の主要成分分析値

→ 丹後半島近傍の砂鉄は低チタン低塩基性成分砂鉄  
遠所遺跡から出土した砂鉄の主要成分分析値

| マージ    | 原料  | 出土位置 | 検定年代  | Total Fe | Ti    | Fe2O3 | SiO2 | Al2O3 | CaO  | MgO   | Na2O | K2O  | P2O5  | その他   |
|--------|-----|------|-------|----------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|------|-------|-------|
| 1-0013 | 製鉄炉 | 0地区  | 6世紀後半 | 54.24    | 24.76 | 52.88 | 4.91 | 3.34  | 1.93 | 10.41 | 0.50 | 0.24 | 0.023 | 高チタン系 |
| 1-0014 | 製鉄炉 | 0地区  | 6世紀後半 | 40.95    | 13.97 | 54.42 | 2.89 | 2.07  | 1.46 | 22.90 | 0.10 | 0.24 | 0.023 | 高チタン系 |
| 0-9    | 製鉄炉 | 0地区  | 6世紀後半 | 70.8     | 26.8  | 54.8  | 1.97 | 2.24  | 1.20 | 12.5  | 0.07 | 0.24 | 0.023 | 高チタン系 |
| 1-0015 | 製鉄炉 | 0地区  | 6世紀後半 | 45.10    | 23.57 | 47.17 | 1.96 | 1.94  | 0.42 | 1.46  | 0.04 | 0.22 | 0.023 | 高チタン系 |
| 0-10   | 製鉄炉 | 0地区  | 6世紀後半 | 68.1     | 21.5  | 72.8  | 2.02 | 1.38  | 0.12 | 0.79  | 0.10 | 0.16 | 0.023 | 低チタン系 |
| 0-0-1  | 製鉄炉 | 0地区  | 6世紀後半 | 46.96    | 22.42 | 41.73 | 1.20 | 1.98  | 1.39 | 16.66 | 0.05 | 0.27 | 0.023 | 高チタン系 |
| 1-0016 | 製鉄炉 | 0地区  | 6世紀後半 | 43.53    | 24.02 | 39.42 | 2.12 | 2.38  | 1.10 | 9.57  | 0.11 | 0.26 | 0.023 | 高チタン系 |

遠所遺跡で製鉄が始まった6世紀後半の製鉄原料は出土する砂鉄・製鉄炉から他国から持ち込まれた数種類のチタン酸化物含有量の異なる高チタン系の砂鉄が使われていた。丹後半島にも砂鉄原料があるにもかかわらずである。

日本各地の砂鉄の主要成分分析値

| 産地      | T-Fe  | TiO2  | SiO2  | Al2O3 | MnO  | P     | S     | Cu    | Cr    |
|---------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|
| 青森 大橋   | 56.84 | 13.78 | 3.75  | 6.28  | 0.37 | 0.054 | 0.057 | 0.002 | 0.023 |
| 大橋      | 58.80 | 11.00 | 6.00  | 2.00  | —    | 0.045 | 0.050 | 0.019 | 0.023 |
| 新 田     | 53.00 | 12.50 | 6.00  | 2.73  | 0.50 | 0.130 | 0.040 | 0.000 | 0.023 |
| 二 子     | 53.30 | 13.00 | 7.50  | 3.00  | 0.45 | 0.180 | 0.030 | 0.005 | 0.023 |
| 千葉 大塚   | 57.15 | 10.50 | 4.46  | 2.35  | 0.49 | 0.030 | 0.030 | 0.003 | 0.023 |
| 高鉄 仁    | 67.46 | 1.63  | 11.96 | 3.32  | 0.37 | 0.047 | 0.063 | 0.000 | —     |
| 仁 北     | 67.46 | 1.63  | 2.74  | 0.42  | 0.64 | 0.005 | 0.033 | 0.054 | —     |
| 北海道 中ノ川 | 59.22 | 8.51  | 4.42  | —     | 0.59 | 0.130 | 0.029 | 0.002 | —     |
| 製 鉄     | 55.85 | 8.19  | 8.26  | —     | 0.50 | 0.138 | 0.054 | —     | —     |

遠所遺跡では、古代他国の製鉄と較べても非常に大規模な製鉄が数世紀にわたって同一場所で行なわれ、製鉄から鉄製品の加工にいたる一貫製鉄が行われていた。また この地域は畿内大和へ最も近い地の利を生かした大和朝廷の国産製鉄工場であった。これらの事を考えると大和朝廷の勢力の源泉として、各地から原料が大規模に集

められたとしても不思議ではない。むしろ この国産製鉄工場の重要性を考えるとそれは妥当とも言える。しかし、後世の大規模精錬の知恵・技術からすれば なぜ 砂鉄精錬が厳しい高チタン系の砂鉄原料が使われたのであろうか・・・？

## 2. 遠所製鉄遺跡の原料は他国から持ち込まれた高チタン系砂鉄

砂鉄原料には チタン酸化物が含まれることが多いわけであるが、丹後国の砂鉄はチタン酸化物が少なく、また出雲を含め、中国地方にはチタンの少ない砂鉄・製鉄原料がある。吉備に伝わった最初の頃の製鉄もチタンの少ない鉄粉錐(チタンの少ない山砂鉄)ではないかと推定される。それなのに、なぜ 各地から高チタン系の砂鉄を集めなければならなかったのか??? 高チタン系砂鉄を必要とする必然があったと考えるのが妥当であろう。

遠所遺跡での製鉄は当時としては他国 出雲・伯耆国などと較べても何処よりも大規模であり、当時の大規模生産には後世の大規模生産とは違った理由で高チタン系砂鉄の方が向いているではないか...

### 1. 高チタン砂鉄の方が溶融点が低いのではないかと

チタン酸化物単独では高温でしか溶融しない。当時既に1400℃を超える高温が得られる技術があったとは言え、厳しいと考えられる。しかし、鉄酸化物との共存領域では鉄酸化物単独より溶融点が低くなる領域がある。高温を得にくい古代の状況では、粘性が高く糊つりを生じ易いなどの欠点があってもメリットがあったのではないだろうか??? 遠所遺跡から出土した鉄滓の組織からイルメナイトやルチルの結晶が大量に含まれており、少なくとも1400℃を超える温度が得られていた。このような操業温度領域ではチタン酸化物との共存で砂鉄は溶融点が上がり、流動性が増し、精錬が容易になったと考えられる。

### 2. 砂鉄に含まれる塩基性成分(CaO+MgO)が砂鉄の自溶性をもたらす

また チタン酸化物の他の成分との固溶状態を示す状態図を調べるとチタン酸化物とMgO CaOなどの塩基性成分が混合されると少量であっても、その溶融点は著しく低下している。従って、チタン酸化物と同時にこれら塩基性成分が混じっていれば 溶融点は非常に安定して下がり、砂鉄の自溶性が促進され、高温が得にくい古代の状況下においてはスムーズな砂鉄の溶解精錬が行なわれる。鍵はチタン系というより、高塩基性成分含有による自溶性の有ると考えると矛盾なく説明できる。丹後国の砂鉄は低チタン系であると同時に塩基性成分の含有量が少ないといわれており、溶解初期には安定した砂鉄溶解が進まず、比較的低い温度での精錬にはむしろ不都合と考えられる。

また、このような溶融状況をチタン酸化物や塩基性成分が支配すると考えると、出雲の近代たたら製鉄でも製鉄の初期にはチタン含有量の多い「赤目 浜砂鉄」を用い、溶融が安定してくると「山砂鉄」に切替えて行くと思う。

独断と私見ではあるが、古代における比較的小規模での大量精錬ではむしろ比較的低温での溶融がスタートすると考えられる不純物成分の多い高チタン系砂鉄が使われたと考えられる。

## 4. 現在の溶接材料精錬に生きる高チタン系砂鉄

他国の高チタン系砂鉄を持ち込んでの大量生産。これがこの丹後国遠所遺跡での国産製鉄コンビナートの役割だったに違いない。

事実 9世紀後半 国産製鉄コンビナートの役割を終え衰退して行くとその製鉄原料は自産の低チタン系砂鉄原料にかわりまた、製鉄炉も小さな物に変化している。これらの経過をみるとこの丹後の国の一だ製鉄コンビナートが大和朝廷直営の製鉄コンビナートとして 極めて重要であり、日本誕生に大きな影響を与えた事が判る。また、陸から日本海沿いに山陰をとおり丹後から若狭を経て熊野本製鉄遺跡・琵琶湖近江へそして飛鳥へ続く道こそが、日本誕生を支えた「鉄の道」「文化の道」でなかったか・・・。また 高チタン系の砂鉄は後世の「たたら製鉄」では嫌われ者となったが、チタン酸化物を含む溶融滓が精錬に重要な働きを有している事は現在も変わらない。

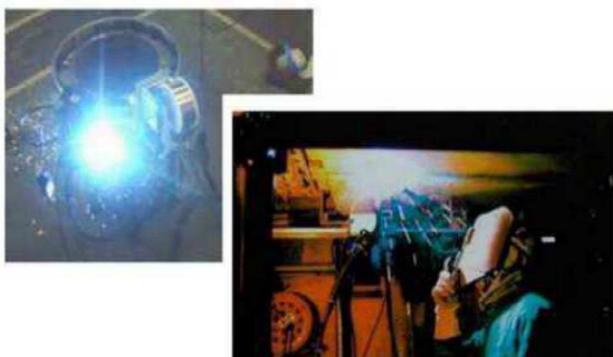
今回遠所遺跡の精錬滓の資料 特にチタン酸化物の重要性の指摘により、今まで不思議にも思わなかったのが、今実際に使われている溶接材料の基本滓系として、チタン酸化物が広く使われ、溶接ビード形成に重要な働きをしている事に気づいた。チタン酸化物の結晶系であるルチル系やイルメナイト系被覆アーク溶接棒や全姿勢ルチル内蔵フラックス充填 CORED WIRE などである。これらの溶接スラグ系はチタン系砂鉄精錬と驚くほど似通っている。高チタン系砂鉄のスラグの考え方は溶接の中に今も連続とつながっている。

溶接の勉強を始めた頃 接合の起源は「奈良の大仏にあり」と大阪大学の西先生に教えてもらいましたが、溶接材料ではさらに遡って古墳時代 この遠所遺跡の高チタン系砂鉄の精錬にその原型がみられるのではないのでしょうか。

### 【参考資料】

京都府遺跡調査報告 第21冊「遠所遺跡」1997 財団法人 京都府埋蔵文化財調査センター

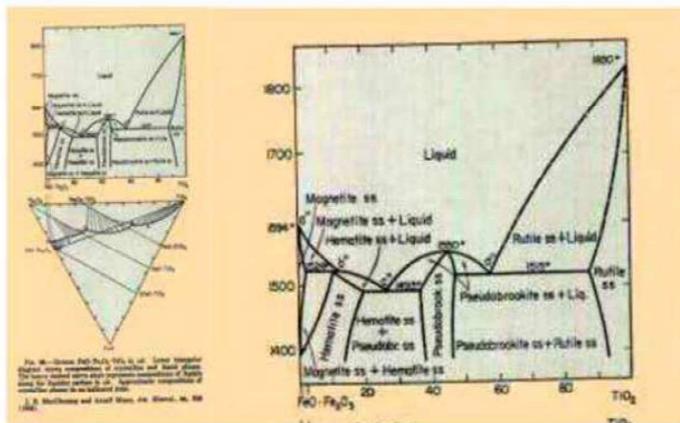
by Mutsuo Nakanishi 2000. 6. 8.



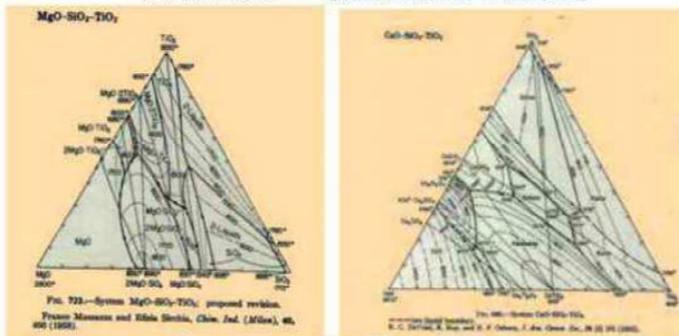
遠所遺跡で使われた高チタン系砂鉄もそのチタン含有量に限って言えば、20%含有の超高チタン系 10%程度の高チタン系 数%含有の中チタン系など数種類の物が使われており、厳しくチタン含有量が制限されていた訳でもない。

## 3. 高チタン系砂鉄の溶融温度と塩基性成分の影響

### 3. 高チタン系砂鉄の溶融温度と塩基性成分の影響



TiO2 添加の影響 【溶融滓の粘性増・溶融点変化】



塩基性成分 MgO 添加の影響

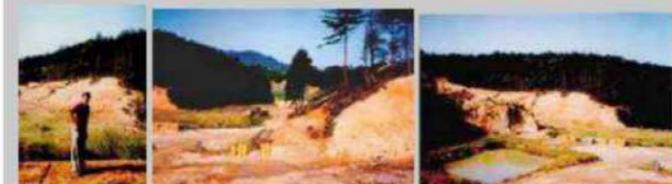
【急激な溶融点の低下】

塩基性成分 cao 添加の影響

【急激な溶融点の低下】

## 11.5. ニゴレ製鉄遺跡探訪

弥栄町鳥取郷 1993. 10. 10.

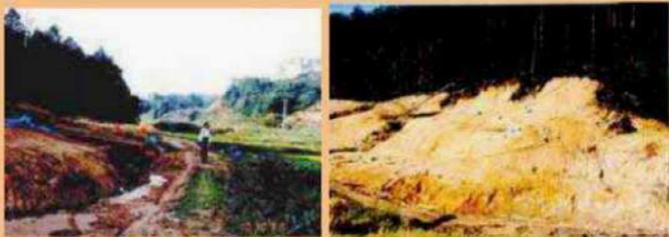


丹後地域の古代製鉄遺跡群 竹野川中流 製鉄関連遺跡

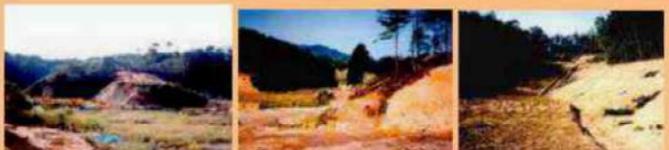


私がこの丹後の国の大製鉄地帯 弥栄町木橋・鳥取郷を訪問したのは1993年の秋 10月。弥栄町木橋で製鉄遺跡が発見されたと聞き、家内と二人で雨上がりの午後訪ねました。街の中心にある弥栄町役場に寄って、それから北に山谷の丘陵地帯に入ってきました。静かなひっそりとした「鳥取」の集落を抜け山間にかかるところが遺跡でした。ちょうどニゴレ遺跡の発掘調査の真っ最中。誰もいない調査中の遺跡の中に出土した鉄滓などの箱が幾つも積上げられ、丘陵地の谷間の山肌や山裾に製鉄炉跡や炭窯跡が発掘されていた。

ほんとにひっそりとした山間の地であるが、古代にはこの山間の地に多くの人が働き、またこのひっそりと静まり返った街道も賑内への主要街道として「鉄」を運んだに違いないとイメージを膨らませました。この集落が「鳥取」という地名に鉄の地名に鉄の故郷といった感じを強く持ったのを覚えてます。



ニゴレ製鉄遺跡  
発掘調査現場【1】  
1993. 10. 10.



ニゴレ製鉄遺跡 発掘調査現場【2】 1993. 10. 10.

◆ 追伸 遠所・ニゴレ製鉄遺跡の今 2000. 8. 26.



丹後 味わいの郷  
弥栄町鳥取郡 遠所・ニゴレ製鉄遺跡丘陵地帯の今 2000. 8. 26.

2000. 8. 26. 遠所・ニゴレ製鉄遺跡の場所鳥取郡・木橋郷にまたがる丘陵地がリクレーション・リゾート施設『丹後 味わいの郷』に生まれかわり、多くの人を集めているのをテレビでみて、家内と二人でかけた。

私達がこの地を訪れたのが、1993. 10.。ニゴレ製鉄遺跡の発掘調査の真っ最中であった。

今 この発掘当時の面影は全くなし。

ヨーロッパ風の建物が建ち並ぶ街が再現され、観光バスや車が行き交うリゾート地に変身。どこか一角に製鉄遺跡のモニュメントでも有るかと思っただが、それもなし。

背後にある遠所遺跡の1ブロックのみが、埋め戻されて残されていた。

ちょっと寂しい感じがするが、この都会から離れた過疎の山里での生活を考えると仕方ないことと割りきってはみたもの同様な施設が日本各地にバブルのように出来ている事思うと失われた物の重さを感じる時があるのでは・・・との感傷もある。

もっとも、味わいの郷でドイツビールを飲み ソーセージをほろぼり、かつてドイツで同じような事をしたことを懐かしんでいたのも自分。



2000. 11. 10. by M. Nakanishi 追加

もう一つの邪馬台国 『鉄の道 iron road』  
山陰の鉄の大王国 丹後の国の製鉄コンビナート 遠所遺跡  
【完】

**和鉄の道・Iron Road** Since 1999  
**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**〈第二分冊 2001〉**  
**和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて**  
 日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
 2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録  
 bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
 by Mutsu Nakanishi

Iron Road [2] 2001  
 2001-2002.4



2002. 6. 1.



和鉄の源流 兵庫桑子神 岩鏡

山麓 豊伊川

ただら製鉄探訪 風来坊 和鉄の道・Iron road 製鉄関連遺跡を訪ねて

わてつ みち  
**和鉄の道** ・ Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」  
 日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、  
 「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。  
 ヒットライトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、  
 現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、  
 維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の技術が育ち、  
 その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技  
 術。「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が加えられるが、  
 一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現存に至る日  
 本の国造りを作ってきた。

そんな久 急速な社会変革の中で この製鉄にもなる数々のドラマが伝  
 われ去られ 日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。

製鉄何は生産された鉄塊の取り出し毎に凍されるので 製鉄関連遺跡  
 に残っている遺構はそんな生産設備の残骸。製鉄関連遺跡にはそんな遺  
 構・生産の痕跡とともに、そこに携わった人々の営みや歴史のドラマ・  
 歴史が写り映えし 景色とともに残って残っています。

日本で繰り返し行われた数々のドラマ そして その痕跡の風景を少しも  
 も残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地を Country  
 Walk しつつ集めています。

鉄は「文化」をばくむとともに数々の「戦い」をももたらしたといわれる。  
 それだけ 鉄の力の人さきの証明であり、そうだろうと思いますが、  
 大事なことは それを使う人々の力・心。  
 その根拠は日本人の心の故郷「心癒し心癒文の世界」がある。  
 「鉄」の持つ魅力 「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」  
 その美しさをこれからも大事にしたいと思っています。



「Iron Road 和鉄の道」[2] 和鉄探訪

- □ 絵 1 Iron Road 和鉄の道 和鉄の技
- □ 絵 2 日本各地の鬼伝説
- □ 絵 3 古代 和鉄の歴史

Iron Road [2] 2001  
 2001-2002.4

「Iron Road 和鉄の道」[2] 和鉄探訪

1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鏡
  1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鏡  
 古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 WALK
  2. 金屋子神社と金屋子神 神話  
 古代製鉄の神 金屋子神の総社 鳥根県 広瀬町 WALK
  3. 兵庫県立歴史博物館 (1)  
 「千種鉄 たたら」ビデオライブラリー
  4. 兵庫県立歴史博物館 (2)  
 兵庫歴史セミナー「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」  
 -中国伝来の発生 製鉄技術には底に熱処理による表面加工がおこなわれていた-
2. 古代「Iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ  
 古代出雲の国産の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡
  1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
  2. 荒神谷遺跡 探訪
  3. 加茂岩倉遺跡 探訪
  4. 大量の青銅器埋蔵の謎
3. 久しぶりに訪れた 房 総 九十九里 砂鉄の浜 飯沼浜
4. 接合・接合の原点 縄文の石鏡について「アスファルト」
5. 接合のルーツ 「漆」「アスファルト」を見る -「発掘された日本列島 2001」展-  
 日本固有「木の文化の加工技術」として
6. 鬼の住む山 京都府 大 江 山 Walk - 大江山の鬼伝説に  
 『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきかたてて -  
 oeyma.htm by M. Nakanishi
  1. 鬼が住む山 大江山へ -古代 iron road の夢のせて-
  2. 鬼の住む山 大江山 walk
  3. 酒呑童子伝説と大江山「鬼退治」
7. 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て -ルーツの旅に現代を豊かに-
8. 岩手県 北上川流域の 和 鉄  
 蝦 夷 の 主要武器 「藤手刀」を訪ねて一閑博物館へ  
 日本刀の ルーツ 「藤手刀」
  1. 北上川流域の和鉄
  2. 一閑博物館で
9. 2000年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄炉  
 弥生時代高度な表面脱炭処理 鉄の強靱化熱処理伝来のルーツか？

10. 日本各地の鬼伝説 「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？

1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 幸謙天皇 鬼退治伝説
  2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」
  3. 丹後国 大江山 酒天童子伝承
  4. 吉備国 桃太郎伝承の鬼ヶ城
  5. 青森県岩木山(巖鬼山) 山麓の鬼伝説
11. 「真金吹く 吉備の国」吉備国 桃太郎伝説
1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智慧と融合して原日本がつけられた
  2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
    - (1)「弥生の暮らし」を持たした大陸からの渡来人 - NHK 「日本人はかな旅」より -
    - (2) 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」
    - (1) 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」
    - (2) 鬼ノ城 walk・朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら-

● 参 考 日本鬼伝説

12. 第5回 層層国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して  
 『加耶の鉄と倭国』
1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった？ - 日本古代鉄の歴史 -
  2. 「加耶の鉄を巡る古代日本の派生争い」それが日本を造っていった
13. 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた 近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群
1. 滋賀県古代製鉄遺跡
  2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる  
 草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ポケバラ)遺跡
  3. 資 料 瀬田丘陵の 古代製鉄遺跡
  4. 製鉄技術伝来と大陸・朝鮮から伸びる鉄の道
14. 幕末 信州 武州街道沿いの現地産出の鉄鉱石原料「たたら製鉄」  
 -「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk - 長野県 南佐久郡 佐久町
1. 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 Walk
  2. 茂来山鉄山遺跡の概略
  3. 霧久保沢から湯路 小海線 羽黒下駅まで - のんびりと山郷の Walk -

# Iron Road 和鉄の道 『和鉄の技』

## 高度な脱炭処理がなされた 中国製の鑄造鉄斧



福岡県比恵遺跡出土 中国製鑄造鉄斧 弥生中期 約2000年前

紀元前 中国では 西に鉄の鑄造とともに 高度な脱炭処理技術が存在し、その技術は現在にも通じる匠の技である

高度な熱処理による脱炭表面処理がなされた中国製の古代 鑄造鉄斧



日本刀の源流

「蕨手刀」から「舞草刀」へ

舞草刀

## 接合・接着のルーツ 赤漆・アスファルト 「発掘された日本列島 2001」展より



縄文の漆と天然アスファルト塊

赤漆での修復痕跡のある土偶

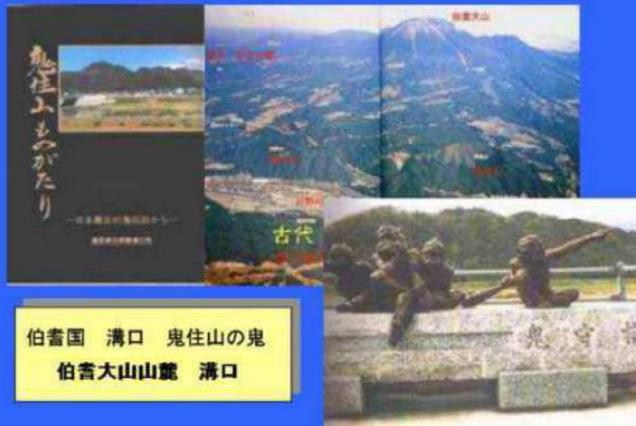
## 日本古代から脈々と続く大木の加工技術



天空にそびえる古代出雲大社(推定模型)とそれを支えた宇豆柱の発掘

## 日本各地の鬼 & 鬼伝説

1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説 楽楽福神社の伝承



伯耆国 溝口 鬼住山の鬼 伯耆大山山麓 溝口

2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」 東北・北上地方 多賀城・胆沢城・秋田城遺跡
3. 丹後国 大江山酒天童子伝承 京都府 大江町



蝦夷の蕨手刀の分布

## 4. 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼城 99.5.29.

「真金吹く 吉備の中山・・・」と歌われた吉備は 古代製鉄の発祥の地の一つ 現在の総社市を中心とした吉備地方には古代遺跡・古代製鉄遺跡が目白押し この地には「桃太郎」伝説の源流「ウラの鬼伝説」と「鬼城」の遺跡がある



総社市郊外にある「鬼城」遺跡 99.5.29.



古代遺跡が広がる吉備国 一鬼城から一 「桃太郎」伝説の吉備津彦神社

|             |      |     |     |      |    |             |     |     |                |     |     |     |     |     |      |      |
|-------------|------|-----|-----|------|----|-------------|-----|-----|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| BC 500      | 400  | 300 | 200 | 100  | 0  | 100         | 200 | 300 | 400            | 500 | 600 | 700 | 800 | 900 | 1000 | 1500 |
| ▼           | ▼    | ▼   | ▼   | ▼    | ▼  | ▼           | ▼   | ▼   | ▼              | ▼   | ▼   | ▼   | ▼   | ▼   | ▼    | ▼    |
| 縄文晩期        | 弥生前期 | 中期  | 後期  | 古墳前期 | 中期 | 後期          | 飛鳥  | 奈良  | 平安             | 室町  |     |     |     |     |      |      |
| 【鉄造破片再生の時代】 |      |     |     |      |    | 【本格的な時代の時代】 |     |     | 【鉄の量産化の時代】     |     |     |     |     |     |      |      |
| 日本古代 和鉄の歴史  |      |     |     |      |    | 【原始鍛冶の時代】   |     |     | 【鉄生産・鉄の自給化の時代】 |     |     |     |     |     |      |      |
|             |      |     |     |      |    | 【徳川幕府の時代】   |     |     | 【鉄の多様化の時代】     |     |     |     |     |     |      |      |

5. 青森県 岩木山（巖鬼山）山麓の鬼伝説

青森県 弘前市・鯉ヶ沢町

1. 巖鬼山の鬼伝説が広く伝承される鯉ヶ沢



岩木山 北麓赤倉口より



鯉ヶ沢へ流れ下る赤石川



岩木山北麓 十藤内 原生林の中 巖鬼山神社

2. 鬼神社と鬼沢の鬼伝承 弘前市鬼沢



鬼沢 鬼神社に掲げられた鐘等の鉄製品の群

- 縄文晩期～弥生前期 紀元前2世紀～紀元1世紀 【鉄造破片再生の時代】**  
中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に流れ、その後弥生前期には中国で製造された精物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。
- 弥生時代中期～後期 紀元1世紀～3世紀初頭 【原始鍛冶の時代】**  
薄く板状に鉄造り表面脱炭素された素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われるようになる。
- 弥生時代後期以降～古墳時代中期 2世紀～4世紀 【徳打伸展鍛冶の時代】**  
中国では既に精鉄精錬ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状鉄が得られるようになり、脱炭鉄と同時に日本にこれらが持ち込まれるようになり、これらを素材とした鍛冶加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。
- 古墳時代初頭以降 初期～中期 3世紀後半～5世紀 【本格鍛冶の時代】**  
大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流通。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。  
この当時 半島朝鮮半島の南部百濟・加耶と倭国との交流が始り、4世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。当初3世紀には北九州に限られた鉄の先進地が5世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進して行く。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。  
5世紀後半になると畿内には大規模な大規模な専業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。
- 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5世紀末～8世紀 【鉄生産・鉄の自給化の時代】**  
その地はまだはっきりしないが、5世紀末から6世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始り、鉄素材の自給が始まった。また 国内に大量に存在する砂鉄を原料とした精錬も始り、日本での鉄自給の波が西国から東へ広がって行く。  
7世紀末から8世紀には現在の福島県南ノ町近傍(行方製鉄遺跡)まで広がりに、9世紀には青森岩木山北麓での製鉄が確認されている。
- 奈良・平安時代 8世紀～11世紀 【鉄の多様化の時代】**  
箱型炉が関東・東国に出現し、大型の箱型炉や精物造りの出現など鉄生産が日本全国におよび、鉄生産の多様化が進む。本格的な精物生産がはじまり鉄の多様化がはじまる。
- 中世 15世紀以降 【鉄の量産化の時代】**  
高炉たたらが鉄山経営として成り立ち、出雲など中国地方の生産が物を圧倒して行く

「Iron Road 和鉄の道」【2】和鉄探訪

- 口 絵 1 Iron Road 和鉄の道 和鉄の技
- 口 絵 2 日本各地の鬼伝説
- 口 絵 3 古代 和鉄の歴史



「Iron Road 和鉄の道」【2】和鉄探訪

- 播磨国 「千種鉄」 千種・岩銅
  - 播磨国 「千種鉄」 千種・岩銅  
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 WALK
  - 金屋子神社と金屋子神 神話  
古代製鉄の神 金屋子神の神社 島根県 広瀬町 WALK
  - 兵庫県立歴史博物館 (1)  
「千種鉄 たたら」 ビデオライブラリー
  - 兵庫県立歴史博物館 (2)  
兵庫歴史博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」  
—中国伝来の弥生 鉄造破片には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた—
- 古代「Iron road 鉄の道」で横り広げられた仕絶なドラマ  
古代出雲の国話の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡
  - 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
  - 荒神谷遺跡 探訪
  - 加茂岩倉遺跡 探訪
  - 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎
- 久しぶりに訪れた 房総 九十九里 砂鉄の浜 飯岡浜
- 播磨・接合の原点 縄文の石炭について「アスファルト」
- 接合のルーツ「漆」・「アスファルト」を見る。—「発見された日本列島 2001」展—  
日本固有「木の文化の加工技術」として
- 鬼の住む山 京都府 大江山 WALK — 大江山の鬼伝説に  
『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきかたてて —  
oeyma.htm by M. Nakanishi
  - 鬼が住む山 大江山へ—古代 iron road の夢のせて—
  - 鬼の住む山 大江山 walk
  - 酒呑童子伝説と大江山「鬼退治」
- 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て —ルーツの旅に現代をまわって—
- 岩手県 北上川流域 の 和 鉄  
蝦夷の主要武器 「鉄手刀」を訪ねて—関博物館へ  
日本刀の ルーツ 「鉄手刀」
  - 北上川流域の和鉄
  - 関博物館で
- 2000年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄斧  
弥生時代高度な表面脱炭素処理 鉄の強化熱処理伝承のルーツか？

10. 日本各地の鬼伝説 「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・？

1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説
2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」
3. 丹後国 大江山 酒天童子伝承
4. 吉備国 桃太郎伝承の鬼ヶ城
5. 青森県岩木山(巖鬼山)山麓の鬼伝説

11. 「真金吹く吉備の国」吉備国 桃太郎伝説

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智慧と融合して原日本がつくられた
2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  - (1)「弥生の暮らし」を持たした大陸からの渡来人 — 稲作 「日本人道かな旅」より —
  - (2) 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」
  - (1) 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」
  - (2) 鬼ノ城 walk - 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら—

● 参 考 日本 鬼伝説

12. 第5回 層層国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して  
『加耶の鉄と倭国』
  1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった？ — 日本古代 鉄の 歴史 —
  2. 「加耶の鉄を巡る古代日本の派生争い」それが日本を造っていった
13. 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた 近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群
  1. 滋賀県古代製鉄遺跡
  2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる  
草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ボケバラ)遺跡
  3. 資 料 瀬田丘陵の 古代製鉄遺跡
  4. 製鉄技術伝来と大陸・朝鮮から伸びる鉄の道
14. 幕末 信州 武州街道沿いの現地産出の鉄鉱石原料「たたら製鉄」  
—「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 WALK — 長野県 南佐久郡 佐久町
  1. 「茂来山 鉄山」製鉄遺跡 WALK
  2. 茂来山鉄山遺跡の 概略
  3. 霧久保沢から湯路 小海線 羽黒下駅まで — のんびりと山郷の WALK —

Iron Road [2] 2001  
2001-2002.4

播磨国 千種鉄

1. 「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地  
和鉄のふる里『千種・岩野辺』 2011.1.21.  
chigusa.html by M.Nakanishi

1.1. 播磨国「千種鉄」千種・岩鍋 Country Walk  
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 COUNTRY WALK

1.2. 古代製鉄の神 金屋子神社 COUNTRY WALK と 金屋子神 神話島根県 広瀬町

1.3. 兵庫県立歴史博物館(1) 「千種鉄 たたら」ビデオライブラリー

1.4. 兵庫県立歴史博物館(2) 兵庫歴史ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」

1.1. 和鉄のふる里『千種・岩野辺』




山を切り開いて鉄砂をとる一  
流を築く「たたら」と「日本刀のふる里」

1. 和鉄「千種鉄」のふるさと『兵庫県 千種・岩鍋』とその歴史
2. 千種 天児屋たたら公園と天児屋鉄山跡
3. 古代金屋子神降臨の地 岩野辺(岩鍋)

1. 『兵庫県 千種』とその歴史

金屋子神 千種岩鍋 降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる柱の木に高天が原より、はしらの神天降り産すあり。  
民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。  
時に、神託けて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…喜は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白狐に乗りて西の國に遷たまふ。  
出雲國の野義郡の栗田が泉非田の山林に着きたまひて…



国道沿い千種岩野辺に建つ金屋子神降臨の碑

島根県 広瀬町 「金屋子神社」祭文より

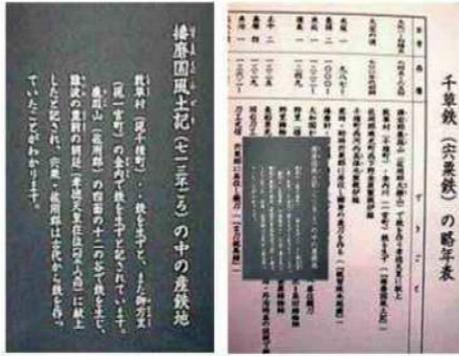


兵庫県の西端 中国山脈の両側山嶺 岡山県との界境にそびえる三室山から水ノ山にいたる山嶺を背景にそこから流れ出る千種川に沿って千種の街が広がる。  
ここは 中国山地の山嶺千種川の源流に位置し、ここから算出する砂鉄を用いた「和鉄」発祥の地「千種鉄」の産地として古代から製鉄が盛んに行なわれたところである古代 金屋子神 千種 岩鍋の地への降臨伝説や「播磨風土記」にも記載があり、7.8世紀には盛んに製鉄が行なわれていたことが解っている。

また 伝承によると神功皇后が朝鮮出兵の帰りに瀬戸内海を渡られ、千種川の河口が濁っているのに驚かれ「なぜ濁っているのか」とお供の者に尋ねられると「この川上で天児屋祖命の子孫が、鉄砂(カンナ) 洗しをしているからです」と答えたと言い伝えられている。  
千種が古代より製鉄の産地であったことがこれらの資料からしるべれます。  
千種川を下ると播磨赤穂市、その隣には岡山県備前市があります。中世、千種鉄は備前の刀匠たちに珍重され、数多くの国宝重文の名刀を残しています。そして、西洋鉄に取って賣られる明治まで、長きにわたって、和鉄の一大製鉄産地であった。

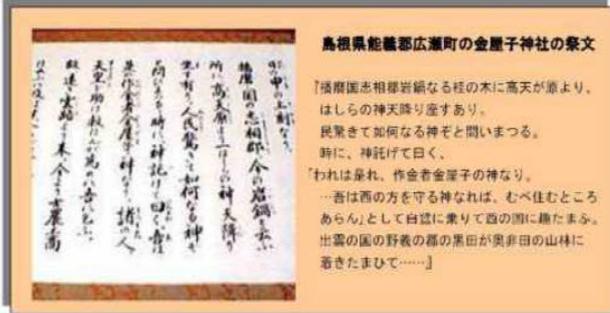


● 播磨風土記 記載



713年頃「敷草村〔現千草村〕金内川〔現一言町〕で鉄を生ず」との記載  
千草「たたら学習館」展示より

● 金屋子神 伝承 と 千種 岩野辺〔岩鏡〕



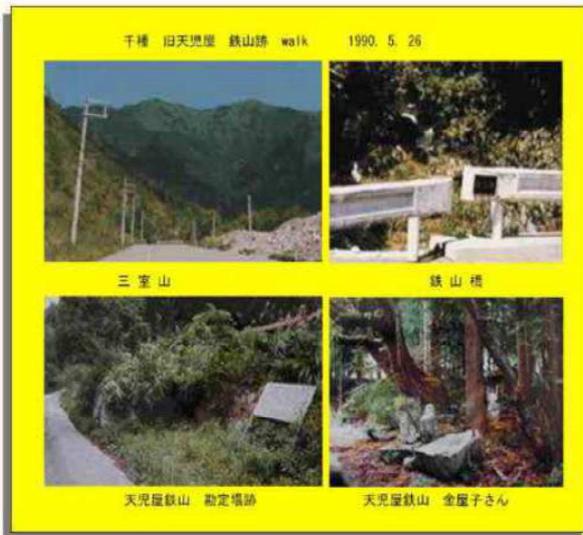
千種の岩鏡(現在の岩野辺)に天から金屋子の神が降り立ち、冥いた人々が伺きされる神かと尋ねたら、金屋子の神であると応えさらにその地で鏡を作り、さらに金屋子の神は白雲に乗られて現在の島根県能登郡に行かれたとも書かれている。 岩野辺の地名の由来は、ここから来ているとも言われている。

- 金屋子神社は「たたら製鉄」の守り神 島根県 広瀬町 金屋子神社 金屋子神神話

BY M NAKANISHI 2001. 1. 7.

く途中にある。

この千種川の雨辺の山々いたる所が 古くからの千種鉄の山地として活用されてきたのだろう。千種高原三室山へは舗装された立派な道路が岡山県境へ伸びており、途中で谷筋へ分け入る道に曲がり、登って行くとその途中に「鉄山橋」の名の橋があり、そこから少し登ったところそこが天児屋鉄山跡の草ぼうぼうの山頂の道沿いに石垣と倒れかかった天児屋鉄山の看板があるのみだった。草ぼうぼうの中に入れて、荒れ果て道からは全くここが鉄山であることがわかりませんでした。看板だけが、鉄山跡であることを示していました。



天児屋鉄山は元禄年間、千草屋源右衛門が切り開いて鉄を吹き、泉屋(住友の分家)が経営していたこともあるそうです。

明治九年ごろの鉄山が終わりに近づいた時代(閉山は明治十八年)にも七十戸三百人以上の人たちが働いていたといわれ、近世たたら遺跡の中でも規模の大きなたたら遺跡であるが、その時は全くわからず。

何回か訪れている間にこの鉄山遺構が整備されはじめ、金屋子神を祭る祠をはじめとして、製鉄跡・カンナ流し場等が姿を現わしてきました。そして1997年 川筋には立派な「たたら学習館」が立ち、鉄山跡も立派な製鉄遺跡として整備されました。

2. 千種 天児屋たたら公園 と 天児屋鉄山跡



A. 整備前の旧天児屋鉄山跡 walk 1990. 5. 26.

わたしが最初に千種を訪れたのは1990年5月。千種の街には立派な歴史資料館があり、そこには貴重なたたら関係の資料などが展示されている。三室山の谷筋には現在も「たたら」の遺構【天児屋鉄山遺跡】が残っていると教えてもらい、千種の街の北側千種側沿いに広がる千種・三室高原へ登って行きました。千種は岡山と兵庫の県境に位置し、周りを山に囲まれ、三室山を水源とするきれいな千種川が流れています。この川の源流近くいく筋もの谷筋が砂鉄の宝庫で、古代からこの砂鉄を原料とした鉄生産が行われてきた。

【資料によると千種の山々の花崗岩、閃緑岩、石英粗面岩などの地層にはすぐれた高砂鉄が含まれていて、今もさす天児屋鉄山跡ばかりでなく、高森、荒尾鉄山など近世の遺跡や町内の至る所に点在する小規模な古い時代の「たたら」遺跡が点在している。】



千種川とその川のふちに堆積した黒い砂鉄

川に下りるときれいな清流の川底には堆積物の黒い堆積物があり、この川底の黒い堆積物をすくいと、磁石に近づけるとビクビクと吸いつき、粉れもなく砂鉄。今も川筋に在る砂鉄にビクビクし、また、ここが千種鉄の発祥地であることに今更ながら納得。

この地が古代日本の鉄発祥の地。

「製鉄の神である金屋子神がこの千種に舞い降り、そこから吉備を経て奥出雲へ」という金屋子神伝説を頭に、透き通るような青空にそびえる景境の山々をながめながら、三室山の谷筋を上げて行きました。もともと、金屋子神が舞い降りたといわれる「岩鏡の地」は今登ってゆこうとする千種の街から北に広がる千種三室高原とは異なり、千種の街の南から東へ坂町へ抜ける国道を峰床山越えの山々へ向って行

B. 整備された天児屋鉄山跡 天児屋たたら公園 と たたら学習館 1990. 5. 26.

スギの森の中に、山城を思わせるようなコケむした石垣が、段々状に続いて、草木の明るい若葉と対照的なコントラストを見せて道から少し上がったところには金屋子神が立派に祭られ「天児屋たたら公園」として整備されていました。



日本の「たたら」製鉄発祥の伝説の地「千種」に多くの人たちがかわかった「たたら」製鉄の主要現場がすべてそろう跡地として残っている。それが、天児屋鉄山。日本を造り、日本の発展を古代から今に至るまで支えた鉄。その日本固有の製鉄法である「たたら」の製鉄現場と勘定場など一連の作業場が鉄山としてこの製鉄発祥の地に復元整備されれば意義の深いものとなるとおもうのですが……

日本各地にある同じような集つもの「たたら館」、それはそれでその地方を支えた鉄の歴史を担うものといふ意義があるでしょうが…… さあ どうでしょう。

2001. 1. 8. 昔の資料を整理しつつ by M. Nakanishi

by M. Nakanishi 2001. 1. 8.

C. 「たたら 学習館」



たたら学習館とその内部



たたら明



播磨風土記の記述

初花の献儀

D. 天児屋たたら遺跡

天児屋鉄山跡の一角 遺跡跡のそばを流れる川淵に在り、たたら製鉄の歴史や工程を模型や図表等で詳しく紹介展示。また千種町で生産された玉鋼を礎として製作された日本刀なども展示されている。すぐ橋の道路を挟んだ右の山肌を階段状に切り開いた斜面状に石垣を積み、たたら場やかなる流し場ほか主要な天児屋鉄山の跡が整地され広がっている。



1999. 5. 15. 天児屋鉄山 勘定場跡



1990. 5. 26. 天児屋鉄山 勘定場跡

**天児屋鉄山の総元締 勘定場跡に立つ看板** 1990. 5. 26.

**天児屋鉄山**

古い天児屋鉄山跡をこのコケむしりたてた天児屋鉄山跡の跡です。この上には精錬した鉄をひやす「かな池」や「たたら場」「鉄置場」「炭置場」などが作業の流れに合わせて順番よく配置されておりました。「たたら場」から下の部落に出る時はいちいちこの勘定場で通行手形を受取り外出しておりました。そして下の部落を通る時はわえ煙草や???提灯などを持ち歩いてならない事になっておりました。いくら仕事で遅くても無罪で他所で泊まる事は出来ませんでした。たたら場の人々はこんな厳しい目にさらされておりました。たたら場の中でも厳しい職割が定められた様です。鉄の代名詞のように言われていた千種鉄もこうした大勢の涙と汗の犠牲の上に良質を誇っていました。

整備されて「たたら公園」となった天児屋鉄山遺跡 1999. 5. 15.

鉄穴流し跡 と 鉄山たたら場跡

「たたら」製鉄の神 金屋子神 阿能伝承の地

**3. 岩野辺〔岩鍋〕** 1999. 5. 15.

(wabe.htm by M. Nakanishi)

千種 岩野辺 金屋子神社 祭文の写

**金屋子神 千種岩鍋 阿能の伝承**

千種岩鍋の神は、千種川に流れる神の木の木に蒸天が原より、はしらの神天降り産すあり。民驚きて「如何なる神ぞ」と問ひまつ。時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白雲に乗りて西の國に建たまふ。出雲の國の野養の郡の黒田が奥津田の山林に着きたまひて…

鳥居原 広瀬町 「金屋子神社」祭文より

北の岡山・兵庫の幕境から流れ出した千種川が山々が迫る細い谷合を南に流れ下る。蒸流地域から奥筋かの川が集まり、本流となって谷を下る丁度その出口少し広くなった盆地に千種の街があり、本流は瀬戸内海へ向って流れ下る。この千種川にそった一本道の両側に店が並ぶ千種の街並が広がっている。

千種からやって来た際には山奥のわりには明るい商店街を中心とした町並みである。この千種の町にはいる手前の村には歌舞伎舞台が残っていて、今も農村歌舞伎が受け継がれていると言う。この山間の千種の街で千種川に沿って南の瀬戸内海へ抜ける街道と東西に中国山地の山間をぬって兵庫県・岡山県の町々を結ぶ山越の道国道429号とが交わっている。山間の重要路ではあるが、昔の賑わいはなく、静かな山間をそれぞれ一筋の街道が貫いている。往時には この山奥で作られた「千種鉄」が、この千種の街に集められ、これらの街道を日本各地に運ばれ、多いににぎわったものと思われる。千種歴史民俗資料館に残されている絵図に馬の背に積み運ばれて行く鉄と千種の街道の賑わいぶり

が描かれている。千種で作られた鉄が古代から明治の近代西洋の鉄がさかんになるまで、幾世代にも渡って運ばれて行った。この街道の十字路を東へ少し入っていった次の集落が「古代製鉄の神 金屋子神 降臨の伝承地 岩嶺」である。



千種の街道の賑わい 馬の背に載せて運ばれる鉄 千種町歴史民俗資料館で

千種の街へは南の入口のところに街道の十字路があり、東西にのびる国道429号線を東へ千種の家並を抜け、山間の道を1kmほどのぼっていく。

国道429号線の道路標識とともに岩野辺の地名が不要にあらわれ、岩野辺の部落の家々が途切れ、山へかかる峠の三叉路の道端に大きな『古代製鉄の神 金屋子神 降臨の地 岩嶺』の碑が建っていた。



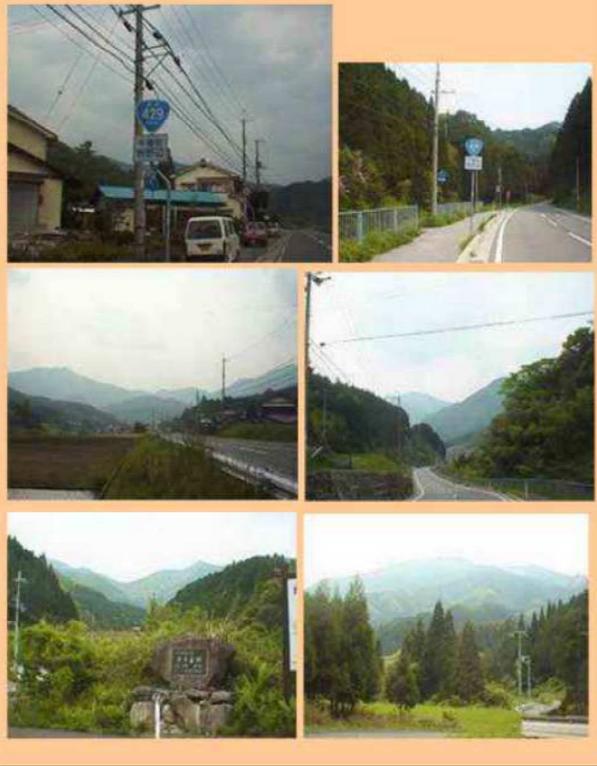
振り返ると千種の街の向こうに「たたら」の山々が、また北も道が伸びる東にも山々がひろがっている。時たま通る車以外にひとがけなし。静寂の中に 何の説明書きもなくこの碑がたっている。この周辺の山々には「たたら」製鉄の遺跡の印が至る所にいれられているが、この峠からはなにも見えない。ただ 幾重にも重なって見える周辺の岩釜とした森と山々が「たたら」製鉄の繁栄を築いたものと想像する。

「一度どんどころなのか 訪れたい」とおもってきたが、本当にあつけない出会いであった。こんなに千種の街近く また 街道沿いが古代鉄産祥伝承の地「岩嶺」とはおもっても見なかった。碑があるのみで なにもごてごてした説明書きがないのもいい。周辺の山々を眺めながら、少し三叉路をくだったり、まわりの山道を歩いたりしたが 今は本当に静かな山里である。



千種 岩嶺にて  
by M.Nakanishi 1999. 5. 15.

## 金屋子神 降臨の伝承の地千種岩嶺



BY M. NAKANISHI 2001. 1. 7.

## 製鉄の神 金屋子神の総社

### 1.2. 金屋子神社 と 金屋子神神話

鳥根県 広瀬町  
hrse.htm by M.Nakanishi



広瀬町ホームページより

### 1. 金屋子神社 Country Walk



〔広瀬町 金屋子神社 1999. 3. 12〕

1999年3月。米子の娘宅からは川沿いに中国山地へわけけ行って車で1時間たらず城下町広瀬の街から更に山間に入ったところに「金屋子神社があった。広瀬町の最奥部の重畳たる中国山地の小盆地、西比田に鎮座し、広瀬町中心からおおよそ25kmの南方にある。

古来タタラ神である金屋子神の社として、鉄山師達の厚い信仰を得、今も鉄関係者の参詣の多いことが、奉納された数々の品々やその本殿の立派さ 良く整備清潔められた境内の様子からうかがえる。

「たたら」遺跡を訪れると必ず「金屋子さん」が祭られているのを見て、総社である広瀬町 金屋子神社は是非行きたいと思っていたところである。

金屋子神信仰の詳細は金屋子神神話として別に記載したが、『鉄山秘書』(1784)には金屋神と「たたら製鉄」との関係伝承を次のように載せている。

「太古ある早天の日、土民が雨乞いをしていたところ、播州兵庫郡岩嶺に高天原から一神が降臨し、金屋器の製作法を教えた。  
神はさらに西方に飛び、出雲国鹿野郡比田の某田に降り、休んでいると、たまたま狩りに出ていた安部氏の婿正重なるものがこれを発見、やがて神話により、朝日長者なるものが宮を建立し、神主に正重を任じ、神は自ら村下となり、朝日長者は炭と粉鉄をき集めて吹くと、神通力によって鉄が降りなくなりわきてた」と。  
鉄山秘書より

神社の大鳥居をくぐるとすぐ右手には、金屋子神信仰の中心にある金屋子神社の縁起や「たたら」にまつわる色々な事を映像や展示で示した立派な金屋子神話民俗館がある。

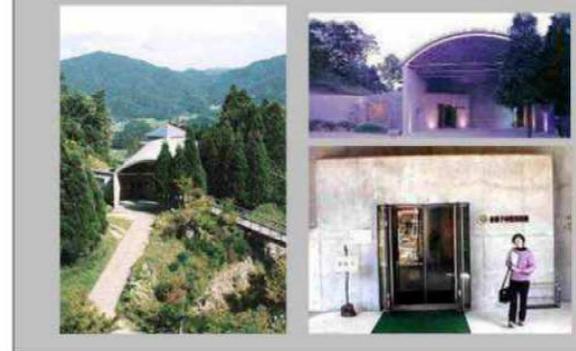
また 掃き清められた参道の正面奥に門越しに立派な本殿が見え、参道の片側道に沿って大きな「けら」が数重並べて置かれており、その奥に「金屋子神」が舞い降りたとされる「柱」の古木があった。

森につつまれた静けさの中に、掃き清められた境内に立派な本殿がある。さすが製鉄の神 本殿には奉納された品々に各製鉄会社の名がずらりと並び、立派な本殿とともに、現在にいたるまでここが鉄の守り神であることを示している。



〔金屋子神社 参道脇に並べられた「けら」 1999. 3. 12.〕

### 2. 金屋子神話民俗館と金屋子神話



金屋子神社の大鳥居をくぐり参道の直ぐ左手の森に囲まれた丘の上に立派な金屋子神話民俗館がある。有名な金屋子神神話がわかりやすく展示されている。

## 金屋子神話

### 金屋子神社に伝えられる製鉄と鍛冶の神々の神話



大昔のある年の夏のことで。博多の国岩嶺（今の兵庫県と岡山県との境）という山の谷あいにある村あたりだった。何日も雨がふらず、太陽が毎日ざらざらと大地をこがす日が続きました。村人たちは、このままでは川の水も干ばってしまい、田畑の作物もすべて枯れてしまうと、山に集まって雨が降るよう天の神に祈ることにしました。

村人たちは、奥深い谷川の岩かげのふちで、まわりを清めて火をたき、村おさが岩に向かって手を合わせ、呪文を唱えて一年懸命に祈ると、不思議にも空にはにわかにかがわきおこり、大つぶの雨がふってきました。「雨だ、雨だ。これで畑の作物も枯れずにすむ」、村びとたちは雨にぬれながら、鉦や太鼓をたたいてよこびの踊りをおどりました。

たかぶる雷の祭りのなかで村おさは、自分のここにひらめいた神に、「私たちの願いを、このようになんてくださったあなたは、いったいどなたさまなのか教えてください」と、感謝の気持ちをこめて聞きました。神は、「わたしは、金山彦天日一個神ともいう金屋子の神です。生き物に生命をよみがえらせたり、田畑の作物を豊かにみらせるためには、水は最も大切なものの一つです。私は、この

地ではさまざまな人びとの幸せをまもるために雨を降らせました。これからは遠く西の方へいき、そこで鉄を吹き、道具をつくることを多くの人に教えなければなりません」といって、白雲ののって天空高く飛び立ちました。金屋子神は、出雲の国の上空までやってきました。そして空から鉄づくりに最も適した地をさがしました。昔から『たたら』と言いつづけてきた鉄づくりに、山や川でとれる砂鉄と、鉄をたかすのに必要な大量の木炭と、伊をつくるのにふさわしい



粘土がなくてはなりません。金屋子神は、その三つの条件をかねそなえた地として兵庫県西比田を選びました。そして、西比田集田の森の柱の木に降り立ちました。



金屋子神を最初に見つけたのは、山に夫を何匹もつれて狼にきていた、安部正重という人でした。大たちは、自然のからだから放たれる神の光明（ひかり）をみて、身をちぢめて伏えています。正重は、大たちをなだめて神におそるおそる問いかけてました。「あなたは、この地に何をしに来られたのですか」と。すると神は正重に、「われは金屋子の神なり。このところに住んで、『たたら』を仕立て、鉄（かね）を吹くわざを始めよ」と告げ、自らも神としてその仕事をうまうまよく協力することを約束しました。



神からのお告げをつつしんで受けた正重は、近くに住む長田兵部朝日長者にこのことを伝え、ふたりはまず神がおりた柱の木のわきに金屋子神のお宮を建ててから仕事をはじめました。そして、正重はその宮の神主に、また長田兵部朝日長者は、これからつくる『たたら』の村下（技師長）をつとめることになりました。『たたら』の高殿（施設）の建設には、金屋子神をとりまくおせいの神々が天から地上に来てかかわったと伝えられています。

建設現場に最初にあらわれたのは、なんとおどろくことに75人の子供の神々です。子供の神々には、まず75種類の仕事に必要な道具をつくりました。

始めは自分たちが村下となって土地を整備したり、杉の木を伐って『ふいご』をつくりたりして、建設の総指揮にあたりました。

一方、朝日長者は山に入り砂鉄と炭を集めています。高殿では伊がつくられ、そのまわりには、建物の中心となるいせつな6本の大きな柱が建てられ、その柱を金屋子神をはじめ、木の神、日の神、月の神が、東西南北の方向を分担して守っています。このほか屋根を火災から守る神、伊に風を送る風の神、風を送る『ふいご』などさまざまな道具をつかさどる神々、また、『たたら』には、数ぞえきれないほどおせいの神々が参加し、協力しています。

金屋子神は、奥出雲一帯に次々とたくさん『たたら』の施設をつくりました。

金屋子神がかかわると、どこの『たたら』でも買のすぐれた鉄が限りなく産みだされました。

金屋子神がかかわると、どこの『たたら』でも買のすぐれた鉄が限りなく産みだされるので、金屋子神に対する信仰が、『たたら師』とよぶ、たたらで働く人たちのあいだにひろまっていきました。

たたら師たちからは、「金屋子さんは、生産を高める女の神さまだ」と信じる人も出てきました。また、人によっては「いや、金屋子さんは男の神さまだ。いつも炉の中の強い火の光りばかり見ているので、片目をとられてしまった。一つ目の神さまだ」という人もあらわれました。

ある年の冬、金屋子神は村下をつれて『たたら』に向かう途中、高殿の前でとつぜんとびだしてきた犬に吠えられ、ふたりはなんとか逃げようとしたが、びっくりした村下は、地面に落ちていた麻績に、足の小指をとられころで転んで死んでしまいました。金屋子神は、集まってきた『たたら師』たちに、「村下の死骸は葬ってはいけません。そのまま高殿の瓦山柱にくくりつけて鉄を吹くのです」と、教えました。『たたら師』は、神のいわれるままにして仕事を続けると、いままで以上によい鉄を大量につくることができたということです。

金屋子神は、このように「死のけがれ」を好む不思議な性格の一面をもった神でもありました。

広瀬町 金屋子神話民俗館 資料より

2000.1.8. 作成 by M.Nakanishi

姫路市 兵庫県立歴史博物館 ビデオライブラリー

### 1.3. 「千種鉄 と たたら製鉄」

tsz11.htm by M.Nakanishi 2001.1.21.



日曜日 神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のビデオライブラリーの「千種鉄」のフィルムを果にでかけた。前に一度見た事があるのですが、もう一度「千種 たたら」の歴史について話の整理のつもりででかけた。

姫路城の北側 きれいに整備された公園の中に博物館がある。中に入ると思いもかけず、兵庫歴史博の講堂金村上泰樹氏「発掘から見た兵庫の歴史 兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。古代鉄と遺米人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか」など 自分のイメージ高のようと思っている時だったので、本当に良い機会となりました。

また 今 千種町と隣接する山崎町の山奥で「古代たたら遺跡」の発掘がはじまっていると聞きました。是非たずねようと思っています。ビデオライブラリー「千種 たたら」のフィルムから 千種「天光屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写しが「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることができました。また千種のたたらに関係した千種の町の人たちに連絡と続く。ビデオからとった写真を少しスライド風にまとめました。また、最初に千種町歴史民俗資料館を訪れた時に「千種鉄」関係の資料を整理まとめられた本を頂きましたが、今読み返してみても多くの資料が整理されています。先のまとめに記すのを忘れましたので参考に書名のみ記します。

●千種町教育委員会「たたらと村と百姓たち -千種鉄関係資料集-」 昭和58年11月15日発行

2001.1.21. 神戸にて M.Nakanishi

## 千種鉄 と たたら製鉄

兵庫県立歴史博物館 ビデオ ライブラリーから

### 1. 金屋子神話とたたら製鉄



### 2. 金屋子神 降臨伝承の地「千種 岩野辺」の製鉄遺跡



### 1.4. 「発掘が語る兵庫の歴史『兵庫の鉄』」

村上泰樹氏 講演

—中国伝来の弥生 鉄造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた—  
hmz12.htm by M.Nakanishi 2001.1.21.

日曜日 神戸に帰ったついでに、真になっていた歴史博物館のホームライブラリの「千種鉄」のフィルムを見にでかけた。

博物館では思いもかけず、兵博ゼミの講演会村上泰樹氏「兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。丁度古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか？」など 自分のイメージ嵩めようと思っていたので、本当に良い機会となりました。

また 現案がはじまっている山崎町の「古代たたら遺跡」の紹介是非たずねようと思っています。

ライブラリ「千種 たたら」のフィルムから千種「天児屋鉄山遺跡」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることができました。

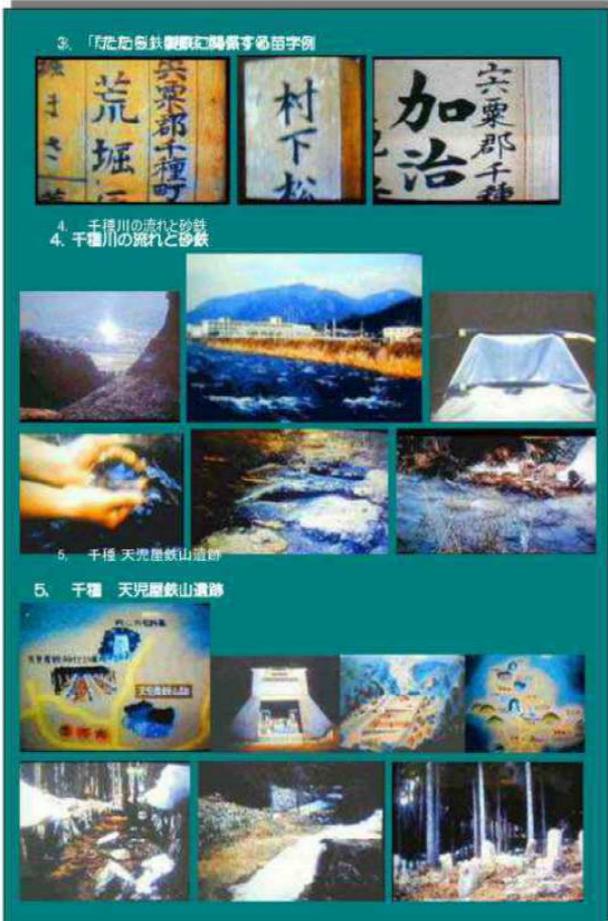
また 千種のたたらに關係した富士も  
兵庫の地が発掘された弥生時代の鉄器・石器道具の分析から倭・大和とほぼ同じ先進の地であったという川村氏の考察 道具の見方 道具が語る考古学おもしろかったです。

また 紀元前 今から約 2000 年前 中国から伝来した鉄造鉄斧には、現在にも通ずる熱処理の原点とも言える炭炭の熱処理が行われていた事教えてもらいました。

鉄の技術の奥深さという古代から脈々と流れる鉄の技術に触れることができました。  
寒い冬 家にじっとしてようかとも思いましたが、やっぱり 出かけるのとそれだけの価値有り。



村上泰樹氏は「兵庫の鉄」講演の中で 村上泰樹氏著「倭人と鉄の考古学」をベースに中国・朝鮮半島と「倭・日本」の交流・鉄伝来の歴史を解り易くレビューし、それらと兵庫で発掘された縄文遺跡・弥生遺跡からの出土鉄との関係が語られた。  
その中で道具 石器から鉄への変化 また、鉄の日本伝来が巻き起こす古代史の謎解明の手がかりとし



2001. 1. 27. M.Nakanishi

て、紀元前 今から約 2000 年前福岡の弥生遺跡から発見された中国大陸伝来の精製鉄斧にスポットをあて、鉄伝来の歴史を語られたが、案におもしろかった。

その中で出土した中国製の精造鉄斧の表面には、表面部をネバクするため均一の深さで炭炭層を付与する熱処理が施されている事知りました。(例えば 福岡県比恵遺跡鉄斧など)

村上泰樹氏著「倭人と鉄の考古学」の表紙を飾る中国製精造鉄斧の断面写真は実にあざやかで、古代から現在へ通じる熱処理技術のまさに原点であると思えます。

鉄器は熱処理の加工がスタートといわれているが、紀元前中国では精練が既に行なわれ、その鉄を用途にあうように均一に熱処理する技術が既にあったこと驚きです。

また、低温加熱して鍛錬することで不純物や炭素を飛ばし、強化する技術(錬鉄)も既に紀元前があったという。

いずれも現在に通じる鉄の技であり、7世紀 古代丹後の「高チタン砂鉄によるたたら」の考え方が現在の溶錬材料に通じる技であること見つけてびっくりしましたが、それよりもずっと以前に鉄の熱処理の技がほぼ完成された形で日本に入ってきていた事全く知らずビックリしました。

もっとも 日本では当時まだ作れず、日本で作れるようになるのはずっとあと6~7世紀。

おそらく 朝鮮半島と交流のあった北九州・吉備などに鉄製品や技法が最初に伝えられたと思われるが、倭・大和が次第にこの鉄のルート・製品の流れを支配することにより、 圧倒的な強さを持ち 群雄割拠していた日本各地の豪族を配下においていたに違いない。そして その間 多くの渡来人を配下に鉄の精練・熱処理技術も学び取り、さらに巨大になっていったと考えられる。

今 日本で具体的な精練が行なわれたことがはっきりしているのは6~7世紀頃であり、それ以前の鉄の伝来・製造技術については良く判っておらず、日本誕生に関わりなく大きな役割を果たしたに違いない日本での鉄器の製造と日本誕生のロマンと重なる多くの古代史ファンや学者を魅了している。

千種川水系の兵庫県山崎町の一帯北の瑞千種町と接するところ 丁度 古代製鉄発祥の伝承地である岩野辺から山を会して南側にあたる山奥小茅野山で今古代のたたら遺跡の発掘が進んでいるとの事。今のところ平安時代には測れるらしいが、調査が進めば、もっと古代へさかのぼれる可能性があるという。「古代製鉄発祥の地」の伝承のある「千種」近隣地で本当に「古代へ通れる遺跡が出て来ないか」と期待。  
是非確かくなればwalkしようと思っている

2001.1.21. 姫路 兵庫県歴史民俗博物館で By M.Nakanishi



#### 編成図 千種鉄

- 1. 「たたら」製鉄の神 金屋子神 弥生伝承の地 和鉄のふる里「千種・岩野辺」

【完】



兵庫県千種の位置  
兵庫県歴史民俗博物館 山崎町との境



千種鉄 和鉄 発祥の地 千種と千種川



国道沿い千種岩野辺に立つ  
金屋子神 製鉄の鎮

### 製鉄の神 金屋子神の総社 金屋子神社 と 金屋子神神話

兵庫県 広瀬町



広瀬町ホームページより



〔広瀬町 金屋子神社 1999.3.12.〕

## 2. 古代出雲の国 謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡

2001. 2. 12. kjjina.htm by M. Nakanishi

Iron Road [2] 2001

古代「Iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ

2000 年前忽然と消えた大量の銅剣・銅矛・銅鐸がその姿を現わした



古代出雲 信仰の中心  
神名火山【仏経山】

大量の銅剣・銅矛・銅鐸が  
埋められていた荒神谷遺跡

大量の銅鐸が一度に出土  
加茂岩倉遺跡

### 古代出雲の国 謎の荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡

1. 荒神谷・加茂岩倉遺跡 country walk
2. 荒神谷遺跡 探訪
3. 加茂岩倉遺跡 探訪
4. 大量の青銅祭祀器埋蔵の謎



日本誕生前夜 古代出雲に花開いた青銅器文化が忽然と消えた。古代日本の「Iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ。それを今に伝えるのが 出雲 加茂岩倉・荒神谷遺跡だ。

2001. 4. 1. By M. Nakanishi

## 古代史の謎

### 2.1. 加茂岩倉遺跡・荒神谷遺跡 Country Walk



穴道湖の西の端 出雲大社の南 平野部から丘陵にかかる一帯は神話の国 古代出雲国。この出雲の国の南側にそびえ、古代信仰の中心であった神名火山(仏経山)の山裾から平野部にかかる谷筋の山の山腹から大量の銅剣や銅矛・銅鐸が並んで埋められているのが発見された。荒神谷遺跡である。また、ここから南東 3.5km の同じような丘陵地山腹から大量の銅鐸が出土した。[加茂岩倉遺跡] 日本各地で個々に発見されている古代銅剣・銅鐸の数を越える量がこの地に一度に埋められていた。弥生時代後期 紀元 2 世紀頃と推定されている。この出雲以外にこれほど大量の青銅器

まとめて発見された例はなく、またこの地が神話に語り継がれる出雲国であったことから、この時代に九州・近畿と並ぶ巨大な王国が出雲に在った事の証拠を提供した。また、「なぜこのように大量の青銅器が埋められたのか」そしてその後 この地においても 忽然と青銅器は絶え 日本統一が進む古墳時代へと突入して行く。



加茂岩倉遺跡出土 大量の銅鐸

荒神谷遺跡出土 大量の銅剣・銅矛・銅矛

「この時代 出雲で また 日本各地でなにが起こったのか」この出雲荒神谷・加茂岩倉遺跡の「大量の青銅器出土の謎」については多くの説があるがまだその謎は解けていない。唯一言えるのはこの時代 「種の国の大乱」と呼ばれる日本各地での内乱の時代を経て 九州・近畿・吉備・出雲・丹後など次第に統合され各地に王国が形成されて行く。そして、巨大化して行く大和連合。「鉄器」を支配し 巨大な勢力を蓄積してきた天孫族大和が次第に各地の王国を従え日本を統一してゆく。大和勢力との戦いの過程で出雲における信仰の中心 国のシンボルであった青銅祭祀器を隠すため埋めたのであろうか… また 戦いに敗れ 一度に廃棄させられたのか… 鉄の支配を通じ巨大化した大和勢力との戦いのなかで忽然として消えた出雲の王国 その文化の象徴が荒神谷・加茂岩倉遺跡に大量にかくされた青銅器であったのではなかったか…。古代中国・朝鮮半島から続く「鉄の道」が日本国内を進んで行く過程でおこった「青銅器文化の謎」。

古代日本の「Iron road 鉄の道」で繰り広げられた壮絶なドラマ それを今に伝えるのが 出雲 加茂岩倉・荒神谷遺跡だ。

本年 2 月 米子の娘のところに訪ねる機会があり、娘たちとして 誕生を祝い用としている孫娘と一緒に念願の荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡を訪ねることが出来ました。まだ少し肌寒い日 どちらの遺跡にも人影なく、静かな森の中で古代に思いを馳せました。縄文時代には 既に日本各地との交易が盛んに行なわれていた事が青森山内丸山遺跡の遺物からわかっている。そして弥生時代 戦乱の大陸や朝鮮半島からの季節風に乗ってやって来た多くの渡来者が多くの技術や文化を日本に持ち込んだ。大陸や半島から九州・瀬戸内・畿内へと続く瀬戸内の交流路と同時に 日本海沿岸にもまた時代を超えて大陸との交流路が続く。北九州・山口土井浜・出雲・伯耆の国夷鏡田・丹後・北近江・越へ。そして 九州各地 瀬戸内・畿内 そして 出雲など日本海沿岸に多くの国々が出来、相互に交流しながら文化の花を咲かせる。そして巨大化する勢力が統合へ向けての戦乱の世が続いてゆく。そんな中で 青銅器の文化が花咲いた出雲。

- 「この大量の青銅器を作った人達はなぜ一度にこれを捨てたのか？」
- 「敵から奪われるのを避けて隠したのか？」
- 「ヤッパリ強力な鉄の武器を持つ大和の勢力との戦いの為に神名火山が望める神聖な地に隠し自分達の 国のシンボルを守ろうとしたのか？」
- 「出雲オオクニヌシノミコトの出雲国譲りの伝説と出雲大社縁起の伝説はこの争いを伝えているのか？」

根拠はないが次々と話は広がって行く ちょっぴり知っている事を披露してご褒賞。古代の遺跡など日頃全く興味のない娘夫婦もびっくり。「この娘が大きくなった時には 教科書にこの遺跡のっているだろうか 自分がこんな深い遺跡に行ったことおもしろいから…」などと言っていました。現代の生活空間からは離れた山裾の森の中。「こんなところなぜ…」と思うような山腹で「本当に良く見つかったなあ」と思います。日本誕生と鉄の関わり方の凄さにおもいを馳せ、孫娘の未来にも思いをはせた心地よい 1 日でした。

2001. 2. 12. 出雲 謎の荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡を訪ねて by M. Nakanishi

大量の銅剣・銅矛・銅鐸が隠すかのように整然と埋められていた

### 2.2. 出雲 荒神谷遺跡 探訪

鳥根県簸川郡斐川町大字神庭西谷

2001. 2. 12. by M. Nakanishi



荒神谷遺跡は、「出雲国風土記」に記されている神名火山(仏経山)の東約 3 km、高瀬山北麓の低丘陵地帯に散在する小さな谷あいの一つにあります。この荒神谷 神名火山の山裾の丘陵斜面から大量の銅剣と銅矛・銅矛が相次いで見つかりました。現在は周辺の丘陵地帯をふくめた広大な史跡公園として整備され 誰もがおとずれる森林公園になっています。弥生青銅器が出土した地点は、標高 28 m あまりの小さな尾根の南斜面中程です。この地点は農道の予定地に決っていたため、県と町教委で分布調査を行い、県教委で遺跡の調査を行った結果、まったく幸運にも昭和 59 年 7 月、358 本もの大量の銅剣が発見され、さらに翌 60 年、前年銅剣が大量に発見された場所から約 7 m はなれた隣接した場所から銅矛 16 本、銅鐸 6 個が一度に発見されました。今も発見された時と同じようにレブリカが置かれまじかに発見された様子が見られるとともに、周辺の丘には遊歩道が整備され 青銅器が埋められた山腹全体が眺められるようになっています。



神庭荒神谷遺跡で 2001. 2. 12.



整備された発掘現場 左銅剣 右銅鐔・銅矛（西側）

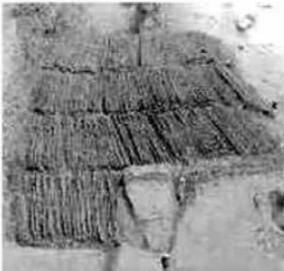


荒神谷遺跡の銅剣の柄に〔X〕印



岩倉岩倉遺跡出土の銅鐔にある〔X〕印

銅剣の柄にあった〔X〕印と加茂岩倉遺跡銅鐔の表面にある〔X〕印



発見された銅剣

左の写真は発見された銅剣の状態を示していますが、手前から一列に34本、111本、120本、93本の銅剣が、整然と並び、刃を起こして密着した状態で出土しました。日本全国の出土数を上回る358本もの大量出土は、出雲に巨大な勢力が存在していたことを裏付ける証であり、古代史や考古学界に大きな波紋を投げかけた。これらの銅剣は弥生時代後期（2世紀）「中細形銅剣」類（あるいは「出雲型銅剣」）と呼ばれ、朝鮮半島の鉛を使って作られていることが分かりました。このうち100本以上に、刃の部分が刃こぼれのように「ぎざぎざ」が浮き出たものや、鑄型のずれによって刃表面に段差が出来たり、茎がゆがんだりしたままのものなど仕上げの不十分な剣が見つかった。

また32本の銅剣の茎（なかご）部分に「X」印が刻まれていました。

加茂岩倉遺跡から発見された銅鐔にも「X」印があったことで、荒神谷遺跡との関連が注目されています。銅矛16本の長さは69センチから84センチで、実用品ではなく武器形の祭器だったと考えられます。刃の部分はキラキラと輝く効果をねらって鏡形状に研く方向をかえているものがある。

佐賀県の検見谷遺跡の銅矛と非常に似ており、九州で矛製作されたものと考えられています。また、銅鐔は6個、1号銅鐔は、吊り手の断面が二段になっていることや重直文・市松文が描かれていることなど近畿地方では見られない大衆的な銅鐔であり、5号銅鐔は吊り手の断面が厚い菱形であることから最古段階の銅鐔で内面にある突帯が磨り減っていることから長期間にわたって「カネ」として使用されたと思われる。

また、これら銅鐔の成分は、出土した大量の銅剣の成分に含まれる銅、鉛、スズや不純物の混合比率が一致することが分かり、どちらも出雲で製作された可能性がります。

銅鐔は近畿、銅剣は九州を中心とした文化圏とする考古学の通説に見直しを迫るようになってきました。

銅鐔は近畿、銅剣は九州を中心とした文化圏とする考古学の通説に見直しを迫るようになってきました。



1996年10月14日加茂町の農道工事現場である丘陵地の山の中腹で39個もの銅鐔が埋まっていたのが発見された。大量の銅鐔が埋められていた荒神谷遺跡から南東へ約3.5kmはなれた仏経山の麓の谷に面した丘陵地の山腹である。また、加茂岩倉遺跡から少し行ったところに神原神社古墳があり、そこからは、邪馬台国・卑弥呼が魏に使いを送った年と言われる景初3年の年号の入った三角縁神獣鏡が発見されている。これら青銅器はいずれも出雲の国の祭祀と深く関わっていると考えられる。

銅鐔・銅剣・銅矛は弥生中期（紀元前1から紀元1世紀）のものでこの青銅器祭祀は弥生後期（3世紀）に出雲を中心に鳥取・富山などに四隅突出型方墳が現れてくると消えてしまう。

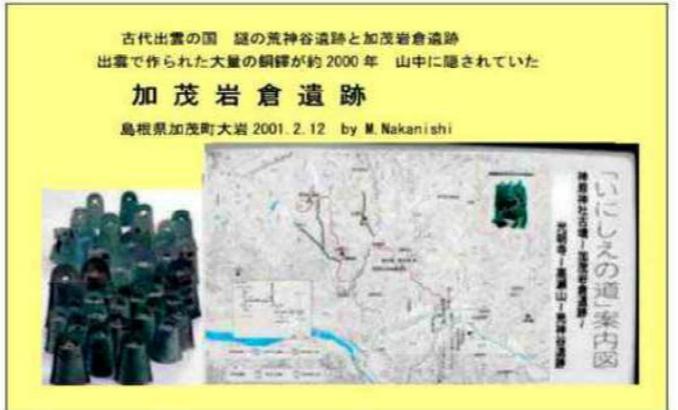
四隅突出型方墳の出現とは少し年代がずれるが、新しい勢力の伸張により、旧勢力である出雲が青銅器を廃め、埋め隠すことをしられ、加茂岩倉・荒神谷遺跡が形成されたと考えたとこの加茂岩倉・荒神谷遺跡の謎も理解出来る。

また この新勢力の伸張にはたした「鉄」の役割はおおきい。大和政権を打ちたてた天孫族 四隅突出型方墳を作った伯耆・丹後・越前などの諸王國が大和、朝鮮半島を含め「鉄の覇」を競ったに違いない。古代製鉄を勢力伸張の中心に据え 長年にわたり、iron road 鉄の道を巡って 諸国間の抗争が続き、この過程で出雲青銅器祭祀の理窟を「鉄の新しい王国に屈服していく中での抵抗の象徴」として見るとこの加茂岩倉・荒神谷遺跡の謎も解けてくる。

文化をも抹殺する力を持った鉄のすごさがここでも見える。

〔X〕印の線刻は銅剣の柄（つか）に差し込む茎（なかご）にみられ、約1センチ四方の大きさがある。刻まれた理由は「工人グループのマーク」か「『銅剣の祭り』の祭主の家紋」ともみられている。また、粗雑な作りの多い理由としては、銅剣や銅鐔などの青銅器はこれまで権力者や神の力を誇示するための儀式に使った後で土中に埋めたとする説が有力だった。しかし、弥生後期は稲作が富の象徴として確立する時期に当たり、宝器として見せるよりも、豊作を祈り地の霊に捧げるため、最初から土中埋納用に生産されたものとする説があります。

「なぜ 出雲で文化圏の異なる銅矛・銅鐔・銅剣が大量に見つかったか」については、出雲の国がもともと朝鮮半島・大陸からやって来た航海所にすぐれた渡来人が作った海の民の国であり、出雲が日本海を中心とした交易の集積地として、これら青銅器の工人も住みつきここで大量に作られた銅剣・銅鐔が全国へ配られたとする説もある。



加茂岩倉遺跡のある大岩郷遺跡 正面が大岩〔岩〕 岩倉遺跡は反対側

2月12日 朝早く 娘夫婦の案内で米子を出発して国道9号線を松江の方へ。松江の市内を避け五道から南へ折れて丘陵地を西へ15分ほどで加茂岩倉の郷へ。ちょうど山陰高速道の工事が急で進んでる谷合の道路際に岩倉の名の発祥の大岩 岩倉が見て取れる。街の喧騒の中を脱し、四方丘陵地に囲まれた谷合の静かな場所である。冷たい風が吹きぬけ、朝霧の中「神おわす場所」の感じである。駐車場に車を置いて、谷合の道を10分ほど谷合を入ったところに加茂岩倉があった。今 史跡整備中と見え 足場が狭くもつまっていた。



加茂岩倉遺跡入口 右手の丘の上が遺跡



加茂岩倉遺跡からもと来た道 遠方に鳥根半島を望む



加茂岩倉遺跡への階段

本当に四方いづれも山路が迫る狭い 谷のどんつきでどこにもある山間の谷の中。隠す場所としては最適であったろう。大量の銅鐔が埋められていた位置は思ったよりも高く、谷合の道からは数10メートル上の山腹にあり、今高い階段と歩道道の工事がされている。本当にまわりには何の目印もないそれとて特徴のない谷合の枝分かれした支谷の山腹に約2000年にわたって隠されていた銅鐔。どんな思いであつたらうか……。

私の知っている銅鐔は神戸の海から見渡せる山々から出土した大型の銅鐔。全く置かれた環境が違つたらう。寒さに震えつつ、ここに銅鐔を埋め去って行った人達の思いを夢想しつつ、神鹿荒神谷に向つた。

2001.2.12. 加茂町大岩 加茂岩倉遺跡にて



### 3. 久しぶりに訪れた 九十九里

#### 砂鉄の浜 飯岡浜と羽計台

2001.4.27. bioka.htm by M.Nakanishi

Iron Road [2] 2001  
2001-2002.4



古代の湖に広がる水田と香取台地  
海上町 2001.4.27.

飯岡漁港とさの向こうに続く九十九里浜  
飯岡 刑部岬から 2001.4.27.

4.27. 午後 約10年振り 九十九里 砂鉄の浜 飯岡浜まで 足をのびした。「Iron Road 鉄の道」を歩いてみようと考えたスタートが九十九里浜の北の起点 飯岡の浜。10年ぶりに訪れた飯岡台のある刑部岬はきれいな公園になっていた。眼下に見える飯岡漁港から南へまっすぐに伸びる九十九里浜 そして その東には古代大きな湖があった海上町の水田がひろがり、その端に「たたら製鉄遺跡」が点在する香取台地もそのまま。



飯岡浜から刑部岬・大吠崎を望む飯岡浜



風紋に混じる砂鉄

飯岡の浜におりると 沖には砂防のブロック堤防がならび、砂に混じる砂鉄の量が随分すくなくなったように思う。鉄子から飯岡・九十九里へ向う岬の上にあり、昔随分世話になった教会へも上がってゆきました。また、かつて住んでいた会社のあった東庄香取台地の羽計台にも寄って見ました。寮はもう別の建物に変わっていましたが、下総橋駅から羽計台への坂道も昔と変わらず静かな夕暮れ。



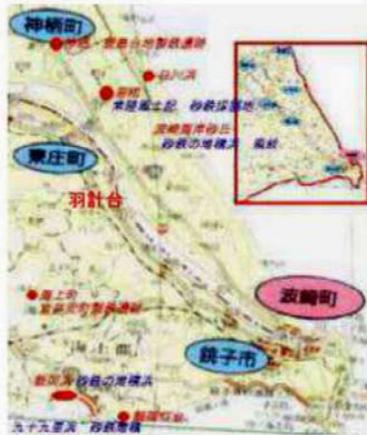
昔世話になった鉄子の教会



羽計台の夕暮れ

古代の湖に遠々と広がる水田から九十九里  
今ももう跡形もありませんが、この鉄子から香取へと続く小高い台地が古代の『製鉄』の根拠地であったことを頭に浮かべながら、羽計台の台地の上を北へと帰って着きました。

「羽計」の地名が「たたら製鉄」に關係する地名と教えてもらったのはずっと後の地を離れてから。訪れた夕方 日没前 羽計台の東側からは、房総・鹿島・香取の古代製鉄遺跡の連なる場所 鹿島製鉄所の大工場が見て取れ、また台地西には古代の湖の後の地に水田が夕日に映えていた。この香取台地は古代から今に至るまで製鉄との関わりを持つ重要な地点であり、台地の北の端にある香取神宮もきつと鉄との関わりがあるに違いないとおもえる。



羽計 なんとも奇妙な名前と思って生活していた昔、鉄との関わりを知って、もう一度この台地に立って見たいと思っていた。短時間ではあるが台地に立てた。本当に夕日の素晴らしい夕暮れでした。

今度は是非ゆくり 香取神社からこの台地を飯岡海岸へで、鏡子から利根川を渡り、砂鉄の砂丘が続く波崎日川浜 常陸風土記に砂鉄の記事が有る「若松」そして 鹿島神宮へ

時代の流れは無茶苦茶でしょうが 房総と常陸の国をつなぐ iron road 鉄伝播の道 をたどって見たいと思っています。

久しぶりに飯岡・東庄訪問  
帰路利根川沿いバイクを走らせつつ

2001.4.27. by M.Nakanishi

### 4. 縄文の石鏃について「アスファルト」

2001.4.27. asfa.htm by M.Nakanishi

Iron Road [2] 2001  
2001-2002.4

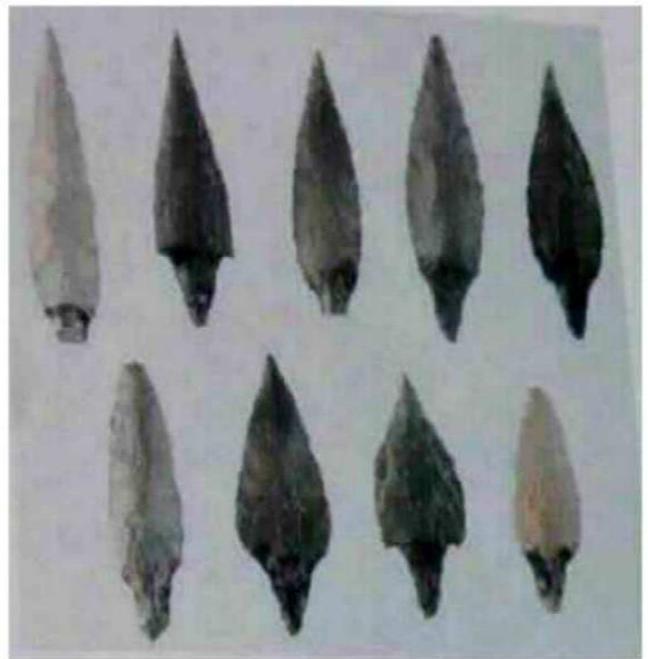
4.27. 青森山内丸山縄文遺跡から縄文列島へ「縄文文化の扉を開く」歴史民俗博物館企画展が佐倉の国立歴史民俗博物館で開催中。そのシンポジウムを聴講した。先日 森本哲郎氏の講演で「山内丸山縄文遺跡」は世界4大文明にも並び 5大文明ではないかと聞いたが 今「山内丸山縄文遺跡」の世界史的な位置付けが議論されていた。世界文明の展開が農耕定住によって育まれたという定説に対し、森と海に囲まれ農耕を持たぬ森の民が高度な文明を数千年にわたり育み、縄文の世界観を全くかえた青森山内丸山遺跡。あのベストセラー「神々の指紋」で知られるイギリスの作家ハンコックも世界の古代遺跡探訪のドキュメント取材で山内丸山遺跡を訪れたという。

また、まだ 鉄器が現れる前の時代から 物と物との接合接着に「アスファルト」が使われていた。接合に携わるものとして、接合・接着の原点とでもいえる古代の「アスファルト」接着がどんなものか知りたと思っていました。縄文時代このアスファルトは新潟「越」の国で産出。交易品として日本海沿岸で広く使われていたという。この「越」の国のアスファルトを石の鏃につけて柄と接続されて展示されていました。いろんな本で聞いていたが、やっと現物見ることも出来ました。



石鏃とその柄の接合に使われた「アスファルト」

溶融接合の原点は「奈良の大仏の鑄掛け」。それに先駆ける事数千年前 縄文時代からアスファルトによる接合・接着が行なわれていた。同じ時代「漆」もまた土器の装飾・接着につかわれ、山内丸山遺跡の土器などの彩色にはベンガラをまぜた赤漆が用いられていた。簡単そうで中々思いつかぬ物作りのアイデア。数千年前 既に朝鮮半島から本州・北海道に至る日本海沿岸で「黒曜石」「ヒスイ」などと一緒に関与されており、弥生時代以降の「鉄」と同様に大きな文化圏になう役割を果しているに違いない。



石鏃とその柄の接合に使われた「アスファルト」

2001.4.27. 歴史民俗博物館 「縄文文化の扉を開く」展にて

## 5. 接合のルーツ 「漆」・「アスファルト」を見る

「発掘された日本列島 2001」展  
 -日本の固有の「木の文化の加工技術」として-  
 ursib.htm

Iron Road [2] 2001  
 2001-2002.4

6.16. 本年も「発掘された日本列島 2001」展が四国の東京博物館で開催中。

今年の目玉は出雲大社の古代中空にそびえる神楽心柱の発掘。最近の古代遺跡発掘から、4世紀卑弥呼の時代、すでに大和に巨大勢力があり、「九州・出雲・東海・越前」など日本各地の土器などからこれらの地方が大和の勢力下にあったことが判ってきて、また、従来考えられていた縄文時代には考えられない巨木を加工した日本古来の「木の文化」の存在など古代史が書き換えられようとしている。出雲大社の発掘から、古代中空にそびえる巨大神楽心柱(東大寺大仏殿よりも大きな高さ46mを超える建物)伝承を裏付ける巨大心柱が発掘された。

春 出雲大社の本殿の前にある発掘中の「宇豆柱」を見ましたが、大きな柱が三本束ねられ、すごいと思いました。



天空にそびえる 古代 出雲大社 想像図 NHK TV より



発掘中の宇豆柱

三本の大木が一つの柱に組み立てられている

三内丸山遺跡をはじめとして、古代遺跡で次々に見つかる巨大木加工技術。これらから、日本には世界3大文明に匹敵する「木の文明・文化」があったとする説を唱える人が多くなってきているが、大空高くそびえる出雲神楽の存在はますます日本固有の「木の文化」の存在に根拠を与えるものと思う。ともすれば「日本の文化は渡来人によってもたらされた」とする日本古代史が書き換えられようとしています。

三本の大木を束ねた柱が根本も大空高くそびえ、その柱の上 大空に大きな神楽がそびえている。想像しただけでもびっくりする建築物。これが日本古来の文明がもたらした木の加工技術・ピラミッドに相当する文明の幹を集めた巨大木造建築物と言わずにおれようか.....

本当にビックリした。春 出雲大社でこの宇豆柱の発掘を見たときにはすごい柱だとは思いましたが、天空にそびえる神楽のスケールの大きさを見て本当にびっくり。

三内丸山の巨大な6本柱といふ 最後の弥生時代の巨大柱を使用した幾多の建造物。そしてこの出雲大社の古代神楽。日本の木の文化の素晴らしさが見えてくる。そんな中で 古代の加工技術の基本となる接合と深くかかわっていた、縄文の「漆」と「アスファルト」が発掘展示されていた。

接合にたずさわるものの自負心かもしれないが、これらの加工技術が道具・工具をつくり ぎめの細かい加工を可能にし、その展開が日本の木の文化を大きく育てた事であろうことは想像できる。北海道の縄文遺跡から縄文早期の最古の「赤漆製品」が発掘され、従来大陸から伝わったとされていた「漆」が日本固有の技術である可能性が強まった。また、青森八戸の縄文遺跡からは「赤漆」により、接合補修された痕跡のある遠光器土土偶の首が発掘展示されており、古代の有力な接合・補修技術であることが判る。きっちり補修接合として漆が使われているのを見るのは初めてでした。

また、新潟の青田縄文遺跡で出土した「天然アスファルトの塊」が展示され、古代縄文のアスファルトの塊も見るのが初めて。もう 数年にわたって 日本の接合・接着技術の原点として「アスファルト」「漆」で設置・接合された物を見たくて色々博物館へ通いましたが「アスファルト」について「漆」でもが実際に使われた現物をやっと見ることが出来ました。

### 接合・接着のルーツ 赤漆・アスファルト 「発掘された日本列島 2001」展より



縄文の赤漆と天然アスファルト塊

赤漆での修復痕跡のある土偶

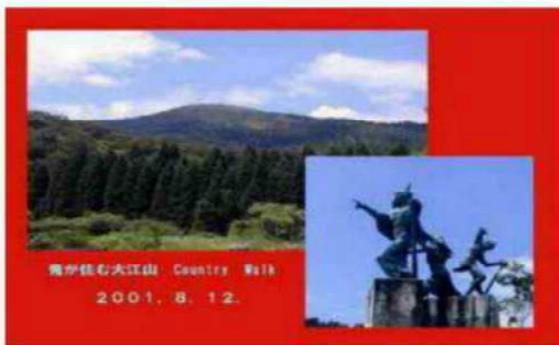
日本の古代の歴史が書き換えられようとしています、それと伴って 従来はあまり注目されていなかった「日本の木の文化」が世界文明の視点からも重要視されています。日本固有の文化・技術と稲・鉄を中心とした大陸からの技術が融合し、日本が形作られた。今、「古代鉄の流れ」からも不思議な事多く ちょっとづつ ベールが剥がされていくのが面白い。

たたら・和鉄探訪 COUNTRY WALK 2001.7.1. by M. Nakanishi

## 6. 鬼の住む山 京都府 大江山 Walk

大江山の鬼伝説に  
 『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきかたてて  
 oeyma.htm by M. Nakanishi

Iron Road [2] 2001  
 2001-2002.4



鬼が住む大江山 Country Walk  
 2001. 8. 12.

- 6.1. 鬼が住む山 大江山へ 古代 iron road の夢のせて
- 6.2. 鬼の住む山 大江山 walk
- 6.3. 酒呑童子説話と大江山「鬼退治」

8月12日 神戸から車で舞鶴自動車道を通って約2時間弱。お盆の休暇を利用して、あの鬼退治の大江山へ行ってきました。

京都の北 丹波と丹後の境に大江山がある。あの酒呑童子の伝説・鬼の住む山である。小さい時から父の故郷丹波へ行くたびに通る道筋にあり、幾度もこの鬼退治伝説を聞かされてきた。

『鬼』伝説のあるところ『たたら』製鉄遺跡あり。

『たたら・iron road』探訪をはじめ、一度はきっちり大江山の山中へ入りたいと思ってきた場所である。

この大江山の北側丹後の国は古代大和政権誕生に先立って巨大な古墳が出現し、その後 弥生遺跡など多くの製鉄遺跡が点在する古代鉄の大王国の地。

大江山に続く丹後の山々(例えば 丹波峠山町の比治山など)には「鬼」伝承と同様「たたら」伝承と関係の深い「羽衣」伝説があり、ここから丹後半島を縦断して日本海に注ぐ竹野川流域には古代遺跡や古い「たたら」遺跡が点在している。

また 大江山に源を発し、丹後半島の付け根若狭で宮津湾に注ぐ野田川流域にも古代遺跡や製鉄遺跡が点在し、丹後半島のもう一つの古代鉄の王国の根拠地。

一方この大江山の南の丹波側綾部・福知山は「綾部」の名が示すとおり古代大陸からの渡来人が住み着いた根拠地であり、由良川を介して日本海側の若狭・丹波と畿内を結ぶ要衝の地であり、ここにも由良川を支配する古代大王国があったという。

舞鶴道が綾部の街に入る手前の丘をトンネルで突き抜けるがこの丘は今からおよそ1500年前、由良川流域の王の墓として造られた巨大な私市円山古墳が遺跡公園としてきれいに整備されている。直径70m

を超える京都府最大の円墳で被葬者の強大な政治的権を如実にあらわしている。このように大江山の北に広がる丹波は古代日本海側から畿内に至る重要な通商路であり、大陸から日本海を渡って日本へやってきた渡来の民・文化の重要な国であったことがうかがえる。

日本海・丹後 ⇄ 大江山・由良川 ⇄ 丹波 古代製鉄の基地  
 丹波から都への道は重要な通商路・文化の道として渡来人の道



綾部私市円山古墳

大江山

丹波 比治山 羽衣伝説の碑

丹波・丹波は古代 大陸から日本海を渡ってきた渡来人たちが畿内へ進む道筋であり、また、畿内の勢力が古代和鉄の覇権をめぐって伸張してゆく道筋でなかったか。

畿内と丹後の国に立ちかはる奥深い大江山。

立証されていないが、「古代鉄生産をめぐっての畿内と丹波・丹波の大王国の争いがこの大江山「鬼」伝説を産んだのではないか?」という夢が丹後の羽衣伝説・大江山鬼伝説とともにふくらんでくる。幾度もなく綾部から丹波へのこの大江山の山越えの道を通過したことはあるもの一度は是非ゆっくり大江山の山中へ分け入りたいと思いつつも機会を失ってきた。

### 6.1. 鬼が住む山 大江山へ

— 古代 iron road のロマンをのせて —



京都府大江山 大江山登山口

丹波国 古墳・製鉄関連遺跡分布

舞鶴道線部インターチェンジから由良川沿いの山肌に沿ってすこし戻ったところから大江山・加悦・野田川町の標識に従って山の中に入ってゆく。

あまり高い山ではないが、森の中 幾度となくまがりくねりながら山を登ってゆく。こんなところにも人家があるのかと思う奥にも人家がある。山道を約30分ほど走ると大江山登山口のところに居る。

いつもはこの山中を走り抜け、大江山を越えると大江山に源を発す 京都府 大江山登山口の野田川沿いに丹後側の加悦・野田川の町にでて、海岸沿いの岩滝口へ抜ける。この野田川沿いは古代から開けた土地であり、弥生町の竹野川沿いととも古代の古墳や製鉄遺跡が分布している古代からの街道筋。今は道の両側から機械の音が響く街道筋。幾度となくこの大江山を越えて丹後へ行った道である。

山深い道ではあるが、古代からの街道筋、古代遺跡・製鉄遺跡の分布から見るとまぎれもない『丹後の国 Iron Road』。

丹後で本格的な鉄の生産がいつどこでスタートしたかはっきりしませんが、5世紀頃からこの野田川沿いや竹野川沿いに出現した大型古墳や製鉄遺跡からの鍛冶精錬スラグの発見等からこの流域で鉄の加工鍛冶もしくは精錬までが始まっていたのではないかと考えられている。特にこの大江山の山懐は丹後の国 古代製鉄発祥の地の可能性が大きい。

(弥生町編古代製鉄と日本文化より)

## 6.2. 鬼の住む山 大江山 walk



大江山 大江山中腹 鬼公園から 鬼瓦モニュメント 鬼の交流博物館 2001.8.12. 鬼公園にて

由良川の流れから大江山の中へ車を走らせて約30分 大江山登山口と書いた標識と鬼のモニュメントが迎えてくれる。本道から別れ、大江山へまっすぐ一本道が続いている。

もっと山奥の薄暗い感じを抱いていたが、非常に明るい谷筋である。この谷に分け入って少しいったところに大江山をバックに大きな鬼瓦のモニュメントがあり、鬼の交流館やロッジほかの野外活動施設がここに集まっている。数年前大江山で開かれた地域博覧会の会場だったところと周辺の山を含め、自然公園としてよく整備され、野鳥の森やキャンプ場がある。そして この広い公園の丘の一角に大江山をバックに酒呑童子ほかの鬼の群像のモニュメントが大きな台座の上に建ちここの鬼の故郷であることを主張している。ものすごい顔をした酒呑童子が京都を指差し茨木童子・星熊童子がそのそばで威嚇している。なんとも明るい。想像と大きな違いである。

また、この林道の途中には 河守鉦山遺跡の標識がみられ、この大江山が鬼伝承とかかわりのある山「たたら」の痕跡がここにもあると知り納得した次第。



大江山 林道で見つけた河守鉦山遺跡の標識

ものすごい形相をして京都を指差す酒呑童子の像の前に座り込み、大江山を眺めながら、「源頼光の鬼退治」の物語と製鉄の民が描かれた「ものけだ」の映像をダブらせながら、この地で何が起こったのか 成敗された「鬼」はいったい誰なのか？ 遠い昔に思いをはせた次第である。

今回は かつて丹後の国の製鉄の民が鉄を求め、日本海側から野田川沿いにこの大江山の谷深く分け入り、製鉄をはじめたその道筋を野田川沿いに大江山頂上までたどってみたい。

今回の大江山 walk で長年いできてきた「鬼退治の大江山」と「たたら 古代製鉄」の基地 丹後の国とこの国が日本形成に役割を果たしたその象徴としての「大江山」がやっと結びついた1日でした。

それにしても 製鉄の民としての鬼伝説の「鬼退治」 出雲のヤマタノオロチ退治 伯耆 鬼退治 吉備桃太郎伝説の基となった「鬼 烏丸」退治 東北 北上の鬼 蝦夷の雄「アルテイ」の征伐 そしてこの丹後の国 大江山の鬼退治 どれもこれもすべて「鬼はだまし討ち」にされている。

古代日本統一が図られていく中で、次々と退治された鬼たちの国。これらの国の勢力の強さがこの「鬼のだまし討ち」に象徴されていると言えてないだろうか.....

大和政権のみが語られる日本の歴史。日本に縄文の時代 また渡来の民が大挙してやって来た弥生の時代。多くの人の連の融合によって日本が形成されたばかりでなく その後融合され消えてしまったとはいえ、その地方地方にも鬼に代表される地方独自の文化があったとの歴史認識は今を考えると重要なポイントと思う。

2001.8.12. 京都府 大江山 walk by M. Nakanishi

一 酒呑童子の像の前で大江山を見上げ 古代の丹後の国 たたらに民に思いをはせながら 一

## 大江山の鬼の群像 モニュメント



## 大江山へのアプローチ



大江山林道 入口

頂上下の崖 原生林に包まれて建つ 御嶽稲荷神社



京都を指差し天空をにらむ 酒呑童子の像

この自然公園から大江山の頂上直下のところにある古い御嶽稲荷神社のところまで林道が伸びている。

この林道は山深い原生林の中を曲がりくねりながら森の中を分け入り、ほぼ山を半周する形で頂上直下の切れ落ちた崖のふちに建つ御嶽稲荷神社で車道が終わる。ここからは「約30分 原生林の中の足場の悪い山道を登れば頂上」と山から下りてきた人に聞いた。

今回は家内と二人サンダル履きできたので、ここで断念。でもこの狭い崖のふちの森の中に立つと崖の向こうには若狭・日本海へと山並みがつづき、はるか下に小さな集落がぼんぼんと見え、いかにも鬼が居そうな深山の山中。登り口で描いたイメージとは本当 うらはらに低いが鬱蒼とした森に包まれた山々が幾重にも重なって深山である。

## 6.3. 大江山 酒呑童子 と 鬼伝説

oeoni.htm by M. Nakanishi



1. 大江山 鬼伝説の系譜
2. 酒呑童子 説話 一源頼光の鬼退治一
3. 大江山の鬼伝説に 『Iron Road』のロマンをかきたてて

### 1. 大江山 酒呑童子説話 一源頼光の鬼退治一



大江山

鬼退治に出掛ける源頼光の一行

大江山には酒呑童子ほかの多くの鬼たちが住み、都などに出没し、荒らしまわっており、都では鬼による被害が大きいため、鬼退治をすることになり、その任務に源頼光が任命されました。頼光は配下の四天王と呼ばれる渡辺綱・坂田金時・碓井貞光・卜部季武をはじめ、彼らの家来などを引き連れ、大江山に向かいました。

途中、一行は三人の老翁(石清水八幡・住吉明神・熊野権現の化身)に出会い、老人たちから隠れ蓑と神酒を授けられました。隠れ蓑はそれを着ると鬼には姿が見えなくなり、神酒は人が飲めば力がつき、鬼が飲むと神通力を失うというものでした。そして、山伏の姿に変装するとよいと助言しました。そこで頼光らは老翁たちにもった山伏の衣装に着替え、家来たちを導き、山奥へ分け入って行きました。

## 2. 大江山 鬼伝説の系譜

大江山に連る鬼伝説のうち、最も古いものが8世紀に、国の命令で丹後国が提出した地誌書ともいべき「丹後風土記」の写しの一部といわれる「丹後風土記残巻」に記された陸耳御笠（くがみのみかさ）の伝説である。

青葉山中にすむ陸耳御笠が、日子坐王の軍勢と由良川筋ではげしく戦い、最後、与謝の大山（現在の大江山）へ逃げこんだ、というものである。この陸耳御笠のことは、「古事記」の崇神天皇の条に、「日子坐王を丹波国へ遣わし秋賀耳之御笠を討つ」と記されている。また、用明天皇の時代というから六世紀の末ごろのこと、河守在三上ヶ嶽（三上山）に英胡・経足・土熊に率いられた悪鬼があつまり、人々を苦しめたので、勅命を受けた麻呂子親王が、神仏の加護をうけ悪鬼を討ち、世は平穏にもどったというものである。麻呂子親王伝説の関連地は70カ所に及ぶといわれている。—「清園寺古縁記」—

そして、その後の時代背景とこれら古代の大江山鬼伝説とが結びついて南北朝時代には酒吞童子説話としてかたちづくられて行く。そしてその後、これをもとにして、いろいろな物語がつくられてきた。酒吞童子の名がはじめて登場するのは、15世紀初頭の「大江山酒吞童子絵巻」（逸翁美術館蔵）と言われ、その後、中世に入り、熊の発達と共に謡曲「大江山」の主人公として、あるいは「御伽草子」の出現により、広く民衆の中に入り込んでいく。酒吞童子をはじめとする鬼は古来からの土着の神の象徴であり、都の人々にとっては悪者であり、仏教や陰陽道などの信仰にとっても敵であり、妖怪であった。退治される側の酒吞童子にとってみれば、自分たちが昔からすんでいた土地を奪った武将や陰陽師たち、その中心にいる帝こそが極悪人であったといえる。酒吞童子は最期に「おのれ、因ったか。鬼は決して人をだましりしないものを」と言ったといいますが、この酒吞童子の最後の叫びは、土着の神や人々の更には自然そのものが征服されていくことへの哀しい叫び声であったのではないかとされている。

## 3. 酒吞童子に『Iron Road 和鉄の道』を重ねて

先にも示したごとく、大江山周辺の丹後や由良川の流域は古くから渡来人が日本海を渡り住み着いた文化先進の地であり、そしてこの奥深い大江山は都から丹後へ至る交通の要衝であり、難所でもあった。古代、朝鮮半島から日本海を渡り、日本へ持ち込まれた鉄は山陰の諸国で加工され、都に運ばれていた。また、その後製鉄の技法が伝えられるとそれら山陰の諸国は古代鉄の一大生産地として勢力を進展、この鉄の覇権をめぐる日本統一を助めつつあった畿内の勢力とこれら鉄の大王国との抗争が鬼伝説を産んだとも考えられ、その一大抗争があった地の一つが、丹後の国であったと想像される。酒吞童子の祖先がヤマタノオロチを祭る一族から生まれたとする伝説、また酒吞童子の生誕・居所と関係深い土地として伝承されている近江・伊吹・越後・弥彦や丹後・大江山などは修験道・山の民と深く結びつくばかりでなく、古代製鉄の民と極めて強い関連を持つ土地でもある。この「鉄の道での覇権争い」が「大江山 鬼伝説」となり、それが、酒吞童子説話へと展開していったと考えることはあながち幻想とも言いがたく、「和鉄・たたら」のロマンを追うものにとっては一層そのロマンをかきたててくれる。山陰鉄の大王国 奥出雲・伯耆そして丹後 この大陸から日本海側を通過して大和・畿内へと続く山陰の「Iron road」で起こった鉄の覇権争いがその土地土地で「鬼伝説」を現し、日本誕生へとかわっていったのではないかと……

2001.9.7. 大江山の鬼 に 和鉄の道・遠き古代を夢見つつ

## 6. 京都府 大江山 鬼の住む大江山 country walk walk 「完」

やがて一行は川で血の付いた布を洗う老婆に出会いました。老婆は頼光たちを見ると「ここは鬼の里です。見つかる大変ですから、お逃げなさい」と言います。しかし頼光らは「我々はその鬼を退治に来たのだ」と告げ、老婆に、あなたはどのような方のですか？と問います。すると老婆は涙を流しながら、身の上を語りました。老婆は鬼たちにさらわれた都の貴族の妻。しかし復せていたため、食べられるのを免れ、鬼の神通力で200年の寿命を与えられ、下働きをして生き長らえているとの事でした。そして老婆は頼光たちに鬼の城への道筋や鬼の城の中の様子などを教えました。やがて、頼光たちは鬼の城に到着。道に迷ったので泊めて欲しい、と言いました。鬼たちは承知して、一行を中に入れます。すると頼光は泊めてくれるお礼に、と酒を差しだし、鬼たちもそれを喜んで酒盛りが始まりました。大將の酒呑童子の他、四天王の星熊童子・虎熊童子・熊童子・かね童子そして近所の山から来ていた茨木童子。酒盛りが進むに連れ、鬼たちはすっかり上機嫌になりました。やがて夜になると、頼光らは起きだして老婆に聞いていた鬼の寝床に向かい、老翁たちにももらった隠れ蓑をつけて酒呑童子のそばに近寄り、一気に首をはねました。酒呑童子の首ははねられたまま頼光に飛びかかり、その兜にかみついたまま動かなくなりました。酒呑童子は最期に「おのれ、因ったか。鬼は決して人をだましりしないものを」と言ったといっています。続いて頼光たちは他の鬼たちも次々と倒し全滅させました。そして鬼の亡骸を火葬にすると、山を降りました。途中、老婆と出会った川のところに、人の骨が倒れていました。あの老婆が鬼の神通力がなくなり、寿命により本来の姿に戻ったものでしょう。頼光たちは老婆の骨を丁寧に葬り、都へと帰っていきました。

この酒呑童子説話には、その出身を含め、数多くの異説があり、時代背景を反映しつつ、説話として固まっていたと考えられます。酒呑童子の伝説に関しては下記の文献が基本のようです。

- 「大江山絵詞」逸翁美術館蔵  
15世紀初頭南北朝頃の成立。通称「香取本」。  
香取神宮の大宮司家に伝わっていたもの。
- 「酒呑童子絵巻」サントリー美術館蔵  
因幡池田家に伝わっていたもの。16世紀初頭の成立。
- 「御伽草子」の「酒呑童子」  
16世紀末から17世紀初頃の成立。

- 大江山 日本の鬼の交流博物館 展示資料ほかより -

## 7. 『日本人 はるかな旅 日本の源流』展を見て

— ルーツの旅に現代を重ねて —

japan01.htm by M.Nakanishi 2001.10.10.

Iron Road [2] 2001  
2001-2002.4



「日本人 はるかな旅 日本の源流」展  
国立科学博物館の正面にはニューヨーク貿易センタービル爆破テロの犠牲者への弔旗がかげられていた。

本当にむなしい出来事 人類の長い歴史の智慧で克服できないものであろうか

NHKで『日本人 はるかな旅』シリーズが始まっている。また、これにあわせ東京・上野の国立科学博物館で『日本人 はるかな旅』展も始まった。

数百万年前 人類の祖先が誕生し、立ち上がって歩き出したその二足歩行の足跡が350万年前のアフリカの大地に記されている。その足跡化石が公開展示されていました。『ルーツのルーツ』に思いひとしお。

アフリカで誕生した人類がその後地球寒冷化の中、凍りつく大地を獲物・温暖の地を求め 遠くアジア大陸を渡り シベリヤを経由して3万年前 樺太・北海道・本州へと日本にやって来た原日本人。また、凍りつくアジア大陸の中、海面の低下により地続きの温暖の地となったマレーシア・インドネシア地域（スタラランド）から、2万年前黒潮に乗って沖縄・鹿児島を経て日本にやって来た縄文人。落ち着いた気候に変化したこの長い縄文時代から弥生時代のようにかけ、海や海峡をわたり朝鮮や大陸から日本にやって来た渡来の民。これら日本列島へやって来た人たちが混じり合って出来上がった日本人。

『日本人のルーツ・日本誕生』について、多くのロマンを込めて色々語られてきたが、そのペールが今ひとつ一つはがれつつある。最近の遺伝子解析などの成果は数万年前の日本人のルーツの物語のみならず、『人類誕生の35万年前の姿』までもを生き生きと浮かび上がらせている。ビックリするような話であるが、いずれも根拠と立証がなされつつあるのが素晴らしい。

この展示をみていると『日本人は島の単一民族』などという考えは全く根拠を失い、まさに『人間みな兄弟・地球人』の感がふつと浮かんで来る。



アフリカ タンザニア  
360万年前の人類の祖先が印した  
二足歩行足跡の化石  
おとなと子供の二人連れか  
「日本人はるかな旅」展で



人類進化の歴史  
猿人・類人・原人から新人（現代人）へ  
茨城県立自然博物館 展示より

また、視点を厳しく環境を生き抜いてきた人類 35万年延々と続く『知恵と技』に変えると「本当にまあ、よくこの激変する環境をのりこえてきたものだ」と感じる。今を激変の時代と捕らえているが、そんなものちっぽけに見える。

縄文人は決して野山を駆け巡る野蠻人ではない。世界4大文明にも匹敵する『木の文化』を咲かしている。巨大な木を切り倒しそれを加工する技術は延々と今に続く日本の木の文化の支えである。北の縄文の民三内丸山遺跡では巨大な木を加工する技を持ち、大きな集落の定住生活を築くなどの木の実など植物栽培で成し遂げている。おそらく延々と栽培植物を捜し求め、やっとう行き着いた結果であろう。DNA分析が栽培をうらづけている。

鹿児島の上野原縄文遺跡で発見された大量の平砥土器は三内丸山縄文人の祖先たちが土器と火を使ってどんぐりなどの木の実を貯蔵・灰汁抜きをする事でその主食を狩猟肉食から植物へ広げていった先駆の知恵であり、世界で一番早い平砥土器使用と言われている。

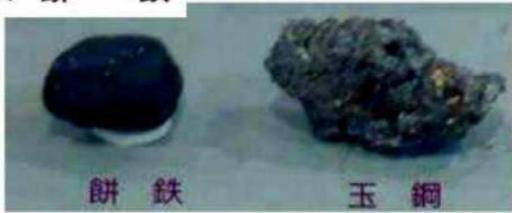
この狭い日本列島での人口増ときびしい環境変化を知恵と技で生き抜き、次々と素晴らしい技を生み出してきた祖先たちの姿が人類-日本人のルーツの中に位置付けられている。

1天才の出現というより、その時々の人達が延々と技術を作り継承・改良してきた「人の技と智慧」。「必要は発明の母」とよく言うが、現代に置き換えても本当に「素晴らしいアイデア」である。でも これらの技は開発・改良に数百年・数千年という長い時間をかけた伝承・改良によって成し遂げられた技術でもある。原始航海術など現代においても「解明できていない謎」も多いがこれらも同じだろう。

現代のあくせくするスピードと付け焼刃的な対応「一夜にして変わる価値観」の連続多様化の時代 飢餓の時代 機械文明の時代 といわれるが、何か満たされぬこの現代を乗り越えるヒントがあるように思う。



# 1. 餅鉄



古代東北地方で産出した粒状・塊状の磁鉄鉱で主砂鉄や鉄鉱石と共に蝦夷が使用した要鉄資源。  
 (平均2キ口。1個で50キ口のものもあるという。)  
 餅鉄は破砕を必要としない粒状のものもあり、主に河の中などに堆積しているが、山道や峠地にもある。金属状の光沢があるので採取しやすい。特に岩手県釜石付近の餅鉄は純度が高く、鉄分含有量が平均70%。特にリンやイオウなどの不純物が少ないなど良質。  
 北上で後年出土した「藤手刀」の製鉄原料としてこの「餅鉄」を原料として精錬・鍛冶されたものが多数ふくまれているといわれている。

# 2. 蝦夷の首領 阿豆流為の藤手刀



藤手刀は5世紀末には既に製造がはじまっており、奈良時代後期を中心にして、奈良時代前期から平安時代初期にわたってつくられたもの。特に北上の粗沢と和賀が拠点とみられ、餅鉄や砂鉄を原料につくられた。この頃大和朝廷の奥州征伐に対して、激しく抵抗した蝦夷の主要武器として威力を発揮した。蝦夷の首領阿豆流為の藤手刀は66cmぐらいあったという。

現在鹿児島や徳島まで180刀発見されているが、岩手が57刀と断然多い。奈良の正倉院にもこの「藤手刀」がある。

一関市立関博物館 展示より  
 一関市立関博物館 展示より

「奥州でいつ鉄の加工鍛冶・精錬がはじまったのか?」は定かでないが、700年文武天皇の製鉄禁止例「東辺北辺に鉄冶を置く事得じ」との令がでて、蝦夷の武器作りに大和朝廷が神経質になっていた事が記されている。

この事から かなり古くから鉄の加工・鍛冶精錬が始まっていた事がうかがえる。おそらく 大陸・朝鮮半島からやって来た渡来人を通じ、鉄鍛冶の技術が伝えられていたであろう。  
 この禁止令が出た頃 奥州には渡来人の刀匠(漢国鍛冶)がいたことが記録されている。そして この奥州の鉄鍛冶・刀作りの優秀性は奈良・平安時代にも広く伝わり、奥州刀が都に広く持ち込まれている。一関郊外の「舞草」はその刀鍛冶の中心の一つとして、蝦夷が減った跡 藤手刀を改良して長身で反りのある刀「舞草刀」を作った。これが、日本刀のルーツとして奥州鍛冶とともに日本全国へ傳播していった。

# 3. 舞草刀



## 舞草刀 - 一関市

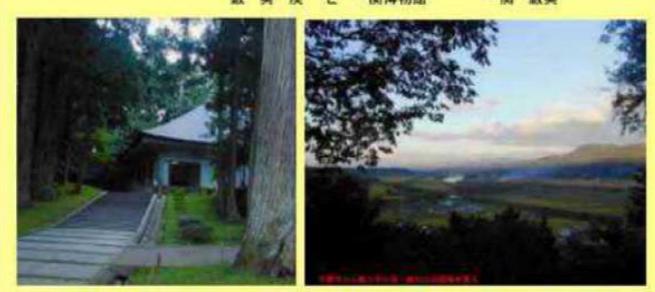
一関市を流れる北上川の東側にある舞草地区 ここには鉄落山はじめ、刀鍛冶伝承や地名、信仰された石像などの平安時代に栄えた舞草刀鍛冶の痕跡が残っている。この地の鉄落山の南斜面から平安時代の土器とともに鉄滓が出土しています。刀身が長くて反りのある日本刀の原型がこの舞草など奥州で作られ都で評判になった。その後 藤原氏の衰退などで舞草など優秀な奥州の刀鍛冶が各地に散らばり、この特徴ある刀作りが日本刀の原型として拡がっていった。藤手刀を改良した舞草刀。舞草は日本刀の故郷

# 4. 参考

1. 古代畿内勢力の蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡  
 【 黄金吹く「行方製鉄遺跡」 】



2. 「一関・平泉」点景

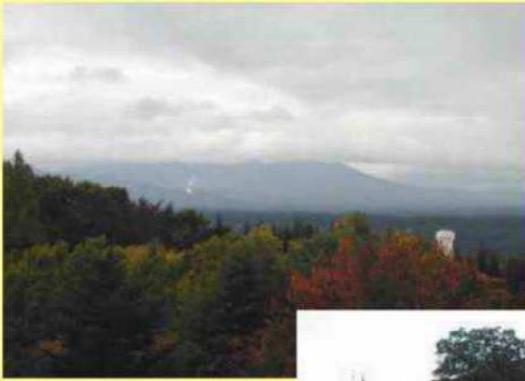


一関 殿美 一関 殿美  
 平泉 中尊寺 金色堂 中尊寺から 前九年の役 古戦場 2001.9.22



一関博物館 展示より

### 3. 岩手 盛岡



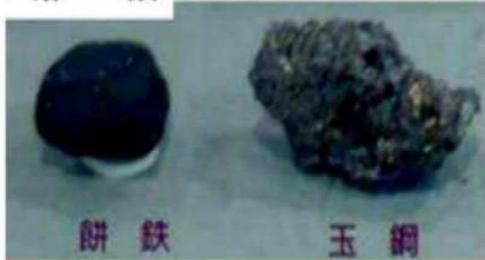
岩手県立博物館 岩手山を望む



盛岡の夜景と旧岩手銀行本店 2001.10.11

岩手県 北上川流域 の 和 鉄【完】

### 餅 鉄



### 9. 2000 年前 中国から日本へ持ち込まれた中国製鉄斧

約 2000 年前 弥生時代  
高度な表面脱炭処理 鉄の強硬化熱処理伝来のルーツか？

古代 7 世紀 丹後遺所製鉄遺跡での「高子タン砂鉄によるたたら」製鉄は現在の溶接材料に通じる技。びっくりしましたが、先日 姫路兵庫県歴史民俗博物館での村上泰樹氏「兵庫の鉄」講演の中で起源前の弥生遺跡から発見される中国大陸伝来の鑄物製鉄斧では 表面をネバクするため脱炭の熱処理が施されている事知りました。（例えば 福岡県比恵遺跡鉄斧など）

また、低温加熱して鍛錬することで不純物や炭素を飛ばし、強硬化する技術（鑄鉄）も既に紀元前にあったという。

後年の日本刀に見られる鍛錬技術や硬い鉄とねばい鉄のハイブリッド化技術のルーツがここにも見える。これらの技術も古代から連続と現在に続く『鉄の技』・『先人の知恵』

### Iron Road 【2】 2001

2001-2002. 4

石器時代 黒曜石などガラス質で鋭利な鋸断面を出す事が出来る小型の剝離石器の発明が人間の移動を可能にし、アフリカで生まれた人類大発展の起爆（特にシベリア・日本への移動。原日本人の形勢）の一つとなったといわれる。

鉄器についても一口に『日本 鉄器伝来』といわれるが、その鉄器とともに付帯するさまざまな技術が持ち込まれ、鉄器の使用のみならず、社会・文化変革の技術を提供し、更なる発展と日本形成に大きな役割を果たしていったといえる。

上記の弥生時代の中国製鉄斧にも、人類繁栄を作った近代鉄加工技術のルーツの一つが見える。



高度な熱処理による脱炭表面処理がなされた中国製の古代 鑄造鉄斧

「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・?

2002.2.3. joni.htm by M.Nakanishi

2002年2月3日 節分。

例年になく暖かい節分である。今年も各地で節分の行事として「鬼退治の豆まき」行事が行なわれていた。

日本各地で広く鬼伝説が伝承されている。この鬼伝説には 古代「産鉄の民」「鉄の技術を伝えた渡来人」など「古代産鉄の日本伝承」と密接な関係があり、「鬼伝説」のあるところ「古代たたら」の地であることが多い。

「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・?

鬼伝承が「古代 和鉄鉄」とかかわっていたとしたら「鉄とかかわっていた者はみな 悪者か・・・?」「そんな事はない・・・」

「古代たたら」製鉄には「山を崩して その砂を川に流して鉄砂を得、また 大量の樹を切って炭を作る」つまり 山を丸裸にし、川を荒らし、汚染することがつぎの。

平野部の「農耕の民」と「産鉄の民」の争いがこのような「鬼伝説」となって伝承されているといわれる。また「産鉄の民」がもたらした「鉄」は「農耕具・武器」として圧倒的な威力を発揮。その支配をめぐって多くの部族・国が争い、多くの伝説を生んできた。

「鬼伝説」を伝承する側の立場で好きなように伝承された為にすべて「鬼退治」になってしまったのか・・・

日本に伝わる「鬼退治」伝承の多くが、いつも「だまし討ち」であったことは「鉄を有する民の勢力」がいかに大きかったかを物語っている。抗争の中でこれらの勢力を取り込みつつ古代日本が形成されていったのではなかったか・・・、日本形成に果たした役割はむしろきわめて大きく、このことが「鬼伝説」がこれほど多く、また「今も親しみをもち 語り継がれている」理由でなかろうか・・・。また、青森県津軽 古代製鉄の郷 岩木山北山麓の弘前市鬼沢には「村人を助けた鬼」の伝承が伝わっている。今も節分には「福は内 鬼も内」と豆をまき、夏の「弘前ねぶた」には里を挙げて「鬼沢のねぶた」が街を練り歩く。今も里人に広く親しまれている。

節分の今日 日本各地に伝わる「鬼伝承」を「Iron Road 和鉄の道」を支えた人の群れと捕らえて整理してみました。

「古代産鉄の民」として日本の源流を作った「鬼」。日本の「鬼」パンザイの気持を込めて

2002.2.3. 節分 M.Nakanishi

## 日本各地の鬼伝説 リスト

1. 伯耆国 孝謙天皇 鬼退治伝説 鳥取県 溝口町  
日野川流域 楽楽福神社の伝承
2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」 岩手県一関・胆沢  
坂上田村麻呂の蝦夷征伐
3. 丹後国 大江山酒天童子伝承 京都府 大江山
4. 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼ヶ城 岡山県総社市
5. 青森県 岩木山(悪鬼山)山麓の鬼伝説 青森県弘前市・郷ヶ沢市

## 1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説

楽楽福神社の伝承

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。この鬼退治は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を持って人々を苦しめていました。これを聞かれた孝謙天皇は、みづから軍勢を率いて鬼住山の南のこれより少し高い笹巻山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼退治をことごとく退治されました。天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹巻の団子を献上し、土気が大いにながったといひます。それで、この山を笹巻山(さすとさん)とよぶようになりました。鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて封じられました。兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を東へ一層繰れ、容易に退治することが出来ません。ある晩 眠っている天皇に笹の葉を割って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を遅い退治出来るであろうとのお告げがあった。これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して舞いあがった笹の後を追い、鬼退治に向かいました。笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼退治はなすすも無く、麓に逃げて降参 しました。人々は大笑喜んで麓の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。これが楽楽福(ささふく)神社のいわれです。

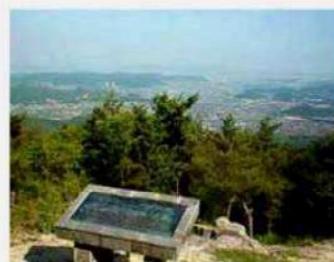
-楽楽福神社 古文書より-



大山山麓の「伯耆 溝口」は古代伯耆の國の一大製鉄地帯。中国山地の山奥から流れ出て大山の山麓を縫い日本海へ流れ出る日野川。この日野川が大山の山麓から平野部に出る山合が伯耆溝口。この日野川沿いの山中は砂鉄の宝庫。この溝口の地では古代から、この川や山中の砂鉄と山中の樹木を焼いて作った木炭を使って、製鉄が広く行われてきた。この山間の溝口を抜けるとそこは大山をバックに日本海まで、淀江・妻木の平野・丘陵が大きく広がっている。この淀江の地は古代より、大陸から多くの渡来人がやって来て栄えた王城の地。

## 4 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼城 98.5.29.

「真金吹く 吉備の中山 帯にセル 細谷川音のさや朝朝」  
「真金吹く」は吉備の枕詞。鉄の時に飛び散る火花を象徴している。  
また、古墳の副葬品として鉄製品が出土(岡山市の神宮山古墳や金蔵山古墳)している。



鬼ヶ城から吉備の中山 児島湾を望む

「真金吹く 吉備の中山・・・」と歌われた吉備は 大和に対抗する古代王国があった所であり、かつ古代製鉄の発祥の地の一つ現在の総社市を中心とした吉備地方には古代遺跡・古代製鉄遺跡が目白押し。また、この地には「桃太郎」伝説の源流となった「ウラの鬼伝説」がある。

吉備の平野部から山にかかる所 吉備平野を一望出来る山の上に古代朝鮮の様式で作られた「鬼ヶ城」がある。詳細はまだ良くわかっていないが、古代 大陸からの渡人に備えた砦だとも、この砦が「桃太郎の鬼退治」伝説の鬼ヶ城とも伝えられている。頂上に立つとその下の平野には現在の総社市と古代吉備の國の数々の遺跡が広がり、直ぐ下の丘陵地帯の川筋からも「たたら遺跡」が発見され、鉄穴流し場などが整備された自然公園となっている。また、この総社の地の後背の山並みの中には、鬼の住む山としてもう一つ「鬼ヶ城山」がある。



桃太郎伝説の原型 温羅伝説 温羅の居城と伝えられる「鬼ヶ城」

## 2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」

東北・北上地方 今賀城・胆沢城・秋田城遺跡

## 3. 丹後国 大江山酒天童子伝承

京都府 大江山



蝦夷の雄平刀の分布



801年、蝦夷征伐の本拠地として現水沢市に造った胆沢城(後の鎮守府)

「勇猛果敢な蝦夷の雄「アテルイ」は坂上田村麻呂率いる 10 万の大和朝廷軍を長年にわたり翻弄。「ヒタカミ(北上)の鬼」とおそ れられた。多年にわたる戦いで兵力も次第に減少し、田村麻呂を倒してこれ以上の抵抗をあきらめて降伏。500 の兵を連れて都に連れてこられたが朝廷は田村麻呂必死の懇願に聞かず斬首してしまつた」という。

この一関・北上の北上川流域は豊富な鉄・鉱物資源を背景に東北で一番先に開けた地。金を背景にした藤原三代の策謀。

蝦夷の刀「鉄手刀」を発展させ、日本刀の源流奥州鍛冶 の伝承を作った「舞手刀」

こども 和鉄の故郷である。

大江山に住む酒吞童子ほかの多くの鬼たちが都を荒らしまわっていた。

源頼朝はこの鬼退治の為配下の四天王と呼ばれる源頼朝・坂田金時・権井貞光・土部季武などを引き連れ、大江山へ。

頼朝たちは鬼の城に泊められたお礼に酒を差しだして鬼たちと酒盛り。夜になると、頼朝は起きだして酒吞童子のそばに近寄り、一気に首をはねた。

酒吞童子の首ははねられたまま頼朝に飛びかかり、その死にかみついたままだかなくなった

酒吞童子は最後に「おのれ、困ったか。鬼は決して人をだましたりしないものを」と言った」という。

大江山の北側にある丹後の國は古代鉄の王国。特に大江山近傍の山並から流れ下る野田川・竹野川流域は古代遺跡と共に製鉄遺跡が点在する一大製鉄地帯

## 桃太郎伝説の原型「温羅伝説」

備中国 新山（にいやま、今の社 市奥坂）に居城を築き西国から都へ通う船を襲っては人を殺め、財宝を奪うなど、数々の悪事を働き、人々は温羅を「鬼神」その居城を「鬼ノ城」と呼んで恐れていた。温羅の悪行にたまりかねた人々は大和朝廷に温羅退治を申し出た。武勇に優れた五十狹芹彦命（のちの吉備津彦命）。命は大軍を率いて吉備の中山に陣を張り、片岡山（倉敷市矢部）に石橋を築いて戦った。合戦の時 命の放った矢は、鬼ノ城から温羅が投げた岩と 空中でぶつかり合っては落ち、なかなか勝負がつかない。そこで命は一度に二本の矢を放つと一本は温羅の投げた岩とぶつかり合い落下したが、もう一矢は温羅の左目に命中。温羅の左目から吹き出した血は血吸川（総社市）に流れ、下流にある浜をも真っ赤に染めた。今その地は赤浜と呼ばれている。命に追われた温羅は色々姿を変え逃げまわったが、とうとう命につかまり首をはねられた。ところが、その首は土中に埋めるなど色々手を尽くしたが、13年間もうなり続けた。ある夜のこと、命の枕元に温羅が立ち「わが妻、阿曾媛に神鏡を炊かしめよ。これまでの悪業の償いとして、この釜をうならせて世の吉凶を告げよう。」と。これが今に伝えられている吉備津神社の鳴釜神事である。



古代温羅の伝説の吉備国 一鳥崎から 「桃太郎」伝説の吉備津彦神社

この桃太郎伝承・鬼伝説をどう読むか

温羅が朝鮮半島の百濟または新羅の王子としたら、この温羅一族は鉄の技術を持って日本にやってくる。吉備の和鉄の技術を展開した産鉄の民と考えられないか……。出雲のスサノオ伝説がスサノオノミコトを新羅の王子として伝承しているのと同じかも。確証はないが……。伝承を和鉄と重ねると良く符合して理解できる。大和朝廷が直接支配しなかった吉備の和鉄。この鉄の覇権をめぐる 吉備と大和との戦いがこの温羅伝説であり、桃太郎伝説と言えまいか。

吉備津神社の鳴釜神事の伝承と結びつけ、吉備にとって温羅は「鬼」ではなく 吉備繁栄をもたらした悪人であり、吉備の人達の思いを大和朝廷が無視できず、吉備津神社造営がなされたと考えている人もいる。

吉備の枕詞「真金吹く 吉備の中山……」と歌われた古代の大製鉄地帯 吉備を舞台に鉄の派遣を巡っての戦い・しいては日本誕生のため 吉備で展開された大ドラマ それが「桃太郎」伝説ではないか……

鬼ヶ城の上立ち、眼下に広がる吉備の古代遺跡 製鉄の中心だった中山の丘陵地帯を眺めながら、この温羅の伝説に思いを寄せました。

## 5. 青森県 岩木山（巖鬼山）山麓の鬼伝説

青森県 弘前市・鯉ヶ沢町

岩木山北山麓から鯉ヶ沢へ流れ下る赤石川・鳴沢川の流域は古代からの製鉄地帯であり、また、岩木山は「巖鬼山」の名が示すとおり、多くの鬼が住んでいたとされている。山の麓にはその元締めとして岩木山を信仰の中心とした巖鬼山神社・岩木山神社や鉄製品を祭る鬼神社など数多くの鬼伝説を伝承する郷が点在する。

### 1. 巖鬼山の鬼伝説が広く伝承される鯉ヶ沢



岩木山 北麓平野口より 鯉ヶ沢へ流れる赤石川



岩木山北麓 十勝内 原生林の中 巖鬼山神社

鳴沢川の上流 原生林に包まれた巖鬼山神社の近くの鯉ヶ沢市十勝内には「この地の長者の娘に恋をした鬼が 長者の命で不眠不休で十二本の刀を打ったが、娘をやりたくない長者が その内の二本を隠し、結局 娘をもらえず、刀が十本しかない(十勝内)といながら山に帰っていった」という鬼伝承がある。また、この地には古い製鉄地名と共に古代製鉄遺跡が幾つか発見されている。

## 2. 鬼神社と鬼沢の鬼伝承 弘前市鬼沢



また、岩木山北山麓の弘前市鬼沢には「村人を助けた鬼」の伝承が伝わっている。「早稲で田畑が荒れて困っている村人を見て一夜にして水路を作り水をひいて山に帰っていった鬼 今も部分には「稲は内 鬼も内」と豆をまき、夏の「弘前ねぶた」には里を挙げて「鬼沢のねぶた」が街を練り歩く。」

また、この鬼沢の森の中にひっそりと鉄製品の製鉄を多数かかげた鬼神社がある。今も里人に広く親しまれている「鬼の里 鬼沢」である。

「鬼」伝説 討たれる方の「鬼」には何か物悲しさや後ろめたさがついてまわる。古代から今まで色々な形で表現され、伝承されてきた鬼のさまざまな形態を見ると上記の「物悲しさや後ろめたさ」の裏にあるのはなにか……。日本人にとって「鬼」は「悪者」というより、愛すべき存在でなかったか……。支配者に対して 必死に抵抗した「弱者」の代表ではなかったか……？

この鬼を古代日本に製鉄技術をもたらした「産鉄の民」とすると日本誕生のドラマはこの「産鉄の民」をはずしては語れない。しかし、伝えられた鉄の技術により、争いが一層激しいものとなり、強者・弱者が生まれてきたのも事実。

現代の文明においても鉄を語る時 この二面性を常に持っていると言えまいか……

「鬼」伝説や伝承が色々変化して多数語られ、表現されるのもこの二面性ゆえ、また伝承のなかでも、知らず知らずこれを感じているといえまいか？



鬼神社鳥居 鬼伝説の里 「鬼 沢」の集落 弘前市鬼沢



【鬼神社の神事 & 獅子舞】赤坂憲雄編「東北学2」より

「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」



古代 吉備国 総社市「鬼ノ城」より遠望 99.5.29.

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた
2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  - 「弥生の」暮らし」を持たらした大陸からの渡来人 - NHK 「日本人遥かな旅」より -
  - 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「暹羅・うら伝説」
  - 参考 日本鬼伝説

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説【1】

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた

kibi0.htm by M.Nakanishi 2002.3.2.



吉備は後の時代に歌われた「鉄」と「桃太郎の鬼退治」伝説の国

「真金吹く」は吉備の枕言葉で鉄精煉で飛び散る火花の様を言い表している。

古代吉備の国 遺跡地図



鬼ノ城から眼下に広がる古代吉備の国を遠望

眼下総社市の平野の向こうに吉備の中山から古代遺山古墳塚が数々の遺跡として西國の山並みが見望

岡山県総社市の背後にある丘陵地帯吉備高原南端の丘の上にある「鬼ノ城」に立ち、南を見下ろすと眼下には総社の市街・田園地帯が広がり、その向こうに点在するいくつかの古墳と丘陵地帯が見え、さらに児島半島を経て瀬戸内海・四國の山並みが見える。眼下に広がるこれらの地は古代吉備の国の中心地。

古代この総社のあたりまで内海が入り込み、古墳・丘陵が点在する。その一番左岡山よりの丘陵地帯が吉備の中山。眼下に広がる平野は古代吉備の国のまさに中心。

古代 朝鮮半島から北九州・瀬戸内海を経て大和へ至る大陸文化交流の道 真中 この吉備の国

がどっしりと座っている。渡来の民によって持たされた製鉄の技術がこの吉備の国に根付き、この古代鉄の一大生産地の覇権をめぐる争いが、その覇権を握った大和を中心として日本が誕生する。「吉備の鉄の覇権をめぐる争い」「日本誕生前夜の鉄の争い」が「桃太郎の鬼退治」でなかったか……吉備の国に残る「鬼ノ城」とそこに伝承されている「暹羅」伝説が「桃太郎の鬼退治」の元になったか……。この「Iron Road 和鉄の道」上での一大ドラマを描いているのではないかと……。もっとも 現存する鬼ノ城の発掘調査からは7世紀後半大陸からの侵襲に備えて造られた多数の山城の一つと考えられている。しかし 公式にはこの「鬼ノ城」の記録は歴史書のどこにもなく、この城は元々大和勢力とは異なる吉備勢力の造った城もしくは 秘密裏に唐の備えとして築いたとの見方もある。(663年 倭国軍は朝鮮白村江で唐・新羅連合軍と戦い、大敗。唐の再三の日本攻撃に怯えた日本が唐の侵襲に備えて 対応とすれば 発掘の結果は説明がつく。また、鬼ノ城のような歴史書に載っていない同時期の山城が瀬戸内海各地に約20もあるといわれている。)吉備の国で何時「鉄の精煉製法」が初まったかは定かでないが、早くから大陸から輸入された鉄を加工する鍛冶が始り、その後鉄精煉も行なわれ、「真金吹く」の伝統が形成されていったと考えられる。総社市窪木薬師寺遺跡からは大陸製の鉄といとも鍛冶加工跡が出土している。日本でも最古の製鉄遺跡の部類に入る総社引かなくろ谷製鉄遺跡は6世紀後半の遺跡であり、6世紀後半には広く吉備の国で鉄精煉がおこなわれていたと考えられている。



総社市後背の丘陵地に子びまる「鬼ノ城」。



備中で出土した大陸製鉄といと鍛冶跡

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説【2】

2. 古代吉備の国「鉄」そして「鬼」

kibi01.htm by M.Nakanishi

2.1. 「弥生の暮らし」を持たらした大陸からの渡来人

-NHK 「日本人遥かな旅」より-

弥生時代に大陸から北九州・山口に渡来した人々は今まで縄文人の暮らしを支えてきた狩猟・森の恵みに依存した採取の生活様式を一変させ、水田稲作により、安定した食料生産をもたらした、その人口を爆発的に増大させた。

また、森を切り開き、水田耕作を可能とする大規模な土木工事を可能とする鉄器並びにその鍛冶技術も大陸からもたらされた。(精練技術が何時もたらされたか？は現状まだ良く解らないがもった後の時代と考えられている。)

これらの渡来系弥生人の集落はその人口を増加し、縄文人と融合しつつ東海・越前地方まで急速に東進・北進を続け、これらの中から巨大勢力・王国が生まれてくる。

自然環境が大きく異なる東海以東・以北の地方では急速には水田耕作は広がらず、従来森の恵みに依存した縄文人の世界が広がっており、東進の速度は鈍った。

しかし、この地方においても 水田稲作を学ぶ者 渡来人の移住等渡来系弥生人と縄文人が融合しあい、突如として、巨大な弥生集落が形勢され、次第に稲作弥生文化並びに鉄器の拡大と共に弥生の文化の時代に持っていった。

このような縄文の暮らしから弥生への変化が生じる過程において 日本の特筆すべき点は『相手を抹殺するのではなく 従来からの縄文人と融合する事により、変化が進んだ』事であり、この伝統は良きにつけ悪きにつけ、今日の日本文化にも脈々と受け継がれている。つまり、『稲作や鉄の技術等をもった渡来人がやってきて、彼らが日本を席巻し、縄文人を駆逐して日本が誕生したのではない。』と言う事が遺伝子的にも数々の古代遺跡からの数々の遺物やその分布・伝承文化からも解ってきている。

また、最近の研究では 現代にいたるまで、日本人においては、原日本人を形成した縄文人と渡来系弥生人の融合の割合に差があることも解ってきている。

(ある地方が孤立してその系統を保っているというのではなく、日本人全体の中で、よく言われる縄文系あるいは弥生系の顔という話と同じであり、その根本には根絶ではなく、融合の中ではなくてきた結果であると言われている。)

日本形成の根幹が大陸からの渡来人によってつくられながら、古代から今現在にいたるまで、大陸文化に同化される事なく、日本固有の文化が育まれてきた理由もこれで理解できる。

この事が理解されないと邪馬台国論争を始め、日本誕生の謎を秘めた古代は見えてこないと思われる。

その後 時期的には、弥生時代後期から古墳時代前期にあたる時期 大陸から色々な技術、銅器、鉄器などが流れ込んできた時期と重なるが、西日本では各地で巨大勢力が起り、となり、日本誕生の前夜が形成された。



弥生後期～古墳時代 出土の鉄製武器

- |          |                 |            |               |
|----------|-----------------|------------|---------------|
| 1. 北九州勢力 | 筑後川、有明海         | 5. 大和、河内勢力 | 大和川、大坂湾       |
| 2. 出雲勢力  | 斐伊川、宍道湖、中海      | 6. 丹後      | 竹野川、野田川       |
| 3. 吉備勢力  | 吉井川、旭川、高梁川、瀬戸内海 | 7. 越前勢力    | 白山からの九頭龍川、足羽川 |
| 4. 伯耆    | 日野川             | 8. 東海勢力    | 木曾川、長良川、揖斐川   |

これらの地域では大陸・朝鮮半島との交流の痕跡が明らかとなり、さらには、主要な川の流域を中心に古くから鍛冶製鉄が行なわれた地域である。安定食糧である稲作による人口爆発とその水田開発工具としての鉄器製造の支配を通じ、巨大勢力 王国へと育っていった事がうかがえる。

これらの国々は互いに交易・交流すると共にさらには朝鮮半島の新羅・百濟とも連携して、他の勢力を圧倒する王国に育ち、それらが並立する時代を経て、抗争・統一の時代へと突入する。日本誕生にかかわった北九州・河内・出雲・吉備・越等の国々である。

2.2. 古代吉備の国「鉄」そして「鬼」



「吉備の中山」の丘陵地



鬼退治伝説の吉備津彦命を祭る吉備津神社と吉備津彦神社

吉備国では後に古今和歌集に「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」と歌われるごとく、鉄・鍛冶生産が早くから行なわれてきた鉄の一大生産地。

大陸から北九州を経て畿内へ行く途中にある吉備では、いち早く大陸の新しい文化・技術が伝わったであろう。その中で、水田耕作・勢力伸張の大きな武器となった鉄精煉・鍛冶の技術も大きな川と内深く入り込んだ内海での豊富な砂鉄の体積を使って、この吉備の地でいち早く根付き、古代鉄の一大生産地となっていた。

まさに「真金吹く 吉備の中山 おびにせる 細谷川のおとのさやけさ」である。「真金吹く」は吉備の枕詞であり、製鉄の時に飛び散る火花を象徴している。また、後の時代の延喜式によると吉備は「鋼」として鍛冶を納める国として記載がなされ、中世以降も備前刀や備中鍛等の鉄製で吉備の国は、全国に知られている。

また、後の時代の延喜式によると吉備は「鋼」として鍛冶を納める国として記載がなされ、中世以降も備前刀や備中鍛等の鉄製で吉備の国は、全国に知られている。

この「吉備の中山」は吉備の古墳群や国分寺跡が並ぶ総社の丘陵地に隣接する別の岡山よりの小さな丘陵地。この丘陵地の麓にも 吉備津神社 吉備津彦神社をはじめ、多くの古代遺跡がある。

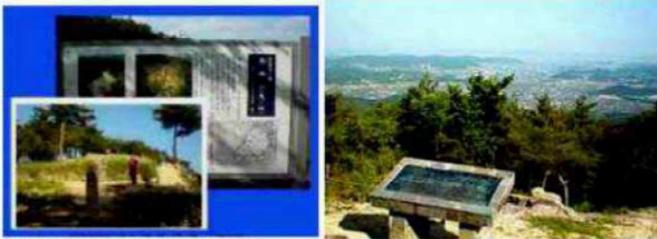
吉備の持つ鉄の技術は吉備の勢力伸張の武器であると共に他の巨大化する勢力にとっても魅力的なものであり、この吉備の鉄の覇権をめぐる、連合・争いが巻き起こったであろうし、この中で吉備は出雲と同様大和の勢力下に組み込まれてゆく事になる。

この鉄の覇権をめぐる争いの伝承が「鬼ノ城 温羅伝承」つまり「桃太郎の鬼退治」の伝承であろう。ほかほか陽気の中 眼下に広がる鬼の城。  
「鬼ノ城」の丘に立ったのはもう随分前 99. 5. 29. もう記憶も少し薄れているが、ほかほか陽気の午後。こんな温暖の地でたとえ堅固な城であるにしても南に大きく開けた地が「悪者の鬼の城」には似合わない。もっと 山奥か 人里はなれた未開の土地でなければ・・・  
やっぱり ここでも 鬼は悪者に仕立て上げられたのか・・・  
産鉄の民と支配者との争い 大和にとっては悪者であっても 吉備では良き隣人・恩人でなかったか「鬼」「鬼」と悪者として追いまわす中に何か 親しみをこめ、「福は内 鬼は外」と豆をまく部分。  
21世紀のキーワードと言われる「敵対・抹殺から融合・融和へ」鬼伝説の中にある「親しみ」もこれでないか・・・  
鉄は両刀の刃。  
古代 そして日本の伝統の中に21世紀を生き抜く解がないか・・・

2002. 2. 24. 柏にて 鬼に親しみをこめて  
by M. Nakanishi

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説  
3. 吉備の国 「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」  
kibioni0.htm by M. Nakanishi

- 1. 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」
- 2. 鬼ノ城 walk - 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら



桃太郎伝説の鬼が住む「鬼の城」 「鬼ノ城」から古代吉備の国を望む 99. 5. 29. 左「吉備の中山」右 造山古墳・国分寺ほか総社市街

この桃太郎伝承・鬼伝説をどう読むか  
温羅が朝鮮半島の百済または新羅の王子としたら、この温羅一族は鉄の技術を持って日本にやってきて、吉備の和鉄の技術を展開した産鉄の民と考えられないか・・・  
出雲のスサノオ伝説が確証はないがスサノオミコトを新羅の王子として伝承しているのと同じかも。吉備は真金吹く和鉄の国。この鉄の覇権をめぐる 吉備と大和との戦いがこの温羅伝説であり、桃太郎伝説と言えまいか・・・ 伝承を和鉄と重ねると良く符合して理解できる。吉備津神社造営や吉備津神社の鳴釜神事の伝承と結びつけ、温羅は「鬼」ではなく産鉄による吉備繁栄の恩人と考えている人もいる。  
吉備の枕詞「真金吹く 吉備の中山・・・」と歌われた古代の大製鉄地帯 吉備を舞台に鉄の派遣を巡っての戦いそして、日本誕生の幕開けとして吉備で展開された大ドラマ それが「桃太郎」伝説ではないか・・・

鬼ヶ城の上に立ち、眼下に広がる吉備の古代遺跡 製鉄の中心だった中山の丘陵地を眺めながら、この温羅の伝説に思いをはせている

99. 5. 29. 「鬼ノ城」で by M. Nakanishi



鬼ノ城山

### 3.2. 鬼ノ城 walk

- 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら



鬼ノ城 と 鬼ノ城からの展望

総社の町の中を抜け、その背後の丘陵地帯を少し登った所(総社市奥坂)に古代の山城「鬼ノ城」がある。山あいの公園を抜けた小高い丘と丘の間の所に駐車場があり、「鬼ノ城」の立て札がある。見あげる小高い丘そのものが城壁になっており、「鬼ノ城」。  
そこから丘をまきながら小道を頂上に登り、北東の隅の城塞の頂上に達する。切り立った絶壁に、大小無数の石を積み上げた城壁が築かれ、標高四百メートルの頂からは総社市の市街と田園地帯を前に、古代における「吉備の中山」から「吉備の穴湾」児島半島までがはるかに見渡せ、四圍の山並みまでもが一望できる。  
今でこそ内陸の城に見えるが、古代の海岸線ははるかに奥深くまで入り込んでいたらしく、海岸に隣接した「鬼ノ城」と呼ぶにふさわしい威容だったのだろう。「吉備津」などの地名にその名残がみられる。

「鬼ノ城」は、まさに戦略的に重要な場所に造られた古代の巨大要塞・朝鮮式山城である。「鬼ノ島」「鬼ノ城」と言うとか岩山の洞窟と想像していましたが、堅固な城壁で巨大な土木工事がなされた城、「鬼ノ城」

### 3.1. 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」

#### 桃太郎伝説の原型「温羅伝説」

備中国 新山(にいやま、今の総社 市奥坂)に居城を築き西国から都へ通う船を襲っては人を殺め、財宝を奪うなど、数々の悪事を働き、人々は温羅を「鬼神」その居城を「鬼ノ城」と呼んで恐れていた。温羅の悪行にたまりかねた人々は和朝廷に温羅退治を申し出た。  
武勇に優れた五十狹芹彦命(のちの吉備津彦命)。命は大軍を率いて吉備の中山に陣を張り、片岡山(倉敷市矢部)に石橋を築いて戦った。  
合戦の時 命の放った矢は、鬼ノ城から温羅が投げた岩と 空中でぶつかり合っては落ち、なかなか勝負がつかない。そこで命は一度に二本の矢を放つと一本は温羅の投げる岩とぶつかり合い落下したが、もう一矢は温羅の左目に命中。温羅の左目から吹き出した血は血吸川(総社市)に流れ、下流にある浜をも真っ赤に染めた。今その地は赤浜と呼ばれている。  
命に追われた温羅は色々姿を変え逃げまわったが、とうとう命につかまり首をはねられた。ところが、その首は土中に埋めるなど色々手を尽くしたが、13年間もうなり続けた。  
ある夜のこと、命の枕元に温羅が立ち「わが妻、阿曾媛に神饌を炊かしめよ。これまでの悪業の償いとして、この釜をうならせて世の吉凶を告げよう」と。これが今に伝えられている吉備津神社の鳴釜神事である。

昔話の「桃太郎」は、吉備津彦命の「温羅退治」の伝承をもとに作られたといわれます。鬼のモデルになった「温羅」は、百済から渡来した王子で、性格は荒々しく、凶悪で、身の丈1丈4尺(約4m20cm)もあつたといわれている。  
現在の岡山県総社市の当時は海が入り込んだ先端の切り立った丘の上にある、朝鮮式山城、「鬼の城」に住み、瀬戸内海を通る船などを荒らしまわった。そこで大和朝廷は、武勇の誉れ高い吉備津彦命に鬼(温羅)退治を命じた。昔話の中で桃太郎のお供をした犬とキジは、吉備津彦命の犬飼と鳥飼の家臣といわれ、もう一人の猿がなにかは、わかっていない。捕らえられた温羅は首を切られ、地中深く埋められ、13年間もうなり続けた。ある晩吉備津彦命の夢枕に「ワシの首を吉備津神社のかまどの下に埋めてくれ。そうすれば釜をならして世の吉凶を占おう」。こうして始まったのが鳴釜神事です。御駕殿で行われる釜鳴の神事は、お釜の鳴動の音の大小長短によって吉凶福禍を占う。古く「本願社考」・上田秋成の『雨月物語』にも紹介されている。



吉備津神社

吉備津彦神社

がつくった城などというものでなく、吉備の国の立派なリーダーが国を挙げて作ったものであろう。この城が伝説の「温羅」の城としたら、吉備巨大な勢力をもった集団の居城として「温羅」伝説を「朝鮮半島からやって来た製鉄集団」と考えても良いのではないかと  
一説にはこの城は大陸からの侵攻に備えた城との考え方も在り、出土品等から七世紀後半から八世紀前半に機能していたとみられる。663年、日本軍が唐・新羅連合軍に敗れた朝鮮半島・白村江の戦いの後、朝廷が建設した大野城(福岡県)や屋島城(高松市)などの朝鮮式山城と構造は似ているが、史書に鬼ノ城に関する記述はなく、「鬼ノ城」が誰によって何の目的で作られたかは謎とされている。



吉備の国 古代遺跡マップと「鬼ノ城」



#### 参考

#### a. 吉備津宮縁起による温羅伝説

崇神天皇のころ、異国の鬼神が吉備国に空より下った。彼は百済の王子で名を温羅(ウラ・オンラ)ともいって吉備冠者とも呼ばれた。彼の両眼は煙々として虎狼の如く、蓬々たる髪型は赤きこと燃えるが如く、身長は一丈四尺にも及び、絶倫かつ剛悍で凶悪であつた。  
彼はやがて新山に居城を構え、さらにその傍の岩屋山に橋を構えて、しばしば西国から都へ送る貢船や婦女子を擄奪したので、人民は恐れおののいてこの居城を「鬼ノ城」と呼び、都に行つてその暴状を訴えた。  
朝廷は大いにこれを憂い、武將を遣わしてこれを討たしめたが、温羅は兵を用いること頗る巧みで出沒は妄幻自在容易に討伐し難かつたので空しく都都に引き返した。  
そこで、つぎは武勇の聞こえ高い孝靈天皇の皇子イササリヒコノミコトが派遣された。  
ミコトは大軍を率いて吉備国に下り、まず吉備の中山に陣を布き、西は片岡山(今の倉敷市日畑西山の橋葉山)に石橋を築き立てて防戦の準備をした。  
さていよいよ温羅と戦うこととなつたが、もとより妄幻自在の鬼神のことであるから、戦うこと鬼神の如くその勢いはすさまじく、さすがのミコトも攻めあぐんだ。  
ミコトの射る矢は、鬼神が岩を投げつけて空中で噛み合い、海中に落ちた。  
そこでミコトは千鈞の強弓で2本の矢を同時に射たところ、一本は岩にあたり落ちたが、1本は見事に温羅の左眼にあつたので、流る血潮が流水となつてぼとぼと流した。(これが血吸川のいわれです)

温羅はたちまち雄と化して山中に隠れたが、ミコトは還となって追いかけたので、温羅はまた醜と化して血吸川に温羅はついにミコトの軍門に降って吉備冠者の名をミコトに献上したので、それよりミコトは吉備津彦命と改称されることとなった。

吉備津彦命は鬼の頭をはわて串し刺しにしてこれを晒した。岡山市の首部（こうべ）はその遺跡とされる。しかるにこの首が何年となく大声を発し、唸り響いて止まらないので吉備津彦命は部下の大洞建（イヌカイノケル）に命じて犬に喰わした。それでもなお吠え止まないののでその首を吉備津宮の釜殿のかまの下八尺を握って埋めたが、なお一三年の間唸りは止まらず近りに鳴り響いた。

ところがある夜、命の夢に温羅の霊が現われて「吾が妻、阿曾媛をして釜殿のかまを炊かしめよ、幸あれば裕に鳴り響ければ荒らかに鳴らう」と告げた。これが吉備津神社につたわる釜鳴神事のおこりとされる。

## b. 再度 古代吉備 「鉄」と「鬼」



「吉備の中山」の丘陵地



鬼退治伝説の吉備津彦命を祭る吉備津神社と吉備津彦神社

### 「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」

吉備国では後に古今和歌集に「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」と歌われるごとく、鉄・鍛冶生産が早くから行われてきた鉄の一大生産地。

大陸から北九州を経て畿内へ行く途中にある吉備では、いち早く大陸の新しい文化・技術が伝わったであろう。その中で、水田耕作・勢力伸張の大きな武器となった鉄精錬・鍛冶の技術も大きな川と内深く入り込んだ内海での豊富な砂鉄の体積を使って、この吉備の地でいち早く根付き、古代鉄の一大生産地となっていた。

まさに「真金吹く 吉備の中山 おびにせる 細谷川のおとのさやけさ」である。

「真金吹く」は吉備の枕詞であり、製鉄の時に飛び散る火花を象徴。

後の時代の延喜式によると吉備は「鋼」として鉄や鉄を納める国として記載がなされ、中世以降も備前

刀や備中鍛等の鉄製で吉備の国は、全国に知られている。

「吉備の中山」は吉備の古墳群や国分寺跡が並ぶ総社の丘陵地に隣接する小さな丘陵地。

この丘陵地の麓にも 吉備津神社 吉備津彦神社をはじめ、多くの古代遺跡がある。

この吉備の持つ鉄の技術は吉備の勢力伸張の武器であると共に他の巨大化する勢力にとっても魅力的なものであり、この吉備の鉄の覇権をめぐる、連合・争いが巻き起こったであろうし、この中で吉備は出雲と同様大和の勢力下に組み込まれてゆく事になる。

この鉄の覇権をめぐる争いの伝承が「鬼ノ城 温羅伝承」つまり「桃太郎の鬼退治」の伝承であろう。

ぼかぼか陽気の中 眼下に広がる鬼の城。鬼ノ城」の丘に立ったのはもう随分前 99.5.29.。

「もう記憶も少し薄れているが、ぼかぼか陽気の午後。

こんな温暖の地でたとえ堅固な城であるにしても南に大きく開けた地が「悪者の鬼の城」には似合わない。 もっと 山奥が 人里はなれた未開の土地でなければ・・・。

やっぱり ここでも 鬼は悪者に仕立て上げられたのか・・・

産鉄の民と支配者との争い 大和にとっては悪者であっても 吉備では良き隣人・恩人でなかったか

「鬼」「鬼」と悪者として追いまわす中に何か親しみをこめ、「福は内 鬼は外」と豆をまく筋分。

21世紀のキーワードと言われる「敵対・抹殺から融合・融和へ」鬼伝説の中にある「親しみ」もこれでないか・・・

鉄は両刀の刃。古代 そして日本の伝統の中に21世紀を生き抜く解がないか・・・

2002.2.24. 柏にて 鬼に親しみをこめて by M.Nakanishi

### 「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

- 「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説
1. 稲作と鉄器の伝承が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた
  2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
    - 「弥生の`暮らし」を持たらした大陸からの渡来人 →NHK 「日本人遍かな旅」より
    - 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
  3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説
- 参 考 日本 鬼伝説

2002.3.2. by M.Nakanishi

12

### 第5回 歴博国際シンポジウム 「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」に参加して 『加耶の鉄と倭国』

2002.3.13. 千葉県佐倉市 国立歴史民俗博物館



2002.3.13. から 4日間 韓国と日本の考古学の先生を中心に古代日本の成立に大きな影響を与えた朝鮮「加耶」と「倭」の交流について、最近の日本・韓国の発掘調査結果などを踏まえて「古代東アジアにおける倭と加耶の文化交流」についての国際シンポジウムが千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で開催された。このシンポジウムの初日に「加耶の鉄と倭国」のテーマで古代日本の鉄のルーツや朝鮮半島の展緯・加耶の鉄が古代日本成立にはたした役割等が新しい考古学調査を基に討論された。

「日本の古代製鉄のルーツは大陸・朝鮮にあることが定説になっており、この鉄の覇権をめぐる展開されたドラマが日本誕生に深く結びついている」と言われ、弥生時代から古墳時代そして大和朝廷の時代へと紀元2〜7世紀の古代鉄を探ってゆくとき常に歩き着く「朝鮮半島加耶の鉄」。

自分の知識と言え、情報が断片的で、時代もきっちり把握できておらず、何となく「加耶の鉄が製鉄の民と共に日本へやってきて、その鉄の歴史が古代日本誕生のドラマの中で数々の役割を演じてきた」と。

1. 吉備・出雲神話と鉄のかかわりと各地に残る古代「鬼伝説・羽衣伝説」
2. 出雲荒神谷に忽然と消えた青銅器文化と鉄のかかわり
3. 鉄とともに忽然と現れた四隅突出方墳から巨大前方後円墳への墳墓の変遷
4. 大和連合日本統一にはこの加耶の鉄が決定的役割をはたしたのではないかと 等々。

自分のもつばらの関心事は「これら日本で起こった数々の事象・伝承が実際の大陸・朝鮮との交流史の中に於いて、考古学でかつ日本・朝鮮・中国での製鉄・鍛冶遺跡発掘で信憑性を持って語られているのか」「本当のところ 日本の鉄のルーツはわかってきたのか・・・」そんな興味を持って このシンポジウム聴講。

昨今の古代史ブームの中 もっとも興味を持たれている「古代日本のルーツ」にかかわる「朝鮮加耶と

### Iron Road [2] 2001 2001-2002.4

の交流」がテーマであり、専門家ばかりでなく、各地の文化財保護に関わる人 そして私みたいな素人など 席が指定されるほどで、国立歴史民俗博物館の大ホールが満席の盛況であった。

### 12.1. 弥生時代には日本自前の鉄はなかった? — 日本古代鉄の歴史 —

弥生の時代の始まりは鉄器使用に裏付けられた水田耕作によると思われる。しかし、現状弥生時代には種々の鉄製工具が使われ出したが、いずれも日本で作られた鉄ではなく、大陸から持ち込まれた物と見られている。

一番古いもので紀元前2世紀頃から日本各地で鉄産など鉄製製品が出土しているが、これらはすべて大陸からもたらされたもので、日本で鍛造された痕跡はない。

九州テクノ大野正巳氏の鉄器遺物 鍛冶スラグなどの分析を通じた整理等をベースにシンポジウムでの諸氏の話をまとめ、日本での鉄の歴史を次のように整理した。

表 日本古代鉄の歴史

| 紀元前        | 800  | 600 | 400 | 300  | 200 | 100 | 0  | 100 | 200 | 300            | 400 | 500 | 600 | 700 | 800        | 900 | 1000 | 1500 | 1800 |
|------------|------|-----|-----|------|-----|-----|----|-----|-----|----------------|-----|-----|-----|-----|------------|-----|------|------|------|
| 縄文晩期       | 弥生前期 | 中期  | 後期  | 古墳前期 | 中期  | 後期  | 飛鳥 | 奈良  | 平安  | 室町             |     |     |     |     |            |     |      |      |      |
|            |      |     |     |      |     |     |    |     |     |                |     |     |     |     |            |     |      |      |      |
| 日本古代鉄の歴史   |      |     |     |      |     |     |    |     |     |                |     |     |     |     |            |     |      |      |      |
| 【鉄産地再生の時代】 |      |     |     |      |     |     |    |     |     | 【本格的鍛冶の時代】     |     |     |     |     | 【鉄の量産化の時代】 |     |      |      |      |
| 【原始鍛冶の時代】  |      |     |     |      |     |     |    |     |     | 【鍛冶・鉄の自給自足の時代】 |     |     |     |     | 【鉄の多様化の時代】 |     |      |      |      |

#### 1. 縄文晩期 ~ 弥生前期 紀元前2世紀 ~ 紀元1世紀 【鉄産地再生の時代】

中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鑄物製の鉄産などの破片を日本で鋳造などの再加工して使用する事が始まる。

#### 2. 弥生時代中期 ~ 後期 紀元1世紀 ~ 3世紀初頭 【原始鍛冶の時代】

薄く板状に鍛込み表面酸化された素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われる。

#### 3. 弥生時代後期以降 ~ 古墳時代中期 2世紀 ~ 4世紀 【鍛打伸張鍛冶の時代】

中国では遠く鉄産地ばかりでなく、鉄産石を低温還元焼成してつくられた塊状鉄が得られるようになり、日本では、脱炭素鉄と同時にこれらを素材とした鍛冶加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格的鍛冶へと移行して行く。

#### 4. 古墳時代初頭以降 初期 ~ 中期 3世紀前半 ~ 5世紀 【本格的鍛冶の時代】

大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流通。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。この当時 半島朝鮮半島の南部展緯・加耶と倭国との交流が活発で、4世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。

当初3世紀には北九州に限られた鉄の先遣地が5世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶伊勢や鍛冶津が大量に見つかるようになる。

5世紀後半になると畿内には大規模な専業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

5. 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5世紀末～8世紀【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】

その地りはまだはっきりしないが、5世紀末から6世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした坩堝炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始まり、鉄素材の自給が始まった。

また 国内に大量に存在する砂鉄を原料とした精錬も始まり、日本で鉄の自給の波が西国から東へ広がって行く。

7世紀末から8世紀には現在の福島県馬場ノ町遺跡(方製鉄遺跡)まで広がりに、9世紀には青森県山北山麓での製鉄が確認されている。

6. 奈良・平安時代 8世紀～11世紀 【鉄の多様化の時代】

鞍馬型が関東・東国に出現し、大型の坩堝炉や精錬遺跡の出現など鉄生産が日本全国におよび、鉄生産の多様化が進む。本格的な精錬生産ははじまり鉄の多様化がはじまる。

7. 中世 15世紀以降 【鉄の量産化の時代】

高炉たたらが鉄山経営として成り立ち 出雲など中国地方の生産が他を圧倒して行く

日本では縄文晩期に精造鉄弁があらわれ、弥生時代には数多くの中国製と考えられる鉄弁が出土しているが、日本で鉄が自給されるのは5世紀末から6世紀と考えられ、それ以前には鍛冶遺跡などはみつかったても、製鉄炉や精錬スラグは見つからず、自給の鉄精錬が行われた痕跡は見つかっていない。

5世紀末 干引カナクログ製鉄遺跡等吉備の国で大陸と同じ方式の鉄鉱石原料とした鉄精錬が現れ、6世紀になると国内に大量にある砂鉄を原料とした製鉄炉もあらわれ、九州・西国から東へ急速に鉄の自給が進んで行く。

このことから「鉄の時代の始まり=弥生時代」といわれるが、自前の鉄文化が日本で根づくのは大和朝廷が成立する飛鳥時代以降と言う事になる。

● 弥生時代 中国から移入された精造鉄弁等の鉄器類



弥生時代には大量の鉄弁が中国から伝来したが、これらの鉄弁表面は再加熱による表面硬化処理が施され、硬くて脆い高炭素鋼鉄(白鉄)の表面にねばい脱炭層が付与されている。日本に鉄器が伝来した初期から高度の加工処理が施されていた。

また、これら日本に伝来した鉄弁は工具として使われたのみならず、この鉄弁や折損破片を鉄素材としてさらに鍛打・研磨・割ぎ取りなどの技法により、工具に再生された。

弥生時代後期になる表面脱炭した薄い精造鉄板が伝来し、簡単な加熱曲げ加工が始まる。(原始鍛冶) 当時 中国は前漢の時代。前漢は全国に46の鉄官を置き鉄の生産すべて官営として管理下において。これらの鉄が朝鮮半島に置かれた東萊郡等4郡の交易基地を通じて日本にもたらされたと見られている。また、弥生後期から古墳前期にかけて、鉄鉱石を直接還元して鉄を作る塊状錬鉄法がおこなわれるようになり、脆い鉄に替わって ねばい鉄が得られるようになり、鍛冶材料として広く交易商品として中国朝鮮で流通するようになる。それらも日本に伝来し、本格的な過熱鍛冶が始まる。当初は中国製がそのまま日本にもたらされるが、次第に朝鮮半島で鍛冶加工されたり、朝鮮半島で製造されたものが日本

にもたらされる。特に4世紀 朝鮮半島の南端に近い加耶はこの鉄の生産・鍛冶・交易の中心地となり、日本にもたらされる鉄鍛冶材料も飛躍的に増大。この朝鮮からもたらされた鉄は治具や水田耕作などの道具に鍛冶加工されたばかりでなく、武器としても広く用いられ、この朝鮮の鉄の派遣が日本(倭国)各地に起こった諸国の勢力争いの重要な武器となり、この中から大和連合が生まれ、日本を統一して行く事になる。



日本最古の中国製鉄弁が出土した 福岡県曲り田遺跡 日本出土各種鉄器 近畿農古の鉄弁が出土した 京都府 丹波篠谷遺跡



福岡県比恵弥生遺跡から出土した中国製精造鉄弁 新潟 弥生時代 中期 今から約2000年前

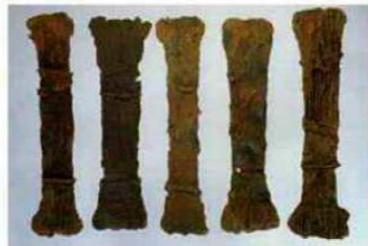
2. 「加耶の鉄を巡る古代日本の派遣争い」それが日本を造っていった



中国製の精造錬鉄が大量に日本に移入された弥生時代 大陸との交流の主は朝鮮半島を通じてであり、中国では漢が成立し、紀元前2世紀末には全国46ヶ所に鉄官をおき、周辺諸国に主として精造鉄器供給をすると共に鉄を支配。倭・朝鮮諸国へは朝鮮半島に置いた東萊・帯方郡など4郡を通じて供給された。その後、朝鮮半島で中国の鉄素材を板状鉄弁等に鍛冶加工するとともに製鉄の技術もつたつたと考えられ、朝鮮で鉄鉱石精錬された鉄が交易の中心として倭に持ち込まれるようになる。

2.3世紀になると中国歴史書に倭の記事が載るようになり、中国・朝鮮半島との交流が盛んになり鉄は重要な交易品となっていることが解る。

2世紀 「後漢書・東夷伝の并辰条」には「国出鉄、倭・馬韓並従市之」の記述があり、「南部并辰の地(并辰後の加耶地域)で産出する鉄鉱石の製錬(鍛錬)が行われ、その鉄を倭・韓の人たちが買っていた」との記述がある。おそらく斧状鉄板とみられている。



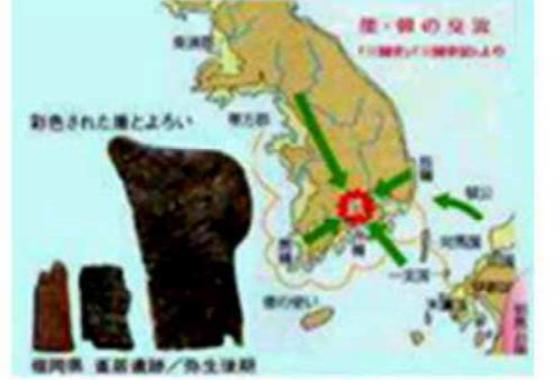
吉備の遺跡から出土した中国製 鉄てい 朝鮮半島から日本等周辺諸国へ交易された鉄てい

4世紀になると朝鮮半島では馬韓・弁韓・辰韓 そしてそれらを引き継ぐ百濟・加耶・新羅の三国時代になるとその地方にある鉄鉱石を原料とした精錬・製鉄が盛んに行われるようになり、これらの国から周辺諸国・中国への鉄の輸出もさらに活発になったと推定されている。4世紀半ばこれらの地域で斧状鉄板から鉄 への形状変化がおり、鉄生産の中心になった加耶など朝鮮半島南部から日本に製鉄素材として大量に日本へ持ち込まれるようになる。この頃 高句麗の南下・漢の4郡の衰退による朝鮮半島の鉄交易先の変化 そして 朝鮮3国の勢力の変化など中国・朝鮮での勢力変化が頻りに生じ、鉄の倭に対する供給基地であった加耶を中心とした朝鮮三国と倭の関係も鉄の覇権・文化交流も大きく揺れ動く事になる。また、これら大陸の先進文化と共に朝鮮各地から数多くの渡来人が日本にやってくる。特に鉄の入手は日本国内諸国最重要項目であり、くるくると変わり行く朝鮮の情勢。鉄の入手・鉄の自給への道を巡って多くの交流があり、鉄の覇権をめぐる日本国内諸国の争いを経て、古墳時代から飛鳥時代への変遷 大和を中心とした連合による日本統一へと進んでいったと見るのも一つの側面であろう。

「加耶の鉄」を巡って「大陸から朝鮮・対馬をへて北九州・日本へ」 壮大な古代「鉄の道」が大陸から 海をわたって日本・畿内へと続いている。



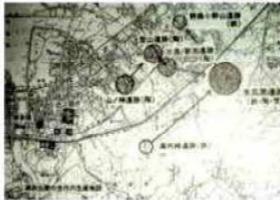
日本最古の中国製鉄弁が出土した 福岡県曲り田遺跡 日本出土各種鉄器 近畿農古の鉄弁が出土した 京都府 丹波篠谷遺跡



近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群 2002.3.23.



一野路小野山遺跡・木瓜原遺跡ほか



古代大和勢力を支えた琵琶湖南岸の大製鉄地帯 瀬田川東岸の南郷・瀬田丘陵に広がる古代製鉄遺跡群

京都から滋賀県との境に連なる京都東山・連峰山の峰々を越えて大津入りると左手には比叡・比良の山々を背に琵琶湖が広がり、右手には滋賀アルプスをはじめとした勢田丘陵が続く。

琵琶湖とこの湖南アルプスから鈴鹿へと続く山々の間には広大な近江平野が広がるが、大津はその入口部にあたる。北に大きく扇形に広がる琵琶湖は大津の東海岸で上記した南に延びる湖南アルプスなどの丘陵地と京都東山連峰にはさまれた谷間を瀬田川となつて南郷・宇治・大阪へ流れ下って行く。この瀬田川の東側から南東には広大な丘陵地が東西に延々と続き、その背後には笠置・信楽・鈴鹿の山々がさらに続いている。

この丘陵地と琵琶湖の間には大津・瀬田を入口に広大な近江平野が続く。この大津・瀬田から草津・野洲へと連なる平野部は琵琶湖を交通路として畿内と大陸並びに日本海沿岸・東国を結ぶ古代から開けた要衝の地で、大陸・朝鮮半島など新しい文化流入の地である。そしてこの瀬田川東岸の瀬田丘陵地と対岸を含めた南郷地区は古代の製鉄遺跡が点在し、7世紀後半から8世紀にかけての古墳時代から飛鳥時代・奈良時代にかけての古代畿内の大製鉄地帯だったと考えられている。

これらの南郷・瀬田丘陵地の製鉄遺跡の特徴は吉備の国と共に大陸・朝鮮半島で行われてきた鉄鉱石精錬であり、他の地域が日本で改良された砂鉄精錬であるのと大きく異なっている。日本における精錬・製鉄の始まりは5世紀後半ないしは6世紀初頭 鉄鉱石精錬法として大陸朝鮮から技術移転されたといわれ、吉備干引かなくろ谷遺跡等が日本で製鉄が行われたとの確認が取れる初期の製鉄遺跡と言われている。

大陸・朝鮮で砂鉄精錬が行われていたとの実証はなく(最近朝鮮で大量の砂鉄が銅冶工務と一緒に見つかった例がでてきた)砂鉄精錬は日本で大きく改良発展したと考えられているが、この時代の製鉄炉として砂鉄精錬の遺跡を残す製鉄遺跡も数多く発見されている。この南郷・瀬田丘陵地で発掘された製鉄遺跡群は、日本での製鉄開始時期からは100年程度後の飛鳥時代の製鉄遺跡ではあるが、日本に最初に伝来した初期の製鉄法がそのまま継承されてき、それが大和勢力と密接に関係する吉備と この近江の国のみであると考えたと鉄器文化先進の地北九州と朝鮮の結びつきを圧して 大和・吉備の勢力が朝鮮の新しい勢力と組み鉄の覇権を握って日本統一を成し遂げたと考えられるものがあるが乱暴ではなからう。それ以後大和勢力は丹後・出雲などの砂鉄精錬技術をもつ諸国をもが従えて行くが、日本統一の原動力となつた近江の鉄鉱石精錬技術がそのまま遺跡として受け継がれてきたのではないかと...

古代近江は琵琶湖を通じた交易の要衝としての重要性が強く指摘されているが、この近江の鉄の生産園としての重要性も認識せねばならない。古代天智天皇の近江の宮 聖武天皇の信楽宮 そして雄略天皇の越の国からの大和入場もすべてこの近江の鉄を舞台にまわったのではないかと...

1. 滋賀県の古代製鉄遺跡

滋賀県で確認されている 古代 製鉄遺跡一覧 (7~9世紀)

Table listing ancient iron smelting sites in Shiga Prefecture from the 7th to 9th centuries. Columns include site name, location, and discovery date.

滋賀県製鉄遺跡一覧(一部) 参考: 佐々木和子『近江の鉄と鋼』より

上記一覧表は滋賀県歴史文化センターで作成された古代7世紀~9世紀の滋賀県製鉄遺跡の一覧表とその分布がきわめて特徴的で地域に分けられることです。

- 1. 大津市から草津市にかけて位置する瀬田丘陵北端(瀬田川西岸を含む)、
2. 西浅井町、マキノ町、今津町にかけて位置する 野坂山地山麓、
3. 高島町から志賀町にかけて位置する比良山山麓

このうち、野坂山地と比良山山麓からは、磁鉄鉱が産出するので、その鉄鉱石を使用して現地で製鉄していたと考えられる。

特に野坂山地の磁鉄鉱は、『続日本紀』天平宝字6年(724)2月25日条に、「大郡藤原惠美朝臣臣孫に、近江国の浅井・高島二郡の鉄穴一処を賜う」との記載があり、浅井郡・高島郡の鉄穴に相当するものと考えられ、全国的にも高品質の鉄鉱石であったことが知られます。

一方、瀬田丘陵北端では、現在のところ磁鉄鉱の産出は知られておらず、この地での製鉄は、原料の鉄鉱石をどこからか運んできて生産したと考えられ、規模が大きく、かつ古代では例のない防湿施設をもつ木瓜原遺跡の製鉄炉や、6基の製鉄炉を整然と配置し、高品位の鉄鉱石を使用している野路小野山遺跡の製鉄炉などを考えるとこの瀬田丘陵での製鉄は律令国家がかかわる官営工務の可能性が高い。そこで注目されるのが、『続日本紀』天平14年(743)12月17日条の「近江の国司をして、有勢の家の専ら鉄穴を賣り、貧賤の民の採り用い得ぬことを禁断せしむ」という記述です。これによると、近江国で、有力な官人・貴族たちが、公民を使役して私的に製鉄を行っていたというのです。その場所がどこで、7~9世紀にかけて、瀬田丘陵を中心に近江国の各地で製鉄生産が行われていたことは、律令国家成立期において近江国が政治的・経済的にきわめて重要な位置を占めていたことを示しています。

2. 瀬田丘陵 古代製鉄群を訪ねる

草津市 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原(ボケバラ)遺跡



3月23日京都から草津市の野路小野山製鉄遺跡など古代 大和政権成立の黎明の時代に極めて重要な役割をはたしたといわれる瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群を訪ねた。

3月13日国立歴史民俗博物館で開催された「加耶の鉄と倭」の国際シンポジウムで古代日本誕生の黎明期に大和連合のバックボーンとして鉄自給の使命を担ってさっそうと登場した近江の国琵琶湖南岸の鉄鉱石精錬の話聞いた。



比叡ドライブウェイ 山中越え 琵琶湖から瀬田丘陵

近江が鉄の国であることは司馬遼太郎の「街道を行く」等を知ってはいたもののそれはむしろ大陸と関係して湖北・比良山麓と考えていたので話を聞いてビックリ。

余知らなかったが、かつてよく通った南郷・瀬田の瀬田川沿いの丘陵地 最近 龍谷大学の理工立命館大学の理工が進出したあの瀬田丘陵に古代の大規模な製鉄遺跡群があるという。資料も予備知識も全く無し。

でもあの丘陵地に続く近江平野は縄文・弥生の時代から開け、渡来人も多く住んだ古代の文化先進地。また 丘陵の奥にはかつて古代に都が造営された信楽があり、鈴鹿から笠置の峰々へ。またこの山間をめけると飛鳥・奈良へと古代の道が続いている。



古代製鉄遺跡群の瀬田丘陵の位置

さっそく地図と地名を頼りにまず一番降りやすい草津市野路小野山製鉄遺跡を訪ねる事にした。

京都から滋賀へ抜けるルートは幾つかあり、大動脈である国道1号線・名神高速道は京都から山科を抜け彦坂山を越えてゆく。また 京都の街の北から比叡山の南側を越える山中越えや比叡山の北を越える途中越えの道がある。京都から琵琶湖へ抜け、琵琶湖と山々との間の狭い平地に広がる大津の街を街道が抜けて行く。琵琶湖が瀬田・淀川として南に流れ出す口にかかれた近江大橋を渡り草津にはいる。大阪からだともう少し南側 国道1号線を瀬田の南郷で瀬田川を渡り草津へ。JR南草津駅のところで国道1号線を右に曲がる。

面直近かに壁面にも重なって住宅が立ち並び丘陵が東西にのびている。瀬田丘陵である。約500mばかり進んでこの丘陵地にさしかかると草津バイパスの野路中央のインター。このバイパスを越えたところ小野山団地のバス停があり、野路小野山製鉄遺跡もほぼこのあたりであるが、全くみあたらず。街の人たちに聞くが誰も要領を得ず。



国道1号線 京滋バイパス 草津市野路中央インター交差点付近 南西から延びる瀬田丘陵の北側の山裾。この道路の下に野路小野山遺跡がある

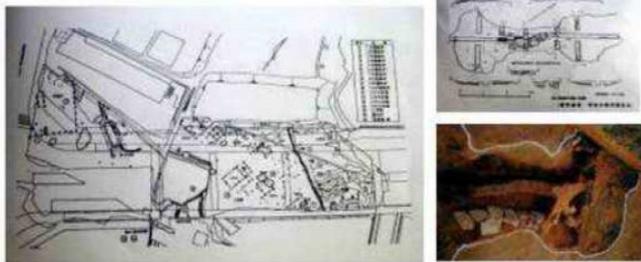
さらに丘陵地を少し登って行く立命館大の正面の入口。もう一度引き返し、団地の中をうろろろするが解らず。通りがかりのお爺さんが「バイパスの直ぐ北側のところだ」と教えてくれるがやっぱり何も無し。近所をウロウロ約30分。近く草津玉川公民館を見つけそこで話をしやっと所在が解った。「インターそのものが小野山遺跡。約10mばかり土盛をせす下になっているその下が遺跡」と教えてもらう。また「立命館大正面のはいったところのグラウンドの下が木瓜原製鉄遺跡。ここは発掘跡が保存されているが、グラウンドの下なので事前に申し込んで扉を開けてもらわないとダメだろう」と。「街の中 街として開発される中での遺跡の保存がいかに難しいか う...ん」とうなってしまった。



京浜バイパス 野路中央インターの橋脚の下にある野路小野山製鉄遺跡

この京浜バイパスの国道の下には下記のような7世紀末から8世紀半ばにかけての長方形の箱型製鉄炉11基・木炭窯6基・鍛冶工房とみられる掘建て柱建物など製鉄に関する一連の大製鉄遺跡遺構がまとまって眠っている。一度調査後、埋め戻された遺跡は平成12度にバイパス下を中心に再度部分的に掘り起こされ、保存状態の確認が行われた。

〔滋賀埋文ニュース 第253号より〕



野路小野山遺跡概要と発掘された製鉄炉 野路小野山遺跡発掘調査概報より

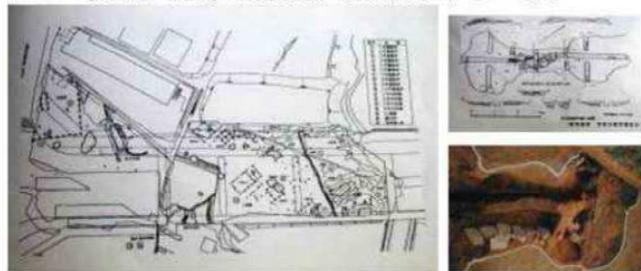
京浜バイパスの野路中央の交差点の直ぐ東側約10mの幅で土盛のない掘になっていたが、暗い掘の下です。調査は終わっているとは言いがながら厳しと感じました。

### ● 草津市 野路小野山製鉄遺跡

野路小野山製鉄遺跡は、市内野路町字小野山に所在する遺跡で、京浜バイパス建設に伴う発掘調査によって製鉄炉11基、木炭窯6基、大鍛冶跡、工房跡などが発見された。この遺跡のある瀬田丘陵には、他にも木瓜原（ほけわら）遺跡、観音堂遺跡、源内峠遺跡など多くの製鉄遺跡が集中し、飛鳥時代から奈良時代にかけての国内でも有数の製鉄地帯である。瀬田丘陵の製鉄遺跡群の中では、野路小野山製鉄遺跡が最も新しい段階の遺跡と考えられ、操業の中心は8世紀なかば頃奈良時代の遺跡と推定されている。それ以前の遺跡では、1基から数基の大型製鉄炉を用いて鉄が生産されていたが、野路小野山製鉄遺跡では、やや小型の製鉄炉を6基並べて操業していたことがわかっていて、これは、熱効率のよい小型の製鉄炉を用いて良質の鉄を多量に生産することを目的としたためと考えられています。



小野山遺跡製鉄炉跡 小野山遺跡復元模型  
〔天平の都 紫香楽〕刊行委員会発行 滋賀県信楽町 ホームページより



野路小野山遺跡概要と発掘された製鉄炉 野路小野山遺跡発掘調査概報より



製鉄原料として使われた鉄鉱石の一例

さらに、ここから出土している鉄鉱石は、他遺跡のものとは比べて極めて良質で、近隣では採集されないものであり、また、その鉄鉱石を分割する方法についても、高度な技術が用いられていたといわれています。これらのことから、野路小野山製鉄遺跡は、当時の最新の技術を用いて作られた製鉄所であったと考えることができます。このように遠隔地から良質の原料を集め、最新の技術を導入することができたのは、一地方勢力の力だけでは困難であり、背後に大きな力があったと考えられます。この頃中央では聖武天皇の時代で、唐の文物制度を採用し、国政を充実させていました。野路小野山の地に作られた製鉄所は、中央の権力と深く関わりがあったと考えることができます。



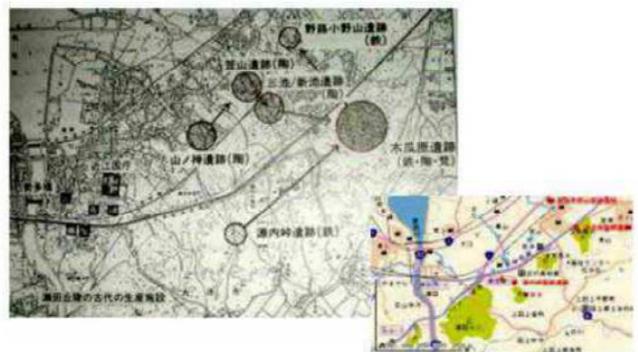
大学のグラウンド下に保存された木瓜原製鉄遺跡  
草津市 立命館大 草津キャンパス

立命館大もやっぱり土曜日でダメでした。この南郷・瀬田の丘陵地は交通の要衝として、また京都・大阪のベッドタウンとして有無を言わず開発の進んだところ。古代から多くの渡来人がこの地で日本人たちと一緒に鉄の自給に命をかけて取り組みそれが原動力となって、次第に大和政権から日本律令国家へ

古墳時代から飛鳥・奈良の時代へと移っていく。この南郷・瀬田丘陵の製鉄遺跡と日本誕生のドラマ、また、近江平野で発掘される数々の古代遺跡。近江の国の位置付けを考えるとこの地に総合的な古代博物館があっても良い地域ではないかと思うのですが・・・・。今は住宅地開発の中に完全に埋もれてしまった瀬田丘陵。古代日本形成の重要な役割を担った畿内屈指の鉄の大生産地。眼前に広がる琵琶湖を眺めながら京都に山越えするとこの地の重要性が実感としてわかってくる。

大津市南郷・瀬田地区 龍谷大のある丘陵 今滋賀県文化財センター等がたちならんでいるが、この地も源内峠製鉄遺跡や桜峠遺跡など古代製鉄遺跡が発掘されている。このあたりも住宅地。まっちゃん遺跡がのこっているのだろうか？ 源内峠製鉄遺跡はこの瀬田丘陵で発掘された一番古い遺跡と言う。

### 3. 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群 個々の製鉄遺跡概要



### ● 草津市 木瓜原製鉄遺跡 (立命館大ホームページより)



木瓜原（ほけわら）遺跡は、七世紀末から八世紀初頭までの製鉄遺跡。立命館大学 草津キャンパスの建設に先立ち1990年から1992年にかけて発掘調査され、7世紀末から8世紀初めにかけての貴重な製鉄遺跡である事が判明。現在、立命館大学の草津キャンパスのグラウンド地下に発掘された状態のままに保存されている。この遺跡は箱型の製鉄炉と鍛冶場、木炭炉・須恵器窯・梵鐘の鋳造場など多岐にわたる生産施設が配置されたコンビナートの様相を呈する大規模な遺跡である。また、製鉄炉は他地域の同時代の製鉄炉と比べて格段に大きく(2.8x0.6m) 地下防湿近構道も丁寧で近江の中心的製鉄所であったと考えられる。

この木瓜原遺跡の概要については『古代の製鉄コンビナート』立命館大学びわこ・くさつキャンパス 木瓜原遺跡の発掘』1994年 立命館大学の小冊子にわかりやすくまとめられている。



木瓜原遺跡の製鉄炉遺構 『古代の製鉄コンビナート』木瓜原遺跡の発掘』より



鉄山遺跡のある茂来山登山道へ入ることにする。ここでもまた、「もの好きな・・・」と笑われたが、幸いやっと正確な遺跡の位置を知っている人に巡り会いほぼ20分程で大日向へ。残念ながら茂来山のピラミッドな姿は雲の中見え、もっとも歩いて帰る道すがらつとその美しい姿を見せてくれた。また、山は「親子連れの出た」とかで登山禁止。道であった街の人も「自分も見て、次の日に人がおそわれた・・・」と言うので残念ながら一人では前へ進みがたく茂来山 鉄山遺跡の上 宮林署跡地の登山口まで行って引き返した。



大日向 茂来山の登山口と霧久保沢

茂来山登山道と書かれた標識の所から茂来山へ沢筋につけられた砂利道を一気に登って行く。もう 誰もいない山中へ分け入って行く。右手の谷川に沿って新緑の林の中を道が山へ登って行く。山道の両側には「山吹」が黄色い花をつけ数迎してくれている。約15分ほど谷筋を山中へ分け入ったところ、谷川と反対側 道の脇林の中に少し平らな部分が見え、其の中央部 木立の中の地面に青いピニールシートが被せてある。ただそれだけ 標識もなにもなし。茂来山 鉄山遺跡である。



霧久保沢 茂来山への登山道と 道端の「ヤマブキ」 - 茂来山 鉄山への道 2002.4.27. -



海潮駅から抜井川沿いの集落を抜け 茂来山の麓 大日向集落へ 2002.4.27.

海潮駅を東に折れて抜井川沿いに集落が点在する広い谷筋を奥秩父への道 武州街道を進むと 田圃のあちこちには黄色いタンポポが咲き乱れ春を告げている。小海線の駅名表示板にも「タンポポ」の花の絵と「花のまち さく」の表示が添えられ、この街がタンポポが咲き乱れる日本原風景がみられる街であることについてわりなし。田圃と連なる山々を見ながらよく整備されたバイパス道路を進む。大きな送電鉄塔がこの平地を横切って伸びている。黒部一秩父一関東への幹線送電ルートと表記されており、ここが今も信州と関東を結ぶ重要幹線であることが判る。約20分ほど進んで 右手に 茂来山から伸びる深い沢とそこを流れ下るの合流点に来る。茂来山登山道の標識も見え、大日向の集落である。右からの深い沢が霧久保沢 流れ下る川が切り久保川で ここまで来ると雲と前の山々にさえぎられ、小さな山の連なり向こうにピラミッドの輪郭が一部見える。



鉄鉱石原料によるたたら製鉄が行われた 幕末の 茂来山 鉄山 遺跡

タクシーを雇って 一人其の中に立つ。この遺跡の横で 谷川は薄くなって雪解けの清流を流している。そのそばで山吹が実に鮮やかな黄色の花を咲かせ、山全体が穿吹きを終えた若葉が覆う木立の中ウグイスの鳴き声が響き渡るたたら遺跡跡。周辺を少し歩くと機投かの平らな土地があり、その段差を区切る石垣跡も見え、幕末の遺跡と聞いたのでまだ 周りに人の生活のおいがすると思っただが、全く何もない。関西以西の遺跡にある金屋子さんも無し。ただ ひっそりと山肌斜面の端 林の中にひっそりと埋もれている。

## 2. 茂来山 鉄山 遺跡 の 概 略



佐久町公民館の平岡氏から後日この茂来山鉄山遺跡の発掘図や公開資料を沢山送っていただいた。

この鉄山が経営されたのは幕末 嘉永元年・1848年から山火事で焼失する文久2年・1862年までの14年間と言われ、その後 製鉄は大日向に移され 明治の初め 頃まで経営された。

一方この地はその後 畑となったりして私有地として管理され この地の下にたたら製鉄遺構そのまま埋もれていると言う。大日向の集落から徒歩で約30分~1時間山の中へ入ったところ。やっぱりこの鉄山も集落からは少し奥に入り、隔離されている。今は全くその面影も見えず山中である。

往時は沢山の人がこの鉄山へ往来し、また 大日向から武州街道を過って江戸にこの鉄も送られたに違いない。今はみることがないが・・・・・・

資料によるとこの鉄山遺跡のある大日向集落の奥 霧久保沢周辺は昔から磁鉄鉱石はじめ 多くの金銀磁石が出る所であり、ここから出る鉄鉱石を粉砕してたたら製鉄に供したと思われる。また、青いシートがかけられた所がたたら炉跡で2基あったらしい。

### 2.1. 茂来山 鉄山 遺跡 今と昔



遺跡近景

壁屋跡の石垣

現在の茂来山鉄山遺跡

『佐久町の文化財』平成22年 佐久町教育委員会発行  
茂来山鉄山遺跡 平岡 啓典氏より提供

| 項目    | 内容                      |
|-------|-------------------------|
| 遺跡名   | 茂来山鉄山遺跡                 |
| 所在地   | 長野県佐久市大日向               |
| 発掘調査年 | 2001.9                  |
| 調査機関  | 佐久市教育委員会                |
| 調査員   | 平岡 啓典                   |
| 調査期間  | 2001.9.10~11            |
| 調査内容  | 遺構の調査・測量・写真撮影           |
| 調査結果  | たたら製鉄の遺構(たたら炉跡)の調査結果    |
| 調査報告書 | 『茂来山鉄山遺跡の調査報告書』(2002.4) |
| 調査写真集 | 『茂来山鉄山遺跡の調査写真集』(2002.4) |
| 調査図   | 『茂来山鉄山遺跡の調査図』(2002.4)   |
| 調査記録  | 『茂来山鉄山遺跡の調査記録』(2002.4)  |
| 調査資料  | 『茂来山鉄山遺跡の調査資料』(2002.4)  |
| 調査関係者 | 佐久市教育委員会 平岡 啓典氏         |

図1 遺1, 遺2, 遺3, 遺4, 遺5, 遺6, 遺7, 遺8, 遺9, 遺10, 遺11, 遺12, 遺13, 遺14, 遺15, 遺16, 遺17, 遺18, 遺19, 遺20, 遺21, 遺22, 遺23, 遺24, 遺25, 遺26, 遺27, 遺28, 遺29, 遺30, 遺31, 遺32, 遺33, 遺34, 遺35, 遺36, 遺37, 遺38, 遺39, 遺40, 遺41, 遺42, 遺43, 遺44, 遺45, 遺46, 遺47, 遺48, 遺49, 遺50, 遺51, 遺52, 遺53, 遺54, 遺55, 遺56, 遺57, 遺58, 遺59, 遺60, 遺61, 遺62, 遺63, 遺64, 遺65, 遺66, 遺67, 遺68, 遺69, 遺70, 遺71, 遺72, 遺73, 遺74, 遺75, 遺76, 遺77, 遺78, 遺79, 遺80, 遺81, 遺82, 遺83, 遺84, 遺85, 遺86, 遺87, 遺88, 遺89, 遺90, 遺91, 遺92, 遺93, 遺94, 遺95, 遺96, 遺97, 遺98, 遺99, 遺100

### 2.2. 茂来山 鉄山 遺跡 試掘調査 2001.9.



### 2.3. 茂来山 鉄山のたたら製鉄炉 概 要

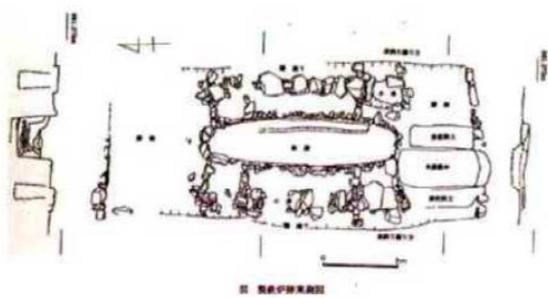


図 製鉄炉跡概略図

2. 4. 鉄鉱石採掘 露天掘りの跡 と 製鉄スラグの分析結果

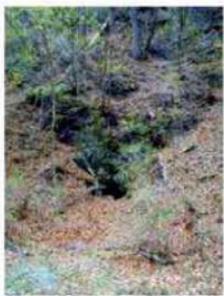


表1 霧久保山、茂来山鉄山の化学分析結果 (重量%)

|         | SiO <sub>2</sub> | MnO  | S     | P     | Ca    | FeO  | CaO   | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | TiO <sub>2</sub> | T-Pe  |
|---------|------------------|------|-------|-------|-------|------|-------|--------------------------------|------------------|-------|
| 霧久保山①   | 46.40            | 5.06 | 0.174 | 0.005 | 0.149 | 1.42 | 16.77 | 1.52                           | 0.11             | 18.74 |
| 霧久保山②   | 54.03            | 1.63 | 0.204 | 0.118 | 0.241 | 1.49 | 8.70  | 12.05                          | 0.53             | 13.37 |
| 茂来山鉄山①  | 38.47            | 8.23 | 0.315 | 0.079 | 0.002 | 1.30 | 8.86  | 5.91                           | 0.36             | 42.01 |
| 茂来山鉄山②  | 39.24            | 8.23 | 0.027 | 0.071 | 0.002 | 1.91 | 16.82 | 5.94                           | 0.47             | 38.43 |
| 茂来山伊勢製鉄 | 1.07             | 0.45 | 0.015 | 0.028 | 0.016 | 0.19 | 0.10  | 0.26                           | 0.81             | 79.92 |
| 伊勢製鉄製鉄石 | 0.01             | 0.39 | 0.001 | 0.023 | 0.002 | 0.14 | 0.40  | 0.54                           | 0.93             | 93.88 |

注) 図は歴史資料博物館山口県、東京工業大学高専部の分析による。



茂来山 たたら道跡の上流 滝がかかる霧久保沢

この道跡からさらに奥へ少し進むと登山道筋の崖に2,3穴があいているのがみえる。崖には含銅または鉄鉱石であろう石くずが散在している。資料によるとこの霧久保沢は古くから鉱山産出地であり、当時このあたりからは豊富な鉄鉱石が発見され、露天掘りが当時行われたあたりである。この豊富な鉄鉱石を砕いて原料として鉄鋼精錬が行われたらしい。砂鉄原料のたたら製鉄やかな江戸幕末の時代に、この現地から産出する鉄鉱石原料はよほど魅力的であったに違いない。疑問が残るが・・・この茂来山鉄山で作られた鉄が何に使われ、どこで消費されたのかによってその謎も解けてこよう。今はまだ その解を持っていない? また、平岡氏に送っていただいた資料によると信州ばかりでなく東北地方を除いて 鉄鉱石製錬を行ったたたら製鉄遺構が残っているのはほかに例がなく、また 東国で完全な形でのたたら製鉄伊遺構が見つかったのはじめてであり、本当に貴重な遺跡である。

2. 5. 茂来山 たたら製鉄遺跡 周辺 2002. 4. 27. 茂来山 霧久保沢で



茂来山 たたら道跡 周辺 スナップ

3. 霧久保沢から掃路 小海線 羽黒下駅までのんびりと山郷のWalk

道跡があるからいうのではないが、この霧久保沢の清流 花と新緑の中 滝を作り美しい深谷美を見せている。この道をそのまま詰めると茂来山の頂上に約2時間で立てるとの事だったが、茂来山の尾根への取っ付き口に熊出沒 通行禁止の札と鎖があり、一人では薄気味悪く引き返し、ゆっくり JR 羽黒下駅まで春の里歩きをする。霧に包まれていた山も下るにつれ、日がさした。田園のあぜにはタンポポが黄色いベルトを作り桜・桃が満開。今寄り抜けてきた山は芽吹いた若葉の緑で一杯 気持ちの良い里歩きとなった。



茂来山登山堂を大日向の集落に降りてきて

武州街道沿い 大日向から海潮へ 山里の walk

大日向の集落から見上げるとチョコッと茂来山の頭が見え、さほど興味のある山に見えない。「茂来山も ここからだと 周りの山とあまり変わらず ですわね・・・」という身を乗り出して来て「もっと佐久の平野に下ると その大きさが見えてくる。佐久の街からだと抜井川越しにスケールの大きなピラミッドが堂々とした姿で現れてくる」と。



武州街道 大日向近傍から 後ろに頭をのぞかせる茂来山

朝は霧と車で通ったので気が付かなかったが、街の人たちが自慢するとおり、佐久の街に近づくにつれ、美しく均整の取れたピラミッドな姿が一層高く抜きんでて見えてくる。立派な山である。1時間ちょっとで千曲川と抜井川の合流点 海潮駅にて 小籠の方へ流れ下る千曲川沿いに羽黒下の駅まで歩いた。春先の信州の山里をポカポカ陽気に誘われて歩いたのは初めてであるが 実にすがすがしい気分で山へ登るとのではまた違った魅力である。そして たたら製鉄遺跡をその山の中に抱えこんで、ピラミッドな姿を見せる茂来山とその渓谷も味わい深い。新緑の中 山吹が咲き 鳥が鳴き 清流が心地よい音を響かせている明るい谷にひっそりと静かに埋る製鉄遺跡。そして あぜ道のここかしこでタンポポ 桃の花が咲く山里 実に美しい光景ばかりが眼に焼きついている。ルンルンの気分で小海線に乗った。

2002. 4. 27. 小海線の車窓をながめながら M. Nakanishi

なお 帰って知ったのだが、この「茂来山 鉄山」については 畠山次郎氏の「灼熱の火 -茂来山 鉄山物語-」の労作がある。ゆっくりと読もうと思っている。また、この茂来山鉄山遺跡に関する資料を色々ご送付いただいた佐久町公民館の平岡豊彦氏に感謝する。



長野県佐久郡佐久町大日向の東に横たわる「茂来山」。導者の権堂でもあるこの地で、幕末元年から始められた「茂来たたら」は、ここから産出する鉄鉱石を利用した。幕末における茂来山鉄山について探究した一書。



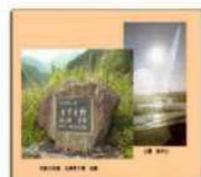
a. 海潮駅東 抜井川越しに b. 海潮駅西 千曲川越しに JR 海潮駅近傍からピラミッド型の美しい姿を見せる茂来山

和鉄の道・Iron Road Since 1999  
日本の源流・たたら探訪  
日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る  
2000-2001 HP開設時の記録

和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて  
日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
2000年和鉄の道・Iron Road 初まりの記録  
bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
by Mutsu Nakanishi

和鉄の道

和鉄の道



和鉄の道・Iron Road 収蔵庫

↓ 下記より順番に分けて収録しています

[www.ironroad/dock/mutsu.htm](http://www.ironroad/dock/mutsu.htm)

| 和鉄の道・Iron Road 2000 | 和鉄の道・Iron Road 2001 |
|---------------------|---------------------|
| 和鉄の道・2000           | 和鉄の道・2001           |
| 和鉄の道・2001           | 和鉄の道・2002           |
| 和鉄の道・2002           | 和鉄の道・2003           |
| 和鉄の道・2003           | 和鉄の道・2004           |
| 和鉄の道・2004           | 和鉄の道・2005           |
| 和鉄の道・2005           | 和鉄の道・2006           |
| 和鉄の道・2006           | 和鉄の道・2007           |
| 和鉄の道・2007           | 和鉄の道・2008           |
| 和鉄の道・2008           | 和鉄の道・2009           |
| 和鉄の道・2009           | 和鉄の道・2010           |
| 和鉄の道・2010           | 和鉄の道・2011           |
| 和鉄の道・2011           | 和鉄の道・2012           |
| 和鉄の道・2012           | 和鉄の道・2013           |
| 和鉄の道・2013           | 和鉄の道・2014           |
| 和鉄の道・2014           | 和鉄の道・2015           |
| 和鉄の道・2015           | 和鉄の道・2016           |
| 和鉄の道・2016           | 和鉄の道・2017           |
| 和鉄の道・2017           | 和鉄の道・2018           |
| 和鉄の道・2018           | 和鉄の道・2019           |
| 和鉄の道・2019           | 和鉄の道・2020           |
| 和鉄の道・2020           | 和鉄の道・2021           |



和鉄の道・Iron Road 2001-2020  
<https://www.infokama.com/ironroad/dock/yearbooklist.htm>

和鉄の道 2001-2020 和鉄の道 2001-2020 和鉄の道 From Kobe 2001-2020

日本の源流・たたら探訪  
日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る  
2000-2001 HP開設時の記録

1990年代 たたら製鉄・日本の歴史などに興味を  
いだいて中国山地の製鉄遺跡などを始めていた  
1990年代 茨城県波崎に単身赴任。  
九十九里浜そして鹿島の浜に砂鉄があり、製鉄伝  
承も数多くある事にびっくり。

休みを利用して 関東や東北の製鉄遺跡等を訪ね  
る中で、鉄や日本の歴史探訪をライフワークにし  
てhome pageを立ち上げようと取り組みました。  
名前は「Iron Road・和鉄の道」にと。

今までの歩いた各地の探訪アルバムや博物館展示  
資料等々。

九十九里を歩きながら ページ内容構想リストを  
ねって、スタートしたhome pageの始まり。

たたら製鉄のReview や「鉄」への思いを詰め込  
んだ掲載記事の数々が詰まった「和鉄の道・Iron  
Road 2020&2021」です。

このhome Pageの始まりの資料を読み返して  
そのまま 和鉄の道 Review 資料に整えました。

重複掲載の内容も多々ありますが、お許しを。  
また、自分で書き起こさなかった転機・引用掲載  
が多々あり、できるだけ其の旨ふきしていますが  
お許しください。

風来坊 勝手気ままな「私の和鉄の道 Review」  
の一冊です

2021.12.5. From Kobe Mutsu Nakanishi

# 私蔵版 私の「和鉄の道・Iron Road」【総括1】

2000・2001年 日本の源流・たたらとの出会い

2021.12.5. [Mutsu Nakanishi](https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/index.htm) HP開設時の記録

<https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/index.htm>

Mutsu Nakanishi 和鉄の道総括 第二分冊  
2000-2001 ライフワーク「日本の源流・たたら探訪」第1集

**和鉄の道・Iron Road Since 1999**  
**日本の源流・たたら探訪**  
**日本各地のたたら・製鉄遺跡を巡る**  
**2000-2001** HP開設時の記録

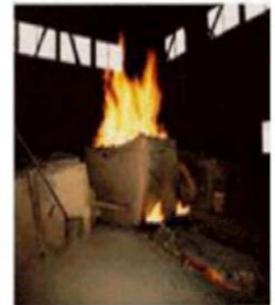
和鉄の道・Iron Roadを歩き始めて  
日本各地の主要たたら場・製鉄関連遺跡を巡った記録  
2000年和鉄の道・Iron Road 始まりの記録  
bookiron2001.pdf & bookiron2002.pdf  
by Mutsu Nakanishi



たたら製鉄概説 風来坊 和鉄の道・iron road 製鉄関連遺跡を訪ねて

わたつみら  
**和鉄の道** ・ Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」  
日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、  
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。  
ヒットライトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、  
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、  
維持している日本独自の製鉄法である。



[Mutsu Nakanishi](https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/index.htm) 私蔵版ですので、取り扱いご配慮をお願いします

この資料のPDF File 並びにスライド動画が  
下記のインターネットHP「和鉄の道・Iron Road」に収蔵

08 HP 開設から20年が過ぎて私の和鉄の道・Iron Road を振り返って【1】

日本の源流・たたら製鉄遺跡探訪記2000&2001 和鉄の道をおるき始めて

【PDF】 <https://www.infokkna.com/ironroad/2021htm/iron17/F0312MutsuIronRoad2021Aphoto.pdf>

【スライド】 <https://www.infokkna.com/ironroad/2021htm/iron17/F0312MutsuIronRoad2021Amp4>